西横野東部地区遺跡群

人見東原Ⅱ遺跡・人見西下原遺跡
人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡
人見向原遺跡・人見東中原遺跡
人見西中原遺跡・人見西向原遺跡
人見本村遺跡・上人見遺跡

－県営農地整備事業松義東部地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書－

＜第２分冊＞

２０１４

群馬県安中市教育委員会

西横野東部地区遺跡群

人見東原Ⅱ遺跡・人見西下原遺跡
人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡
人見向原遺跡・人見東中原遺跡
人見西中原遺跡・人見西向原遺跡
人見本村遺跡・上人見遺跡

－県営農地整備事業松義東部地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書－

＜第２分冊＞

２０１４

群馬県安中市教育委員会

Ⅵ　出土遺物

1　旧石器時代の遺物

人見西向原遺跡の石器群（第434～439図、第46表）

石器は、槍先形尖頭器１点、同調整剥片１点、使用痕ある剥片５点、二次加工ある剥片１点、石刃10点、剥片25点、円盤状石器１点が出土した。Ｍ－１号の覆土内から旧石器と推定される円盤状石器１点が出土した。組成の点から、時期を特徴づける定形石器が少ない点、石核を組成しない点、剥片類が大形である点により、石器の使用頻度は低く、石器製作は低調で、持ち込んだ石核を必要に応じて大形剥片の剥離を目的とした石器群であると考えられる。

＜石器各説＞

槍先形尖頭器（34）　厚手縦長剥片、断面半月状を素材とする。基部のみで先端形状は不明である。押圧剥離による調整が片面に施されるが、自然面が残存した未成品である。同一個体の湾曲する調整砕片（35）が１点出土した。２点ともチャート製。

二次加工ある剥片（32）　32は、基部の一部に微細調整が施され、先端が尖る形態である。ナイフ形石器に形状が類似する。黒色安山岩製。

使用痕ある剥片（５、14～25、28、33）　石刃あるいは剥片の一端に刃こぼれ状の微細剥離痕をもつ石器である。調整を加えず、剥片の形状をそのまま使用したものである。５は、縁辺部が刃器状となるが、槍先形尖頭器未成品の可能性がある。大形横長剥片に対して打点付近を交互剥離調整が施される。頁岩製。

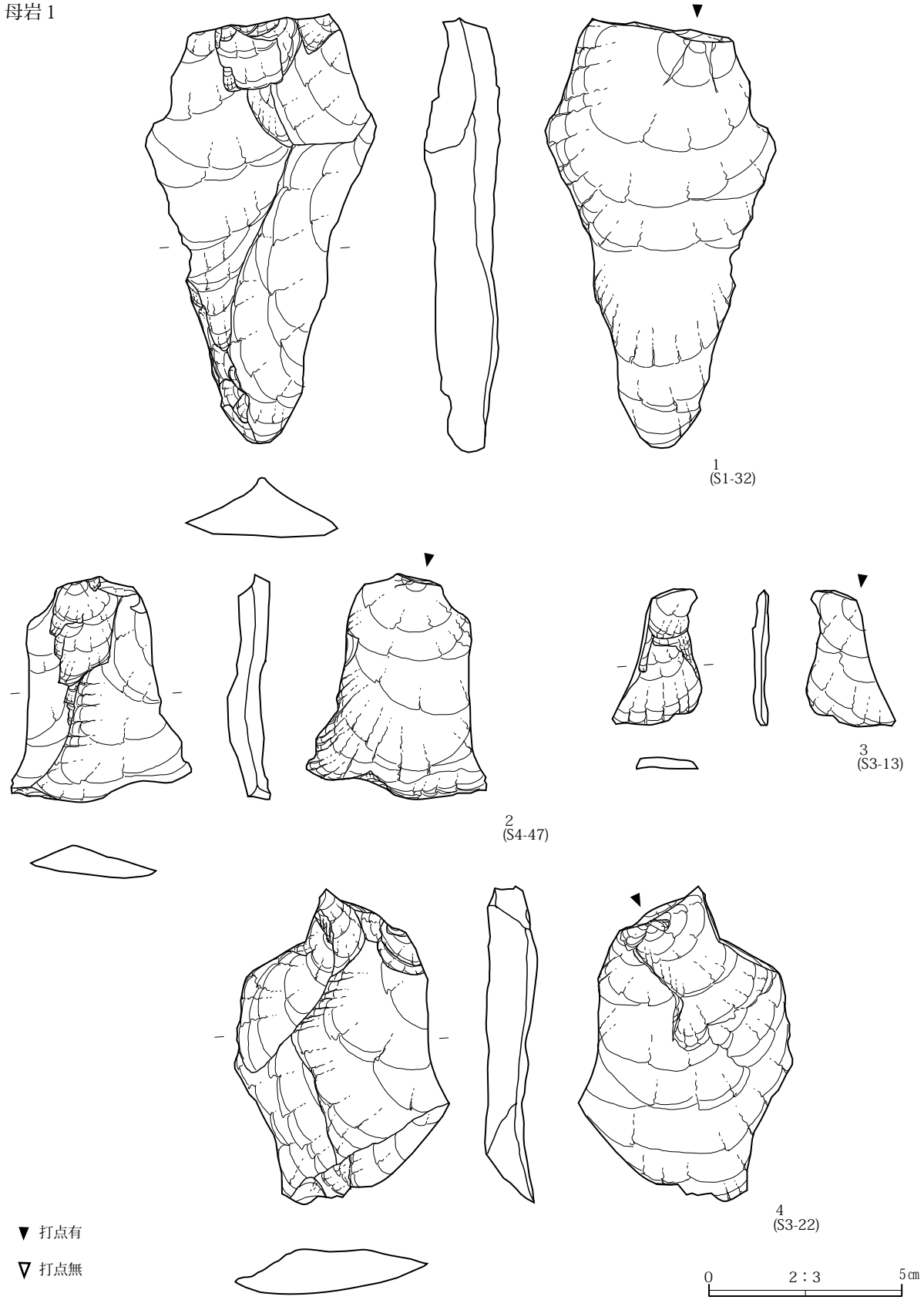
石刃（６、７、９～11、16、27、36）　長幅比は２：１となる縦長剥片である。背面中央に稜線がある。素材の形状を変えずに、僅かな二次加工調整あるいは使用痕が観察される。先端が尖る形状が多く、石刃技法の存在が認められる。石刃は、頁岩系石材に多い。

円盤状石器（37）　自然面を残す厚手剥片を素材とし、裏面に球心状の直接打撃調整を施す。槍先形尖頭器未成品の可能性がある。黒色安山岩製。

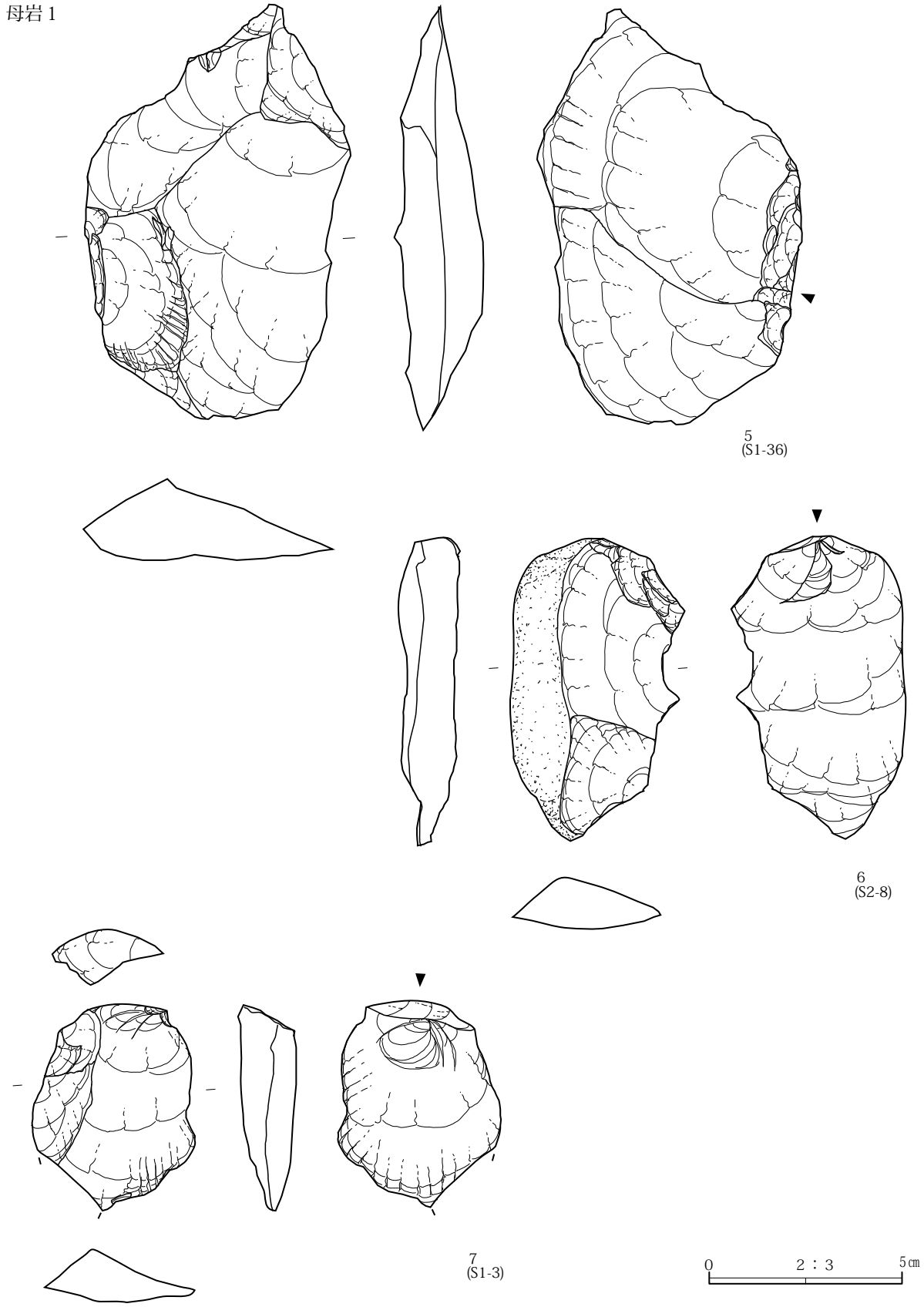
石器製作技術　本遺跡では、接合資料は少ないが、頁岩系石材の石核を搬入し、大形剥片（石刃含む）の剥片剥離と石器製作（槍先形尖頭器）に伴う二次加工の２つの工程が認められた。剥片剥離は、石刃技法によって石刃・縦長剥片を連続的に作出する。剥片は稜線が中心におかれるものが多いが、剥片軸の歪みは残る。母岩５では、石器の二次加工に伴う貝殻状・矩形の小形調整剥片のみで構成される。槍先形尖頭器の製作は、チャート製の二次加工と頁岩製大形剥片を素材とした二次加工が認められた。

＜石器群の特徴＞

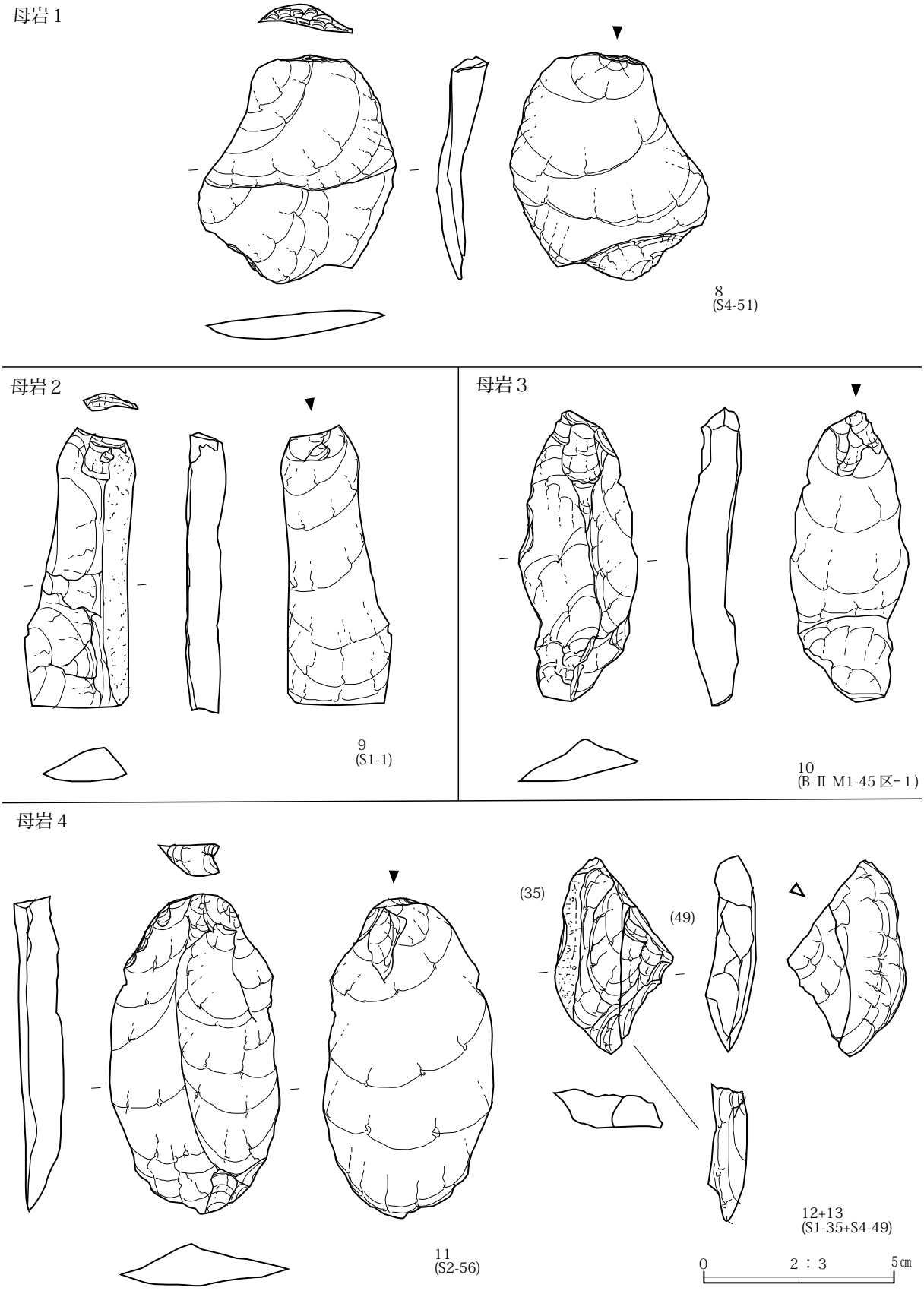
本石器群は、槍先形尖頭器、大形剥片（槍先形尖頭器の素材）・石刃を組成、出土層位等から群馬編年のⅣ期後半に位置づけられる。同時期の石器群は、武井遺跡を中心とする赤城山南麓地域に集中し、利根川以西では小規模な石器群が分布する傾向が指摘されている（関口博幸2010「群馬における旧石器時代石器群の変遷」『岩宿フォーラム2010/ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ北関東地方の石器文化の特色』岩宿フォーラム実行委員会）。



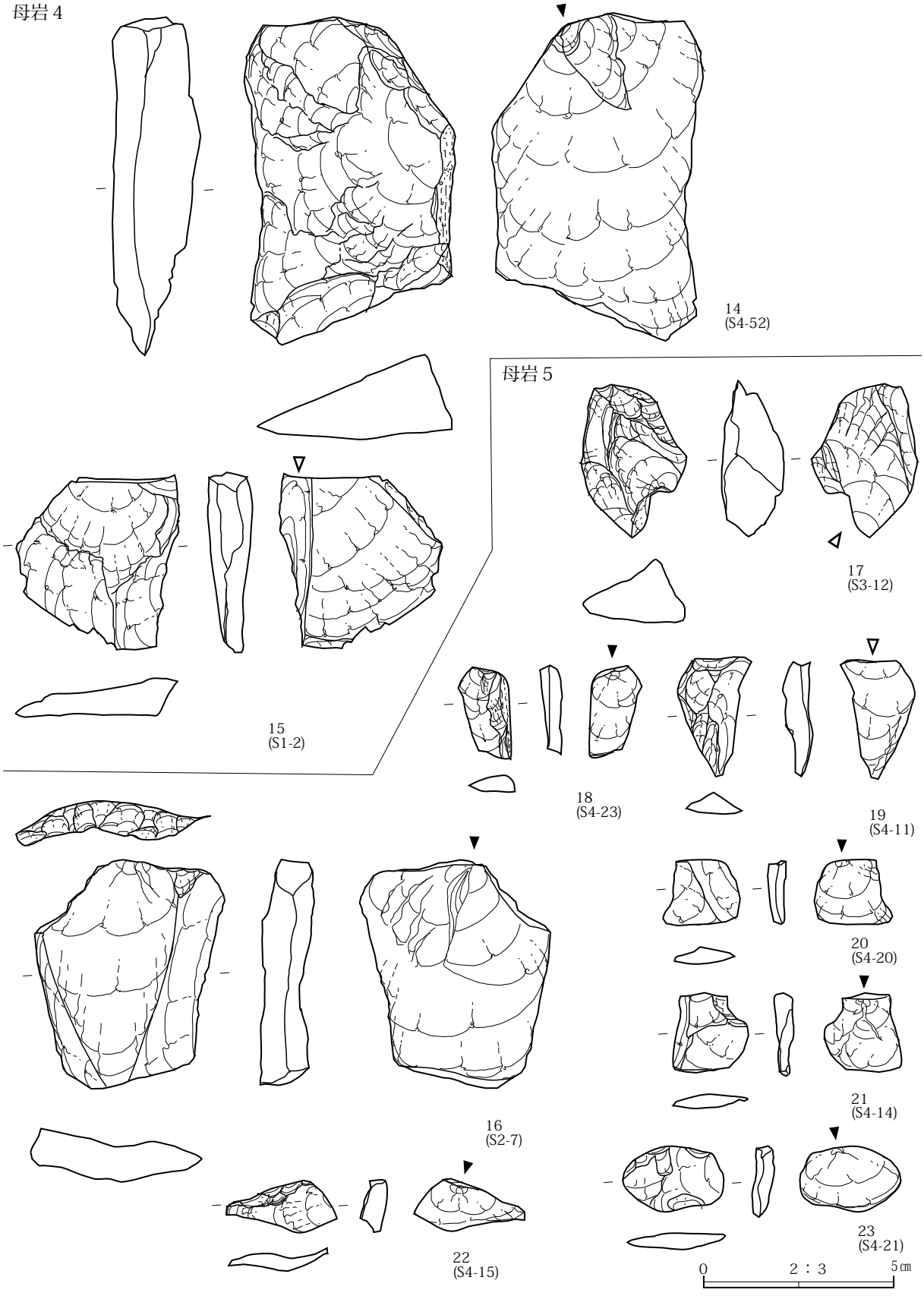
第 434 図　人見西向原遺跡（旧石器）出土石器（1）



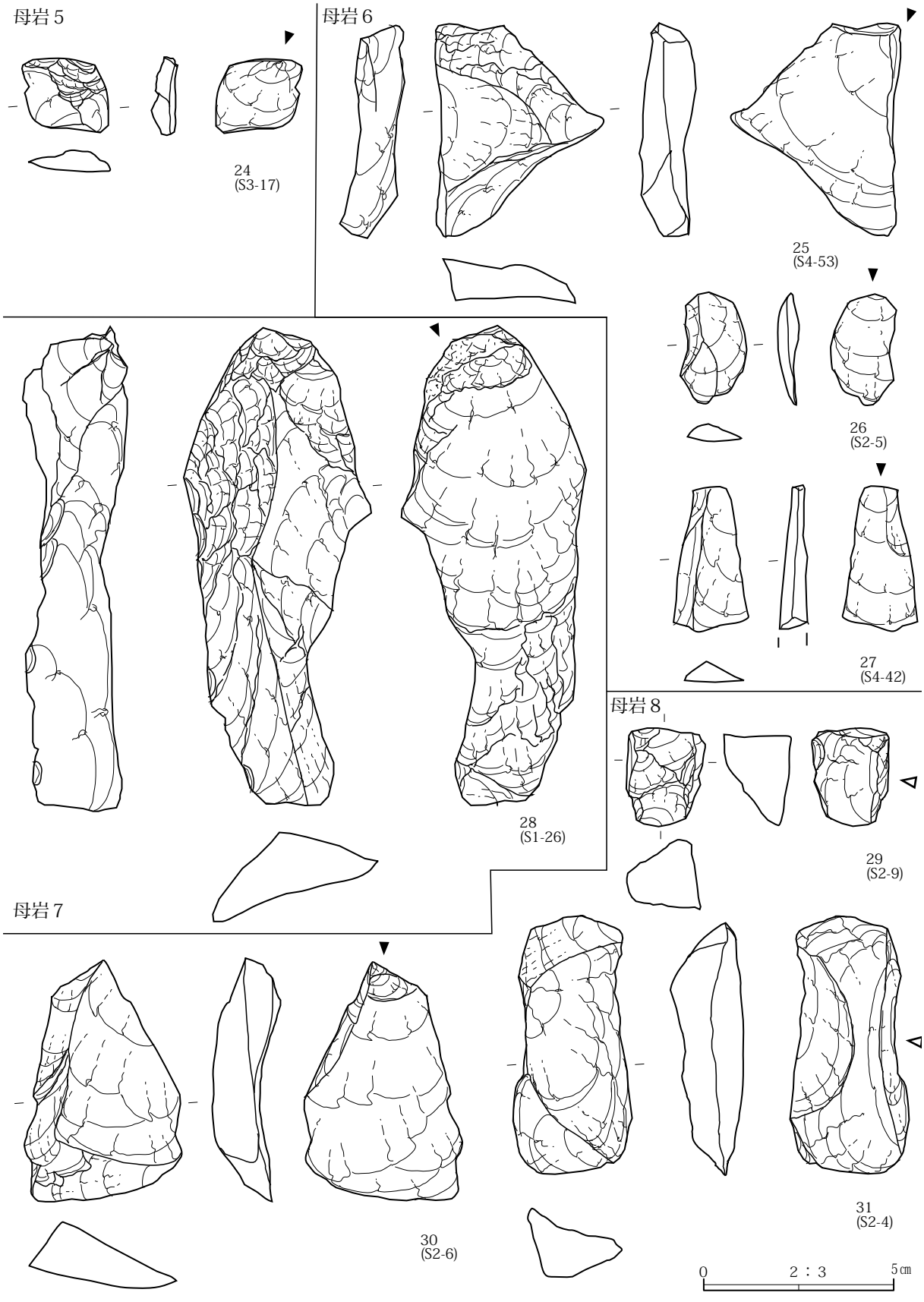
第 435 図　人見西向原遺跡（旧石器）出土石器（２）



第 436 図　人見西向原遺跡（旧石器）出土石器（3）

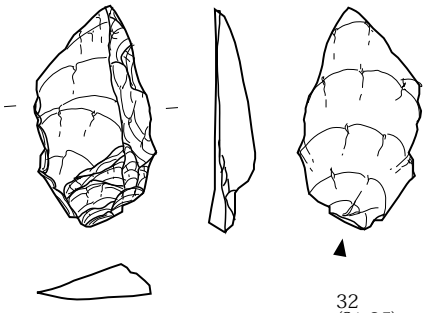


第 437 図　人見西向原遺跡（旧石器）出土石器（４）



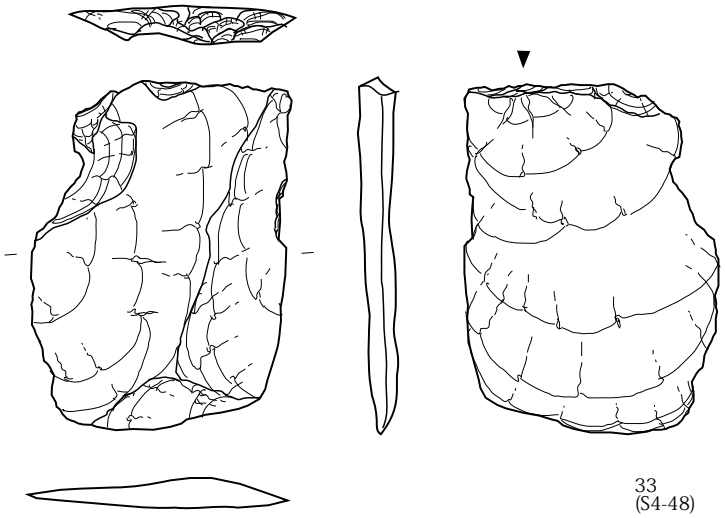
第 438 図　人見西向原遺跡（旧石器）出土石器（5）

母岩 9



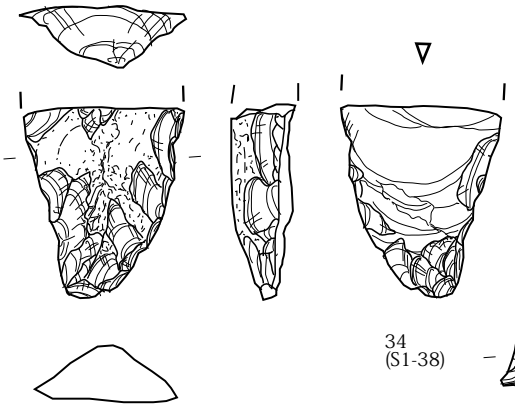
32
(S1-25)

母岩 10

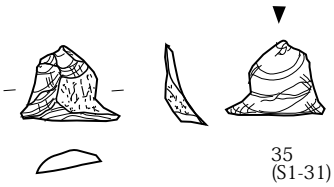


33
(S4-48)

母岩 11

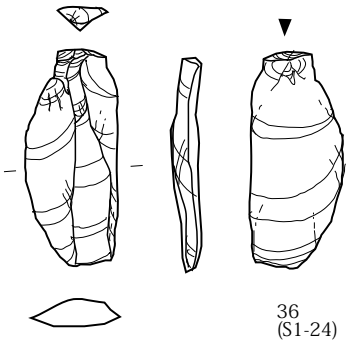


34
(S1-38)



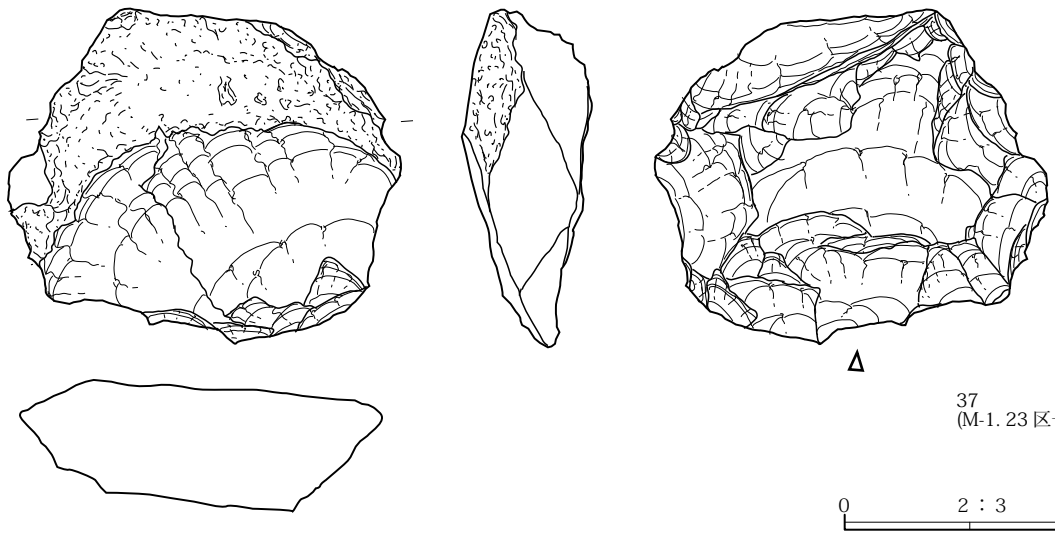
35
(S1-31)

母岩 12



36
(S1-24)

母岩 13



37
(M-1. 23 区一括)

0　2：3　5㎝

第 439 図　人見西向原遺跡（旧石器）出土石器（6）

第 46 表　人見西向原遺跡　旧石器時代石器観察表

番号	遺構名	層	遺物番号	ブロック	器種	形態	石材	母岩	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	所見
1	B－Ⅰ	Ⅶb	32	1	石刃		頁岩	1	112.26	57.81	16.76	76.60	先端に二次加工痕。
2	B－Ⅰ	Ⅶb	47	4	石刃		頁岩	1	57.67	47.01	7.45	17.00	
3	B－Ⅰ	Ⅶb	13	3	剥片	縦長	頁岩	1	34.27	23.81	3.85	2.00	
4	B－Ⅰ	Ⅶb	22	3	剥片	縦長	頁岩	1	81.14	54.57	11.73	45.30	
5	B－Ⅰ	Ⅶb	36	1	ＵＦ	横長	頁岩	1	68.66	108.94	19.61	111.40	ポイント未成品（打面部に調整剥離）。
6	B－Ⅰ	Ⅶb	8	2	石刃		頁岩	1	79.16	43.58	13.96	50.30	自然面有。
7	B－Ⅰ	Ⅶb	3	1	石刃		頁岩	1	53.98	42.30	13.10	23.10	先端欠損。
8	B－Ⅰ	Ⅶb	51	4	剥片	縦長	頁岩	1	59.32	50.53	6.53	20.20	打面調整有。
9	B－Ⅰ	Ⅶb	1	1	石刃		頁岩	2	73.66	26.84	7.88	17.30	先端折れ。
10	B－Ⅱ	Ⅶb	45 区№ 1	－	石刃		頁岩	3	75.36	30.78	10.19	21.90	基部に調整痕、左側縁に微細剥離痕。
11	B－Ⅰ	Ⅶb	56	2	石刃		黒色安山岩	4	84.05	43.92	10.71	39.90	縁辺部微細剥離痕（掻器素材）。
12	B－Ⅰ	Ⅶa	35	1	剥片	折断	黒色安山岩	4	21.89	51.45	12.72	11.60	49 と接合。
13	B－Ⅰ	Ⅶb	49	4	剥片	折断	黒色安山岩	4	15.25	37.34	9.21	4.50	35 と接合。
14	B－Ⅰ	Ⅶb	52	4	ＵＦ	縦長	黒色安山岩	4	85.12	52.77	20.14	100.50	左縁辺に使用痕。
15	B－Ⅰ	Ⅶb	2	1	剥片	折断	黒色安山岩	4	47.08	43.12	7.77	20.30	風化し褐色。
16	B－Ⅰ	Ⅶb	7	2	石刃	折断	黒色安山岩	5	58.39	50.45	9.64	38.80	打面調整有。
17	B－Ⅰ	Ⅶb	12	3	剥片		黒色安山岩	5	35.97	32.50	15.97	15.30	二次加工有。
18	B－Ⅰ	Ⅶb	23	3	剥片	縦長折断	黒色安山岩	5	23.24	12.76	4.86	1.40	
19	B－Ⅰ	Ⅶb	11	3	調整剥片	縦長	黒色安山岩	5	30.22	17.72	6.02	2.40	
20	B－Ⅰ	Ⅶb	20	3	調整剥片	縦長折断	黒色安山岩	5	17.21	19.67	4.03	1.50	打面調整有。
21	B－Ⅰ	Ⅶb	14	3	調整剥片	縦長	黒色安山岩	5	21.25	18.76	3.42	1.60	
22	B－Ⅰ	Ⅶb	15	3	調整剥片	横長	黒色安山岩	5	13.52	29.25	3.62	1.20	
23	B－Ⅰ	Ⅶb	21	3	剥片	横長	黒色安山岩	5	17.78	26.29	4.77	2.40	風化。
24	B－Ⅰ	Ⅶb	17	3	調整剥片	折断	黒色安山岩	5	18.91	22.45	5.44	2.30	母岩 5 の風化。
25	B－Ⅰ	Ⅶb	53	2	ＵＦ	縦長折断	黒色安山岩	6	54.79	43.60	12.17	25.60	母岩 5 の風化。
26	B－Ⅰ	Ⅶb	5	2	剥片	縦長	黒色安山岩	6	29.23	16.12	4.51	1.90	母岩 5 の風化。
27	B－Ⅰ	Ⅶb	42	4	石刃	折断	黒色安山岩	6	36.89	20.12	6.68	4.00	母岩 5 の風化。
28	B－Ⅰ	Ⅶb	26	1	ＵＦ	縦長	黒色安山岩	7	124.84	45.72	18.29	98.90	縁辺に微細剥離痕有、母岩 5 類似。
29	B－Ⅰ	Ⅶb	9	2	剥片	ｸｻﾋﾞ状	安山岩	8	25.72	19.95	17.54	11.10	風化。
30	B－Ⅰ	Ⅶb	6	2	剥片	縦長	安山岩	8	65.43	41.10	14.24	33.90	風化。
31	B－Ⅰ	Ⅶb	4	2	剥片	縦長	安山岩	8	68.43	31.35	18.83	39.20	風化。
32	B－Ⅰ	Ⅶa	25	1	二次加工ある剥片	基部加工	黒色安山岩	9	44.93	23.28	7.66	5.70	基部左側縁に微細調整剥離。
33	B－Ⅰ	Ⅶb	48	4	ＵＦ	石刃状	黒色安山岩	10	69.61	51.17	6.33	26.40	打面調整有、縁辺に微細剥離痕有。
34	B－Ⅰ	Ⅶb	38	1	槍先形尖頭器基部		チャート	11	36.99	31.53	11.44	13.30	片面加工、断面半月状、先端欠損。
35	B－Ⅰ	Ⅶb	31	1	調整剥片		チャート	11	15.54	19.53	2.73	0.70	ポイントフレイク。
36	B－Ⅰ	Ⅶa	24	1	石刃		チャート	12	43.21	18.45	5.66	4.20	縁辺鋭利。打面部に調整剥離痕。
37	M－1	覆土	23 区一括	－	円盤状石器		黒色安山岩	13	62.57	75.09	23.56	124.10	ポイント未成品。
	B－Ⅰ	Ⅶb	18	3	調整剥片		頁岩	1	15.85	10.47	2.35	0.40	
	B－Ⅰ	Ⅶb	10a	3	砕片	縦長	頁岩	1	16.80	4.23	2.09	0.10	細石刃類似。
	B－Ⅰ	Ⅶb	10b	3	調整剥片	横長折断	黒色安山岩	5	12.68	17.20	1.97	0.50	
	B－Ⅰ	Ⅶb	16a	3	調整剥片	縦長折断	黒色安山岩	5	13.86	13.19	2.54	0.50	
	B－Ⅰ	Ⅶb	16b	3	砕片		黒色安山岩	5	7.95	12.63	1.35	0.10	
	B－Ⅰ	Ⅶb	33	1	剥片	縦長	安山岩	14	50.62	20.68	10.41	8.30	風化。
	B－Ⅰ	Ⅶb	37	1	剥片	縦長	安山岩	15	23.80	17.51	9.48	3.30	礫の可能性有。

2．縄文時代の遺物

（1）縄文土器（第440～485図）

本遺跡群では、早期中葉（押型文系土器）、前期中葉（有尾・黒浜式期）、前期後葉（諸磯ａ～ｃ、十三菩提式期）、中期後葉（加曽利ＥⅢ・ＥⅣ式期）、後期初頭（称名寺Ⅰ・Ⅱ式期）、後期中葉（堀之内１式期）、後期後葉（加曽利Ｂ式期）のそれぞれの土器群が確認された。この中で主体となる時期は、中期後葉の土器群である。本遺跡群における加曽利ＥⅢ式土器の考察については、別項（Ⅷ）を参照されたい。

人見東原Ⅱ遺跡出土の土器（第440～445図、第67表）

中期後葉の加曽利ＥⅢ式期を主体とする土器群（１～40）。遺構単位の一括出土が多い。一部加曽利ＥⅣ式が少数共伴するが、型式の連続性が認められた。Ｊ－５、７号では、文様の描き直しが認められた（15、21）。器台（７、31）、ミニチュア土器（22、23）、片口注口土器片（32）、土坑から鉢（37、40）が出土した。

人見西下原遺跡出土の土器（第446図、第68表）

中期後葉の加曽利ＥⅢ～ＥⅣ式期を主体とする土器群（41～45）。遺構出土は少なく、包含層を中心に破片が多数出土した。加曽利ＥⅢ式土器は深鉢（43、44）、加曽利ＥⅣ式土器は両耳鉢（41）、赤色塗彩のある有孔浅鉢土器（45）である。また、ミニチュア土器が出土した。

人見枝谷津遺跡出土の土器（第447～462図、第69表）

中期後葉の加曽利ＥⅢ式期を主体とする土器群（46～192）。一部、加曽利ＥⅣ式との共伴が認められるが、遺構単位での一括出土が多い。底面に渦巻き状の文様のある深鉢底部（85）、器台に転用した深鉢底部（86）、器台（147）、ミニチュア土器（87、88）が出土した。包含層からは、前期後葉の諸磯ｃ式土器（186）が出土した。

人見東向原遺跡出土の土器（第463～465図、第70表）

中期後葉の加曽利ＥⅢ式期を主体とする土器群（193～216）。他に後期の土器群が確認された。埋設土器は全て加曽利ＥⅢ式である。Ｊ－２号、遺物集中及び遺構外では、後期中葉の堀之内１式の注口土器（206、207）、後期後葉の加曽利Ｂ式期の土器（200～203、208～210、213、215）、高井東式土器（202、213）が少数出土した。なお、加曽利Ｂ式期の土器は、本遺跡のみで出土した。

人見向原遺跡出土の土器（第466図、第71表）

前期後葉の諸磯ａ式（219、228）を含む諸磯ｂ式古段階（爪形文・連続刺突文、並行沈線文、縄文）を主体とする土器群（217～231）。

人見東中原遺跡出土の土器（第467～480図、第72表）

早期、前期、中期の土器群（232～414）早期前半の押型文土器が土坑、グリッドから出土した。押型文土器は山形文（322、324～327）、格子目文（329）、楕円文（330、401）、２種類の原体（楕円文と山形文）を併用するもの（323、328）に分類される。編年的には、「樋沢式」あるいは「細久保式」に位置づけられる。前期中葉では、有尾・黒浜式期の土器（331、397～400）が出土した。前期後葉では諸磯ｂ式期の中段階を主体とする各時期の土器群が遺構外（遺物包含層）でまとまって出土した。古段階（連続刺突文）、中段階（浮線文、平行沈線文）、新段階（平行沈線文）に分類される。Ｊ

－13号（西中原）では、諸磯ｃ式と十三菩提式の土器が共伴して出土した。

中期後葉の加曽利ＥⅢを主体とする、ＥⅣ式期まで型式が連続する土器群。232は、器形に膨らみをもつ３単位の把手のある壺形土器（「靴形土器」の一種）、256は、一単位の橋状把手をもつ壺形土器である（綿田弘実1997「長野県伊那市手良出土の靴形土器」『長野県立歴史館研究紀要』第３号長野県立歴史館）。前者の形態は、類例が少ないもので注目される。また、後者は県内に分布がみられる。

他に孔脇に縄文が施される器台（244）、匙状の不明器種（261）がある。Ｊ－11号住居址の付帯施設（土坑）では、底部が抜けた両耳鉢（305）とその底部部分が重なって出土した。

後期初頭では、Ｊ－９号で称名寺Ⅱ式（297～300）が出土した。

人見西中原遺跡の土器（第481～484図、第73表）

中期後葉の加曽利ＥⅢ式期を主体とする土器群（415～448）。他時期では、遺構外から諸磯ｂ式（浮線文）の土器（425、445）が出土した。

人見西向原遺跡の土器（第485図、第74表）

中期後葉の加曽利ＥⅢ式期の土器群が出土した（449～451）。Ｄ－１号土坑では、南関東系と曽利系の共伴が認められた（448、449）。

西横野東部地区遺跡群の加曽利ＥⅢ式土器の分布

横野台地における加曽利ＥⅢ式の分布は、本遺跡群を除き、横野台地東部（東横野地区）では、砂押遺跡、中野谷松原遺跡、大下原遺跡、大上遺跡、西原遺跡等でが多数分布する。一方、横野台地西部（西横野地区）では、新堀東源ヶ原遺跡、行田梅木平遺跡、行田大道北遺跡等で少数分布する。この地域では、横野台地北側の中位段丘、下位段丘に当該期の土器群が分布する。

横野台地では、中期後葉において加曽利ＥⅡ式までの土器群と加曽利ＥⅢ式以降の土器群が、別々の遺跡で出土し、両時期が連続する遺跡は少ない傾向がある。加曽利ＥⅢ式を境にして両時期の遺跡の分布は、規模、土器群の様相が異なる特徴があり、加曽利ＥⅢ式以降、加曽利ＥⅣ式、後期土器群へと型式的連続性がみられる。同一土器型式でも、土器群の様相は多様で、在地、異系統土器（曽利式、大木式等）の共伴の在り方が異なる点に注意する必要がある。

（２）縄文土製品（第486図、第75表）

遺跡群全体で図示した５点が出土した。集落の規模に反映して、全体の出土量は非常に少ないため、主体的な器種ではなかった可能性が考えられる。土製品は、共伴遺物との関係から、中期後葉の加曽利ＥⅢ式期に帰属する。

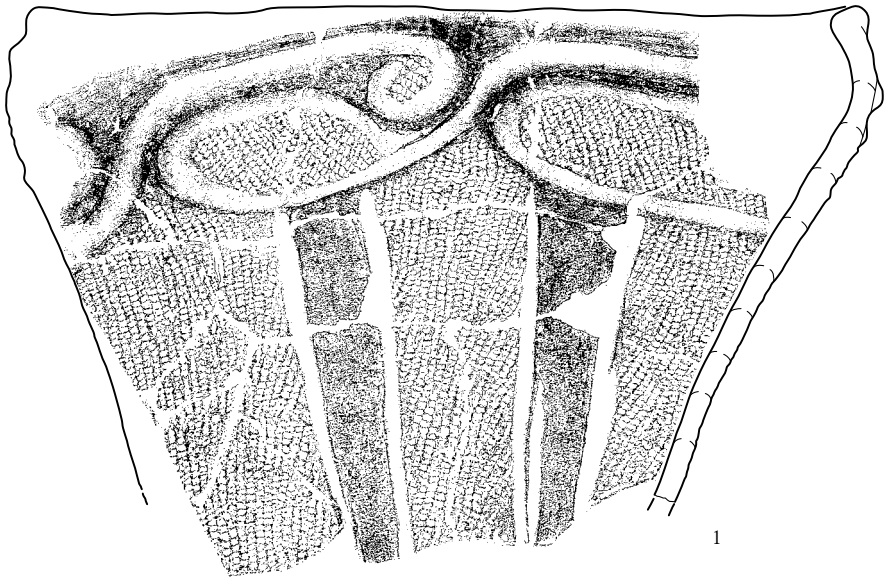
土製品　人見東原Ⅱ遺跡と人見枝谷津遺跡で「スタンプ形」をしたものが各１点出土した。２点ともスタンプ部分に細い櫛状工具による刺突が施されている。人見東原Ⅱ遺跡では住居間接合が認められた。

有孔垂飾　人見枝谷津遺跡で１点出土した。骨格製を模倣した形態である。

土偶　人見枝谷津遺跡のＪ－２号で１点出土した。胴部～下腹部の破片で、他の部位は意図的に剥がされている。沈線による渦巻き、横位平行の文様が施されている。

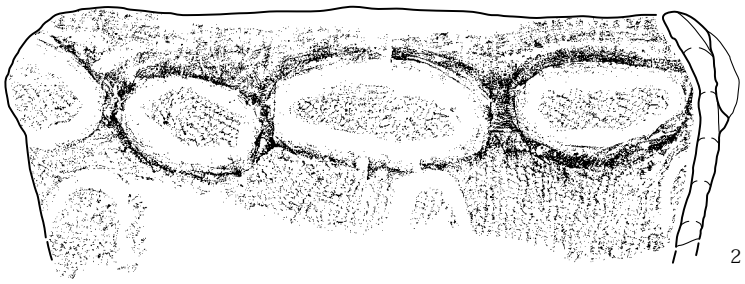
三角壕形土製品　人見東中原遺跡から、中央部分の破片が出土した。残存部分の状態により、三角形の中心には孔があり、外面は沈線文様が施されている。

Ｊ－１号住



1

炉　No.1

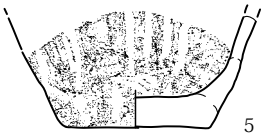


2

１区１層

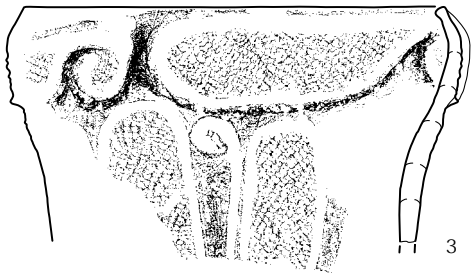
4

15 区ベルト１層＋５区１層＋10 区２層
＋４区２層＋12 区３層
＋６区２層 +14 区１層（溝）



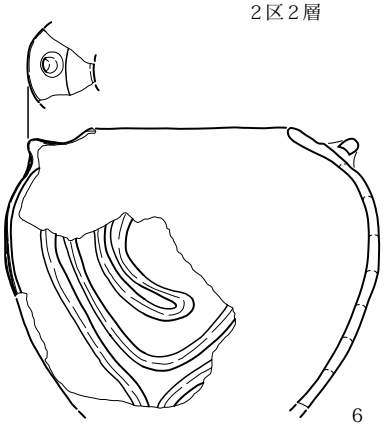
5

２区２層



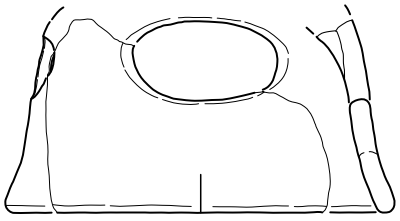
3

２区１層



6

２区１層＋９区１層



7

12 区ベルト１層＋９区ベルト１層
＋９区ベルト２層＋５区２層

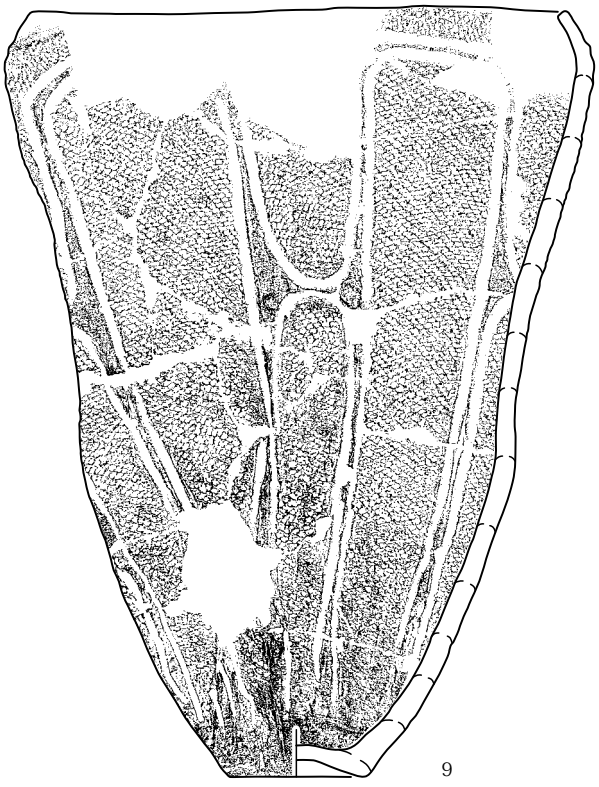
0　1：4　10cm

第 440 図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－１号住居址出土土器

Ｊ－２号住

8

Ｕ－１



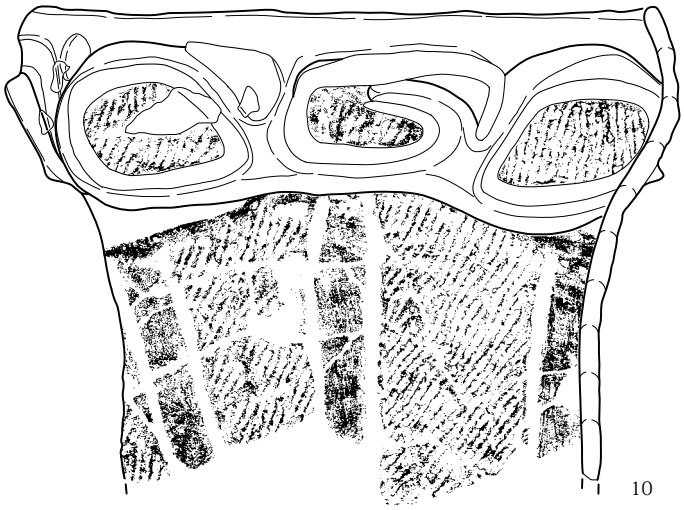
9

Ｕ－２＋３Ｆ－３６１ｂ

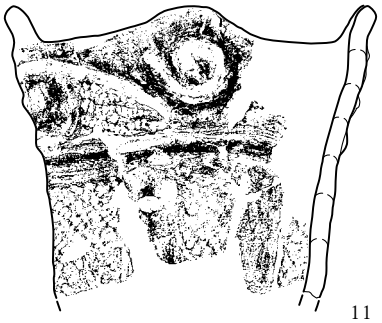
0　1：4　10cm

第 441 図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－２号住居址出土土器

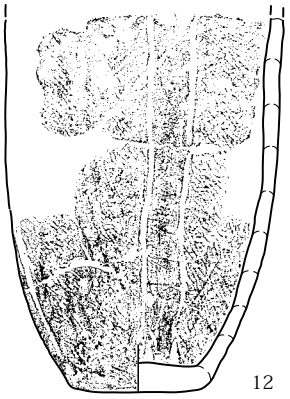
Ｊ－４号住


10

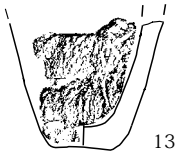
Ｕ－２


11

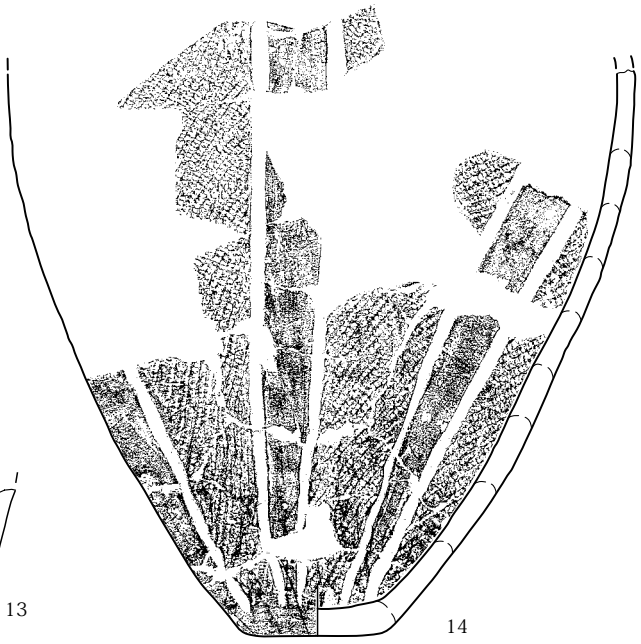
Ｕ－４


12

Ｕ－３

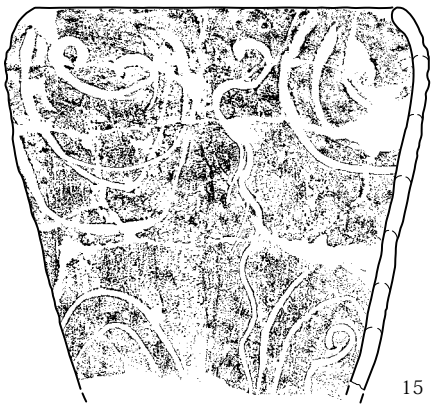

13

３区１層

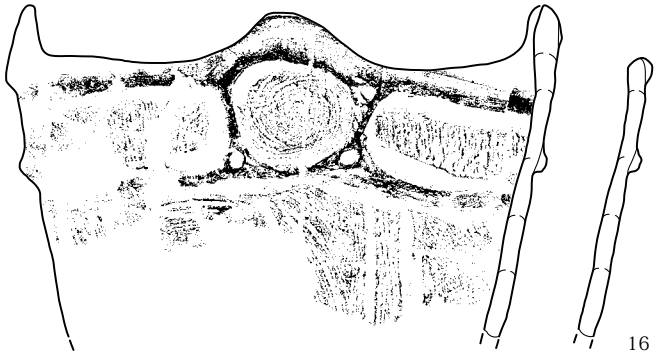

14

Ｕ－１

Ｊ－５号住


15

Ｕ－１

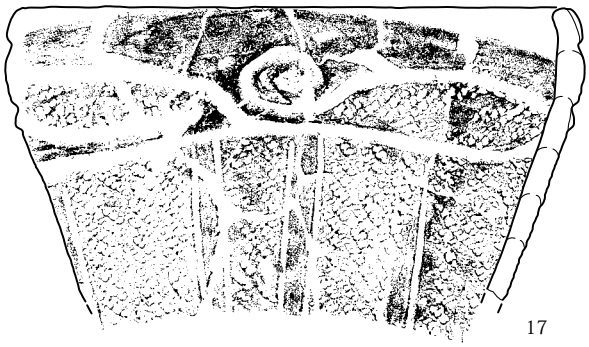

16

Ｕ－２

0　1：4　10cm

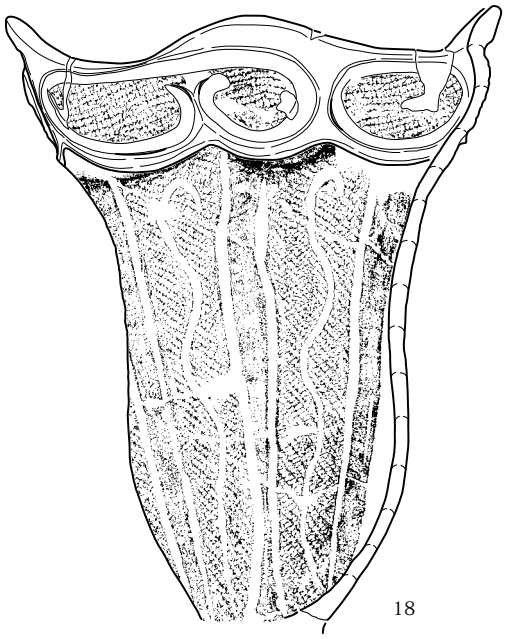
第 442 図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－４・５号住居址出土土器

Ｊ－６号住



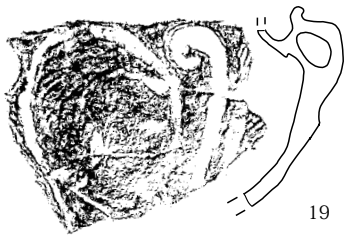
17

Ｕ－１



18

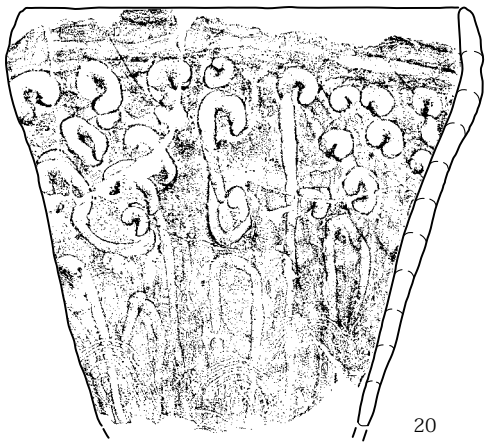
Ｕ－２



19

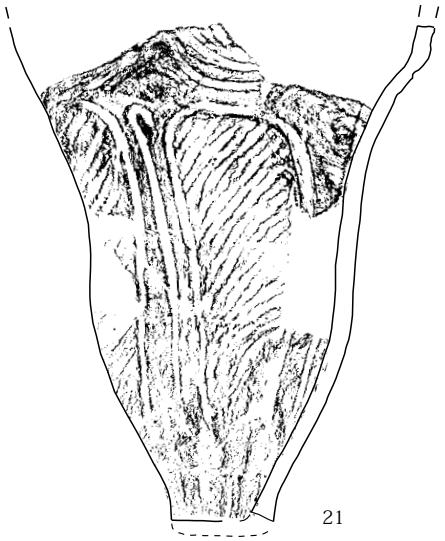
１１区１層 No.1

Ｊ－７号住

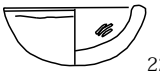


20

Ｕ－１

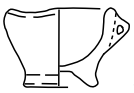


21



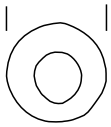
22

６区１層



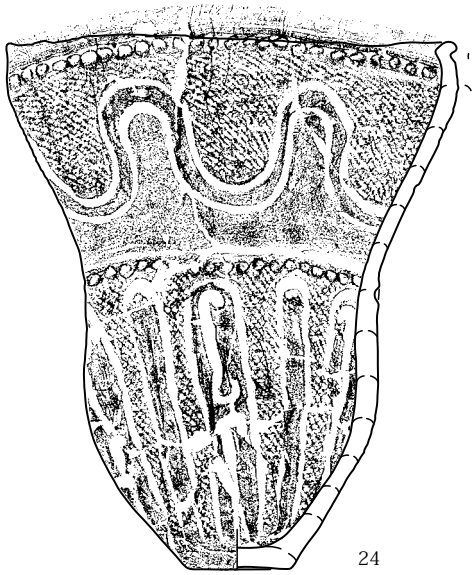
23

２区１層



炉下１＋Ｐ－１

Ｊ－８号住



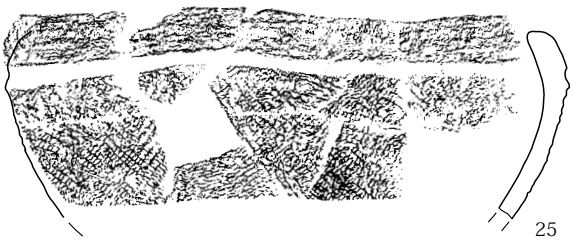
24

２区３層 No.1

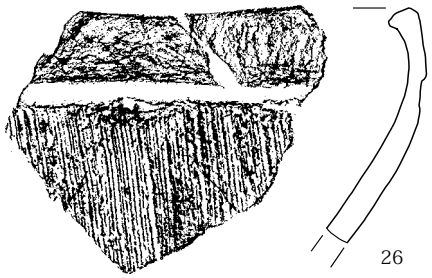
0　1：4　10cm

第 443 図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－６・７号住居址出土土器

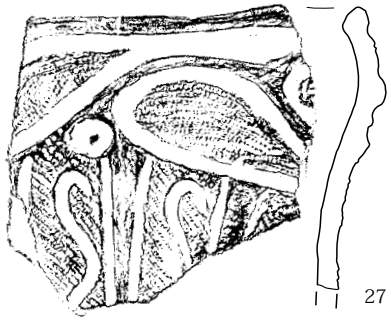
Ｊ－８号住



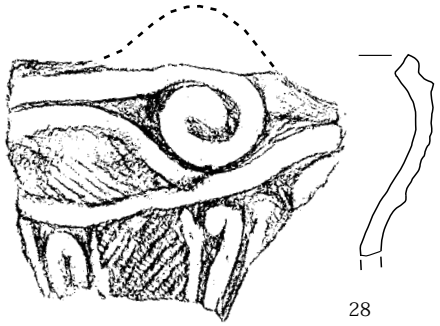
１３区１層＋１３区２層



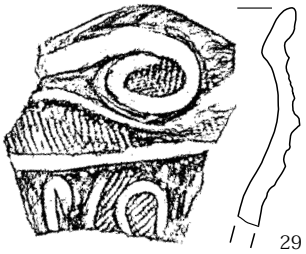
５区３層



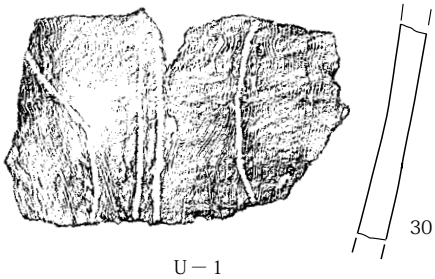
１３区２層



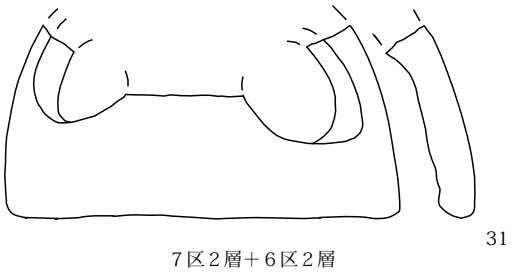
５区２層



10区３層

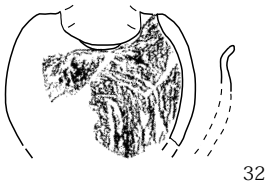


U－１

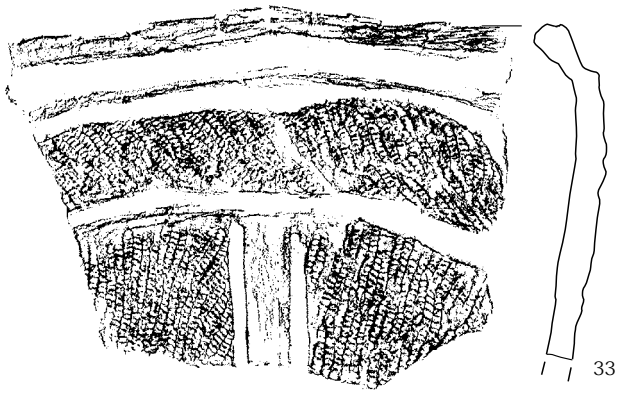


７区２層＋６区２層
＋９区２層＋１３区２層

Ｊ－９号住



９区２層＋Ｐ－５

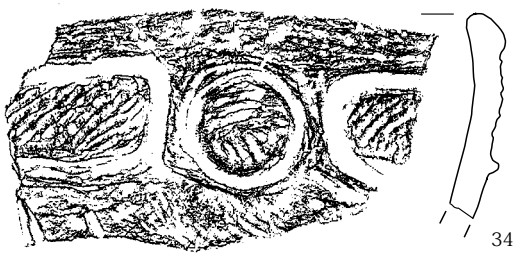


９区３層

0　1：4　10cm

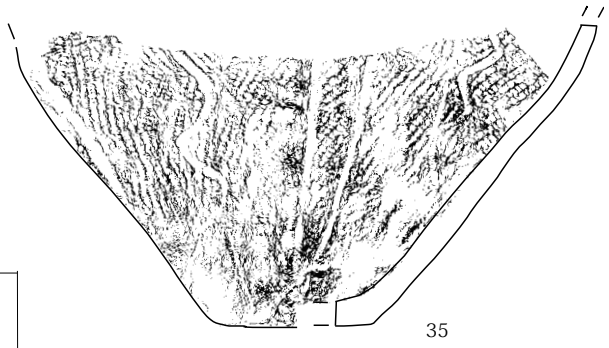
第 444 図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－８・９号住居址出土土器

Ｊ－９号住



34

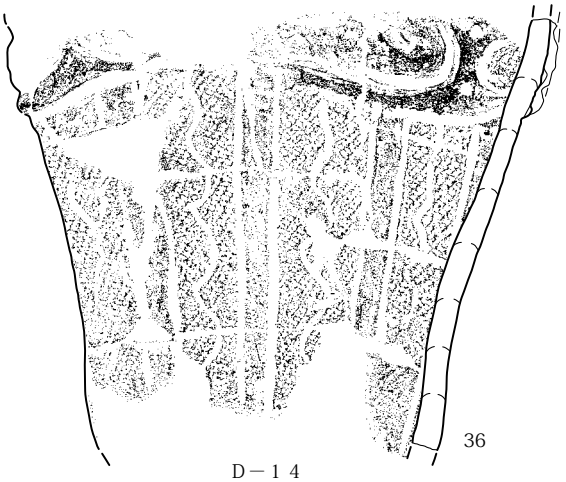
3区1層



35

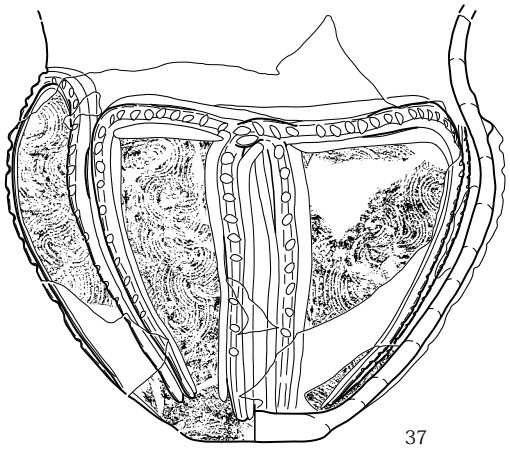
1区2層 No.1

土坑



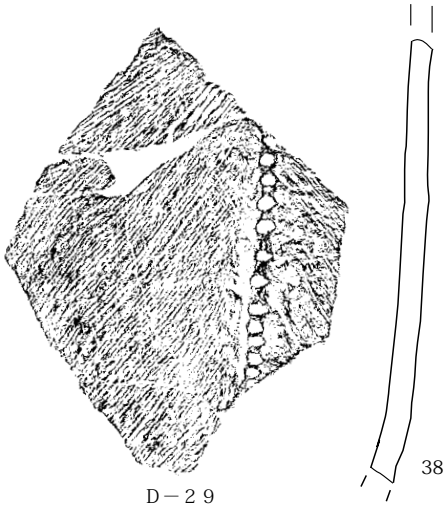
36

D－１４



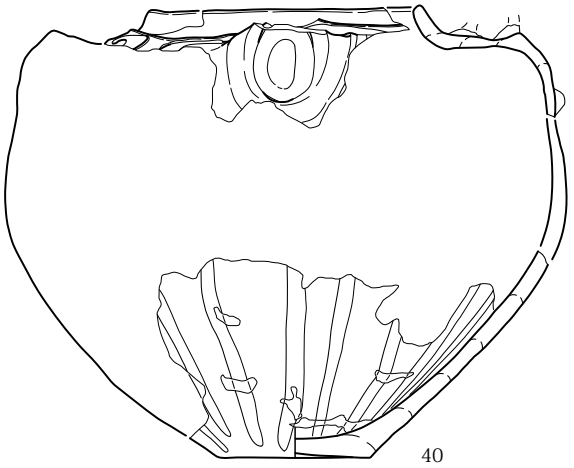
37

D－３０



38

D－２９



40

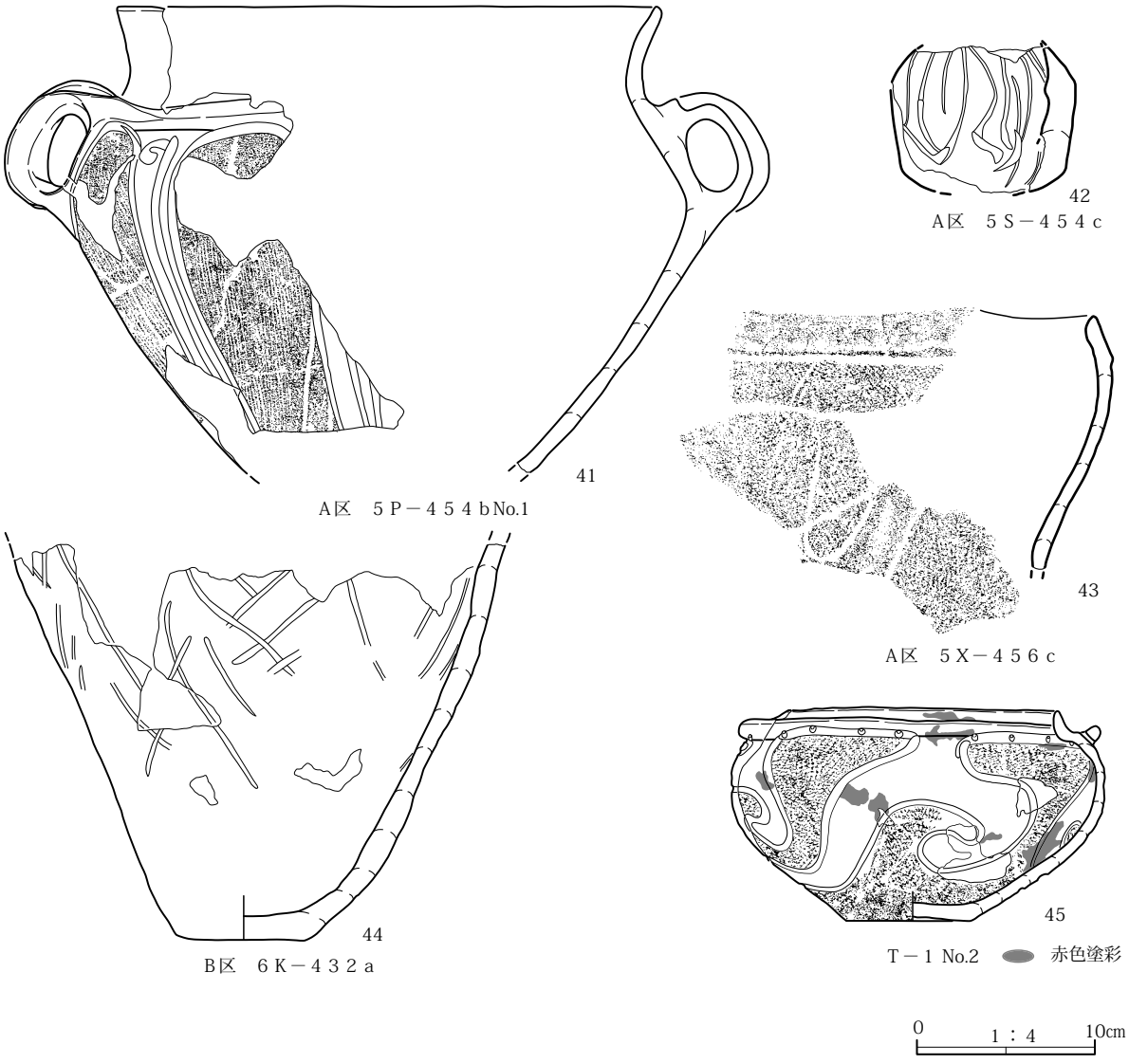
D－３５

39

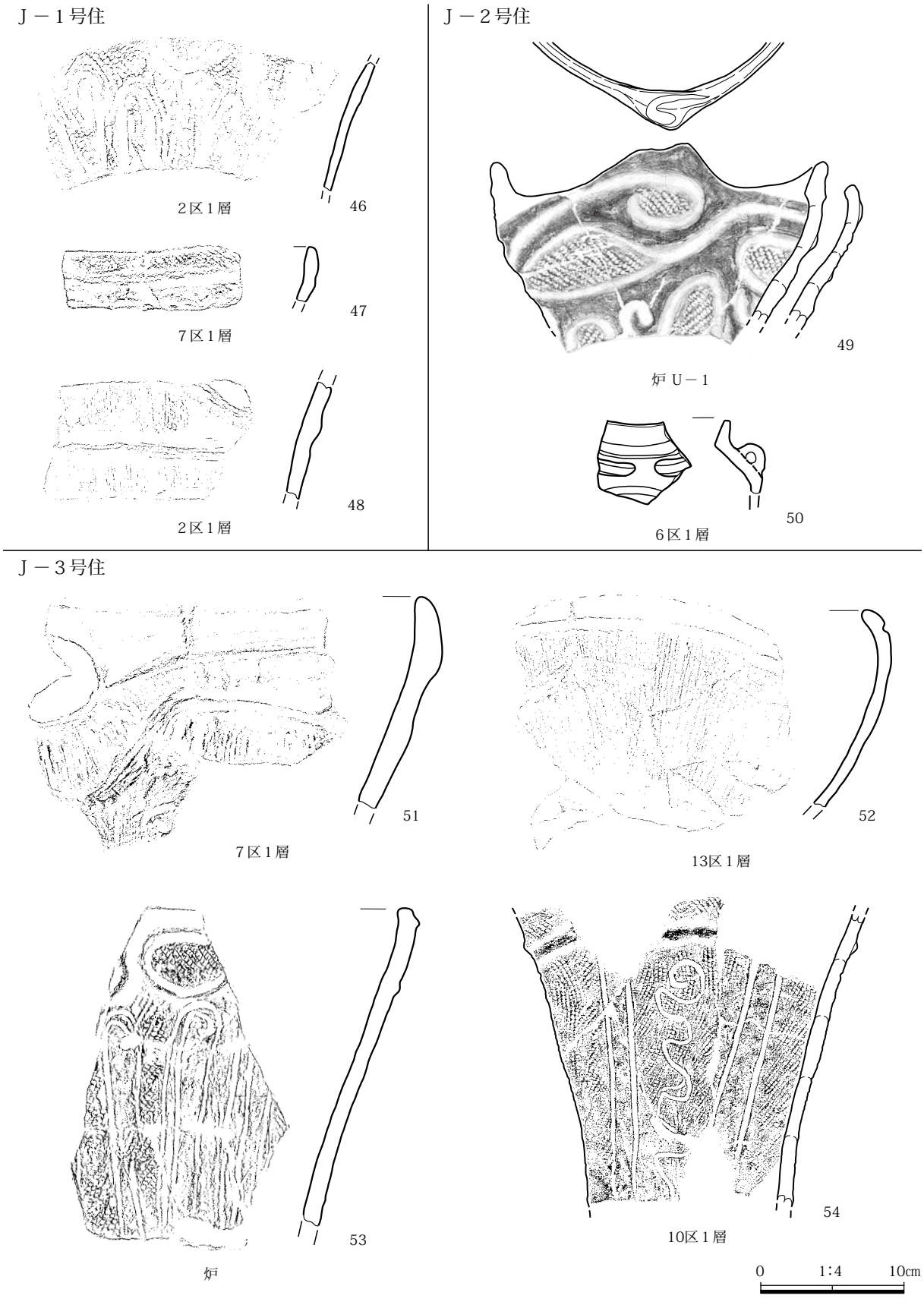
D－３４

0　1：4　10cm

第 445 図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－９号住居址・土坑出土土器

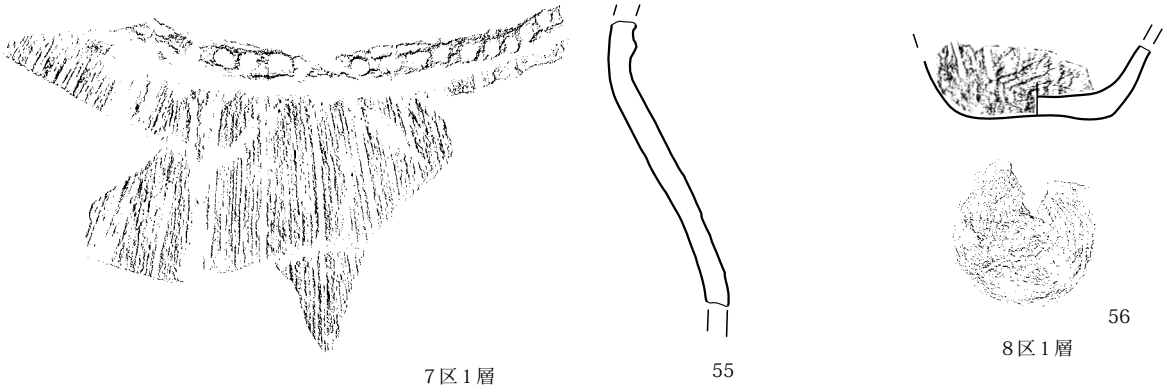


第 446 図　人見西下原遺跡（縄文）出土土器

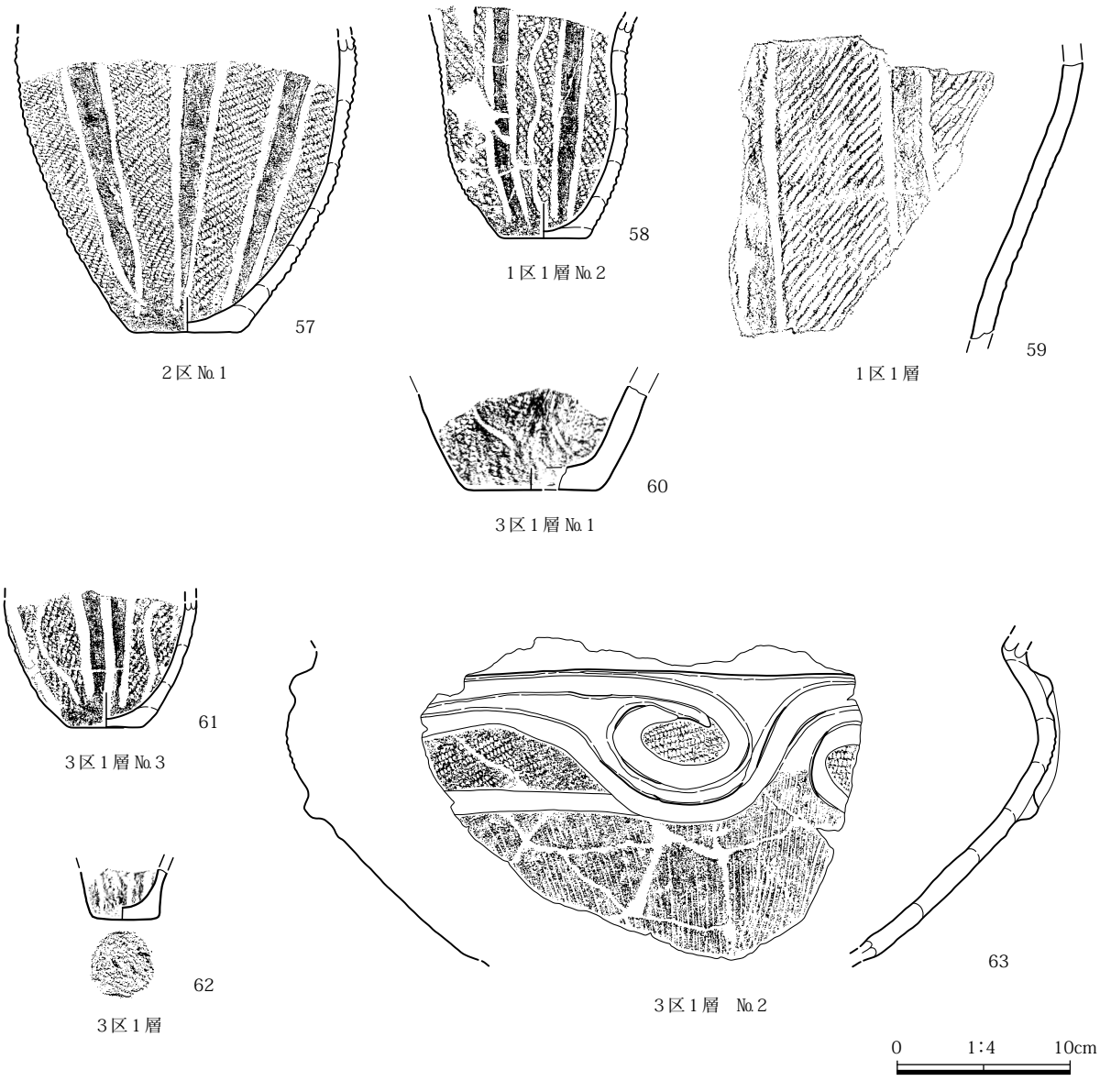


第 447 図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－１～３号住居址出土土器

Ｊ－３号住



Ｊ－４号住

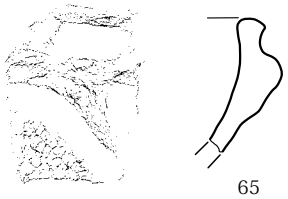


第 448 図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－３・４号住居址出土土器

Ｊ－５号住

64

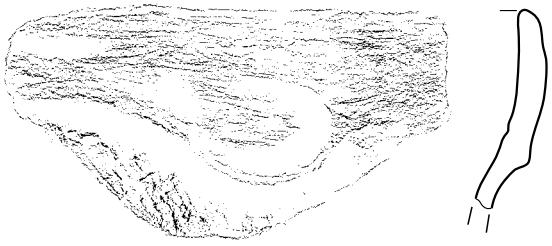
8区１層



65

Ｐ－３

Ｊ－６号住



66

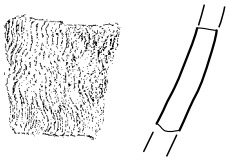
11区２層

67

2区１層

68

4区１層



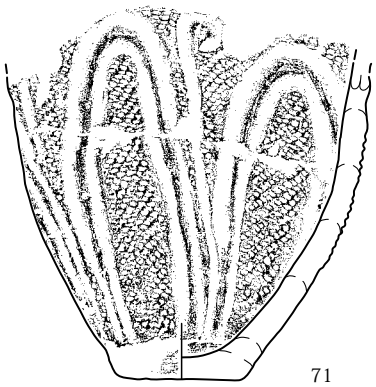
69

3区２層

70

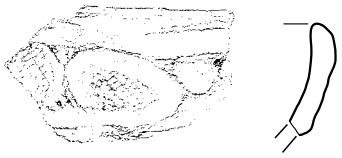
12区２層

Ｊ－７号住



71

U－1



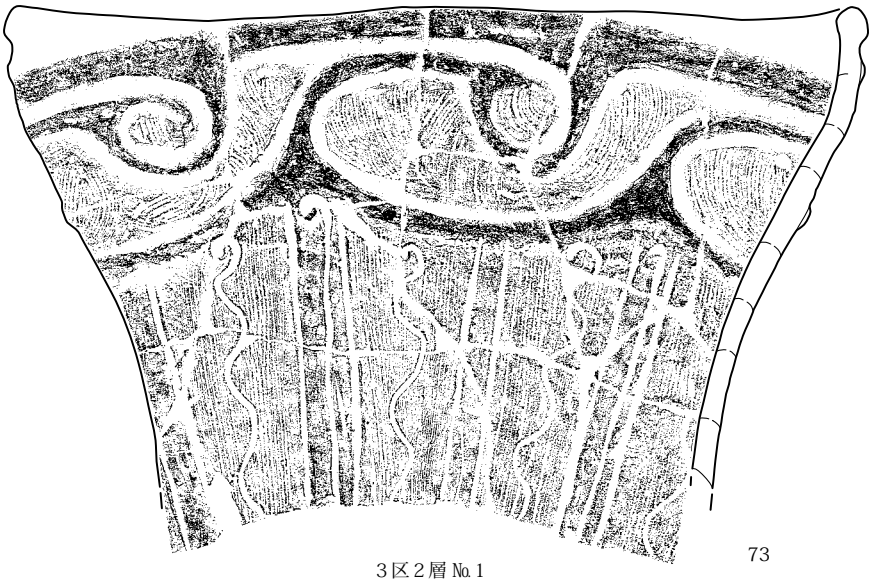
72

9区１層＋10区１層

0　1:4　10cm

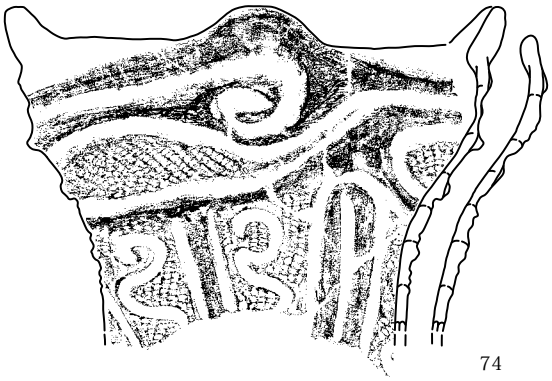
第 449 図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－５～７号住居址出土土器

Ｊ－８号住



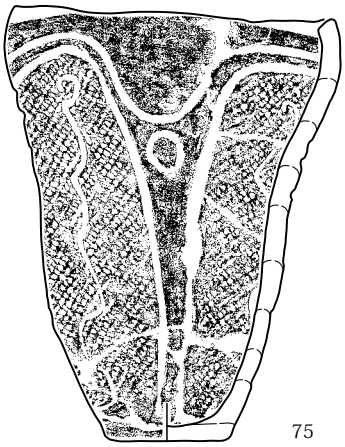
73

3区２層 №1



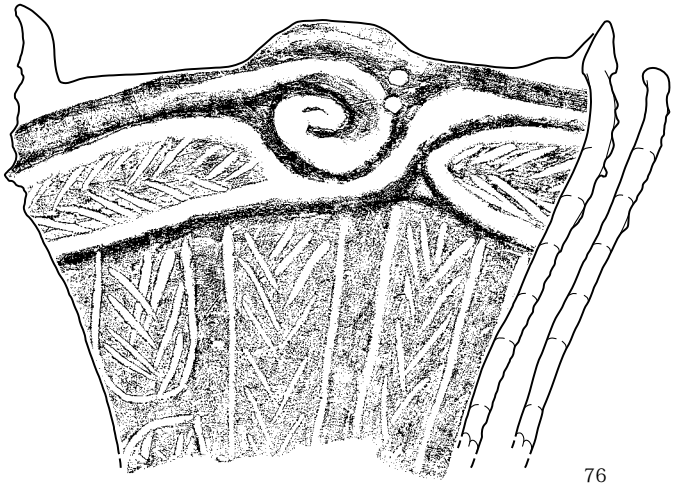
74

炉内 №1



75

11区２層



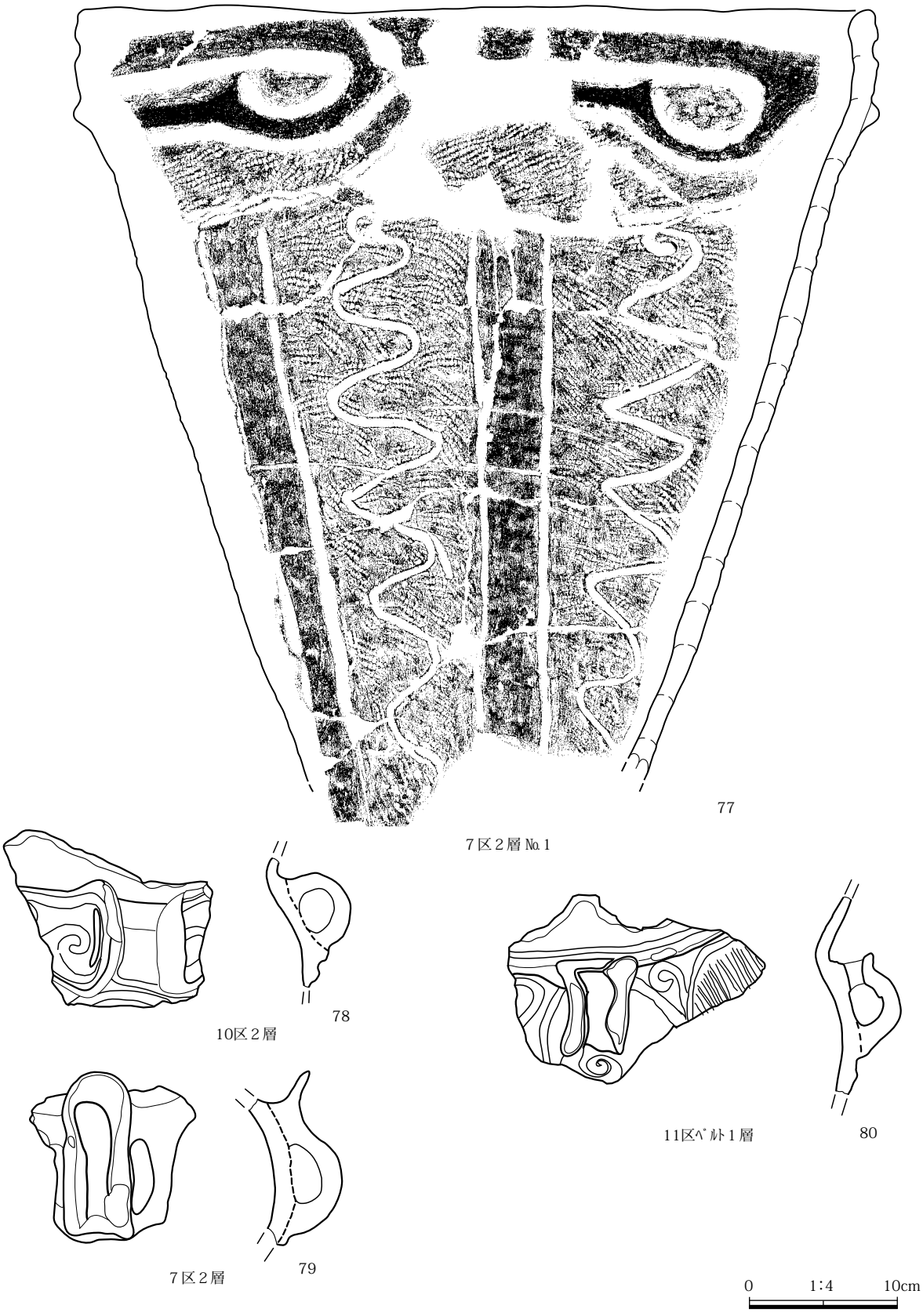
76

U－2

0　1:4　10cm

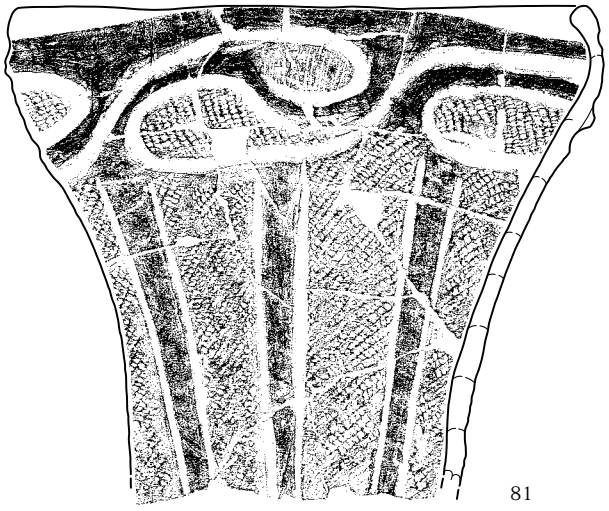
第 450 図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－８号住居址出土土器（１）

Ｊ－８号住



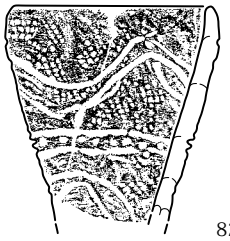
第 451 図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－８号住居址出土土器（２）

Ｊ－８号住



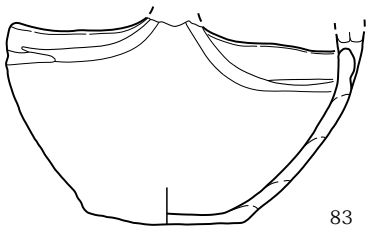
81

Ｕ－１



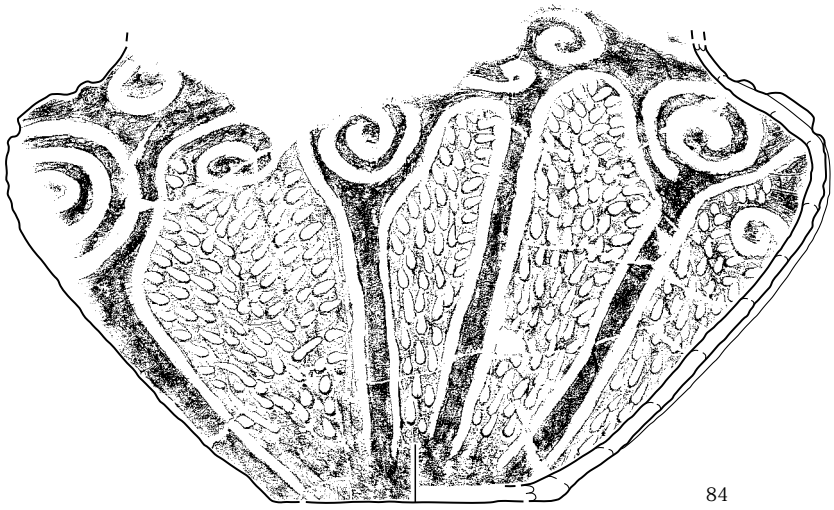
82

７区２層



83

７区２層

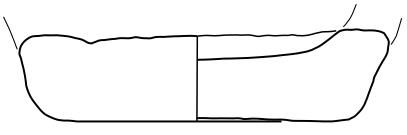


84

10区２層＋14区２層

85

８区１層＋２層



86

２区２層

87

３区溝

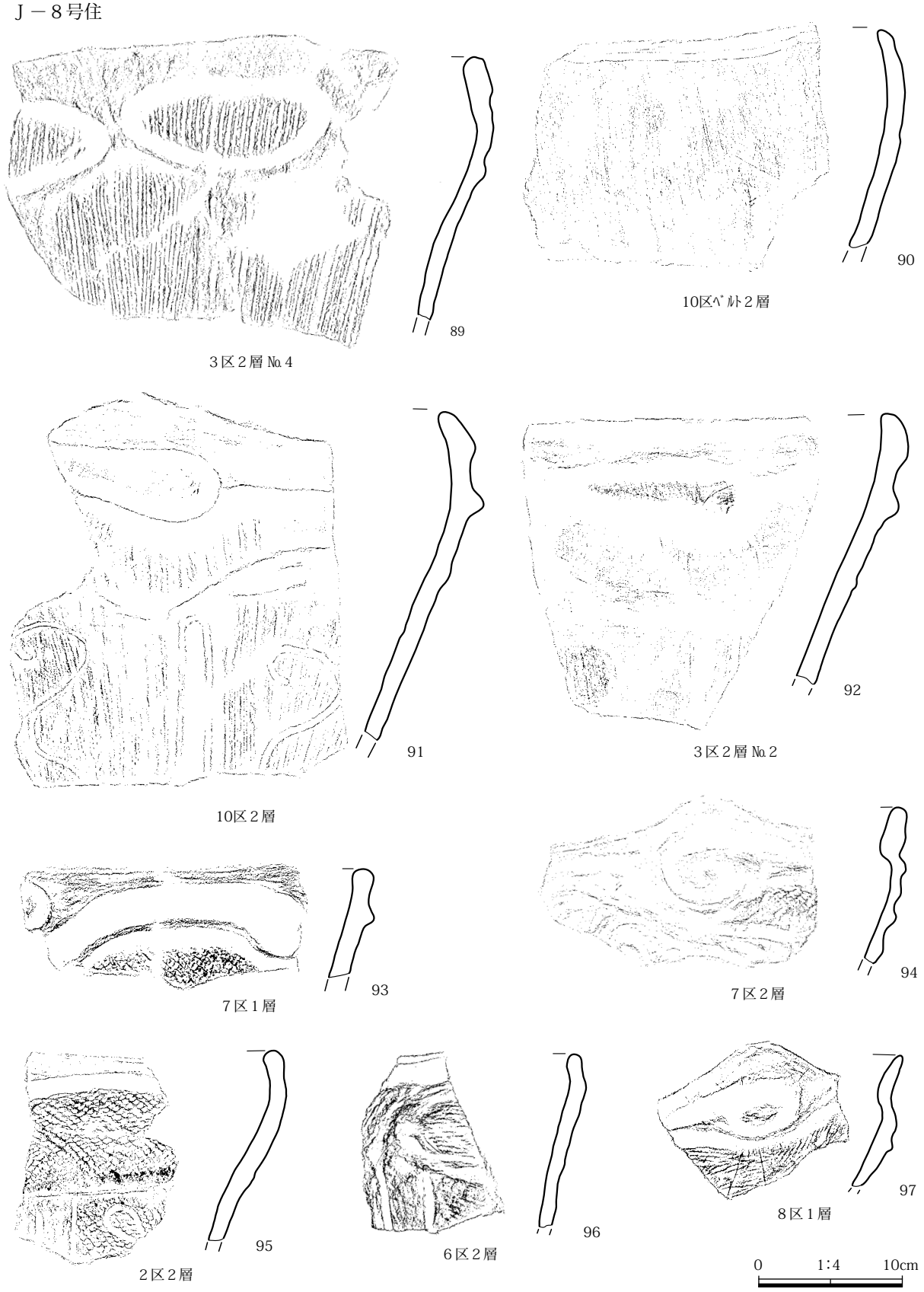
88

12区２層

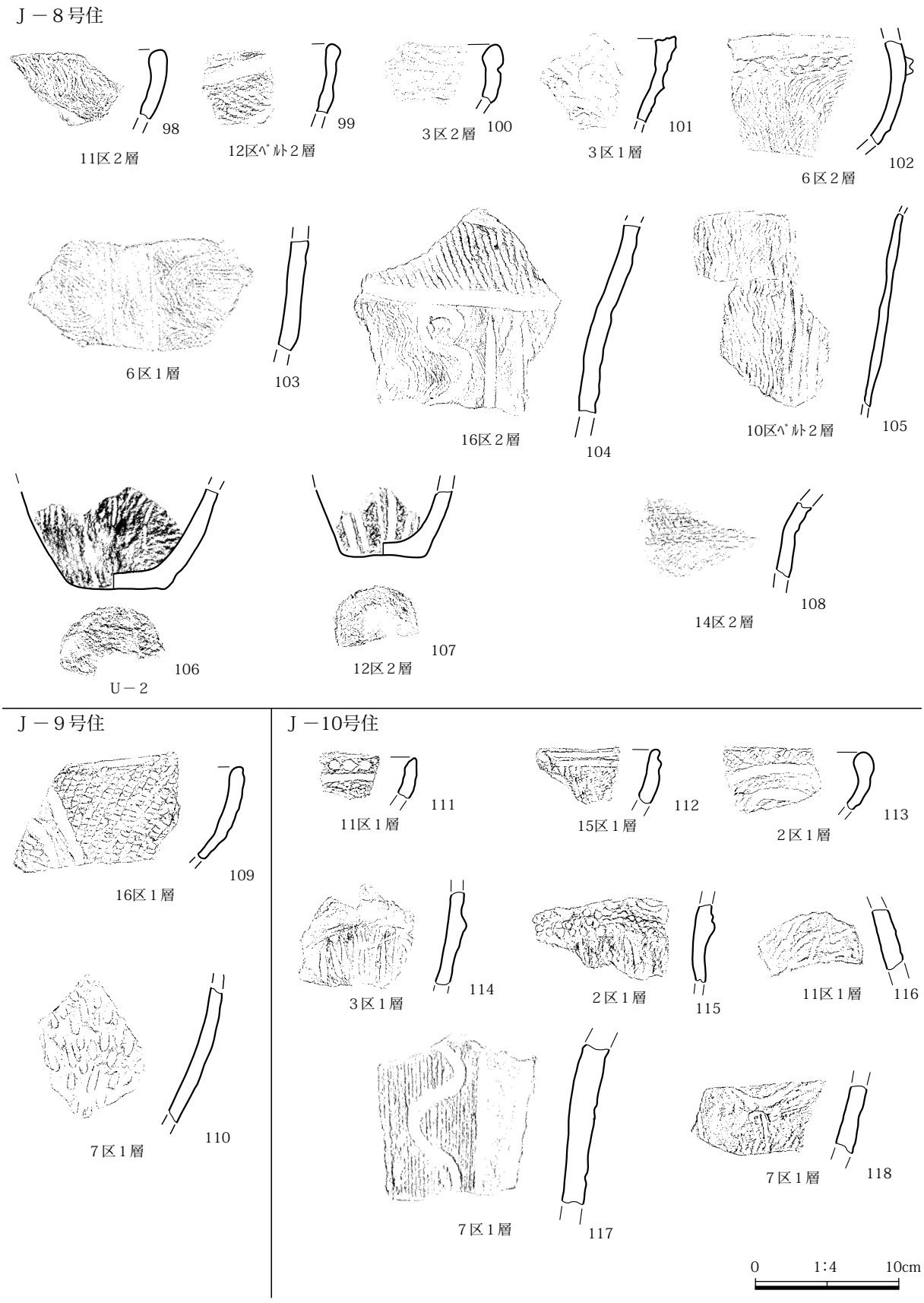
0　1:4　10cm

第 452 図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－８号住居址出土土器（３）

Ｊ－８号住

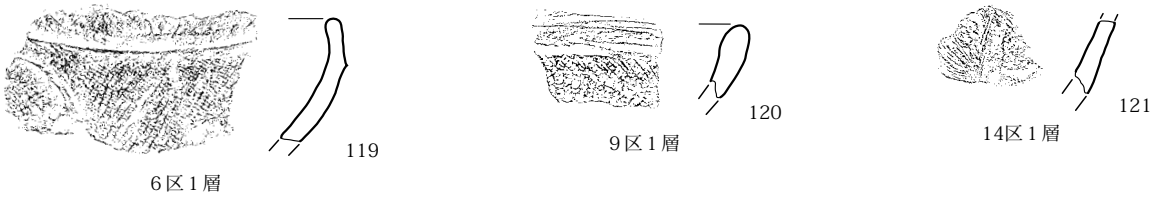


第453図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－８号住居址出土土器（４）

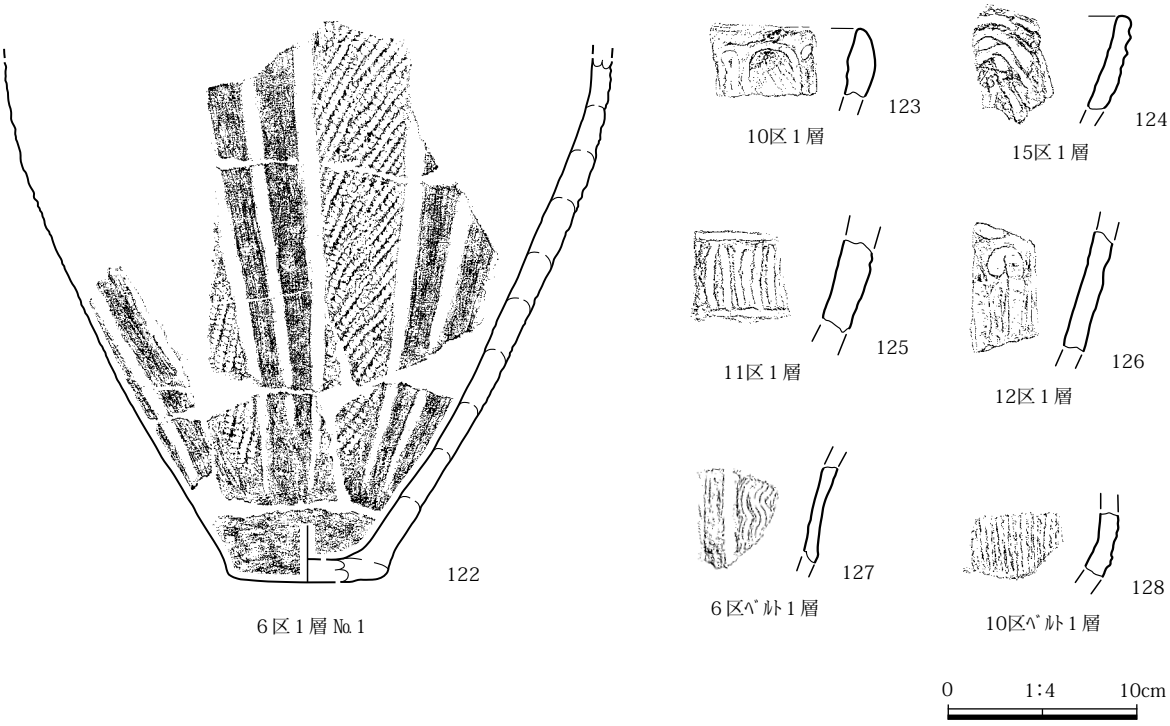


第 454 図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－８～ 10 号住居址出土土器

Ｊ－11号住



Ｊ－12号住

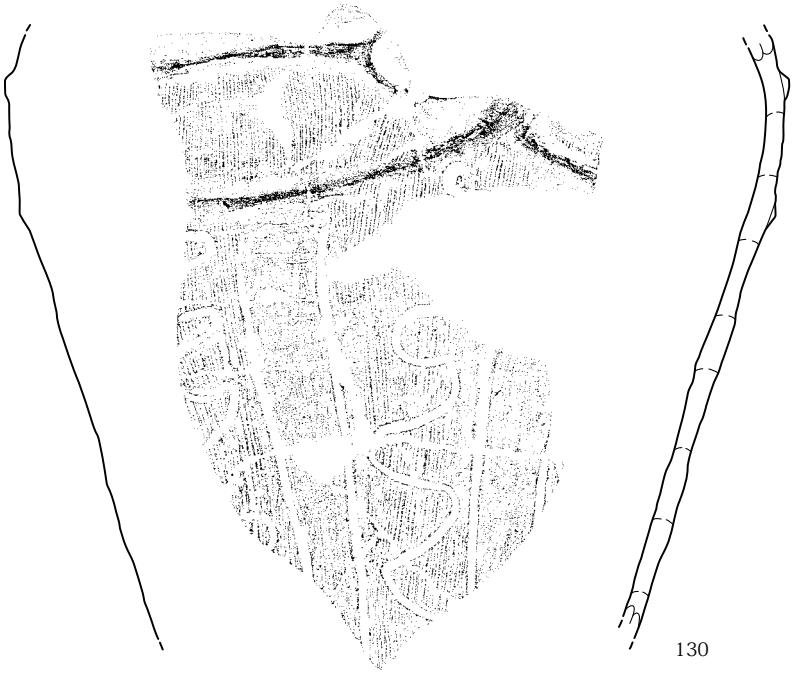


第 455 図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－ 11・12 号住居址出土土器

Ｊ－13号住

129

7区1層№1



130

7区1層

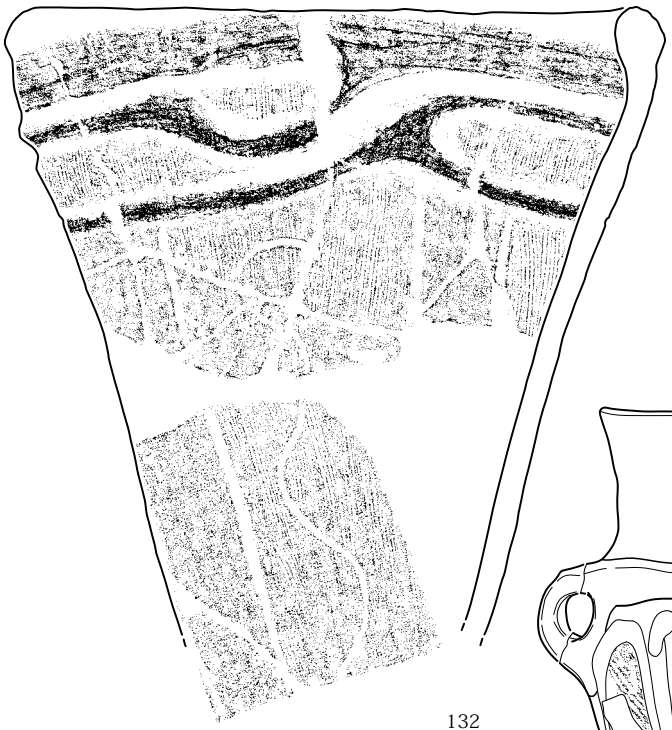
131

7区1層

0　1:4　10cm

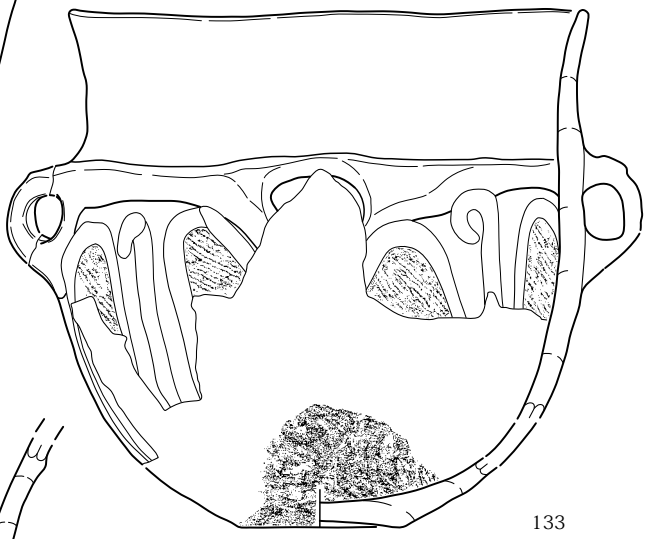
第456図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－13号住居址出土土器（1）

Ｊ－13号住



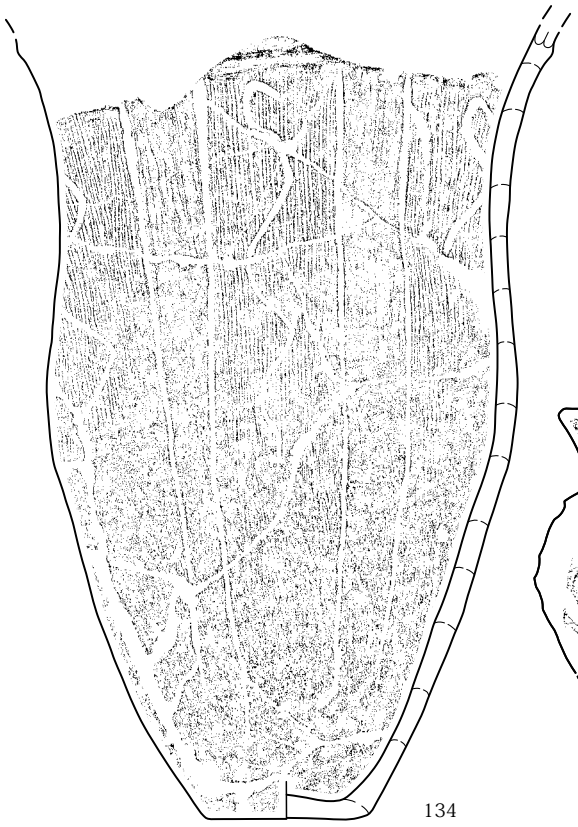
132

7区1層№2



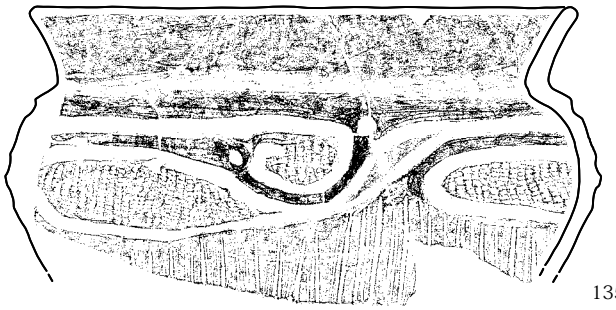
133

7区1層№4



134

14区1層 U－1



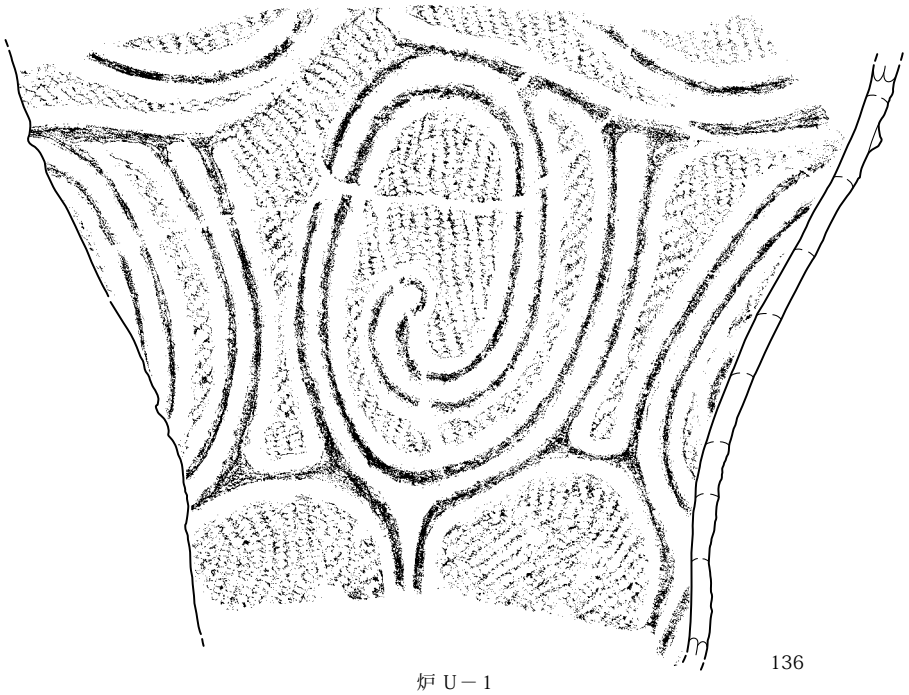
135

14区1層

0　1:4　10cm

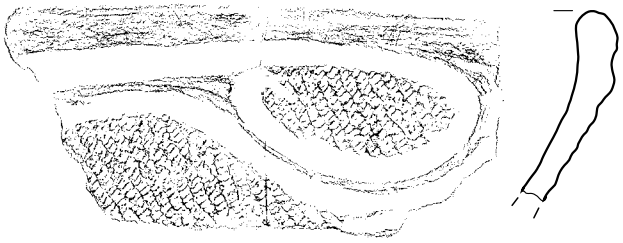
第457図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－13号住居址出土土器（2）

Ｊ－14号住



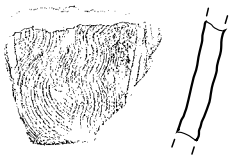
136

炉Ｕ－1



137

12区１層

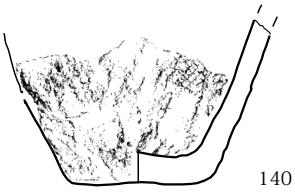


138

10区１層

7区１層

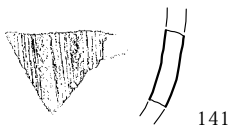
139



140

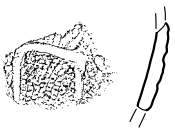
14区１層

竪穴状遺構（Ｔ－４）



141

1区１層



142

3区１層

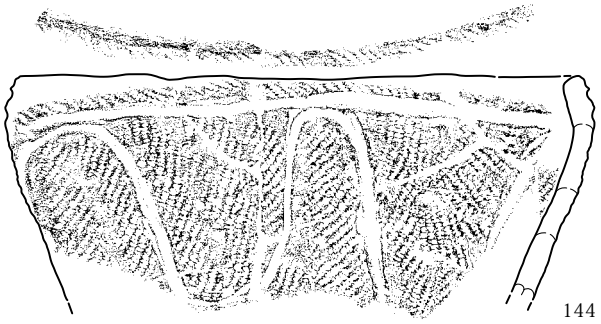
143

3区１層

0　1:4　10cm

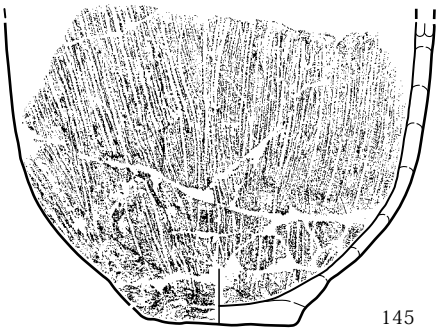
第 458 図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－ 14 号住居址・Ｔ－４号竪穴状遺構出土土器

埋設



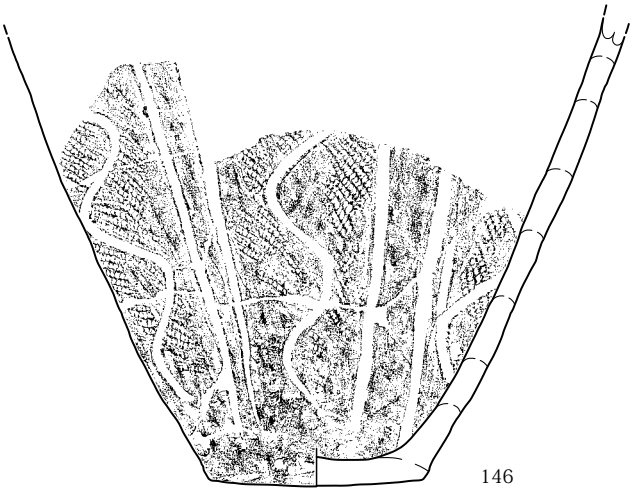
144

U－1



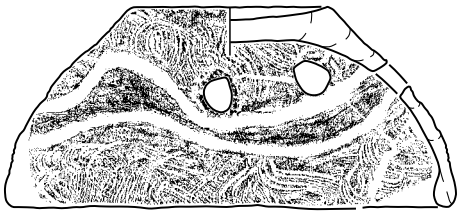
145

U－2　№3



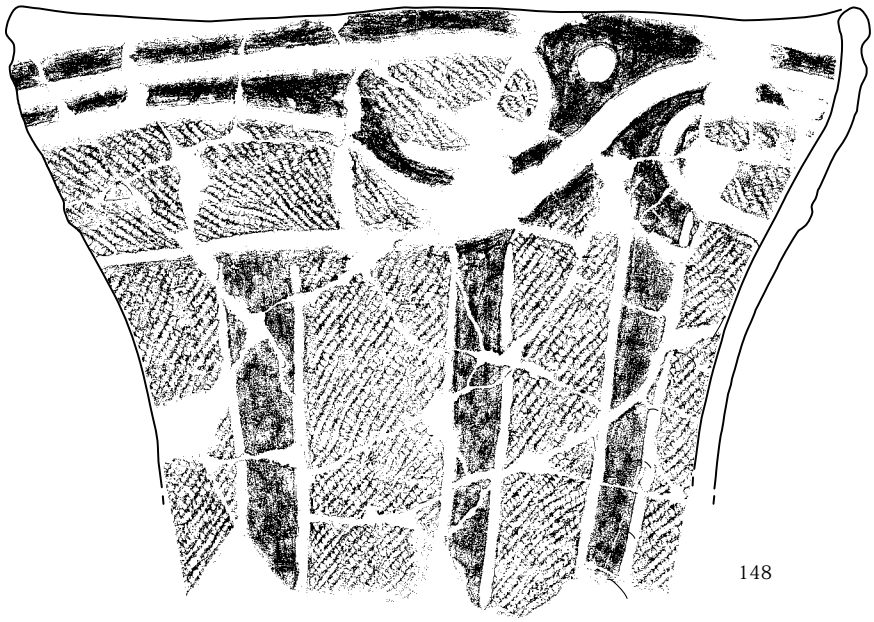
146

U－2



147

U－2　№2

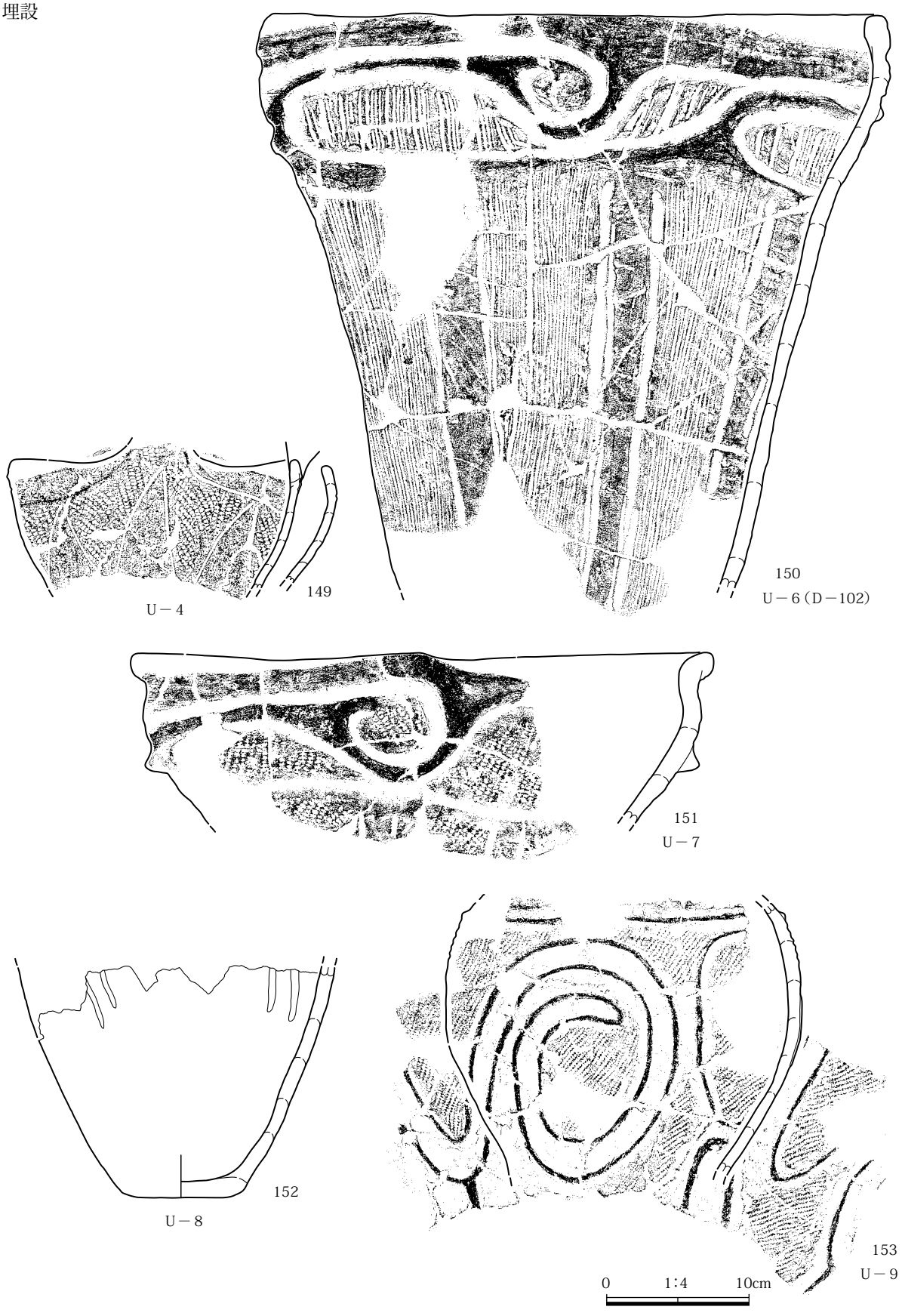


148

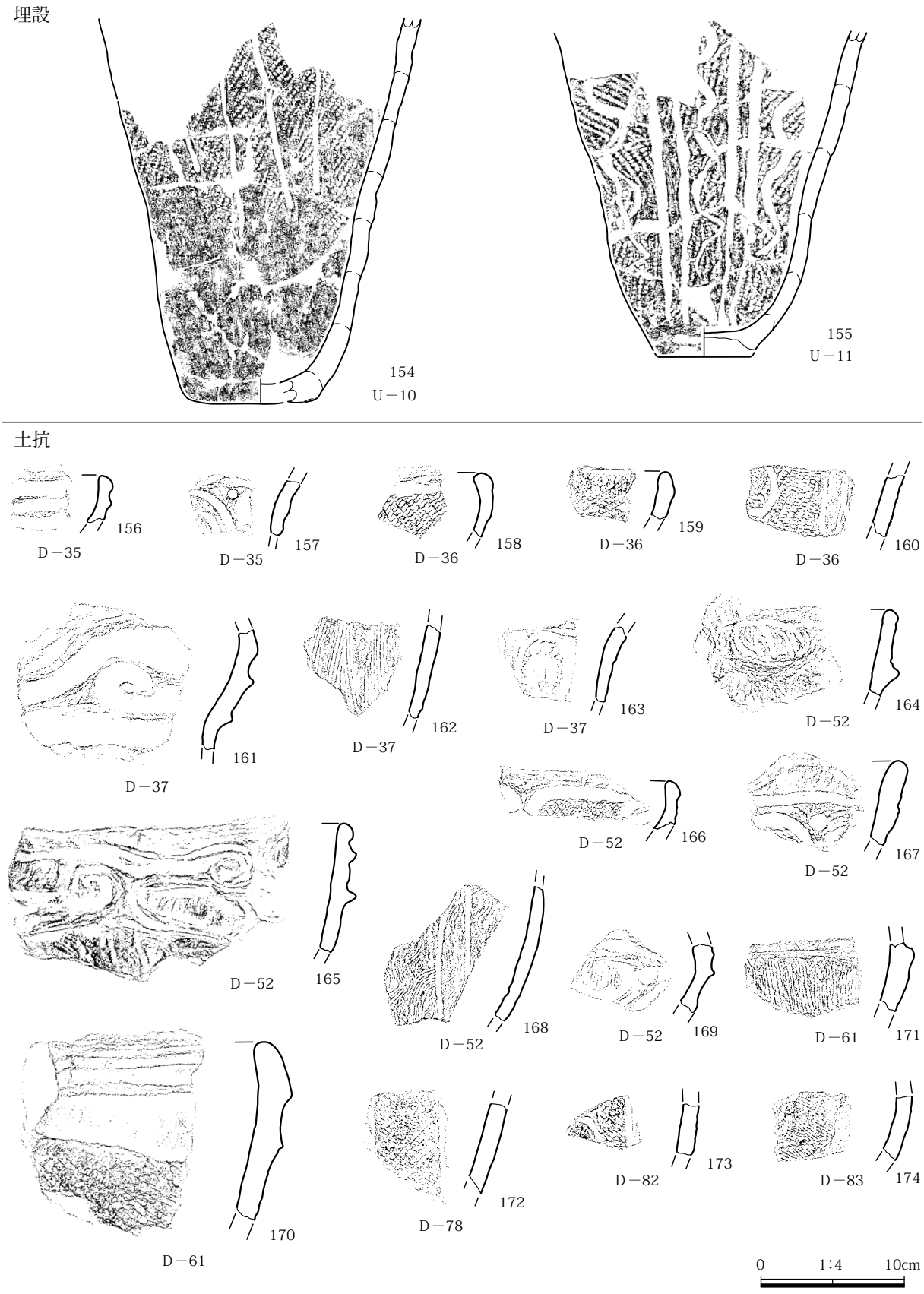
U－3

0　1:4　10cm

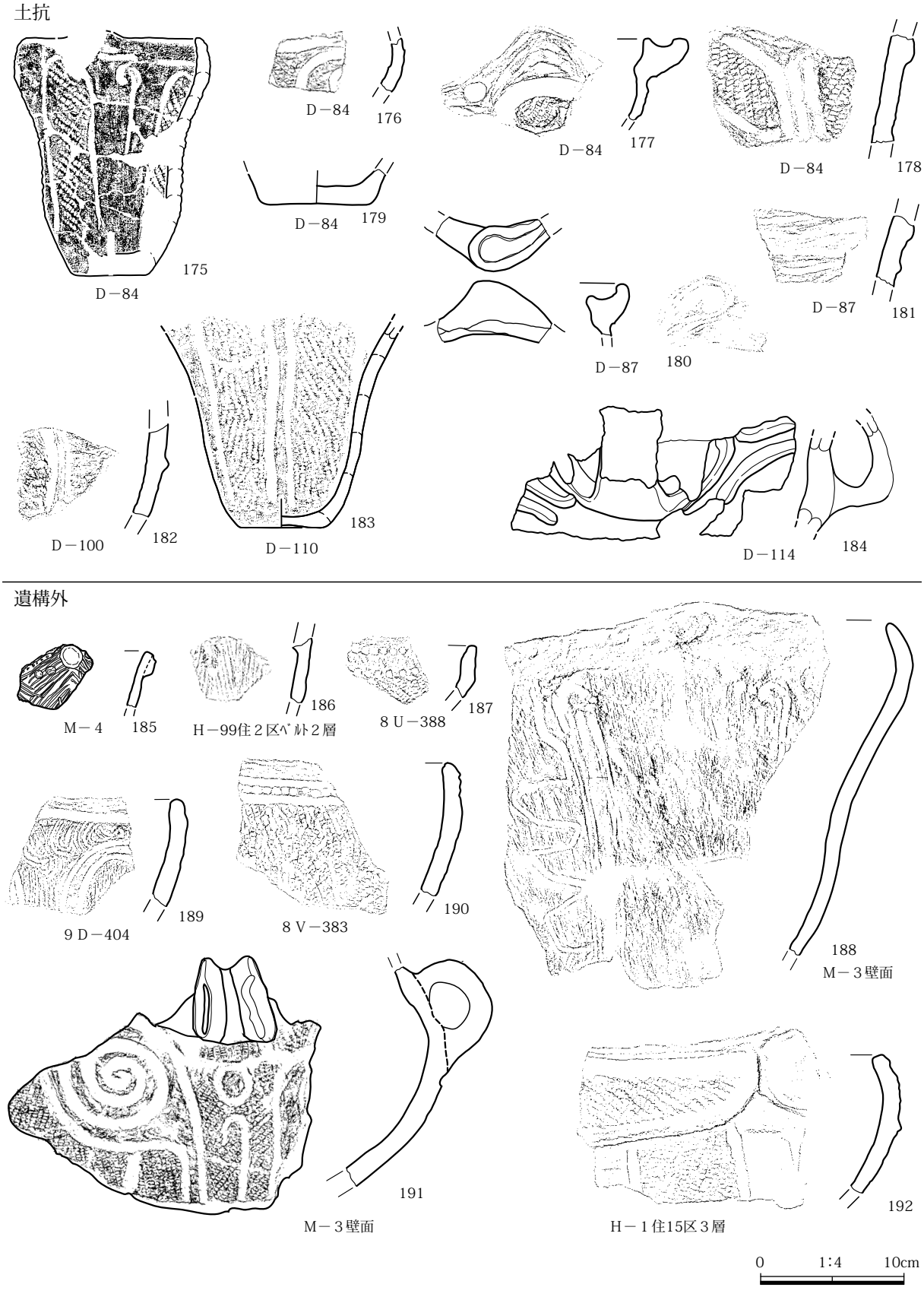
第 459 図　人見枝谷津遺跡（縄文）埋設土器（1）



第 460 図　人見枝谷津遺跡（縄文）埋設土器（２）

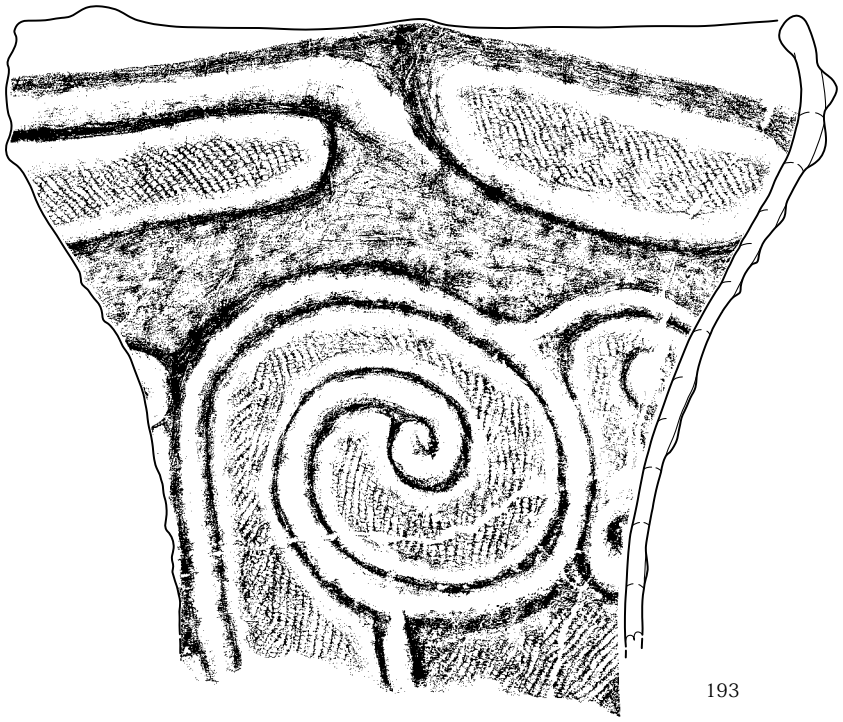


第 461 図　人見枝谷津遺跡（縄文）埋設土器（3）・土抗出土土器



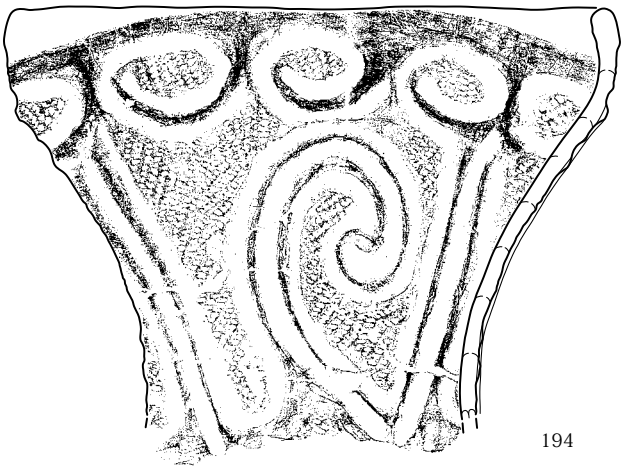
第 462 図　人見枝谷津遺跡（縄文）土坑・遺構外出土土器

Ｊ－１号住



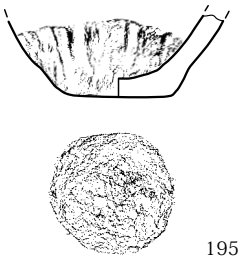
193

Ｕ－１



194

Ｕ－２



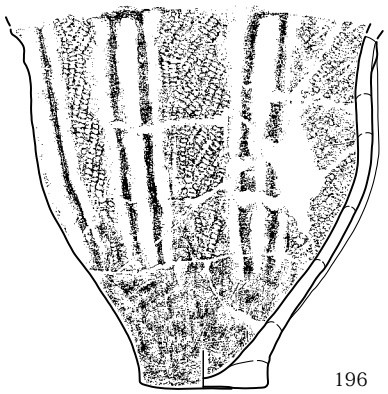
195

12区２層

0　1:4　10cm

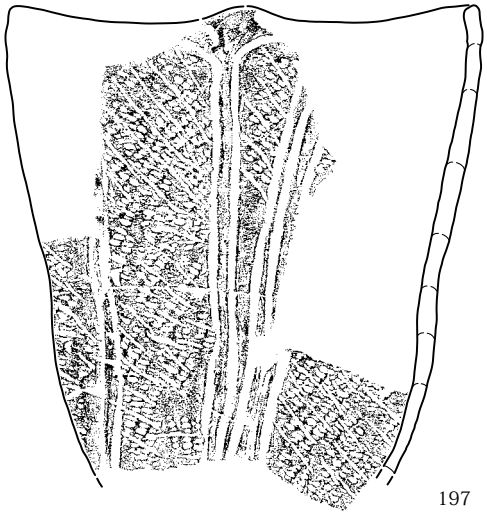
第 463 図　人見東向原遺跡（縄文）Ｊ－１号住居址出土土器

Ｊ－２号住



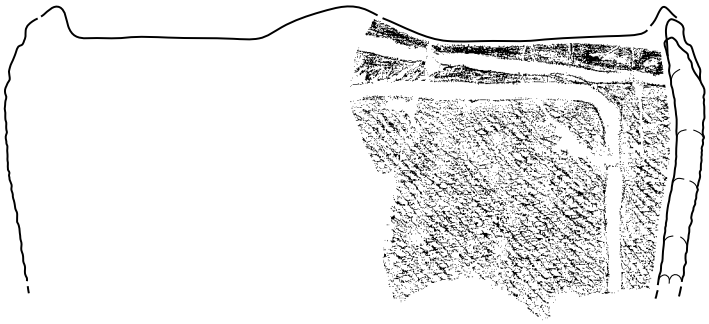
196

Ｕ－１



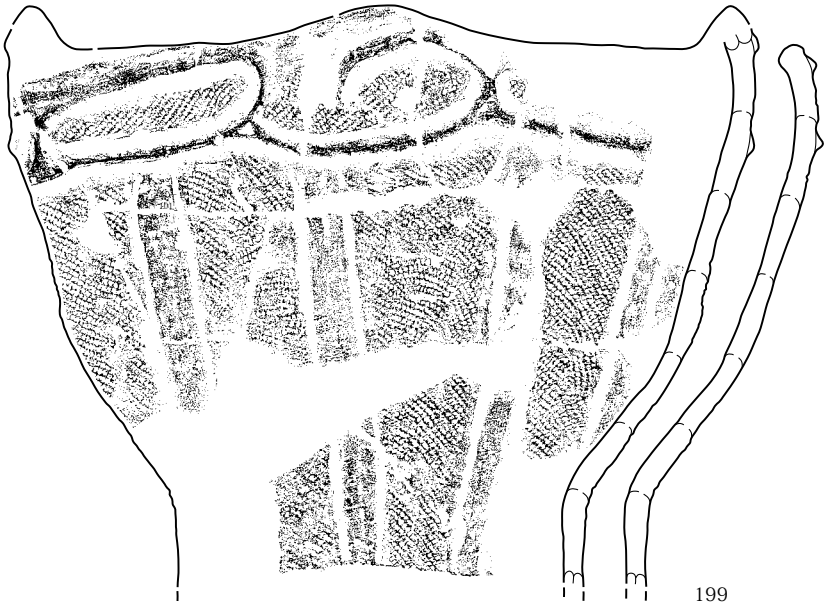
197

Ｕ－３



198

Ｕ－２



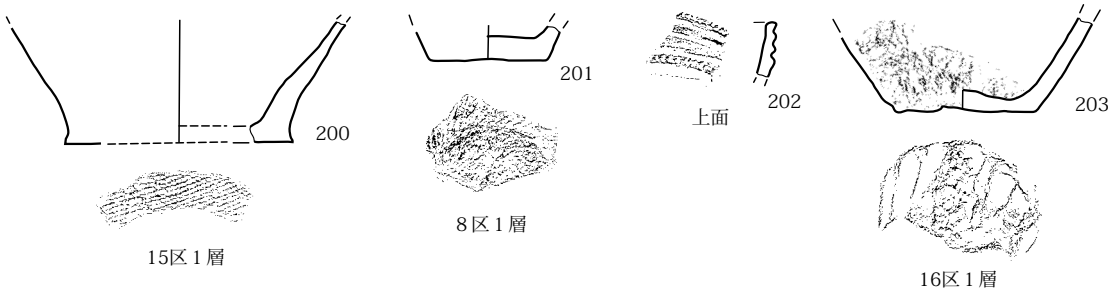
199

Ｕ－４

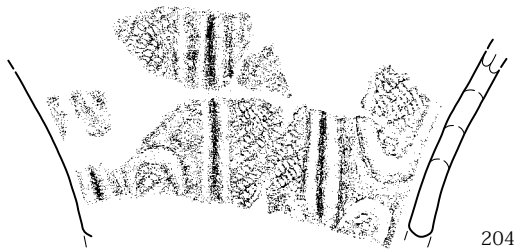
0　1:4　10cm

第 464 図　人見東向原遺跡（縄文）Ｊ－２号住居址出土土器

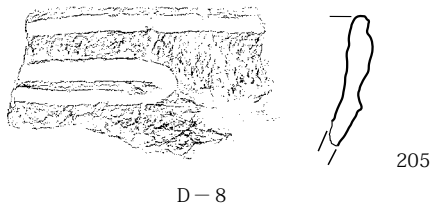
Ｊ－２号住



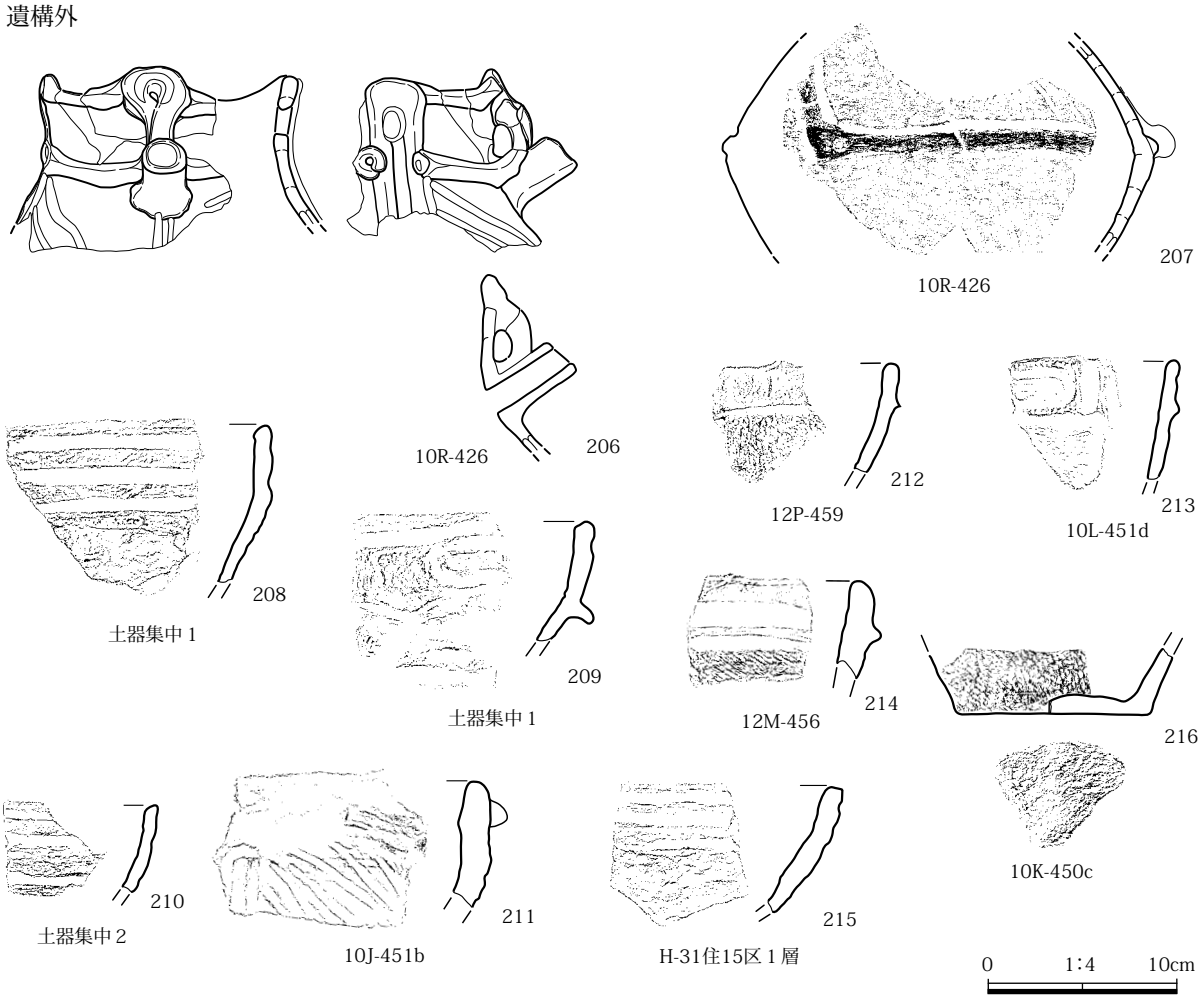
埋設



土抗

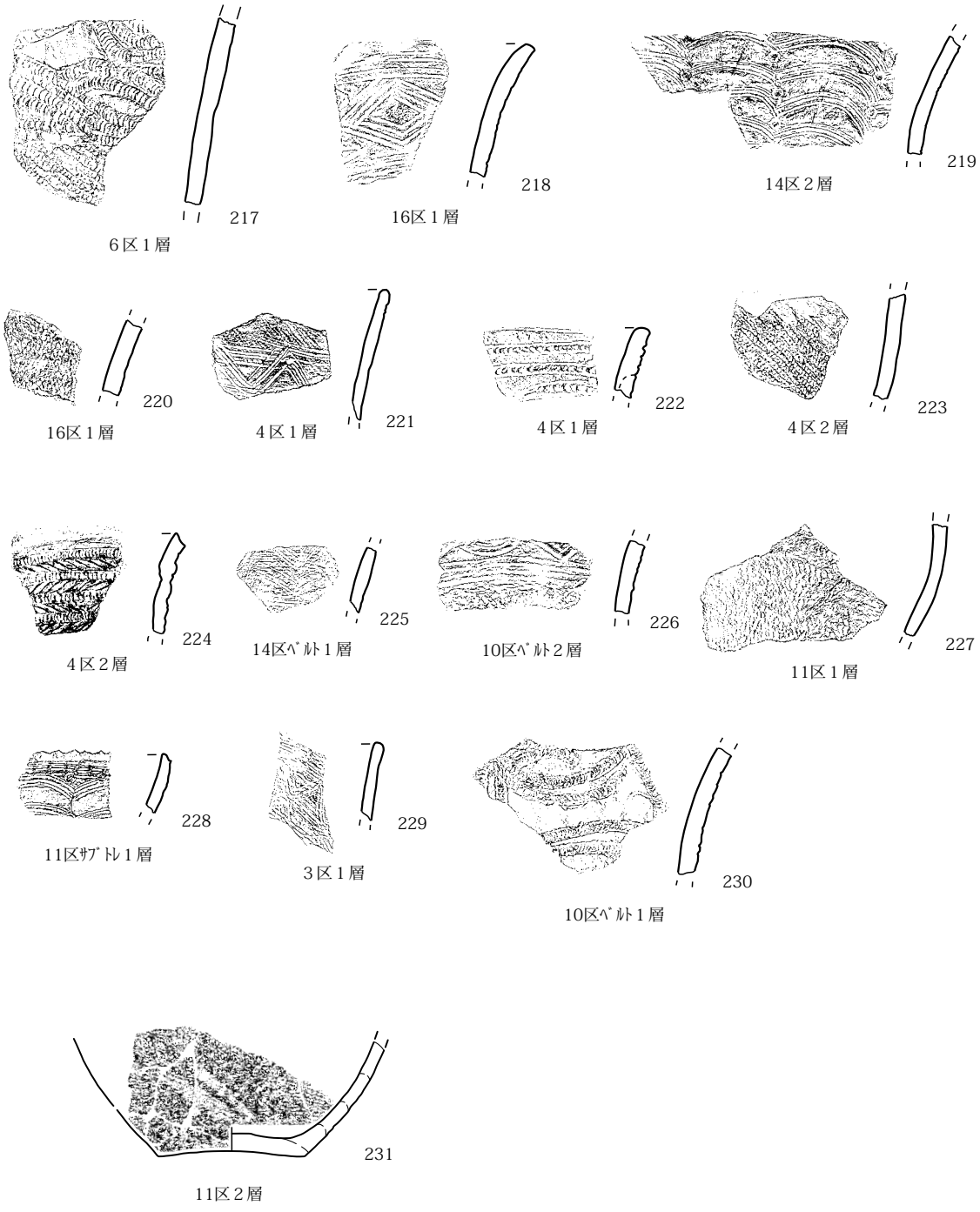


遺構外



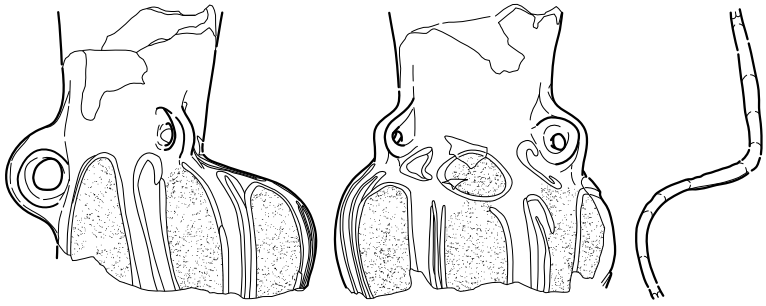
第 465 図　人見東向原遺跡（縄文）Ｊ－２号住居址・埋設土器・土抗・遺構外出土土器

Ｊ－１号住



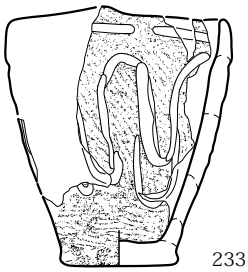
第 466 図　人見向原遺跡（縄文）Ｊ－１号住居址出土土器

Ｊ－１号住



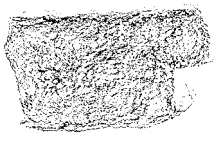
232

3区１層 №１



233

3区１層 №２

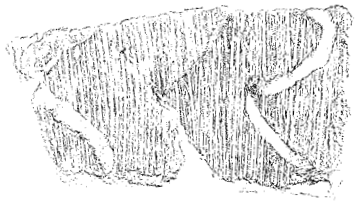


234

2区１層

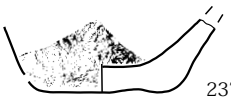
235

16区１層



236

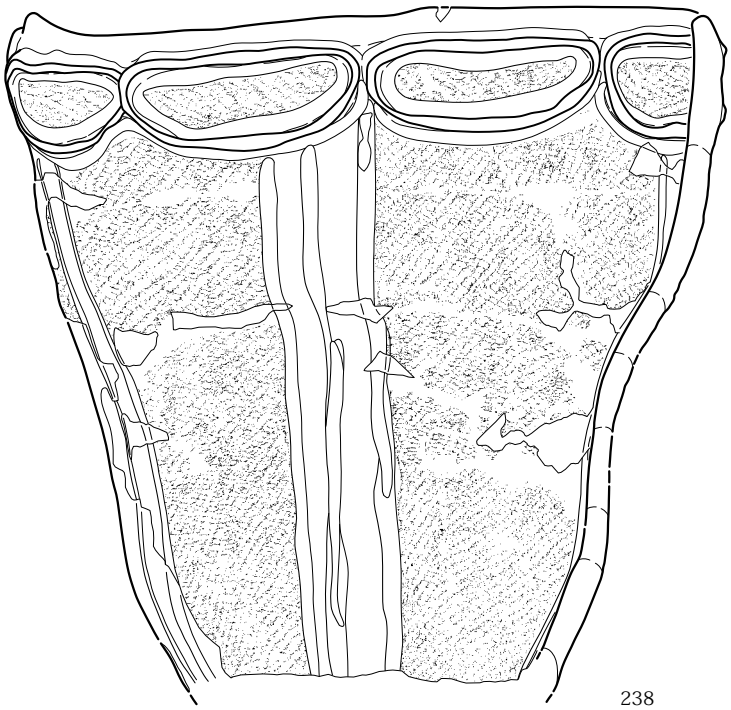
12区１層＋16区１層



237

4区１層

Ｊ－２号住



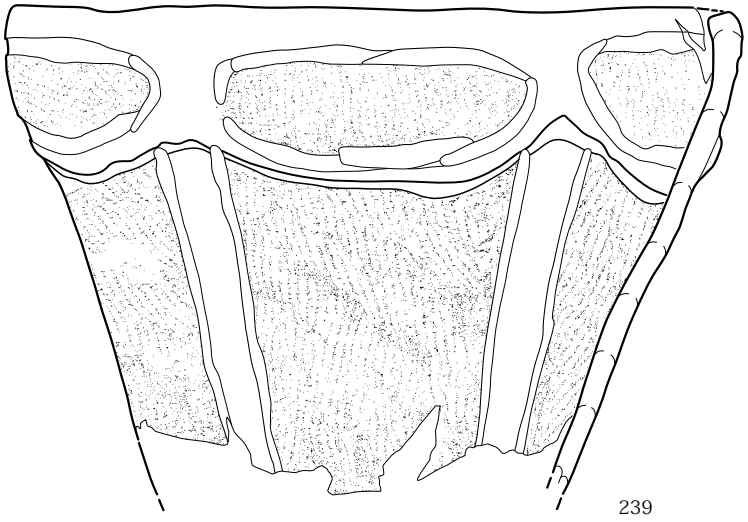
238

U－1

0　1:4　10cm

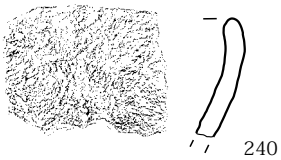
第 467 図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－１・２号住居址出土土器

Ｊ－２号住



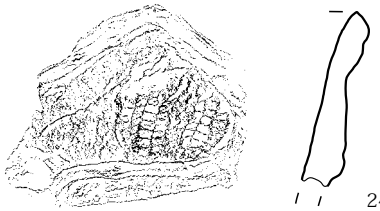
239

Ｕ－２



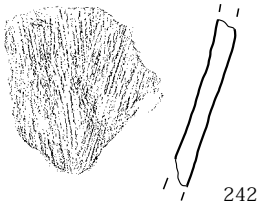
240

10区１層



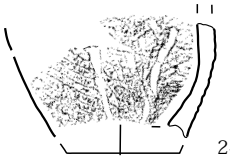
241

13区１層



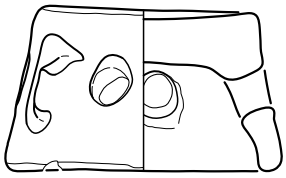
242

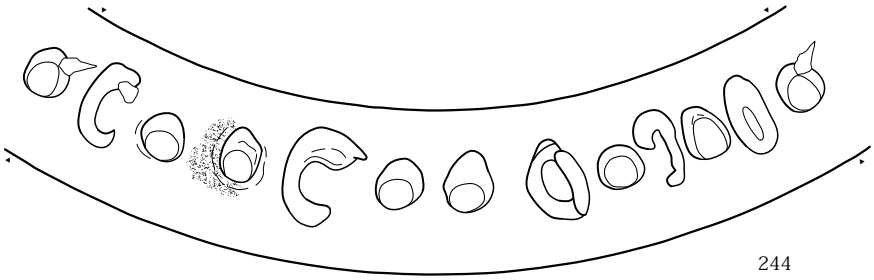
15区１層



243

炉内





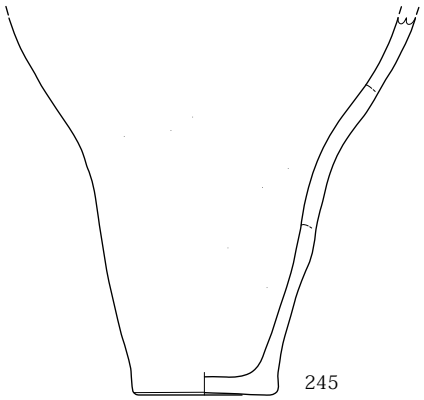
244

炉　№１

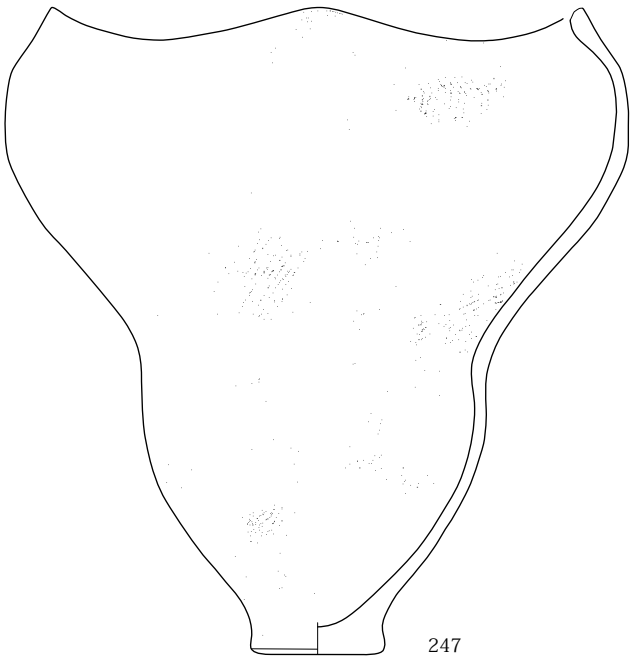
0　1:4　10cm

第 468 図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－２号住居址出土土器

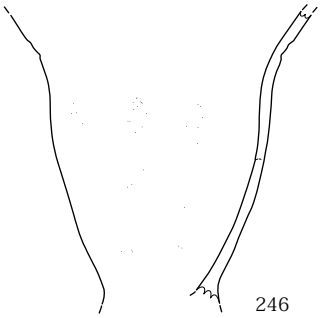
Ｊ－３号住



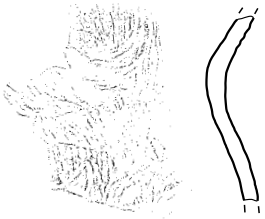
炉内 U－1



U－2

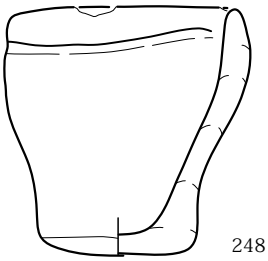


U－1

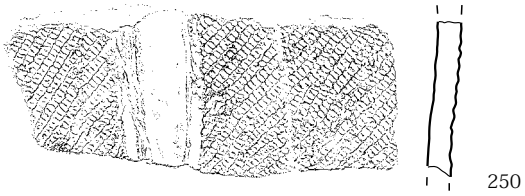


P－10

P－10

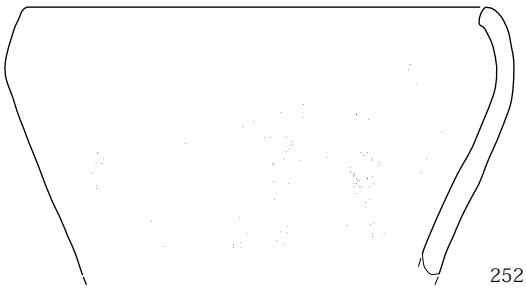


2区1層

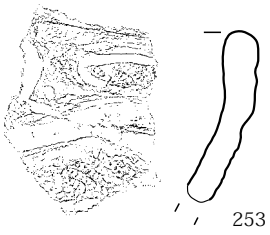


P－1

Ｊ－４号住



U－1



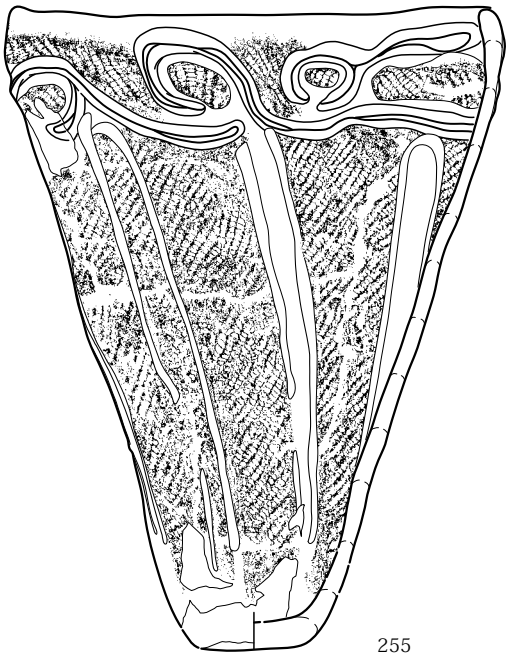
P－5

P－2

0　1:4　10cm

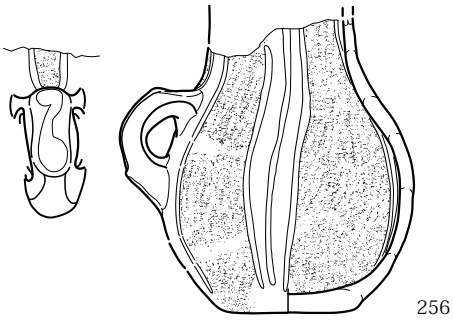
第 469 図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－３・４号住居址出土土器

Ｊ－５号住



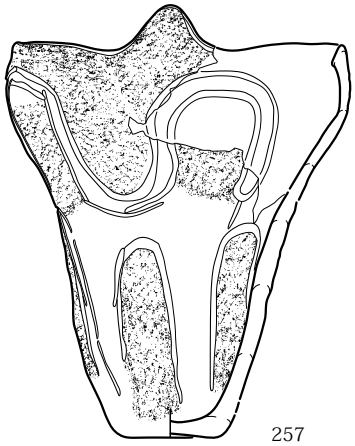
255

12区１層 №１



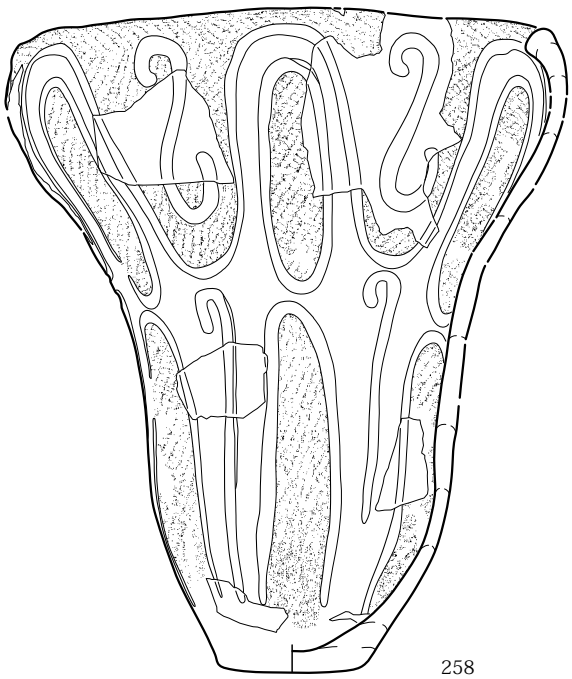
256

６区１層 №１



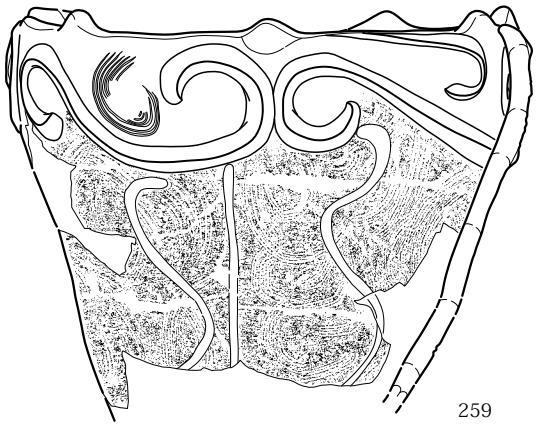
257

４区１層 №１



258

D－１ №１



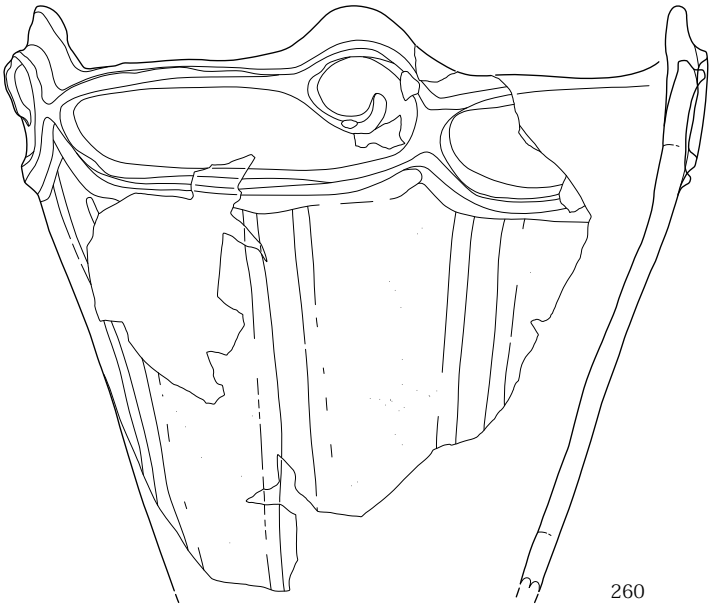
259

７区１層

0　1:4　10cm

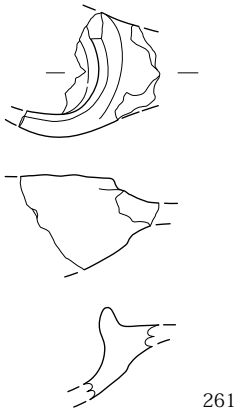
第 470 図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－５号住居址出土土器（１）

Ｊ－５号住



260

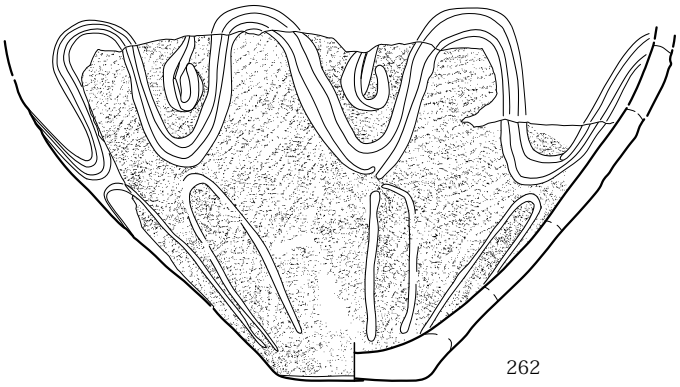
3区1層№1



261

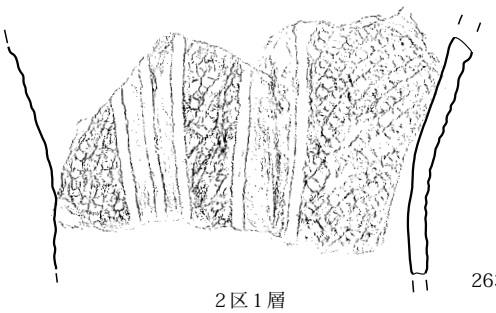
10区ﾍﾞﾙﾄ2層

0　1:2　5cm



262

3区2層№2＋7区1層＋3区2層＋3区1層



263

2区1層

7区1層

264

10区ﾍﾞﾙﾄ1層

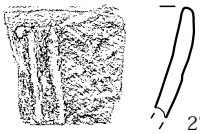
265

4区1層

266

2区1層

269



2区1層

270

6区2層

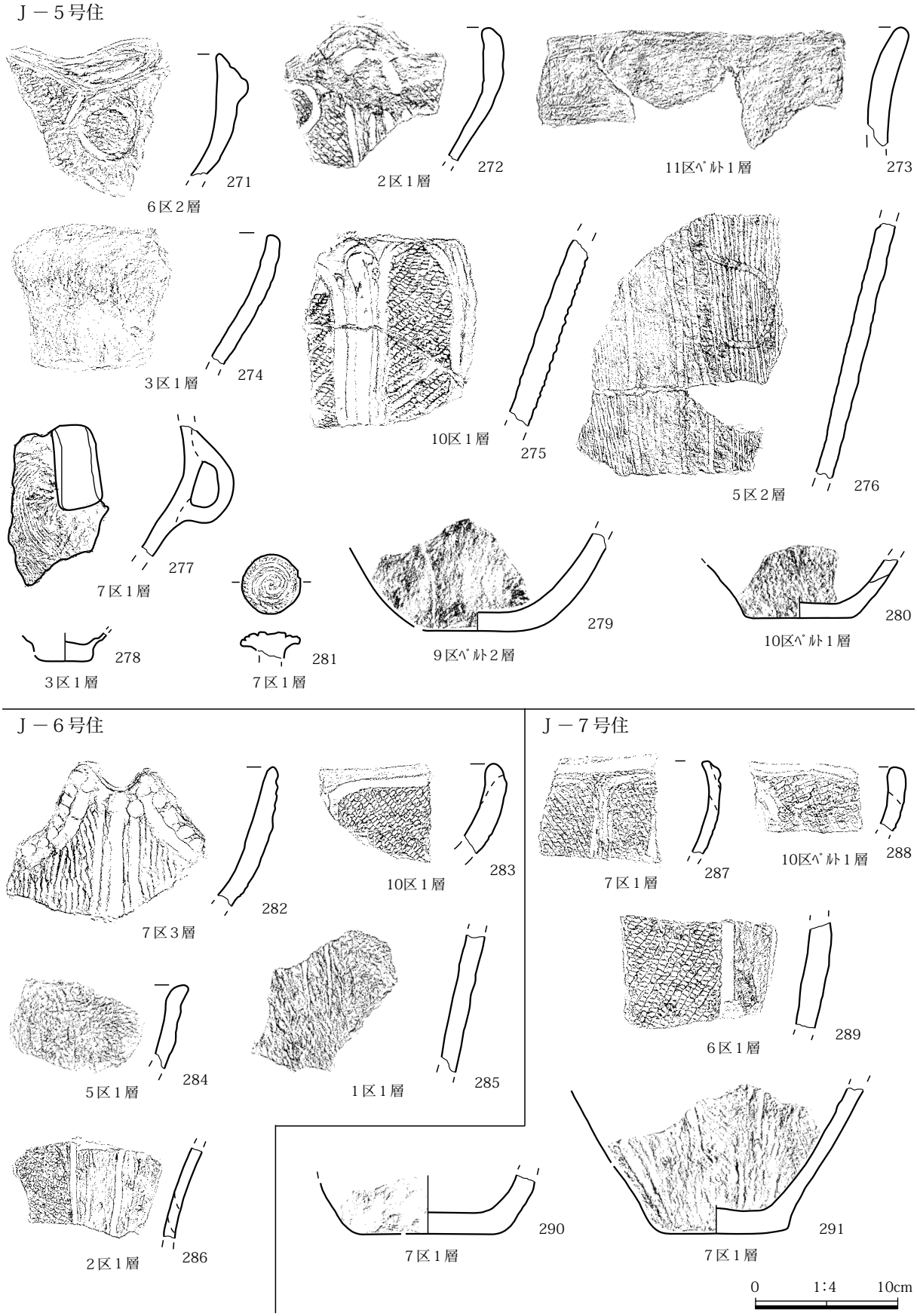
267

8区1層

268

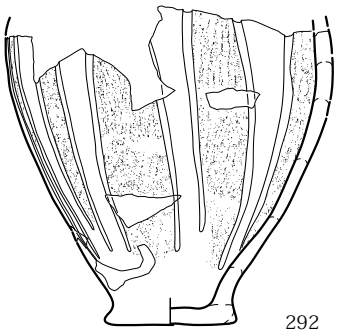
0　1:4　10cm

第471図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－５号住居址出土土器（２）

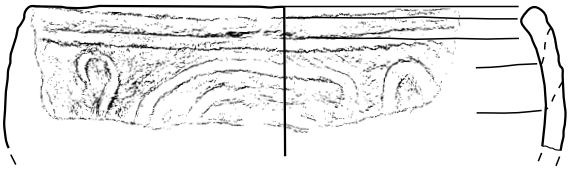


第 472 図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－５～７号住居址出土土器

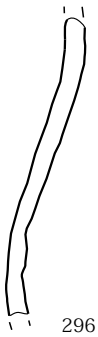
Ｊ－８号住


292

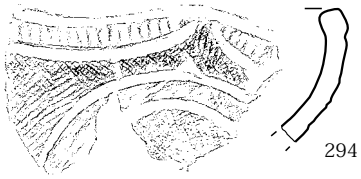
U－２ №１


293

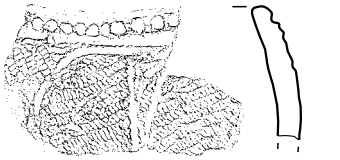
U－１


296

U－２ №２

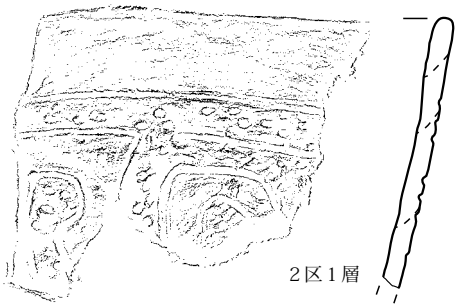

294

12区１層

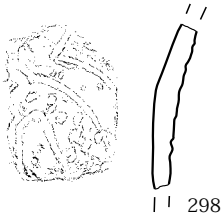

295

13区１層

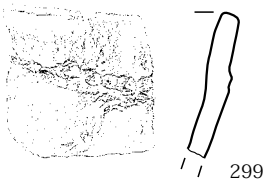
Ｊ－９号住


297

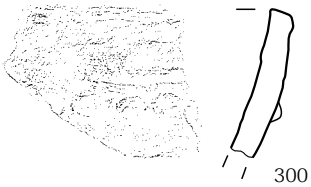
２区１層


298

２区１層

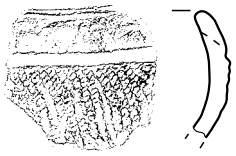

299

２区１層

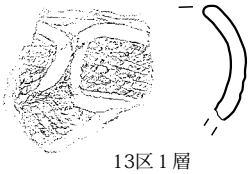

300

10区１層

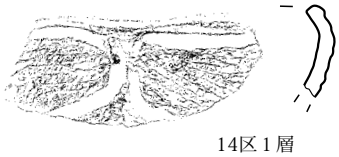
Ｊ－10号住


301

９区１層


302

13区１層

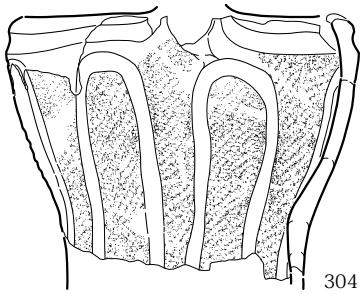

303

14区１層

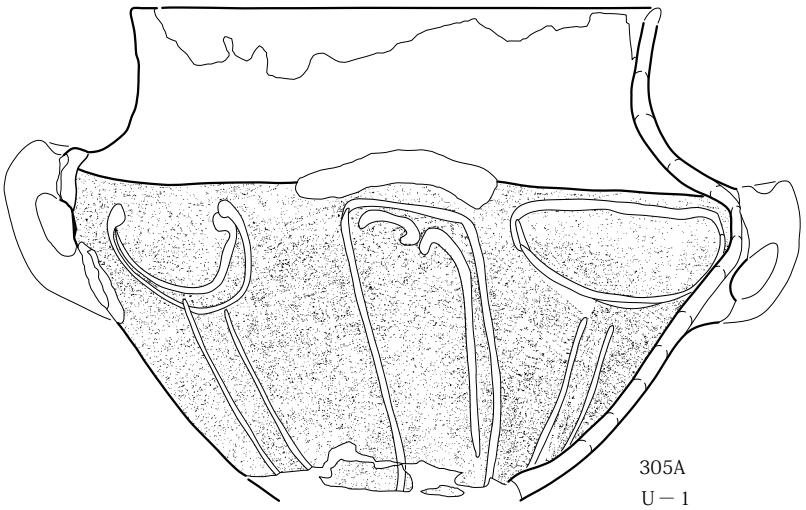
0　1:4　10cm

第 473 図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－８～ 10 号住居址出土土器

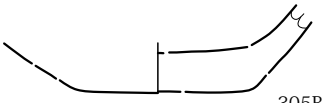
Ｊ－11号住



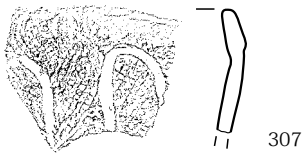
304
炉 Ｕ－１



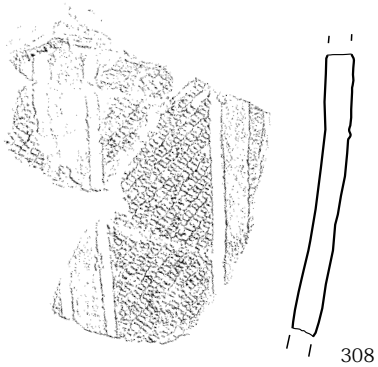
305A
Ｕ－１



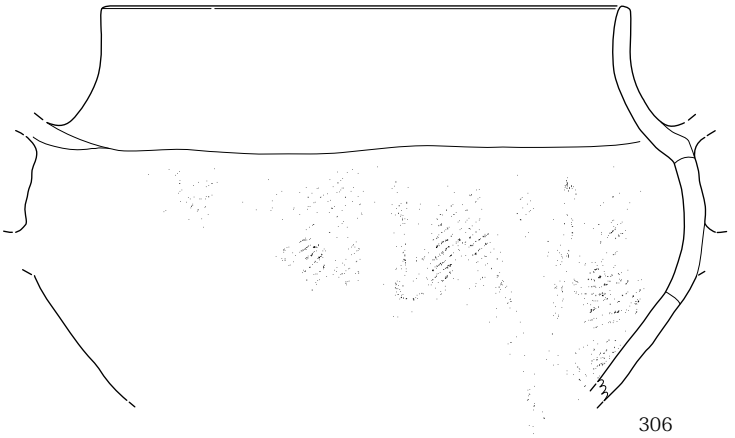
305B
Ｕ－１



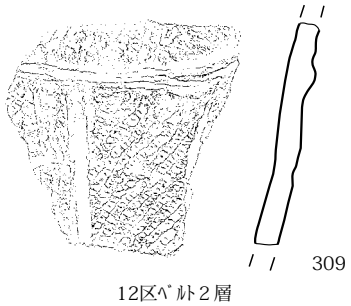
307
炉内 Ｕ－１



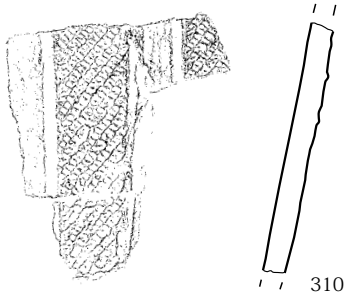
308
№２



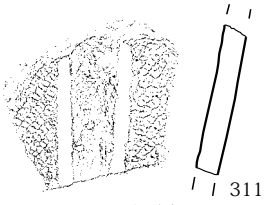
306
№１＋２区２層＋５区２層



309
12区ﾍﾞﾙﾄ２層

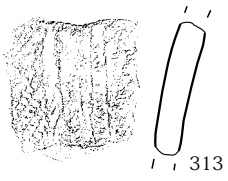


310
12区２層＋12区ﾍﾞﾙﾄ２層＋８区２層



311
４区２層

312
№１

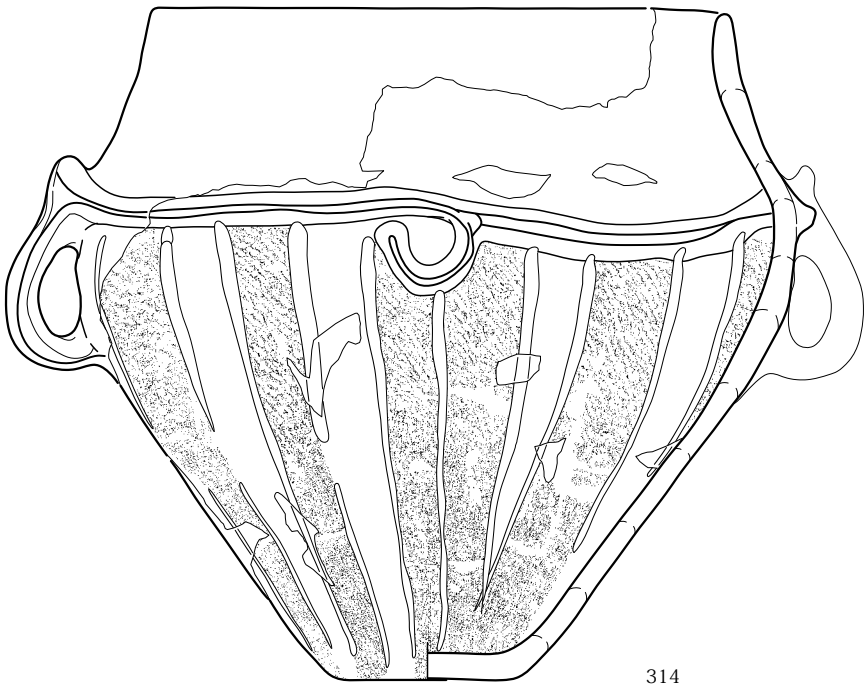


313
５区２層

0　1:4　10cm

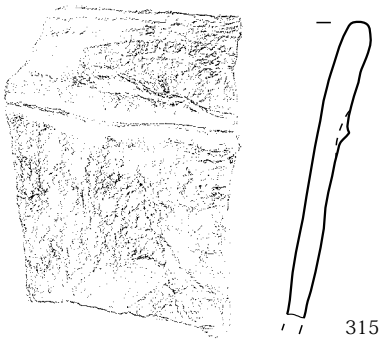
第 474 図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－ 11 号住居址出土土器

土抗



314

D－3

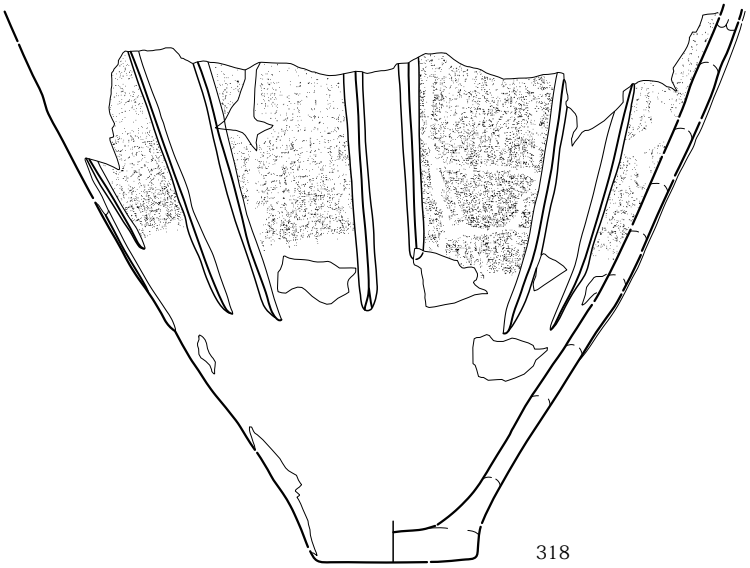


315

D－13

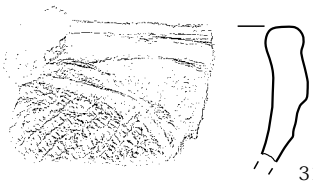
316

D－23



318

D－33 U－1



317

D－29

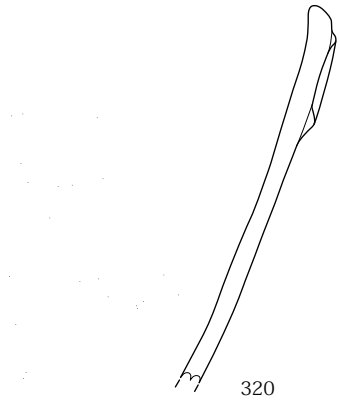
319

D－33 U－1

0　1:4　10cm

第 475 図　人見東中原遺跡（縄文）土坑出土土器

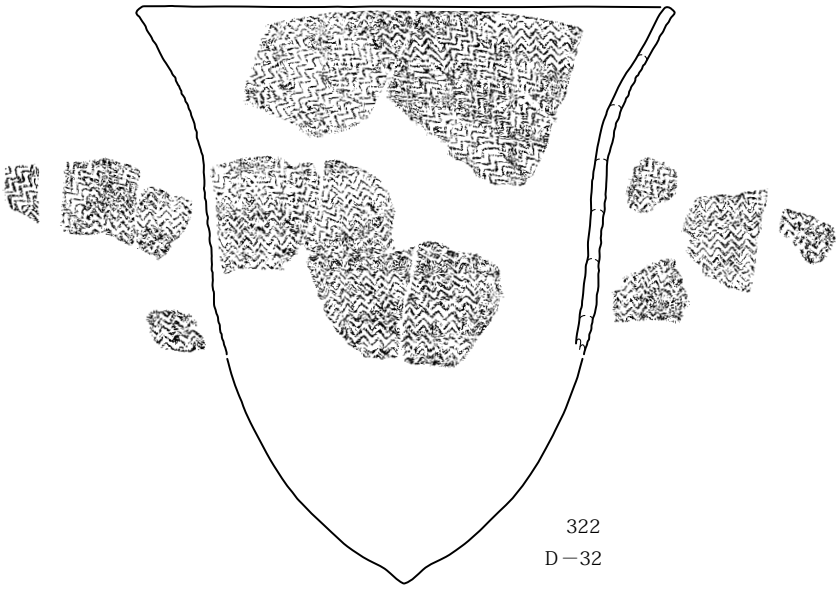
土抗

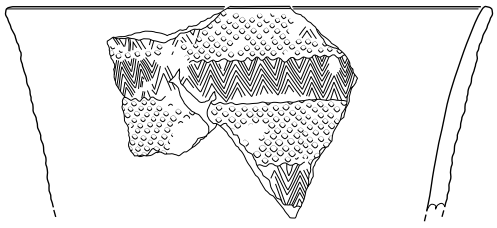


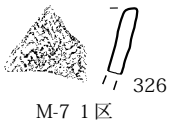
D－38

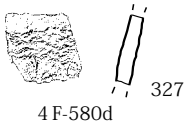
D－38

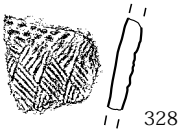
遺構外（早期）

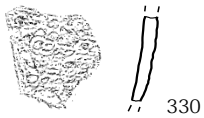








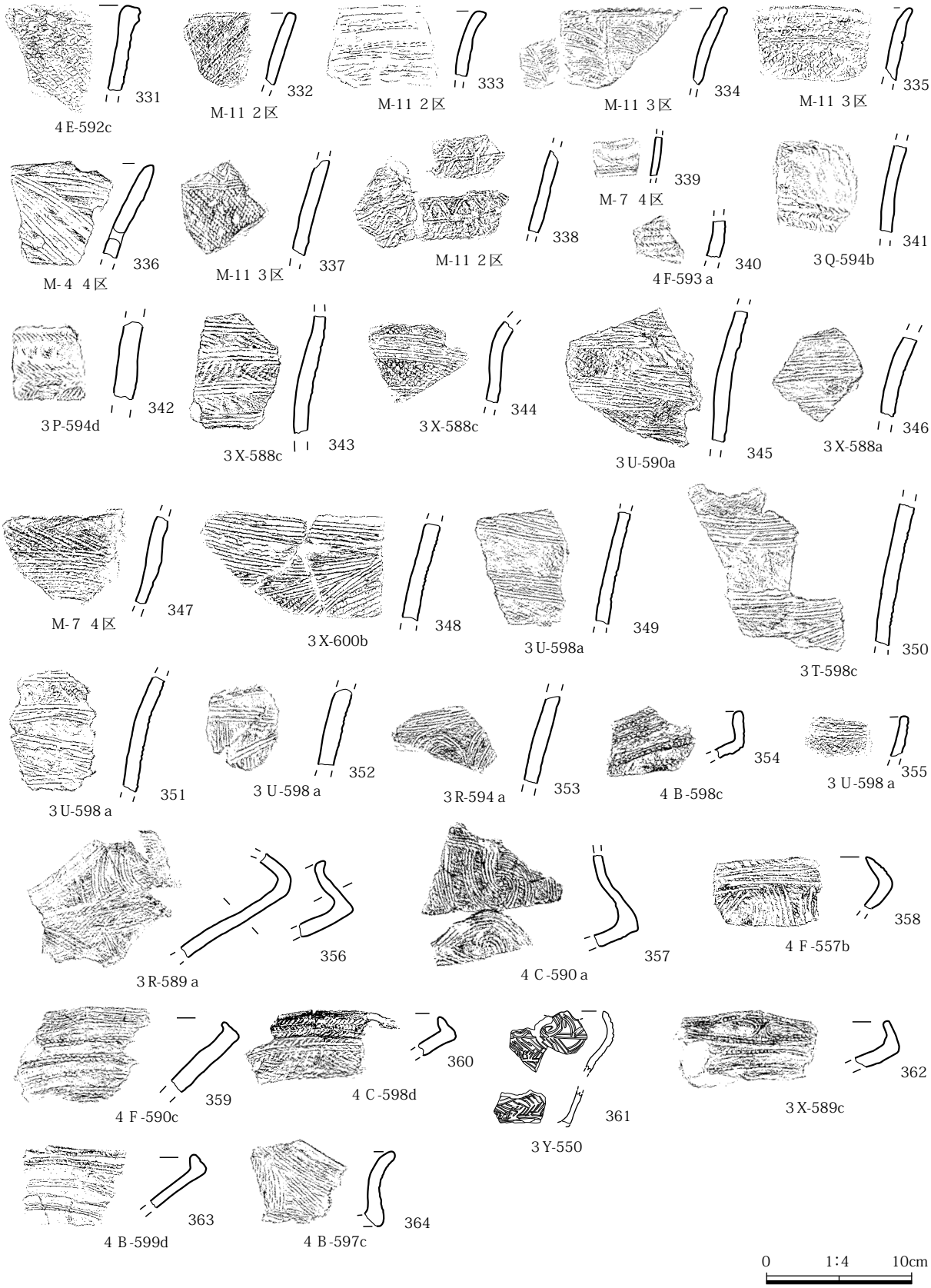




0 1:4 10cm

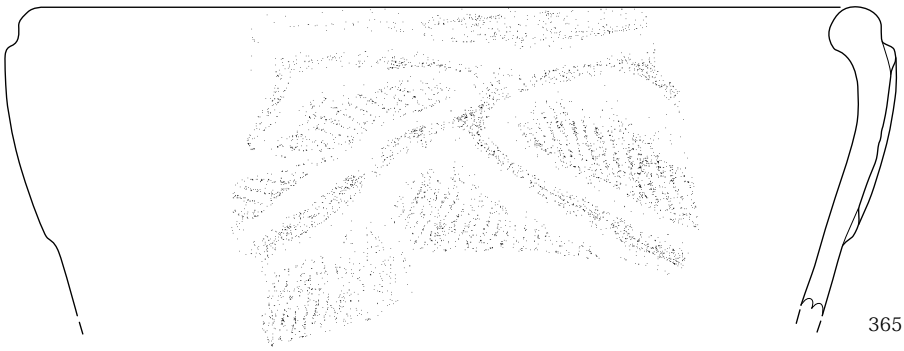
第 476 図　人見東中原遺跡（縄文）土坑・遺構外（早期）出土土器

遺構外(前期)

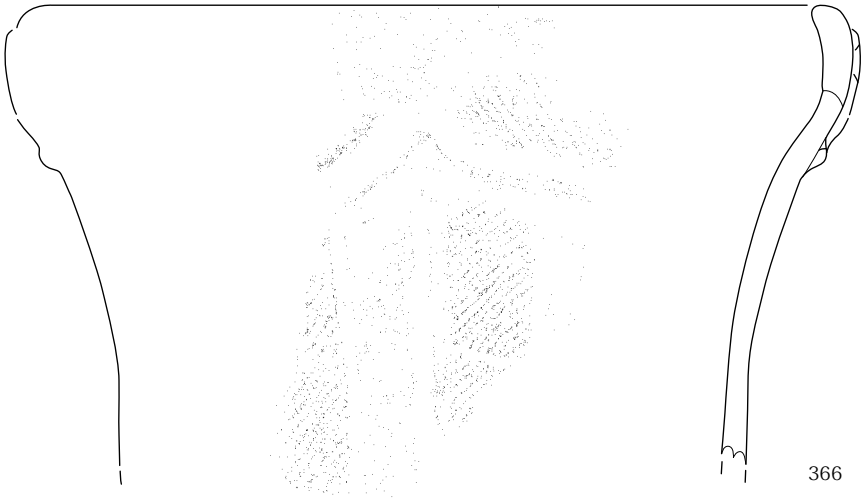


第 477 図　人見東中原遺跡（縄文）遺構外（前期）出土土器

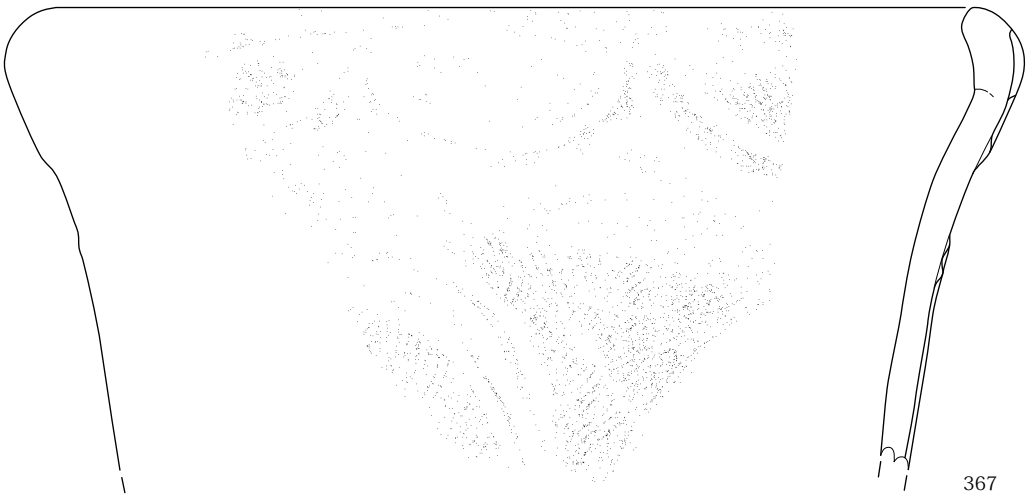
遺構外(中期)



3I-590a



3I-590a

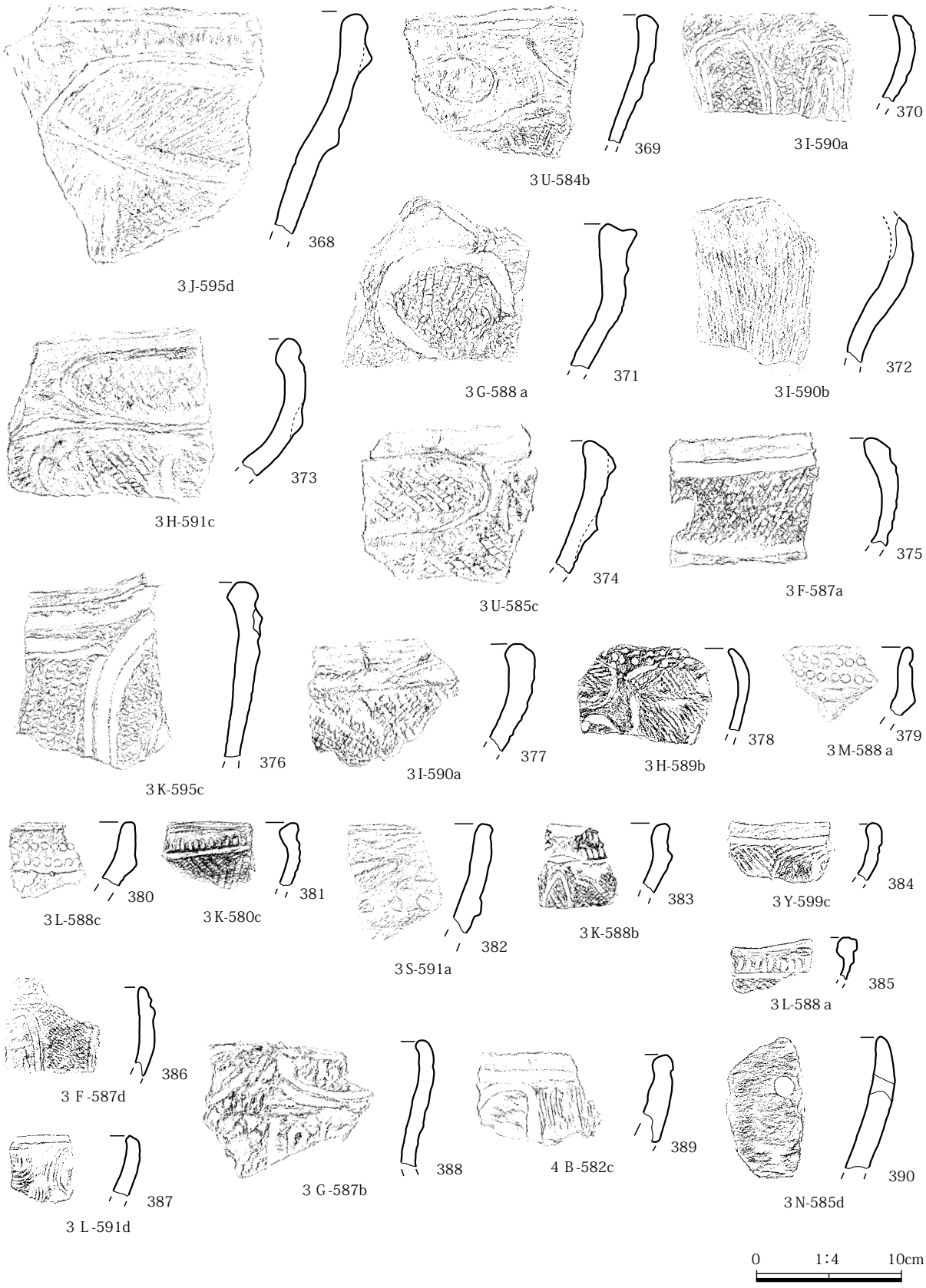


3G-587b №1

0 1:4 10cm

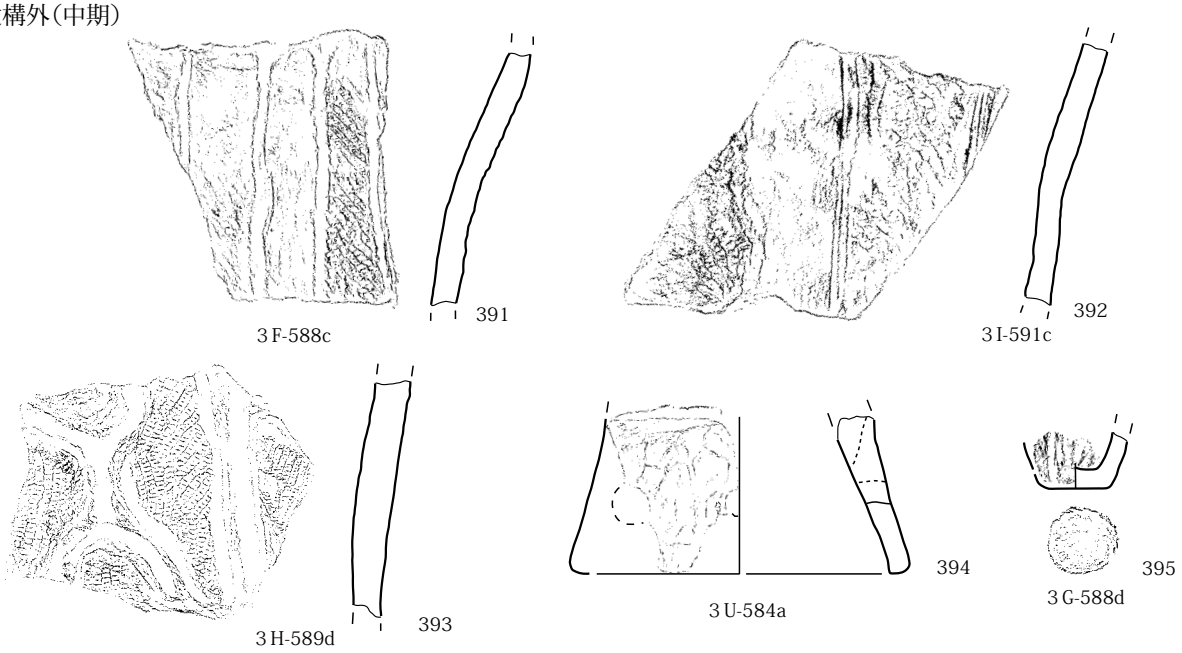
第 478 図　人見東中原遺跡（縄文）遺構外（中期）出土土器（1）

遺構外(中期)

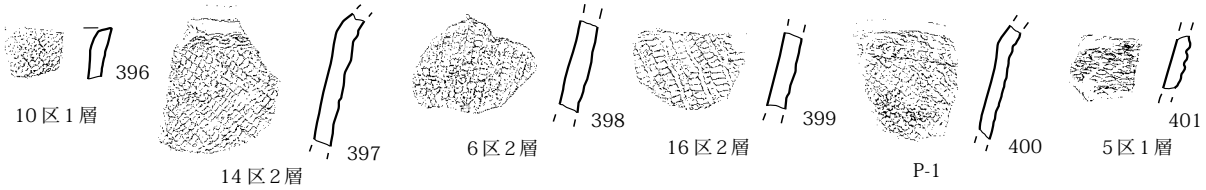


第 479 図　人見東中原遺跡（縄文）遺構外（中期）出土土器（２）

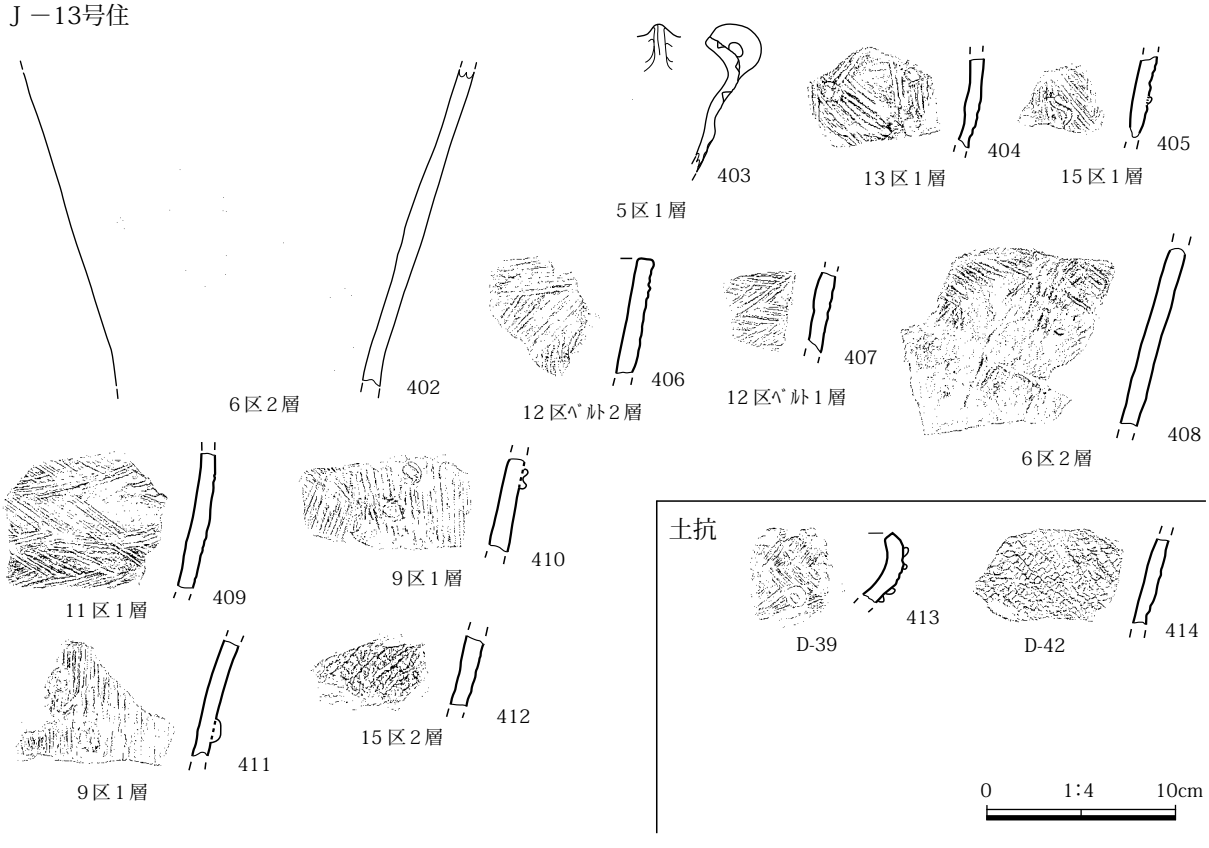
遺構外(中期)



Ｊ－12号住

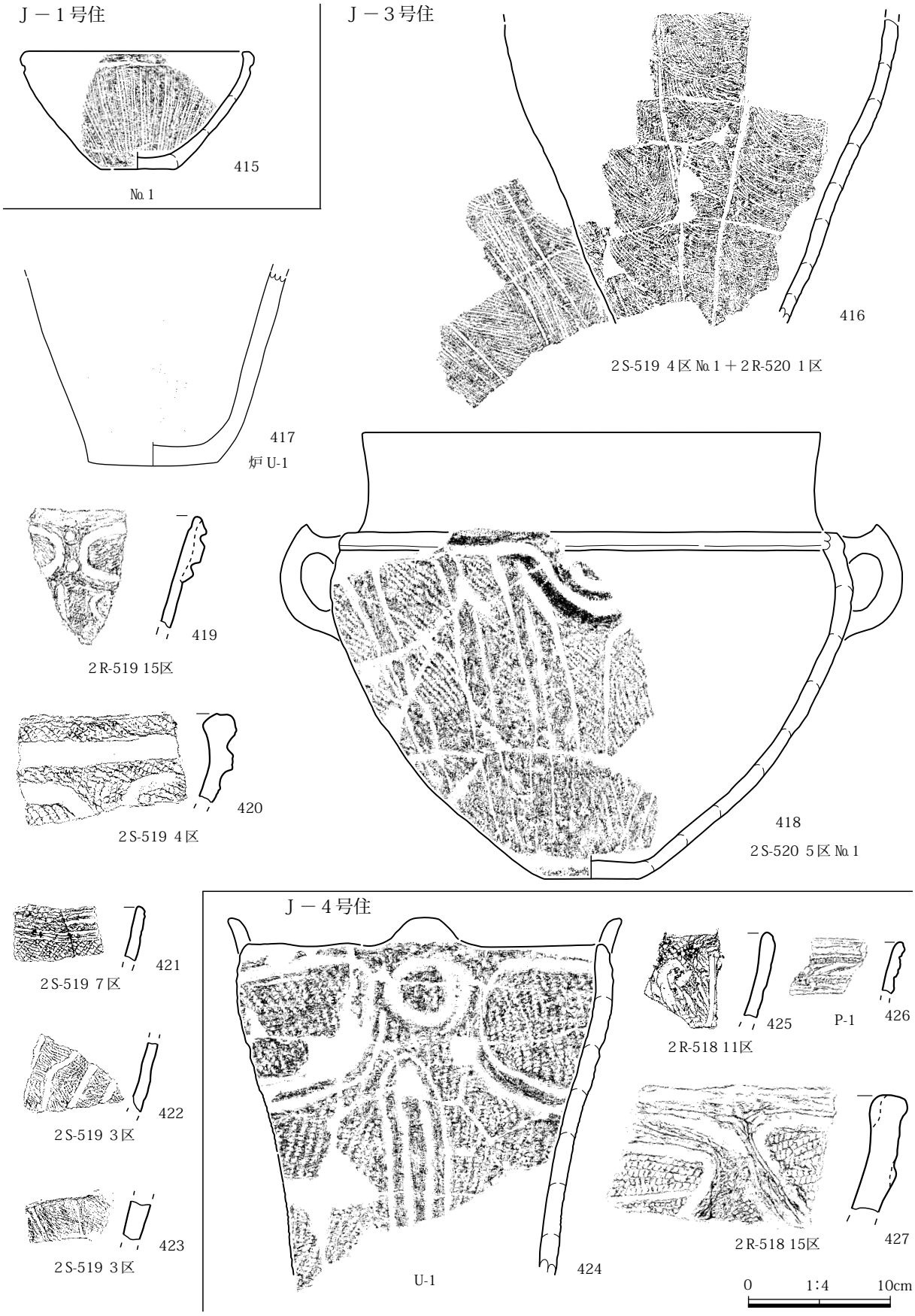


Ｊ－13号住



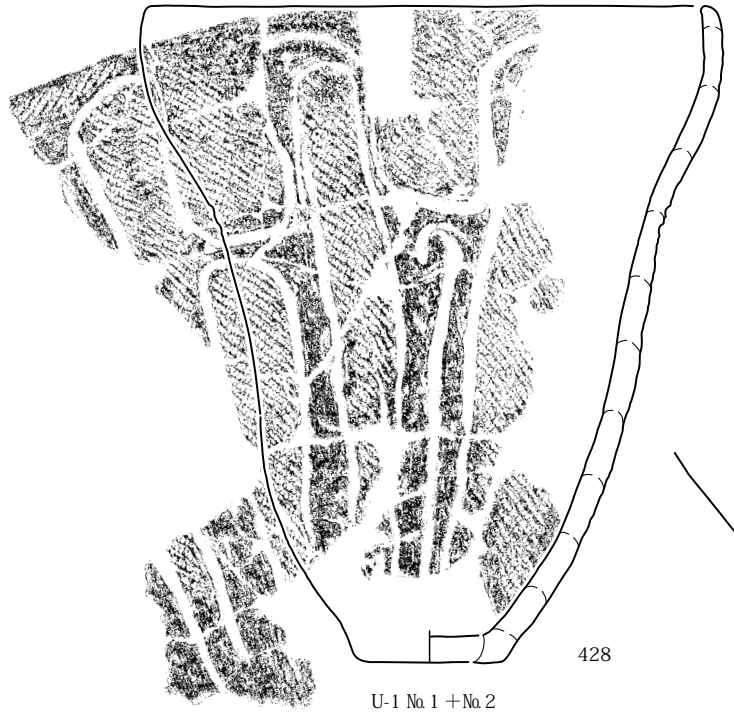
土抗

第 480 図　人見東中原・西中原遺跡（縄文）遺構外（中期）・Ｊ－ 12・13 号住居址・土抗出土土器



第 481 図　人見西中原遺跡（縄文）Ｊ－１・３・４号住居址出土土器

Ｊ－６号住



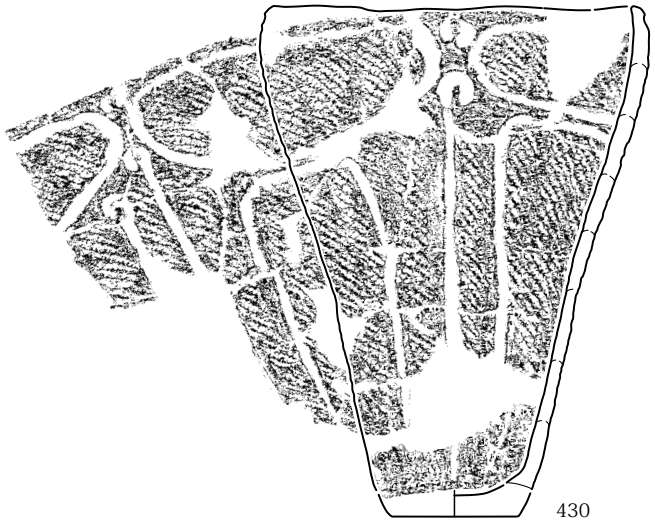
428

U-1 No.1＋No.2

429

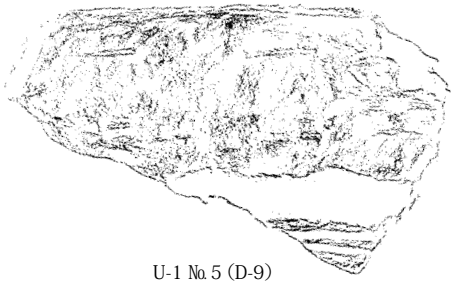
U-1 No.2

Ｊ－７号住



430

U-2



U-1 No.5 (D-9)

431

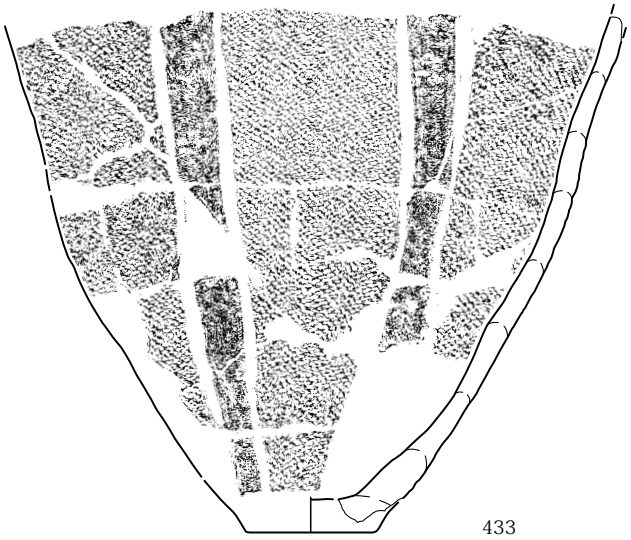
3区1層

432

0　1:4　10cm

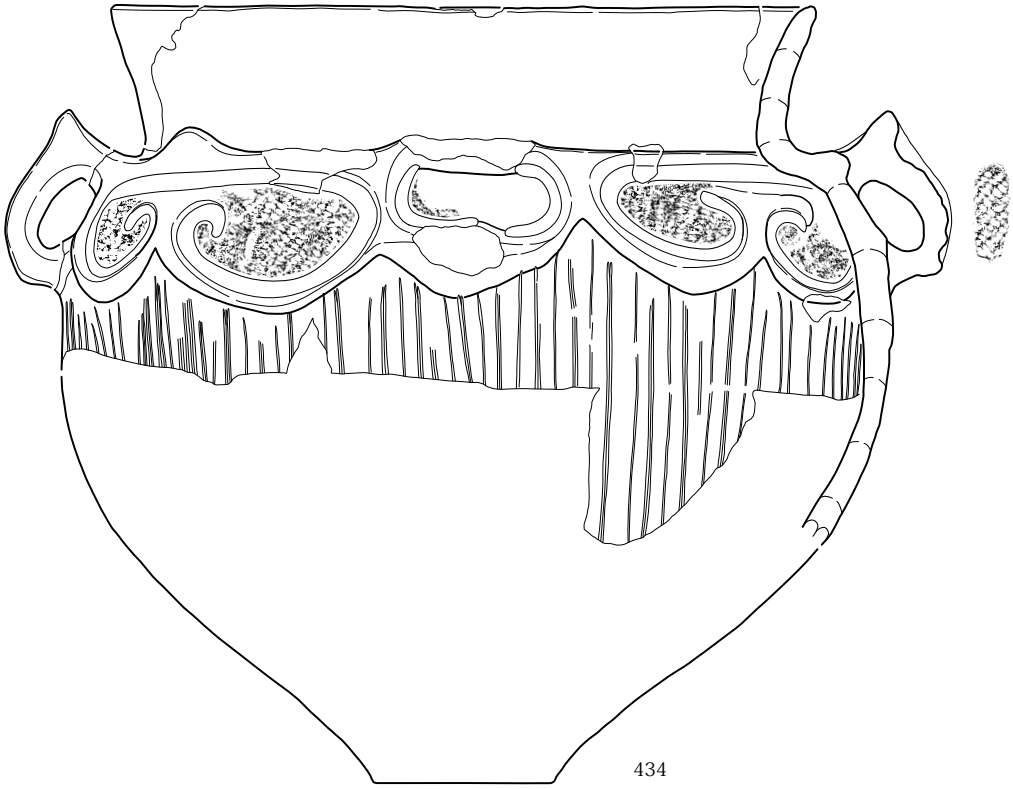
第 482 図　人見西中原遺跡（縄文）Ｊ－６・７号住居址出土土器

Ｊ－７号住



433

U-1



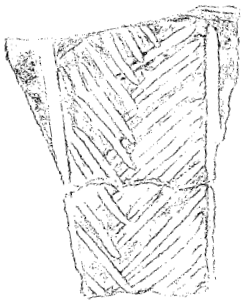
434

U-3

0　1:4　10cm

第 483 図　人見西中原遺跡（縄文）Ｊ－７号住居址出土土器

土抗



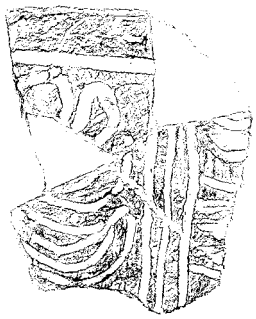
435

3区 D-5

436

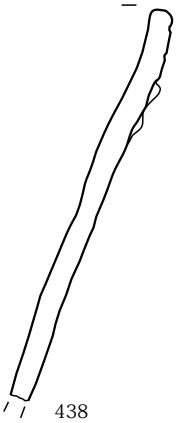
3区 D-8

遺構外



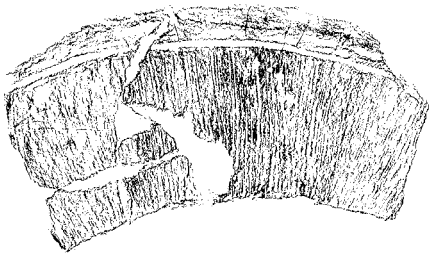
437

2H-508a



438

2E-508 9区・11区・13区



439

2L-527周辺 №1＋2K-524周辺

440

2H-507 1区

441

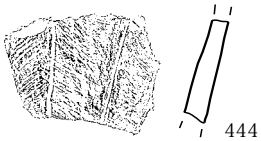
2J-507b

442

2E-508 5区

443

2C-528周辺



444

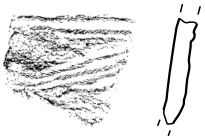
2S-518b

445

2C-510c

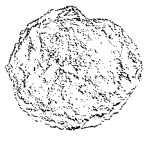
448

2H-508a



446

2R-518 12区



447

2H-508c

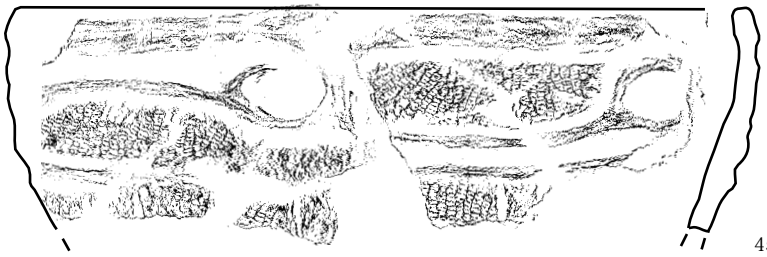
0 1:4 10cm

第 484 図　人見西中原遺跡（縄文）土坑・遺構外出土土器

土抗

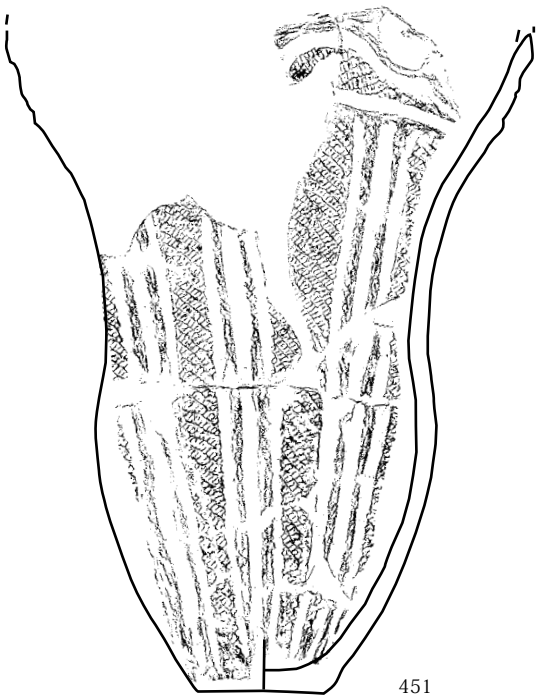
449

D-1 №1



450

D-1 №2

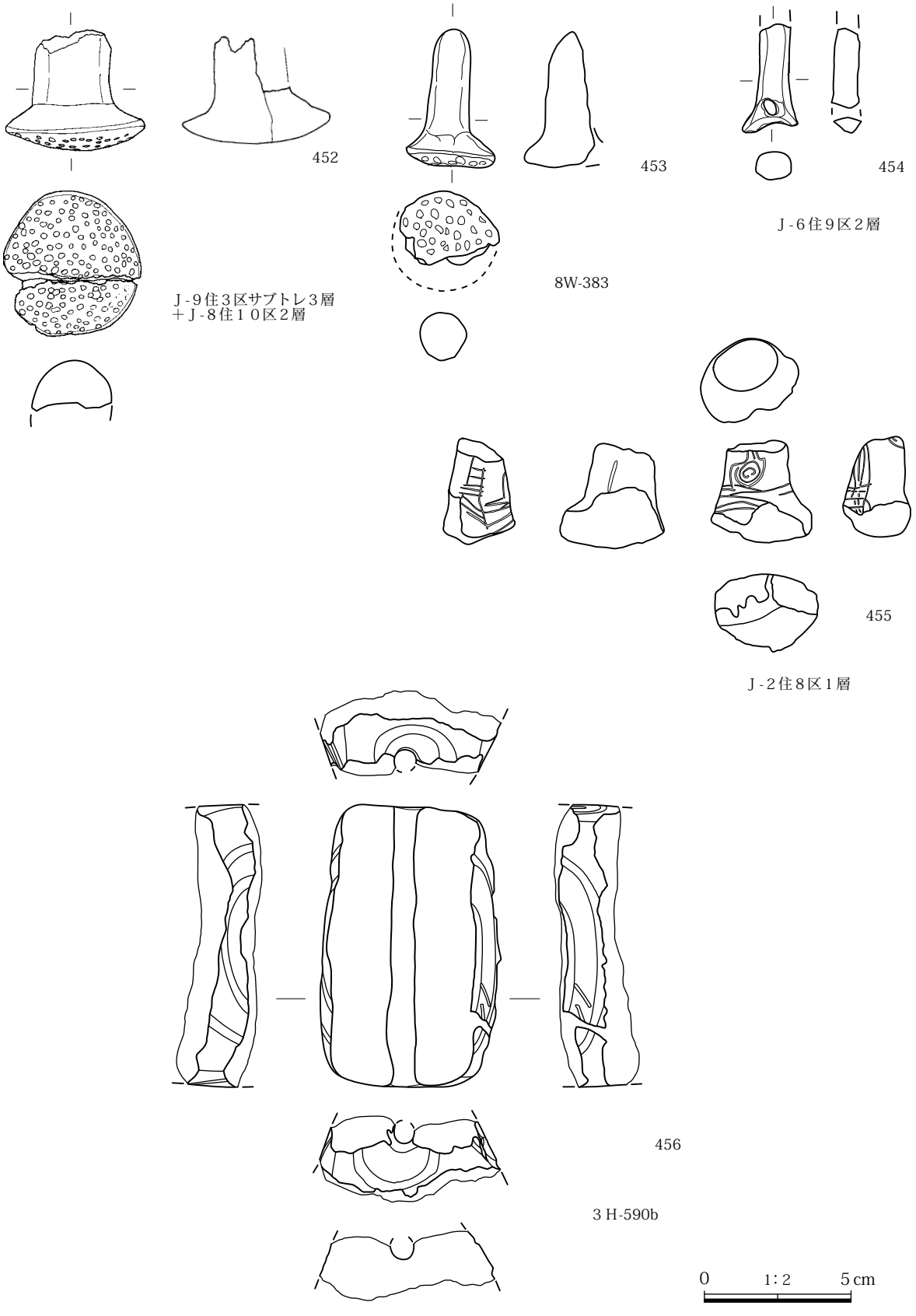


451

D-3

0 1：4 10㎝

第 485 図　人見西向原遺跡（縄文）土坑出土土器



第 486 図　人見東原Ⅱ遺跡・人見枝谷津遺跡（縄文）　出土土製品

（３）縄文石器（第488～530図）

本遺跡群の縄文時代の遺跡は、他時期との遺構、遺物の混在が少なく、帰属時期が推定可能な一括性の高い石器群が検出された。本報告では、各遺跡を一括して中期後半の石器群を中心とする。

＜各遺跡の石器群＞

人見東原Ⅱ遺跡出土の石器（第488～494図、観察表はデータ）

中期後葉の石器群（１～82）。黒曜石の石鏃製作関連遺物が出土した。また、結晶片岩製の有頭石棒、軽石製有孔石製品が出土した。また、住居覆土内で砂岩製石皿と磨石がセットで出土した。

人見西下原遺跡出土の石器（第494図、観察表はデータ）

中期後葉～末葉の石器群（82～89）。Ⅲ形態の打製石斧が出土。

人見枝谷津遺跡出土の石器（第495～506図、観察表はデータ）

中期後葉の石器群（90～262）。黒曜石の石鏃製作関連遺物、緑色岩類の磨製石斧製作関連遺物が出土した。

人見東向原遺跡出土の石器（第507～509図、観察表はデータ）

中期後葉を主体とする後期前半までの石器群（263～298）。緑色岩類の磨製石斧製作関連遺物（接合資料含む）、黒曜石製の有茎石鏃、Ⅲ形態の打製石斧、有溝砥石が出土した。

人見向原遺跡出土の石器（第510図、観察表はデータ）

石匙、結晶片岩製の石皿（使用面が凹み、孔があく）等の前期前葉の石器が出土した（299～306）。時期不明の結晶片岩製の棒状、尖頭状の石器が出土した（307、308）。

人見東中原遺跡出土の石器（第511～525図、観察表はデータ）

中期後葉を主体とし、早期、後期を含む石器群（309～495）。早期では、基部がＵ字形に抉れる石鏃とヘラ状石器、後期以降では、有茎鏃が出土した。中期後葉では、緑色岩類の磨製石斧製作関連遺物、硬質頁岩製の嘴状石器、凸字の石皿、有頭石棒が出土した。

人見西中原遺跡出土の石器（第526～530図、観察表はデータ）

中期後葉を主体とし、前期を含む石器群（496～554）。黒曜石製の縁辺部が鋸歯状の有茎鏃が出土した。黒曜石の原石が、前期、中期の遺構から出土した。

＜各時期の石器＞

早期の石器

人見東中原遺跡のみで、小形石鏃（315・316）、鍬形鏃（317）、片刃・片面加工のヘラ状石器（362）、磨石（386）、断面三角形の棒状礫で側縁が磨滅する特殊磨石（397）が出土した。

前期の石器

人見向原遺跡では、諸磯ｂ式期の石錐（299）、横型の石匙（300）、スクレイパー（301、302）、凹石（303）、窪みが底面まで達し、孔があく石皿（304）、牛伏砂岩製の砥石（305、306）が出土した。人見東中原遺跡では、帰属できる石器は認められなかった。人見西中原遺跡では、有尾式期、諸磯ｃ式期の住居址から、黒曜石原石（507）、石核（509）、スクレイパー（518）、打製石斧（521）、凹石（526、535）、石皿（544）が出土した。

中期の石器

本遺跡群では、人見ほぼ全ての遺跡で加曽利ＥⅢ式期を主体とする石器群が確認された。黒曜石の石鏃製作関連遺物、磨製石斧製作関連遺物、スクレイパーＢ類と打製石斧を主体とする中期的組成を特徴とする石器群が認められた。特殊遺物では、黒曜石製凸基式石鏃、東北産の硬質頁岩製嘴状石器、凸字形石皿、有孔軽石、石棒等が出土した。本時期の石器群の詳細は、別項参照。

後期以降の石器

遺構に伴うものは少なく、単独出土が主体である。石鏃では、凸基式（263、496）、有茎式（138、139、318、319）が出土した。有茎式は、共伴する遺物（土器）が遺跡及びその周辺で確認されていないため、弥生時代前期末～中期初頭の石鏃の可能性もある。打製石斧のⅢ形態（分銅形）の一部（87、88、176、275、361）は、後期前半に帰属する可能性がある。

中期後半の石器群

＜石器器種組成＞

各遺跡での器種組成表は、第47～56表である。器種組成では、Ｂ類石器（スクレイパーと打製石斧）とＣ類石器（磨石・凹石、石皿）といった「中期的石器群」の組成に加え、黒曜石の石鏃製作、磨製石斧の製作が積極的に行われ、他地域の石器（凸基石鏃、嘴状石器、凸形石皿等）の搬入といった特色が認められた。

＜石器石材組成＞

中期後半の石材には、Ⅰ類では黒曜石が主体で、チャート、黒色安山岩は少ない。硬質頁岩は搬入石器のみである。Ⅱ類では、各遺跡で頁岩が主要石材である。剥片石器の石材には、Ａ類石器はⅠ類石材、Ｂ類石器にはⅡ類石器といった明確な選択性が存在する。Ⅲ類では、安山岩が主体である。結晶片岩製も少数組成する。砥石の石材は高崎市（旧吉井町）牛伏山周辺で産出する「牛伏砂岩」が選択される。Ⅳ類では、磨製石斧の石材に緑色岩類が多い。希少石材では、メノウ、白色石英・鉄石英、珪質頁岩、流紋岩、礫岩があるが少ない。

石器石材には、遺跡周辺で採取可能な露頭あるいは河川にある安山岩の近距離在地石材と頁岩、結晶片岩、砂岩等の中距離（20㎞圏内）在地石材、黒曜石を中心とする他地域に産出地のある非在地石材の３石材を石器の使用に応じて適宜選択、入手して石材を消費している。石器製作に適した大きさの石材が容易に獲得できる環境に遺跡は存在する。なお、黒曜石については、産出地と消費地を結ぶ流通経路が存在し、他集団との交易品としての石材である。

＜石器各説＞

Ａ類石器（第487図）

石鏃　全体で100点出土した。凹基無茎式が主体である。中期の石鏃は、左右非対称であり、器体の調整がやや粗雑である。断面は厚い。基部の抉りが深く、両脚が平坦となるのは早期の可能性がある。平基式は、基部が浅めに抉れるもので、非黒曜石製に多い。黒曜石製の凸基式の２点（263、496）は、縁辺が鋸歯状となり、在地ではみられない形態的特徴をもつ。後期以降の可能性がある。石鏃は黒曜石を主体的石材とし、その他石材を黒曜石の補完的石材として器種と石材との選択が認められた。黒曜石製石鏃は小形、非黒曜石製の石鏃は大形となる傾向がみられ、石材による大きさの違いが認められた。

第 47 表　人見東原Ⅱ・西下原遺跡　縄文石器器種組成表

			人見東原Ⅱ遺跡														人見西下原遺跡							
			J－1	J－2	J－3	J－4	J－5	J－6	J－7	J－8	J－9	土坑	ピット	T－1	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	計	J－1	土坑	ピット	T－1	T－2	S－2	ｱﾙｶﾘｸﾞﾘｯﾄ	計
A類	石器類	石鏃				1			1	1	2	1			11	17	1						5	6
		石鏃未成品									1					1								0
		石錐										1			1	2								0
		石匙Ａ類														0								0
		ＲＦＡ								1					1	2				1				1
		ScA					2		1	1	1				3	8	1							1
		楔形石器	1						2	4	7		1		1	16							1	1
		有舌尖頭器														0								0
	剥片類	FLA	5		4	6	3	1	7	44	49	11		4	70	204	16	8	2	1			39	66
	石核原石	石核Ａ類					2								1	3							1	1
		原石Ａ類							1		1		1			3							1	1
		石鏃素材														0								0
B類		打製石斧				1	2	1	2	6	6	4	1		30	53		2					21	23
		石匙Ｂ類													1	1								0
		ＲＦＢ													2	2								
	石器類	ScB	2				2		1	3	2	4	1	1	15	31			1		2		13	16
		小型打斧														0								0
		石槍状														0								0
	剥片類	FLB	17		2	3	1	1	3	17	12	16	7		98	177	3	4	1		2		36	46
	石核原石	石核Ｂ類														0								0
C1類	C１類	凹石	1			1	6			1	2	2			13	26		2					1	3
		石皿	1	1			4	1	2	1	1	6			4	21		2	1			1	1	5
		磨石	1				6		1	1	2	4	1		6	22	1						2	3
		球石														0								0
C2類	C２類	砥石	2				2		1	1	3	2			10	21	1						4	5
		敲石				1									1	2								0
		台石					1				1	2				4						1	1	2
D類	石器類	棒状礫														0								0
		棒レキ										1			1	2								0
		石棒										1				1								0
		丸石							1							1								
		多孔石								1						1								0
	剥片類	ＦＬＤ													1	1								0
		多孔石破片														0								0
E類	石器類	磨製石斧	2					1		1	1	2			8	15		2					3	5
		磨斧未成品														0								0
	剥片類	ＦＬＥ	3		1					1		1			39	45							3	3
	石核原石	石核Ｅ類														0								0
		未成品														0								0
		未成品分割														0								0
		素材														0								0
		素材分割														0								0
		磨斧原石														0								0
		磨斧素材														0								0
F類		F類石製品					1									1								0
個数合計			35	1	7	13	32	5	23	84	91	58	12	5	317	683	23	20	5	2	4	2	132	188

第 48 表　人見枝谷津・東向原・向原遺跡　縄文石器器種組成表

			人見枝谷津遺跡																		人見東向原遺跡					人見向原遺跡				
系列		器種	J－1	J－2	J－3	J－4	J－5	J－6	J－7	J－8	J－9	J－10	J－11	J－12	J－13	J－14	H住	土坑	ｹﾞﾘｯﾄ	小計	J－1	J－2	H住	ｹﾞﾘｯﾄ	計	J－1	土坑	遺構外	計
A類	石器類	石鏃							1	5				1			12		20	39			1	10	11				0
		石鏃未成品								2										2					0				0
		石鏃素材					1													1			1		1				0
		石錐						1									1		3	5					0				0
		石匙Ａ類															1			1			1		1				0
		ScA				4				9							2	1	5	21					0				0
		楔形石器					1			6							5	1		13			1		1				0
	剥片類	FLA		5	10	11	25	9		81	4	11		13	11	1	74	4	180	439		1	10	8	19				0
	石核原石	石核Ａ類								2										2			1	2	3				0
		原石Ａ類														1			1	2					0				0
B類	石器類	打製石斧		1	1			8		37	6	5		1	5		39	3	52	158	2	3	9	18	32				0
		石匙Ｂ類									1						1	1		3					0	1			1
		ScB	2	1		1		11		26	4	1	1	3	2		16	3	28	99	1	2	5	4	12	3			3
		小型打斧												1						1					0				0
		石槍状																		0							1	1	2
	剥片類	FLB	2		6	20	5	29	1	179	6	17	1	20	6	1	82	6	133	514	4	12	30	29	75				0
	石核原石																			0			2		2				0
C1類	C１類	凹石				1		1		10	1	1	1		1		4	2	6	28		4	1	2	7	1			1
		石皿				2	4		5	6	1	2	2	1	2		2	2	2	31		3			3	1			1
		磨石				1	1	2	1	10					1		7	4	5	32		2	1	2	5				0
		球石															1			1					0				0
C2類	C２類	砥石			2				1	2	1		1		1		1		9	18	1	2	2	2	7	2			2
		敲石						1	1	3		1		1				2	1	10	1	2			3				0
		台石								4	1							1		6					0				0
D類	石器類	棒状礫								1									1	2					0				0
		棒レキ		1															1	2					0				0

			人見枝谷津遺跡																	人見東向原遺跡					人見向原遺跡			
系列		器種	J－1	J－2	J－3	J－4	J－5	J－6	J－7	J－8	J－9	J－10	J－11	J－12	J－13	J－14	H住	土抗	ｸﾞﾘｯﾄ	小計	J－1	J－2	H住	ｸﾞﾘｯﾄ	計	J－1	土坑	遺構外	計
D類	石器類	石棒																1		1					0				0
		多孔石																1	1	2					0				0
	剥片類	ＦＬＤ																		0		1	2		3				0
		多孔石破片								1										1					0				0
E類	石器類	磨製石斧													1	1	5		8	15	1	4	1		6				0
		磨斧未成品									1						1		1	3		5	1	3	9				0
		器種不明								1										1					0				0
	剥片類	ＦＬＥ	2		7	5	4	9	1	19	1			4	1	1	18	2	41	115	1	10	13	14	38				0
	磨斧関連	石核Ｅ類								1										1					0				0
		未成品						1			1			1			1			4					0				0
		未成品分割						1												1					0				0
		素材																1		1					0				0
		素材分割								1						1				2					0				0
		磨斧原石																	1	1					0				0
		磨斧素材															5		2	7		4	1	1	6				0
		磨斧素材分割								1										1					0				0
F類	剥片類	ＦＬＦ																	3	3					0				0
	石核原石	原石						1												1					0				0
個数合計			6	8	26	45	41	74	11	407	28	38	6	46	31	6	278	35	504	1590	11	55	83	95	244	8	1	1	10

第 49 表　人見東中原・西中原遺跡　縄文石器器種組成表

			人見東中原遺跡																人見西中原遺跡								
			J－1	J－2	J－3	J－4	J－5	J－6	J－7	J－8	J－9	J－10	J－11	J－12	J－13	土抗	ｸﾞﾘｯﾄ	小計	J－1	J－3	J－4	J－5	J－6	J－7	土抗	ｸﾞﾘｯﾄ	小計
A類	石器類	石鏃	1	1	1					1						1	18	23							1	3	4
		石鏃未成品															1	1								3	3
		石錐														1	2	3									0
		石匙Ａ類																0									0
		ＲＦＡ																0				1					1
		ScA					1		1	1					1		6	10					1			8	9
		楔形石器					1										3	4			1					1	2
	剥片類	FLA	4	3	12		8	3	2	16			2	3	12	4	224	293			1	2	2		1	45	51
	石核原石	石核Ａ類			1										1		3	5			1		1			5	7
		原石Ａ類													1		6	7								1	1
		石鏃素材																0									0
B類	石器類	打製石斧	5	3	4		5	2	1	1		1	2		1		32	57		2	2	1	6	2		19	32
		打斧未成品																0								3	3
		石匙Ｂ類															1	1									0
		石槍状石器															1	1									0
		ヘラ状石器															1	1									0
		ＲＦＢ															1	1								1	1
		ScB	4	3	2		2	1	2	2				2			47	65		1		1	2	1		21	26
		小型打斧																0									0
	剥片類	FLB	14	5	4	3	24	11	2	2	1	2	4	6	2		194	274	1	6	9	5	2		5	76	104
	石核原石	石核Ｂ類	1														4	5									0
C１類	Ｃ１類	凹石	4	6	1		1		1	1			7	2			5	28		1	3		3	1	1	1	10
		石皿	2	2	11		1		2				4		1	4	5	32		1	1		1			1	4
		磨石	1	4	2		2		3				4	1		1	26	44			1				4	7	12
		ミガキ石					1											1									0
		球石					1						1					2				1	1				2
C２類	Ｃ２類	砥石		2	1		1						1	1			2	8									0
		敲石	2	2	7				1	1			1				9	23		1	1		1				3
		台石					1											1									0
D類	石器類	棒状礫																0									0
		棒状石														1		1									0
		石棒			1								2					3									0
		丸石								1								1			1						1
		多孔石		2	2											1	2	7						1		1	2
	剥片類	ＦＬＤ																0									0
		多孔石破片																0									0
E類	石器類	磨製石斧	1		6		1			1							10	19			1		1			6	8
		磨斧未成品		2	2				1								6	11				1			1	2	4
		磨斧転用			1					1								2									0
	剥片類	ＦＬＥ	7	4	10		1		1	1						1	67	92			2	2				3	7
	石核原石	石核Ｅ類																0								1	1
		原石Ｅ類	2	2	2												2	8									0
		別器種																0									0
		未成品																0									0
		未成品分割																0									0
		素材																0									0
		素材分割																0									0
		磨斧原石																0									0
		磨斧素材																0									0
		磨斧素材分割																0									0
F類		Ｆ類石製品															1	1									0
個数合計			48	41	70	3	51	17	17	29	1	3	28	15	19	14	679	1035	1	12	24	14	21	5	13	208	298

第 50 表　人見東原Ⅱ遺跡　石材組成表

遺構名		黒曜石	チャート	黒色安山岩	硬質頁岩	頁岩	安山岩	牛伏砂岩	結晶片岩	緑色岩類	石英	軽石	メノウ	不明
Ｊ－１	点数	5				15	7	3		5				
	重量（g）	5.1				244.30	891.20	11002.80		1412.90				
Ｊ－２	点数						1							
	重量（g）						711.40							
Ｊ－３	点数	4				1	1			1				
	重量（g）	3.30				6.00	4.60			8.80				
Ｊ－４	点数	7				2	3			1				
	重量（g）	2.20				22.70	565.00			60.20				
Ｊ－５	点数	6				5	15	4		1		1		
	重量（g）	16.40				255.80	18114.20	1039.90		96.40		24.50		
Ｊ－６	点数	1				1	1	1						1
	重量（g）	4.9				14.00	5500.00	42.80						1.6
Ｊ－７	点数	12				5	5	1						
	重量（g）	52.30				180.40	41633.70	89.90						
Ｊ－８	点数	48		3		19	10	1		2				1
	重量（g）	56.50		22.8		291.10	12395.20	84.40		356.70				128.6
Ｊ－９	点数	59		1		12	15	3		1				
	重量（g）	63.4		42.7		478.70	8342.50	467.20		8.00				
土抗	点数	10	1	1		20	20	2	1	3				
	重量（g）	15.90	8.50	0.80		549.30	31371.50	227.10	3170.60	461.00				
ﾋﾟｯﾄ	点数	1				9	1						1	
	重量（g）	2.80				131.90	359.90						5.20	
Ｔ－１	点数	3		1		1								
	重量（g）	7.20		12.10		74.90								
A 区ｸﾞﾘｯﾄ	点数	81	3	3		111	60	8	2	49				
	重量（g）	103.20	8.70	77.90		3273.30	15926.90	556.40	1957.60	1840.40				
合計	点数	237	4	9	0	201	139	23	3	63	0	1	1	2
	重量（g）	333.20	17.20	156.30	0.00	5522.40	135816.10	13510.50	5128.20	4244.40	0.00	24.50	5.20	130.20

第 51 表　人見枝谷津遺跡　石材組成表

遺構名		黒曜石	チャート	黒色安山岩	硬質頁岩	頁岩	安山岩	牛伏砂岩	結晶片岩	緑色岩類	石英	軽石	メノウ
Ｊ－１	点数					2	2			2			
	重量（g）					98.20	13.70			16.20			
Ｊ－２	点数	5				1	1		1				
	重量（g）	16.9				92.30	166.60		1281.00				
Ｊ－３	点数	10				5	2	2		7			
	重量（g）	13.6				42.40	39.8	405.00		60.6			
Ｊ－４	点数	14		1		15	9	1		5			
	重量（g）	16.70		8.60		179.00	14996.90	1355.50		109.30			
Ｊ－５	点数	27				4	4	2		4			
	重量（g）	17.10				33.30	17886.50	1583.50		94.60			
Ｊ－６	点数	10	1			37	14			11	1		
	重量（g）	9.00	3.10			1277.40	2256.80			1488.30	347.90		
Ｊ－７	点数	1				1	6	2		1			
	重量（g）	1.50				8.60	37452.10	1475.70		18.20			
Ｊ－８	点数	101	1	3		185	90	2		25			
	重量（g）	155.40	1.10	124.70		4044.90	31757.61	639.90		2663.80			
Ｊ－９	点数	3	1			14	6	1		3			
	重量（g）	2.50	1.90			736.40	7433.50	83.20		501.30			
Ｊ－10	点数	11				18	8			1			
	重量（g）	13.7				305.50	5806.70			154.10			
Ｊ－11	点数					2	3	1					
	重量（g）					33.80	4812.55	74.80					
Ｊ－12	点数	12	2			22	3		1	6			
	重量（g）	7.6	9.70			485.10	11922.70		3.70	281.70			
Ｊ－13	点数	10	1			9	7	1		3			
	重量（g）	6.05	0.40			346.10	10363.18	1790.00		138.80			
Ｊ－14	点数	1				2				3			
	重量（g）	9.50				56.70				508.80			
H 住	点数	87	4	1		123	28	3	1	30			1
	重量（g）	131.05	12.70	3.60		4202.30	6581.80	933.80	616.30	1763.60			2.10
土抗	点数	5				11	13		2	4			
	重量（g）	4.30				522.40	110164.00		222.0	761.70			
ｸﾞﾘｯﾄ	点数	191	6	1	4	191	38	10	3	57	2	1	
	重量（g）	212.40	59.90	3.10	36.40	7291.90	9678.20	1169.50	1333.40	4228.20	9.30	11.00	
合計	点数	488	16	6	4	642	234	25	8	162	3	1	1
	重量（g）	617.30	88.80	140.00	36.40	19756.30	271332.64	9510.90	3456.40	12789.20	357.20	11.00	2.10

第 52 表　人見西下原遺跡　石材組成表

遺構名		黒曜石	チャート	黒色安山岩	硬質頁岩	頁岩	安山岩	牛伏砂岩	結晶片岩	緑色岩類	めのう
Ｊ－１	点数	17	1			2	2	1			
	重量（g）	7.6	1.3			65.80	19.90	129.10			
土抗	点数	8				5	5			2	
	重量（g）	1.50				200.50	1749.40			570.40	
ﾋﾟｯﾄ	点数	2				2	1.00				
	重量（g）	2.3				46.80	273.40				
Ｔ－１	点数	2									
	重量（g）	10.20									
Ｔ－２	点数					3	1				
	重量（g）					68.60	24.70				
Ｓ－２	点数						2				
	重量（g）						51100.00				
A 区ｸﾞﾘｯﾄ	点数	43	2		1	59	15	3	2	6	1
	重量（g）	26.70	5.40		11.80	2954.10	3601.60	207.20	232.40	509.20	3.3
合計	点数	72	3	0	1	71	26	4	2	8	1
	重量（g）	48.30	6.70	0.00	11.80	3335.80	56769.00	336.30	232.40	1079.60	3.30

第 53 表　人見東向原遺跡　石材組成表

遺構名		黒曜石	チャート	黒色安山岩	硬質頁岩	頁岩	安山岩	牛伏砂岩	結晶片岩	緑色岩類
Ｊ－１	点数					6	2	1		2
	重量（g）					207.10	385.80	54.50		182.00
Ｊ－２	点数	1				16	9	3	2	24
	重量（g）	2.90				441.50	5164.00	458.00	216.90	7844.40
H 住	点数	14	1	1		42	6	2	2	15
	重量（g）	33.90	0.80	20.30		2322.60	1004.90	358.60	32.80	1691.60
ｸﾞﾘｯﾄ	点数	13	6	1		45	8	2		20
	重量（g）	35.70	6.50	17.70		1952.40	1130.00	61.90		1839.20
合計	点数	28	7	2	0	109	25	8	4	61
	重量（g）	72.50	7.30	38.00	0.00	4923.60	7684.70	933.00	249.70	11557.20

第 54 表　人見向原遺跡　石材組成表

遺構名		頁岩	安山岩	牛伏砂岩	結晶片岩
Ｊ－１	点数	4	1	2	1
	重量（g）	118.70	398.10	141.40	4168.30
土抗	点数				1
	重量（g）				38.40
遺構外	点数				1
	重量（g）				7.80
合計	点数	4	1	2	3
	重量（g）	118.70	398.10	141.40	4214.50

第 55 表　人見東中原遺跡　石材組成表

遺構名		黒曜石	チャート	黒色安山岩	硬質頁岩	頁岩	安山岩	牛伏砂岩	結晶片岩	緑色岩類	鉄石英	メノウ	珪 Sh	流紋岩	緑色片岩
Ｊ－１	点数	4		1		19	10			14					
	重量（g）	8.30		55.10		895.20	20616.10			3219.90					
Ｊ－２	点数	4				9	15	2		11					
	重量（g）	1.90				333.50	45082.60	962.20		4299.00					
Ｊ－３	点数	13				11	9	6	3	25			1	1	1
	重量（g）	30.60				1132.80	73879.90	11117.50	6299.90	7011.70			22.20	1429.80	6300.00
Ｊ－４	点数					3									
	重量（g）					28.20									
Ｊ－５	点数	7		2		29	8	1		2			1	1	
	重量（g）	7.60		76.80		637.50	14842.00	32.10		40.80			5.00	77.50	
Ｊ－６	点数	2	1			11	3								
	重量（g）	4.60	4.30			186.80	159.00								
Ｊ－７	点数	2		1		4	7			3					
	重量（g）	0.60		51.20		226.40	24364.30			1165.60					
Ｊ－８	点数	17				4	2			4			1	1	
	重量（g）	55.10				127.20	315.10			855.30			84.90	882.90	
Ｊ－９	点数					1									
	重量（g）					69.50									
Ｊ－10	点数					2	1								
	重量（g）					96.00	97.20								
Ｊ－11	点数			1		6	16	1	2	1	1				
	重量（g）			17.10		313.50	26483.00	98.40	692.80	265.60	12.60				
Ｊ－12	点数	3				8	3	1							
	重量（g）	1.10				278.40	906.20	64.70							
Ｊ－13	点数	15				3	1								
	重量（g）	71.90				111.10	23200.00								
土抗	点数	6					7			1					
	重量（g）	14.60					44140.40			60.00					
ｸﾞﾘｯﾄ	点数	146	13	9	3	259	58	6	3	92	2	1	1	1	
	重量（g）	419.00	42.60	456.20	43.20	10814.80	77298.30	1670.70	8442.00	6173.60	47.20	61.30	3.50	224.00	
合計	点数	201	14	14	3	358	136	16	8	153	3	1	4	4	1
	重量（g）	542.30	46.90	656.40	43.20	14861.40	327277.90	13880.90	15434.70	23091.50	59.80	61.30	115.60	2614.20	6300.00

第 56 表　人見西中原遺跡　石材組成表

		黒曜石	チャート	黒色安山岩	硬質頁岩	頁岩	安山岩	牛伏砂岩	結晶片岩	緑色岩類	メノウ	珪 Sh	蛇紋岩	レキ岩
Ｊ－１	点数					1								
	重量（g）					7.40								
Ｊ－３	点数					7	2	1	1	1				
	重量（g）					472.40	197.40	8400.0	608.60	253.20				
Ｊ－４	点数	1		1		10	6		1	4	1			
	重量（g）	10.00		35.00		528.60	2404.20		5263.70	431.60	1.60			
Ｊ－５	点数		1	2		7	1			3				
	重量（g）		1.7	41.20		203.80	91.40			1166.20				
Ｊ－６	点数	3				6	8	1		2	1			
	重量（g）	60.30				703.80	2518.90	286.80		315.20	6.50			
Ｊ－７	点数					1		1	1	1				1
	重量（g）					72.00		330.00	4497.40	46.90				152.70
土抗	点数	2				5	5			1				
	重量（g）	2.60				75.50	2008.50			235.80				
ｸﾞﾘｯﾄ	点数	50	2	10	1	106	21	1	1	12	2	1	1	
	重量（g）	222.10	13.50	162.70	99.90	3994.80	8904.10	123.10	3996.00	1468.90	44.40	35.40	9.70	
合計	点数	56	3	13	1	143	43	4	4	24	4	1	1	1
	重量（g）	295.00	15.20	238.90	99.90	6058.30	16124.50	739.90	14365.70	3917.80	52.50	35.40	9.70	152.70

有茎式は、黒曜石３点、非黒曜石１点である。晩期以降の東海系に多くみられる「飛行機鏃」（318）といった特異な形態がある。有茎式は、縄文時代晩期から弥生時代中期と推定される。

黒曜石石器群（第487・488・495図）　人見東原Ⅱ遺跡、人見枝谷津遺跡では、石鏃、未成品、楔形石器（両極剥片）、素材剥片、調整剥片、石核・原石といった石鏃製作工程を追うことのできる一括資料が住居址覆土から出土した。原石は５㎝程度の大きさで、両極技法によって楔状剥片素材、同時剥離する三角形剥片素材を作出し、石鏃素材とする。素材の大きさは長さ２～３㎝、幅１～２㎝に集中し、その範囲に石鏃の大きさである長さ1.5～2.5㎝、幅１～1.5㎝が収まる。長さ２㎝以上の縦長剥片等で少数は、スクレイパー素材へ転用される。素材への調整は、両面押圧剥離を施す。素材片側の厚み除去しきれないため、脚部が非対称となり、結果的に長さが異なる。原石・石核は小形であるのが特徴で、楔状、ズリ状、残核状に分けられる。黒曜石は、黒色透明で不純物が少ない石材である。産地分析により、長野県星ヶ塔産が主体で、同県小深沢産が含まれる傾向が認められた。各遺跡同質の石材が選択されていることから、同一産出地の石材入手システムの存在が考えられる。

嘴状石器　人見中原遺跡の調査排土置き場から１点（327）採集された。硬質頁岩製で、精緻な両面押圧剥離調整が施されている。形状は非対称の嘴状である。在地にはない形態と石材（茶褐色）により、東北地方からの搬入品と考えられる。

石錐　黒曜石製は石鏃素材を使用している。石鏃同様、押圧剥離調整が尖端部を中心に施される。

楔形石器（非黒曜石）　頁岩、安山岩で硬質の石材を使用した断面レンズ状となる形態で、両端に微細剥離痕と潰れが観察される。

スクレイパーＡ類　黒曜石のものは、石鏃素材としたものが多く、他石材では不定形剥片を素材としたものが主体である。二次加工を施すもの（Ⅰ・Ⅱ形態）は少なく、素材の形状を生かした鋭利な縁辺部を刃部とするⅢ形態が多い。これは、全遺跡に共通する。少数の形態では、厚手素材で両面加工、先端が尖る石槍状（326）、両面加工（110、324他）、片面加工（328、500、501他）がある。110は、押圧剥離による精緻な両面加工を施したもので石匙の可能性がある。

B類石器

石匙B　大形素材を直接打撃によって調整を施すものが主体である。横型（27、142、143）、縦型（334）に分類される。前期と比較して中期は、粗雑な調整で整形する。

スクレイパーB類　不定形剥片を素材とする一群と横長剥片を素材とする一群（横刃形石器の素材）に大別できる。両群の共通点は、直接打撃による二次加工が主体、素材の形状を生かした調整が施され、定型的なスクレイパーの製作は極端に少ない。一次剥離による自然面を残す素材が多い等があげられる。横刃形石器は、中期の特徴的器種であることから、本遺跡群においても多数が組成している。石材は、頁岩系が多く、安山岩系が少数、その他石材は皆無に等しい。

打製石斧　両刃のⅡ形態が主体的である。片刃はない。平面形態は両側縁が平行あるいはやや内湾する。調整加工は、側縁部に対して垂直に叩くことによって潰れ状の剥離を繰り返すことによって装着部の幅を調節している。刃部（刃部が大きく開く、うちわ形）と基部（尖る）が部位的に明確に分かれており、装着部分がやや内湾する点で、Ⅲ形態（両端が刃部となる）と区別できる。また、剥片素材のものは、側縁部を対象とする二次加工が施される点で横刃形石器との技術に共通性がみられる。刃部には、剥離面が摩滅した摩耗痕が観察された。人見西下原遺跡のⅢ形態（88）は、結晶片岩製の板状素材としているが、調整による刃部は形成されていないことから、実用品ではない可能性がある。打製石斧の素材には、片面に自然面を残す大形横長の一次剥片と両面とも剥離面で覆われた二次剥片に分けられる。石材は、頁岩系、安山岩系が選択されているが、石材による形態差、技術差は少ない。早期のヘラ状石器（362）は、片刃で、断面半月状の半両面加工が施されている。

B類の石器製作（第487図）

B類の石器製作は、製作工程が一体化したスクレイパーと打製石斧が主体的器種となり、その他器種は、両者の製作延長線上で製作される傾向がある。打製石斧は、大形原石から剥離された自然面を残す大形剥片を素材とする。スクレイパーには、打製石斧の素材である大形剥片あるいは調整段階で作出された中小サイズの剥片が充てられる。打製石斧の調整は、直接打撃による両面調整と縁辺部への垂直打撃による敲打調整を併用して整形する。スクレイパーは、素材の形状でほぼ形態が決定するもので、直接打撃による調整・形を変える整形は少なく、素材の形状を生かした、最小限の調整を施すものが多い。ただし、打製石斧と大形スクレイパーの製作は、素材の搬入から開始し、原石獲得・素材生産は別のところで行われている。また、中小のスクレイパーの素材も剥片類を搬入しており、遺跡内での同一石材の消費（剥片生産）は認められない。これは、剥片の石材がほとんど単独母岩であることから裏付けられる。石器製作は、器種製作の二次加工を中心としており、製作工程が遺跡内で完結していない。

B類の石材は、頁岩と安山岩に限定される。両石材は、ともに在地石材（碓氷川及び遺跡周辺）で目的とする器種の大きさに適した原石を確保できる。

C１類石器

安山岩の楕円礫を素材とした礫面に使用痕が観察される礫石器である。凹石と磨石の両者には、用途に応じて形状選択が強くはたらく器種であるため明確な区別はない。両器種は、礫面に一点に集中した凹みの有無、磨り面の有無で分類した。石皿は、凹石あるいは磨石とセット関係をもつ石器である。C１類は主に食物加工具の一群として分類される。

凹石　片面あるいは両面に小さな凹みが単独または連続してあるものでⅡ形態が最も多い傾向がある。

側縁部に磨り面、敲打面をもつことから、潰す、叩く、磨る動作等を併せ持つ用途に応じた複合的な機能をもつ器種であることが分かる。石材は安山岩が多用される。

磨石　磨石が凹石として転用されることが多いため、磨石単独での機能をもつものは少ない。石材は安山岩が多用される。

球石　磨石と機能は同一で、小形球状のものとした。球石に含まれるミガキ石は、磨石と機能は同一だが、主に土器等の内面調整に用いられる工具としての器種が考えられる。石材は安山岩が多用される。

石皿　平面円形・楕円形で使用面が平坦あるいは窪む形態で、重量のある大形自然礫が素材に多用される。石材は、安山岩、結晶片岩が選択される。石皿は形状を生かした使用法が一般的だが、素材を整形するものも少数認められる（58、406他、結晶片岩製の一部）。58は、砂岩製で、中央の窪みが深く、裏面には多数の凹みがある。磨石と共伴して出土した。人見西中原遺跡では、敲打によって、礫面を「凸」状とした石皿（406）が出土した。この形態は東北地方に類例が求められる。

Ｃ２類石器

安山岩等の自然礫を素材としたもので、礫面に使用痕が観察される礫石器である。石器製作用の石器である。敲石及び砥石には、磨製石斧製作用が含まれる。

敲石（Ｅ類敲石除く）　自然礫の一端に敲打痕、潰れ痕、剥離痕が観察される。各遺跡で組成数は少ない器種である。一部、磨製石斧製作用が含まれる。

砥石　石質がザラザラする牛伏砂岩製が主体である。研ぎによる分類では、荒砥、中砥が多く、細密な研ぎ面をもつ仕上砥はみられない。研ぎ面に細い溝（220他）、窪み（221他）をもつものがある。大形のものは、磨製石斧研磨用と考えられる。

台石　石器製作あるいは作業台の用途で使用された器種である。大形扁平の自然礫が多く選択される。石材は石皿同様、安山岩が多用される。

Ｄ類石器

石棒　石器組成量からみて少数である。有頭式（74、433、434）、無頭式（431他）の両者が認められた。敲打によって整形し、研磨によって完成する。石材は結晶片岩、大山産の石英斑岩（流紋岩）、安山岩である。433は、欠損面に磨痕が観察される。

棒状礫　石棒を意識した自然礫の形状を生かした二次加工が少ないか、ほとんど無い石棒の機能をもつ器種である。

多孔石　大形自然礫面に多数の凹みがある器種。安山岩が多用される。

丸石　大形自然礫で楕円球状である。安山岩である。

Ｅ類石器（磨製石斧関連資料）

磨製石斧　完成品は搬入品に限定され、製作された磨製石斧は少ない。形態では、Ｉｂ、Ⅱｂ形態が主体となり、前期の断面楕円形から次第に定角化することが認められた。形態には中期後半に特徴的な小形ノミ状（定角式）が加わるが、本遺跡群では、人見東原Ⅱ遺跡のみで出土した。

磨製石斧は、敲打と研磨の複合技術によって製作される。場合によっては工程が入れ替わることもあるが、一般的に製作工程は、Ⅰ原石獲得→Ⅱ荒割・分割→（素材獲得）→ⅢＡ敲打・Ｂ剥離整形→Ⅳ研

磨→Ⅴ仕上げ（→再加工）の順で進む。本遺跡では、Ⅲ工程までが主体で、続くⅣ工程以降へと進むものは少ない。石材は下仁田町鏑川流域に産出する緑色岩類が選択されている。

なお、製作専用の敲石には、磨製石斧の製作に至らず、そのまま敲石としたもの（１類）、製作途中で欠損したものを敲石に転用したもの（２類）、磨製石斧を敲石あるいは他の器種に転用したもの（３類）が存在する。

人見東原Ⅱ遺跡のＥ類　磨製石斧（78、79）小形ノミ状（80、81）が出土した。全て搬入品である。

人見枝谷津遺跡のＥ類　磨製石斧（232～237）、未成品Ｂ（整形終了段階で仕上げ段階前、238～243）、素材剥片（整形段階244～249）、分割素材（一部敲打・剥離整形、250、251）、転用敲石Ⅰ（棒状・楕円形素材、252、253、260）、転用敲石Ⅱ（三角形・矩形素材254～259）、転用敲石Ⅲ（磨斧転用、261、262）。262には括れがある。Ⅲ工程である敲打調整による未成品段階の資料が多い。

人見東向原遺跡のＥ類　磨製石斧（Ⅱｂ形態283）、未成品Ｂ（剥離整形284～287、敲打整形288、289）、素材Ａ（290～293）、接合資料１（剥離整形工程294）、接合資料２（石核＋素材剥片、分割工程295）、転用敲石Ⅱ（296、297）、転用敲石Ⅲ（298）。Ⅱ工程からⅢ工程までで、敲打調整による未成品段階が多い。

人見東中原遺跡のＥ類　磨製石斧（445、447～449）、磨製石斧再加工（刃部再生446）、未成品Ａ（研磨段階450～454）、未成品Ｂ（455～459）、素材Ａ（460、461）、分割素材（462～467）、剥片素材（自然面有り468～475）、素材転用・転用敲石Ⅰ・Ⅱ（三角錐状476～488）、転用敲石Ⅲ（489、490）、転用石器（研磨工程後491～493）、転用石器（工程欠損品を凹石494）、転用スクレイパー（縁辺部に二次加工495）。Ⅱ工程からⅢ工程までで、素材と敲打調整による未成品段階が多い。同石材の転用敲石が多い。

人見西向原遺跡のＥ類　磨製石斧（551）、未成品Ａ（製作途中で使用、552、553）、未成品Ｂ（554）。Ⅲ工程段階からⅣ工程に至る未成品が搬入されている。

磨製石斧の製作（第487図）

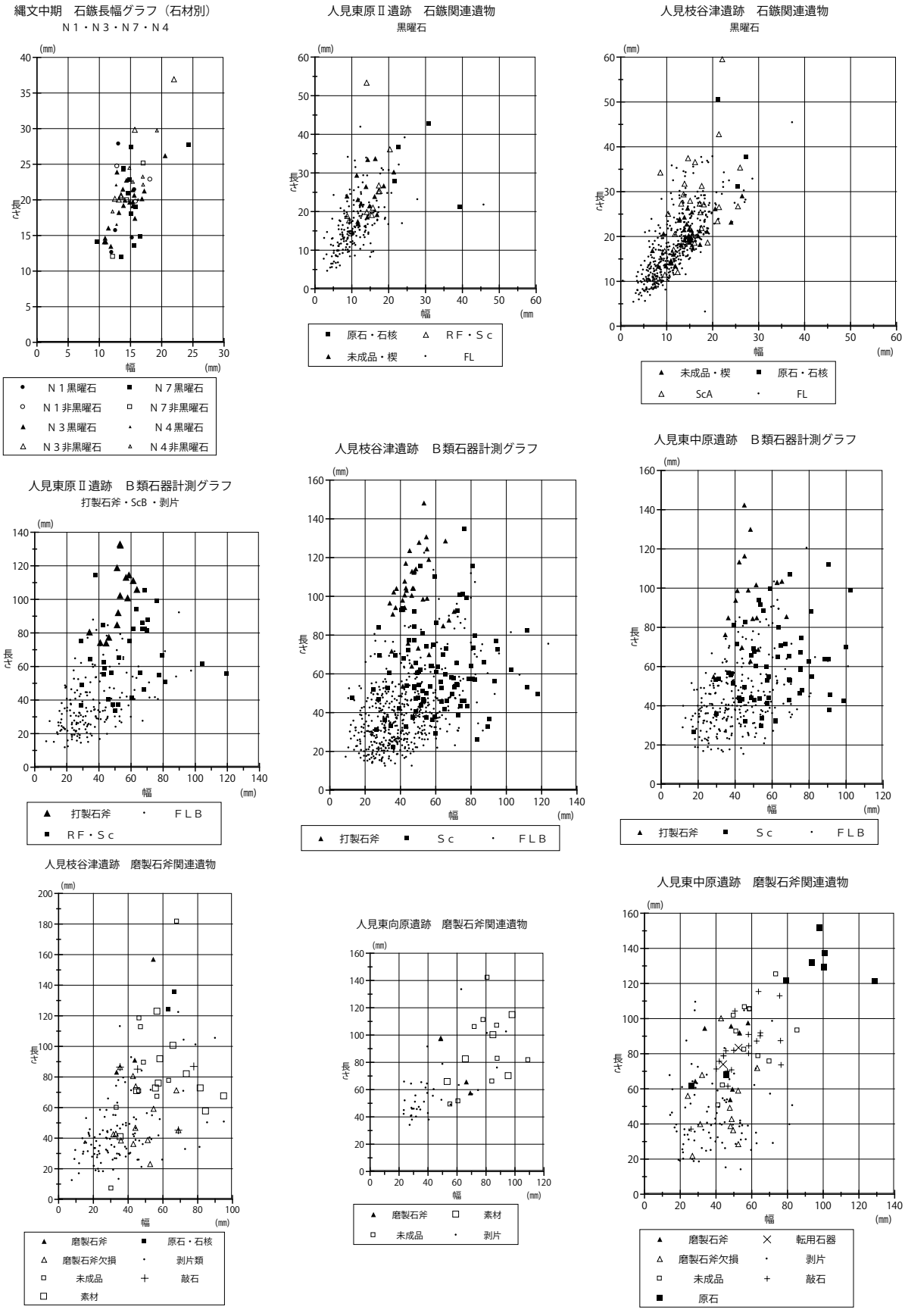
本遺跡群では、Ⅱ工程からⅢ工程までの段階を主体としている。Ⅳ工程は一部のみで行われ、完成品に至るⅤ工程までは認められない。組成する磨製石斧は搬入品が主体であり、遺跡内で製作されたと思われるものは少ない。

県内では、中期後半の磨製石斧の製作は、一部の地域で確認されているだけで、ほとんどが他地域からの搬入品である。磨製石斧自体の組成も少ないことから、中期後半期は、主体的器種ではなかったとされているが、最近の調査では、遺跡が多数発見されている。下仁田町下鎌田遺跡では、石材産出地に立地が近いことから、原石の獲得段階からの製作工程が認められた。この遺跡では多数の石材が消費されているが、完成品は少ないのが特徴である。

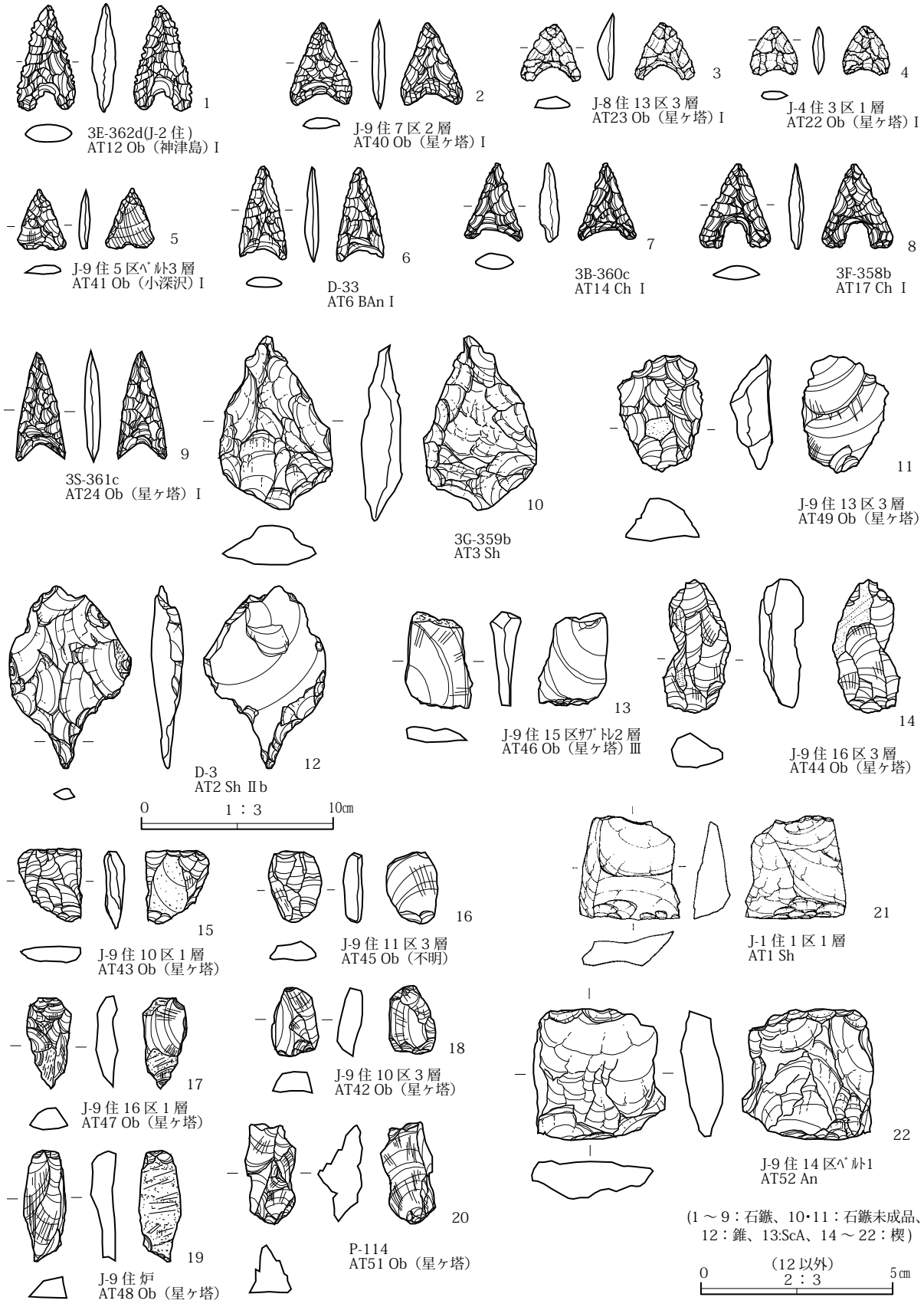
Ｆ類石器（石製品）

軽石製石製品　人見東原Ⅱ遺跡で１点出土した（82）。平面長方形、断面四角形、穿孔がある。用途には「浮子」説、「垂飾り」説があるが、定まっていない。類例資料は中島Ⅰ・Ⅱ遺跡（加曽利ＥⅣ式期～称名寺Ⅱ式期）で出土している。

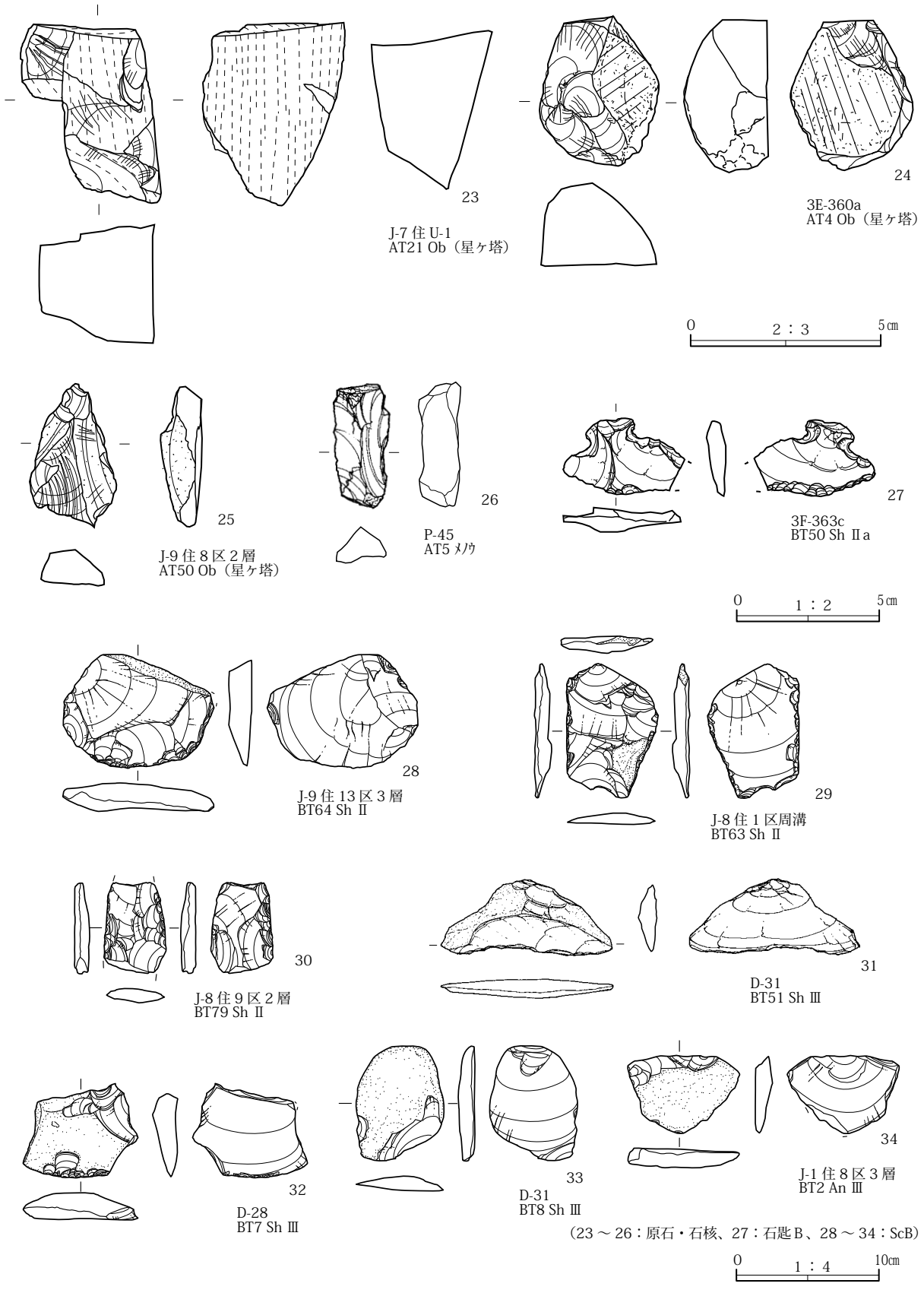
器種不明　機能・用途が不明なもので、片岩系石材の板状・尖頭状（両面加工）の石器４点（307、308、441、442）がある。



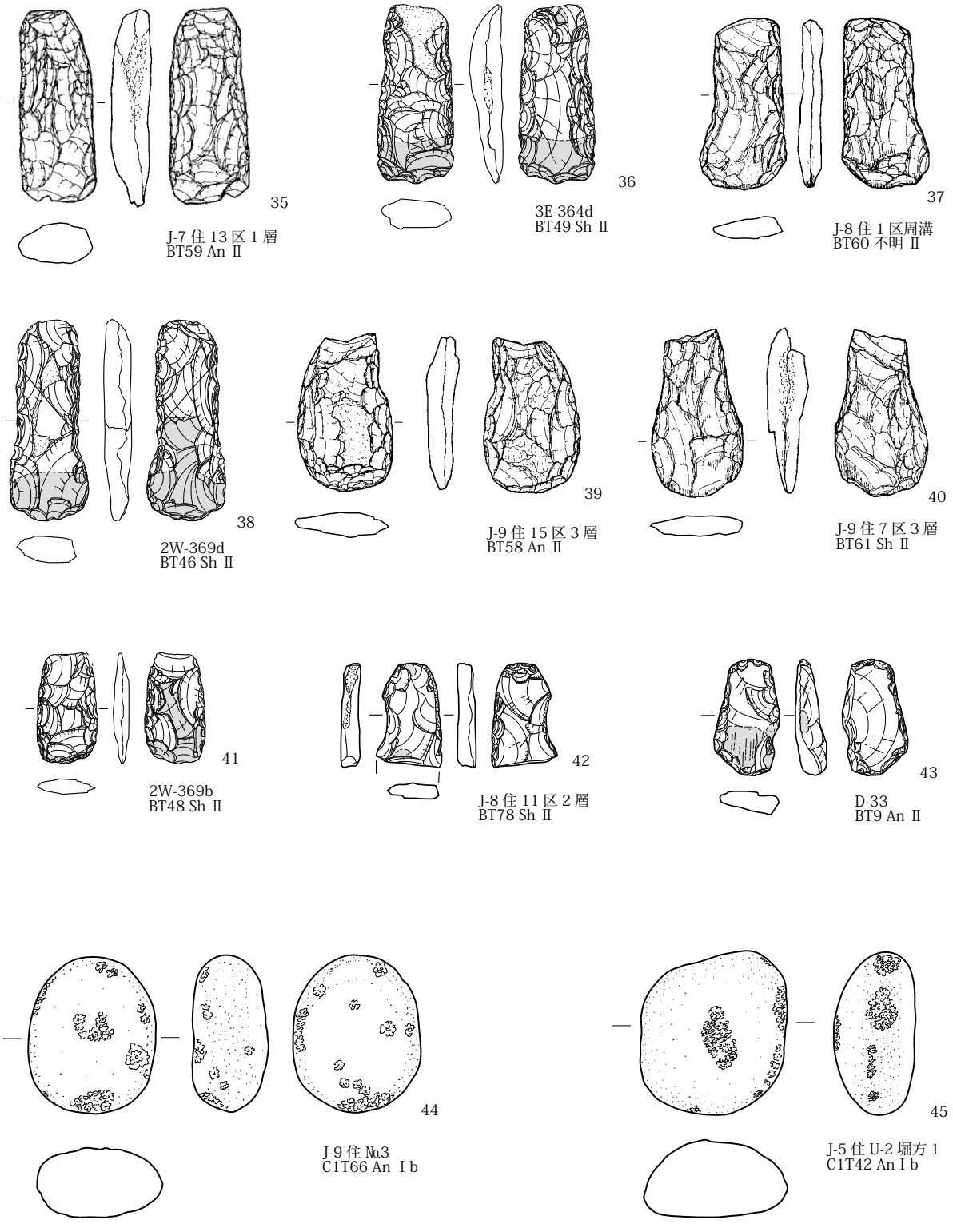
第 487 図　縄文時代中期の石器計測グラフ（器種別・石材別）



第 488 図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）出土石器（1）



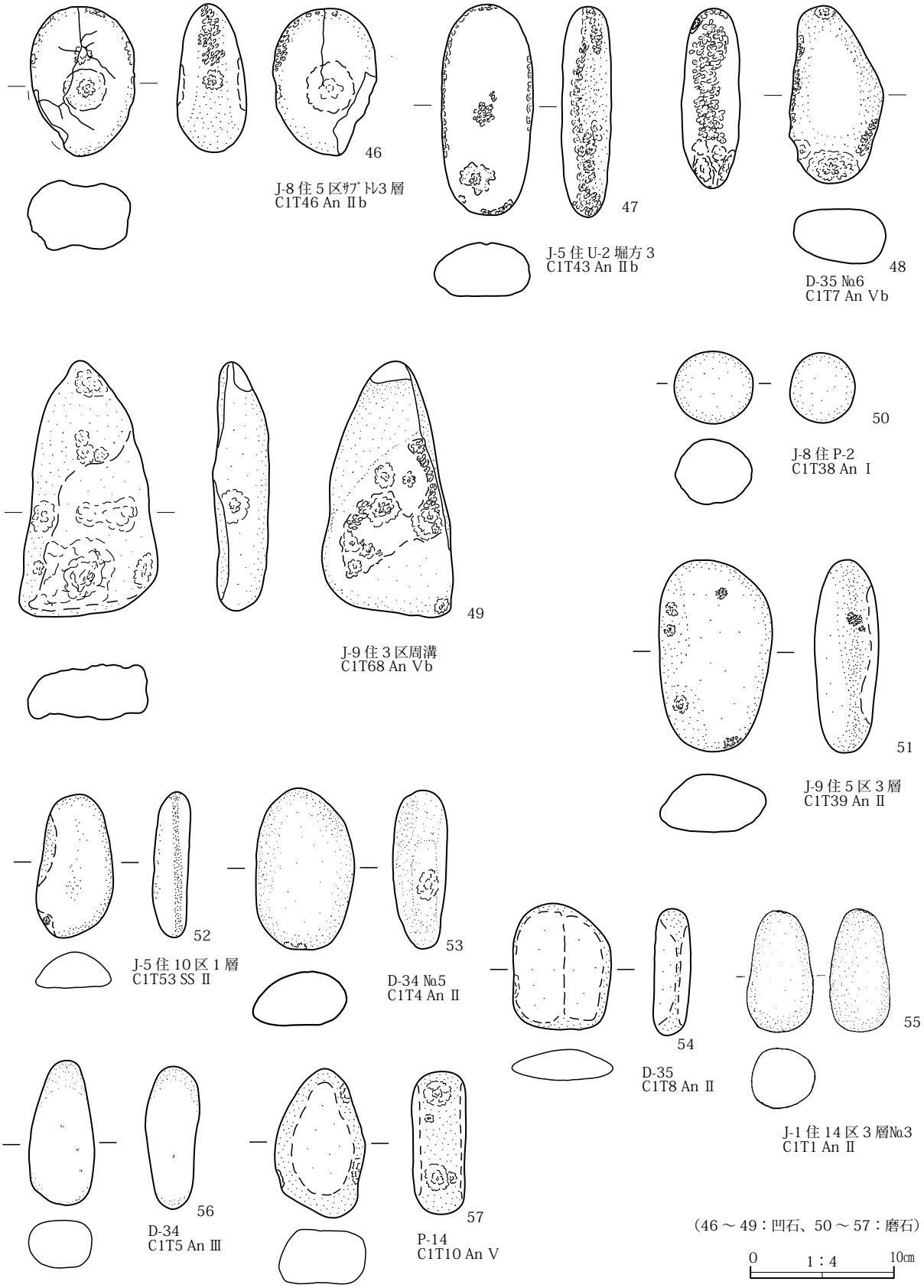
第 489 図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）出土石器（2）



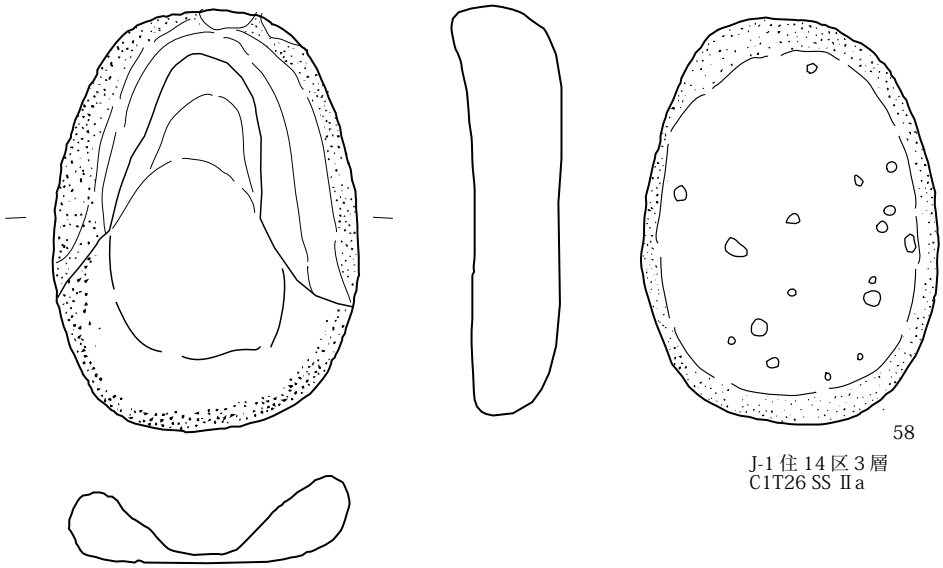
（35 ～ 43：打製石斧、44･45：凹石）

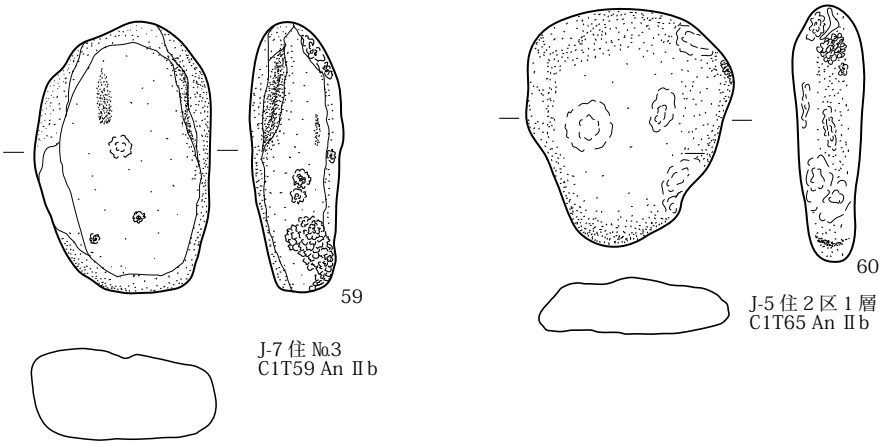
0　1：4　10cm

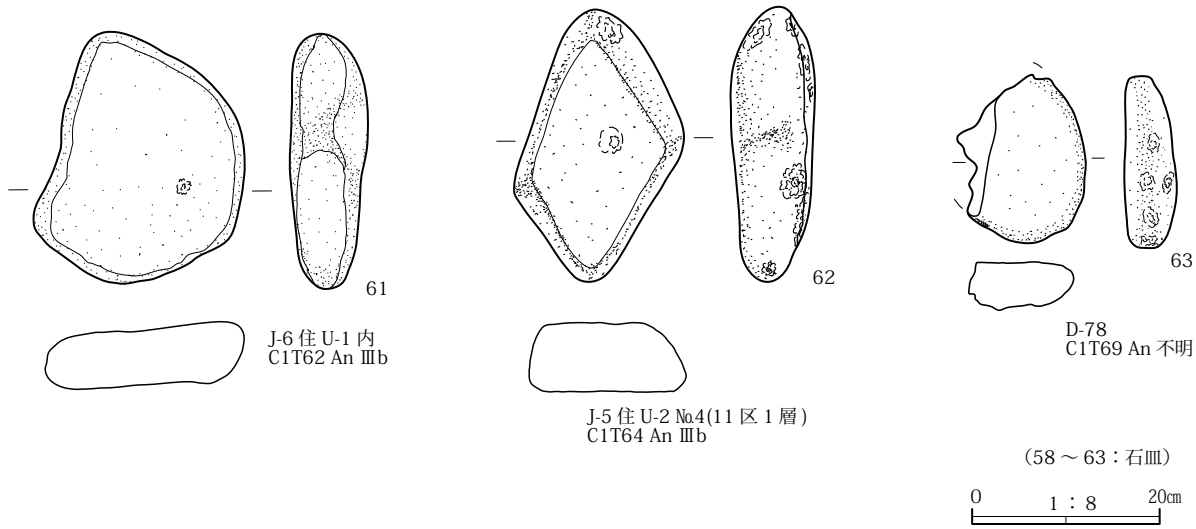
第 490 図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）出土石器（3）



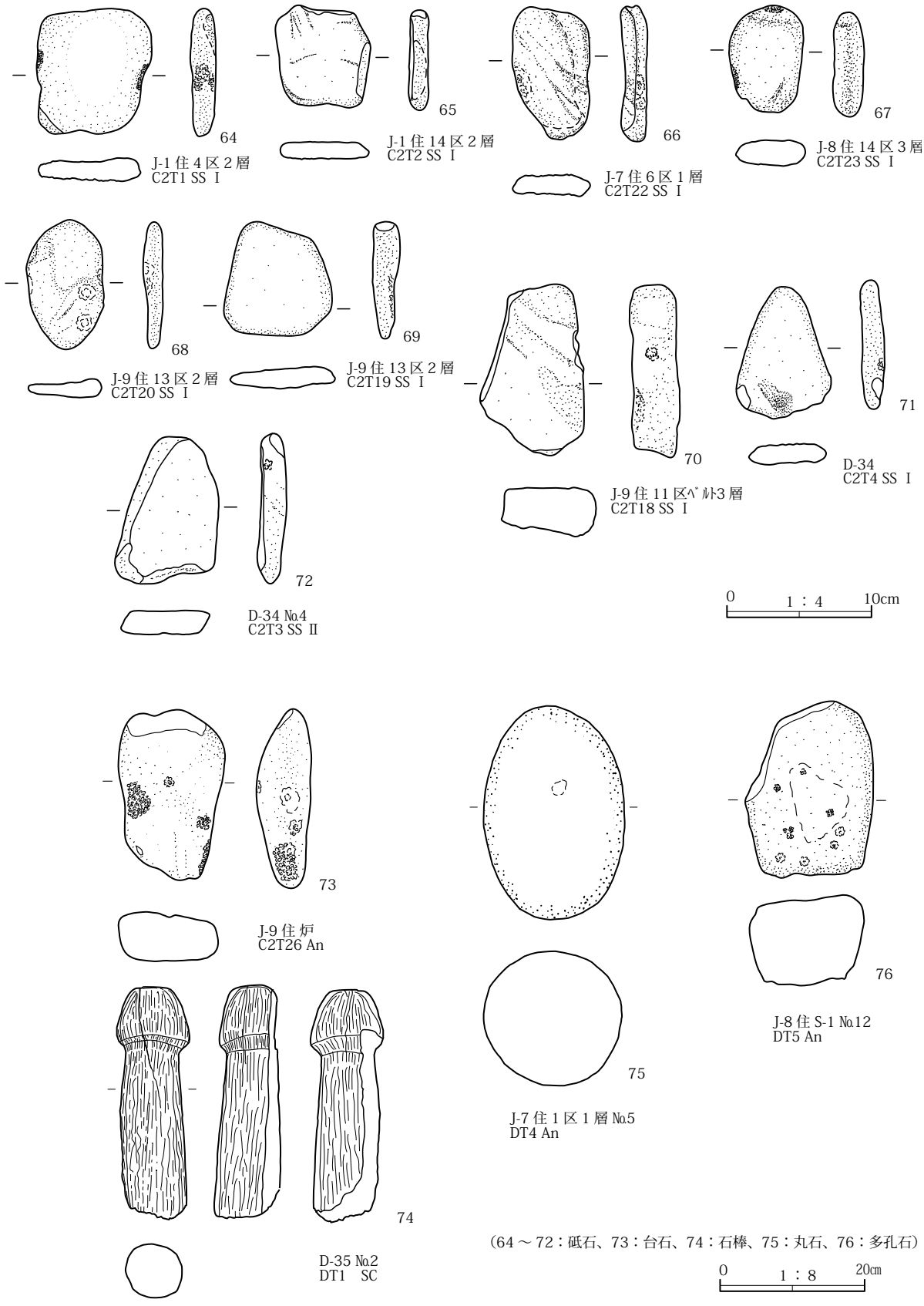
第 491 図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）出土石器（4）



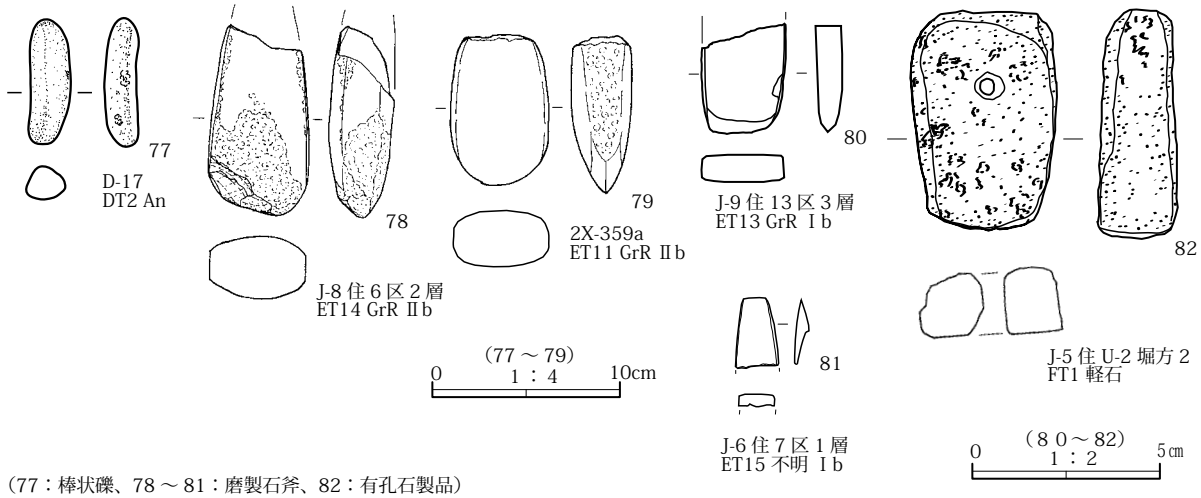




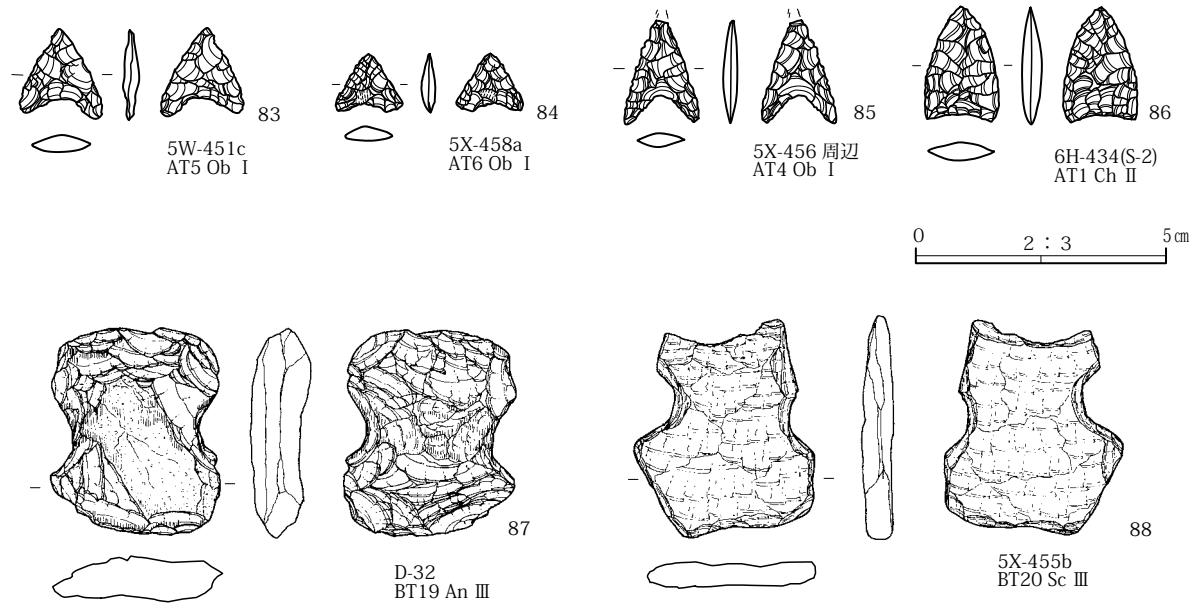
第 492 図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）出土石器（5）

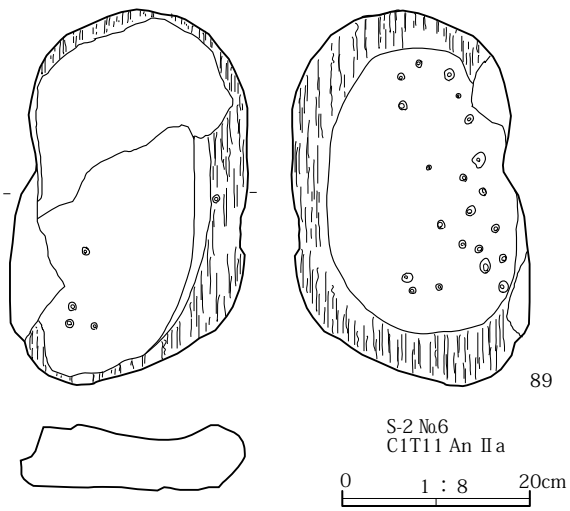


第 493 図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）出土石器（6）



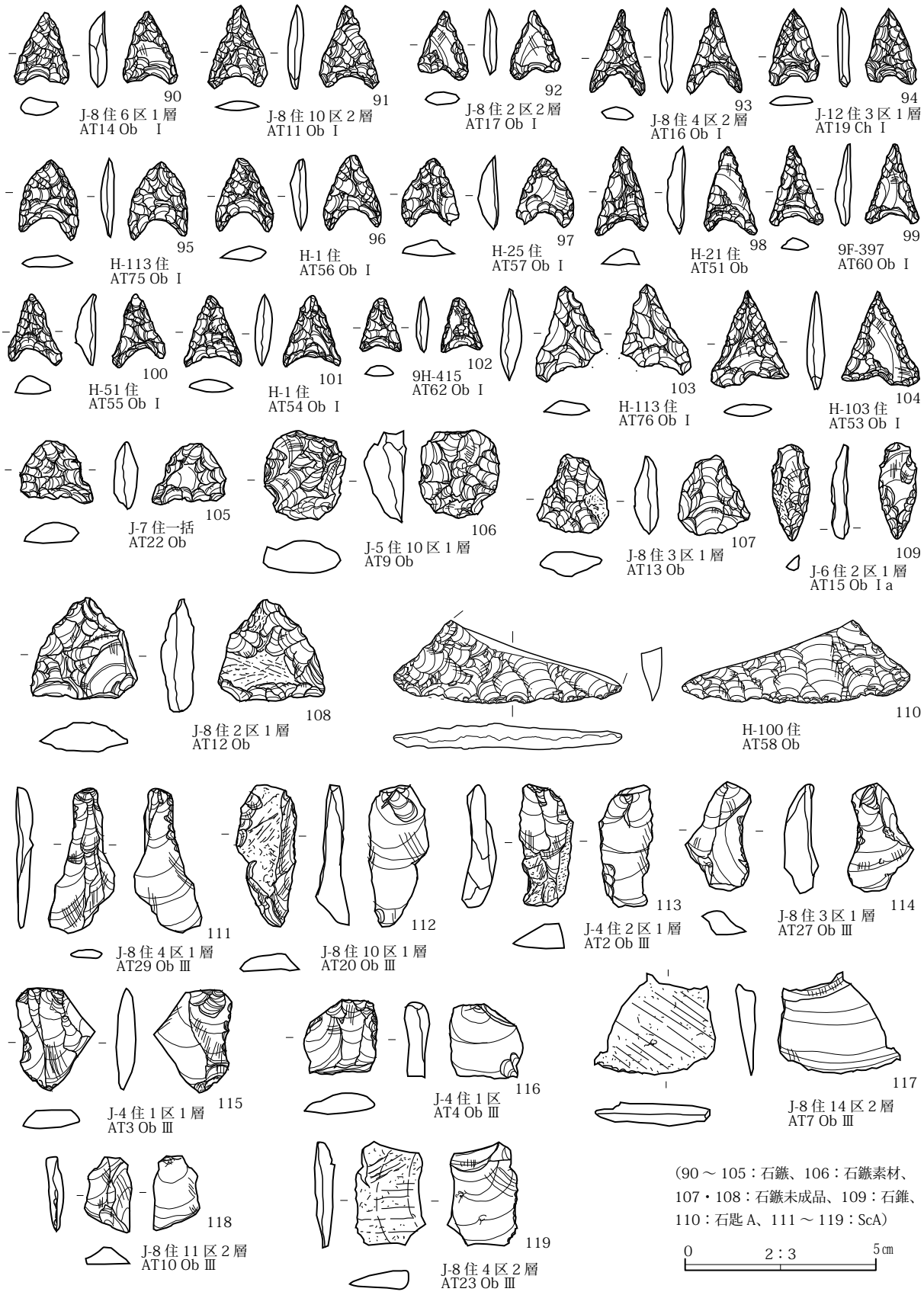
(77：棒状礫、78 ～ 81：磨製石斧、82：有孔石製品)



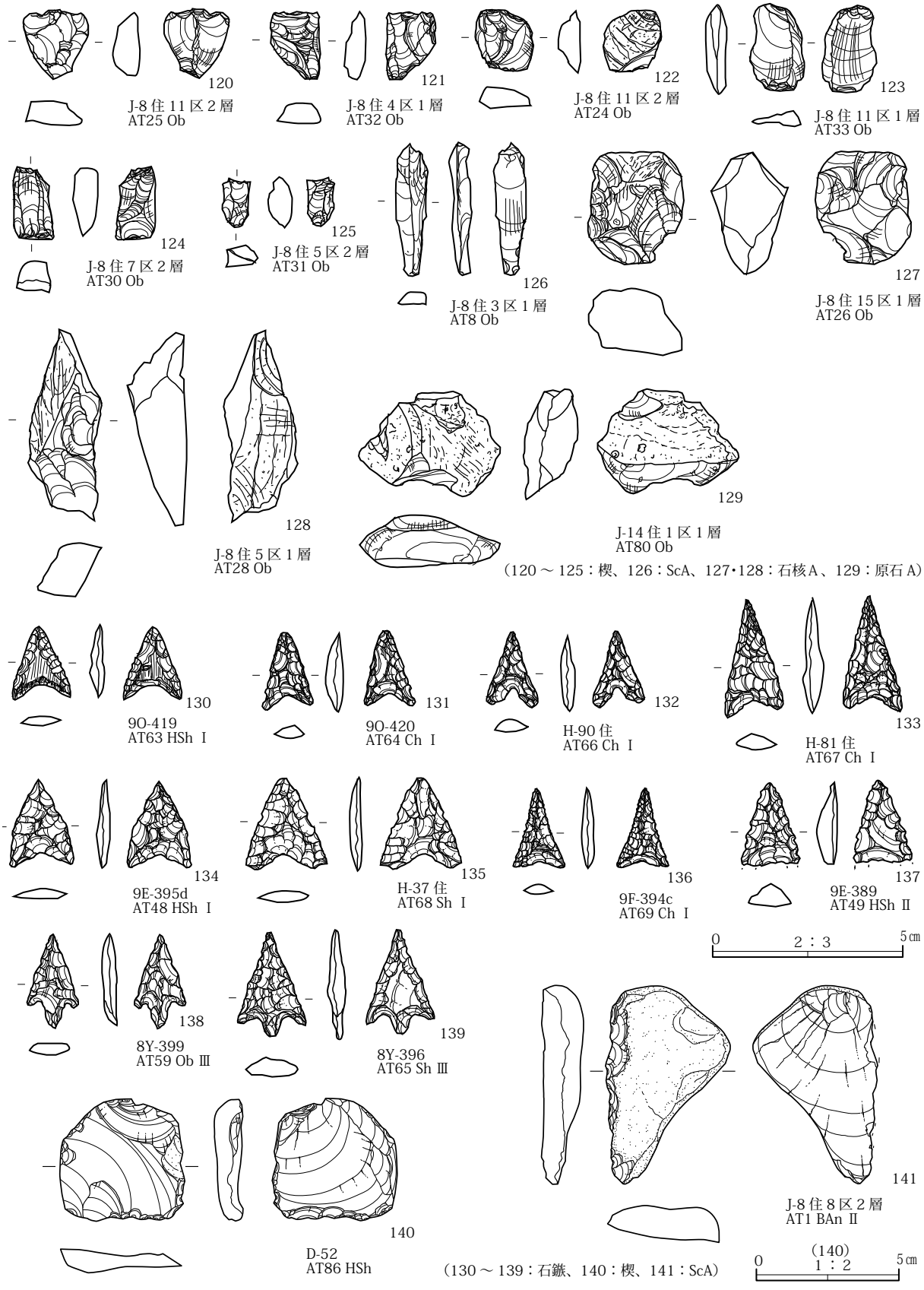


(83 ～ 86：石鏃、87･88：打製石斧、89：石皿)

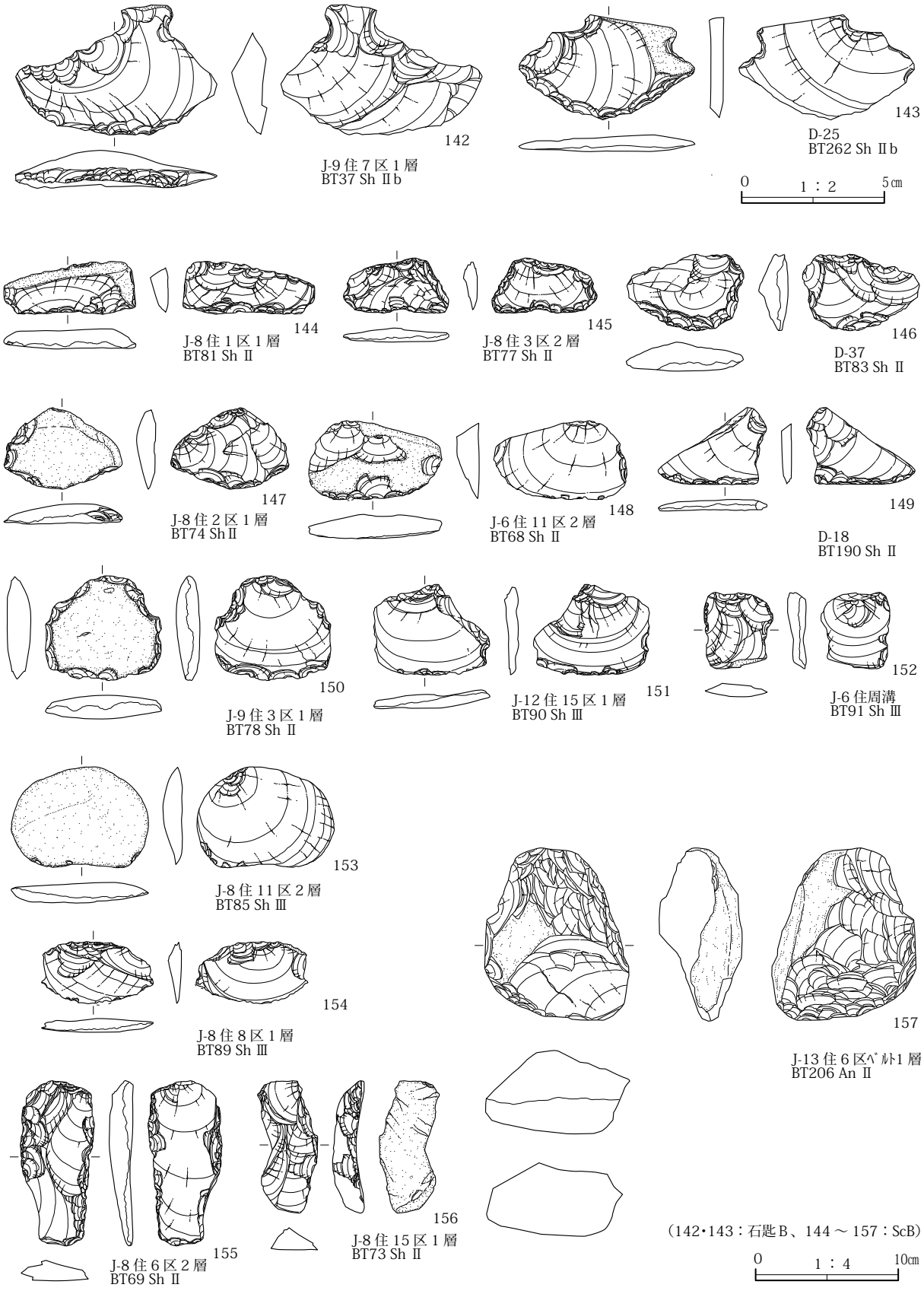
第 494 図　人見東原Ⅱ遺跡・人見西下原遺跡（縄文）出土石器



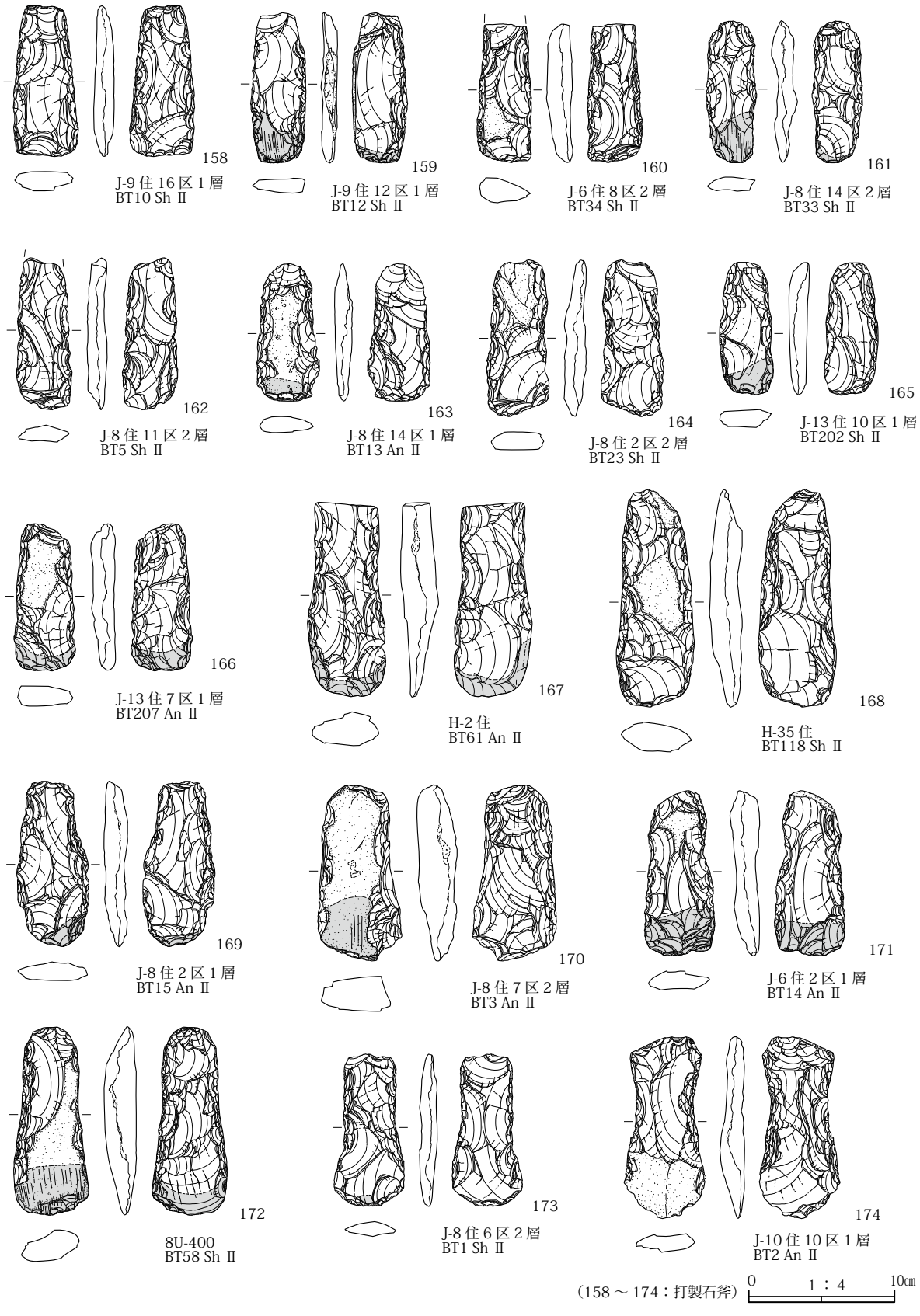
第 495 図　人見枝谷津遺跡（縄文）出土石器（1）



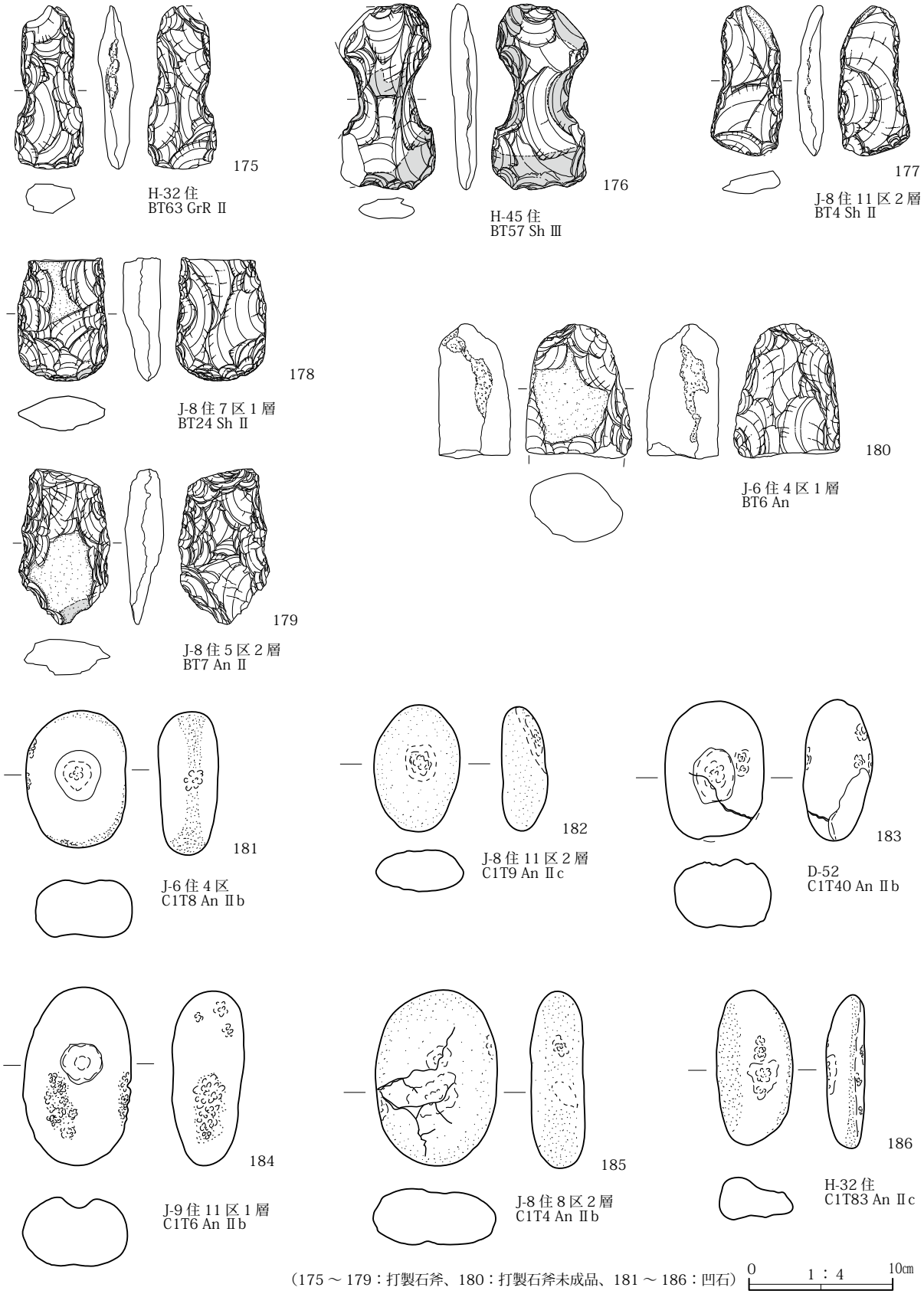
第 496 図　人見枝谷津遺跡（縄文）出土石器（２）



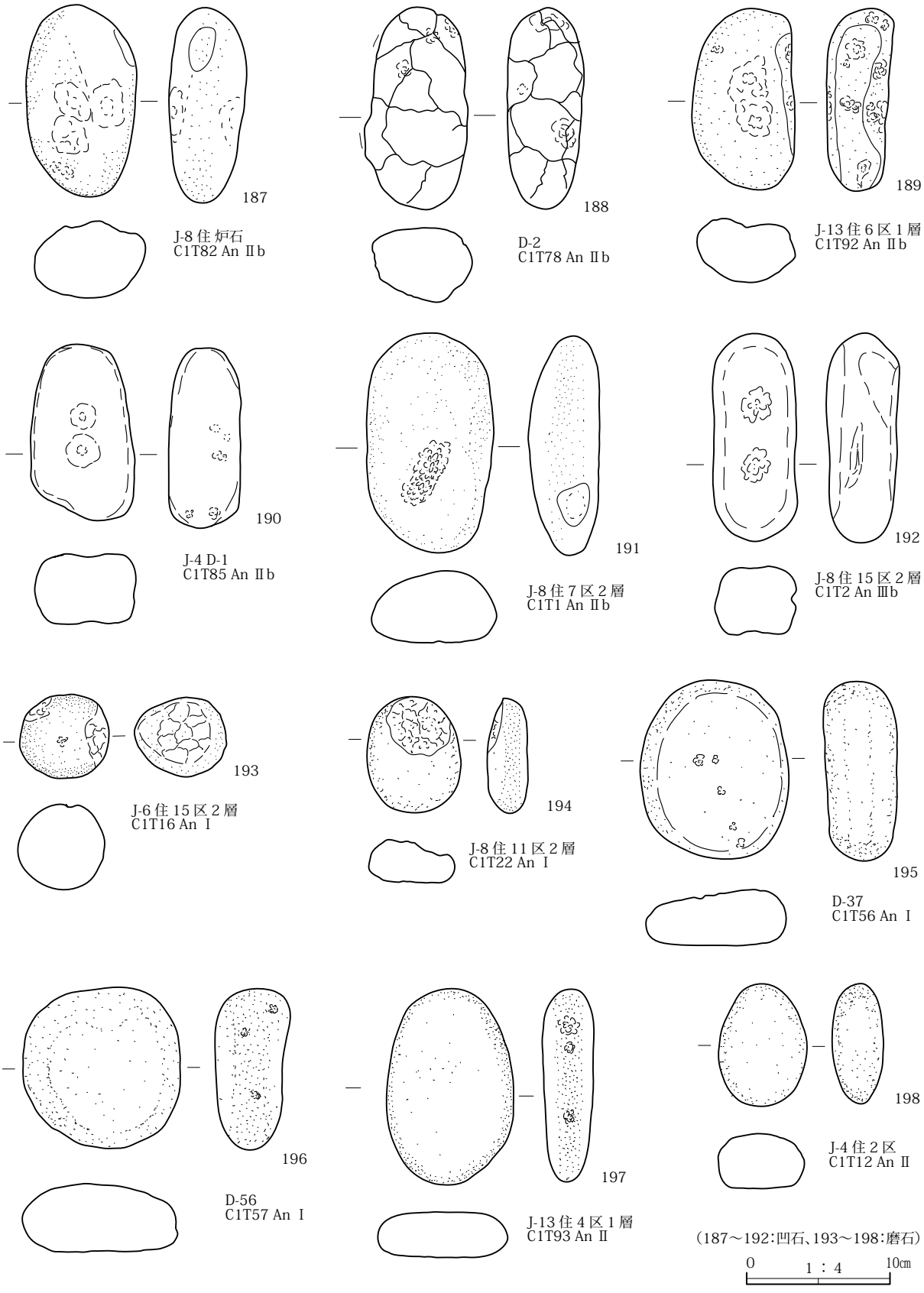
第 497 図　人見枝谷津遺跡（縄文）出土石器（3）



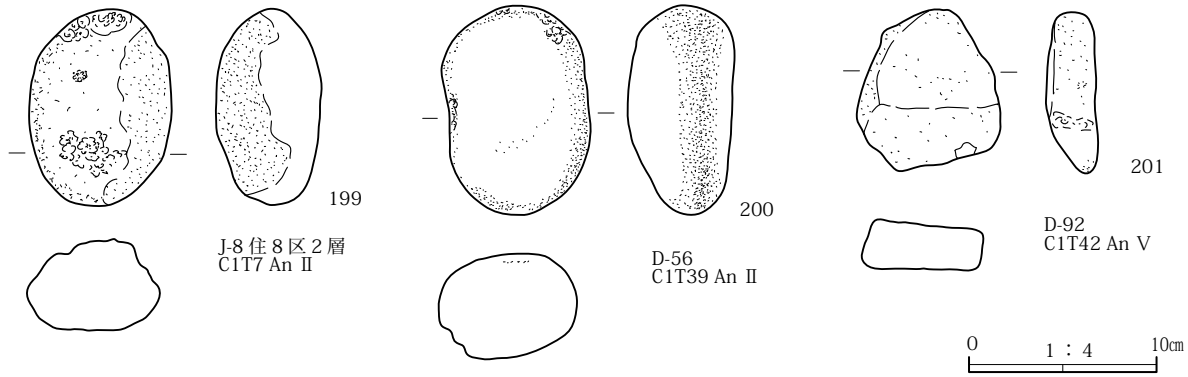
第 498 図　人見枝谷津遺跡（縄文）出土石器（4）

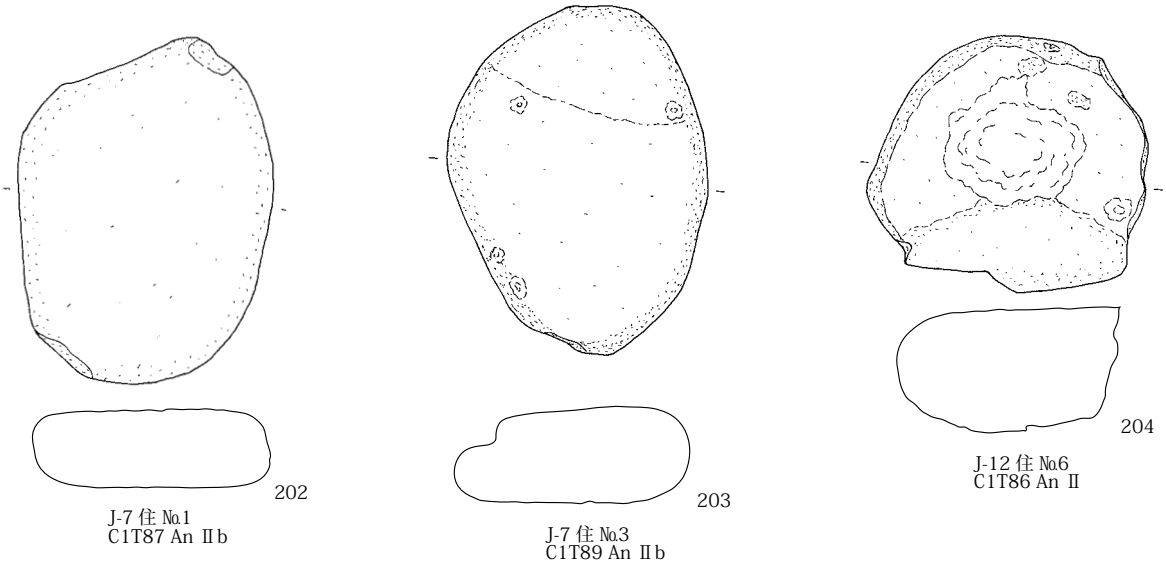


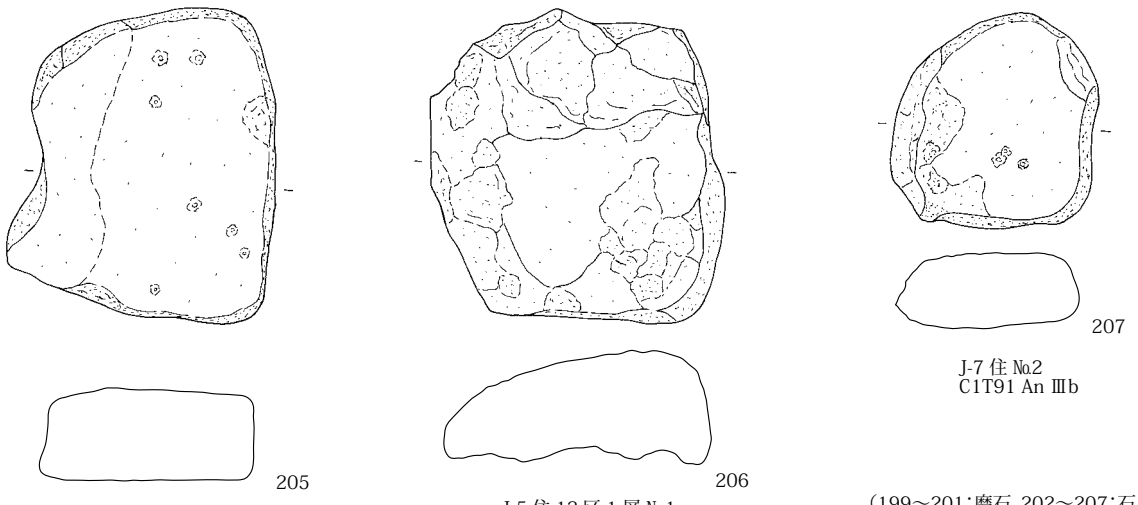
第 499 図　人見枝谷津遺跡（縄文）出土石器（5）



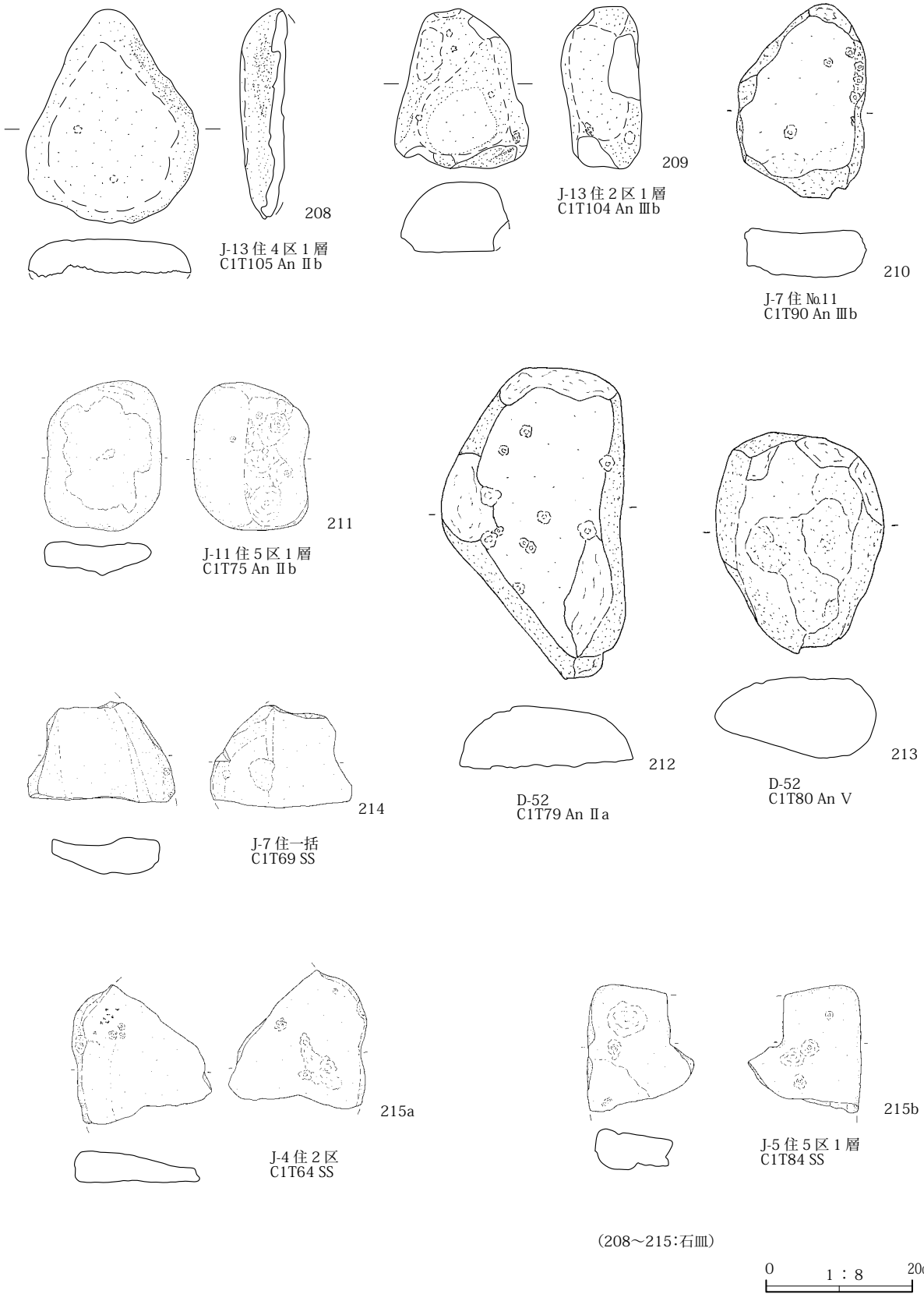
第 500 図　人見枝谷津遺跡（縄文）出土石器（6）



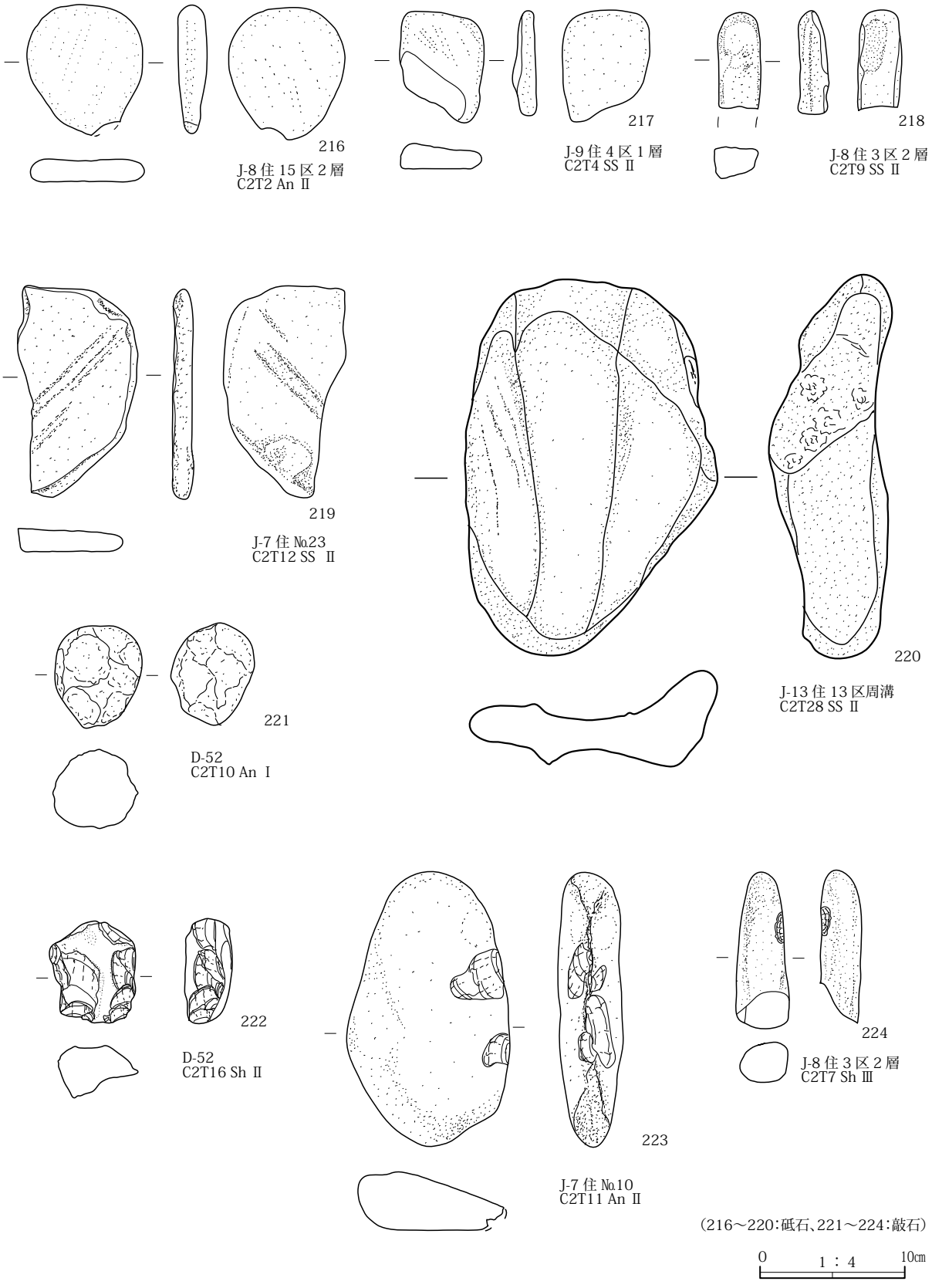




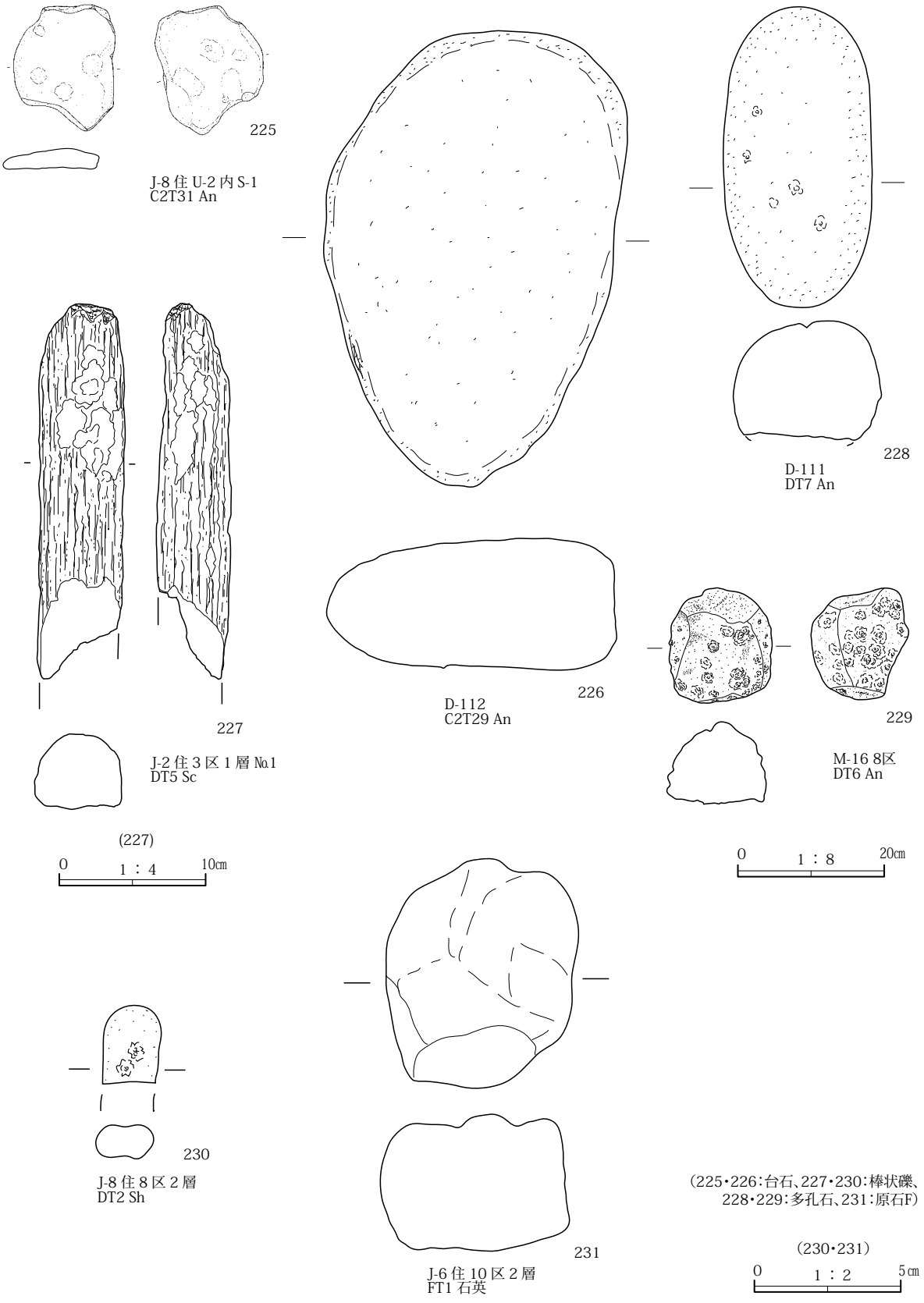
第 501 図　人見枝谷津遺跡（縄文）出土石器（7）



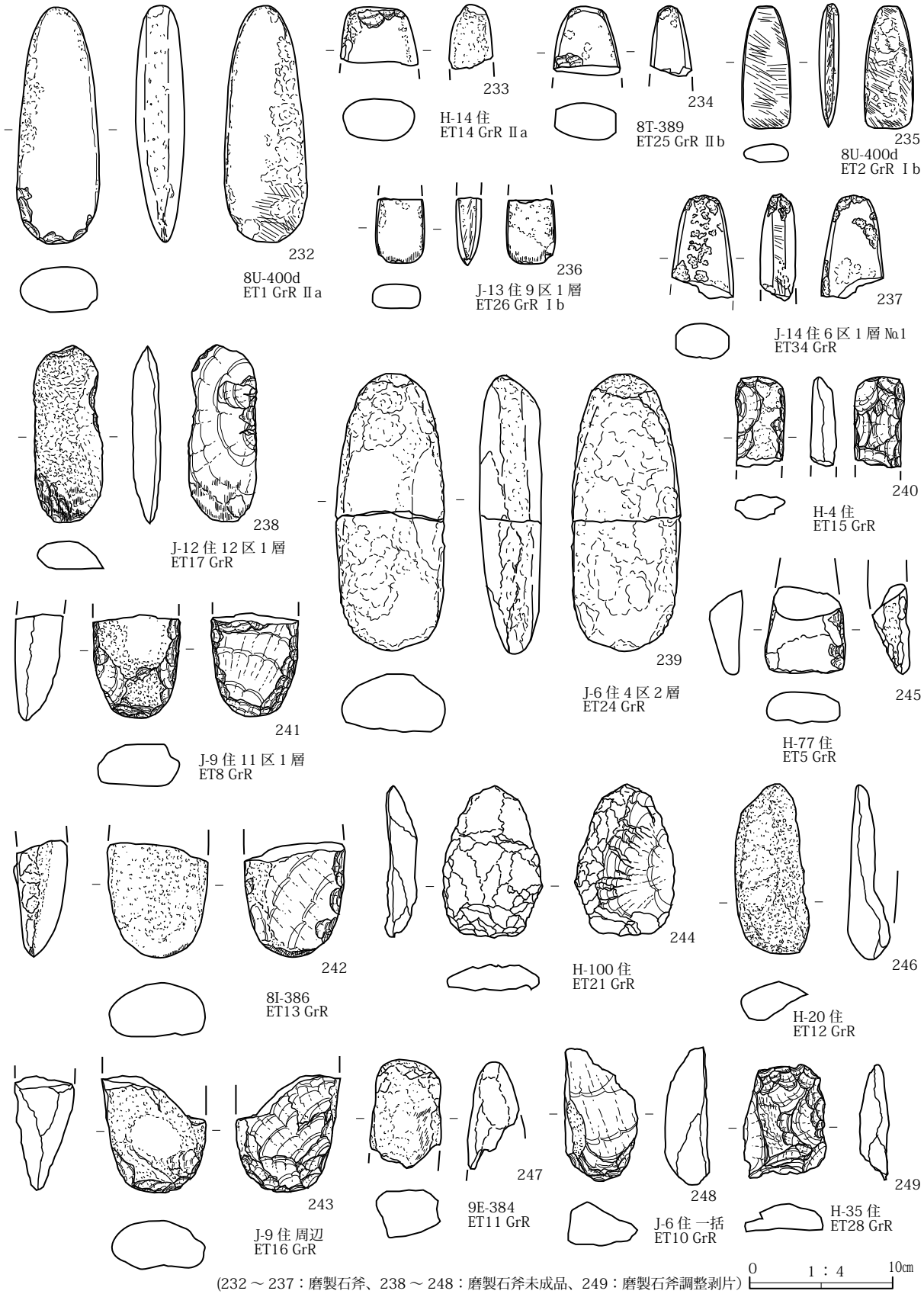
第 502 図　人見枝谷津遺跡（縄文）出土石器（8）



第 503 図　人見枝谷津遺跡（縄文）出土石器（9）

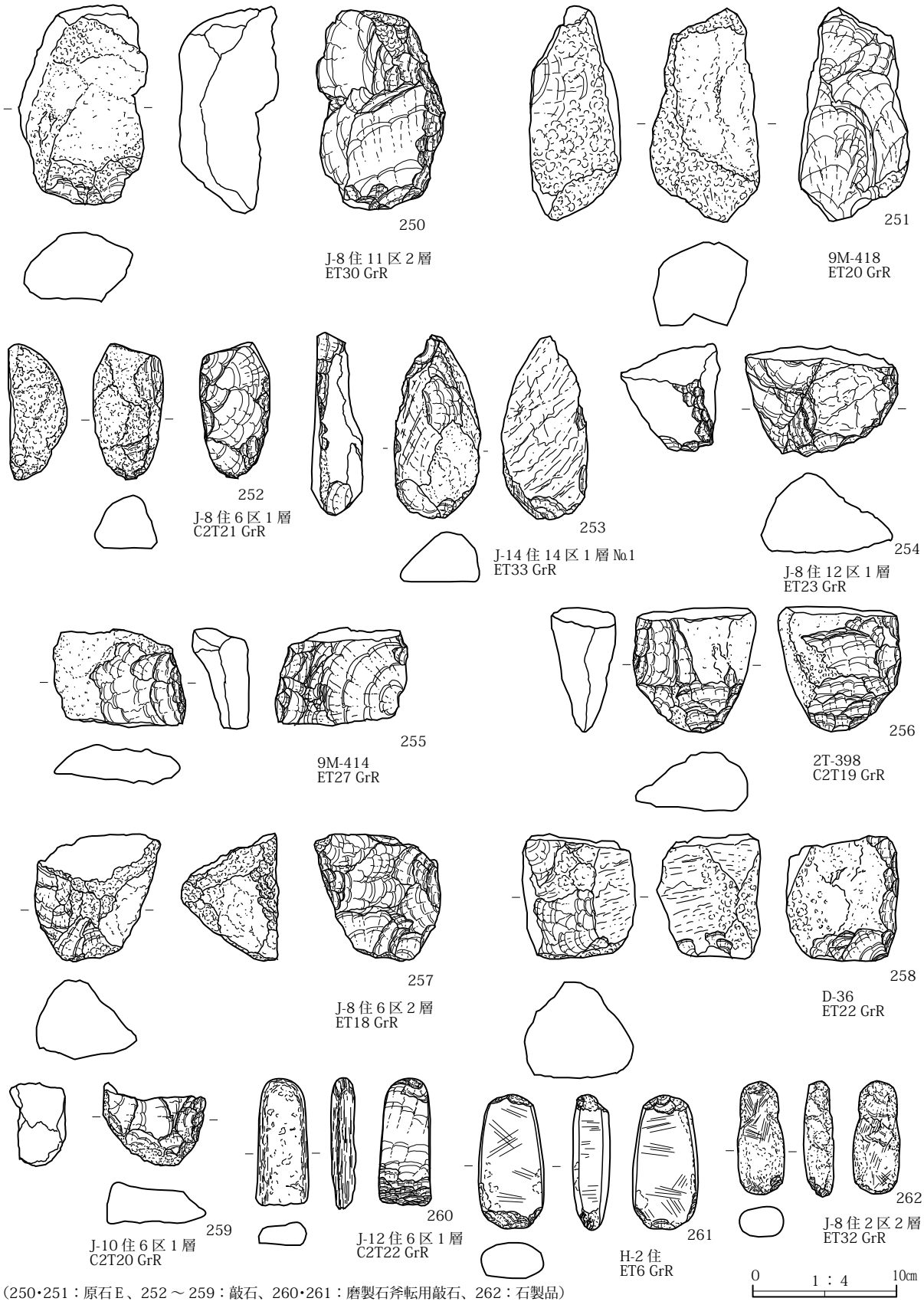


第 504 図　人見枝谷津遺跡（縄文）出土石器（10）



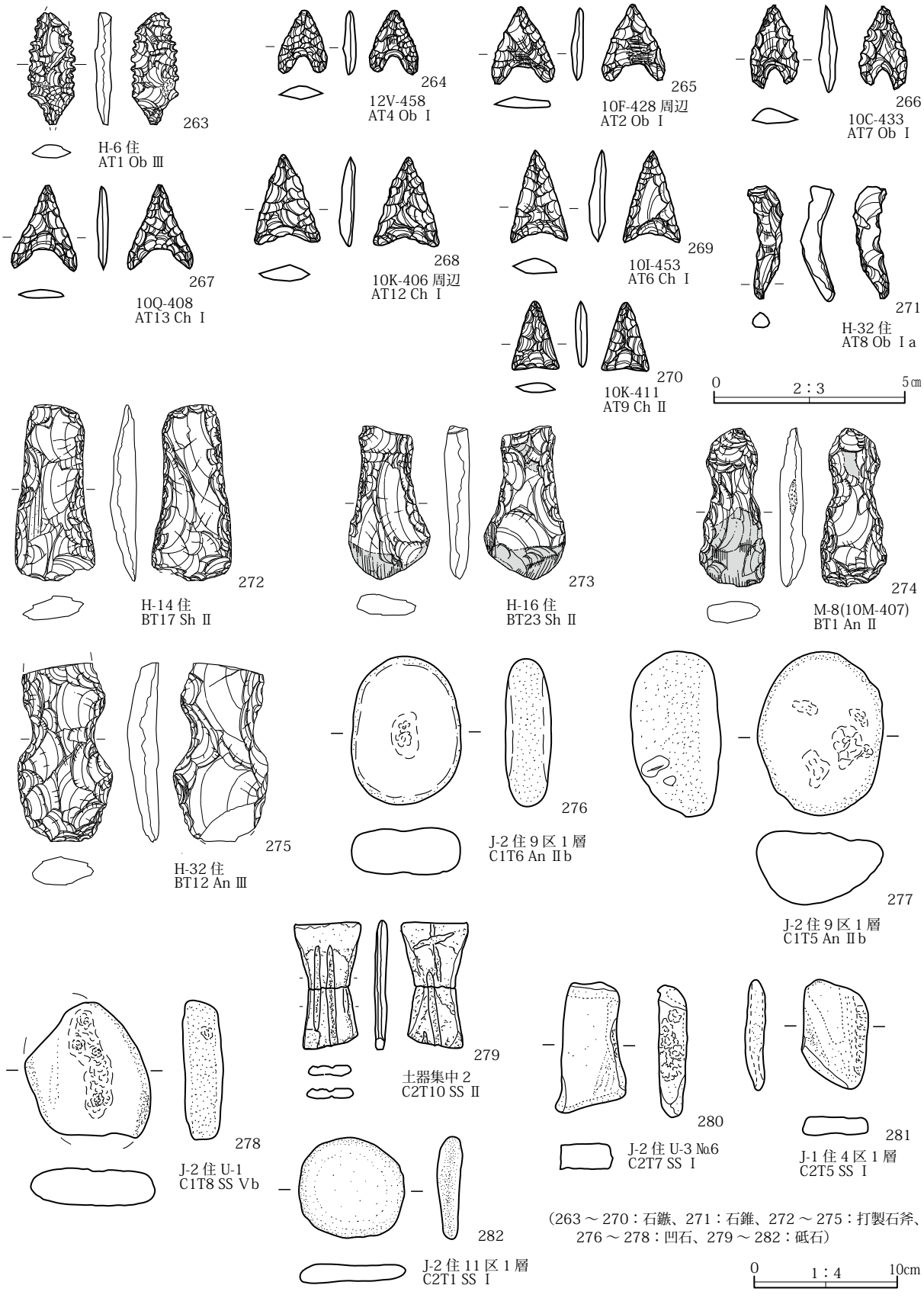
（232 ～ 237：磨製石斧、238 ～ 248：磨製石斧未成品、249：磨製石斧調整剥片）

第 505 図　人見枝谷津遺跡（縄文）出土石器（11）

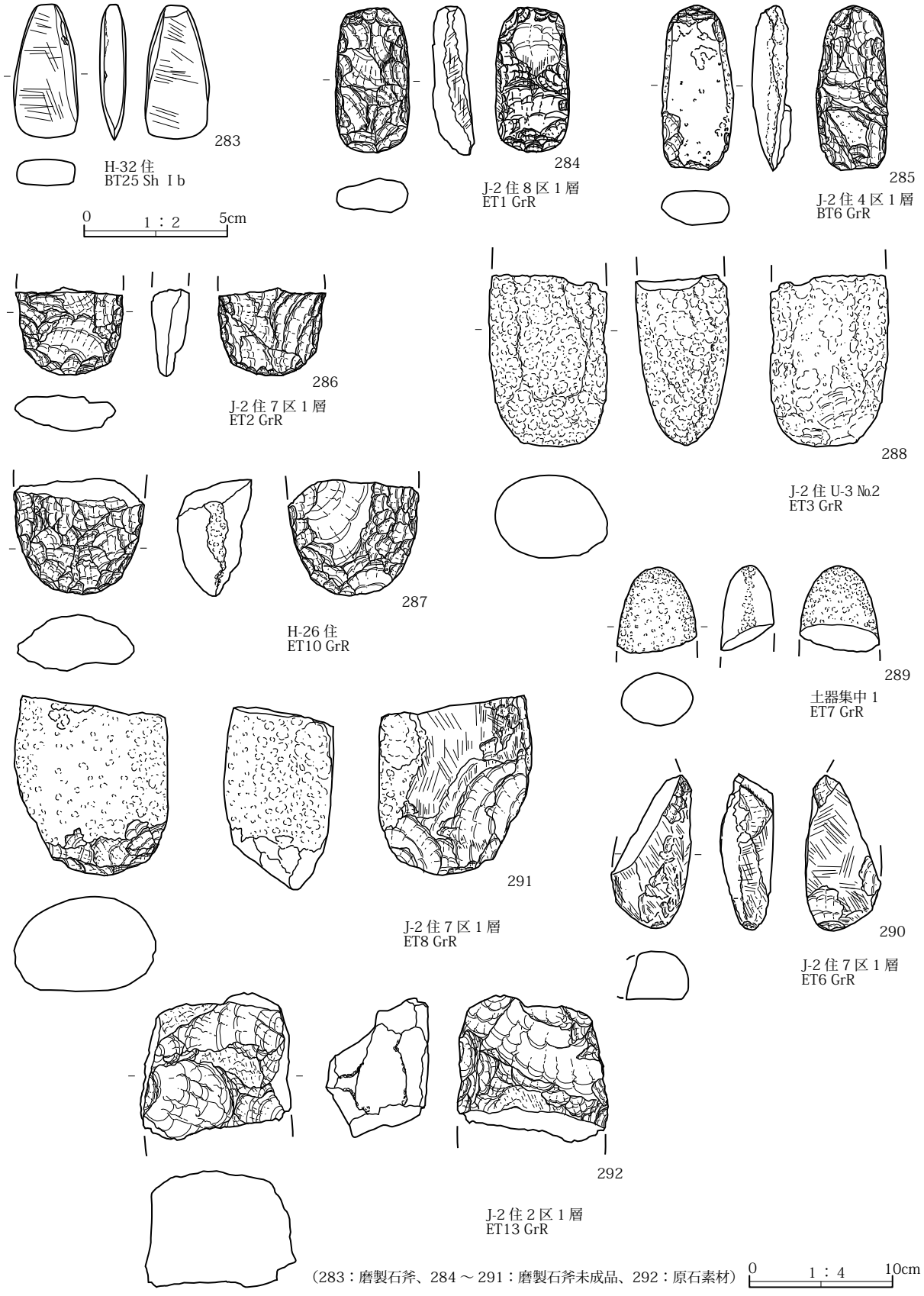


（250･251：原石 E、252 ～ 259：敲石、260･261：磨製石斧転用敲石、262：石製品）

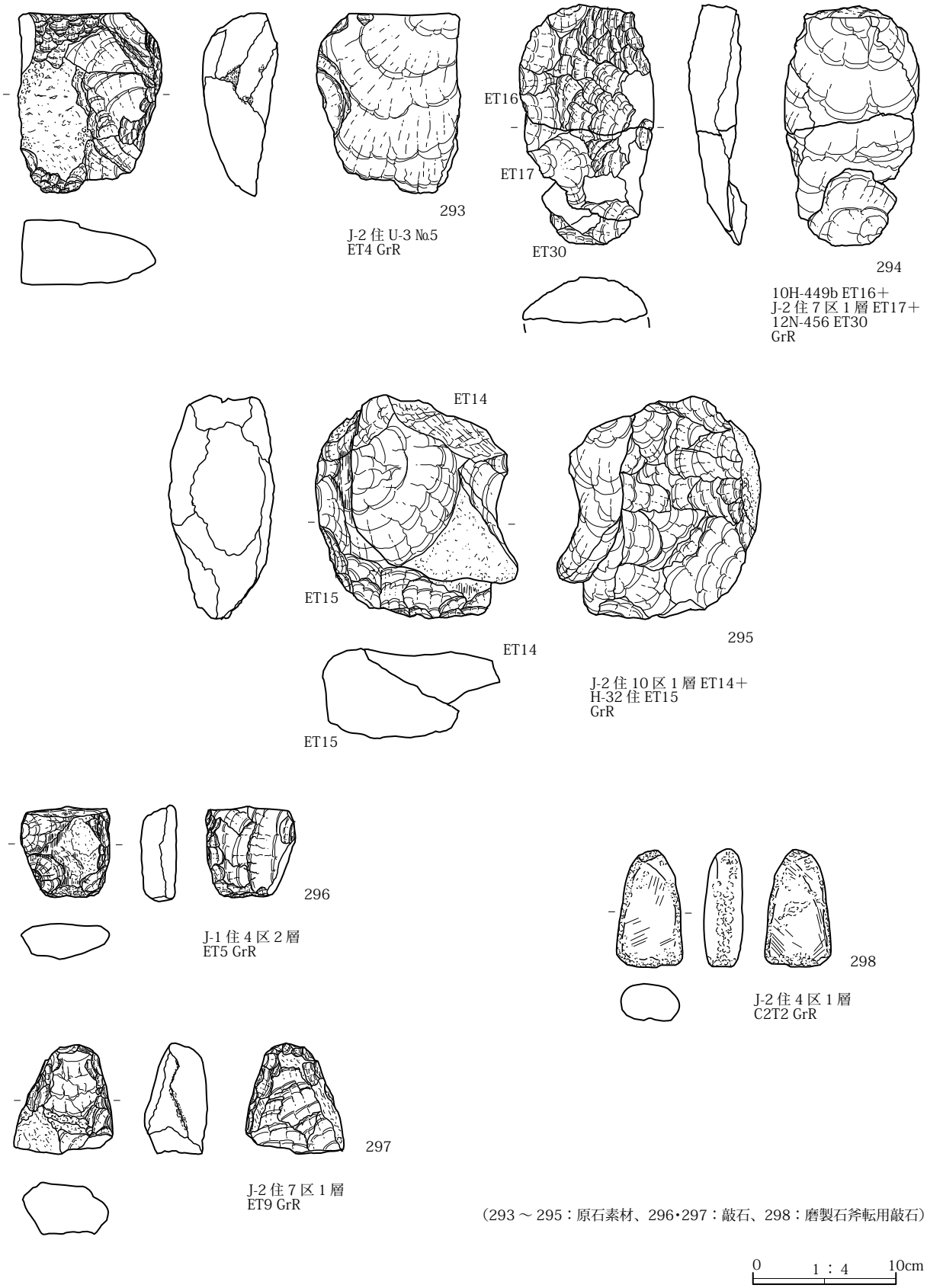
第 506 図　人見枝谷津遺跡（縄文）出土石器（12）



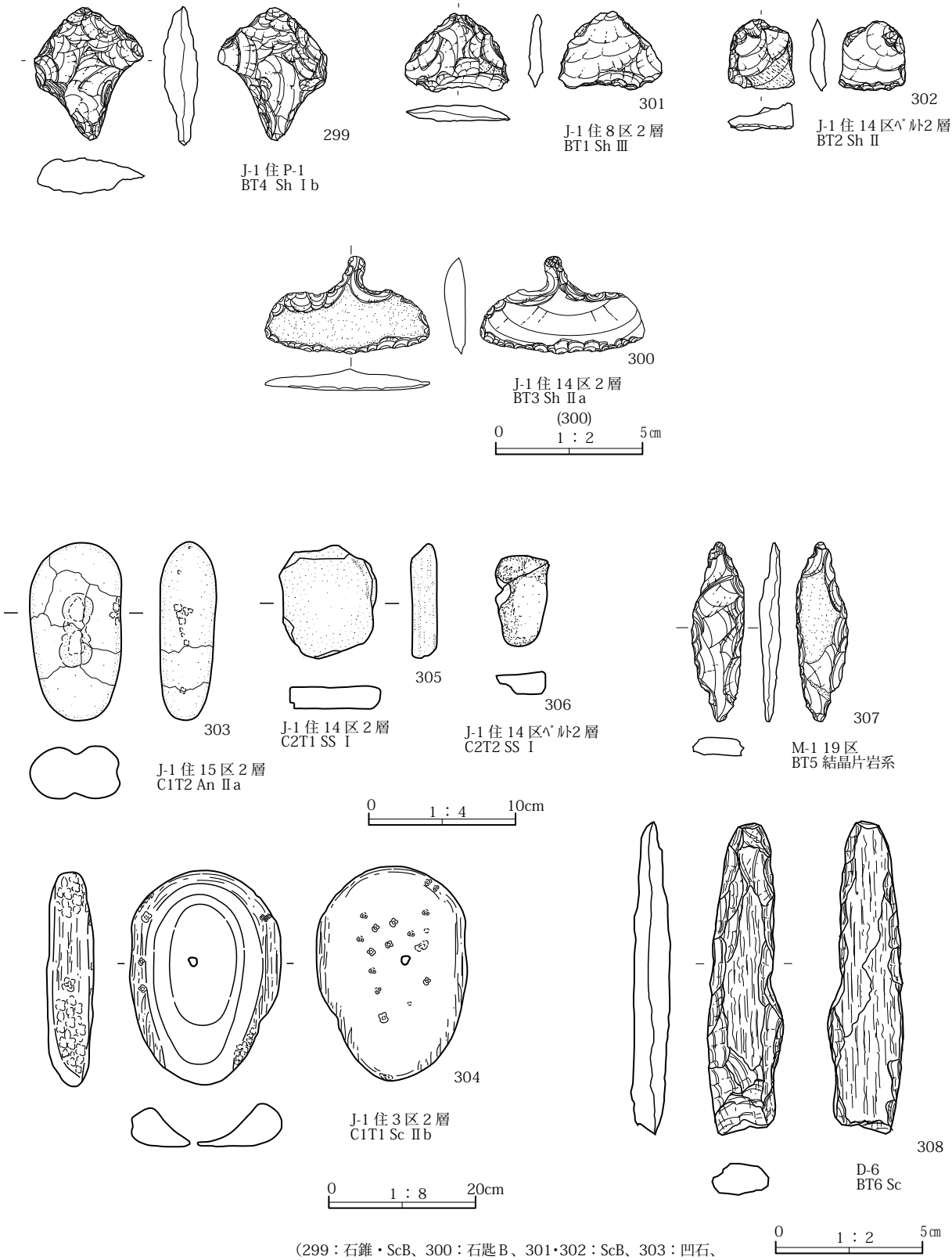
第 507 図　人見東向原遺跡（縄文）出土石器（1）



第 508 図　人見東向原遺跡（縄文）出土石器（２）

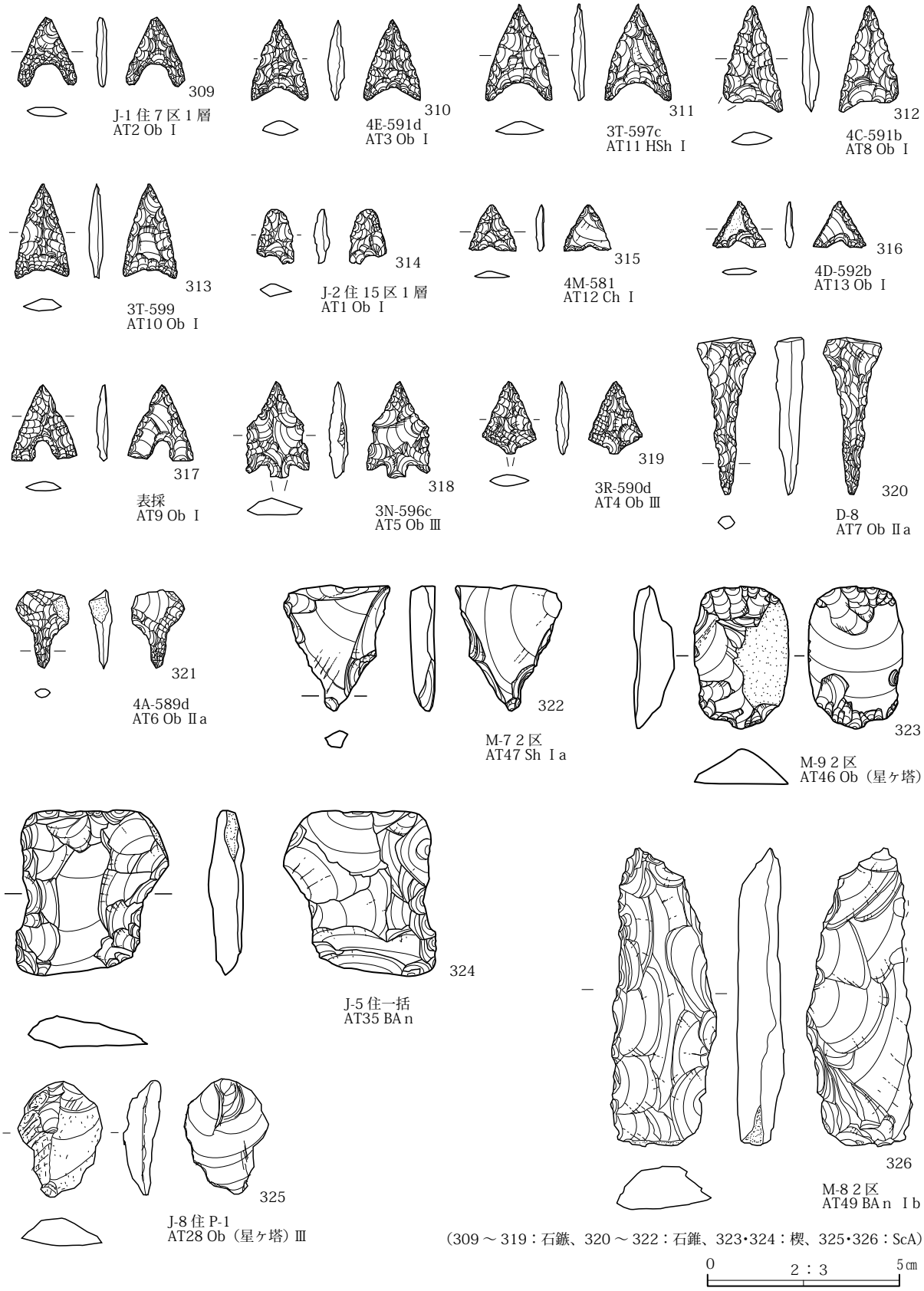


第 509 図　人見東向原遺跡（縄文）出土石器（3）

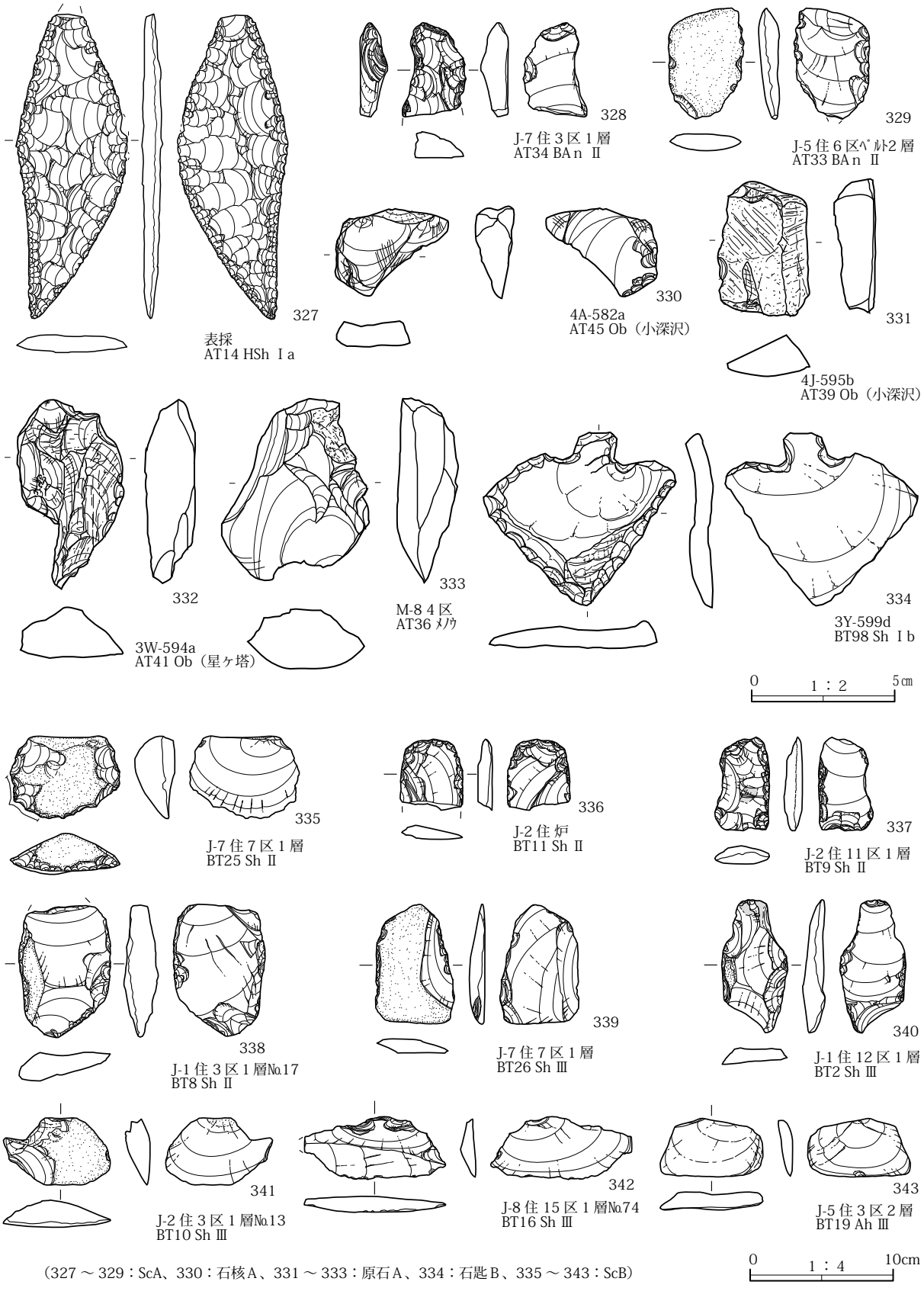


（299：石錐・ScB、300：石匙B、301･302：ScB、303：凹石、
304：石皿、305･306：砥石、307･308：石製品）

第 510 図　人見向原遺跡（縄文）出土石器

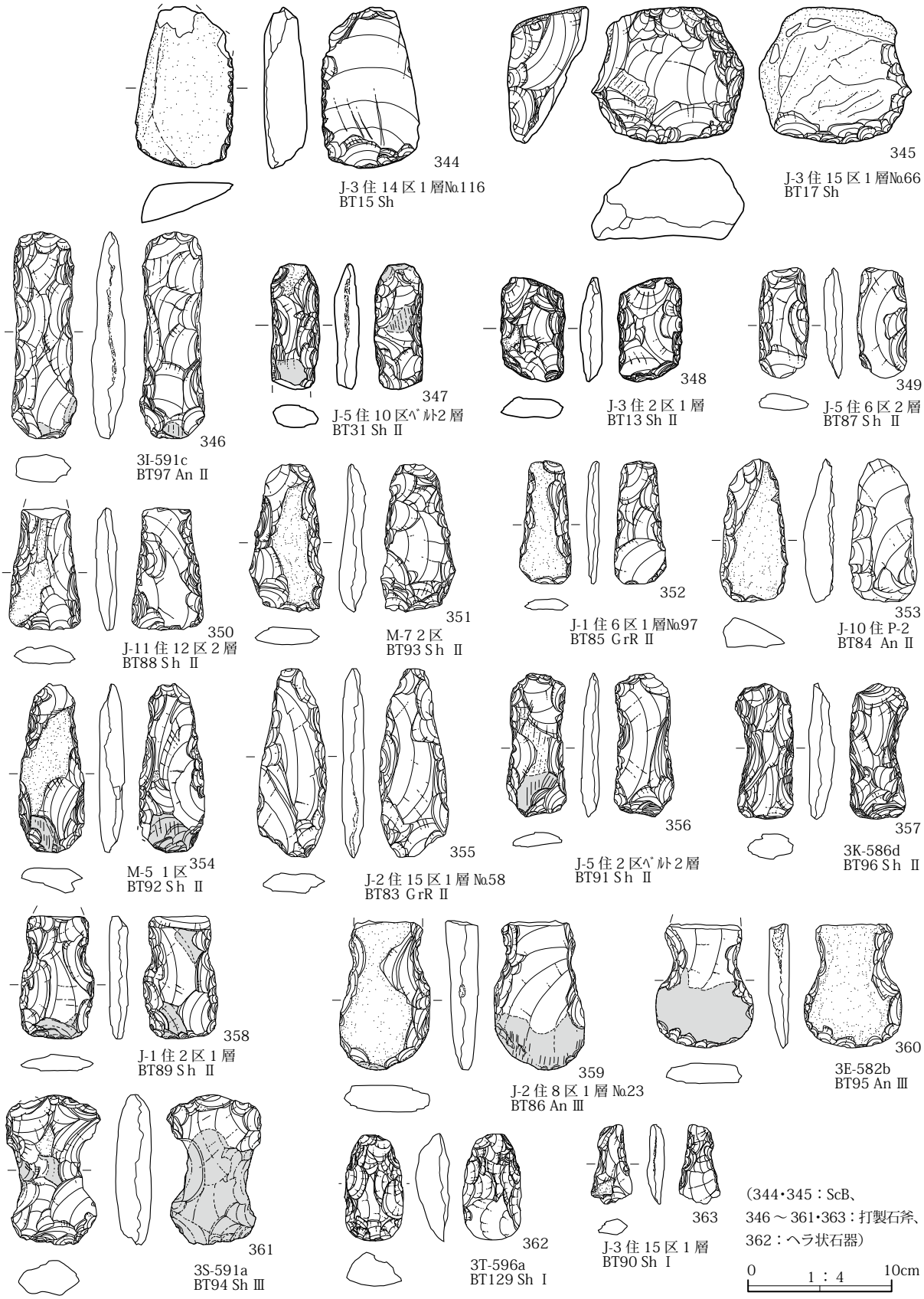


第 511 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（1）

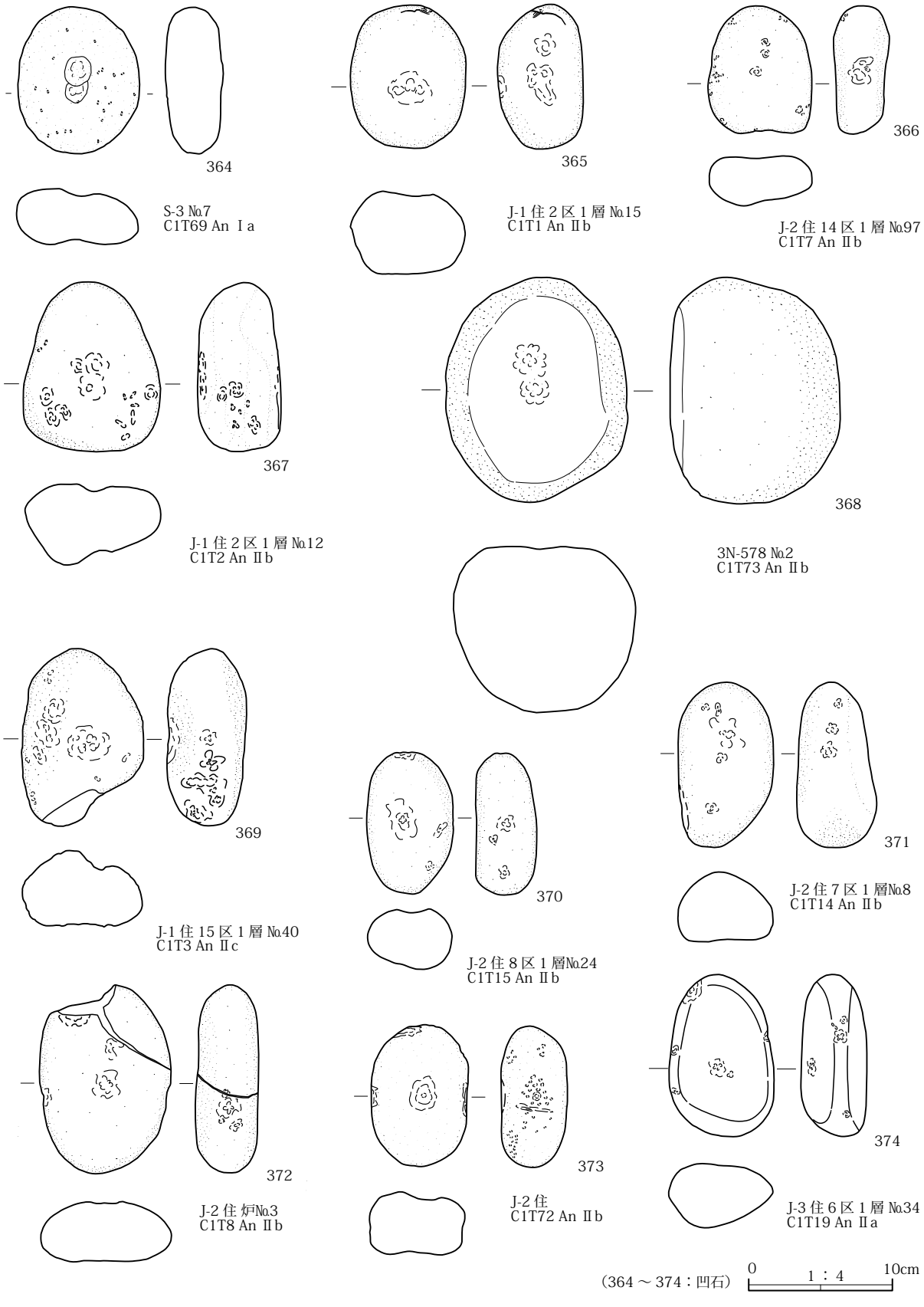


（327 ～ 329：ScA、330：石核 A、331 ～ 333：原石 A、334：石匙 B、335 ～ 343：ScB）

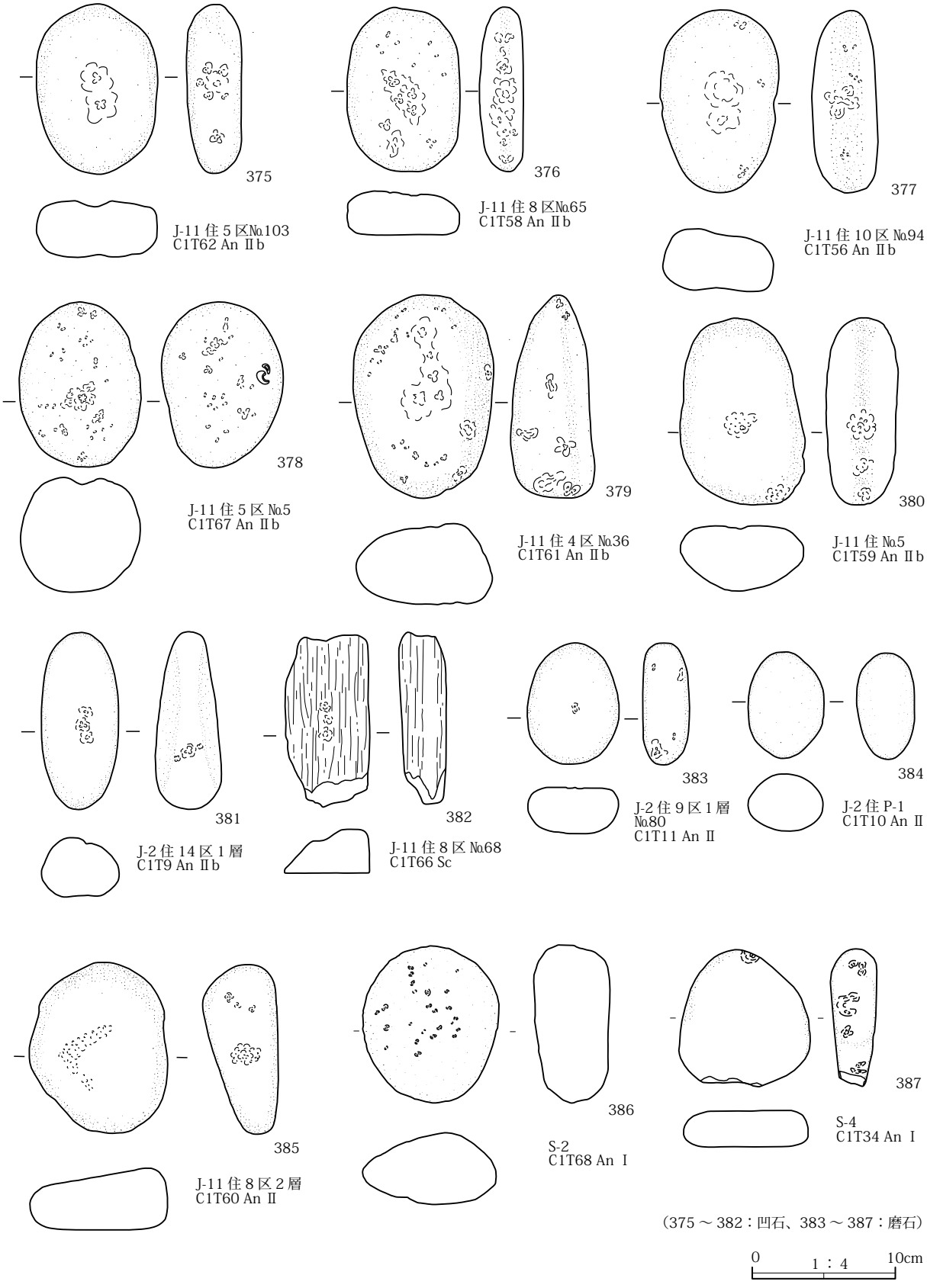
第 512 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（2）



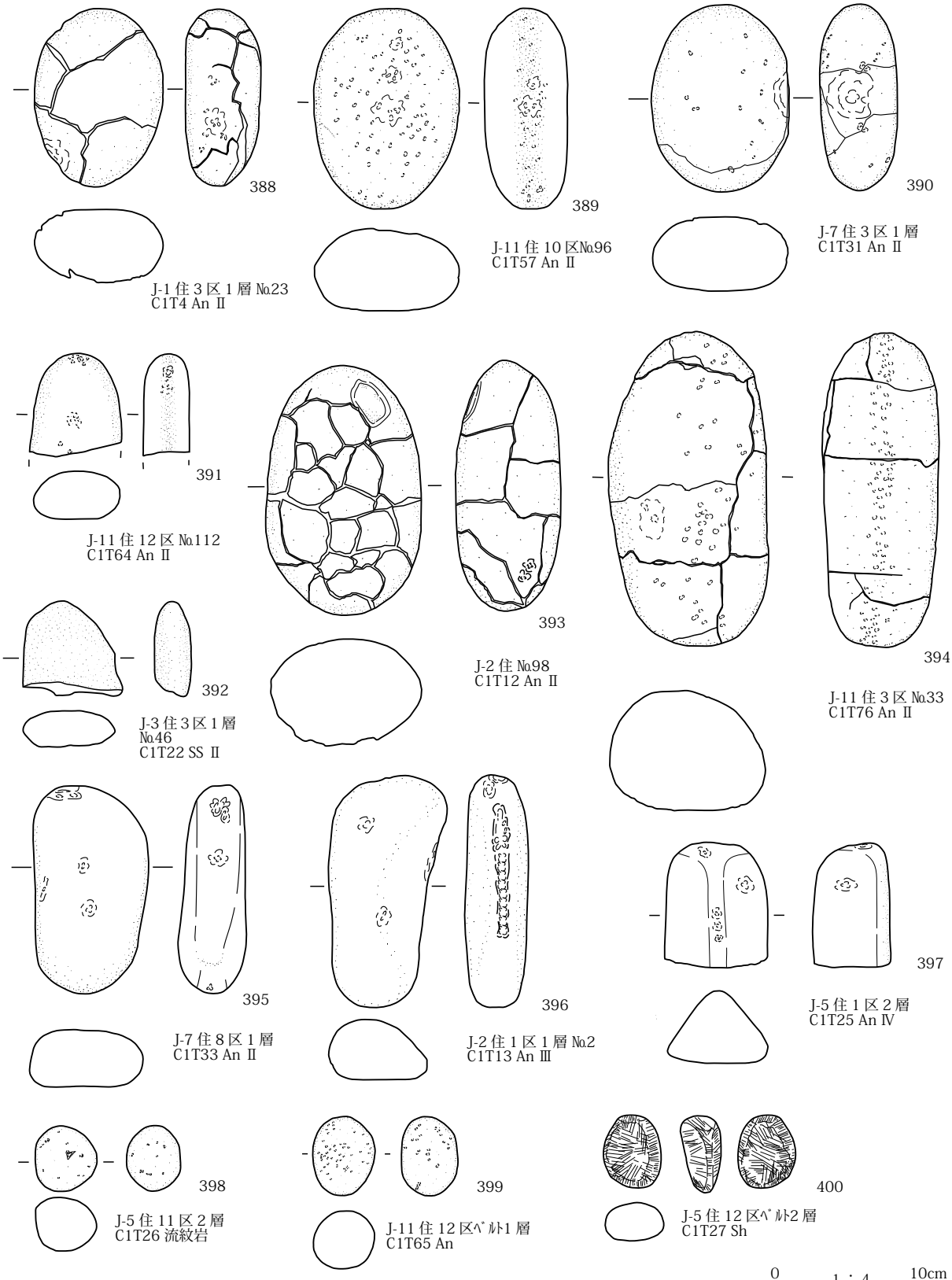
第 513 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（3）



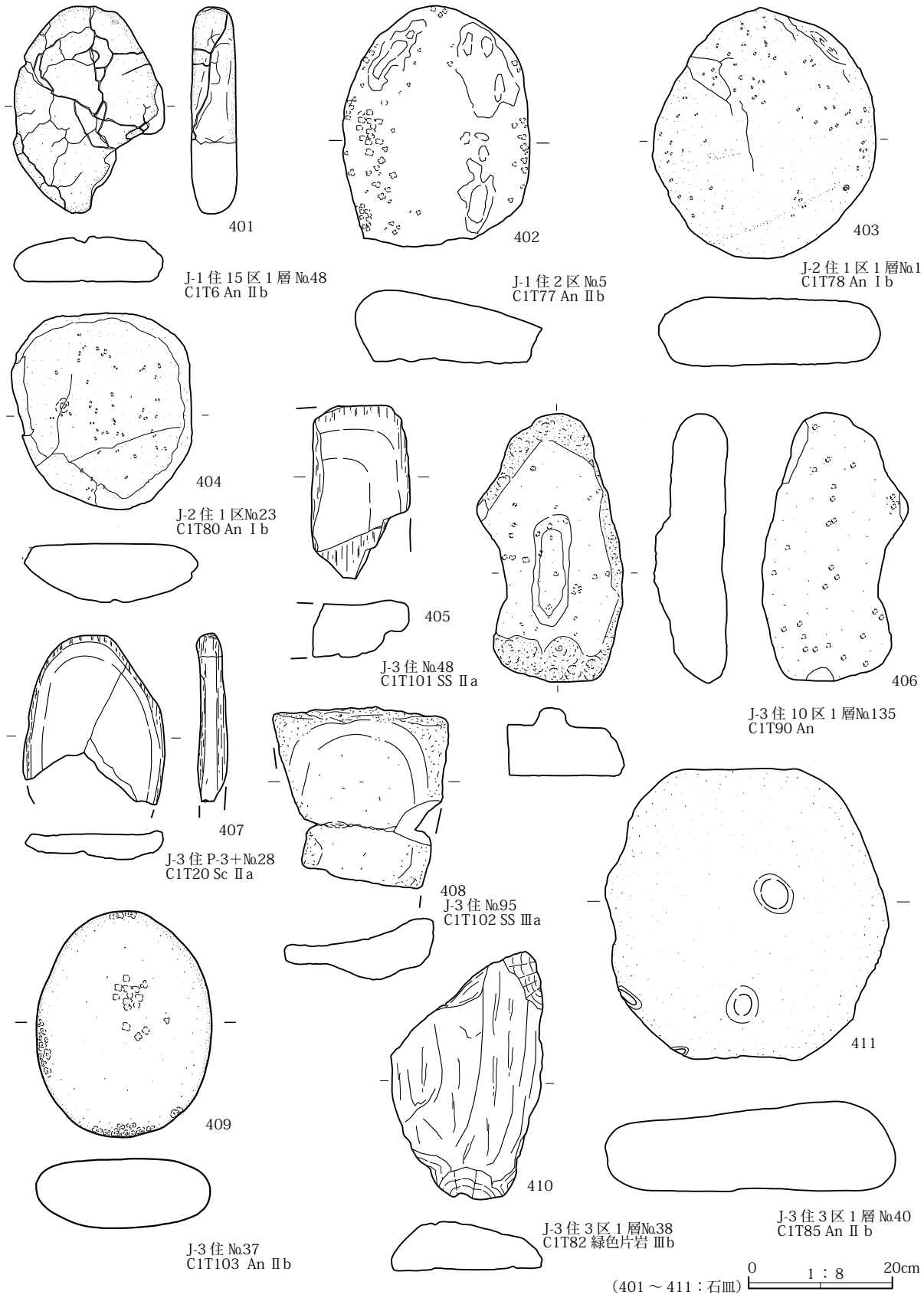
第 514 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（4）



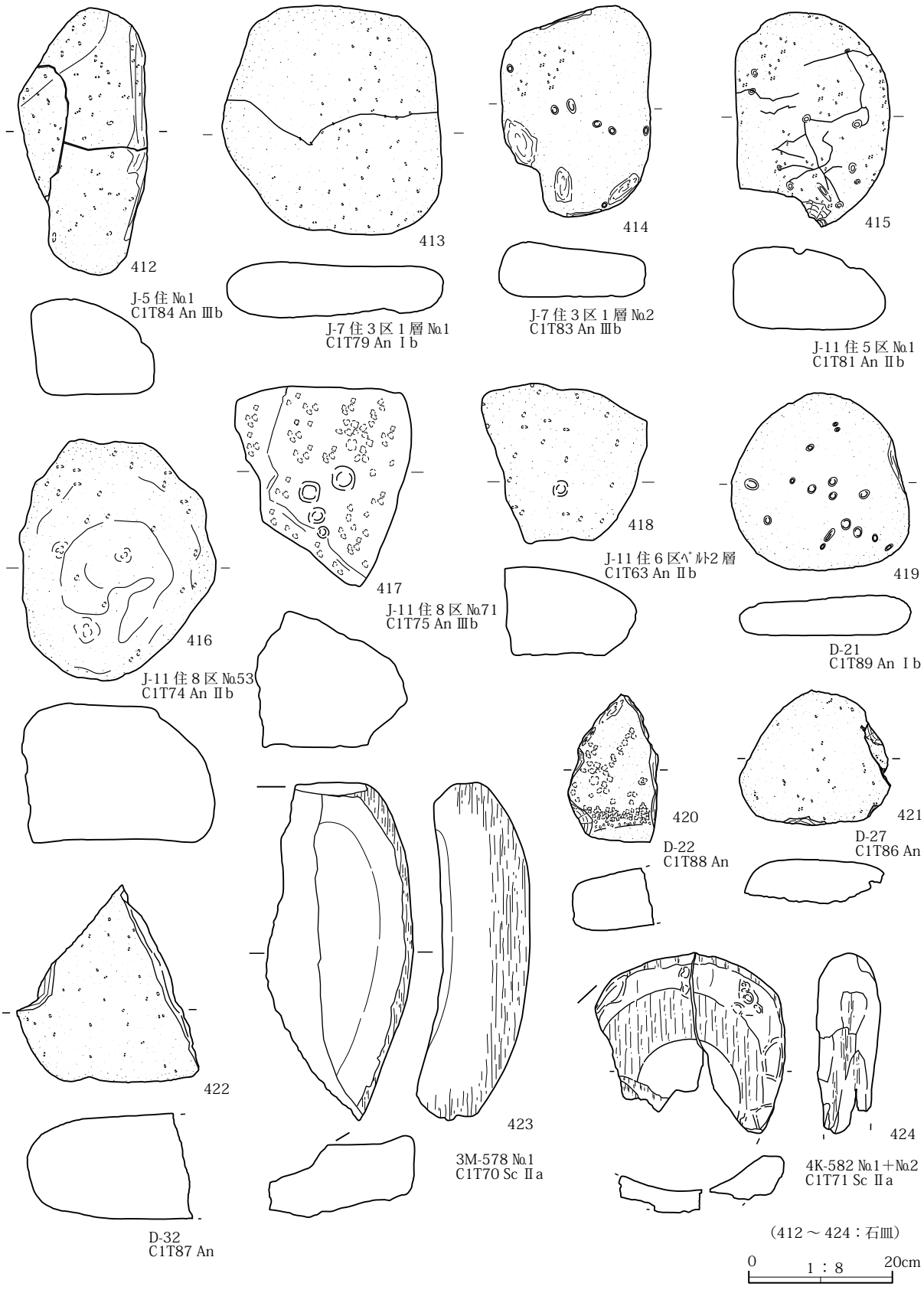
第 515 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（5）



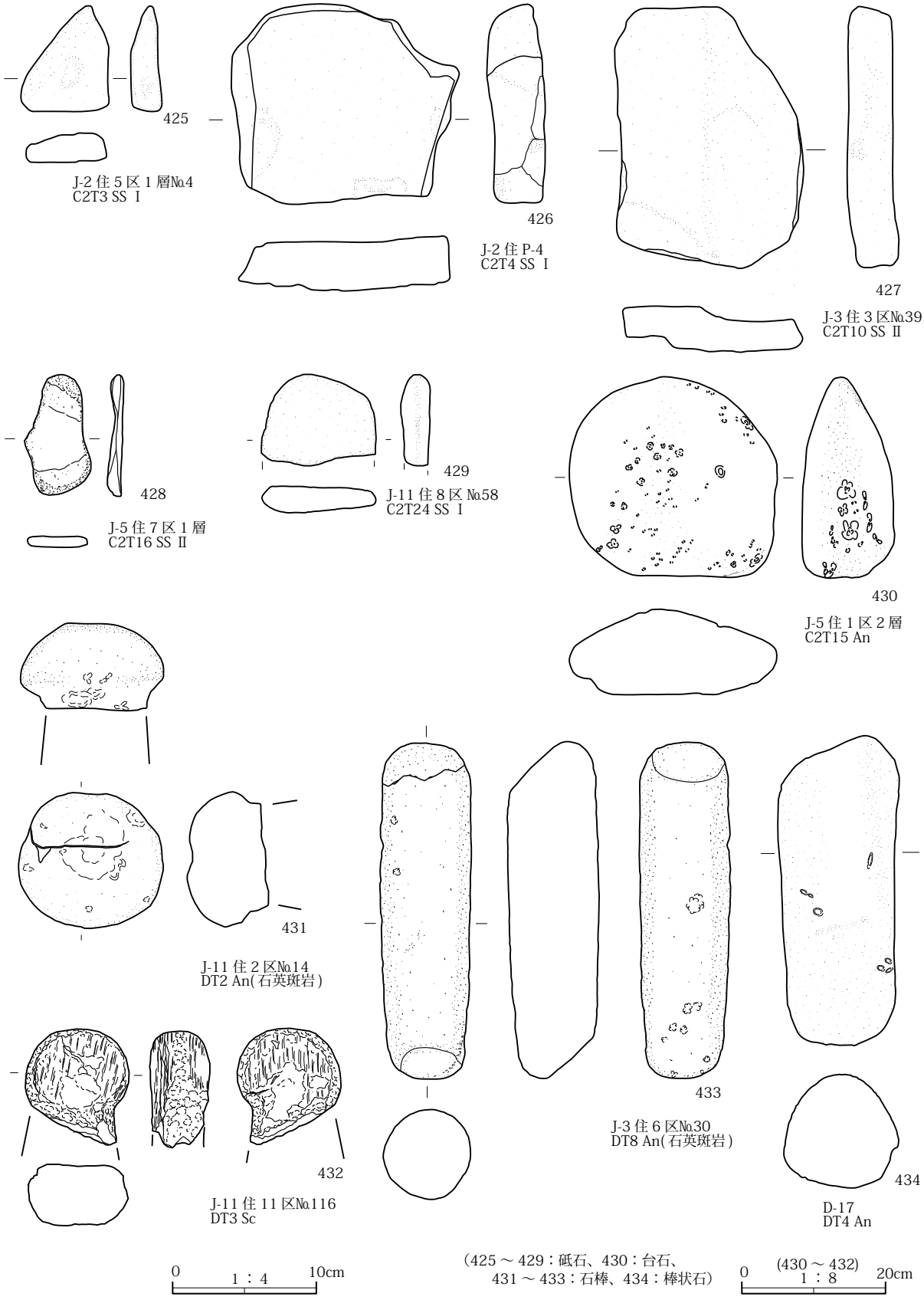
第 516 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（6）



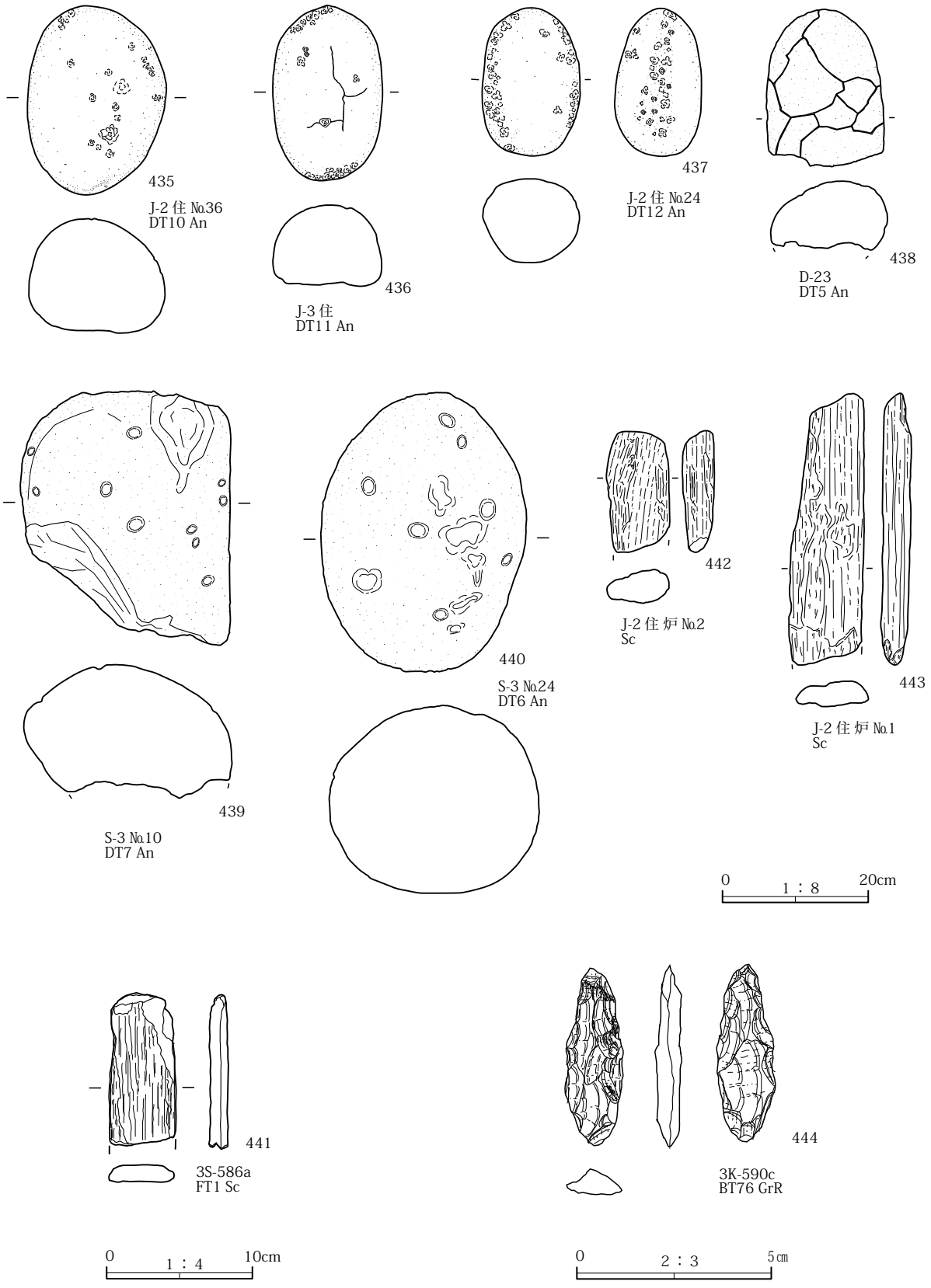
第 517 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（7）



第 518 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（8）

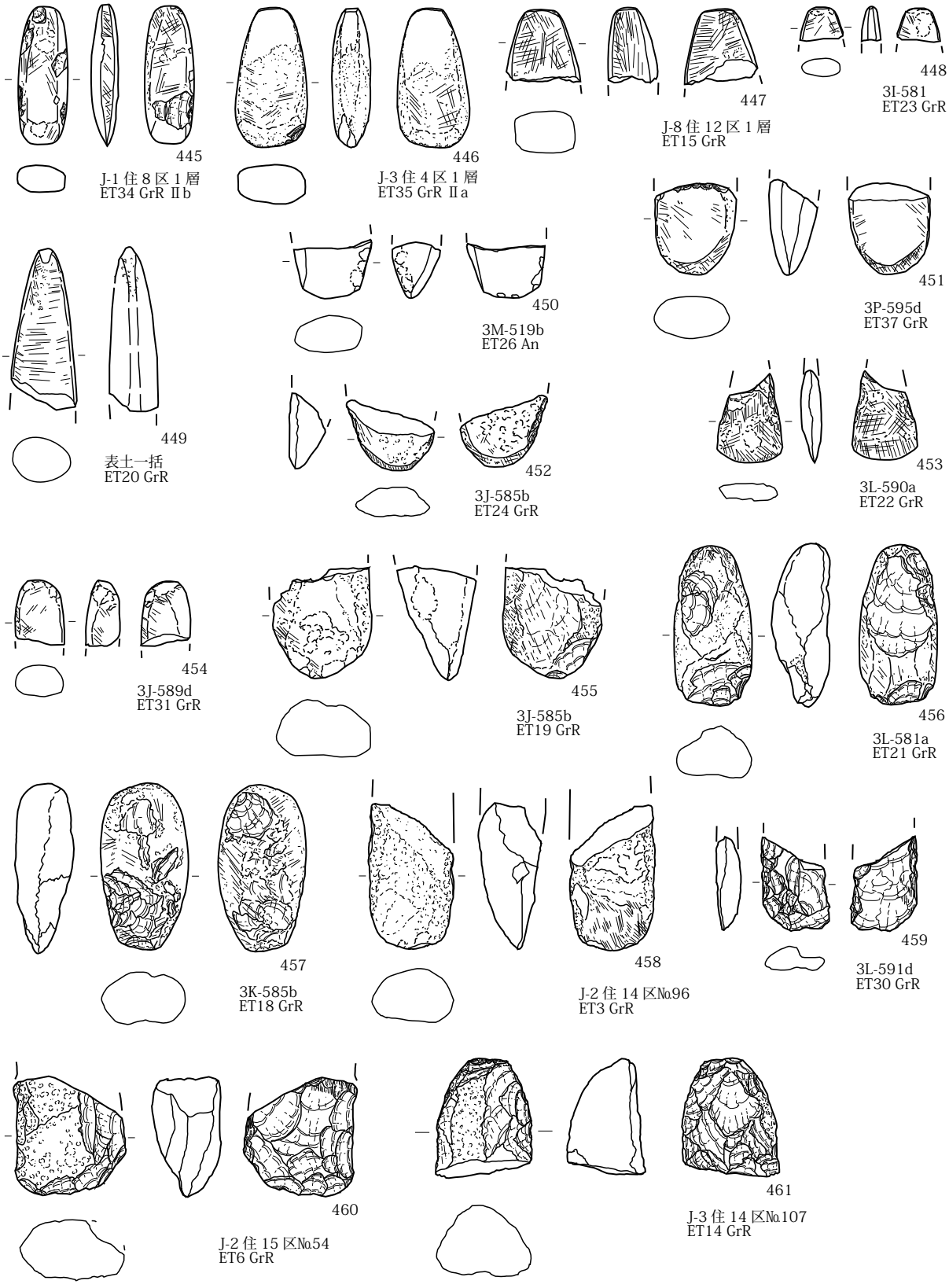


第 519 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（9）



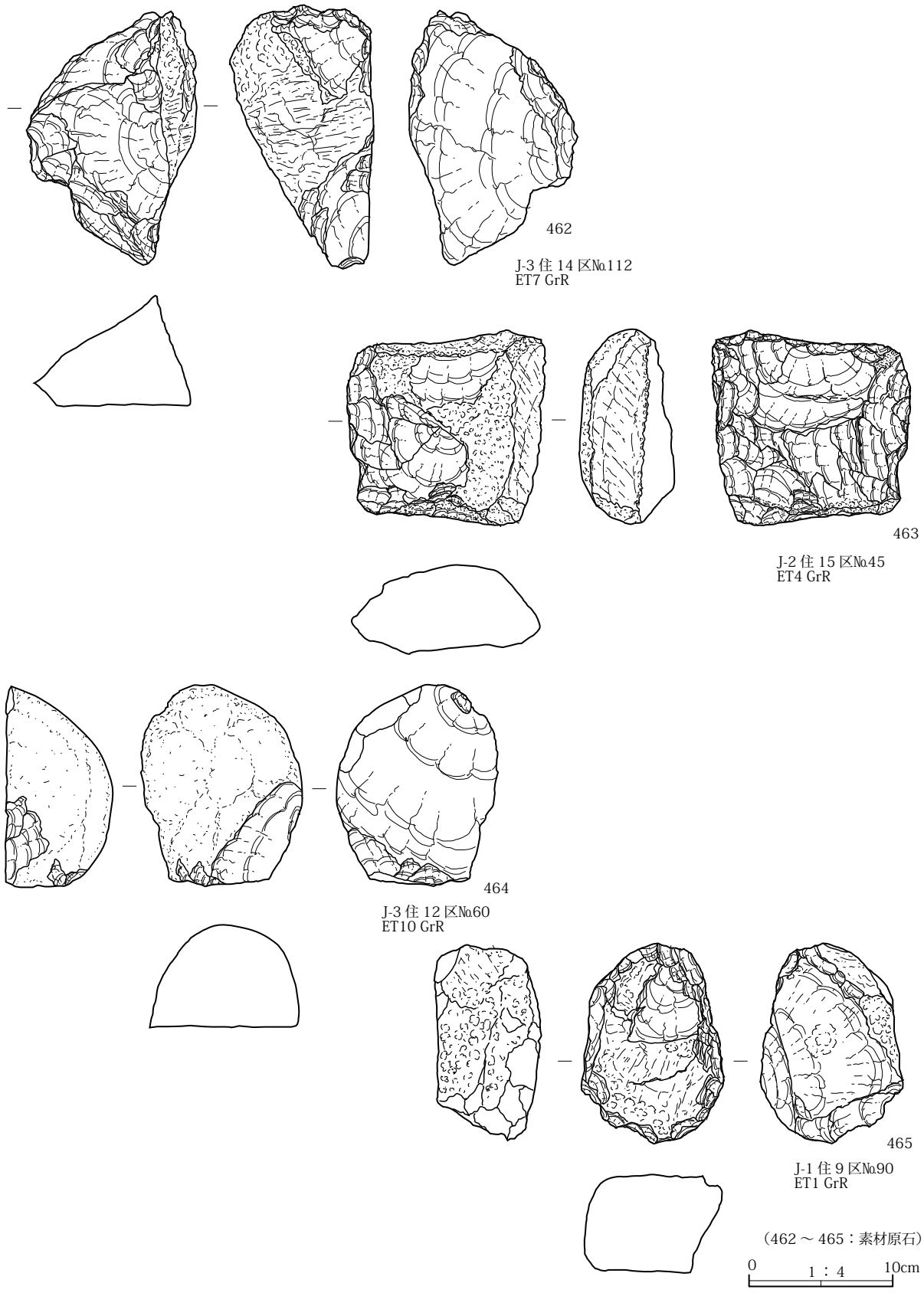
（435 ～ 440：多孔石、441：石製品、442･443 搬入礫、444：槍状石製品）

第 520 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（10）

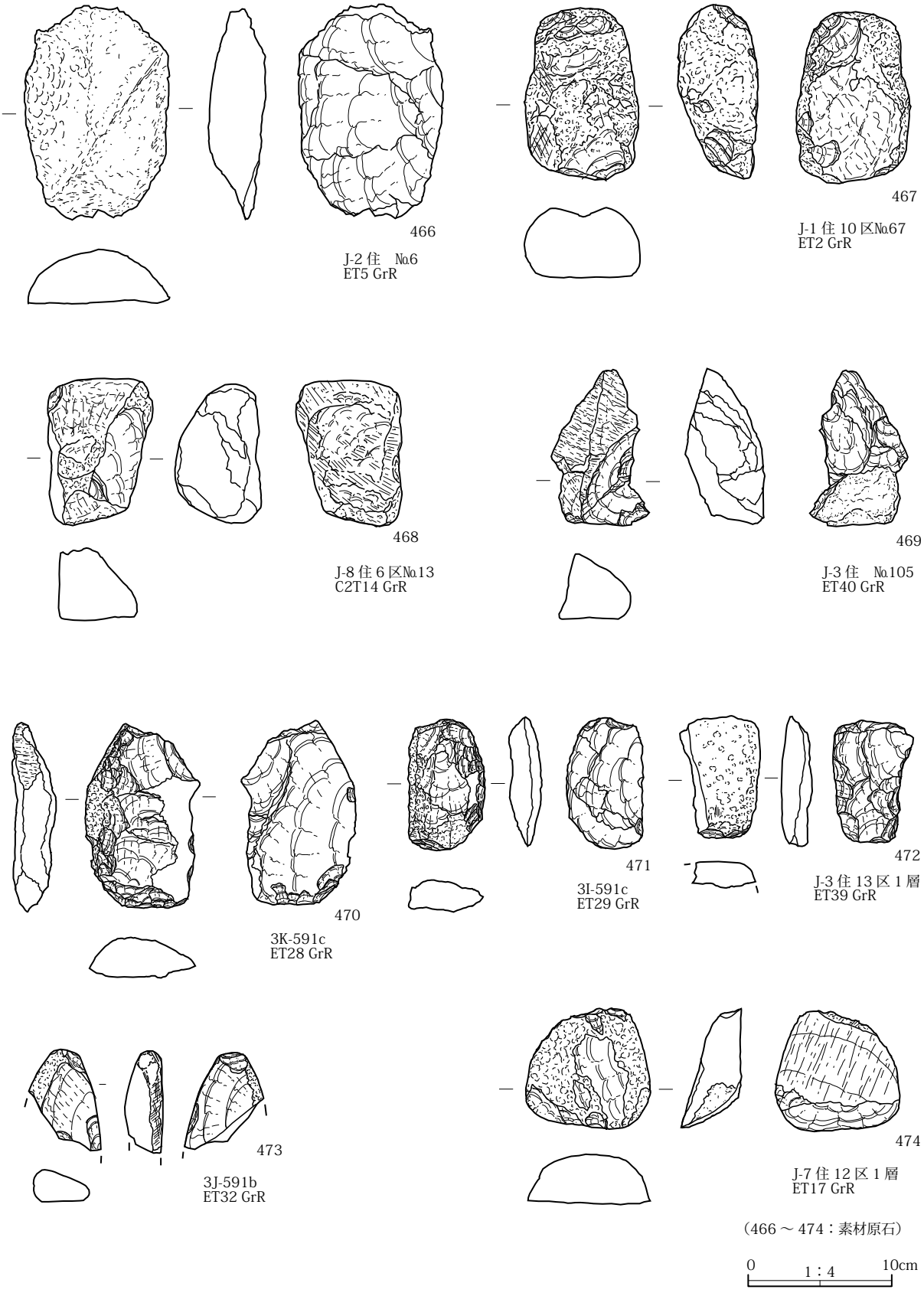


（445 ～ 450：磨製石斧、451 ～ 459：磨製石斧未成品、460･461：素材原石）

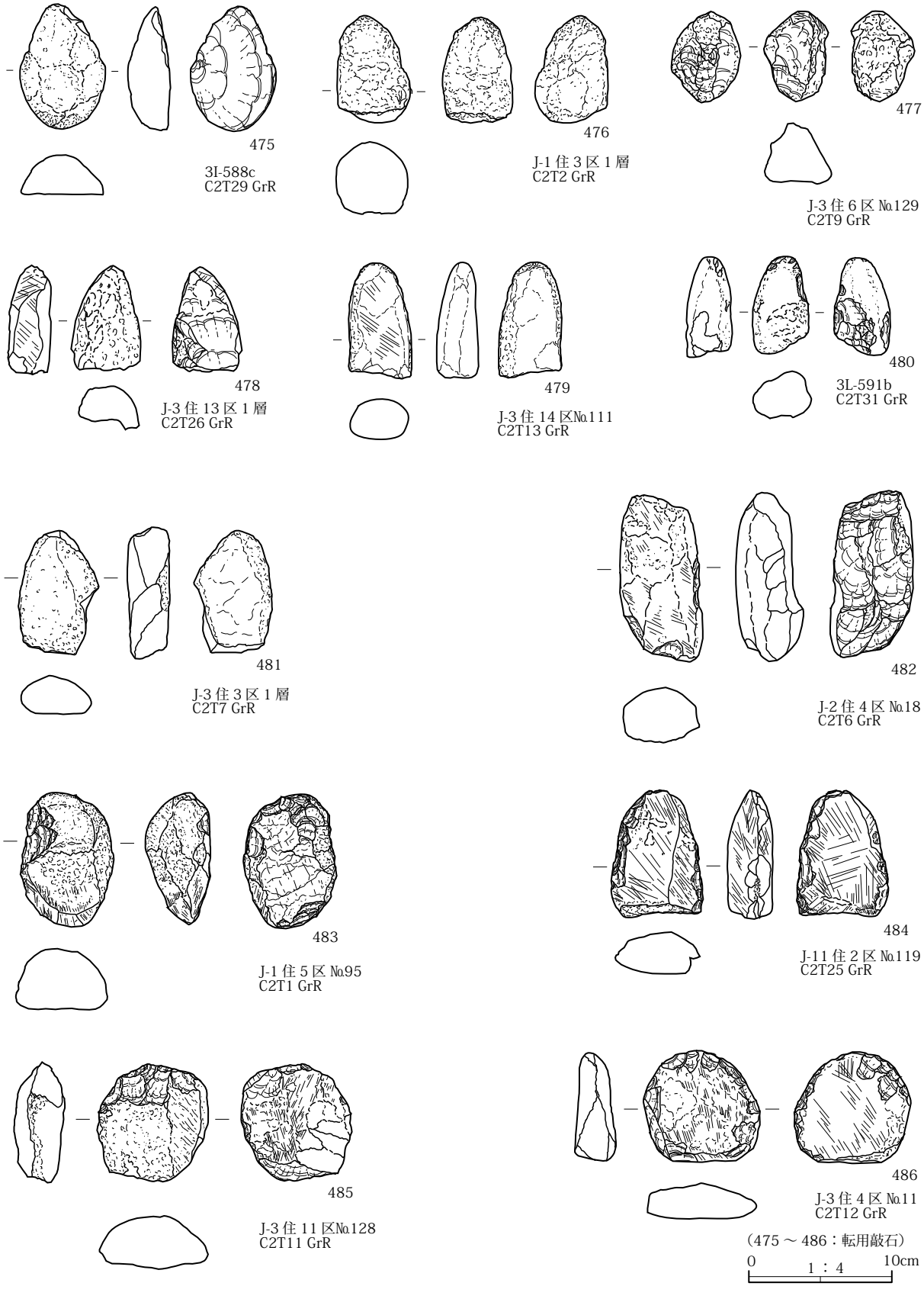
第 521 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（11）



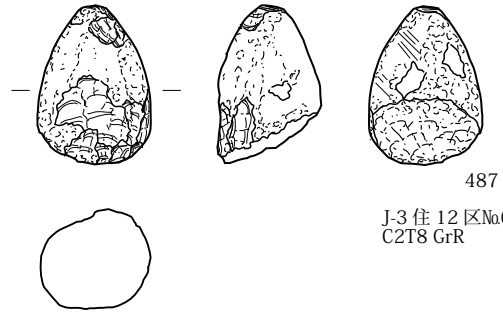
第 522 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（12）



第 523 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（13）

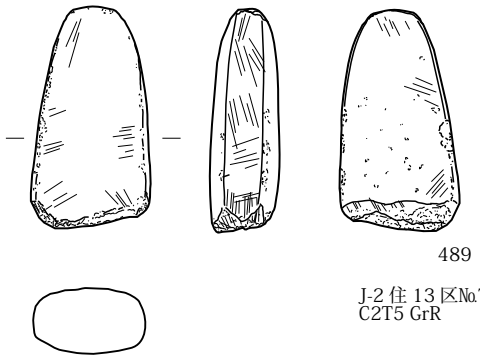


第 524 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（14）

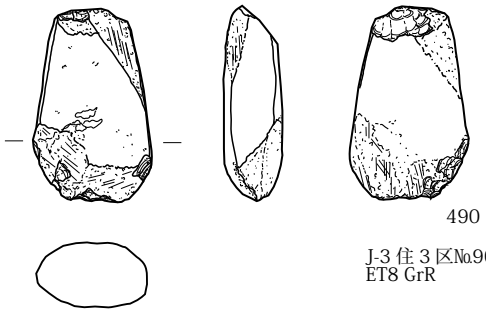


487
J-3 住 12 区№62
C2T8 GrR

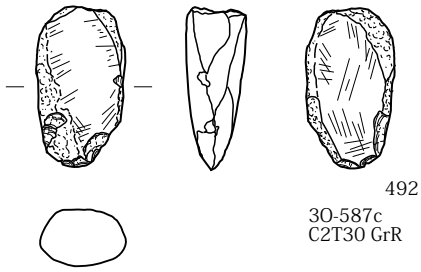
488
J-3 住 8 区№53
ET13 GrR



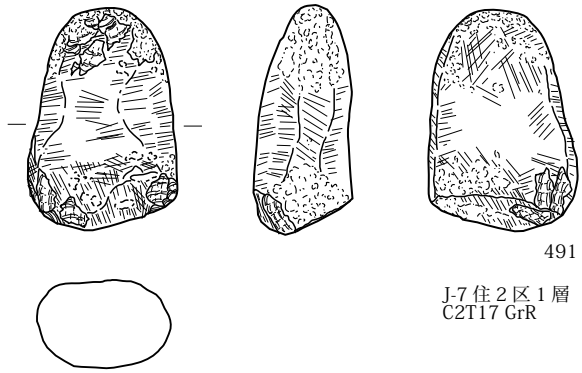
489
J-2 住 13 区№78
C2T5 GrR



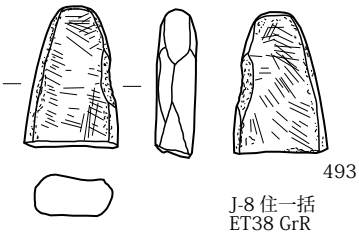
490
J-3 住 3 区№90
ET8 GrR



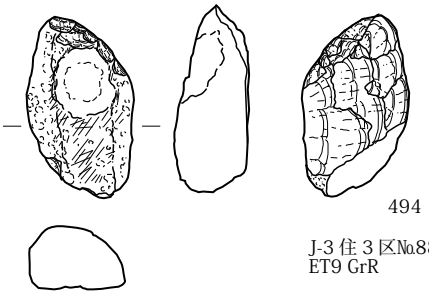
492
3O-587c
C2T30 GrR



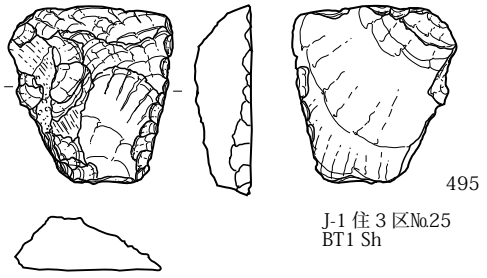
491
J-7 住 2 区 1 層
C2T17 GrR



493
J-8 住一括
ET38 GrR



494
J-3 住 3 区№88
ET9 GrR

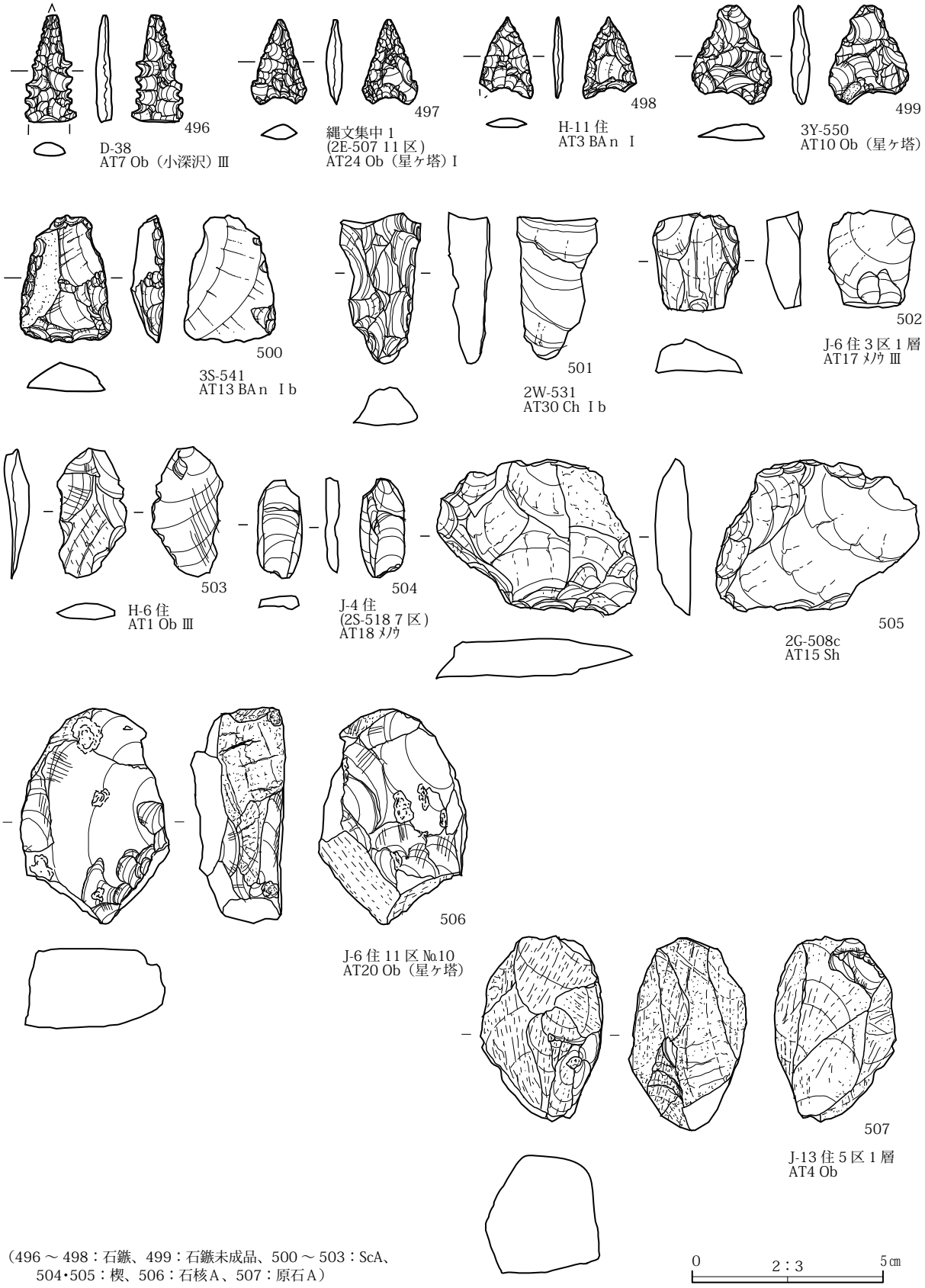


495
J-1 住 3 区№25
BT1 Sh

（487 ～ 494：磨製石斧転用敲石、
495：転用スクレイパー）

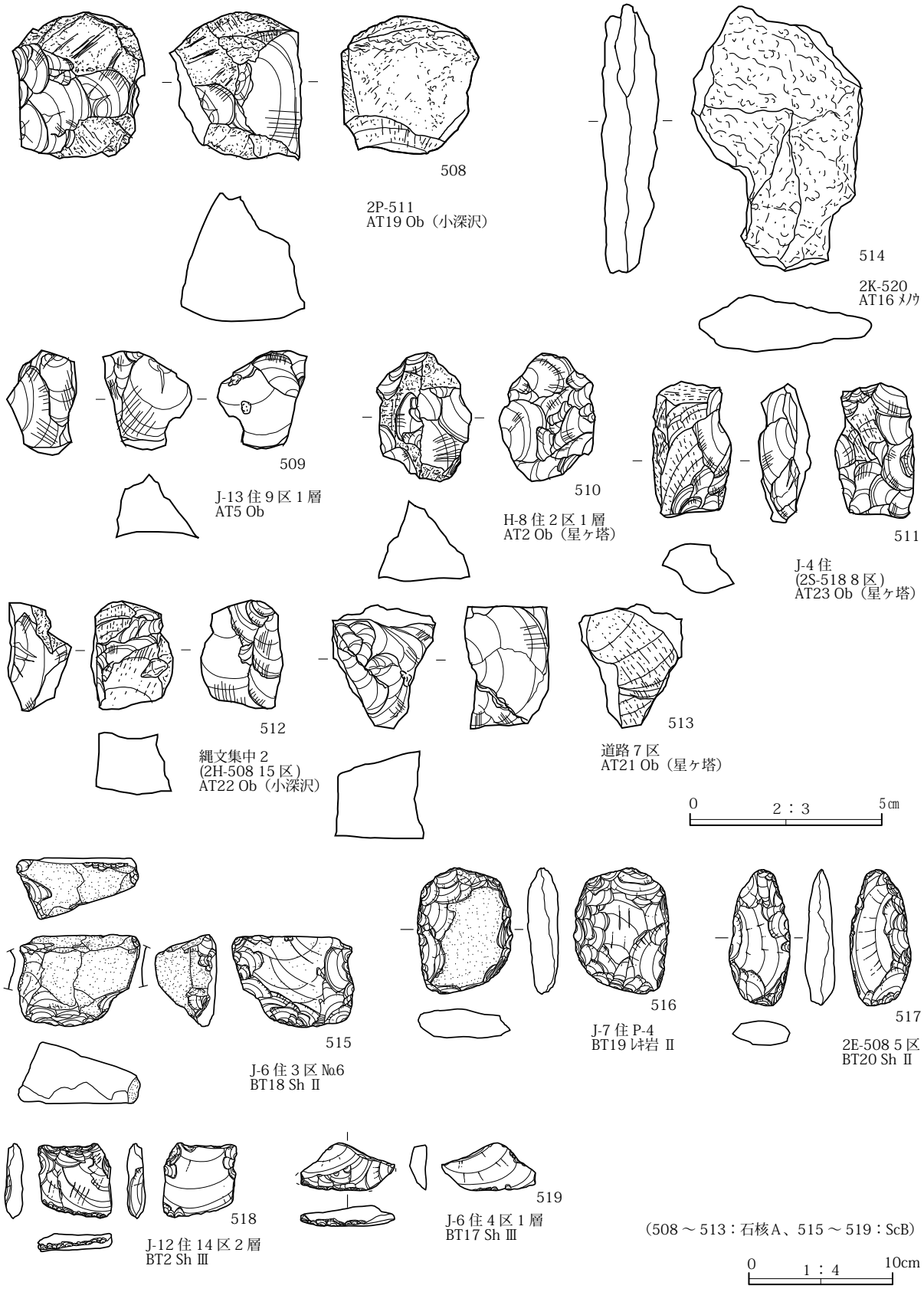
0　1 : 4　10cm

第 525 図　人見東中原遺跡（縄文）出土石器（15）

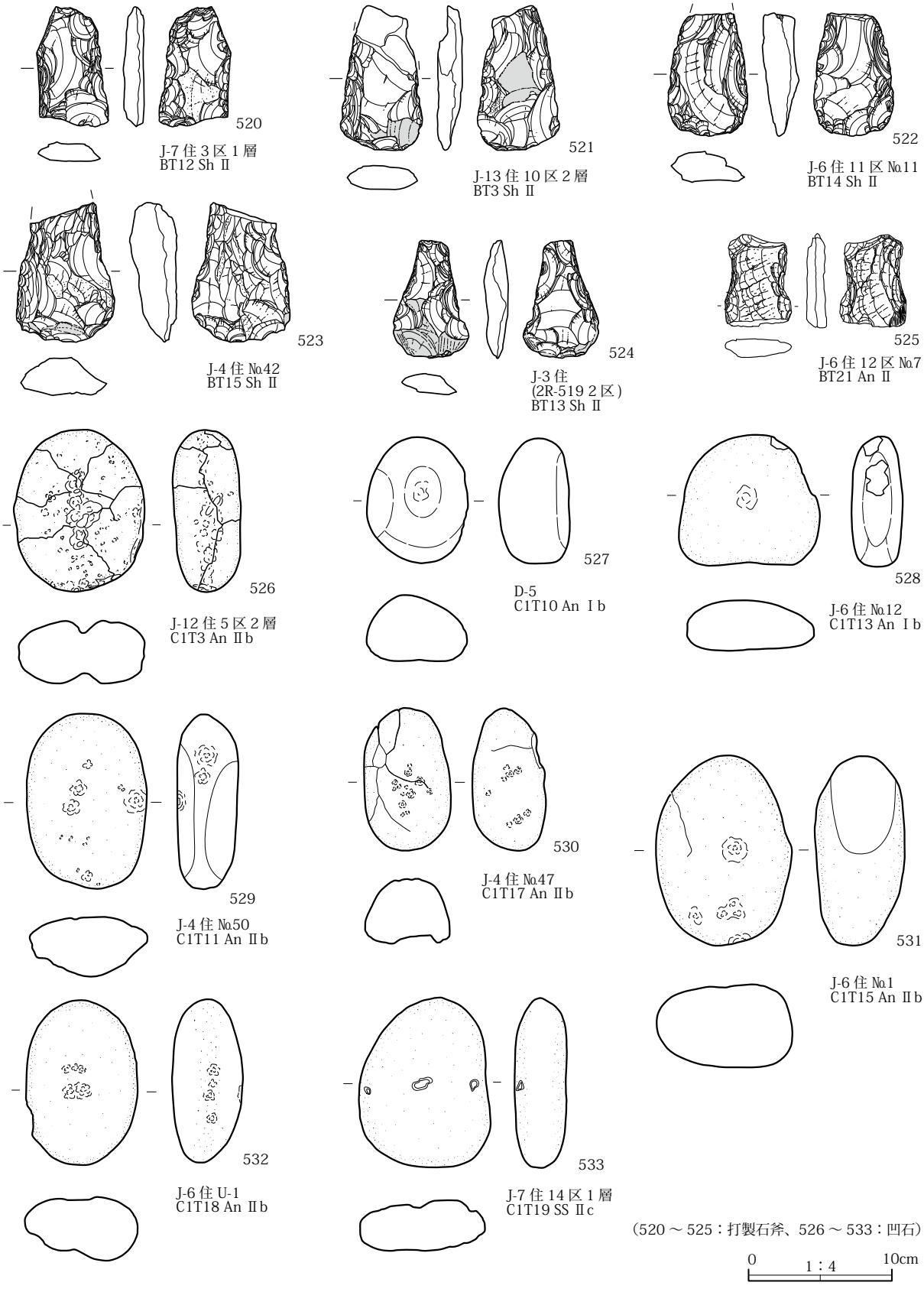


（496 ～ 498：石鏃、499：石鏃未成品、500 ～ 503：ScA、
504･505：楔、506：石核Ａ、507：原石Ａ）

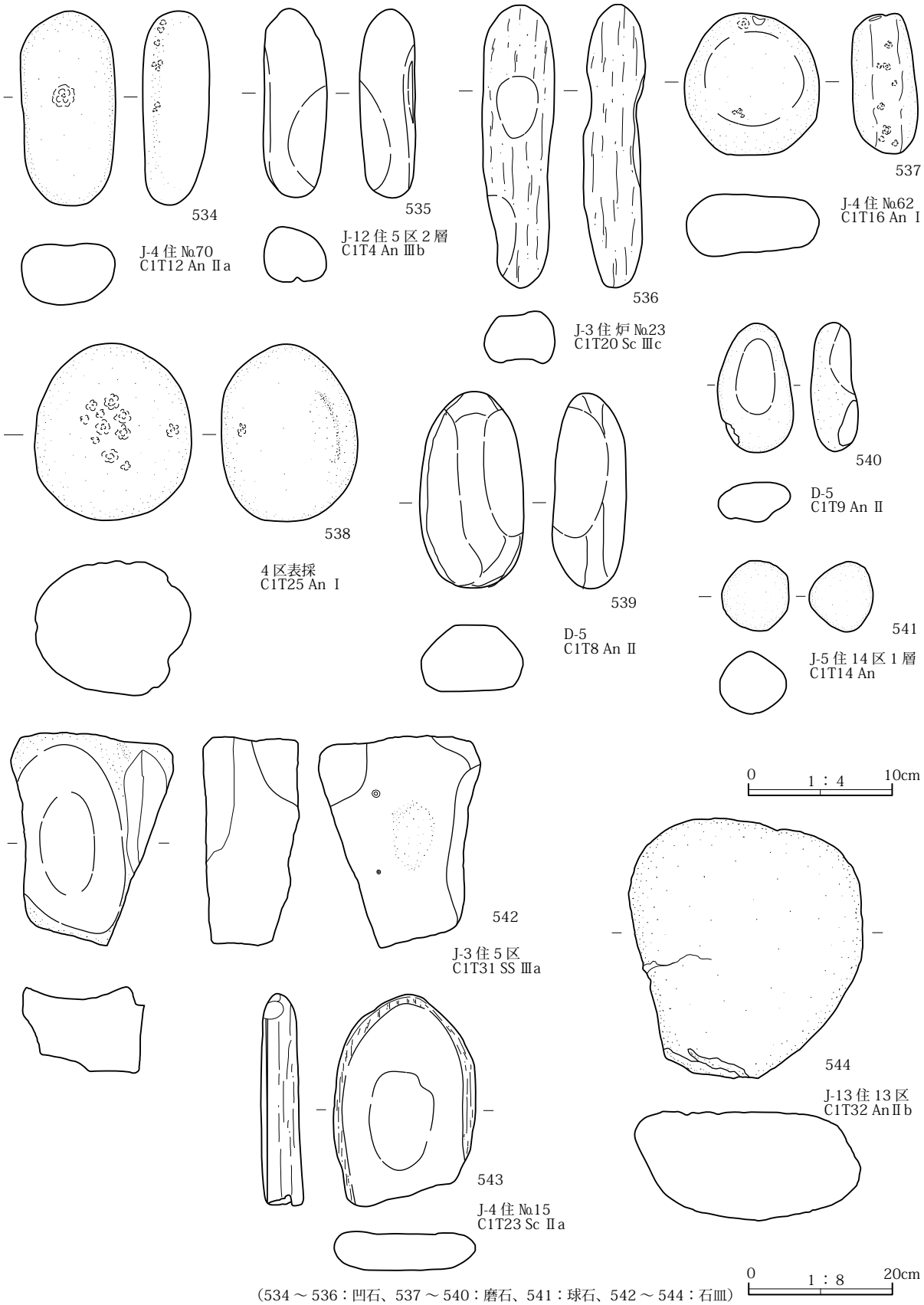
第 526 図　人見西中原遺跡（縄文）出土石器（１）



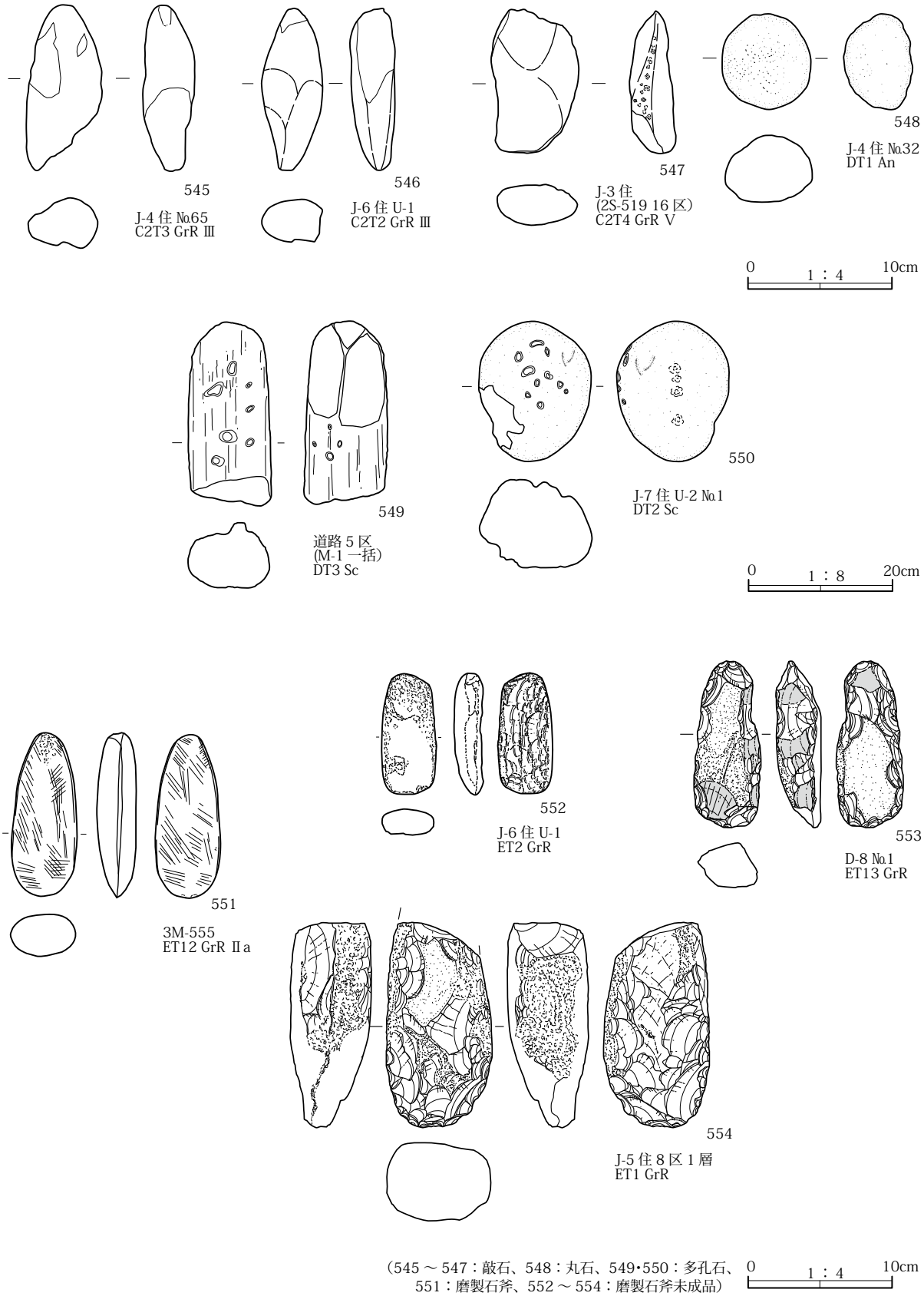
第 527 図　人見西中原遺跡（縄文）出土石器（2）



第 528 図　人見西中原遺跡（縄文）出土石器（3）



第 529 図　人見西中原遺跡（縄文）出土石器（4）



第 530 図　人見西中原遺跡（縄文）出土石器（５）

３　弥生時代の遺物

（１）弥生土器

人見西中原遺跡出土の前期末～中期前半の土器群（第531・532図、第76表）

壺(１～６)　１は条痕文系で棒状工具を束ねた原体による横位条痕文・縦位羽状条痕文が施文される。２・３は斜位の条痕が施され、４は羽状の意識が窺える。５は無文でミガキが施される。６は縄文地に横位沈線が施文される。縄の節が大きく縄文土器の可能性も残る。

甕(７～29)　条痕文系、縄文施文系の順に掲載した。７～20は概ね前期末葉～中期初頭、21～29は中期前葉～中葉に比定される。

７～９は沖式の有文甕である。ハケメ様の条痕地に横位の沈線が施される。

10～20は条痕文系の胴部片を一括した。なお、胴部片は器種の区別が困難であるため、壺ないし深鉢の可能性もある。いずれも斜位方向の条痕で原体はハケメ様の細かいもの、棒状工具を束ねたもの、貝殻風の太い条痕などがみられる。

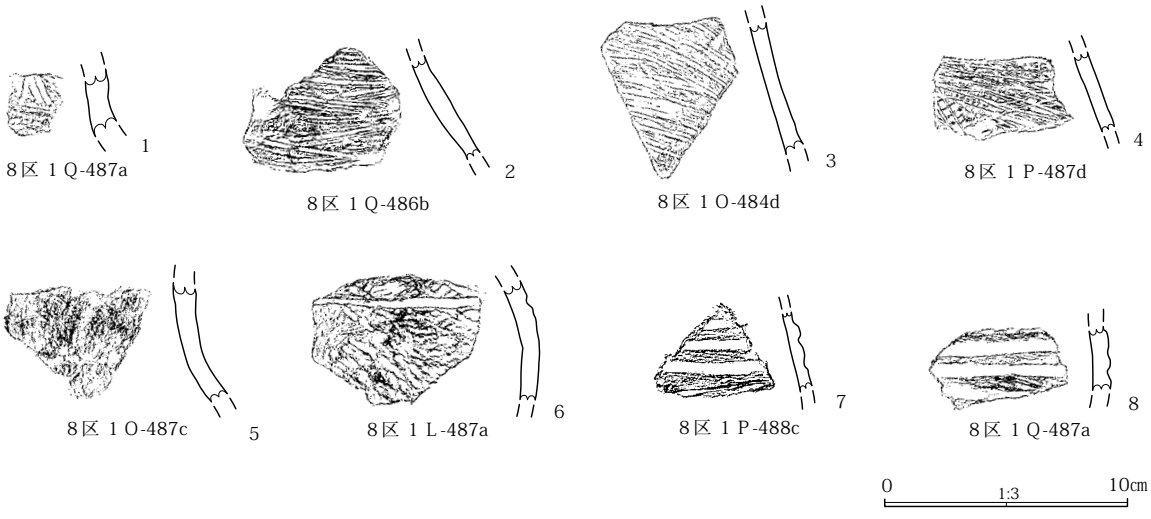
21～23は中期中葉の神保富士塚式に比定される。横位の条痕と波状文が交互に施文され、条の整った硬質な工具を使用している。

25～28は中期前葉岩櫃山式の有文甕である。口縁部に縄文を施文し、直下に１条の横位沈線が施文される。口唇部は25・27など角頭状となるものがある。

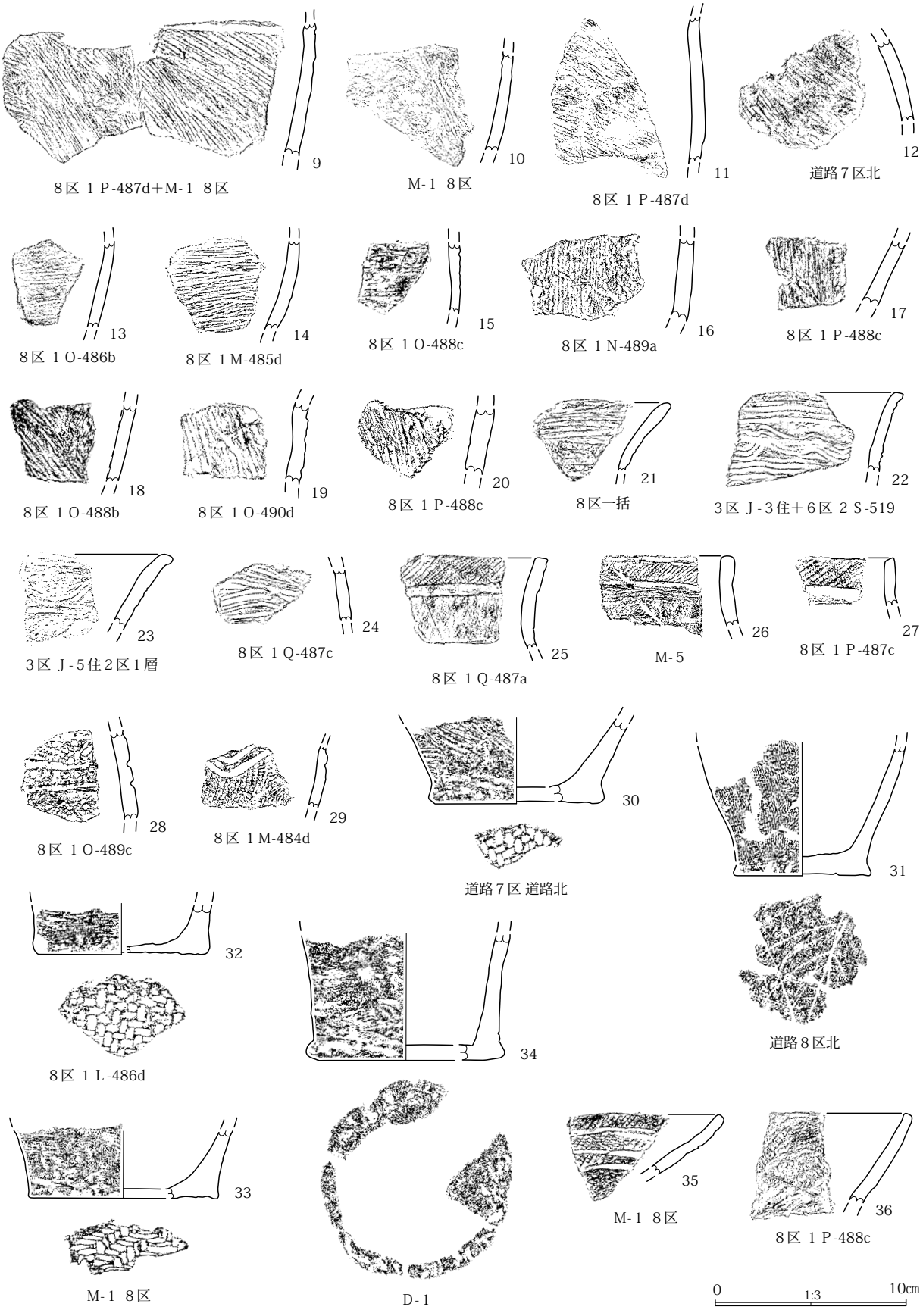
29は中期中葉に比定され、沈線による横位波状文が施文される。

底部片(30～34)　壺・甕・深鉢いずれかの底部片を一括した。地文は30が条痕、31が撚糸文、32～34が無文である。底部圧痕は網代痕(30・32・33)が最も多く、木葉痕(31)もみられる。

浅鉢(35・36)　縄文施文系の浅鉢でいずれも中期前葉に比定される。35は縄文地に数条の横位沈線が施文される。



第 531 図　人見西中原遺跡（弥生）出土土器（１）



第 532 図　人見西中原遺跡（弥生）出土土器（2）

上人見遺跡出土の前期末～中期前半の土器群（第533～542図、第77表）

壺(37～61)　37～58は中期前葉、59～62は中期中葉に比定される条痕文系の壺である。

37～43は比較的小型の壺で底部付近が膨らむ形態をなすと推定される。口唇部に棒状工具や指頭押捺でキザミを加えるもの(37・38)、単口縁のもの(39)がある。突帯をもつものは確認できない。頸部には乱雑な波状文を施文するもの（38）があり、藤岡市沖Ⅱ遺跡などに類例がある。

44は浮線文土器に組成する条痕壺の系統で口唇部は竹管状工具、口縁部は指頭押捺によるキザミが加えられる。条痕は比較的細かく、縦位方向に施される。量的には非常に少ない。

45～48は中～大型の壺で肩が張り、底部がすぼまる器形をなす。条痕は櫛歯状工具によって概ね下から上に施されている。47・48は大ぶりな波状文が施文される。

49～59は羽状条痕文を施文する一群で横羽状文が多数を占め、縦羽状（49・50・59）は少ない。原体は棒状工具を束ねた太く、密度の薄い工具である。51は縦位の条痕文を施す。

60～62は縄文地に条痕で文様を施文する一群である。62は摩消縄文手法により文様が施文される。

甕(63～171)　63・65～85は前期末葉沖式の有文甕である。比較的細かい条痕を地文に持つものが多く、沈線により変形工字文や三角連繋文が施文される。64は口縁部に連弧文が施文され、中期中葉の可能性もある。

85は縄文地に沈線で変形工字文を施文する筒状の甕である。沈線の交点を三角形に抉り、三角形の底辺両端に２個一対の粘土粒が貼付される。前期末葉～中期初頭に比定される。

86～103は中期前葉岩櫃山式の有文甕である。地文は縄文で単節ＬＲ縄文が主体で、他に無節縄文が見られる。口唇部は角頭状をなすものが多く、口縁直下には一条の横位沈線、肩部には数条の横位沈線で文様体を区画する。頸部は無文帯となり、肩部から胴部上半にかけては工字文(97・98)が施文される。104は小片のため、判断に苦しむが、沈線による円文が施文され、中期中葉と推定した。

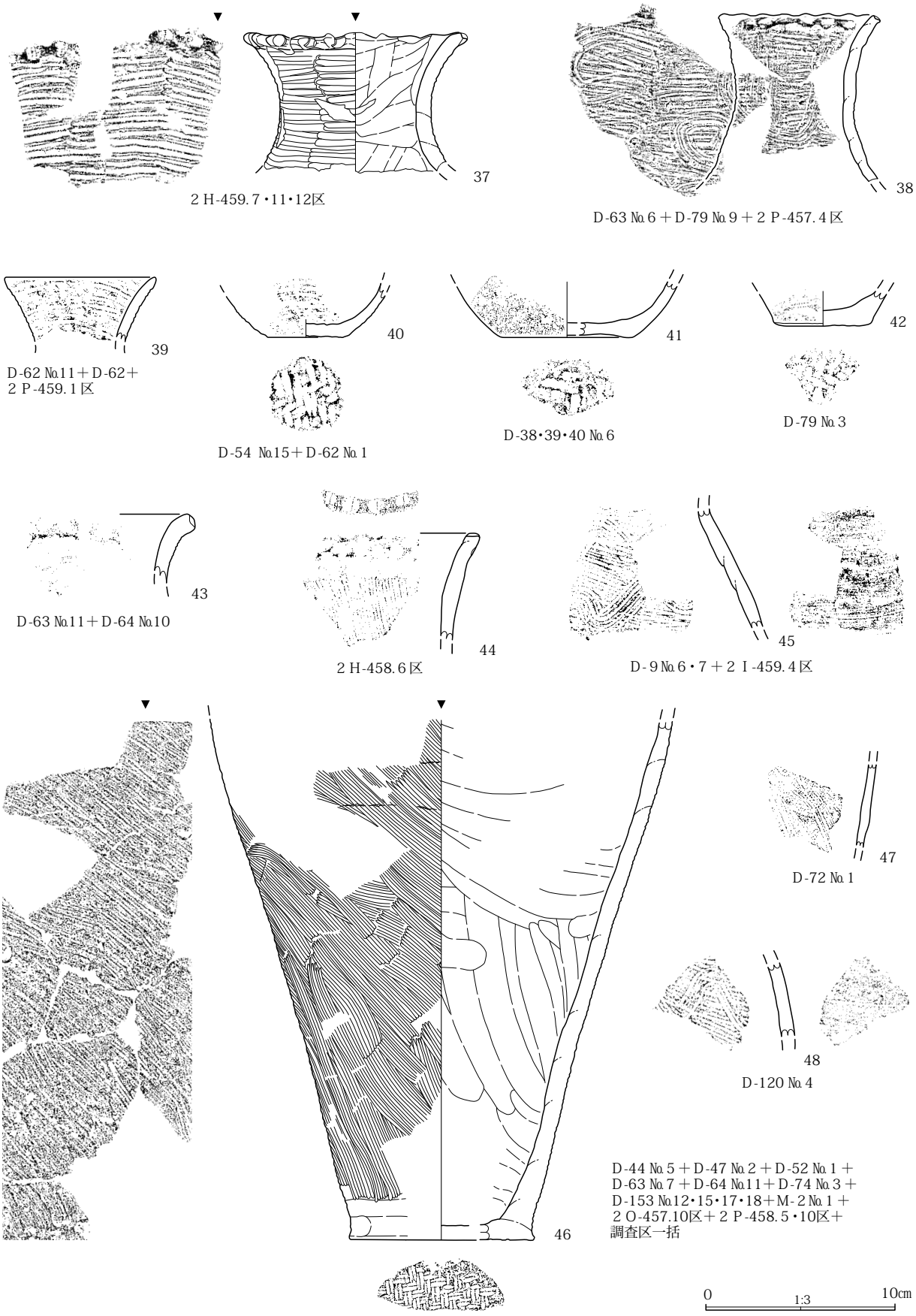
104～171は条痕甕の胴部片を一括した。出土土器の主体を占める。口縁部から頸部は無文で外反するものが多い。104は肩部に段をもつ。肩部から胴部下半には斜位方向を基調とした条痕が施され、原体はハケメ様の比較的細かいものが最も多く、断面Ｕ字状の櫛歯状工具がそれに続く。貝殻風の太い条痕などもみられるが、ごく少数である。なお、胴部片は器種の区別が困難であるため、壺ないし深鉢の可能性もある。また、有文甕の胴部も多分に含まれていると思われる。

深鉢(172～175)　口縁部が直線的に開く器形を呈する。172は口唇部は押捺によるキザミが加えられる。172・173は条痕地文、174・175は縄文地文である。

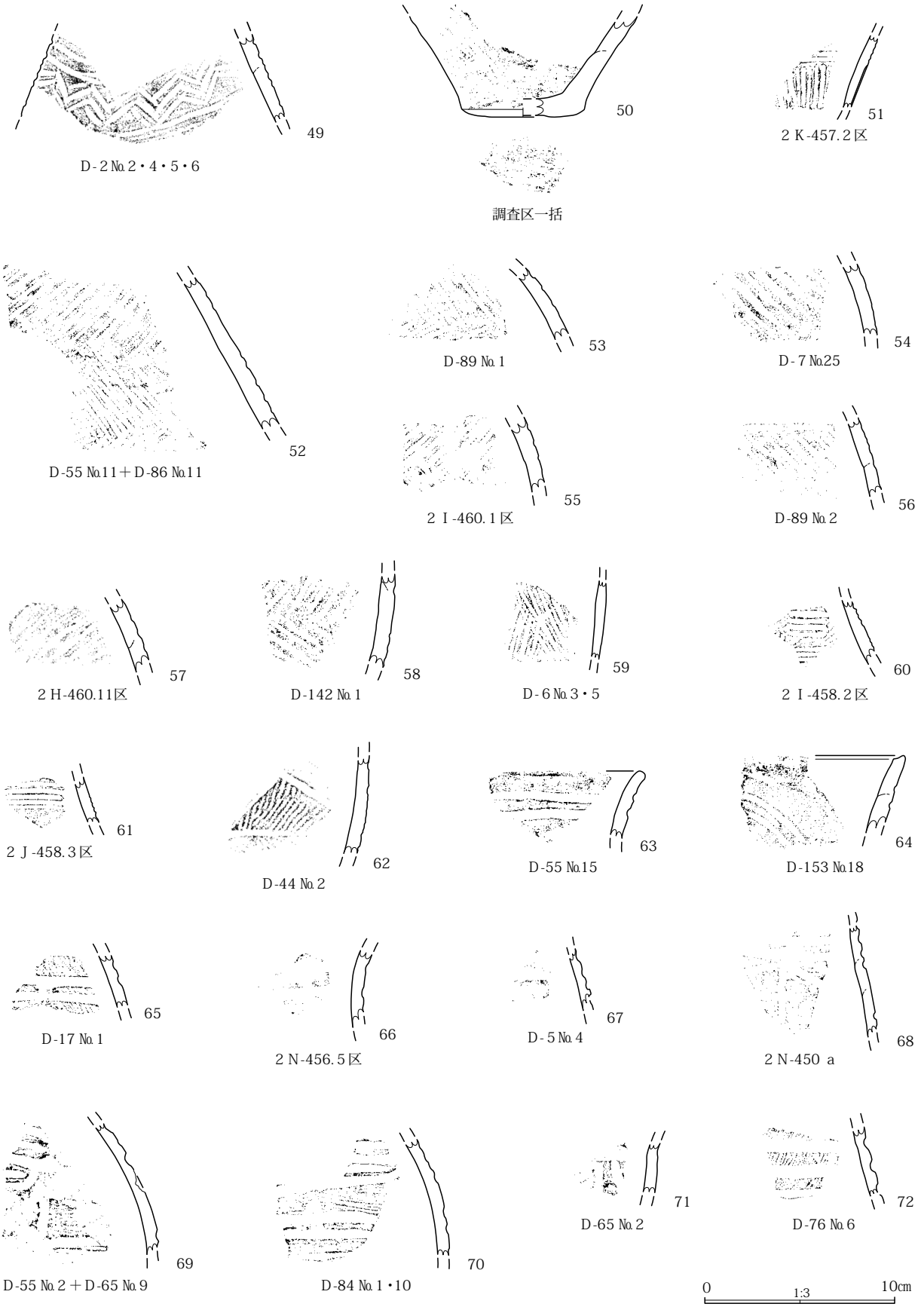
底部片(176～183)　壺・甕・深鉢いずれかの底部片を一括した。地文は条痕、縄文、無文がある。底部圧痕は網代痕(176・179・182)が多く、そのほか木葉痕(181)、ナデ調整のもの(178)がある。

浅鉢(184～187)　有文と無文の浅鉢があり、184は条痕地に横位沈線が施文される沖式の浅鉢である。185～187は無文で内外面ともにケズリ・ナデ調整が施される。

特殊土器(188～190)　特殊な器形の土器を一括した。188は壺あるいは器台と推定され、口縁部外面には縄文地に沈線で山形文・縦位沈線文が、内面には工字文が施文される。189は底面に沈線による円文が施文される丸底気味の小型壺と考えられ、安中市中野谷・原遺跡、高崎市(旧吉井町)神保植松遺跡などに類例がある。190は口縁部が極端に開く鉢で縄文を施文した後にミガキ調整が施されている。

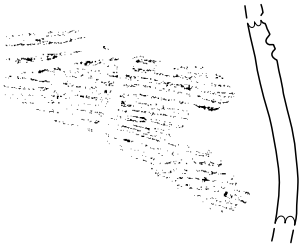


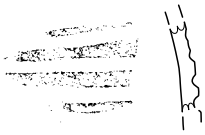
第 533 図　上人見遺跡（弥生）出土土器（1）

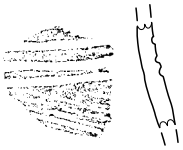


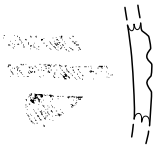
第 534 図　上人見遺跡（弥生）出土土器（2）

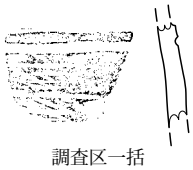
73
D-153 No.9＋2 P-456.4区

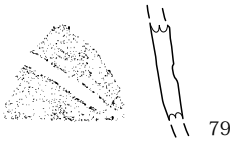

74
D-107 No.1・2＋2 J-458.3区

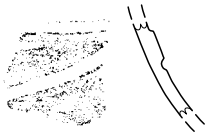

75
調査区一括


76
2 P-458.5区


77
2 O-454 a

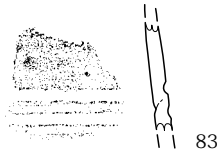

78
調査区一括


79
D-65 No.1

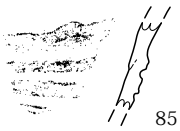

80
D-62 No.3

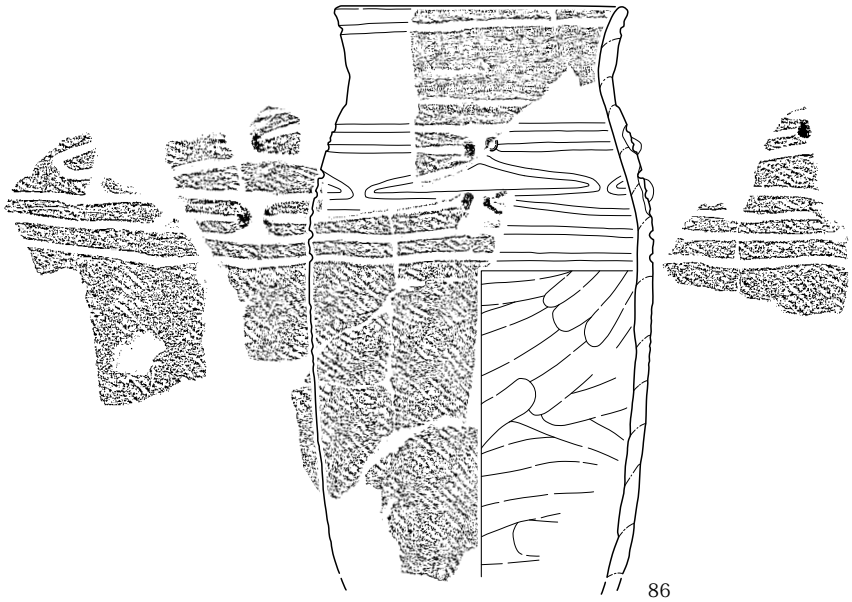
81
D-63 No.24＋D-132 No.13

82
2 O-459.10区


83
D-55 No.12

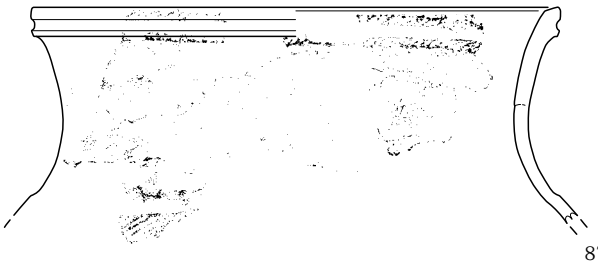
84
D-92 No.14

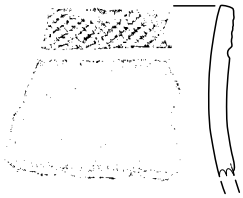

85
2 P-457.4区


86
D-61 No.22＋D-63 No.10・12・15＋D-153 No.8・10・20＋
D-84 No.3＋2 O-457.10・12・14・15・16区＋2 P-457.3・4・10区

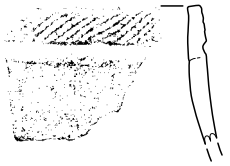
0 1:3 10cm

第 535 図　上人見遺跡（弥生）出土土器（3）

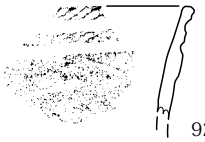

87
D-5 No.6・7＋D-6 No.2・4・6＋D-7 No.9・28＋
2 H-460.5区＋2 N-460.13区

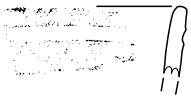

88
D-142 No.3

89
D-81 No.2


90
2 G-459.13区

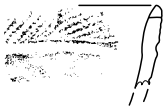
91
D-76 No.1＋D-125 No.3

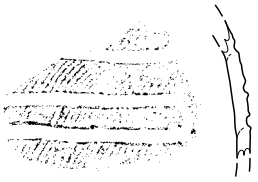

92
D-81 No.1


93
2 P-457.4区

94
D-28

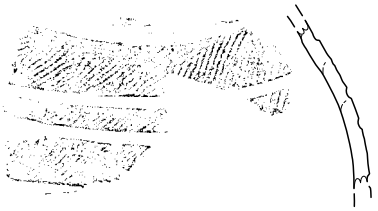
95
D-55 No.5

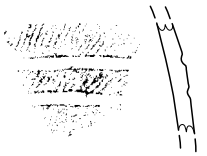

96
2 L-456.11区

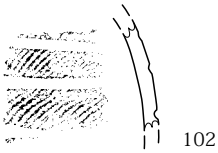

97
D-5 No.10

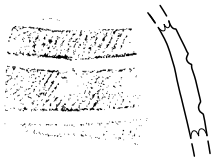
98
D-7 No.21

99
D-18 No.3

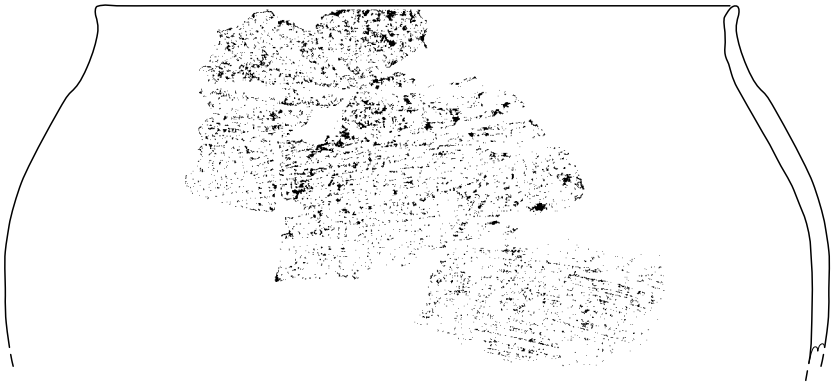

100
D-5 No.1＋2 H-460.9区＋2 H-460.11区


101
D-5 No.5


102
D-7 No.15

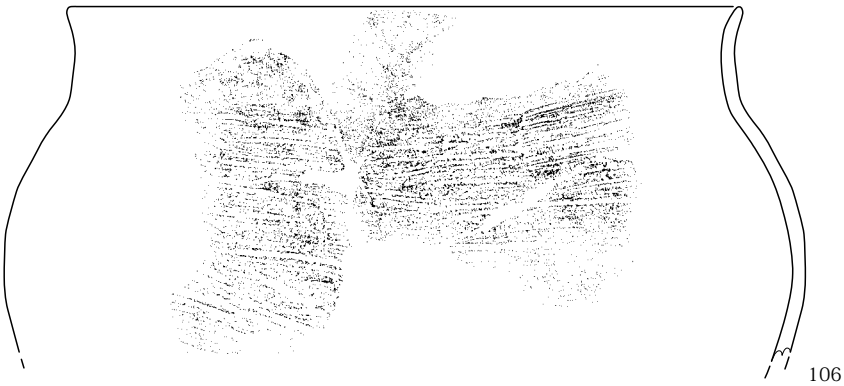

103
D-7 No.6

104
D-84 No.2


105
D-49 No.1・2・4・5＋D-54 No.12＋D-56 No.7＋
D-61 No.2・13＋2 O-459.9区

0 1:3 10cm

第536図　上人見遺跡（弥生）出土土器（4）

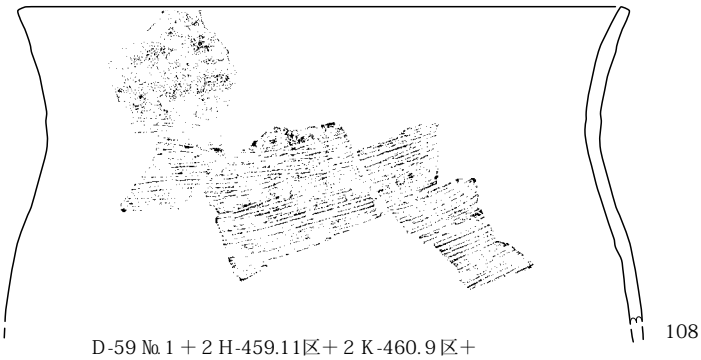


106

D-63 №19・22＋２O-457.12区＋２P-457.４区＋２P-458.１区

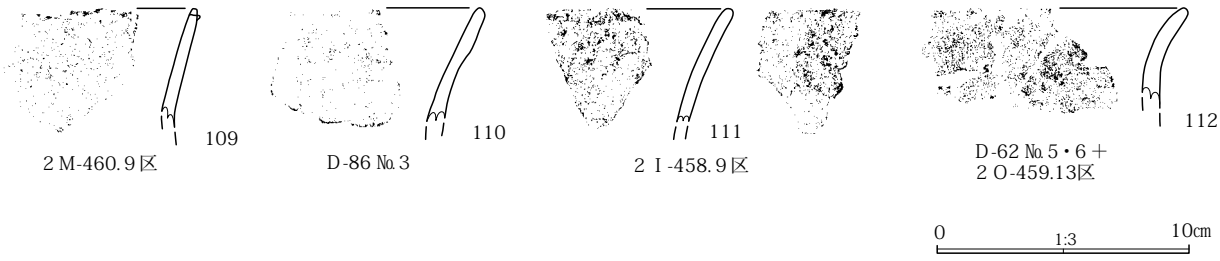
107

D-54 №２＋D-55 №25＋D-62 №４＋D-65 №17＋
D-142 №８＋２O-459.10・13区＋調査区一括



108

D-59 №１＋２H-459.11区＋２K-460.９区＋
２L-458.16区＋２O-457.16区＋２P-458.４区



109

２M-460.９区

110

D-86 №３

111

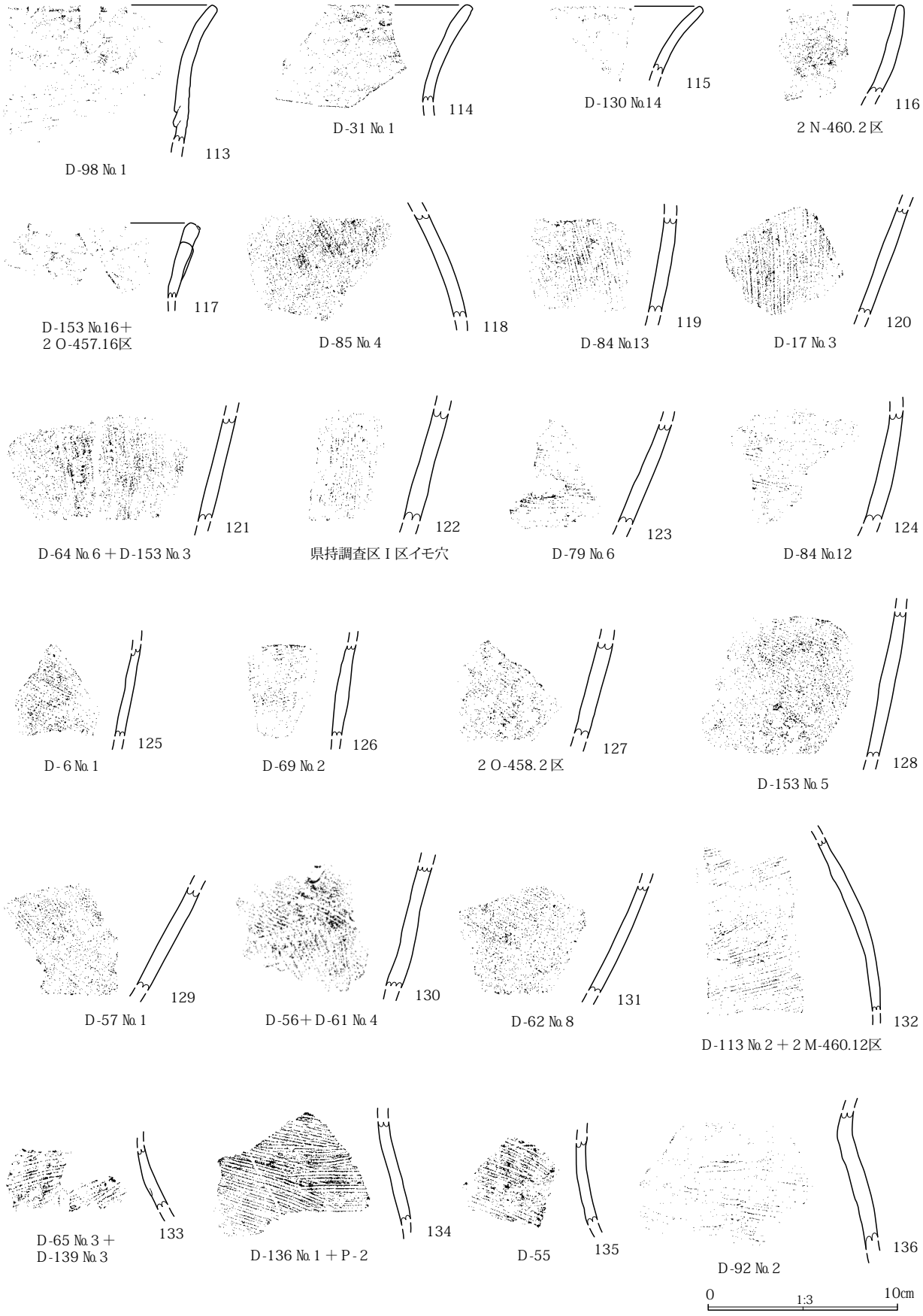
２Ⅰ-458.９区

112

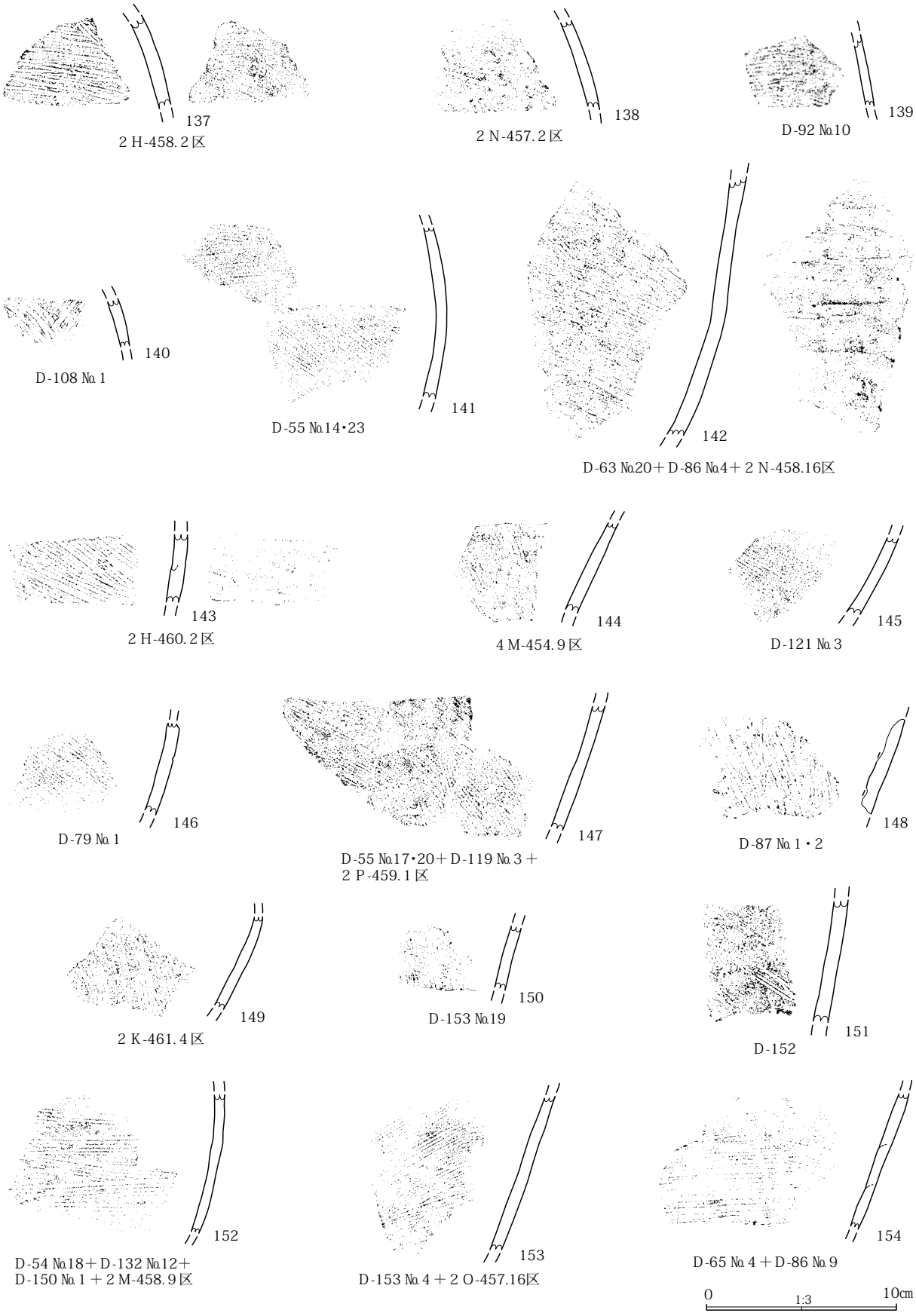
D-62 №５・６＋
２O-459.13区

0 1:3 10cm

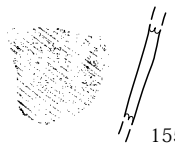
第 537 図　上人見遺跡（弥生）出土土器（５）

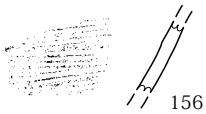


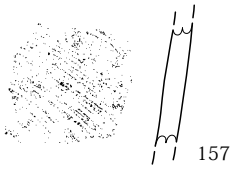
第 538 図　上人見遺跡（弥生）出土土器（6）

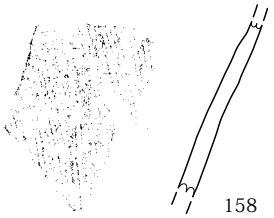


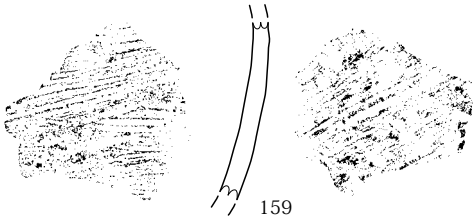
第 539 図　上人見遺跡（弥生）出土土器（7）

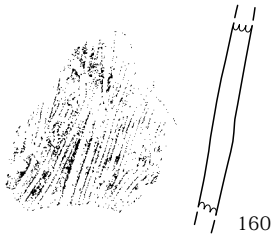

155
D-55 №16

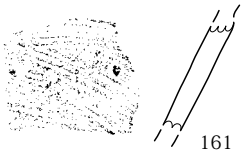

156
D-55 №26

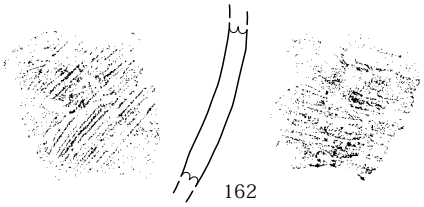

157
D-132 №5

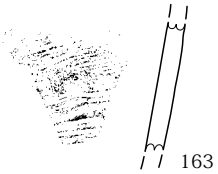

158
D-37 №1＋D-83 №2＋
D-127 №2

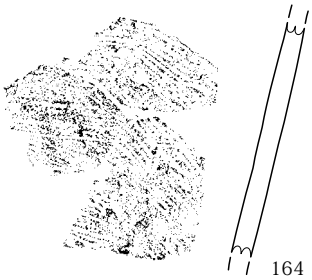

159
2 P-457.4区


160
2 M-457.16区

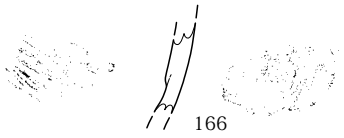

161
D-54 №7

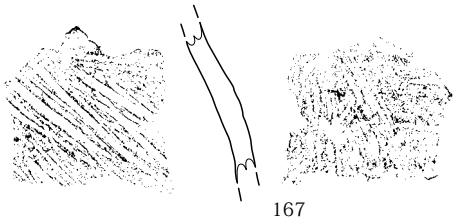

162
D-36 №2＋2 P-457.4区

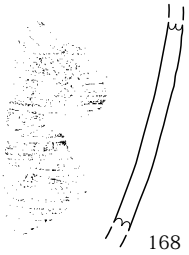

163
D-122 №2

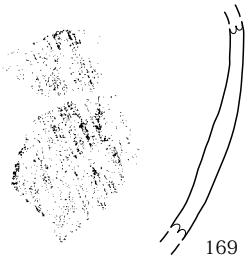

164
2 J-461.16区

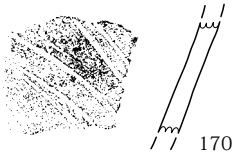
165
2 P-457.8区

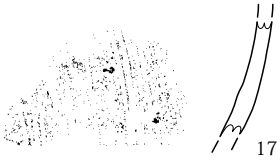

166
D-61 №21


167
D-61 №14


168
2 J-461.13区＋
2 K-461.7区

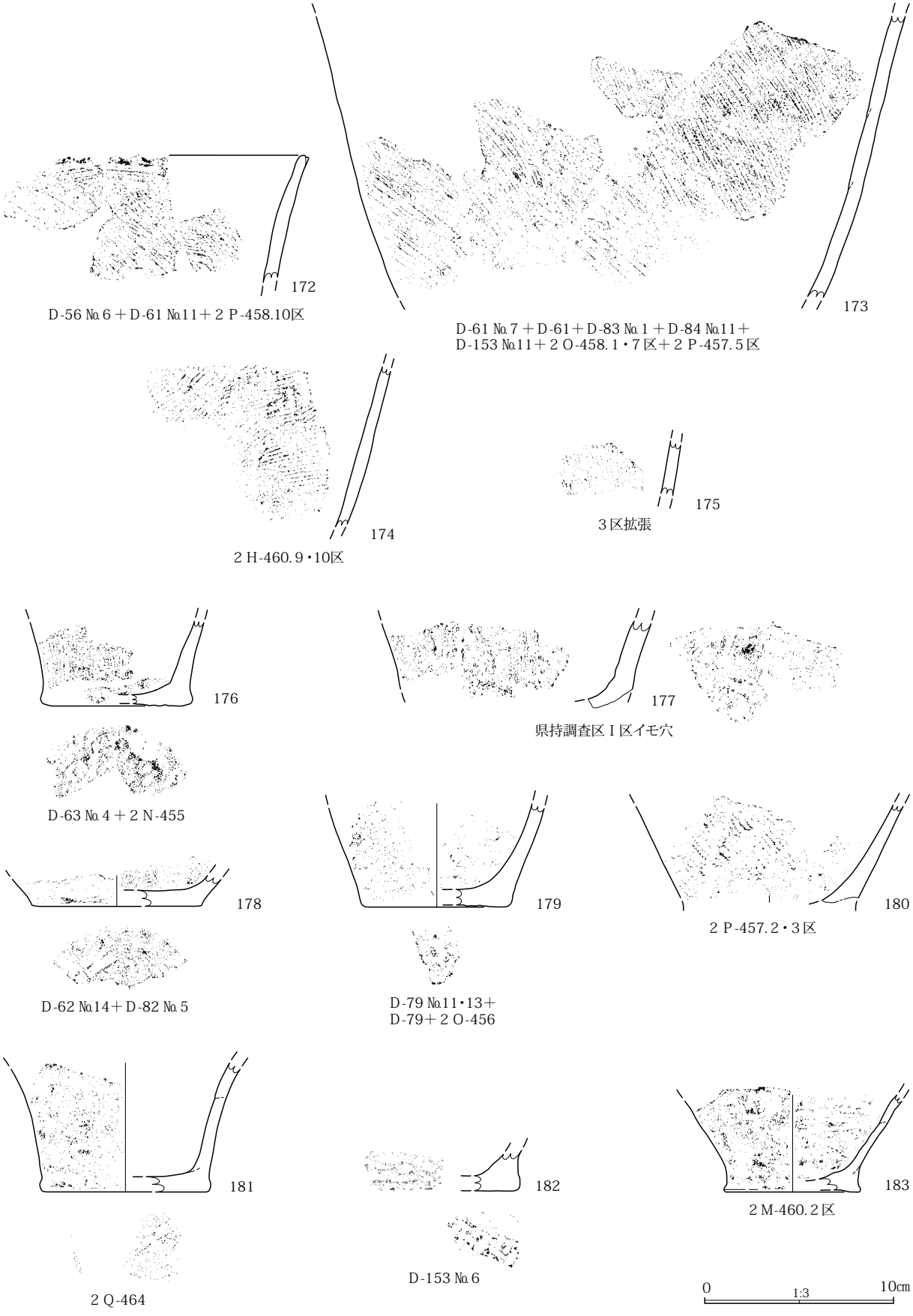

169
D-18 №2＋
2 K-456.12区


170
調査区一括

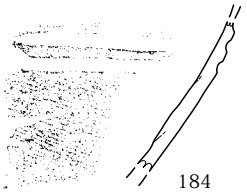

171
D-153 №14

0 1:3 10cm

第540図　上人見遺跡（弥生）出土土器（8）

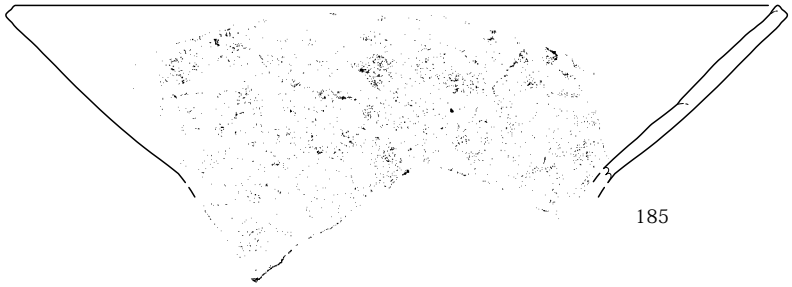


第 541 図　上人見遺跡（弥生）出土土器（9）



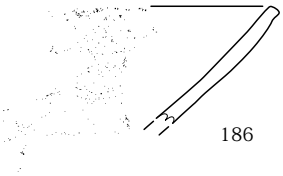
184

D-92 №5・7・11



185

D-56 №3＋D-60 №1＋2 O-457.16区＋調査区一括

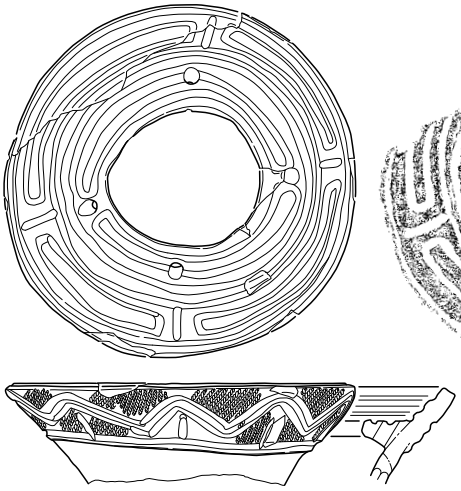


186

D-86 №10＋D-87 №3

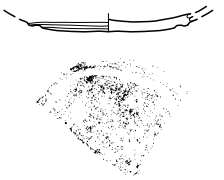
187

D-123 №1＋D-130 №2・12



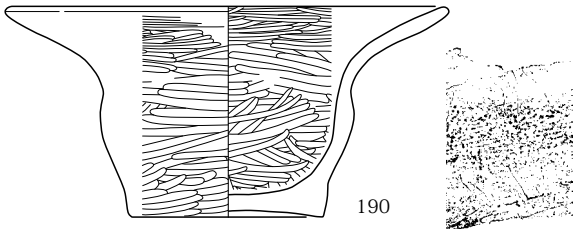
188

D-2 №2



189

D-63 №16

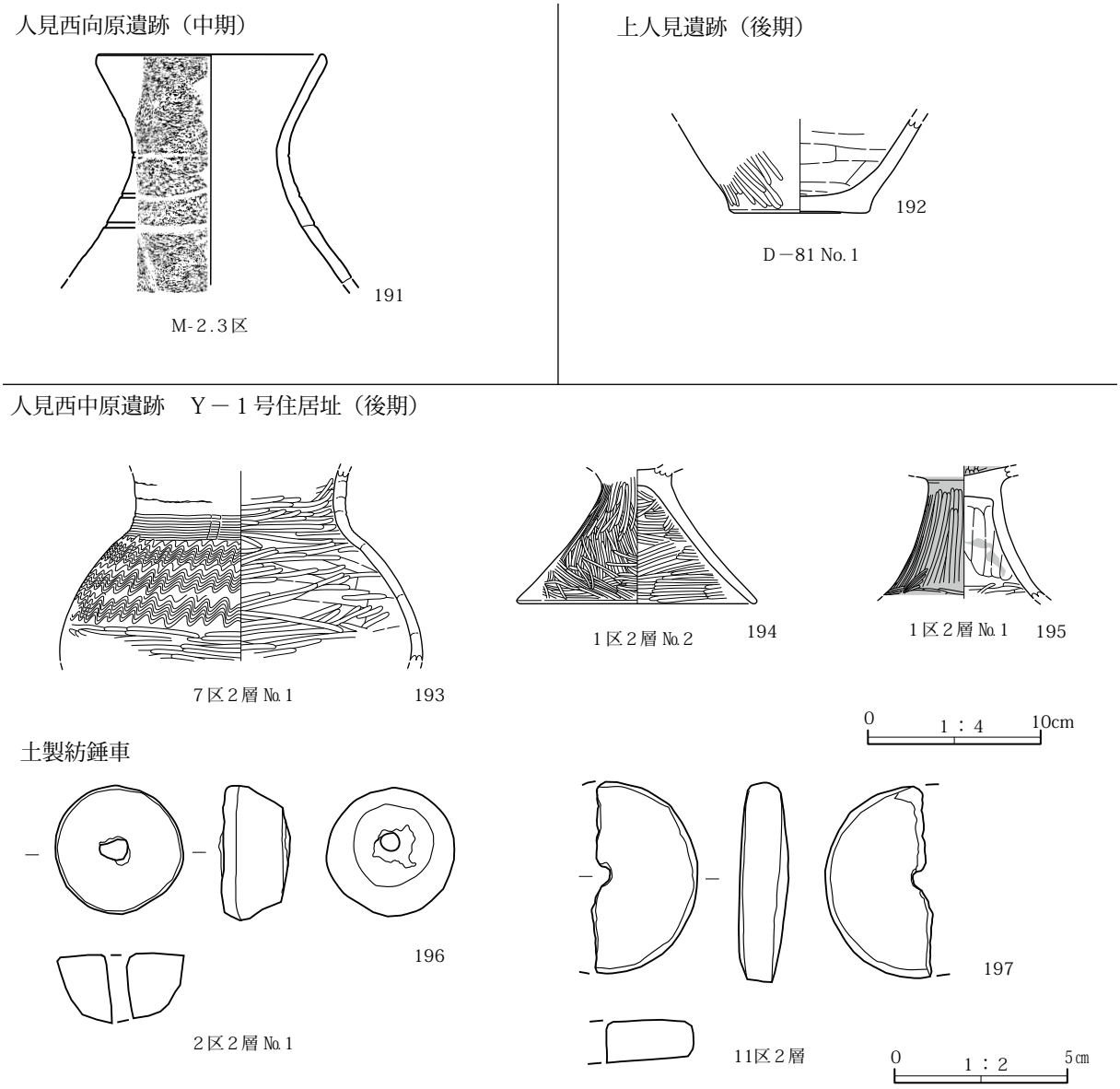


190

D-2 №1＋D-62 №7＋
2 N-459.5区

0 1:3 10cm

第 542 図　上人見遺跡（弥生）出土土器（10）



第 543 図　人見西中原遺跡・人見西向原遺跡（弥生）出土土器・土製品

中期後半以降の土器（第543図、第78表）

人見西向原遺跡のＥ区で中期後半（栗林Ⅱ式、竜見町式）の壺片が出土した。また、Ｙ－１号では、後期後半（樽式）の甕、高坏脚、赤色塗彩のある高坏脚等が出土した。上人見遺跡では、土坑から後期後半（樽式）の甕底部が出土した。

（２）弥生土製品（第543図、第78表）

人見西中原遺跡Ｙ－１号で紡錘車２点が出土した。２点は、平面円形で断面が台形と扁平の形態に分類される。土器の外内面調整と同様、ヘラによるミガキとケズリによって整形されている。横野台地では、後期の土製紡錘車は、長谷津遺跡（石製共伴）、諏訪ノ木遺跡等で出土している。

（３）弥生石器（第545～551図）

人見西中原遺跡の石器群（第545図、観察表はデータ）

遺物包含層から石器が17点出土した。器種組成は、スクレイパーＢ２点、石鏃１点、打製石斧２点、ＦＬＡ２点（黒曜石）、ＦＬＢ10点（安山岩１点以外は頁岩）である。石器は表土混入が大半であり、原位置は定かではない。図示した遺物は５点である。１は、厚手剥片素材のスクレイパー、２は、石鏃調整剥片を素材とした縁辺に調整が施されたスクレイパーである。３は打製石斧で両刃に摩耗痕がある。４は石鏃で、リダクションにより変形している。５は石鏃の刃部破片である。両面に摩耗痕が観察される。図示した石器の石材は、全て頁岩である。石器群は前期末から中期初頭に帰属される。

上人見遺跡の石器群（第544～550図、観察表はデータ）

＜石器系列組成＞

土坑とグリッドに分けて組成を集計した。Ａ類の剥片類は少ないため、石器製作は低調である。Ｂ類は、剥片類が多いが、石器の二次加工による調整剥片がほとんどで、同一母岩の消費（製作工程の完結）、連続した剥片剥離（素材剥片の生産）は少なく、全体的には石器製作は低調である。

＜石器器種組成＞

石器群の特徴は、スクレイパーＢ類と石鏃・打製石斧が主体を占め、Ｃ類石器は極端に少ない。大陸系磨製石器及び弥生的石器は認められず、縄文時代の伝統的を引く継ぐ石器群である。土坑覆土内出土が多く、集落遺跡とは異なる器種組成である。また、石器の使用は、スクレイパーを主体とした極端な器種組成がみられ、石器の製作・消費とも低調であった石器群と言える。こうした組成の特徴が本遺跡の性格にかかわってくるものと考えられる。

石器組成をみると同一母岩の剥片類が少なく石器製作は低調である。スクレイパー類を主体とするが、器種に多様性が乏しく、Ｃ類石器が極端に少ない組成の偏りが認められた。スクレイパーは大形あるいは横刃形が主体である。定形石器は、土坑内からの出土が多い。

＜石器石材組成＞

重量・点数ともに頁岩と安山岩でほぼ90％以上を占める。他の石材では黒曜石が僅かに組成する以外は、極端に少ないの特徴である。在地石材を選択する傾向が認められた。

スクレイパーと石鏃の石器石材には頁岩が多用される。これは、中期前半が安山岩を選択する傾向がある点とは対照的である。黒曜石、他地域の石材が少ない。在地石材の石器が多い。

＜石器各説＞

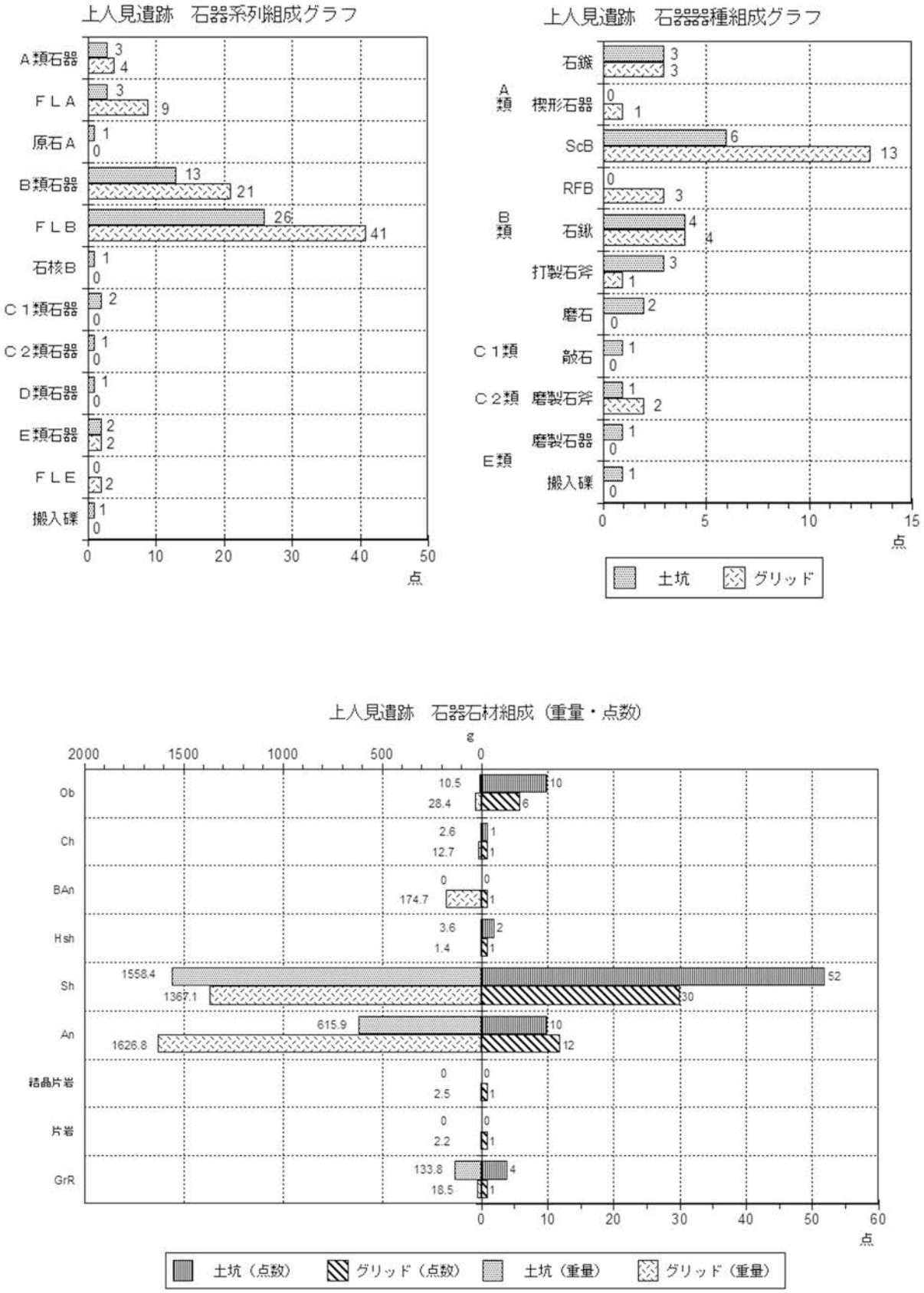
石鏃　凹基無茎式３点、有茎式１点、欠損不明２点である。石材は黒曜石、珪質頁岩である。遺跡内での製作ではなく、全て搬入である。

石錐　黒曜石製１点である。錐部が尖ることにより、石錐と認識したが、別の器種（スクレイパー）の可能性もある。

楔形石器　両端に対極する微細剥離痕が残る。縦断面がレンズ状となる。珪質頁岩製。

原石Ａ　板状の黒曜石である。背面に剥離面があるが、他は自然面に覆われている。黒色透明で良質である。土坑から出土。

剥片Ａ　黒曜石11点、硬質頁岩１点である。大きさの平均は長さ20.1㎜、幅15.5㎜、厚さ5.5㎜、重量



第 544 図　上人見遺跡　弥生時代の石器器種・石材組成

1.8ｇである。大振りな剥片が多いが、同一母岩ではなく搬入である。

スクレイパーＢ類　19点出土した。直接打撃調整による大形厚手の横刃形（13～21）が特徴である（横刃形石器）。素材の形状を生かして鋭利部分をそのまま刃部とする形態（14、15、17、18）、二次加工を施して刃部とする形態（13、16、19、20）に分類できる。16は両面加工によって整形された打製石斧に類似する形態である。中小形剥片を素材とした横刃形石器以外の形態は、縁辺に二次加工痕と微細剥離痕のある矩形（22～24）、縁辺に微細剥離痕のある不定形（25～28）に分類される。

ＲＦＢ　不定形剥片の一端に二次加工痕があるもの（29、30）。

石核Ｂ　剥離痕で覆われた多面体の残核状である（31）。頁岩製。

石鏃・打製石斧　石鏃は、大形短冊形で平刃、基部が平坦となる形態（32）、両端が欠損した、遺構間接合をしたもの（33）、基部が丸い形態（34、35）、基部が平坦（36）、石鏃再生剥片（37）がある。製作技術は、交互剥離による整形を施す。32は欠損による刃部再生が認められる。33は刃部に摩耗痕と二次的剥離痕が観察される。石材が頁岩を選択する点に時期的特徴がある。

剥片Ｂ　頁岩56点、安山岩11点である。大きさの平均は、長さ31.7㎜、幅31.0㎜、厚さ8.3㎜、重量9.9ｇである。剥片の形状により、石器の素材となる大形剥片は少数で、不定形の薄い調整剥片が多いことから、石器の二次加工が施された場所であった可能性がある。

磨石　２点出土した。磨面と側縁には、細かい敲打痕がある（39）。２点とも安山岩製。

敲石　緑色岩類の側縁を敲打する（40）。敲打による潰れ、交互剥離が観察される。

磨製石斧　敲打と調整剥離によって二次再生された石器で、刃部と基部に研磨が施されている（41）。ノミ状をした細身の形態である。製作技法は縄文時代のものと共通する。42は、磨製石斧の表面剥片の接合資料である（遺構間接合）。大陸系磨製石器とは異なり、縄文系石器の系譜をもつ形態である。

磨製石器　珪質準片岩を石材とした薄い素材を研磨した石器である。形態では磨製石鏃に類似する。出土位置は初期弥生の土坑であるが、この石器が組成するかは慎重に扱う必要がある。

＜弥生時代前・中期の石器群について＞

人見西向原遺跡、上人見遺跡の石器群は、弥生時代の大陸系磨製石器が組成せず、縄文時代の伝統を残した器種組成、石器製作技術が主体であることから、東日本における同時期の石器群との共通性が認められた。器種組成の特徴では、Ｂ類石器（スクレイパー、石鏃）以外の組成は極端に少ない。石器製作は低調であり、剥片類は石器素材として搬入し、遺跡内で使用することを目的とした組成を示している。ただし、完形品は、土坑出土が多い傾向であることから、土坑の性格を「墓」として見た場合、使用による「廃棄」はない可能性が考えられる。石器の機能・用途については、使用痕分析が必要とされるが、石鏃、スクレイパーの刃部縁辺部の磨滅・摩耗痕は観察されなかった。スクレイパーのうち、大形のものは、石材を頁岩とし、刃部が厚く片刃である形態となる。本遺跡の１次調査においても同様の形態（頁岩製）が出土している（梅澤1986他）。また、小形のスクレイパーは、鋭利な縁辺を生かして刃部としている。同時期の遺跡である注連引原遺跡のスクレイパーと比較すると、類似した形態は少なく、上人見遺跡での特徴と言える。上人見遺跡の土坑群が再葬プロセスに関係した「墓群」と見た場合の大形スクレイパーの機能・用途を推定してみたい。本遺跡の器種組成は、集落遺跡でみられる安定的組成とは異なり、特定器種に偏った極端な器種組成であることから、日常的な生業活動における石器使用とは考えにくい。遺跡の性格上、大形で刃部が肉厚のスクレイパーは、一次埋葬後の遺体の解体処理に用いられた可能性と考えられる。

中期後半以降の石器（第551図、観察表はデータ）

各遺跡の調査で遺構外から磨製石鏃２点、打製石鏃１点、磨製石器（太形蛤刃石斧）１点、石鏃２点が出土した。Ｙ－１号からは、スクレイパー１点、特殊磨石１点、台石１点が出土し、後期後半以降の石器衰退期の特徴を示している。

東部地区における弥生時代の石器は、人見西中原遺跡以外では、遺構外あるいは包含層からの単独出土が多い。中期の遺跡は、中核となる上人見遺跡が存在するが、その周辺部ではほとんど出土、あるいは表面採集はされていない。これは、中期から後期にかけて、この地域での遺跡形成が低調であることを反映した結果とみることができる。

磨製石鏃　人見向原遺跡と人見西中原遺跡の各遺構外で１点出土した（44、45）。凹基単孔式で肩が張る。両面良く研磨されている。石材は珪質凝灰岩である。

打製石鏃　人見西向原遺跡で有茎式１点が出土した（46）。基部が僅かに突出する形態は、中期中葉の「横間栗式」に類似する。石材は黒曜石である。

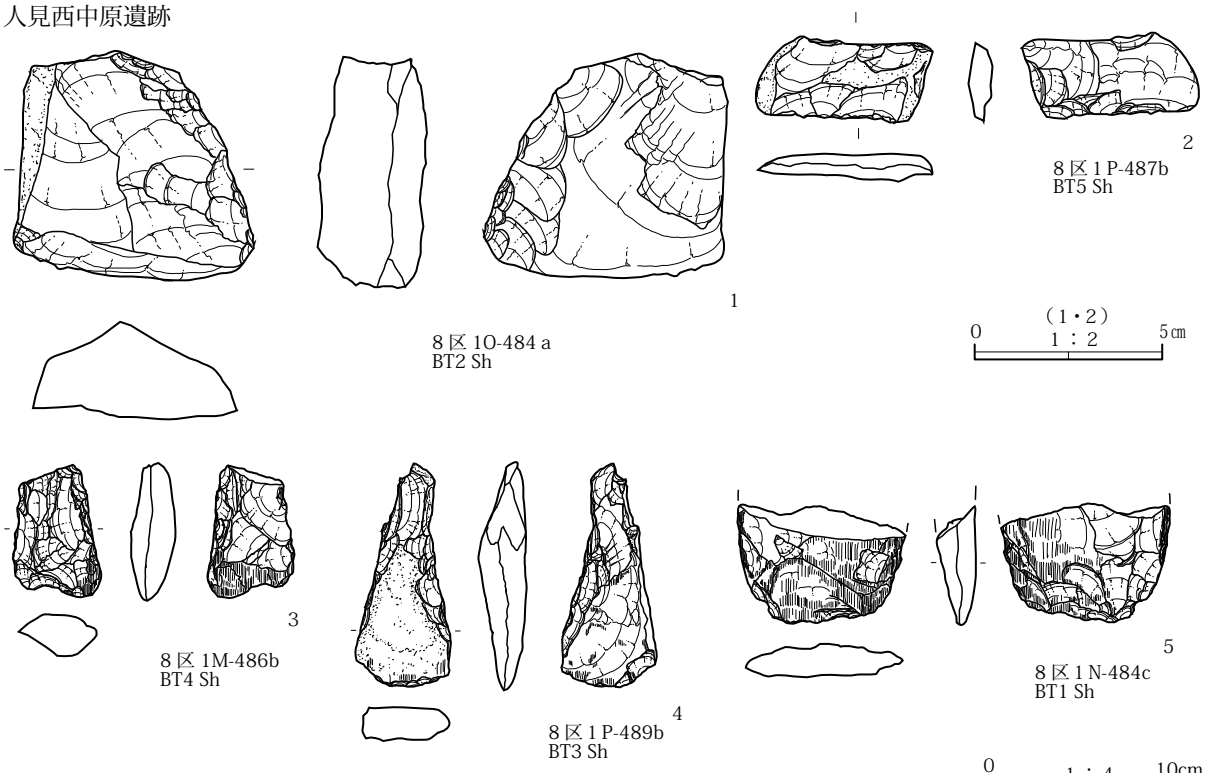
石槌（磨石）　人見枝谷津遺跡出土の47は石鎚に転用された大陸系太型蛤刃石斧である。刃部を欠失し、断面を滑らかに研磨している。使用面の縁辺は、二次的敲打による剥離痕が観察される。類似石器は、中期後半の長野県松原遺跡、榎田遺跡等で出土している。人見枝谷津遺跡では、この石器以外に同時期の遺構、遺物は確認されていないため、搬入によるものである。古墳時代の住居床面で遺棄された状態で出土していることから、単なる混入ではなく、何らかの意図のもと二次的に転用された石器と考えられる。人見西向原遺跡出土の51は、礫面滑らかの多面体で、面取り状の磨り面が観察される。後期に多くみられる形態で「特殊磨石」とも分類される。石材は縄文時代では石材として選択されない灰黒色の緑色岩類（緻密）であり重量感がある。

石鏃　２点とも人見西向原遺跡Ｍ－１号覆土から出土した（48、49）。２点とも安山岩製である。礫面を残した縁辺の一部に交互剥離調整を施された形態で、刃部、裏面に摩耗痕が観察される。

スクレイパー　安山岩製の横刃形石器である。横長剥片を素材とし、縁辺には微細剥離痕が観察される。人見西中原遺跡Ｙ－１号出土。

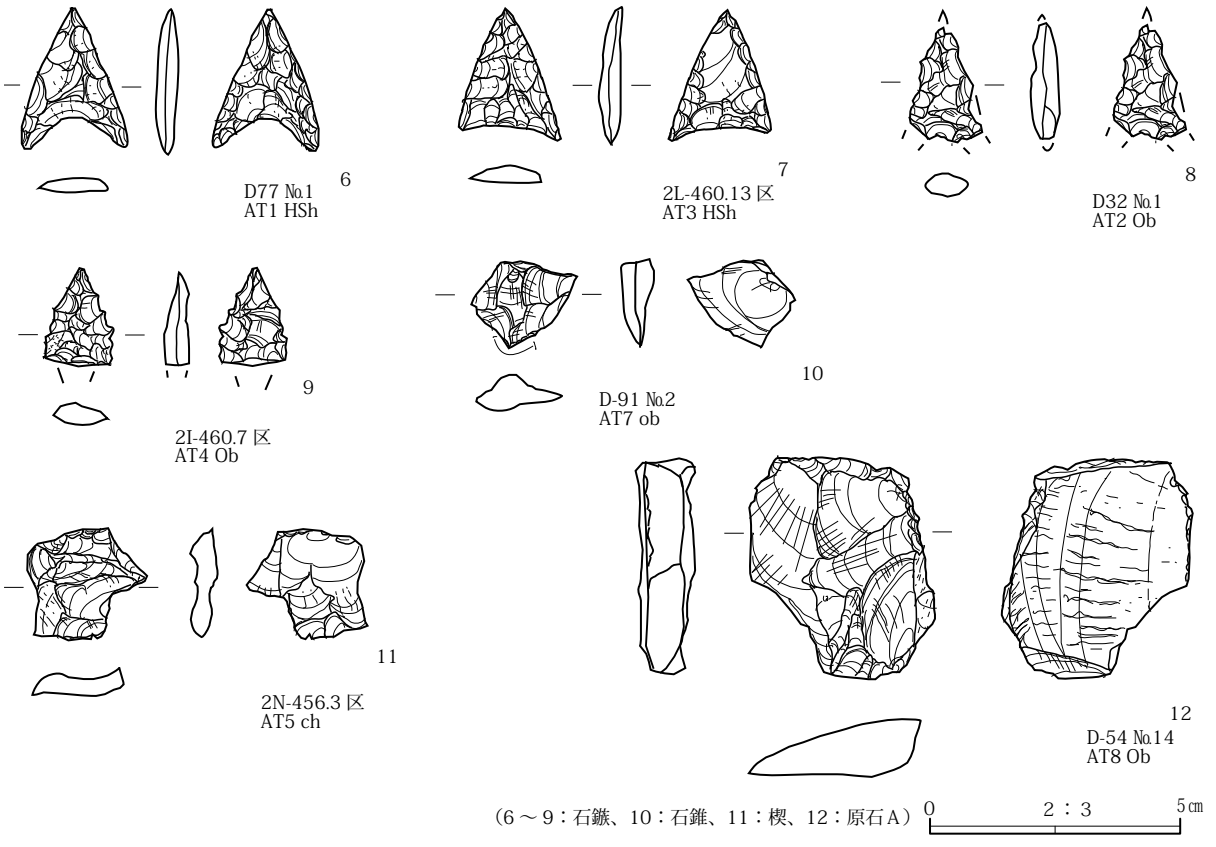
台石　安山岩の扁平大形礫を素材とし、作業面が平滑である。人見西中原遺跡Ｙ－１号出土。

人見西中原遺跡

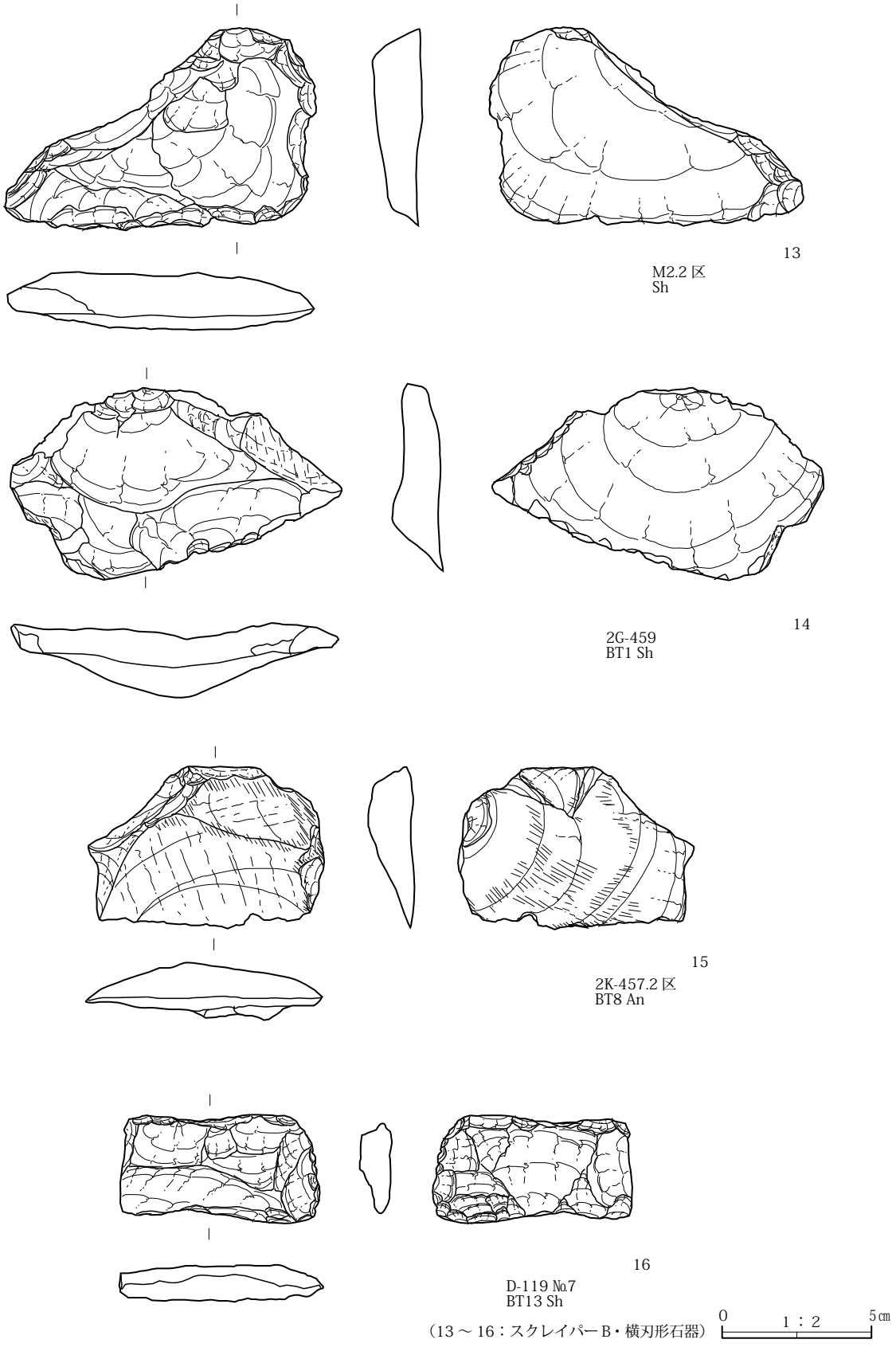


（1･2：スクレイパーB、3･4：打製石斧、5：石鏃）

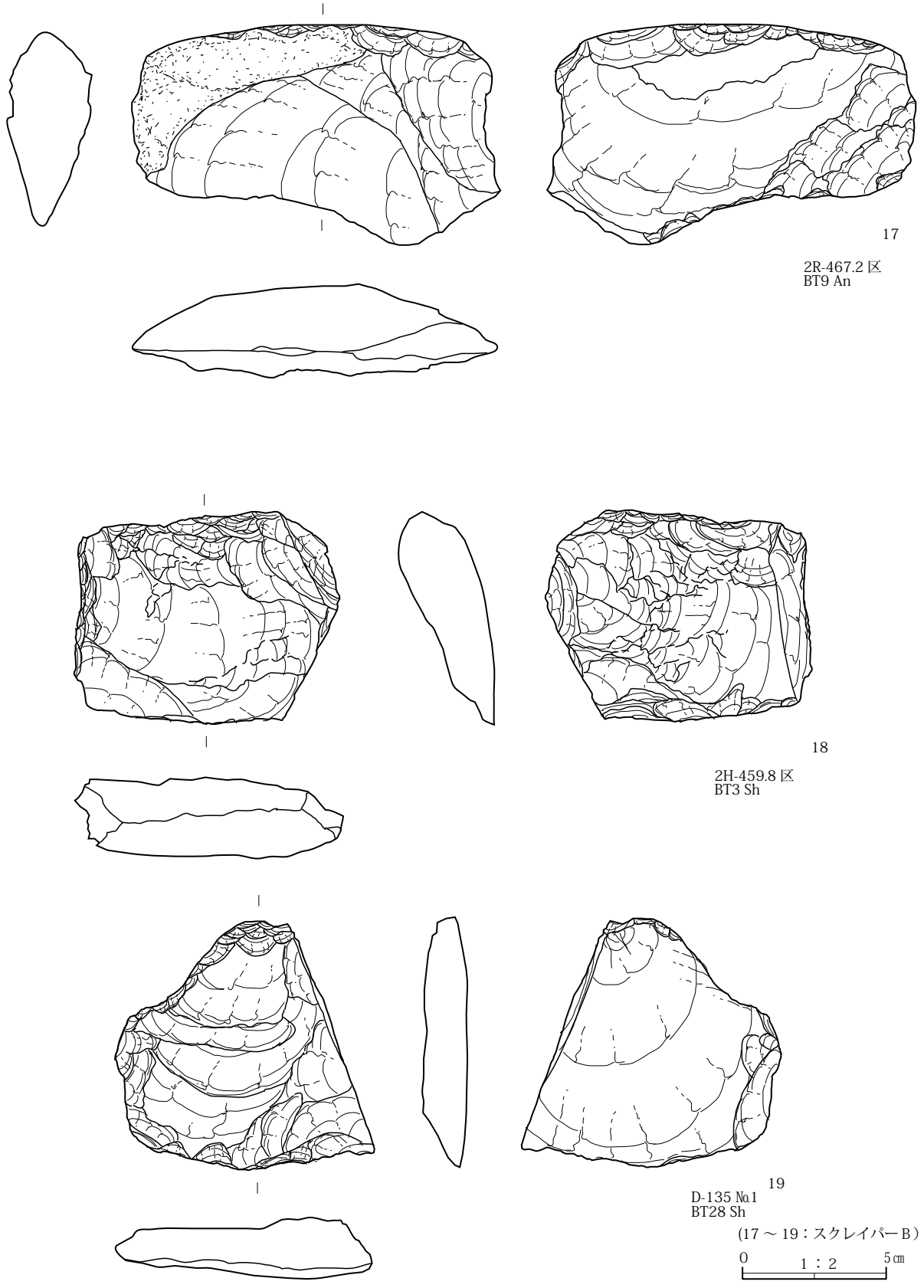
上人見遺跡



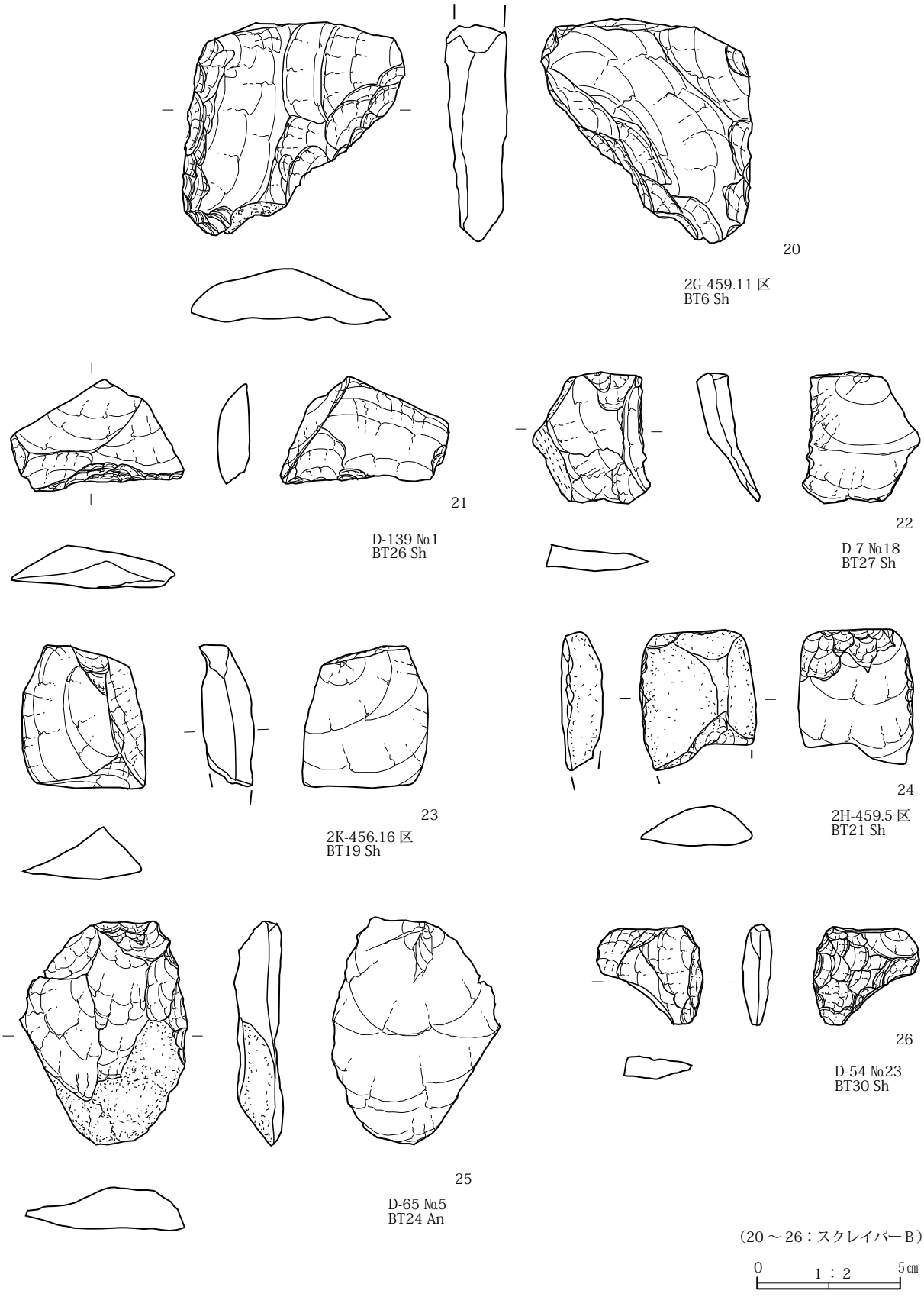
第545図　人見西中原遺跡・上人見遺跡（弥生）出土石器（1）



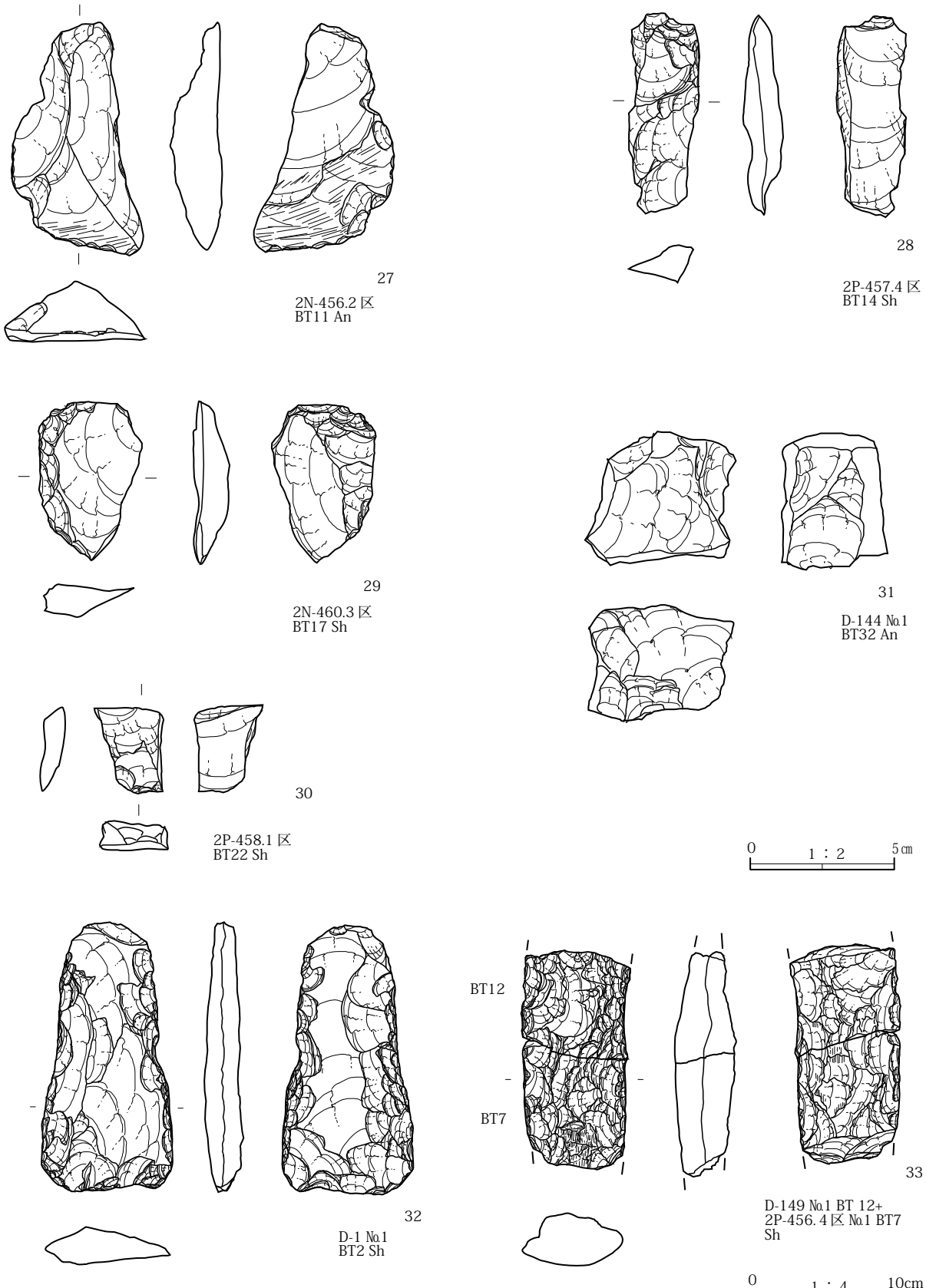
第 546 図　上人見遺跡（弥生）出土石器（２）



第 547 図　上人見遺跡（弥生）出土石器（3）

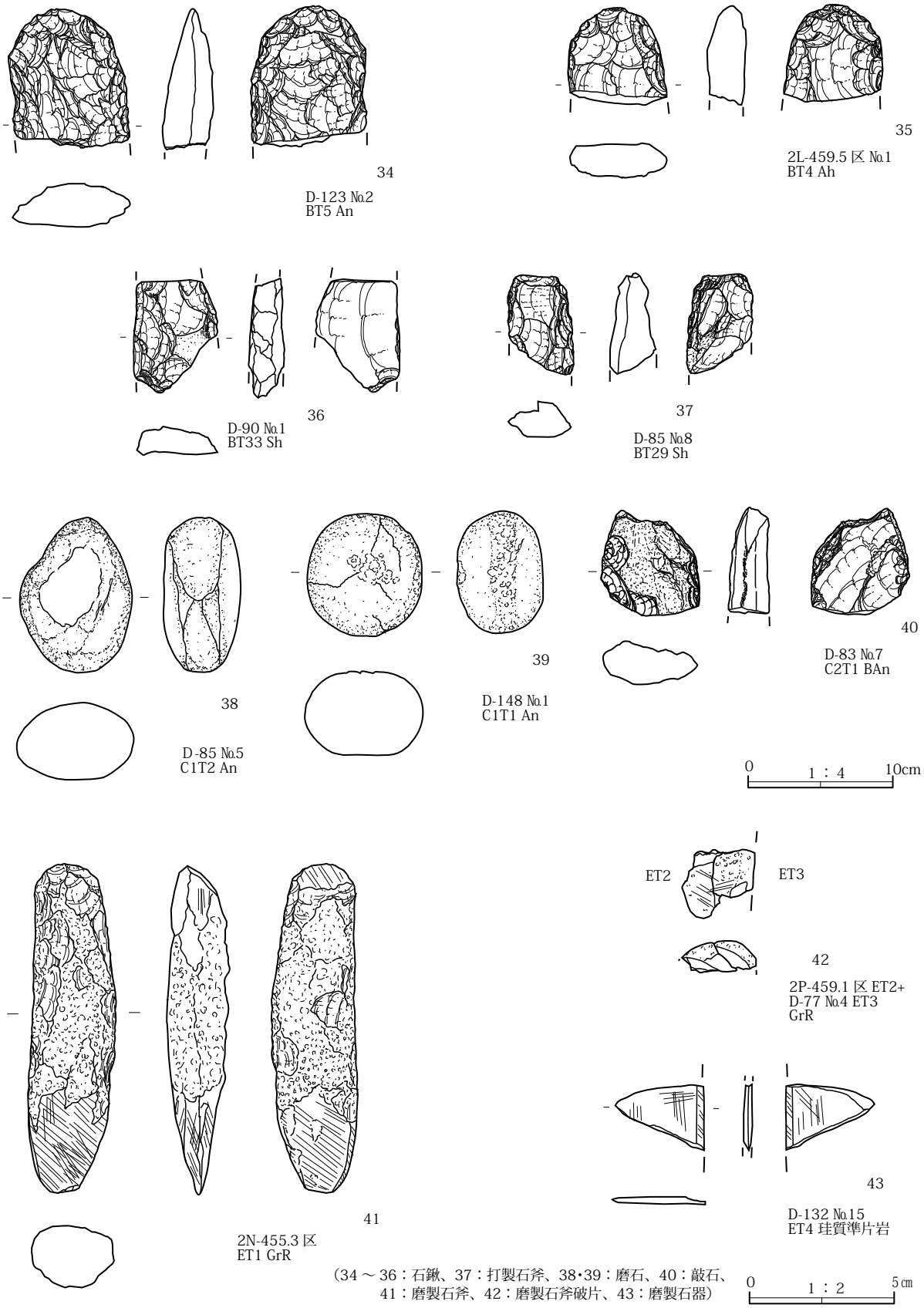


第 548 図　上人見遺跡（弥生）出土石器（4）

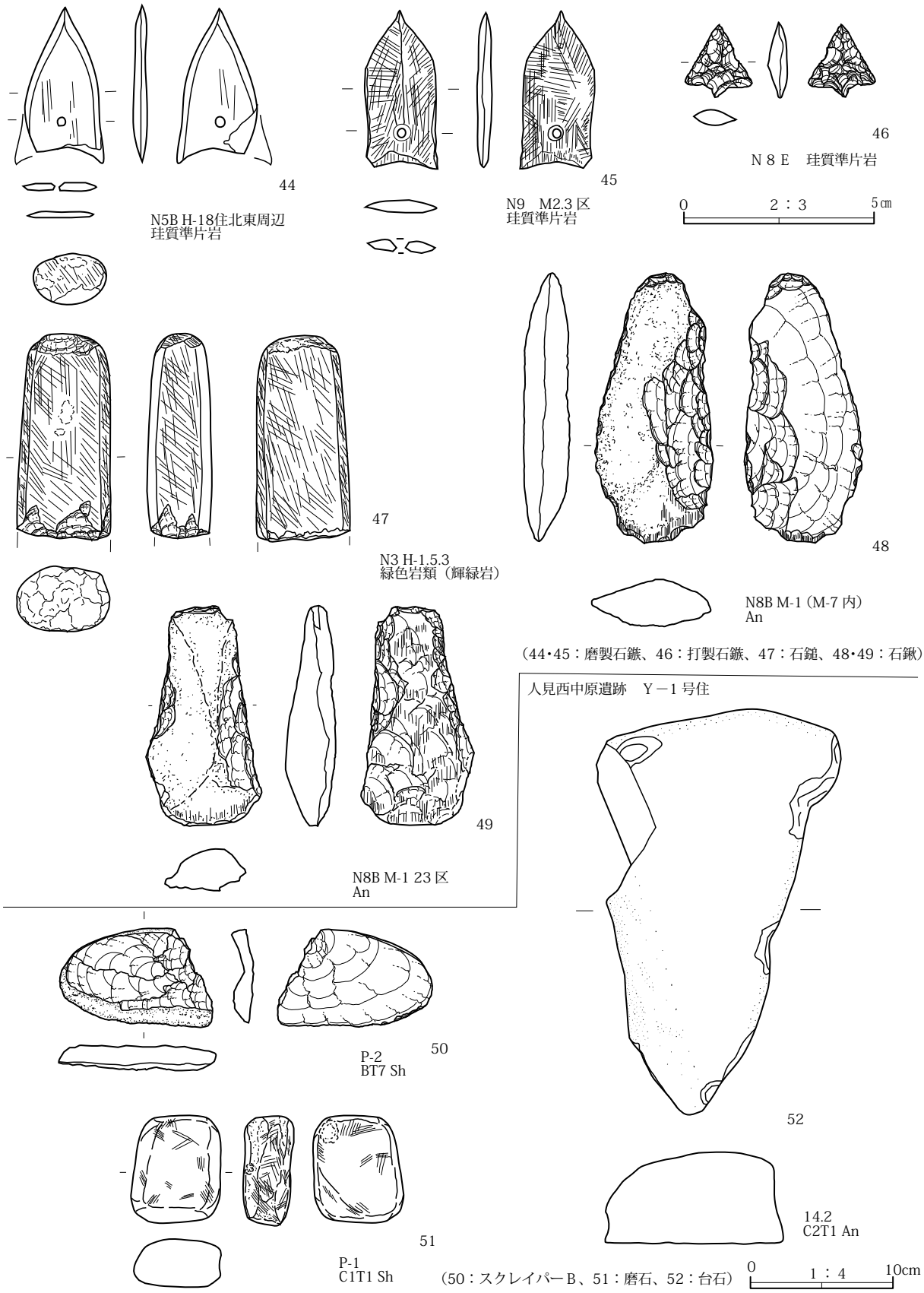


（27･28：スクレイパーB、29･30：RFB、31：石核B、32･33：石鏃）

第 549 図　上人見遺跡（弥生）出土石器（5）



第 550 図　上人見遺跡（弥生）出土石器（6）



第 551 図　人見枝谷津遺跡・人見向原遺跡・人見西中原遺跡・人見西向原遺跡（弥生）出土石器

4　古墳時代の遺物

（1）土師器・須恵器（第552～620図）

本遺跡群（人見枝谷津・東向原遺跡、人見向原遺跡、人見西向原遺跡、人見西中原遺跡、人見本村遺跡）では、中期前半を中心とする一括性の高い土器群が確認された。これまでの中期前半の遺跡は、古墳が中心であり、集落遺跡は極端に少ない傾向がみられた。今回の発掘調査では、群馬県西部はもとより、県内を含めて中期前半の編年を把握する上で貴重な発見となった。なお、中期土器編年については、別項（Ⅷ）を参照されたい。

人見枝谷津遺跡出土の土器（第552～590図、第79表）

中期前半のⅡ・Ⅲ期を主体とする土器群で、前期のⅠ期、中期後半のⅣ期、後期のⅤ期を少数含む（1～429）。Ⅰ期では、東海系土器（S字口縁台付甕）が出土した。また、本遺跡の東に位置する人見大谷津遺跡では、前期前半の吉ヶ谷系と樽系土器（弥生系土器）と土師器が出土している。中期では、H－46号で底部に長方形の台がつく特殊な形態をもつ甕が出土した（180）。また、ミニチュア土器、台付甕が多数出土した。Ⅴ期では、須恵器模倣坏（土師器）、須恵器坏蓋、須恵器甕が出土した。

人見東向原遺跡出土の土器（第591～601図、第80表）

中期前半のⅡ・Ⅲ期を主体とする土器群（430～557）。H－27号の小形甕（525）内からはベンガラが検出された。H－14号では、土師器鉢が出土した。ミニチュア土器、台付甕が多数出土した。

人見向原遺跡出土の土器（第602～612・620図、第81・86表）

中期前半のⅡ・Ⅲ期を主体とする土器群で、中期後半のⅣ期を少数含む（558～693）。H－28号では、畿内産（TK73～216）の須恵器把手付椀が出土した（683）。匙状の土製品（633）が出土した。K－1号古墳の前庭部、周溝から8世紀前半の土器が出土した。

人見西向原遺跡出土の土器（第613・614図、第82表）

中期前半のⅡ・Ⅲ期を主体とする土器群（694～707）。H－3号では、脚部内面に布目痕のある土師器高坏が出土した（697）。

人見西中原・東中原遺跡出土の土器（第615～617図、第83表）

中期前半のⅡ・Ⅲ期を主体とする土器群（708～741）。

人見本村遺跡出土の土器（第618・619図、第84表）

中期前半のⅡ・Ⅲ期を主体とする土器群（742～762）。H－1、4号では、前期の土器（S字口縁台付甕）が出土した。

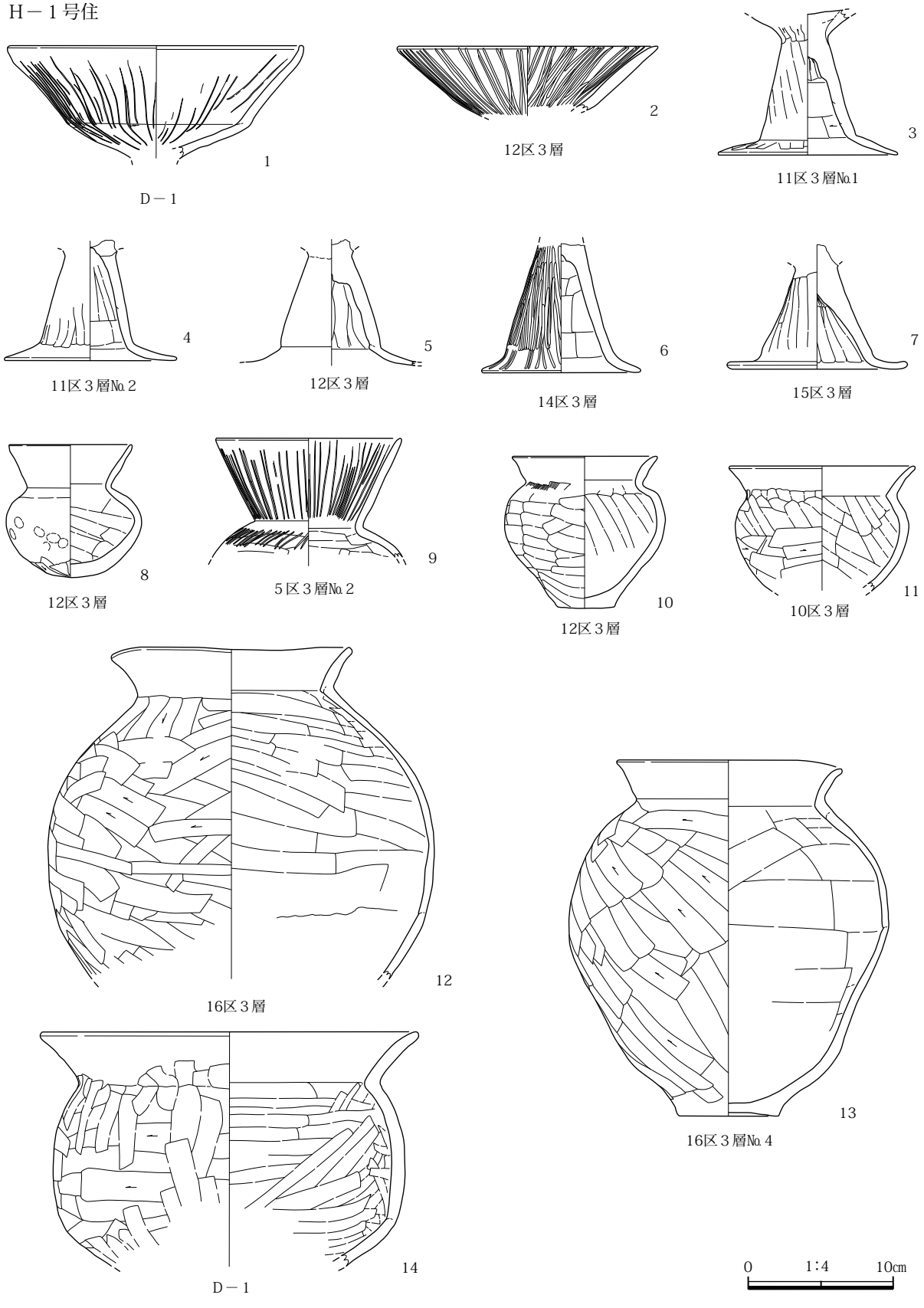
上人見遺跡出土の土器（第619図、第85表）

前期後半と中期前半の土器が出土した（764～766）。

（2）古墳土製品（第620図、第87・88表）

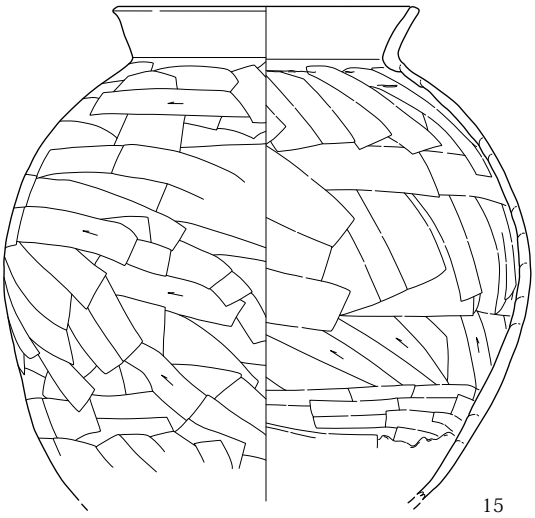
紡錘車　人見枝谷津遺跡で1点（771）、人見東向原遺跡で1点（772）出土した。断面扁平・台形で表面は削りとミガキの調整が認められる。

粘土塊　人見枝谷津遺跡で5点（773～777）、人見向原遺跡で1点（778）出土した。捏ねた状態がそのまま焼成された形状である。工具を押しつけた円形の痕が残る。

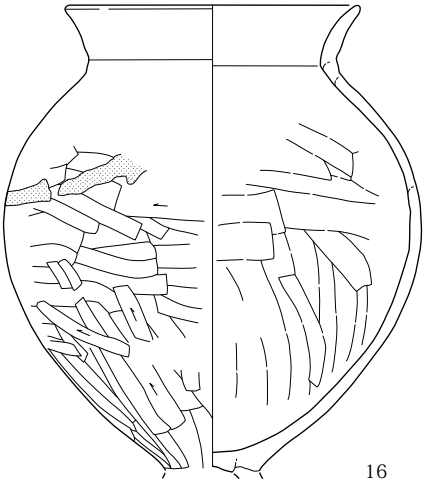


第552図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－1号住居址出土土器（1）

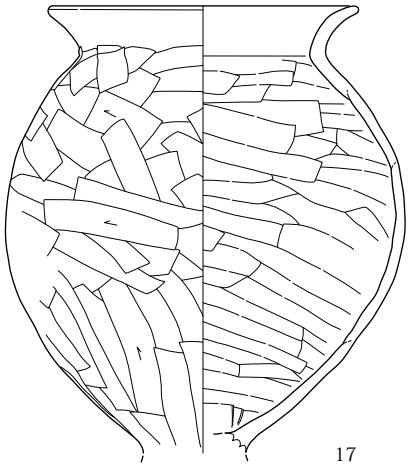
H－1号住


15

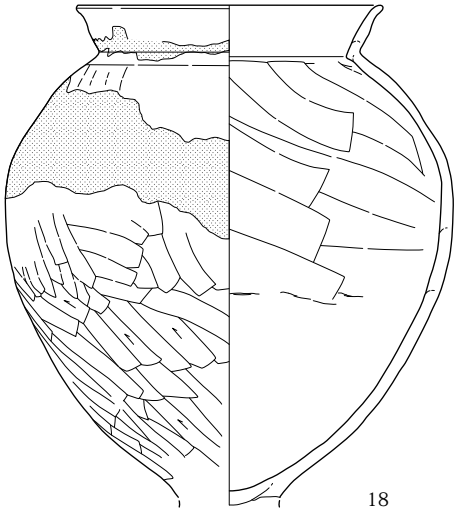
1区3層№1


16

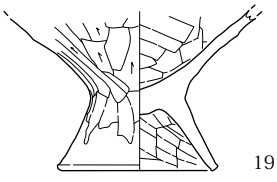
D－1


17

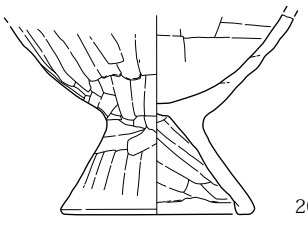
16区3層№2


18

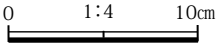
16区3層


19

10区3層

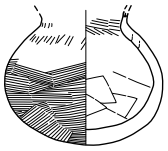

20

D－1№1



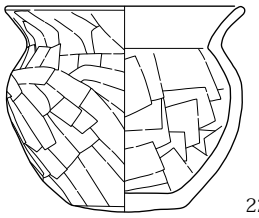
第553図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－1号住居址出土土器（2）

H－２号住



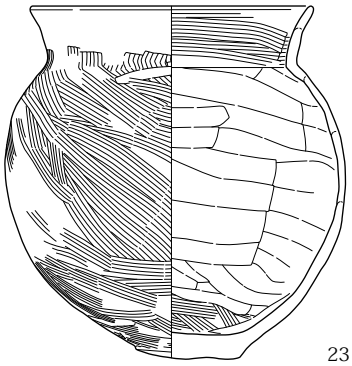
21

15区２層№１



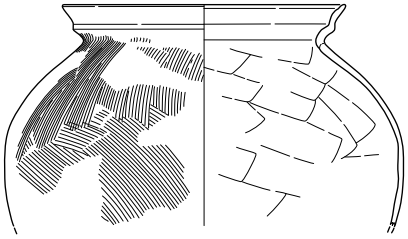
22

14区ベルト２層№１



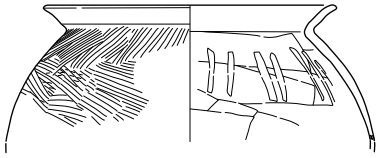
23

D－１



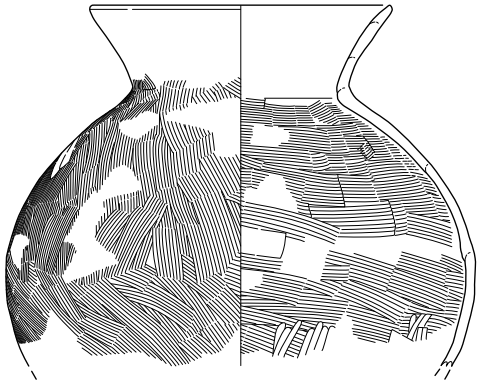
24

8区２層



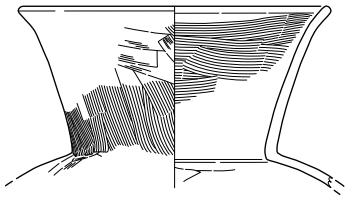
25

15区２層



26

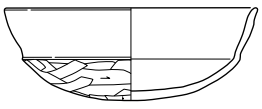
7区サブトレ２層＋６区サブトレ２層



27

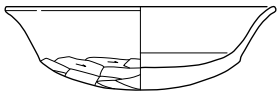
10区ベルト２層

H－３号住



28

2区２層№２竈周辺

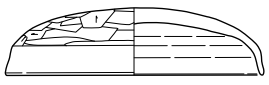


29

2区２層カマド№３

31

2区２層竈№１



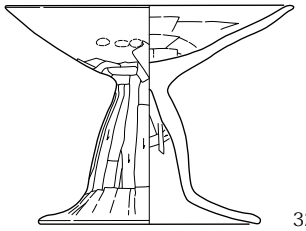
30

3区３層№１

0　1:4　10cm

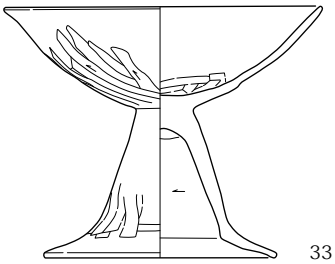
第 554 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－２・３号住居址出土土器

H－4号住



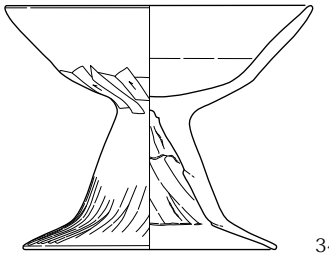
32

1区1層No.1



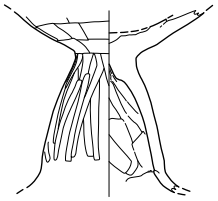
33

16区2層



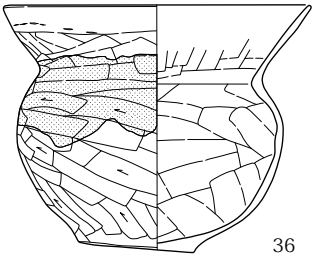
34

15区2層No.2



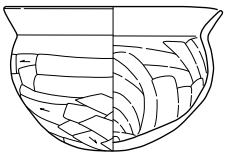
35

1区2層No.2



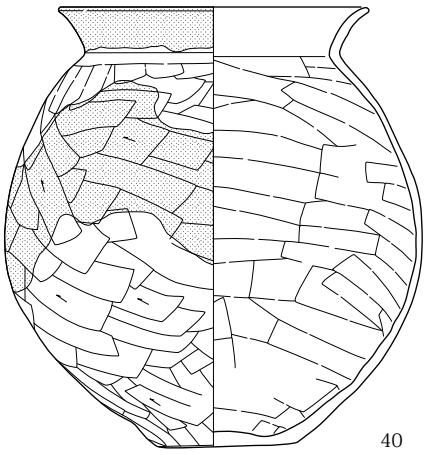
36

3区2層No.2



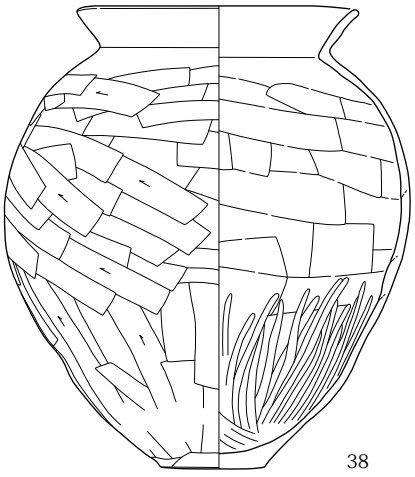
37

4区2層No.2



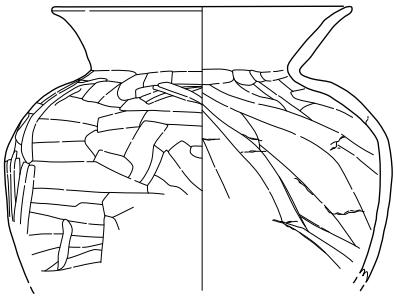
40

4区2層



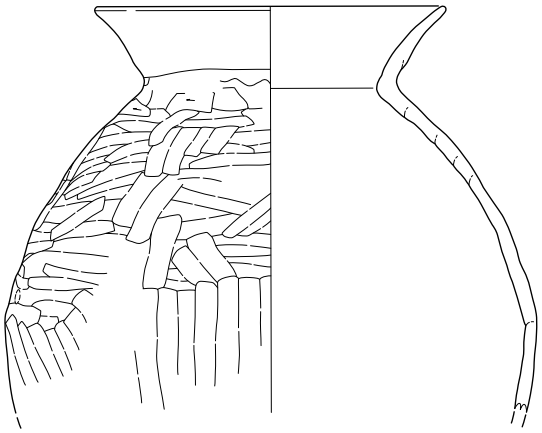
38

12区2層No.1



39

7区2層No.1



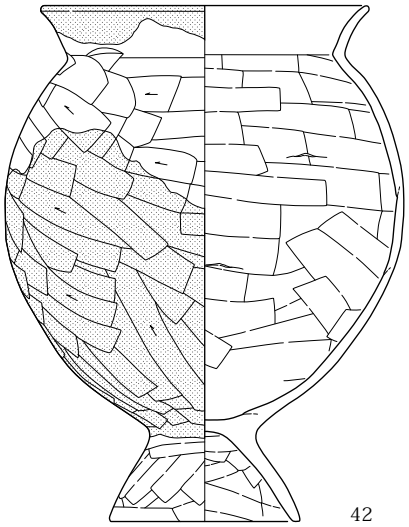
41

4区2層No.3

0 1:4 10cm

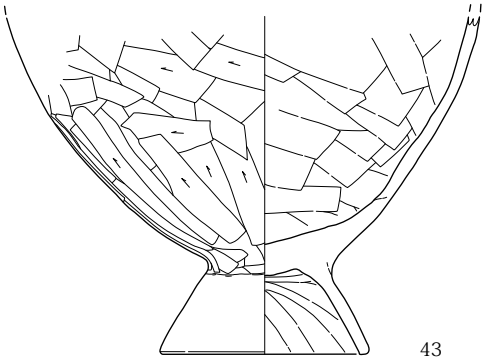
第555図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－4号住居址出土土器

H－4号住



42

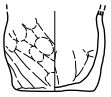
3区2層№1



43

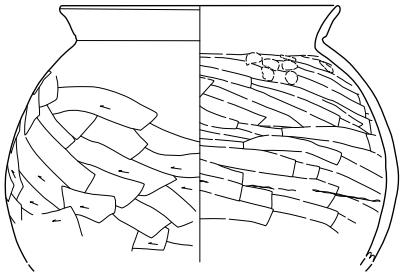
15区2層№1

H－5号住



44

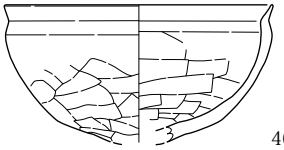
11区1層



45

8区2層№1

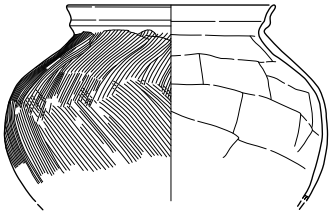
H－6号住



46

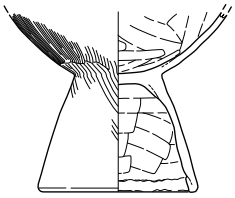
16区2層

H－7号住



47

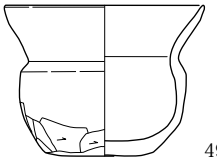
4区3層



48

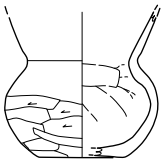
5区3層

H－8号住



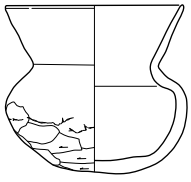
49

12区ベルト1層



50

3区2層



51

D－1№1

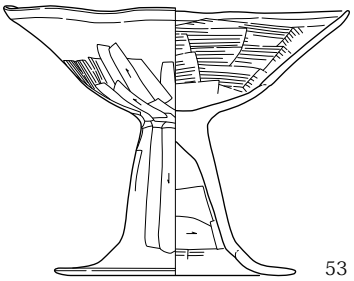
52

14区1層

0　1:4　10cm

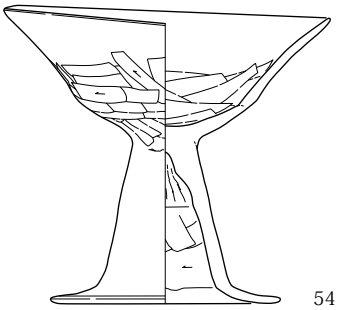
第556図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－4～8号住居址出土土器

H－9号住



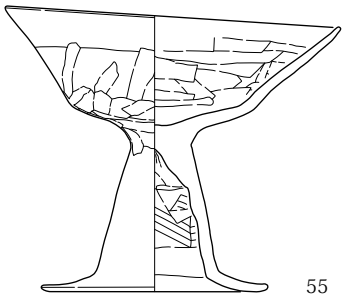
53

12区2層№5



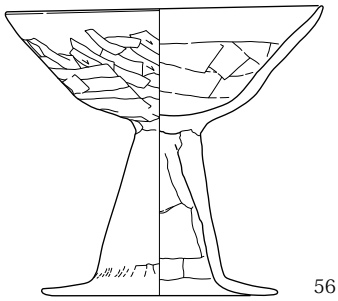
54

2ベルト2層№1



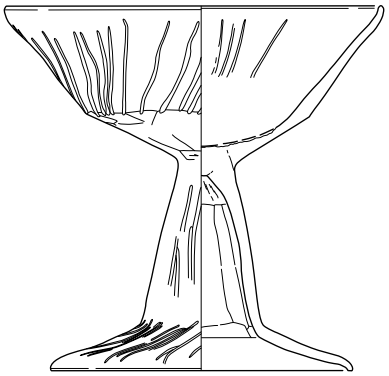
55

2区ベルト2層№4



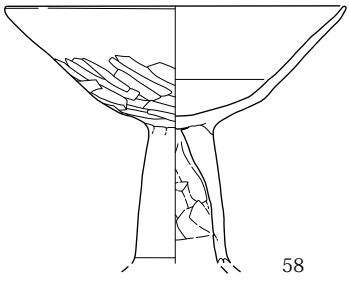
56

2区ベルト2層№6＋2区ベルト2層



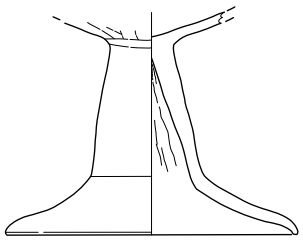
57

D－1



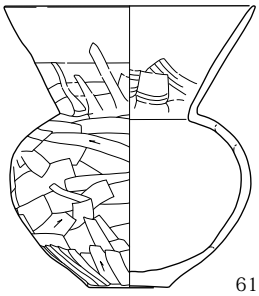
58

2区ベルト2層№5



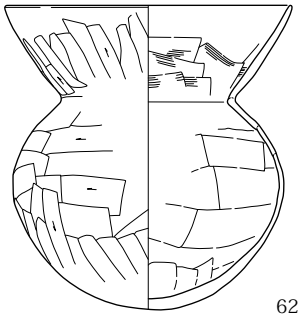
59

16区2層№3



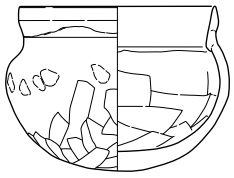
61

D－1



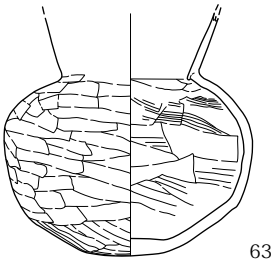
62

16区2層№2



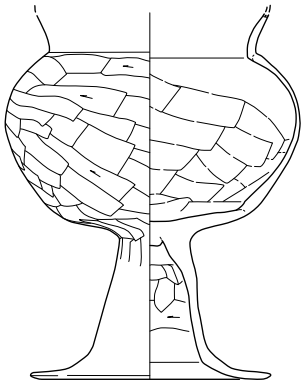
60

13区2層№2



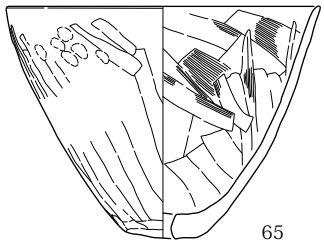
63

2区ベルト2層№3



64

16区2層№1



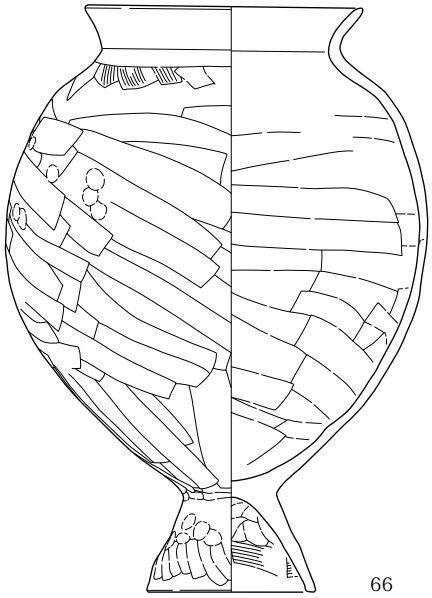
65

16区2層№4

0　1:4　10cm

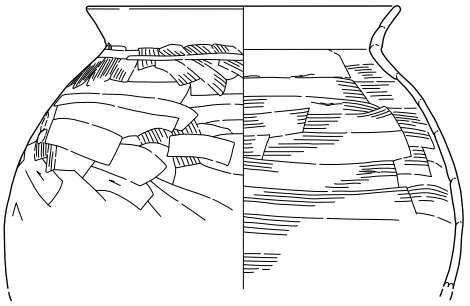
第557図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－9号住居址出土土器（1）

H－９号住



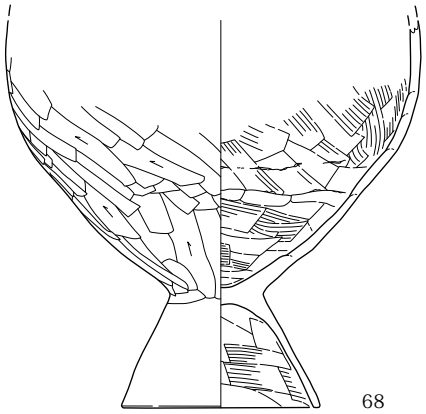
66

9区２層№１



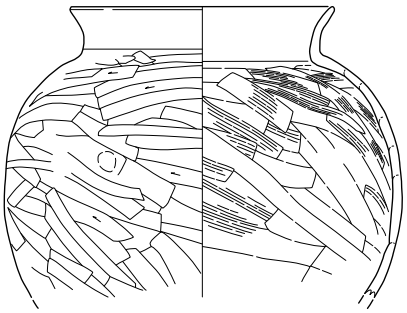
67

16区２層№６



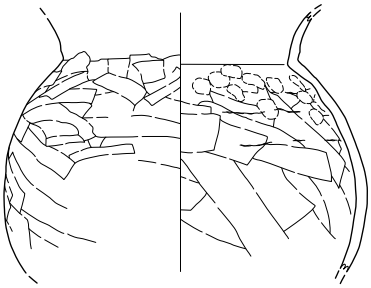
68

２区ベルト２層



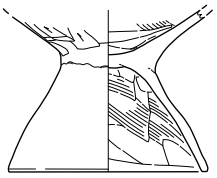
69

６区２層№１



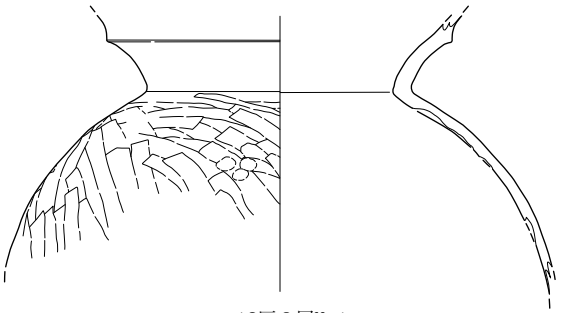
71

２区ベルト２層№２



70

２区ベルト１層№７



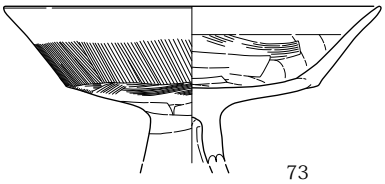
72

13区２層№１

0　1:4　10cm

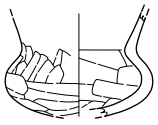
第 558 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－９号住居址出土土器（２）

H－10号住



73

5区２層



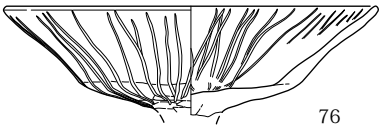
74

5区２層

75

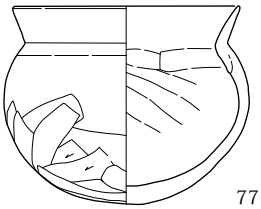
1区２層

H－11号住



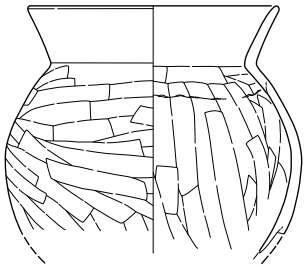
76

16区３層



77

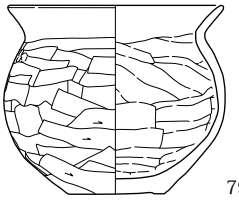
15区３層



78

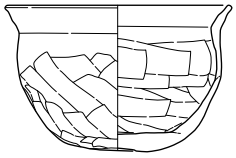
12区３層

H－12号住



79

4区３層№1



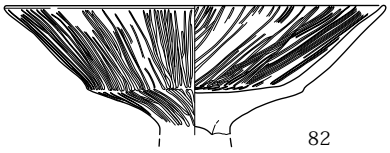
80

3区３層№1

H－13号住

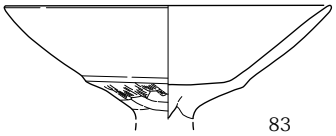
81

D－2



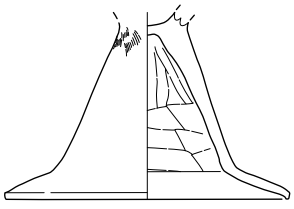
82

12区３層№1



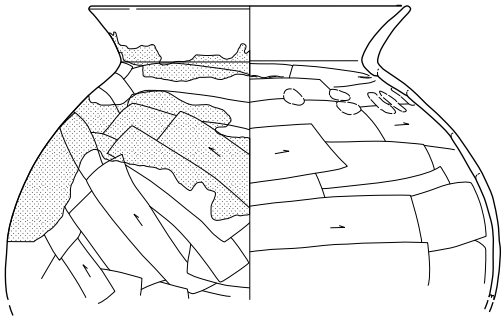
83

3区３層№1



84

16区３層№1



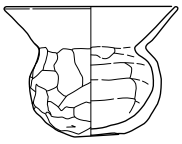
85

3区３層№2

0　1:4　10cm

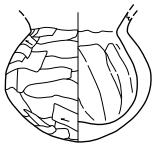
第 559 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 10 ～ 13 号住居址出土土器

H－14号住



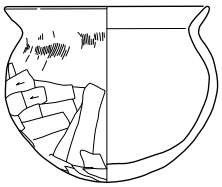
86

16区３層№１



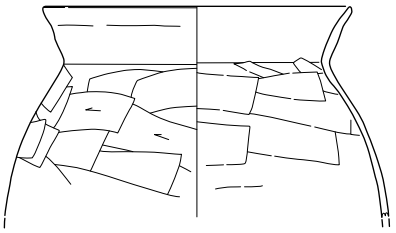
87

P－1



88

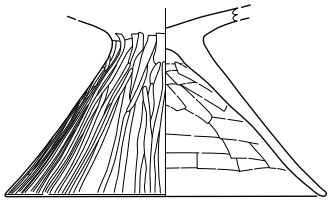
16区３層№２



89

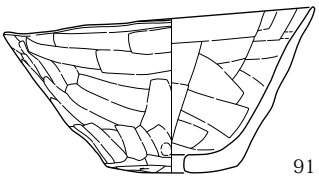
13区３層№３

H－16号住



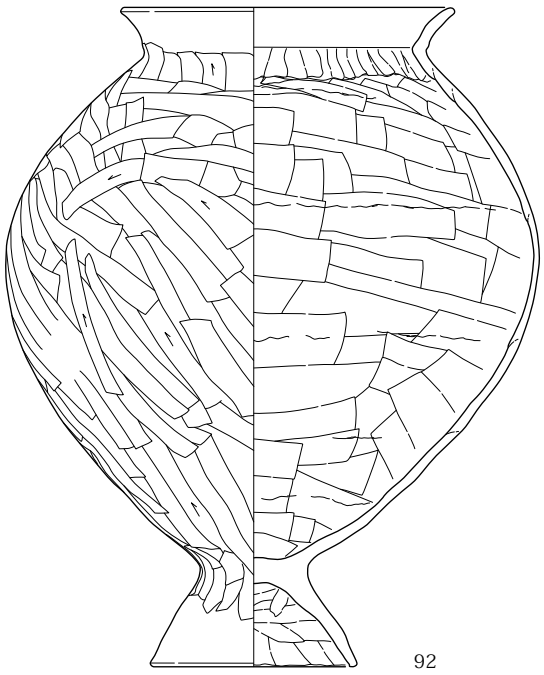
90

６区ベルト２層



91

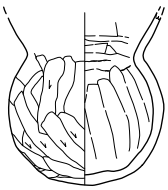
D－1



92

12区２層№１

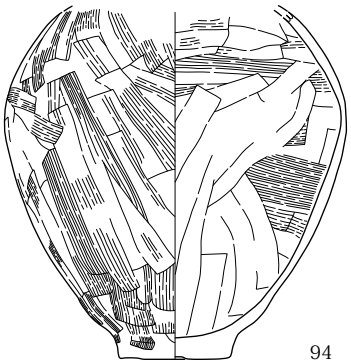
H－17号住



93

12区ベルト１層

H－18号住



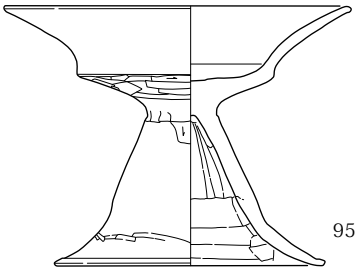
94

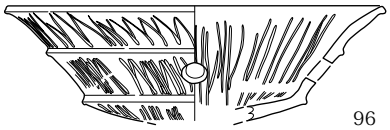
６区１層

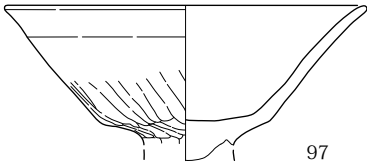
0　1:4　10cm

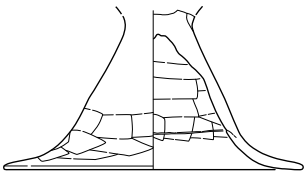
第 560 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 14・16 ～ 18 号住居址出土土器

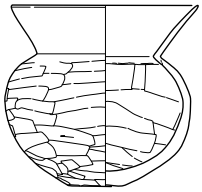
H－20号住

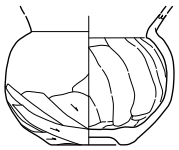

95
8区３層

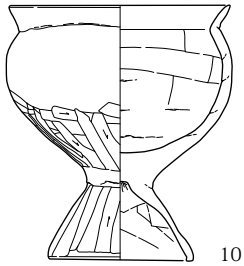

96
5区３層


97
９区ベルト３層

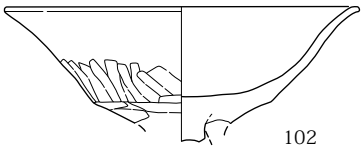

98
３区３層

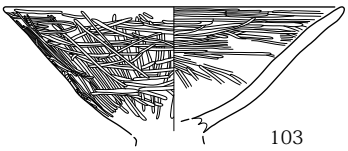

99
13区３層

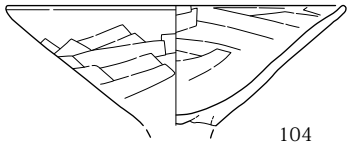

100
5区３層

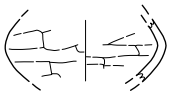

101
２区２層№１

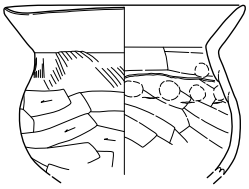
H－21号住

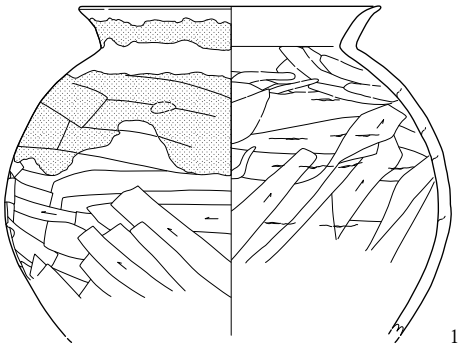

102
16区３層№１

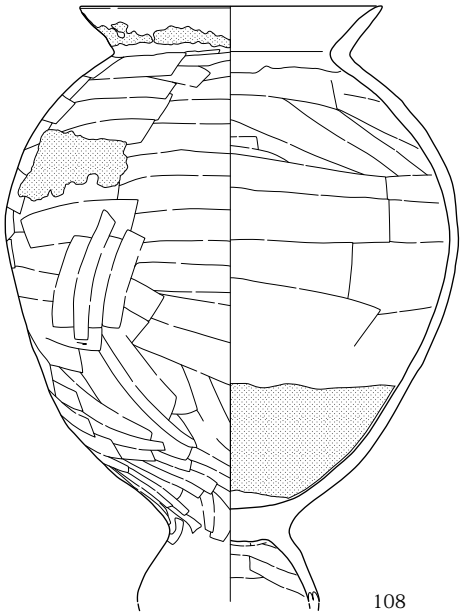

103
16区３層№１

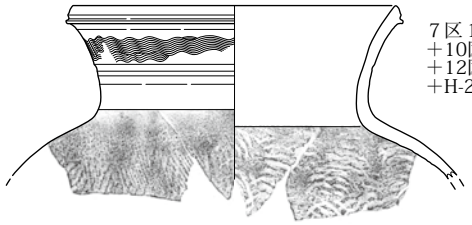

104
16区３層№２


105
12区３層


106
15区３層


107
16区３層№３


108
３区３層№１

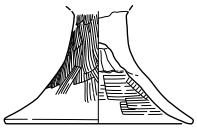

7区１層＋８区１層
＋10区２層＋11区１層
＋12区１層＋14区１層
＋H-24　12区１層
109

110
12区３層

0　1:4　10cm

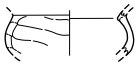
第 561 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 20・21 号住居址出土土器

H－24号住



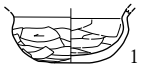
111

9区２層



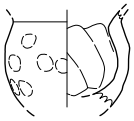
112

２区１層



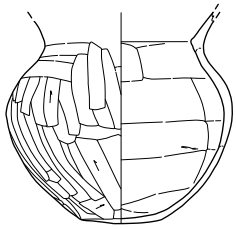
113

12区ベルト２層



114

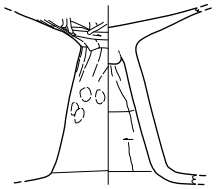
３区サブトレ２層



115

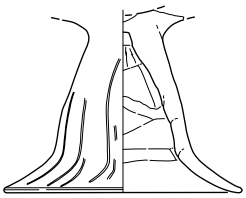
15区１層№１

H－25号住



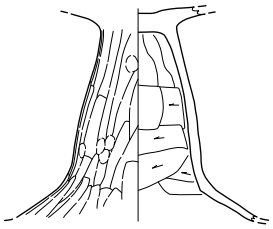
116

12区２層



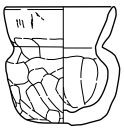
117

１区２層



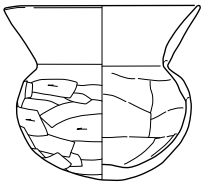
118

１区２層



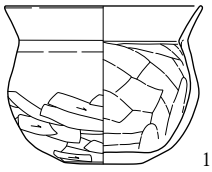
119

１区２層№１



120

16区２層№１

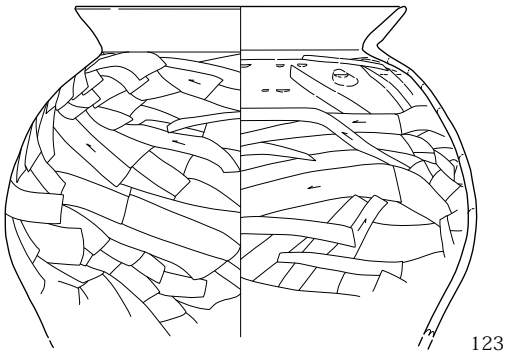


121

13区１層

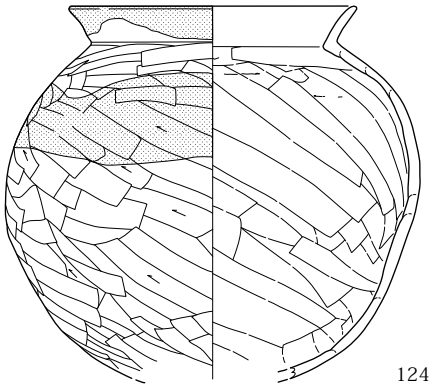
122

８区１層



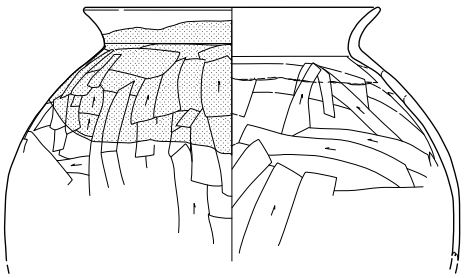
123

13区２層



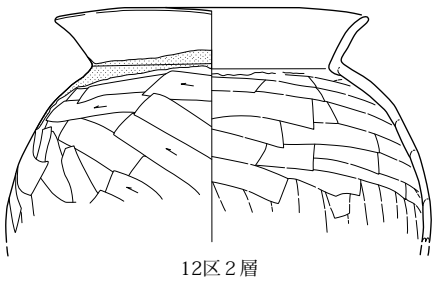
124

13区２層№４



125

13区２層№３



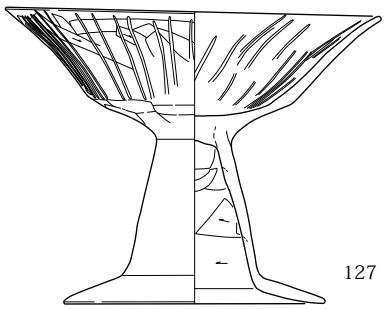
126

12区２層

0　1:4　10cm

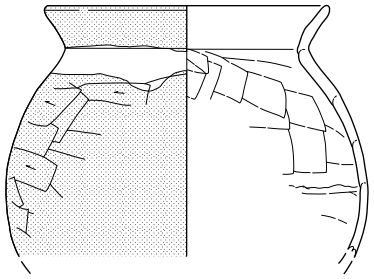
第 562 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 24・25 号住居址出土土器

H－26号住



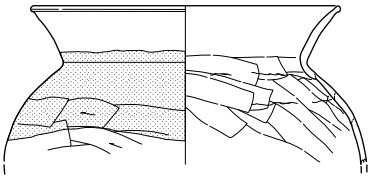
127

1区1層



128

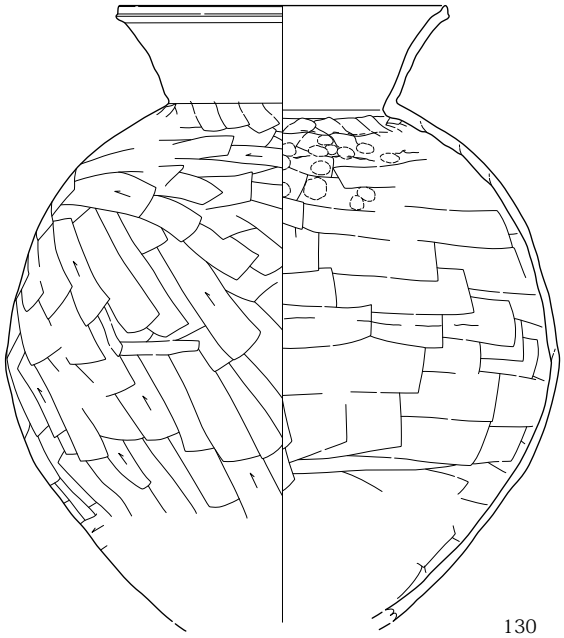
9区1層



129

5区1層

H－27号住



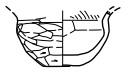
130

1区1層№1

0　1:4　10cm

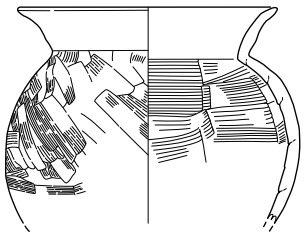
第563図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－26・27号住居址出土土器

H－28号住



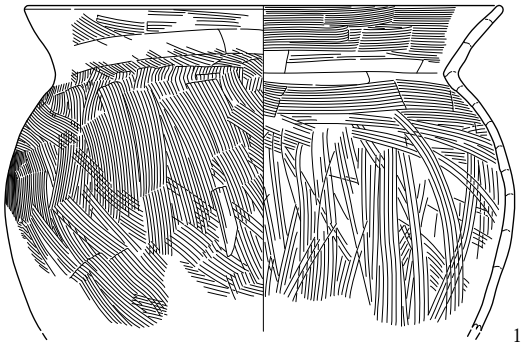
131

3区1層



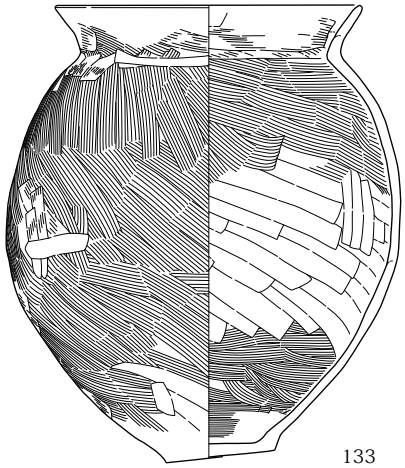
132

7区1層№1



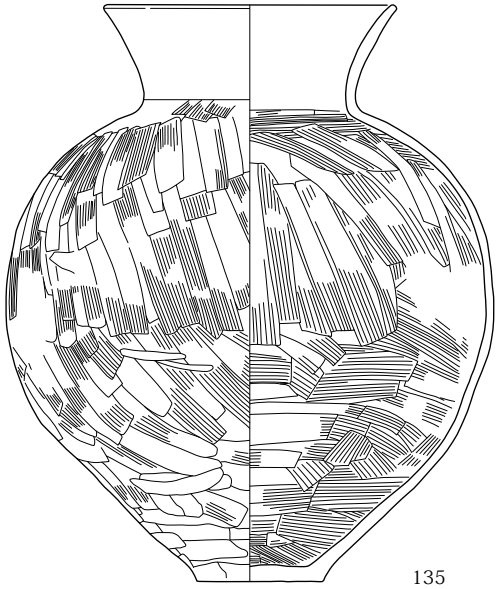
134

10区ベルト1層



133

5区1層



135

9区1層＋10区1層

H－29号住

136

4区1層№1

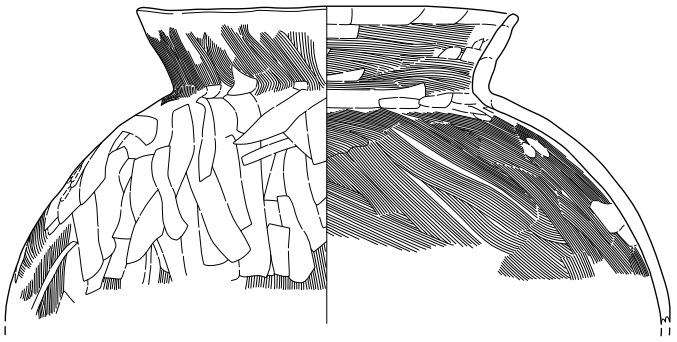
137

4区1層№2

0　1:4　10cm

第564図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－28・29号住居址出土土器

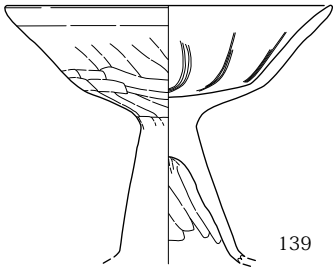
H－30号住



138

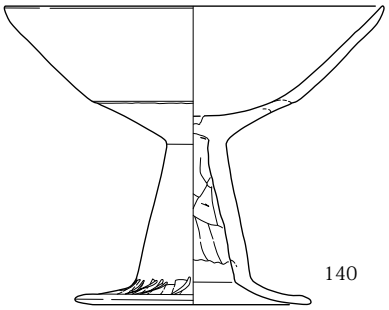
15区１層

H－31号住



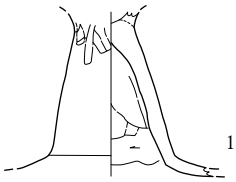
139

12区２層



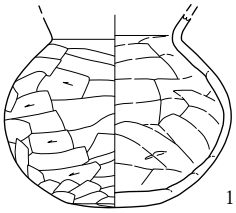
140

12区ベルト２層№４



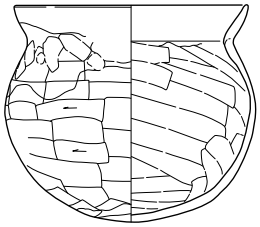
141

16区２層



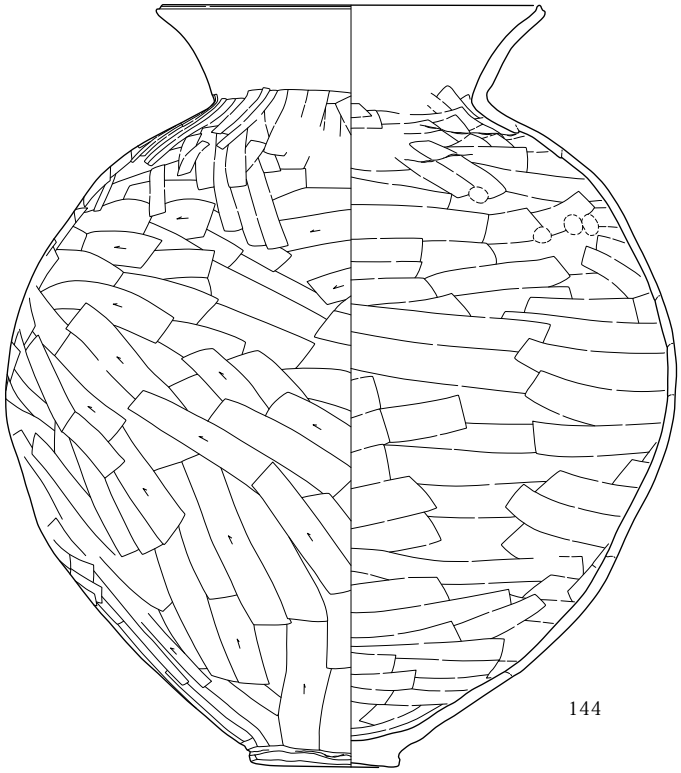
142

13区２層



143

12区ベルト２層



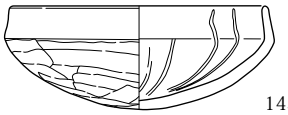
144

12区２層№２

0　1:4　10cm

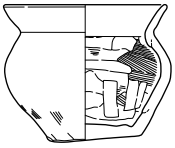
第 565 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 30・31 号住居址出土土器

H－35号住



145

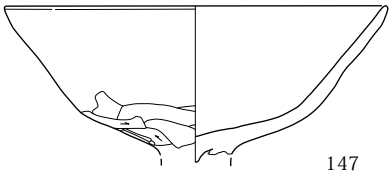
12区ベルト２層



146

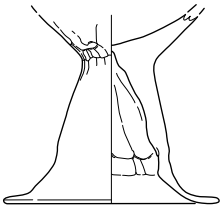
２区１層№１

H－37号住



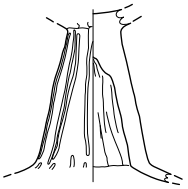
147

12区３層



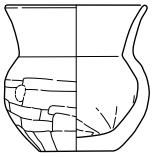
148

14区３層



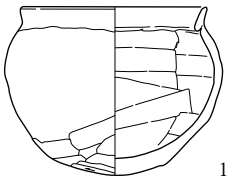
149

14区３層



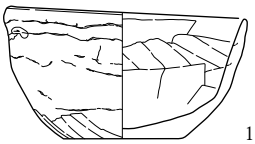
150

14区３層



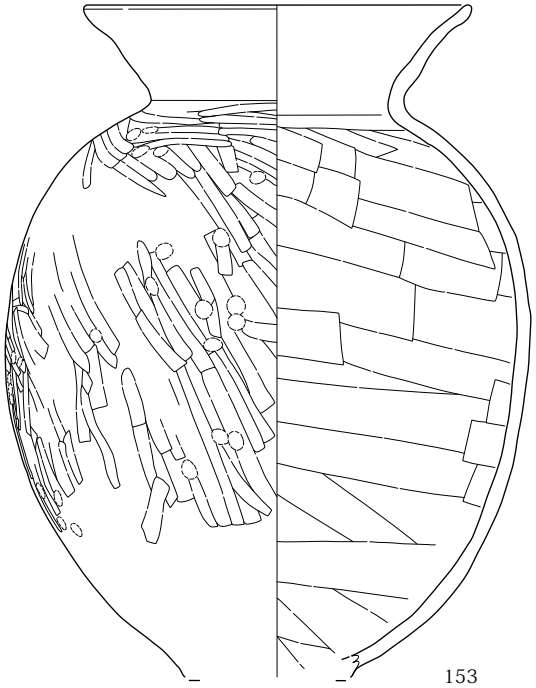
151

２区３層№１



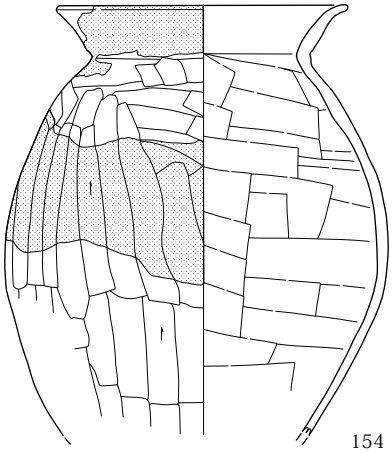
152

15区３層



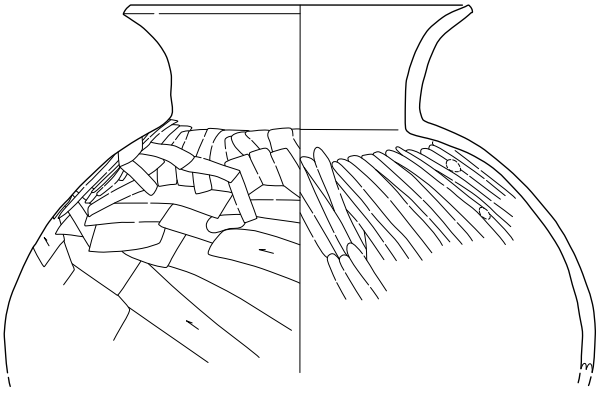
153

13区３層№１



154

16区３層№１



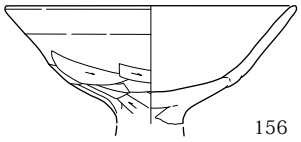
155

５区３層

0　1:4　10cm

第 566 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 35・37 号住居址出土土器

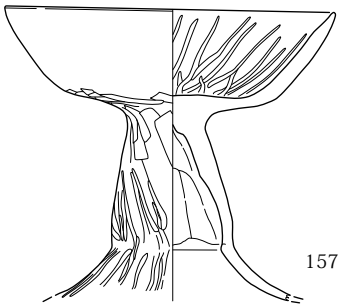
H－39住



156

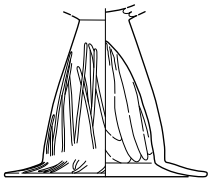
16区２層

H－40号住



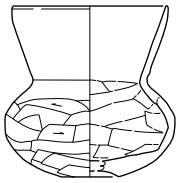
157

14区３層



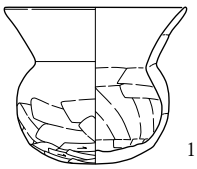
158

12区ベルト２層



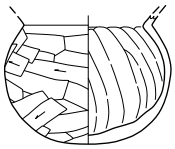
159

14区２層



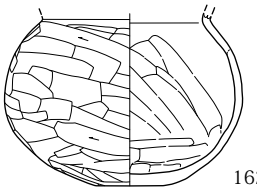
160

15区２層



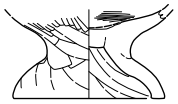
161

11区３層



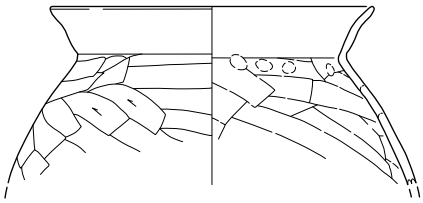
162

11区３層



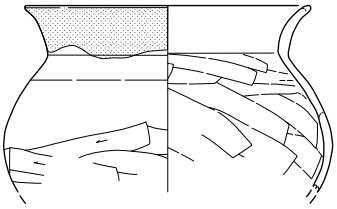
163

11区３層



164

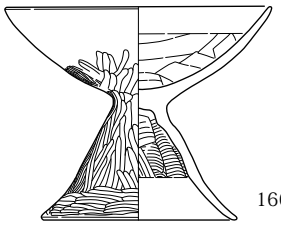
16区１層



165

14区ベルト２層

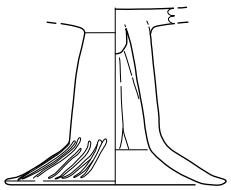
H－41号住



166

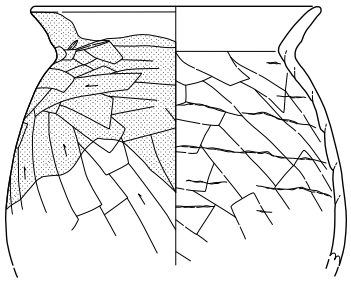
D－１

H－42号住



167

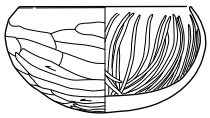
７区２層



168

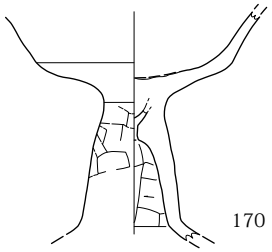
11区ベルト２層

H－43号住



169

８区３層



170

７区３層

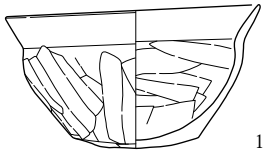
171

４区２層

0　1:4　10cm

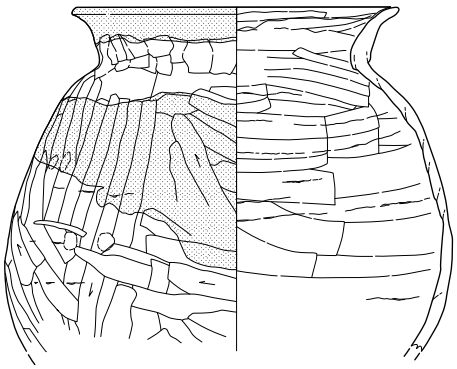
第 567 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 39 ～ 43 号住居址出土土器

H－44号住



172

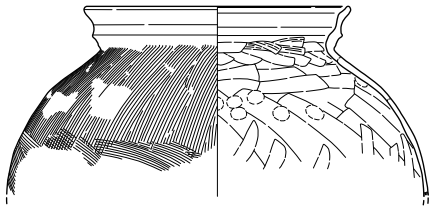
8区２層



173

４区２層

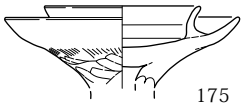
H－45号住



174

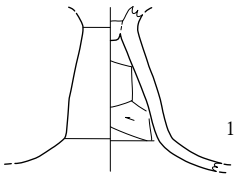
４区２層

H－46号住



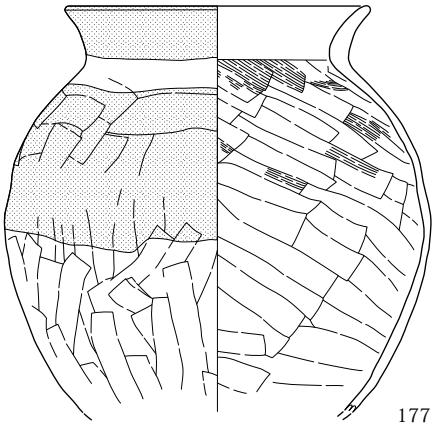
175

15区２層



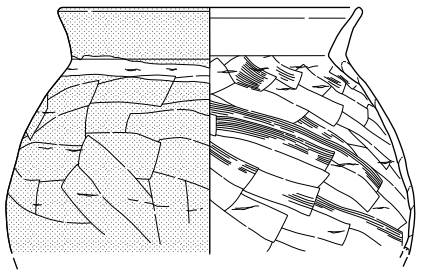
176

15区２層



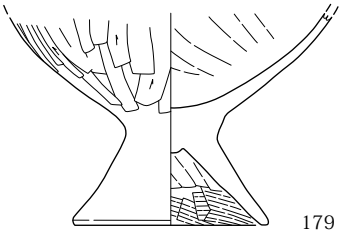
177

12区２層№１



178

16区２層№１



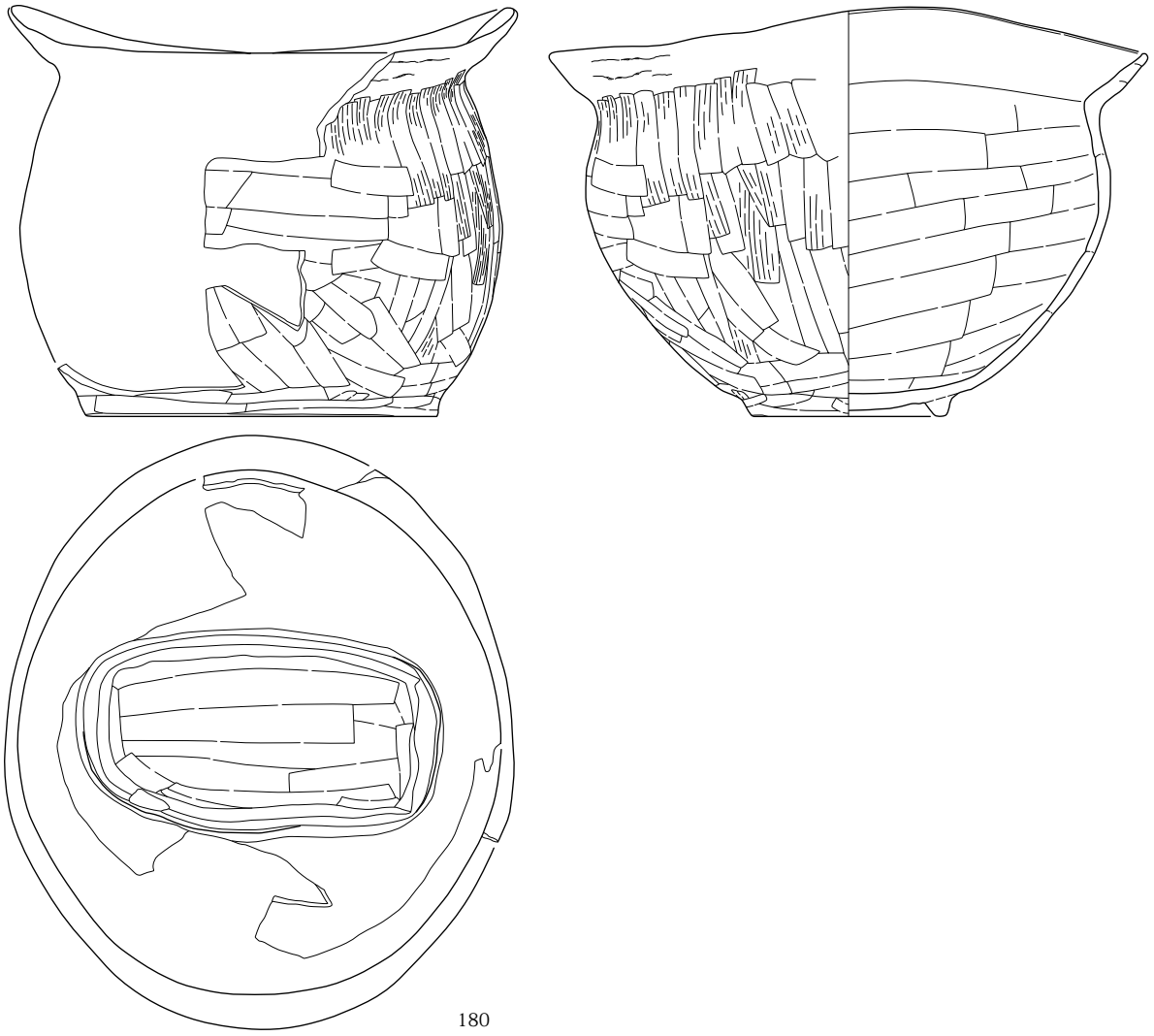
179

15区２層№１

0　1:4　10cm

第 568 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 44 ～ 46 号住居址出土土器

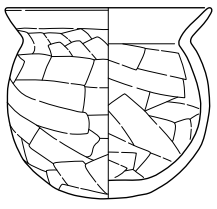
H－46号住



180

11区２層№１

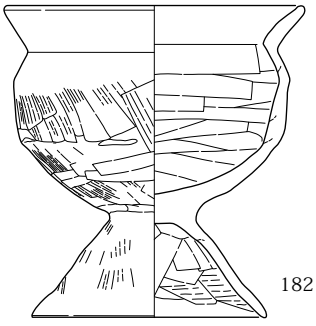
H－47号住



181

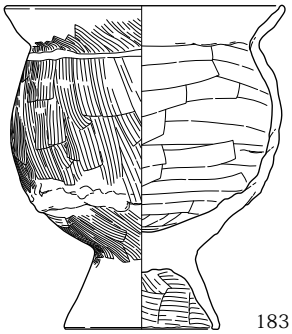
D－１

H－50号住



182

３区２層.№4



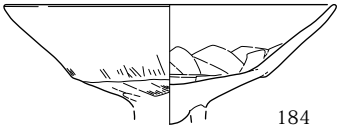
183

３区２層№３

0　1:4　10cm

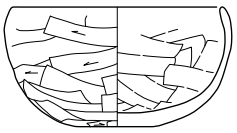
第 569 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 46・47・50 号住居址出土土器

H－50号住



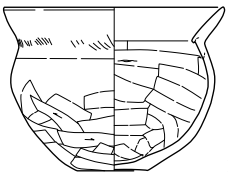
184

2区2層



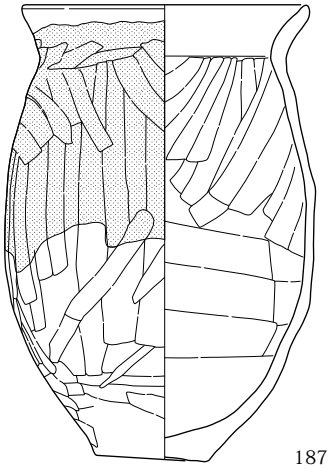
185

3区2層№2



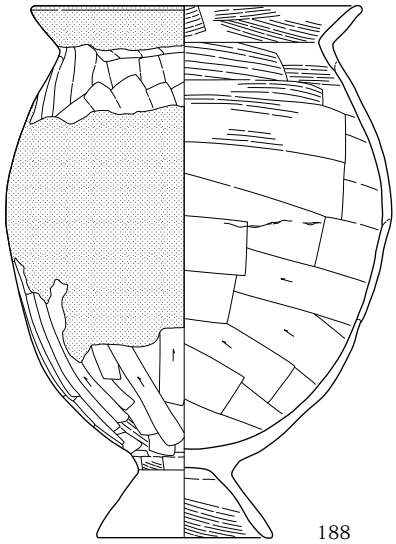
186

8区2層



187

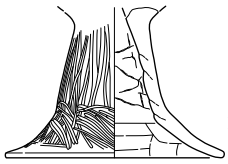
D－1№1



188

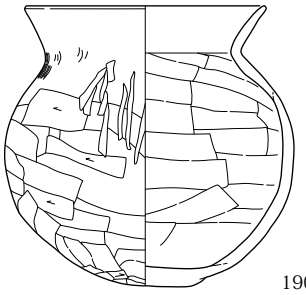
3区2層№5

H－51号住



189

7区1層



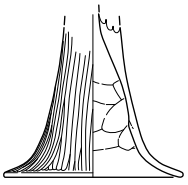
190

3区1層№1

191

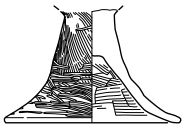
8区1層

H－52号住



192

14区2層

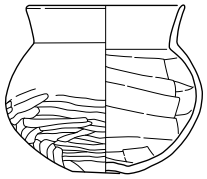


193

14区2層

194

10区2層



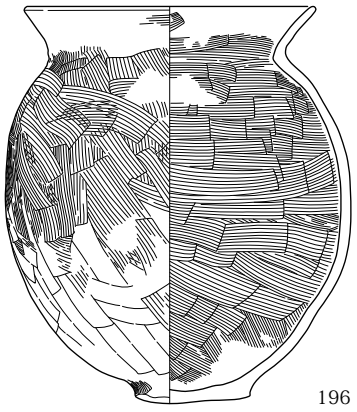
195

11区2層№1

0 1:4 10cm

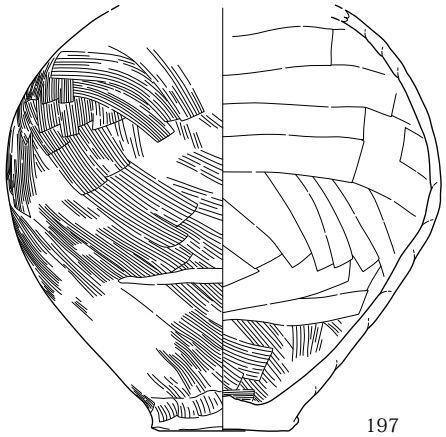
第570図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－50～52号住居址出土土器

H－52号住



196

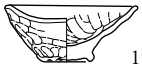
7区2層№1



197

7区2層№2

H－53号住

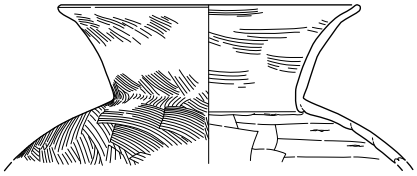


198

16区1層

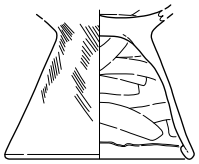
199

10区1層



200

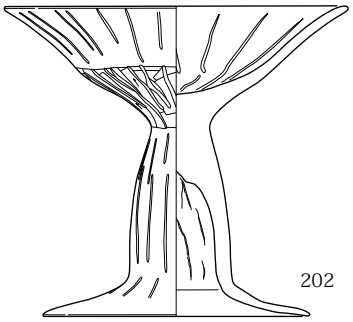
4区1層



201

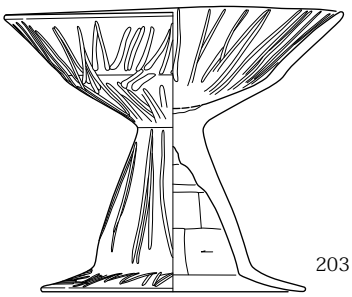
1区1層

H－54号住



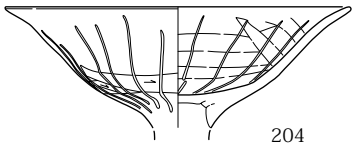
202

9区3層



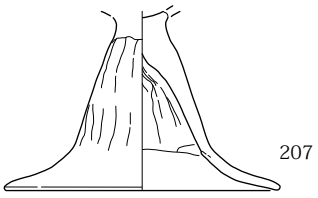
203

9区3層



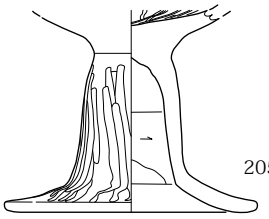
204

5区3層



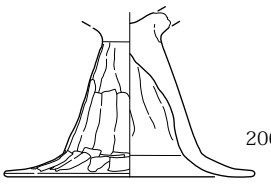
207

5区3層



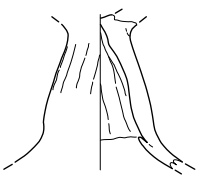
205

6区3層



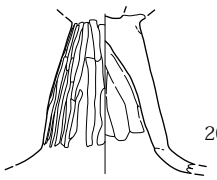
206

10区ベルト3層



208

5区3層



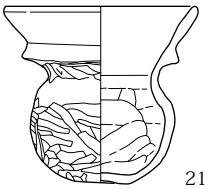
209

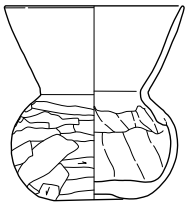
1区3層

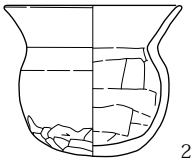
0　1:4　10cm

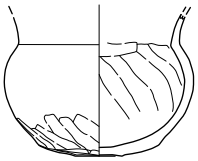
第571図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－52～54号住居址出土土器

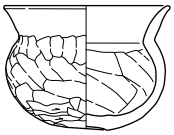
H－54号住

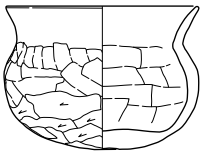

210
4層3層

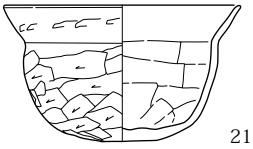

211
6層3層

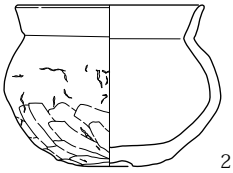

212
6区3層№2

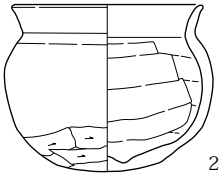

213
8層2層

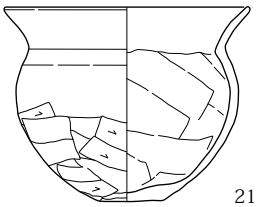

214
6層3層

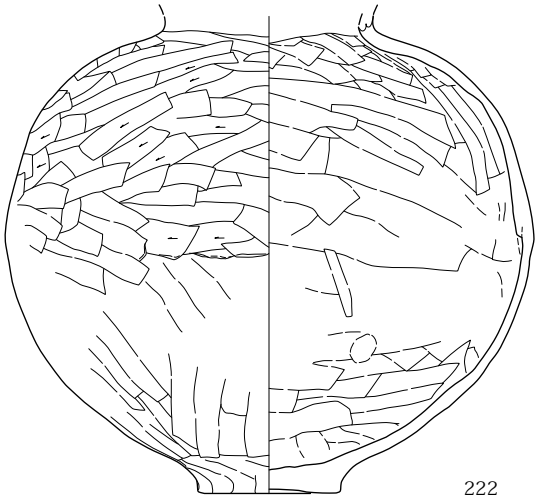

215
5層3層

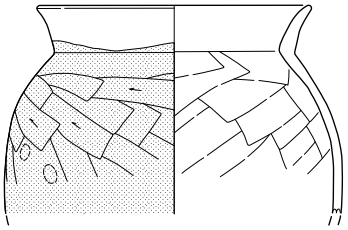

216
5区3層

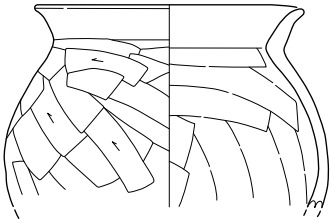

217
5区3層


218
5区3層


219
5区3層


222
1区1層№1

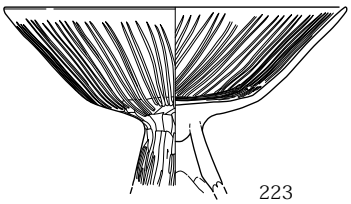

220
10区ベルト3層


221
5区3層

0　1:4　10cm

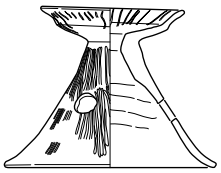
第 572 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 54 号住居址出土土器

H－55号住



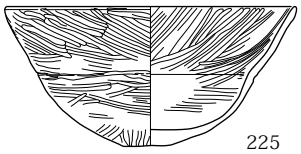
223

D－1



224

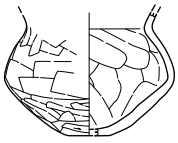
16区３層



225

16区３層

H－56号住

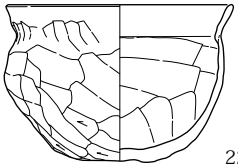


226

11区サブトレ２層

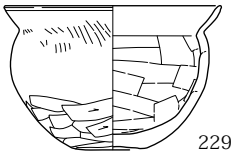
227

11区サブトレ２層



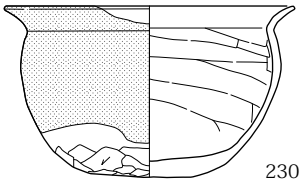
228

16区３層



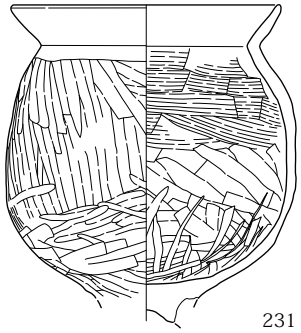
229

D－1 №1



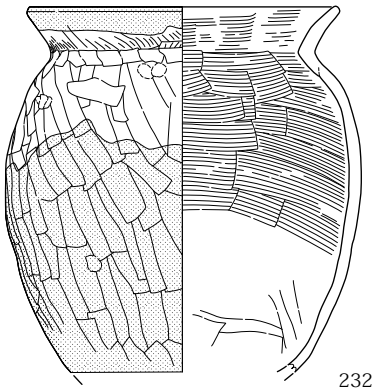
230

16区３層



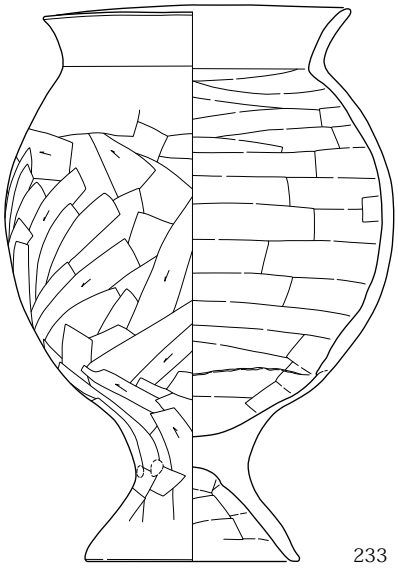
231

3区２層



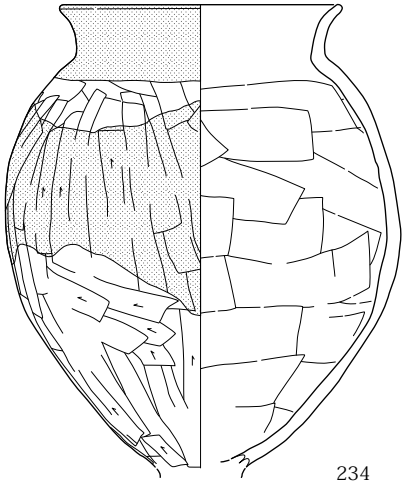
232

D－1 №3



233

9区２層№1



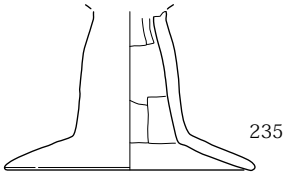
234

6区１層

0　1:4　10cm

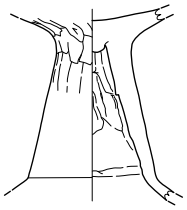
第 573 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 55・56 号住居址出土土器

H－57号住



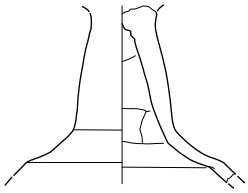
235

4区1層



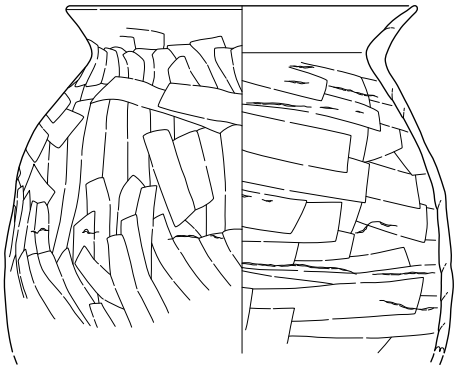
236

4区1層



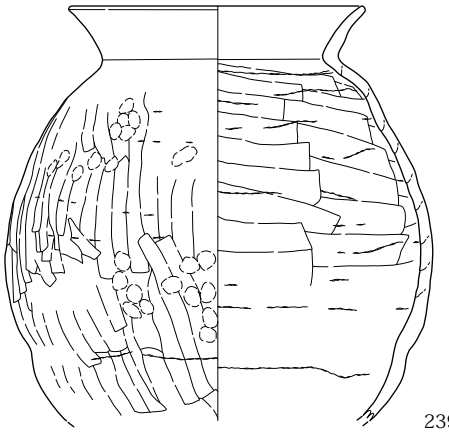
237

4区1層



238

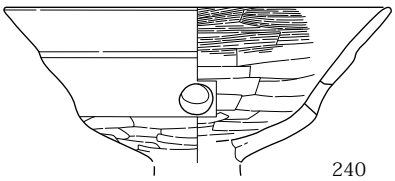
4区1層№5



239

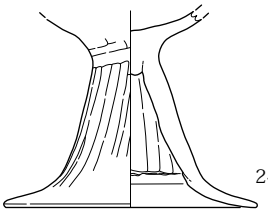
4区1層№1

H－58号住



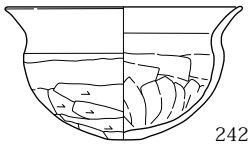
240

14区2層



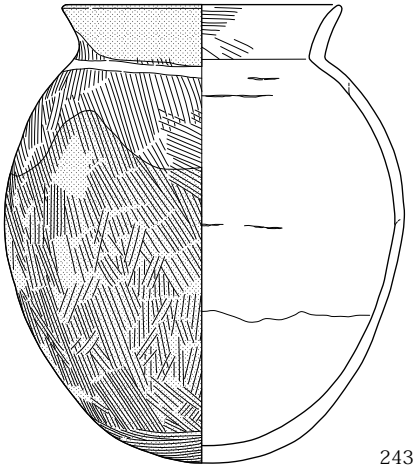
241

2区2層



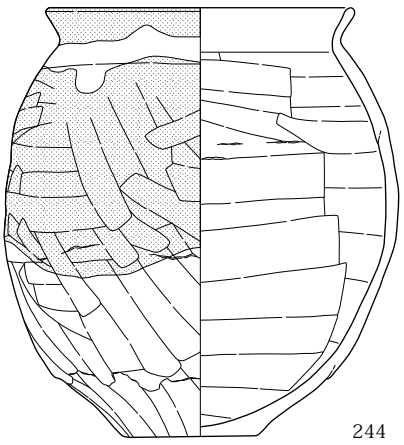
242

16区2層



243

D－1№3



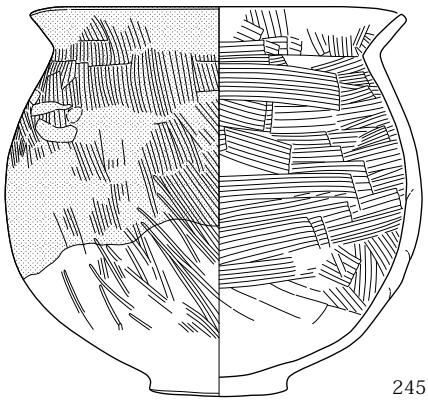
244

D－1№1

0　1:4　10cm

第574図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－57・58号住居址出土土器

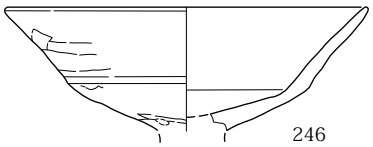
H－58号住



245

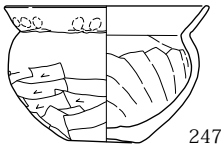
D－1 №2

H－59号住



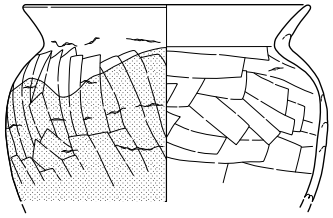
246

16区２層



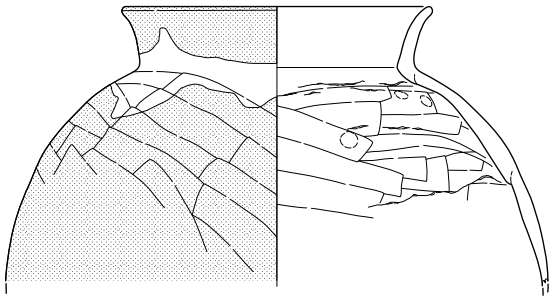
247

16区２層



248

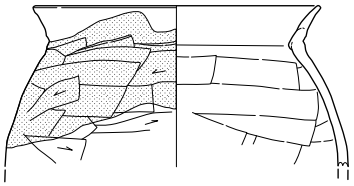
16区２層



249

16区２層

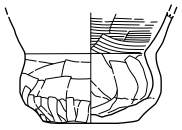
H－60号住



250

13区１層

H－61号住



251

1区１層

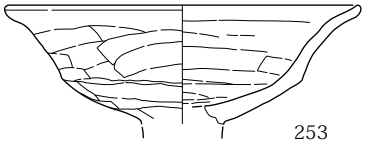
252

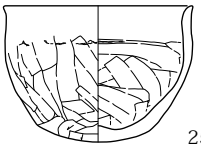
4区１層

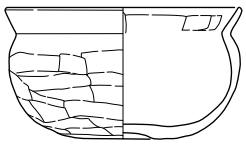
0　1:4　10cm

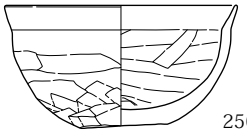
第 575 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 58 ～ 61 号住居址出土土器

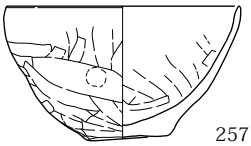
H－62号住

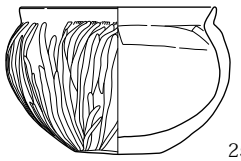

253
4区２層

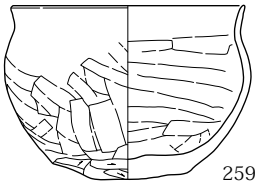

254
16区２層

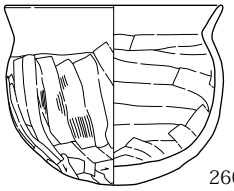

255
13区２層

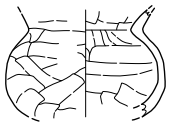

256
18区２層

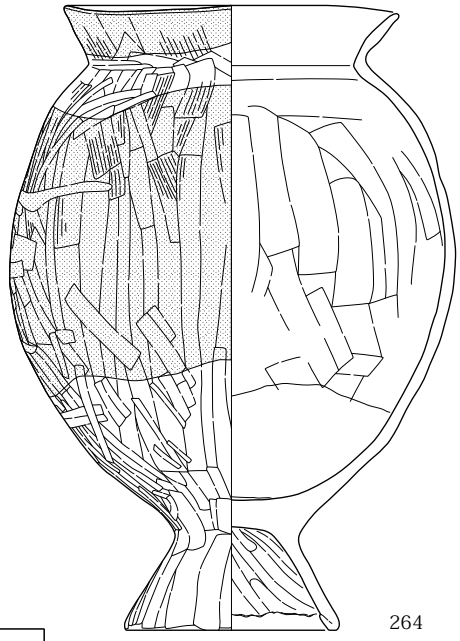

257
16区２層

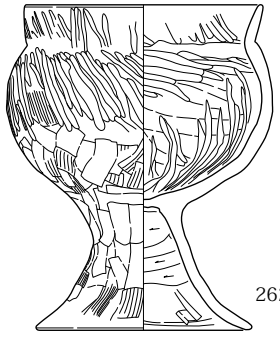

258
16区２層№１

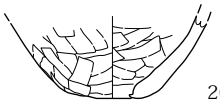

259
20区２層


260
20区２層

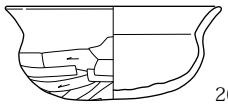

261
６区１層

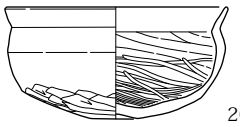

264
２区２層№１

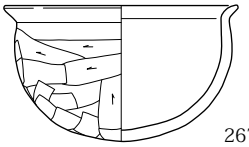

262
14区２層

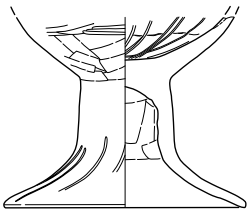

263
11区ベルト２層

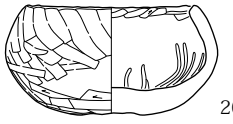
H－63号住

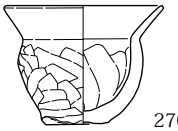

265
15区２層

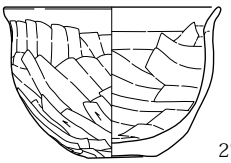

266
16区２層

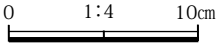

267
15サブトレ１層


268
２区ベルト２層


269
３区２層

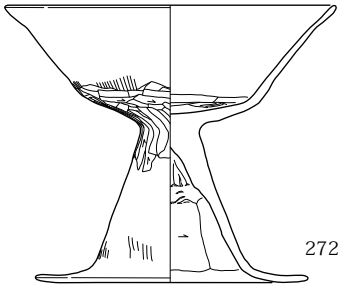

270
13区２層


271
16区２層



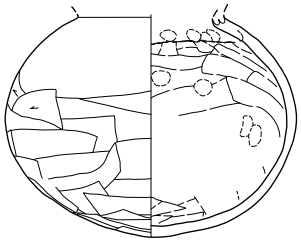
第 576 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 62・63 号住居址出土土器

H－64号住



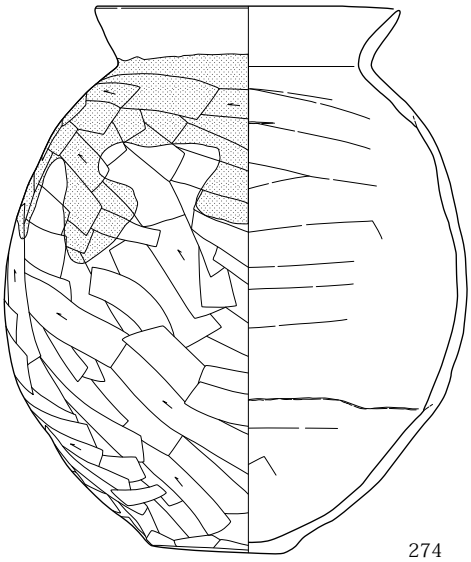
272

D－1 No.1



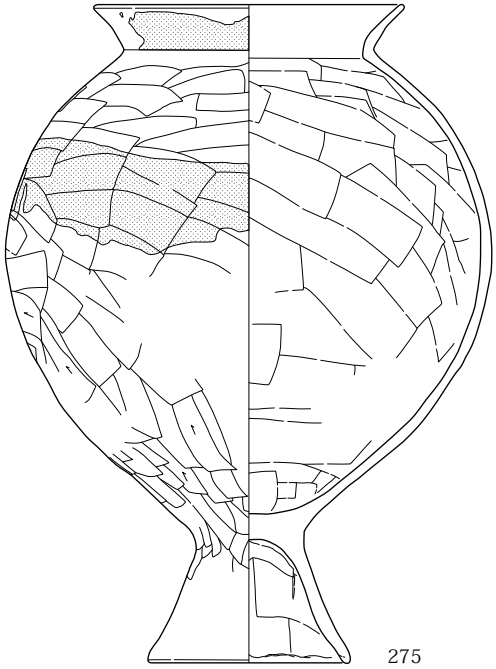
273

D－1 No.2



274

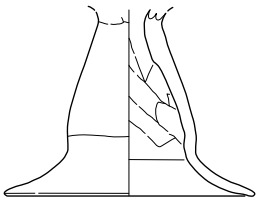
D－1 No.3



275

D－2

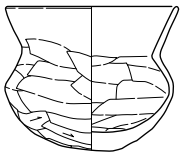
H－66号住



276

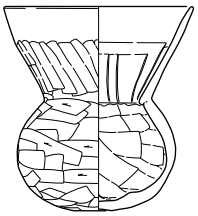
6区ベルト1層

H－67号住



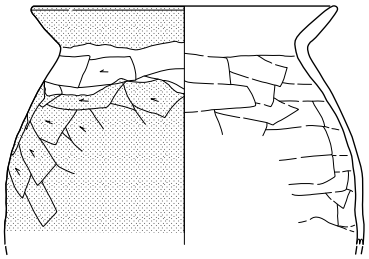
277

10区1層



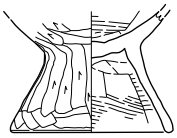
278

16区1層



279

6区1層



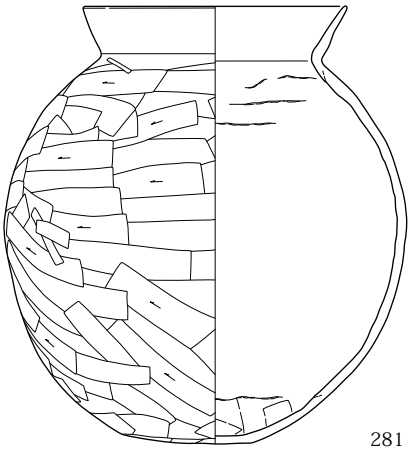
280

7区1層

0　1:4　10cm

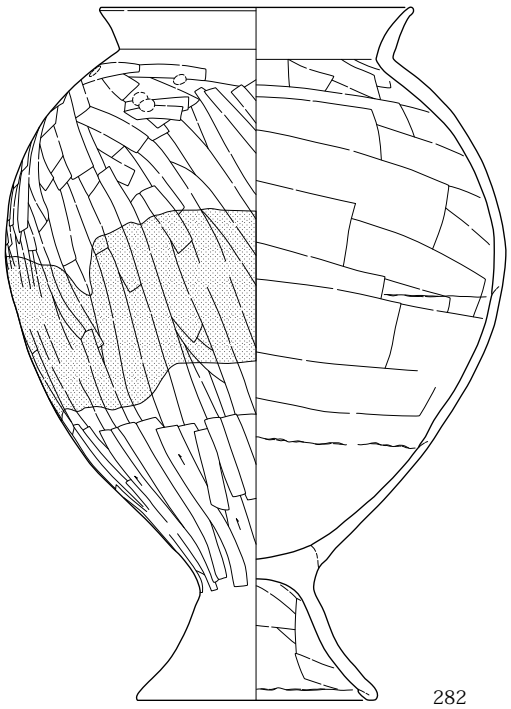
第577図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－64・66・67号住居址出土土器

H－69号住



281

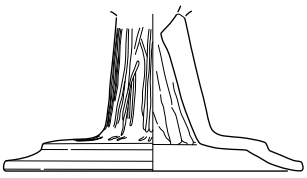
10区２層



282

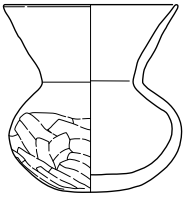
15区２層

H－72号住



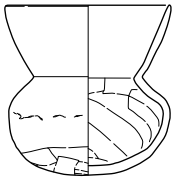
283

12区ベルト２層



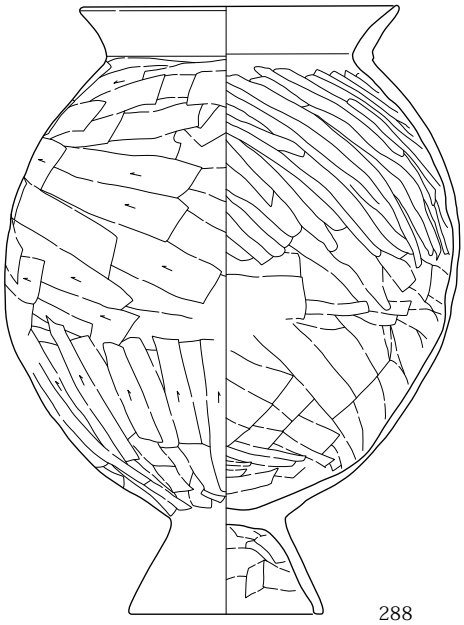
284

14区２層



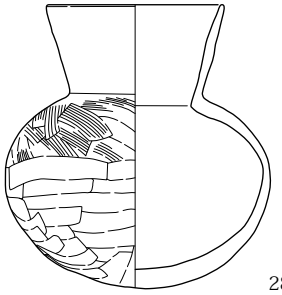
285

15区２層



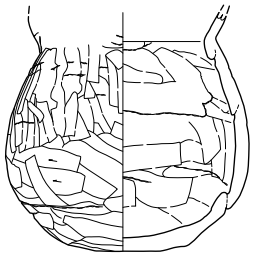
288

13区２層№１



286

D－１№１



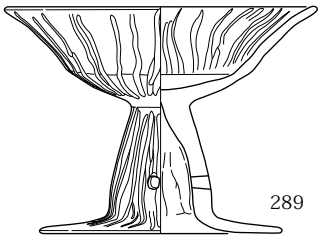
287

４区１層№１

0　1:4　10cm

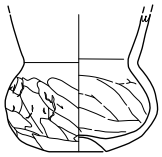
第 578 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 69・72 号住居址出土土器

H－75号住



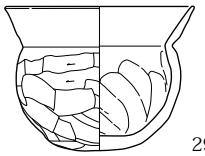
289

15区３層



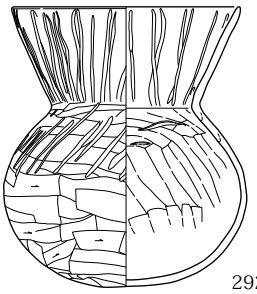
290

６区３層



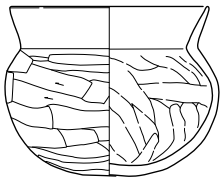
291

16区３層№１



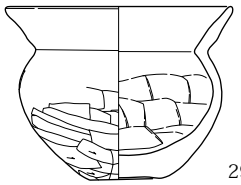
292

16区３層№２



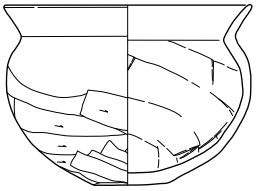
293

15区３層№１



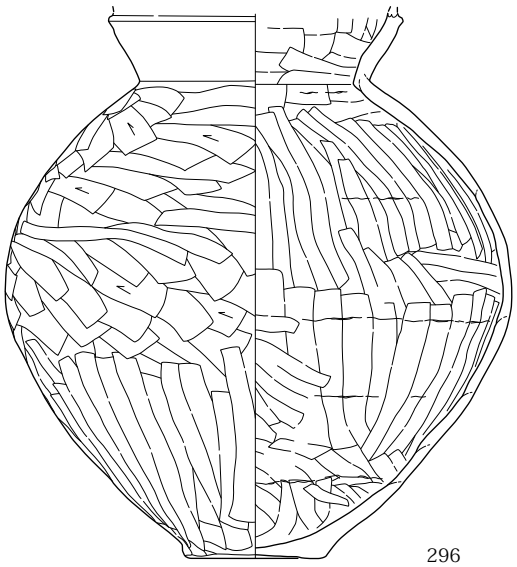
294

２区３層№１



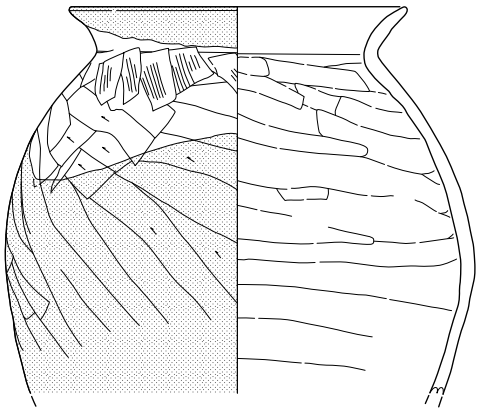
295

２区ベルト３層



296

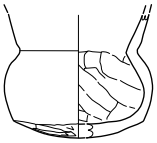
12区３層№１



297

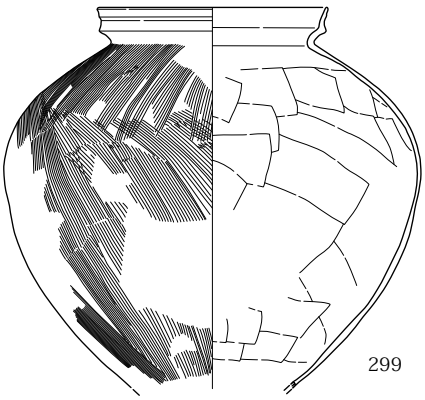
２区３層№２

H－77号住



298

４区１層



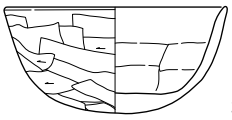
299

９区ベルト３層

0　1:4　10cm

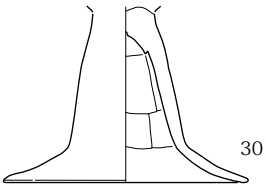
第 579 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 75・77 号住居址出土土器

H－78号住



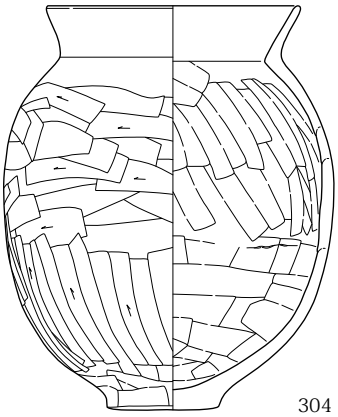
300

14区２層



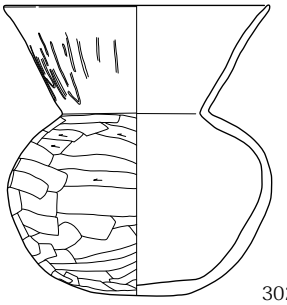
301

15区２層№１



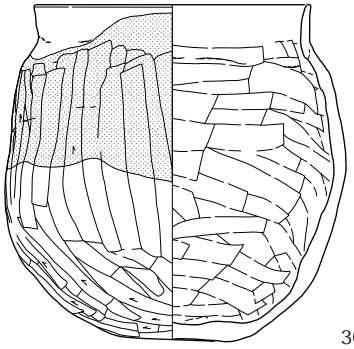
304

15区２層№２



302

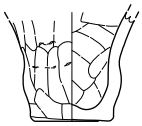
３区２層



303

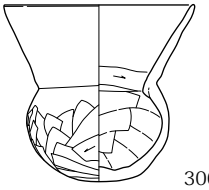
３区２層№１

H－83号住



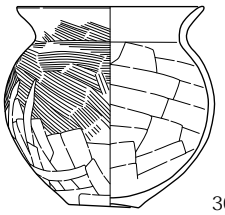
305

６区１層



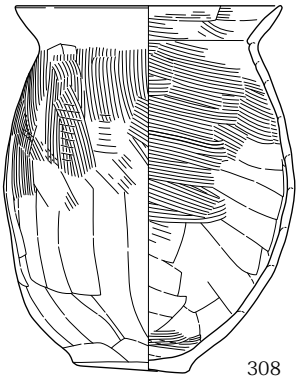
306

１区サブトレ１層



307

２区２層



308

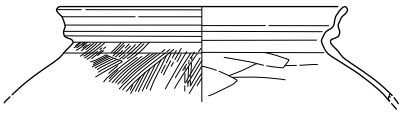
８区２層

H－84号住

309

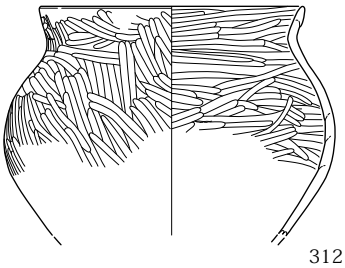
３区１層

H－89号住



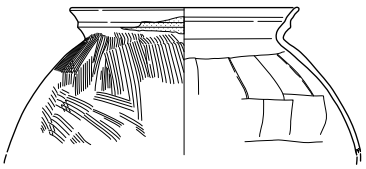
310

11区１層



312

11区１層№１



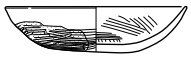
11区１層

311

0　1:4　10cm

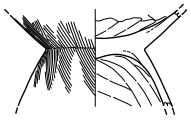
第 580 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 78・83・84・89 号住居址出土土器

H－91号住



313

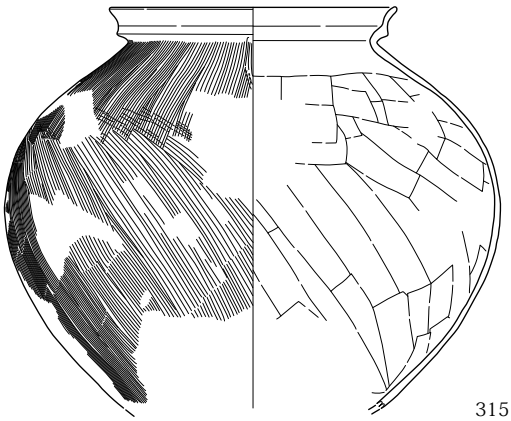
1区2層



314

3区2層

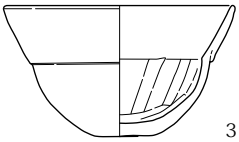
H－92号住



315

3区1層

H－93号住



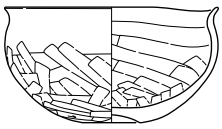
316

3区ベルト2層

317

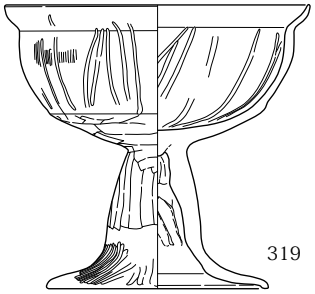
4区ベルト2層

H－94号住



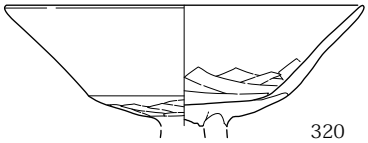
318

7区2層№1



319

16区2層

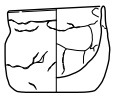


320

4区1層

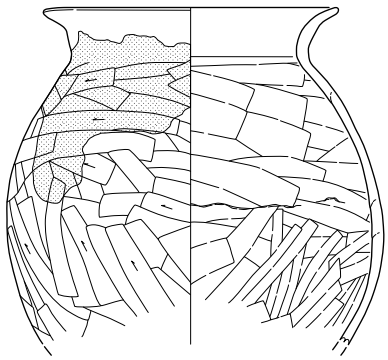
321

4区2層№1



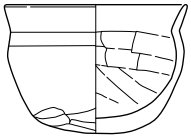
322

8区2層№1



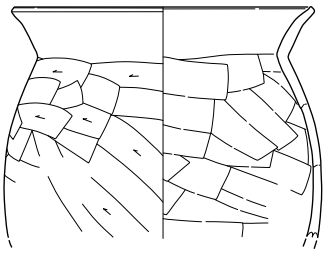
324

3区2層№1



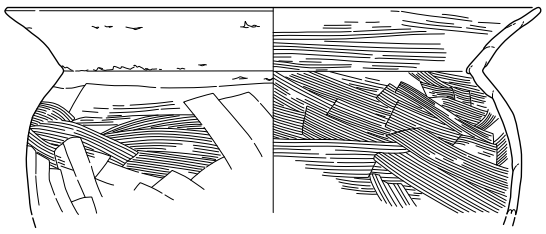
323

9区2層



325

9区ベルト2層＋5区1層



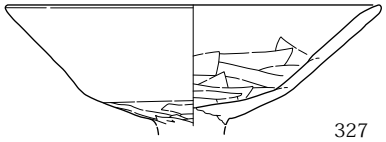
326

4区1層

0　1:4　10cm

第 581 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 91 ～ 94 号住居址出土土器

H－95号住

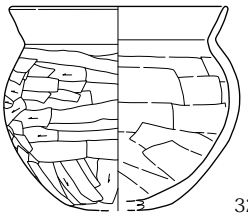


327

4区ベルト2層

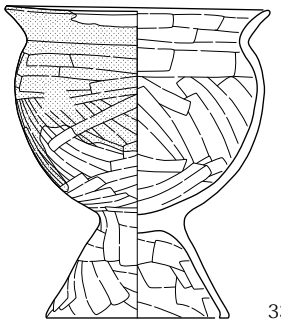
328

1区2層№1



329

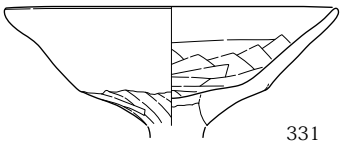
4区ベルト2層



330

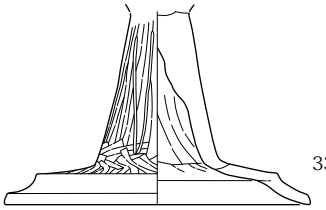
1区2層№2

H－96号住



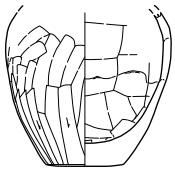
331

周辺



332

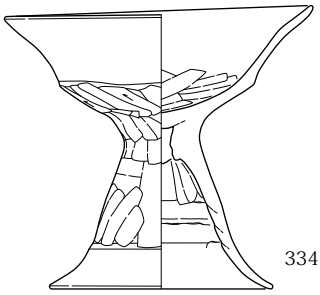
12区1層



333

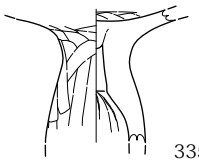
16区1層

H－97号住



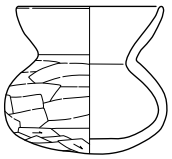
334

10区2層№1



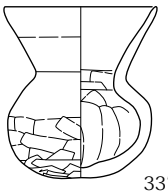
335

2区2層



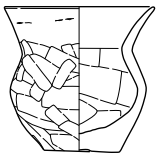
336

6区2層№1



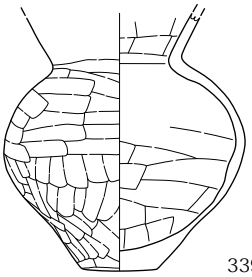
337

6区2層№2



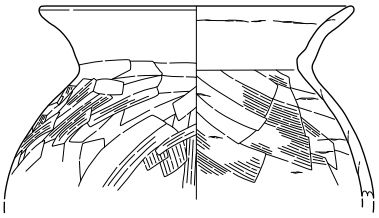
338

16区2層№3



339

16区2層№4



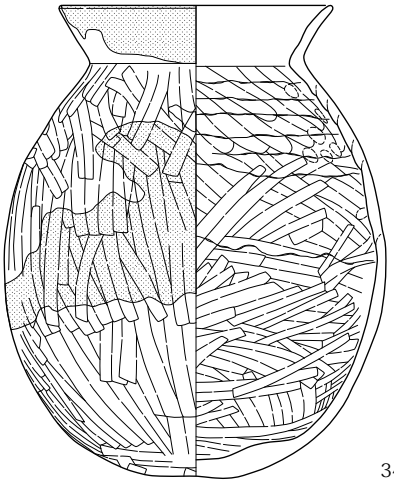
340

2区2層№1

0　1:4　10cm

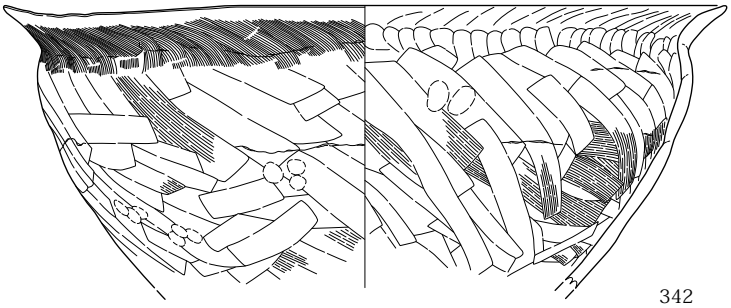
第582図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－95～97号住居址出土土器

H－97号住



341

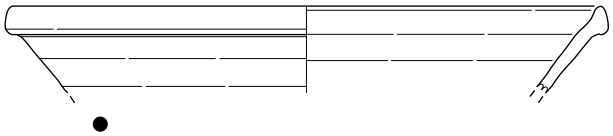
16区２層№１



342

13区２層

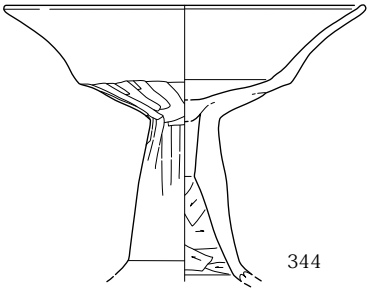
H－98号住



343

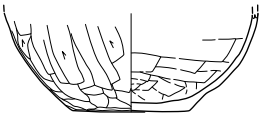
２区１層

H－100号住



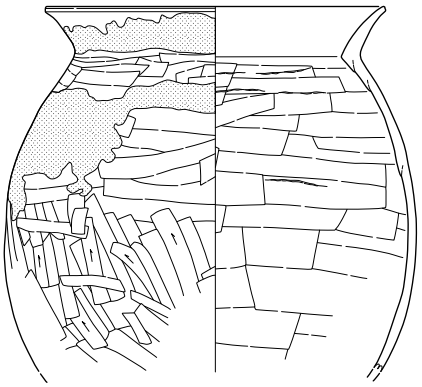
344

15区３層



345

９区３層№１



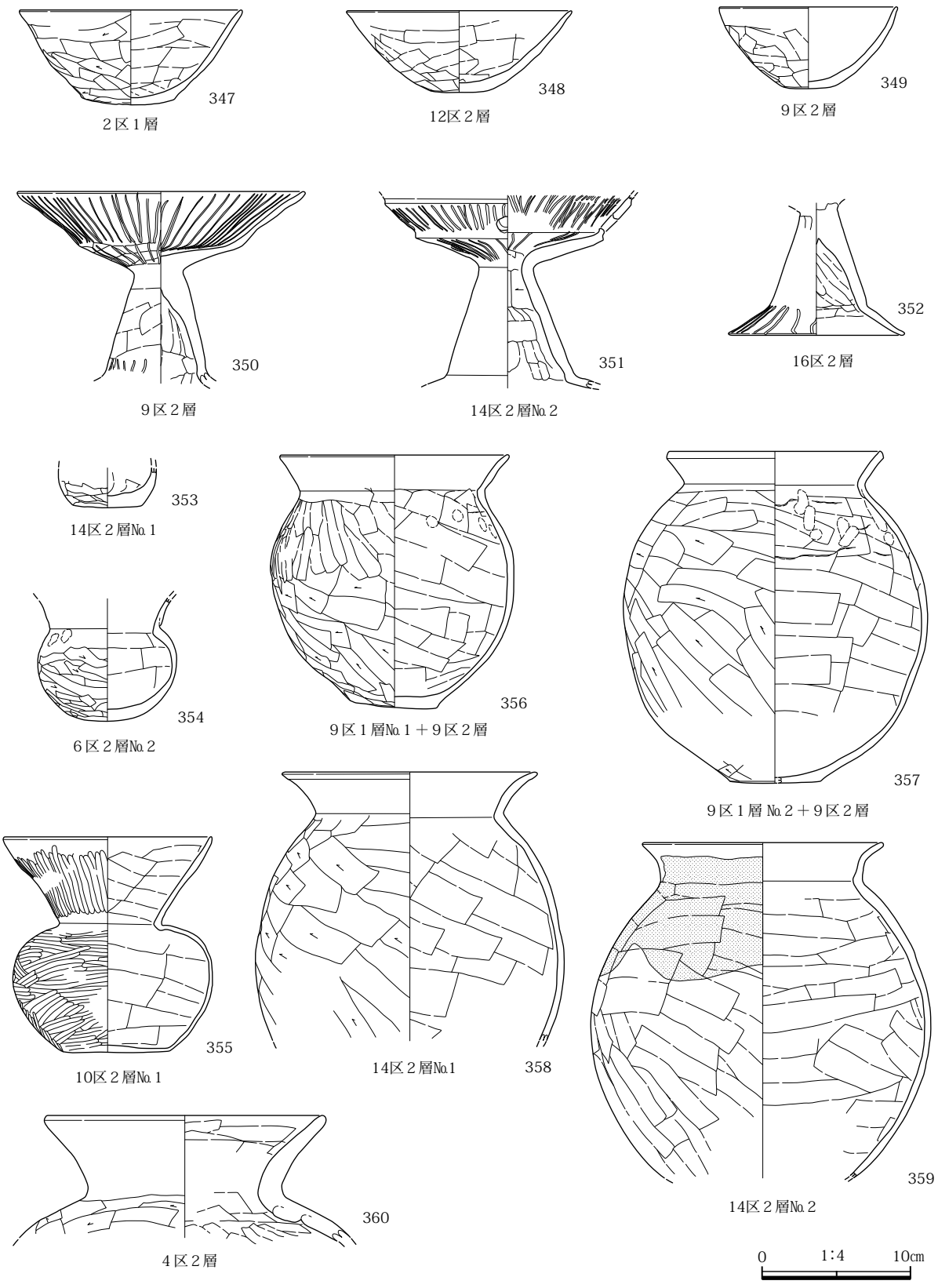
346

２区ベルト３層№１

0　1:4　10cm

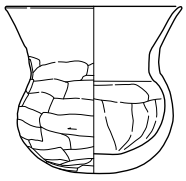
第 583 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 97・98・100 号住居址出土土器

H－101号住



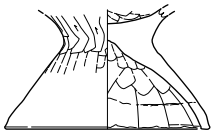
第 584 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 101 号住居址出土土器

H－102号住



361

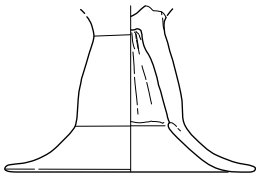
3区２層№１



362

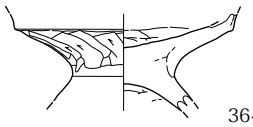
3区２層

H－103号住



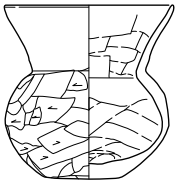
363

10区２層



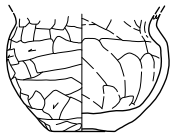
364

16区２層



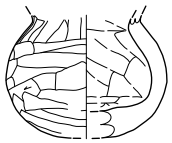
365

13区２層№４



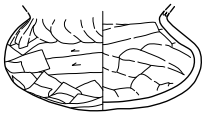
366

15区２層



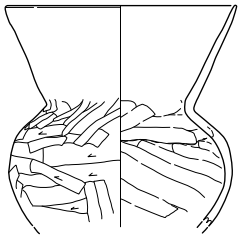
367

16区２層



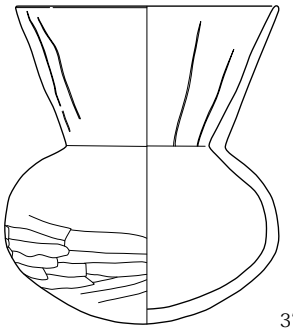
368

10区ベルト２層№１



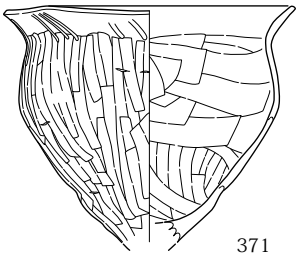
369

９区ベルト２層№１



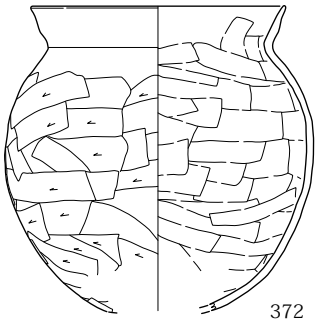
370

10区２層№１



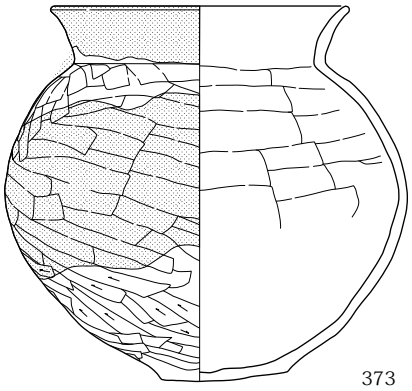
371

６区２層



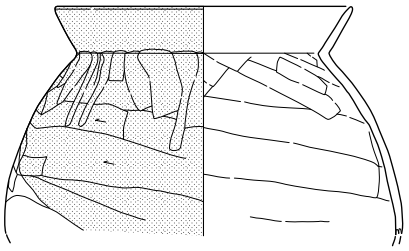
372

14区２層



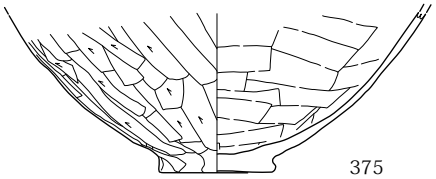
373

13区２層№１



374

14区２層№１



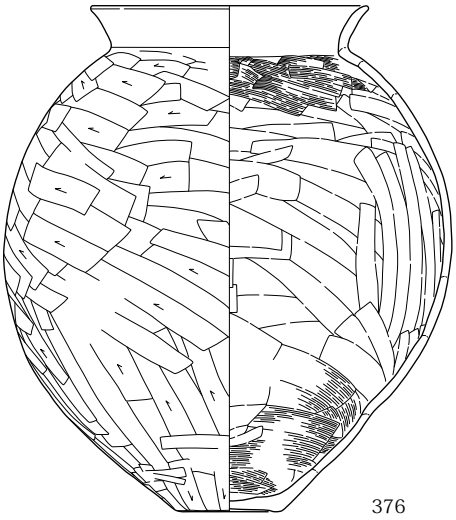
375

14区ベルト２層

0　1:4　10cm

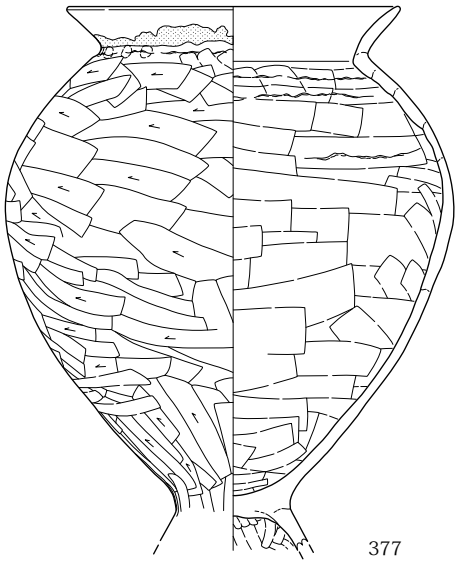
第 585 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 102・103 号住居址出土土器

H－103号住



376

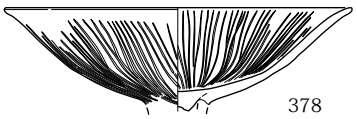
16区２層№１



377

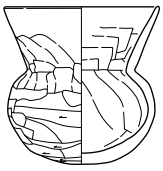
15区２層№１

H－104号住



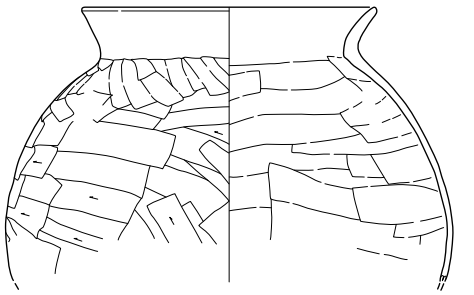
378

16区２層№１



379

11区２層

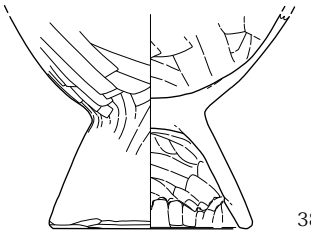


382

13区２層№３

380

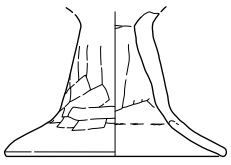
D－1



381

13区２層

H－107号住



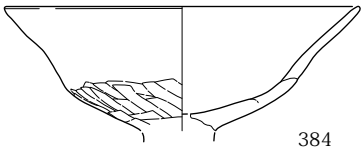
383

10区２層

0　1:4　10cm

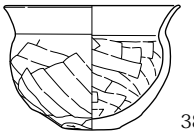
第 586 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 103・104・107 号住居址出土土器

H－108号住



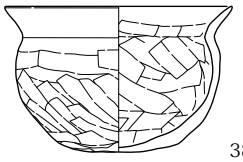
384

6区2層



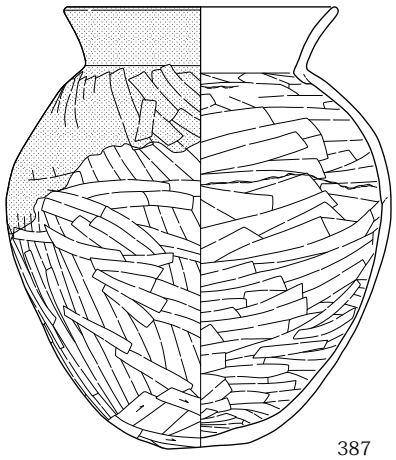
385

5区2層



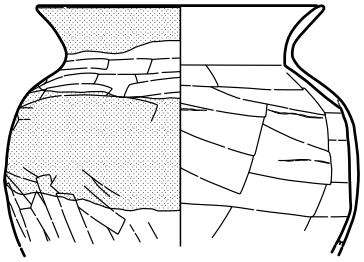
386

D－1



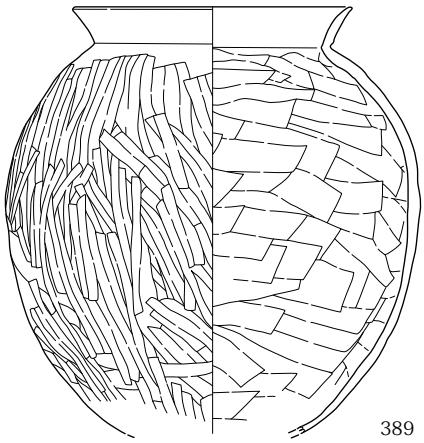
387

8区2層№1



388

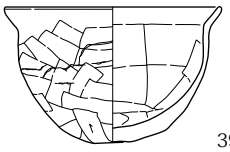
一括



389

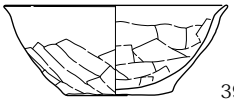
8区2層№1

H－110号住



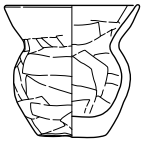
390

4区2層



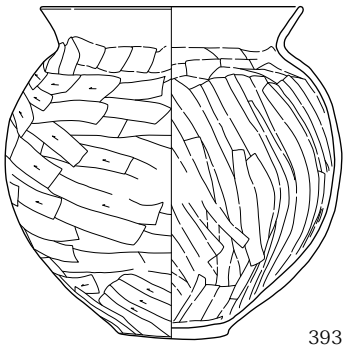
391

16区2層



392

15区2層



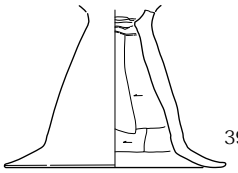
393

4区2層

0　1:4　10cm

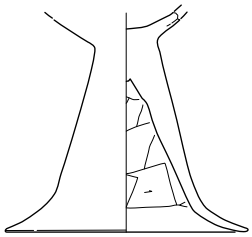
第587図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－108・110号住居址出土土器

H－111号住



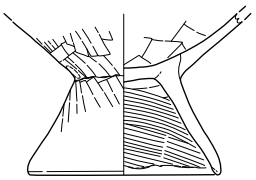
394

D－1



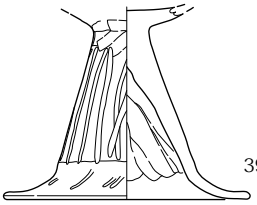
395

7区2層



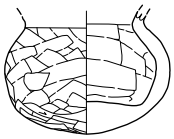
398

8区2層



396

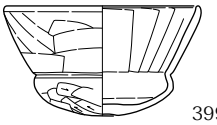
12区2層



397

D－1

H－112号住



399

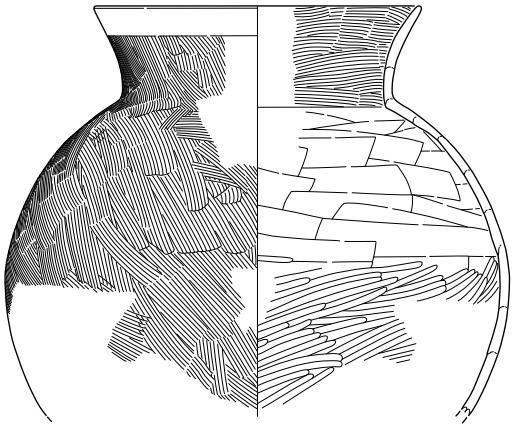
3区1層

400

3区1層№1

401

4区1層＋H－113住2区2層



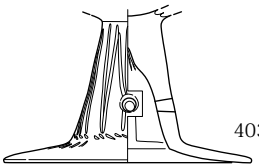
402

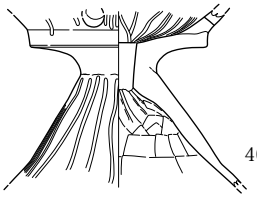
8区1層＋4区1層

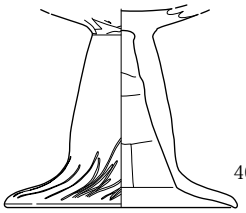
0　1:4　10cm

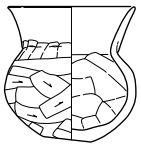
第588図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－111・112号住居址出土土器

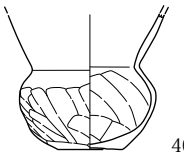
H－113号住

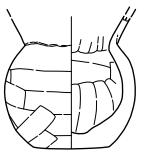

403
2区2層

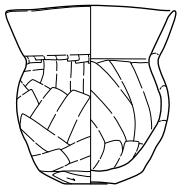

404
5区1層

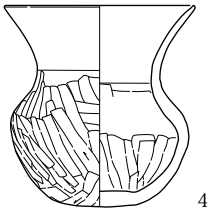

405
5区2層No.5

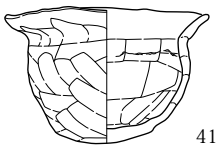

406
6区3層

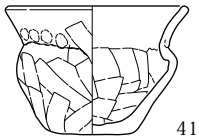

407
6区3層

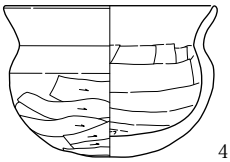

408
5区3層

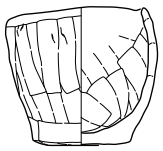

409
13区2層

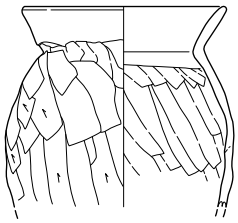

410
16区3層

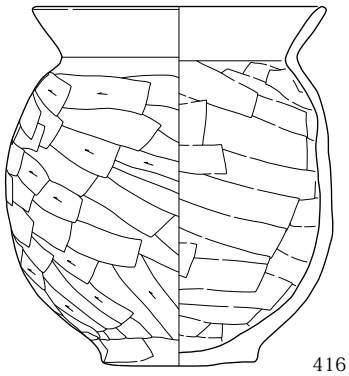

411
6区3層

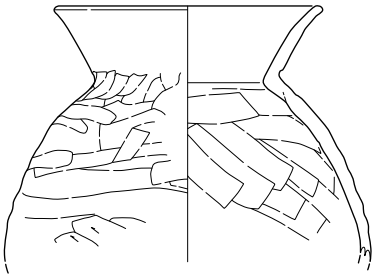

412
5区2層No.2

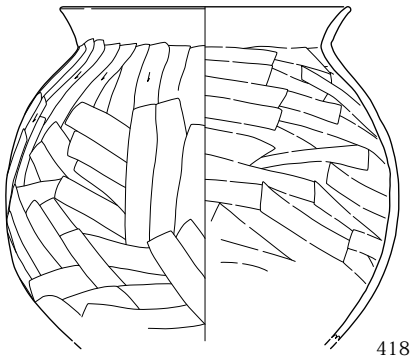

413
5区2層No.3

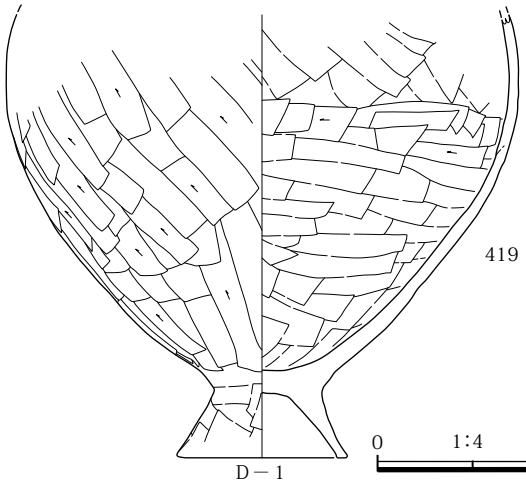

414
5区3層


415
5区2層No.1


416
5区2層No.7


417
5区2層No.4

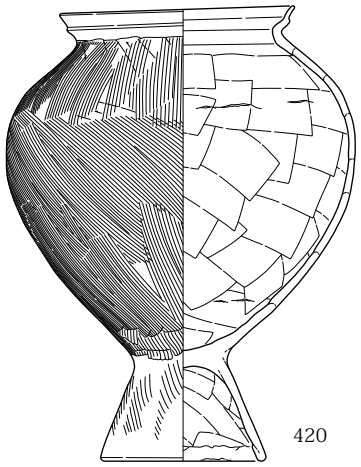

418
5区2層No.6


419
D－1

0 1:4 10cm

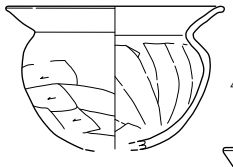
第589図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－113号住居址出土土器

出土地不明



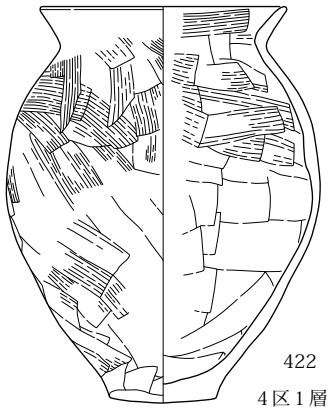
420

T－2



421

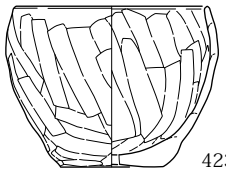
2区1層№1



422

4区1層

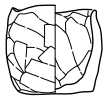
T－3



423

4区1層

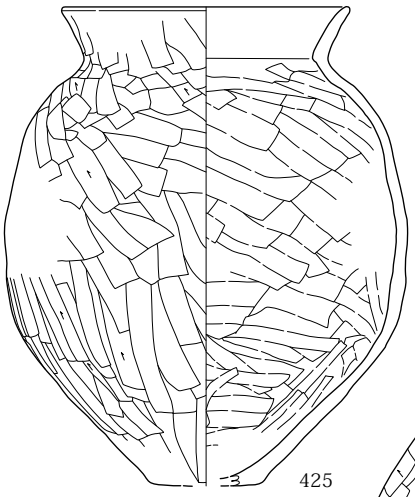
T－4



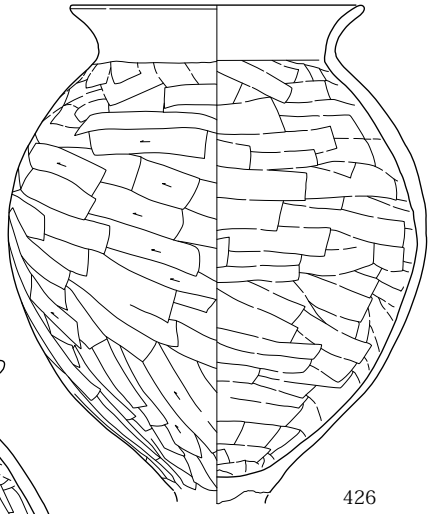
424

一括

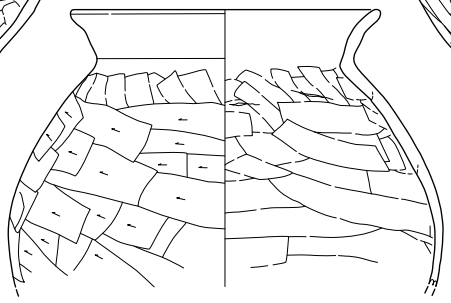
D－73



425

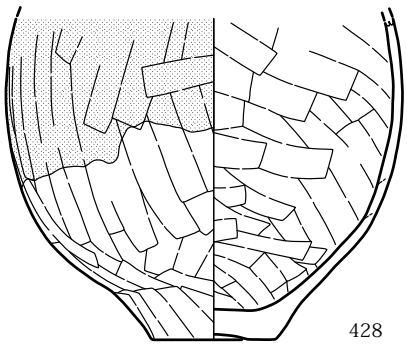


426



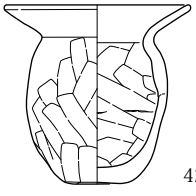
427

D－104



428

M－4



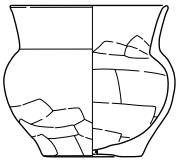
429

4区

0　1:4　10cm

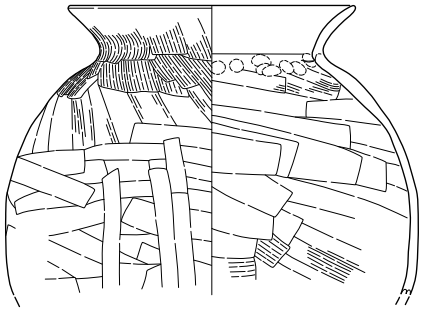
第590図　人見枝谷津遺跡（古墳）T－2～4号竪穴状遺構・土坑・溝出土土器

H－1号住



430

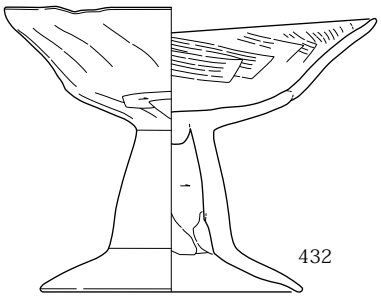
5区1層№1



431

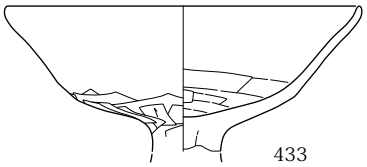
14区1層№1

H－2号住



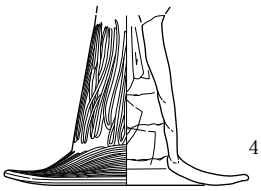
432

7区3層



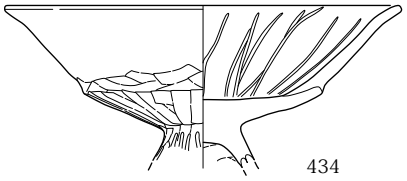
433

2区ベルト3層



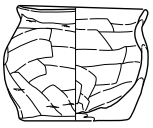
435

13区3層



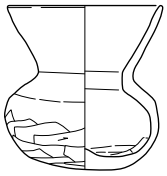
434

8区3層



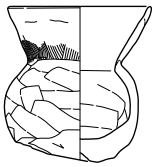
436

P－1



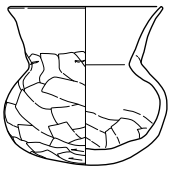
437

7区3層



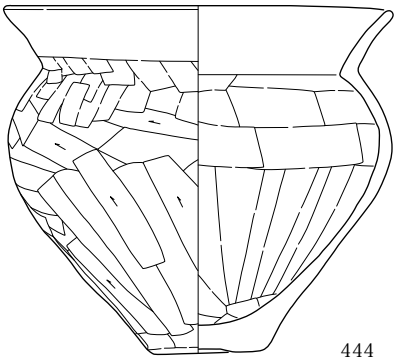
438

14区3層



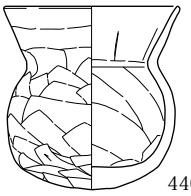
439

8区3層



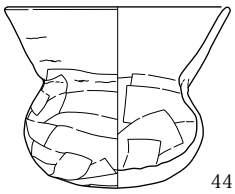
444

3区3層№1



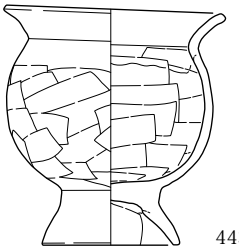
440

8区3層



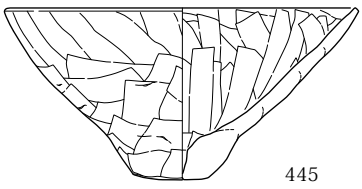
441

1区3層



443

2区3層

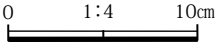


445

15区3層

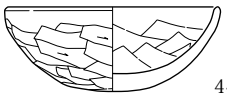
442

14区3層



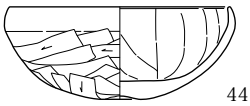
第591図　人見東向原遺跡（古墳）H－1・2号住居址出土土器

H－3号住



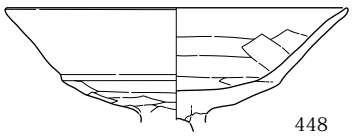
446

4区1層



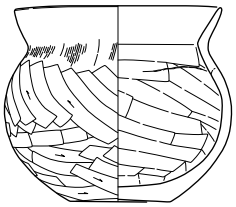
447

3区1層



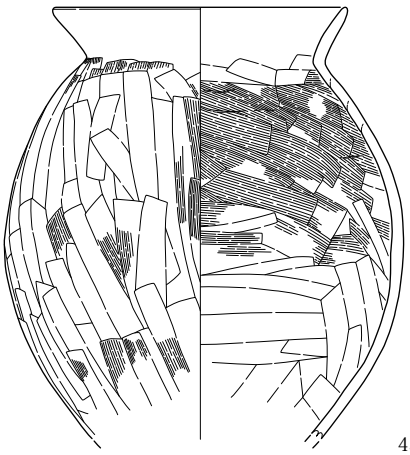
448

16区1層№4



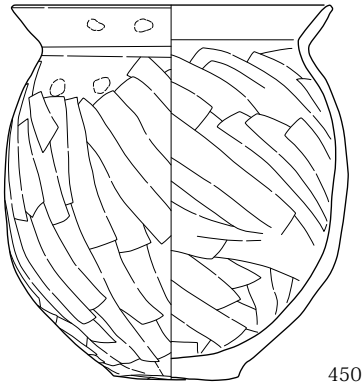
449

8区1層



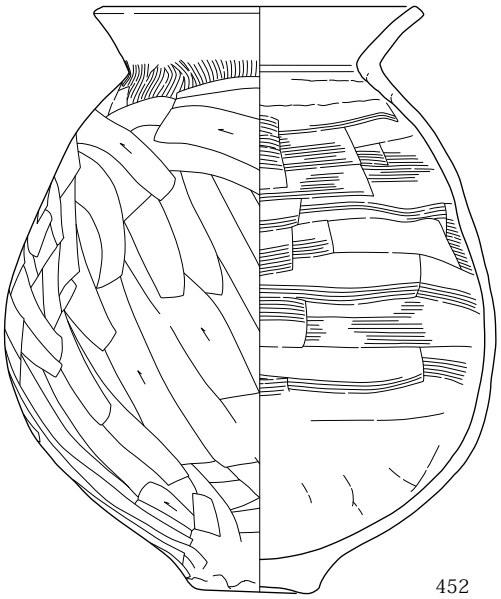
451

16区1層№5



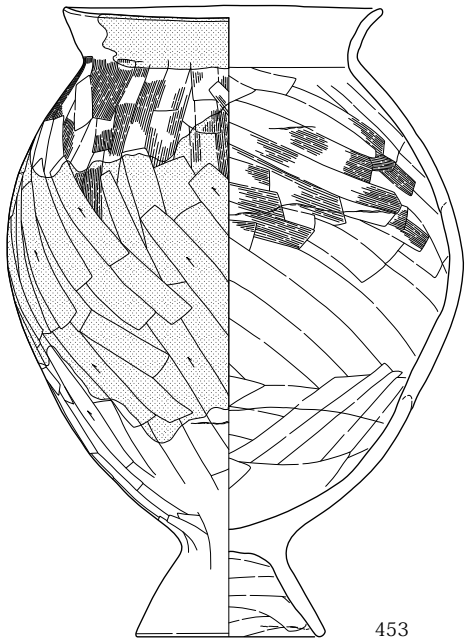
450

5区1層



452

15区1層



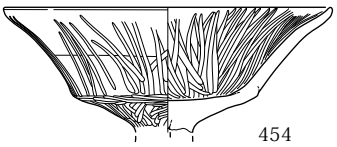
453

16区1層№1

0　1:4　10cm

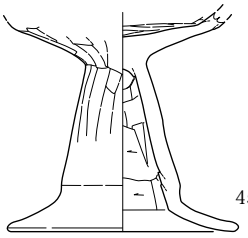
第592図　人見東向原遺跡（古墳）H－3号住居址出土土器

H－5号住



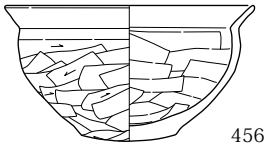
454

15区3層



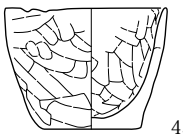
455

2区ベルト3層



456

4区3層



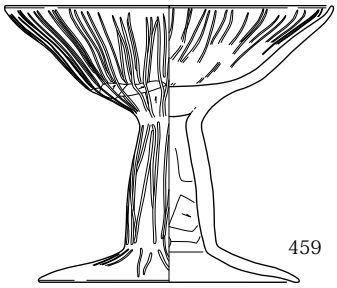
457

5区3層

458

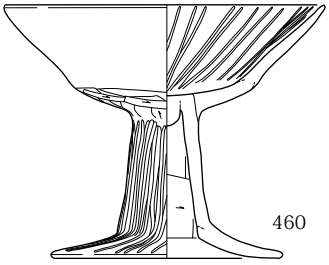
5区3層

H－6号住



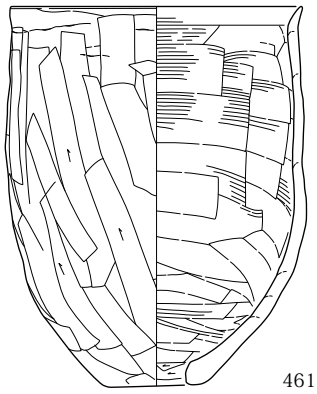
459

16区2層＋7区2層



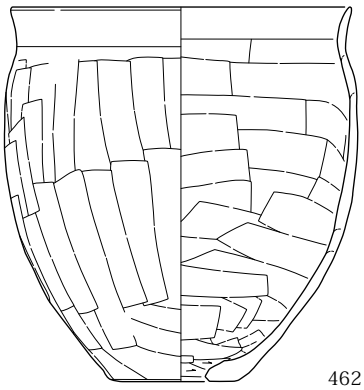
460

14区ベルト2層



461

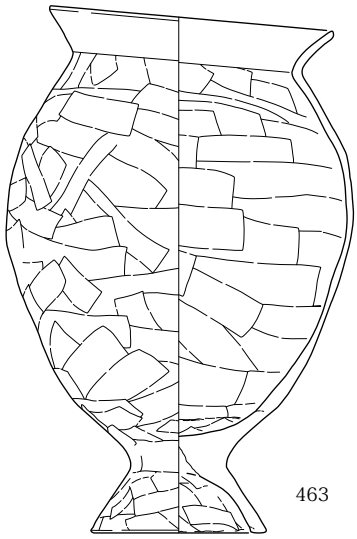
16区2層№1



462

8区2層№1

H－7号住



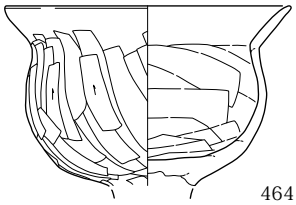
463

8区2層№2

0　1:4　10cm

第593図　人見東向原遺跡（古墳）H－5～7号住居址出土土器

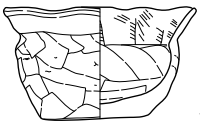
H－8号住



464

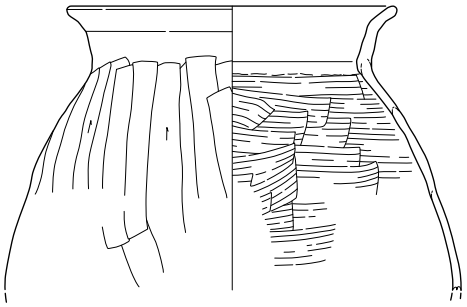
D－1

H－9号住



465

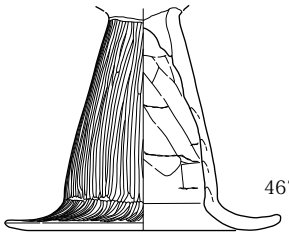
9区2層



6区ベルト2層

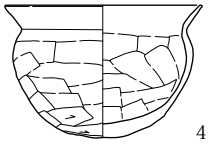
466

H－11号住



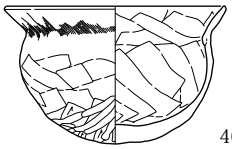
467

6区2層



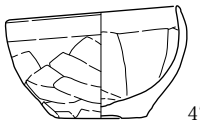
468

14区2層



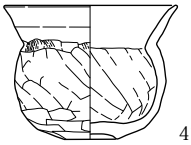
469

D－1



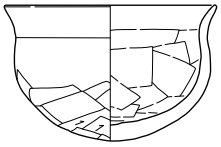
470

5区2層



471

2区2層



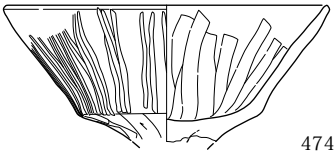
472

12区ベルト2層

473

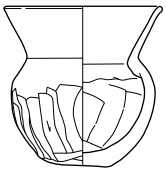
15区1層

H－13号住



474

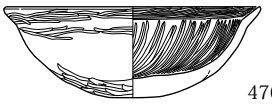
16区2層



475

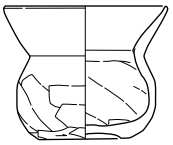
2区2層

H－14号住



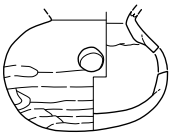
476

14区3層



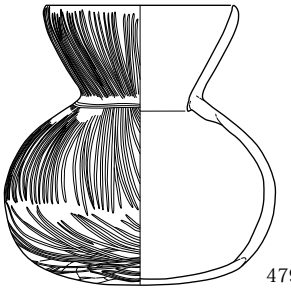
477

5区3層№1



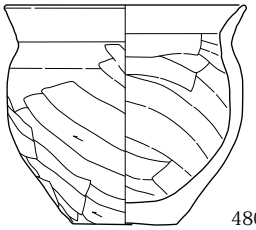
478

16区3層



479

16区3層



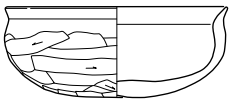
480

1区3層

0　1:4　10cm

第594図　人見東向原遺跡（古墳）H－8・9・11・13・14号住居址出土土器

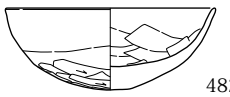
H－15号住



481

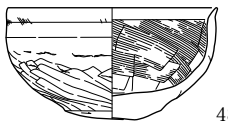
1区1層

H－16号住



482

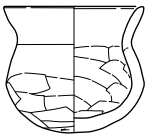
D－1



483

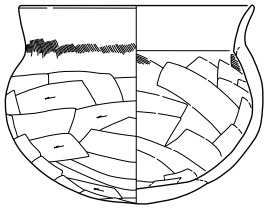
16区1層

H－17号住



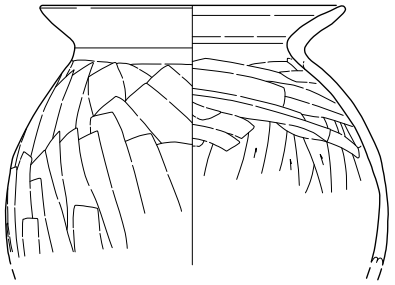
484

1区拡張№1



485

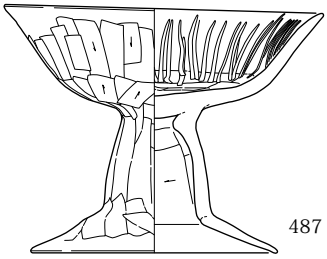
16区2層№1



16区2層№2

486

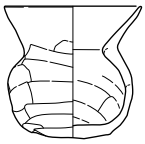
H－18号住



487

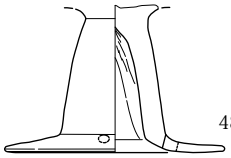
D－1

H－19号住



488

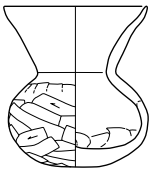
9区1層



489

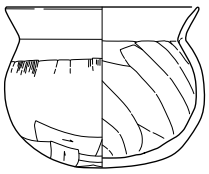
14区1層

H－20号住



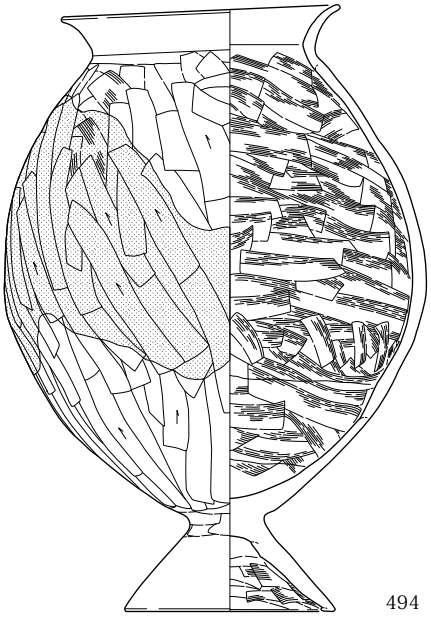
490

1区拡張№2



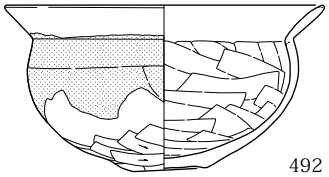
491

15区2層



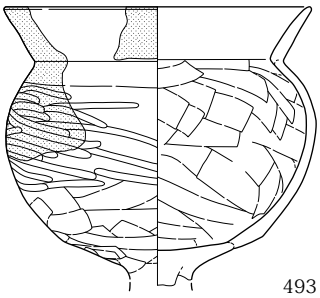
494

16区2層



492

15区2層№1



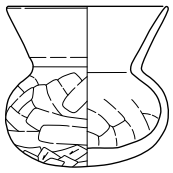
493

13区2層

0 1:4 10cm

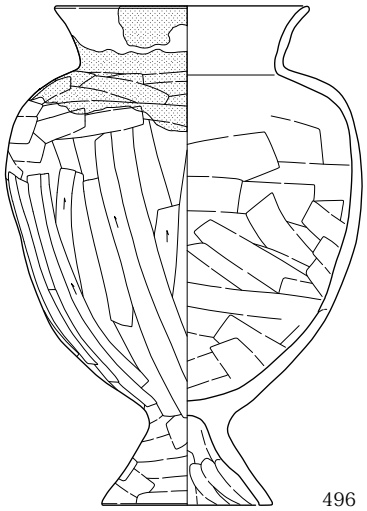
第595図　人見東向原遺跡（古墳）H－15～20号住居址出土土器

H－21号住



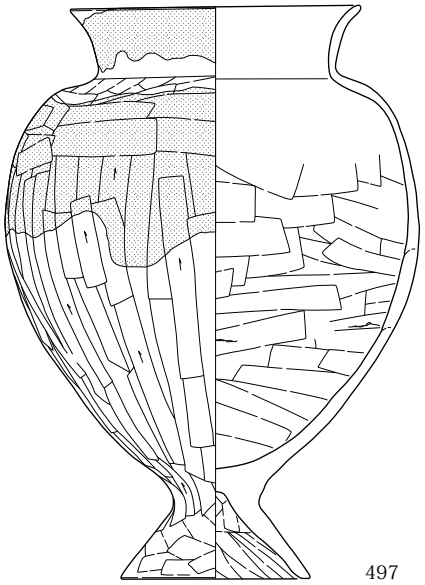
495

7区3層



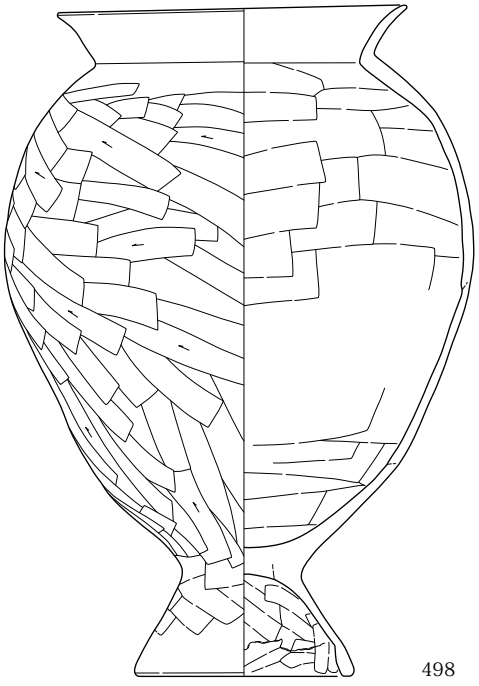
496

3区3層№1



497

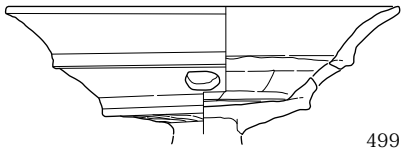
2区3層№3



498

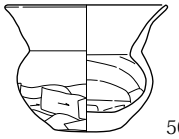
2区3層№1＋2区3層№2

H－22号住



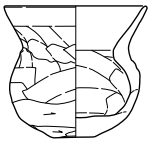
499

15区3層№1



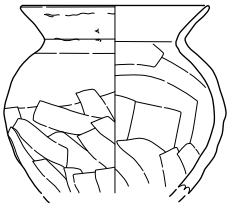
500

3区3層



501

D－1



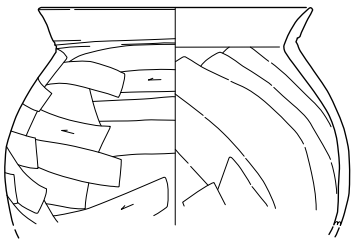
502

3区3層

0　1:4　10cm

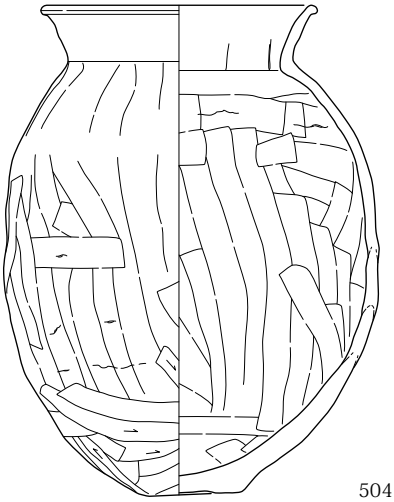
第596図　人見東向原遺跡（古墳）H－21・22号住居址出土土器

H－22号住



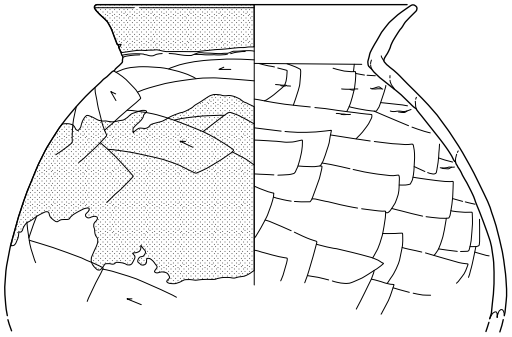
503

2区ベルト3層



504

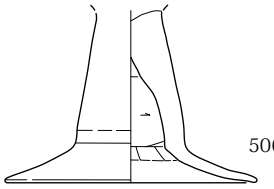
14区№1



505

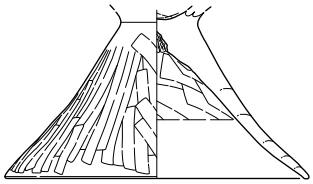
11区3層

H－23号住



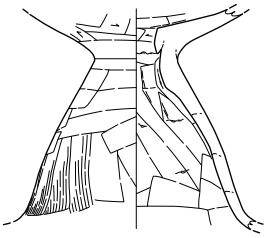
506

16区3層№1



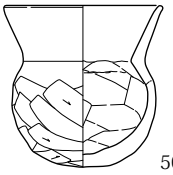
507

5区3層



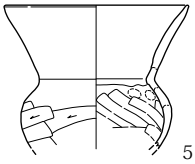
508

D－1



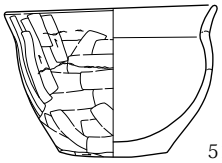
509

D－1



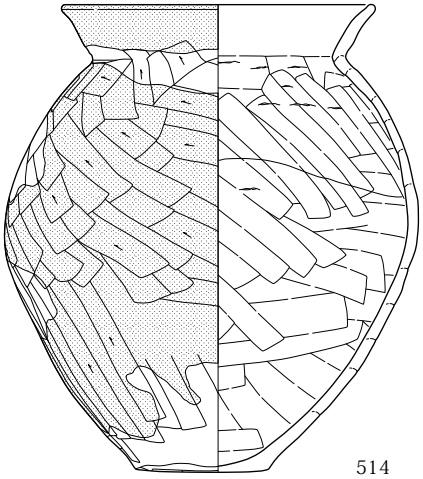
510

13区1層



511

8区3層

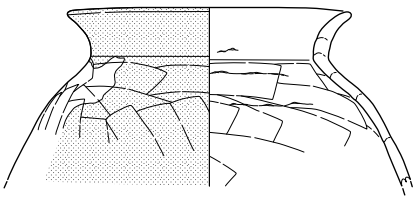


514

12区3層№1

512

4区2層



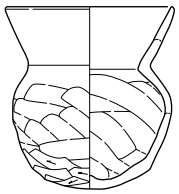
513

16区3層

0　1:4　10cm

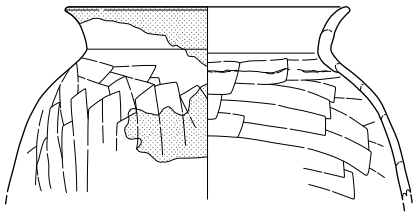
第597図　人見東向原遺跡（古墳）H－22・23号住居址出土土器

H－24号住



515

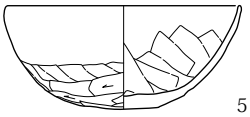
D－1



516

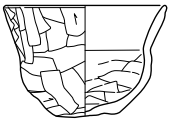
11区２層

H－25号住



517

12区１層

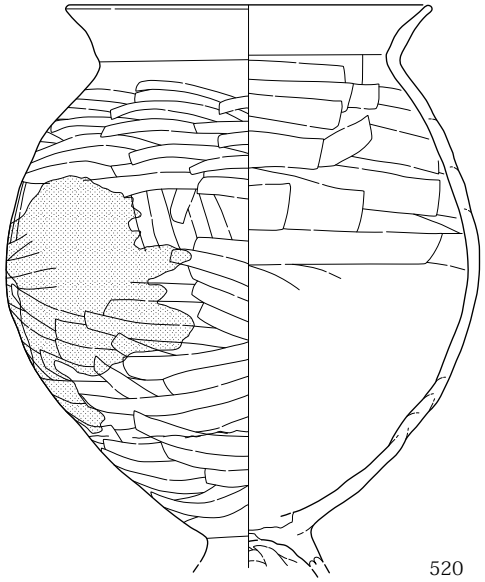


518

９区２層

519

２区１層



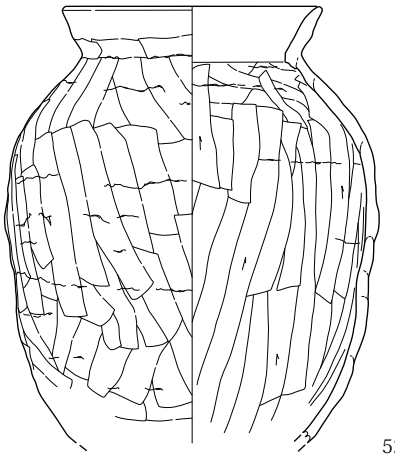
520

12区２層№１＋８区２層

H－26号住

521

13区１層



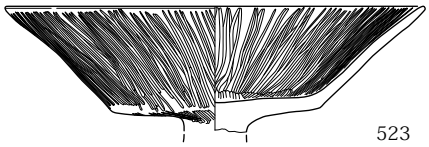
522

２区２層

0　1:4　10cm

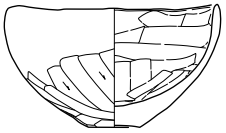
第 598 図　人見東向原遺跡（古墳）H－ 24 ～ 26 号住居址出土土器

H－27号住



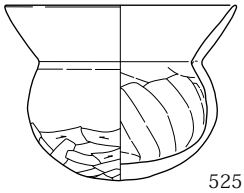
523

D－1 №2



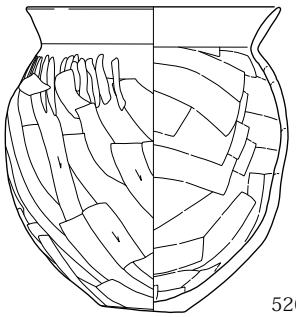
524

4区2層№2



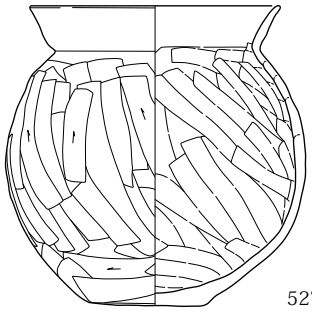
525

6区2層



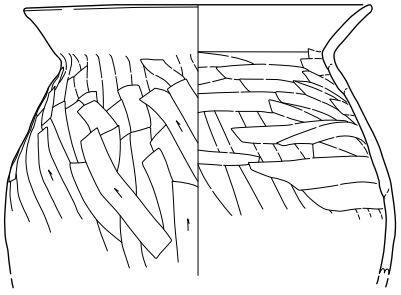
526

D－1 №1



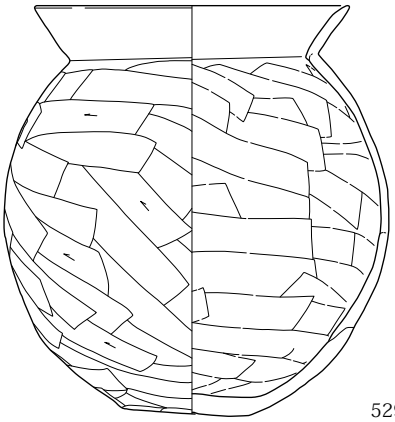
527

3区2層№1



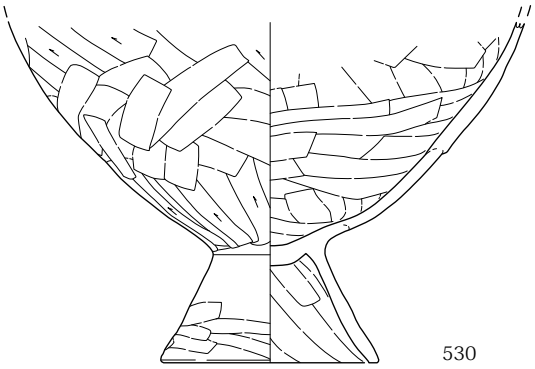
528

11区2層



529

4区2層№1



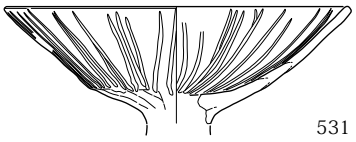
530

12区2層№1

0 1:4 10cm

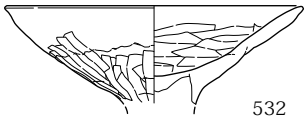
第 599 図　人見東向原遺跡（古墳）H－27 号住居址出土土器

H－29号住



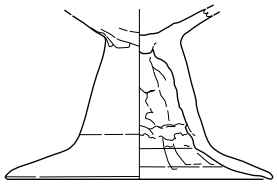
531

15区２層№３



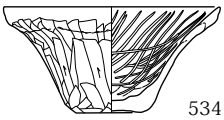
532

D－１№３



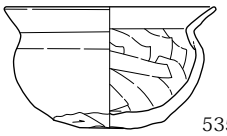
533

３区２層№１



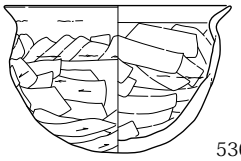
534

３区２層№２



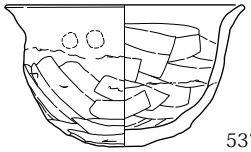
535

15区２層№２



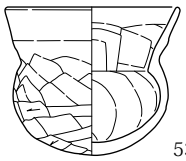
536

13区２層№１



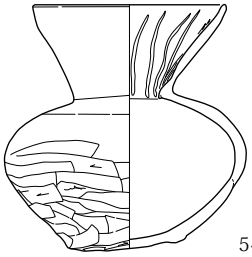
537

14区ベルト２層



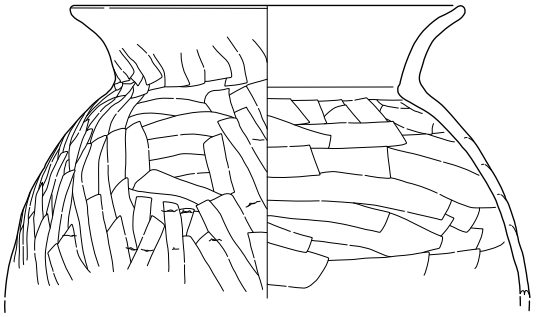
538

15区２層№１



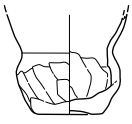
540

D－１№１



541

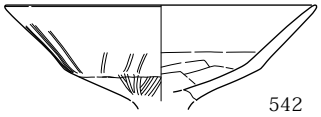
D－１№２



539

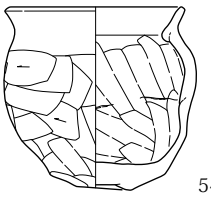
D－１№４

H－30号住



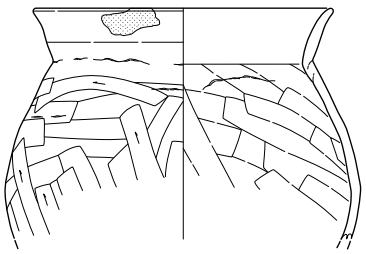
542

16区１層



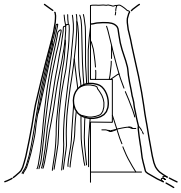
544

D－１



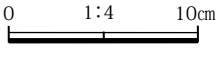
545

13区１層



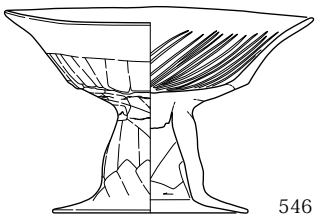
543

16区１層



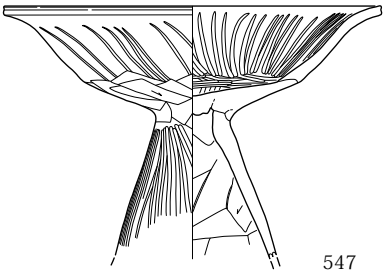
第 600 図　人見東向原遺跡（古墳）H－ 29・30 号住居址出土土器

H－32号住



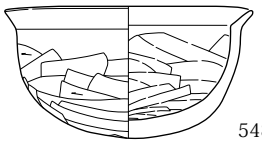
546

2区3層No.1



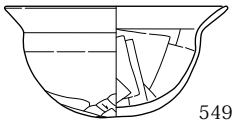
547

8区3層



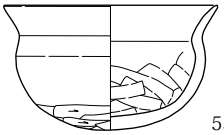
548

2区3層No.2



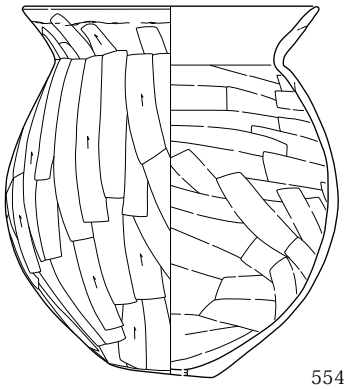
549

4区3層



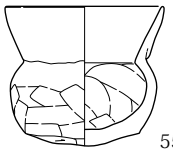
550

6区ベルト3層



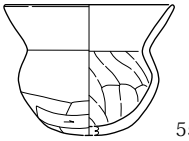
554

12区3層No.1



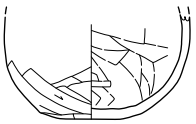
551

8区3層No.1



552

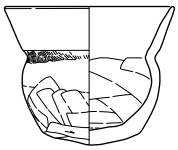
2区3層



553

2区3層

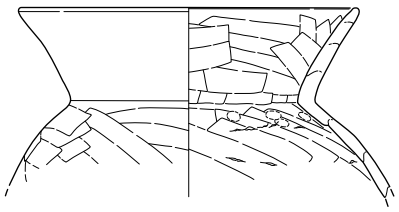
H－33号住



555

1区2層No.1

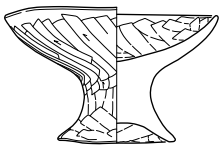
H－34号住



D－1

556

H－35号住



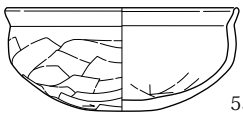
557

1区1層No.1

0 1:4 10cm

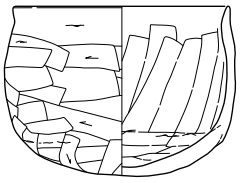
第601図　人見東向原遺跡（古墳）H－32～35号住居址出土土器

H－２号住



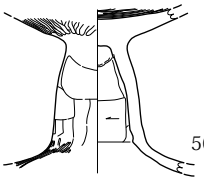
558

16区２層



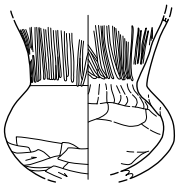
559

15区２層＋15区２層№２



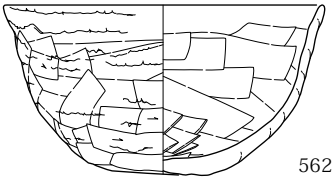
560

16区２層



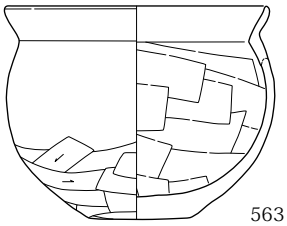
561

２区２層



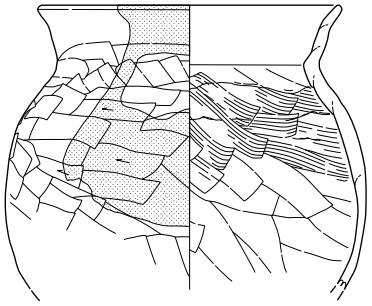
562

10区２層＋11区２層＋14区２層＋15区２層



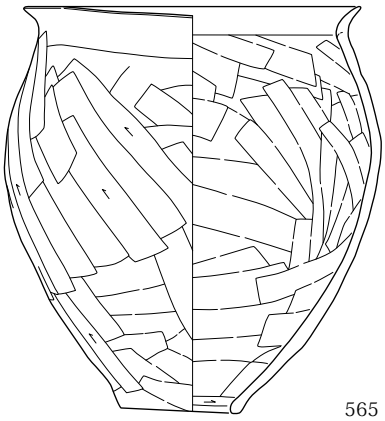
563

15区２層№３



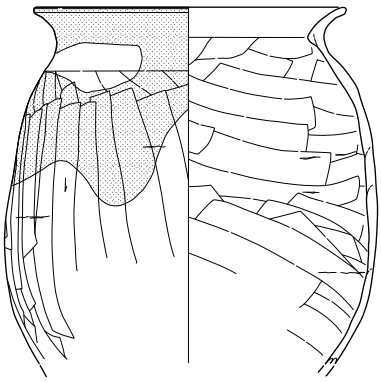
564

15区２層№１



565

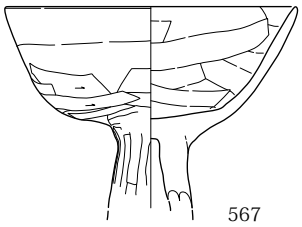
３区２層№１



566

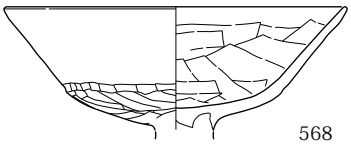
２区２層

H－３号住



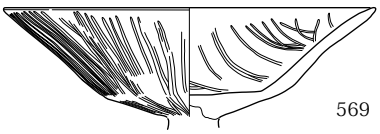
567

15区３層



568

15区３層



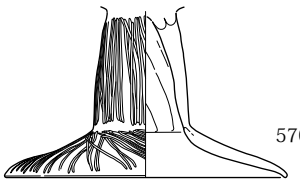
569

P－１

0　1:4　10cm

第 602 図　人見向原遺跡（古墳）H－２・３号住居址出土土器

H－3号住

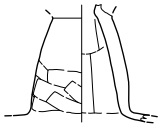


570

D－1

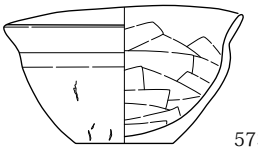
571

4区3層



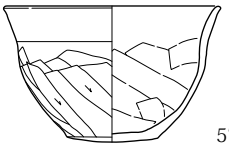
572

16区3層



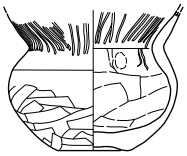
573

16区3層№2



574

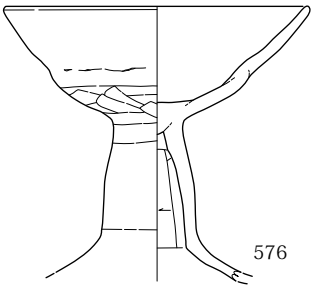
16区3層№1



575

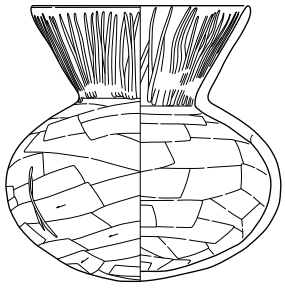
15区1層

H－5号住



576

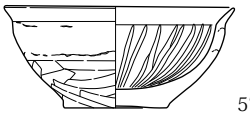
4区1層№2



577

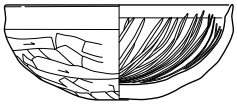
4区1層№1

H－6号住



578

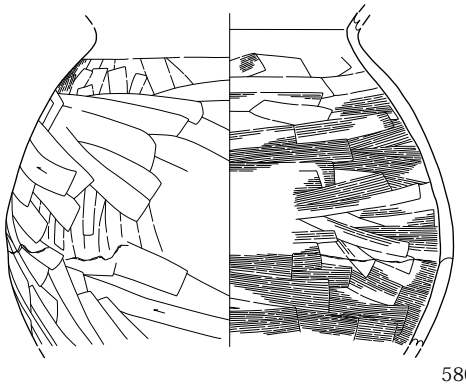
15区2層№1



579

12区2層

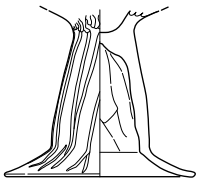
H－7号住



580

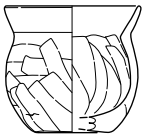
13区2層№1

H－8号住



581

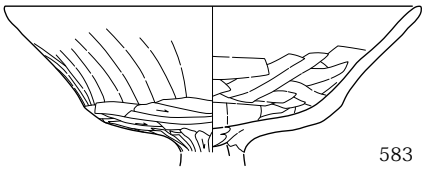
2区1層



582

3区1層

H－9号住



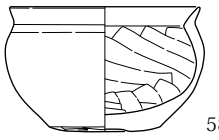
583

3区1層

0　1:4　10cm

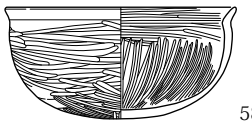
第603図　人見向原遺跡（古墳）H－3・5～9号住居址出土土器

H－11号住



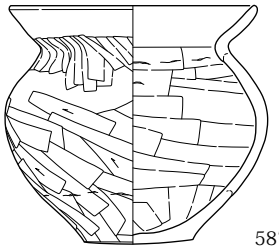
584

5区1層



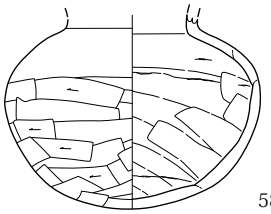
585

7区1層



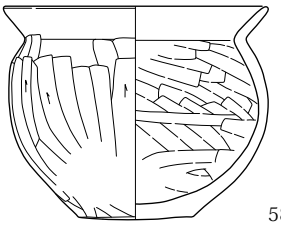
587

14区1層



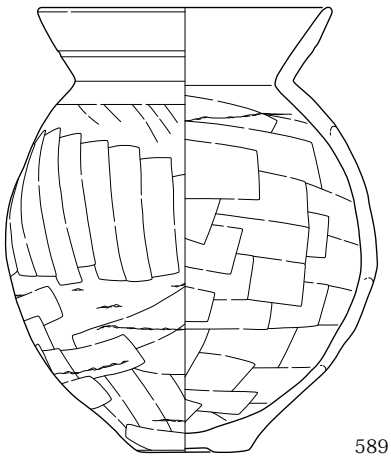
586

6区1層№1



588

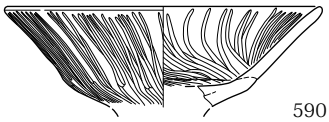
7区1層



589

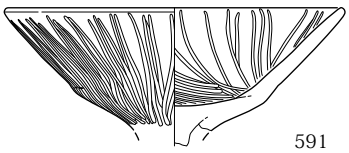
6区1層＋6区1層№2＋10区1層

H－12号住



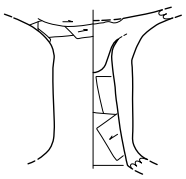
590

16区2層№1



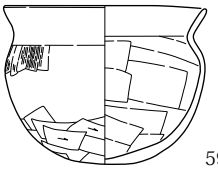
591

15区2層



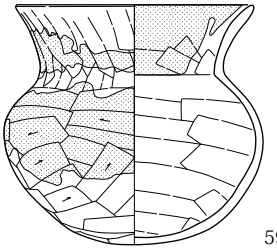
592

15区2層



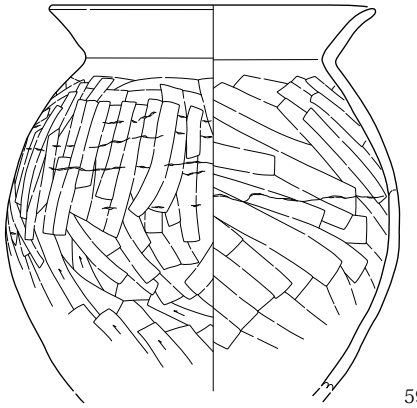
593

6区1層



594

10区2層№1



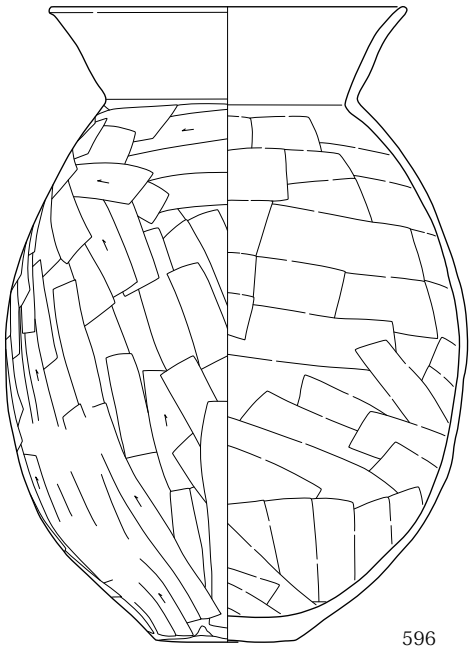
595

10区2層＋10区ﾍﾞﾙﾄ2層＋11区2層

0　1:4　10cm

第604図　人見向原遺跡（古墳）H－11・12号住居址出土土器

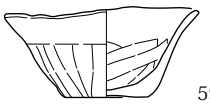
H－12号住



596

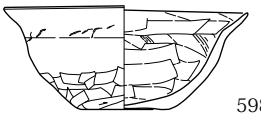
11区２層

H－13号住



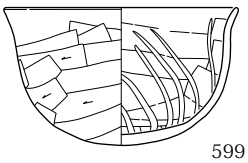
597

４区２層



598

４区２層

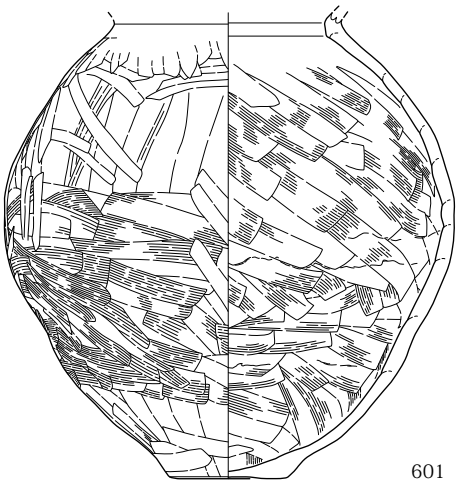


599

２区２層

600

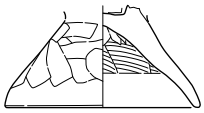
２区２層



601

D－1

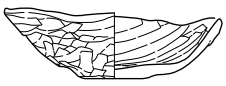
H－14号住



602

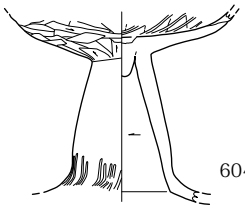
10区３層

H－15号住



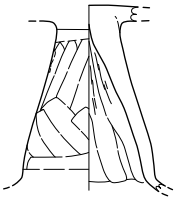
603

13区３層



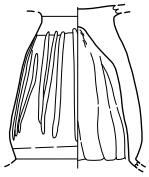
604

11区ﾍﾞﾙﾄ３層



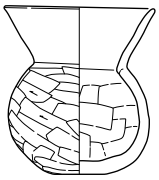
605

14区３層



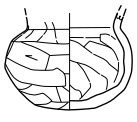
606

D－1



607

16区３層№１

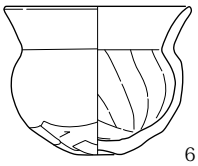


608

７区３層

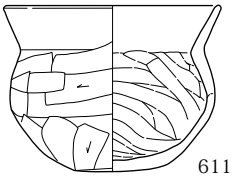
609

18区１層



610

11区ｻﾌﾞﾄﾚ３層№１



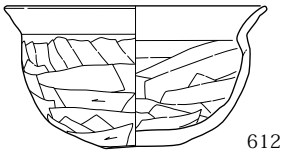
611

３区３層№１

0　1:4　10cm

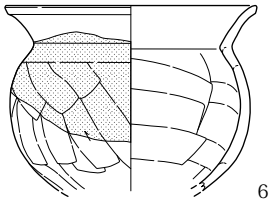
第 605 図　人見向原遺跡（古墳）H－ 12 ～ 15 号住居址出土土器

H－15号住



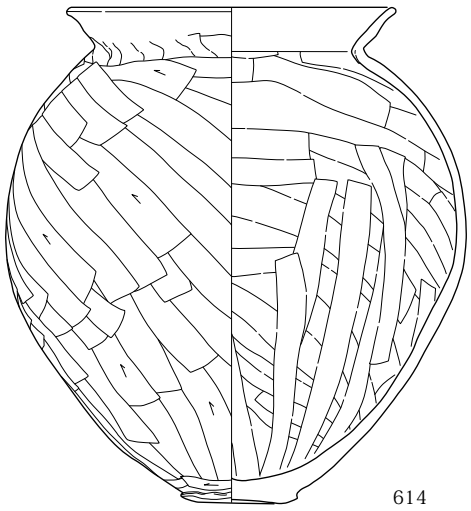
612

18区３層№４



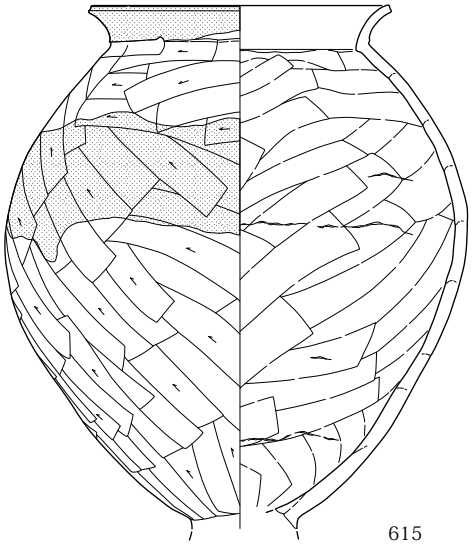
613

10区ﾍﾞﾙﾄ３層＋17区３層＋18区３層



614

D－１№１

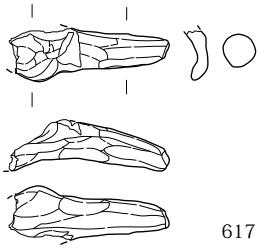


615

18区３層№２

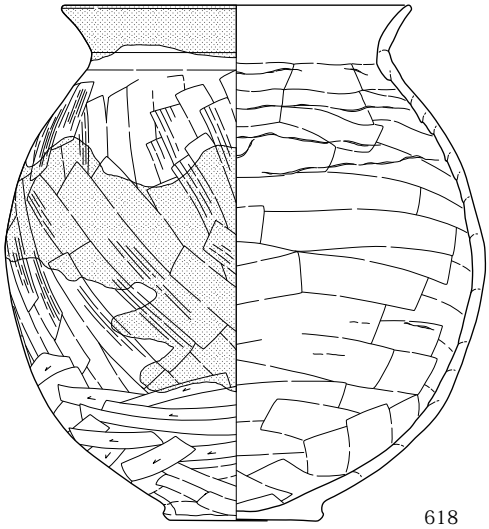
616

１区２層＋18区３層



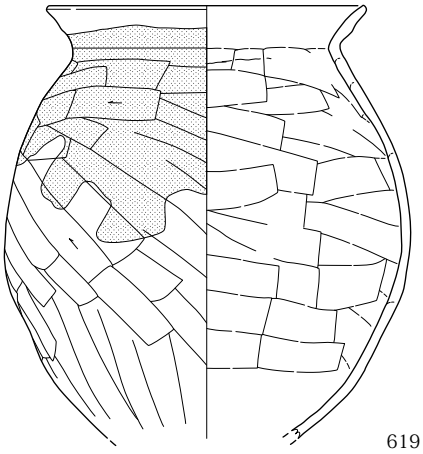
617

14区３層



618

18区３層№１



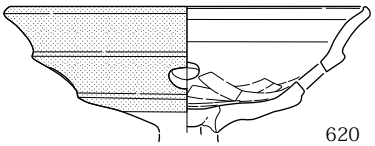
619

18区３層№３

0　1:4　10cm

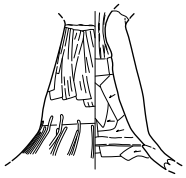
第606図　人見向原遺跡（古墳）H－15号住居址出土土器

H－16号住



620

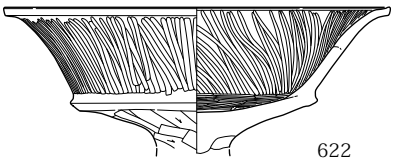
3区２層



621

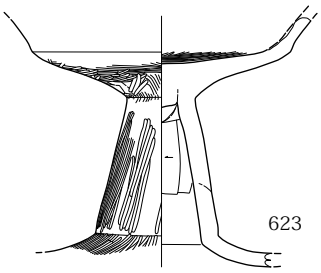
13区２層

H－19号住



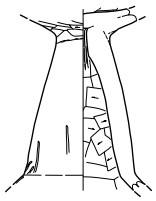
622

4区３層№1



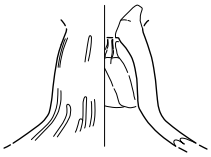
623

12区２層



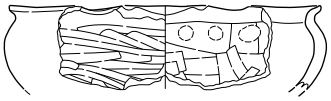
624

15区３層床下



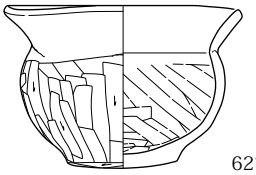
625

9区ﾍﾞﾙﾄ1層



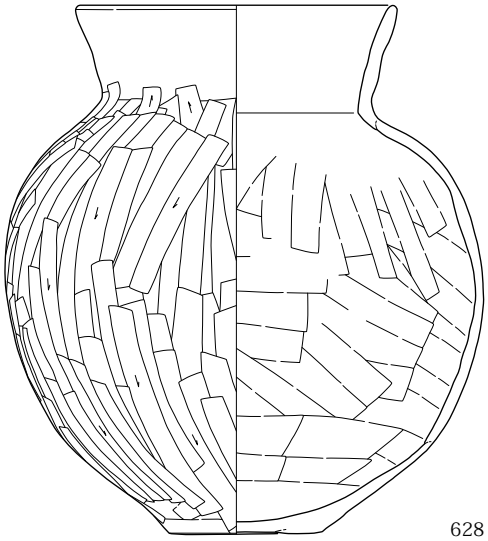
626

16区２層



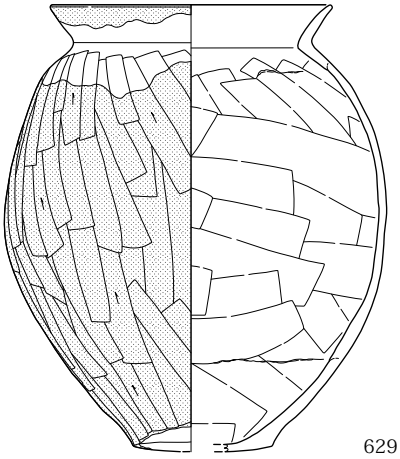
627

2区３層



628

D－2



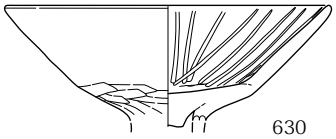
629

D－1

0　1:4　10cm

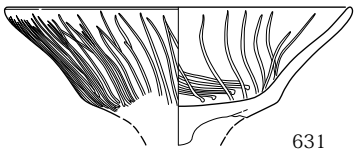
第 607 図　人見向原遺跡（古墳）H－ 16・19 号住居址出土土器

H－20号住



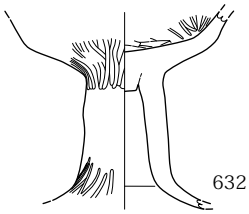
630

1区2層



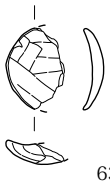
631

1区2層＋5区2層



632

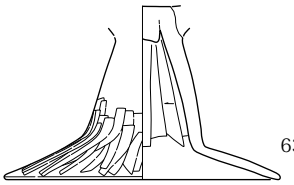
5区2層



633

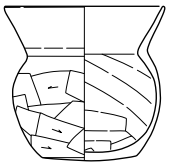
2区2層

H－21号住



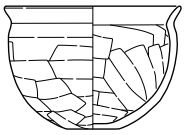
634

6区1層



635

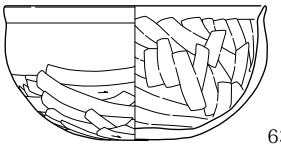
14区1層



636

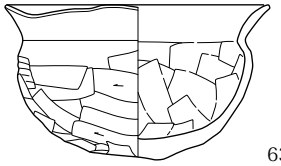
7区1層

H－23号住



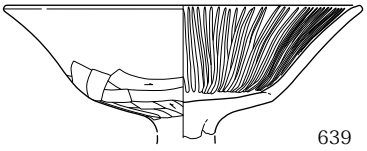
637

5区3層



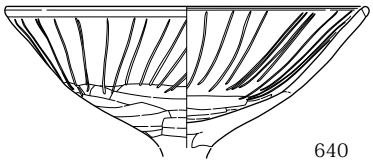
638

8区3層



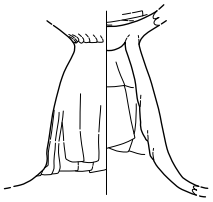
639

16区3層№2



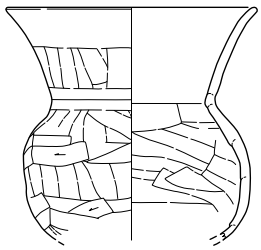
640

D－2



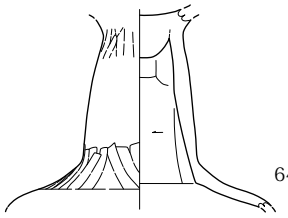
641

11区3層



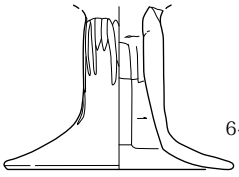
644

16区3層



642

11区3層



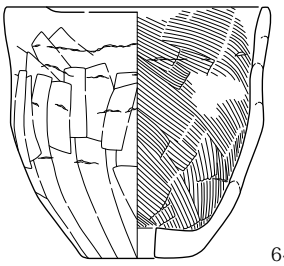
643

3区1層

0　1:4　10cm

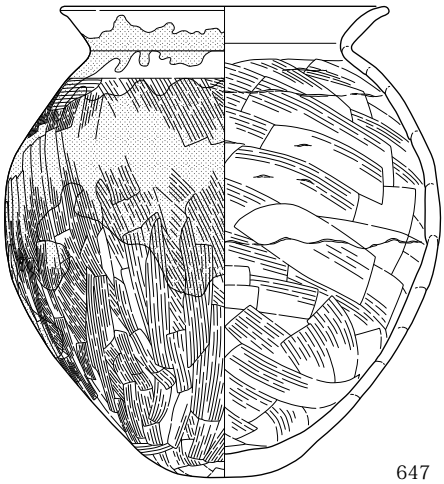
第608図　人見向原遺跡（古墳）H－20・21・23号住居址出土土器

H－23号住



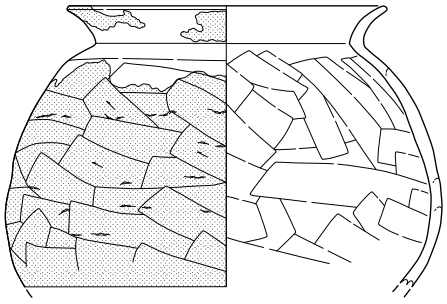
645

16区３層



647

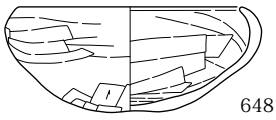
16区３層№１



646

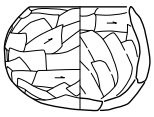
D－１№１

H－24号住



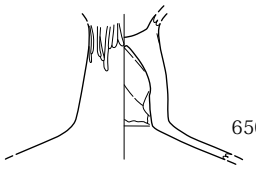
648

５区２層＋９区ﾍﾞﾙﾄ２層



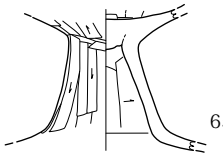
649

11区２層



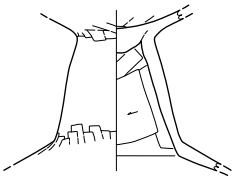
650

11区ﾍﾞﾙﾄ２層



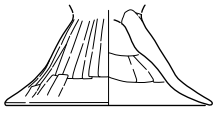
651

13区１層



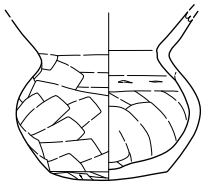
652

13区１層



653

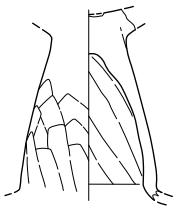
11区２層



654

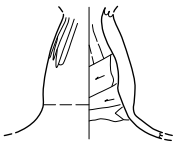
13区１層

H－25号住



655

４区１層



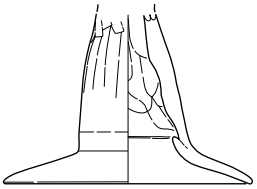
656

３区２層

0　1:4　10cm

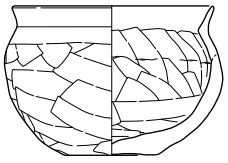
第 609 図　人見向原遺跡（古墳）H－ 23 ～ 25 号住居址出土土器

Ｈ－27号住



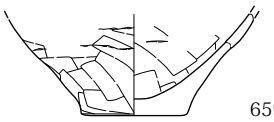
657

4区１層



658

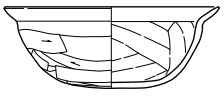
8区１層



659

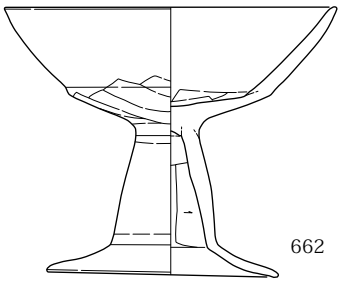
8区１層

Ｈ－28号住



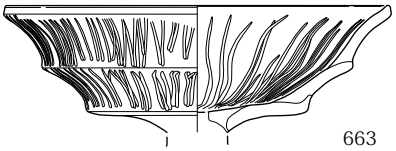
660

16区２層№４



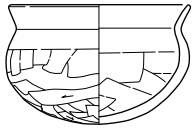
662

15区２層№１



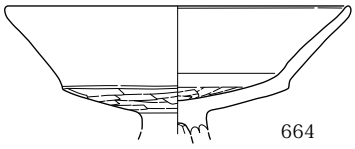
663

16区２層



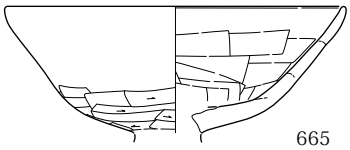
661

12区２層№２



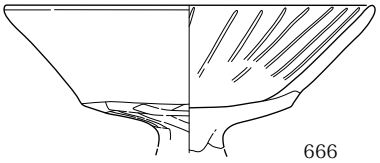
664

16区２層№５



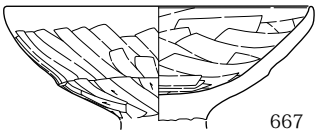
665

15区２層№７



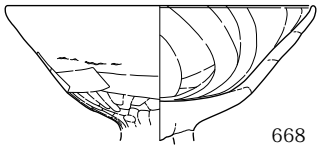
666

15区２層№６



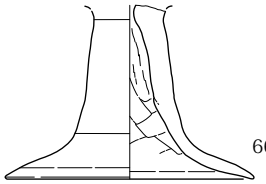
667

15区２層№５



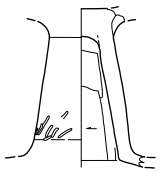
668

２区２層№３



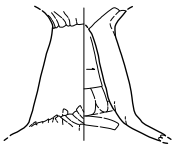
669

Ｐ－１



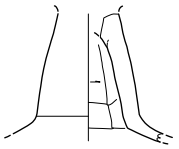
670

11区２層



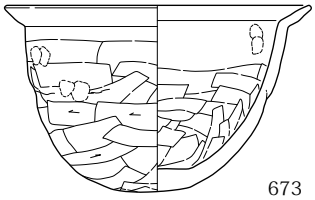
671

14区ﾍﾞﾙﾄ２層



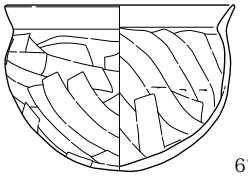
672

10区２層



673

２区２層№１



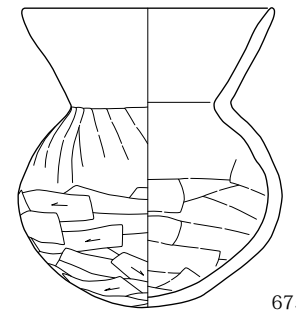
674

15区２層№３

0　1:4　10cm

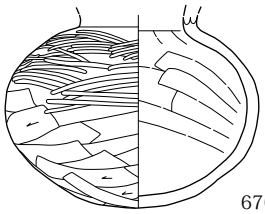
第610図　人見向原遺跡（古墳）Ｈ－27・28号住居址出土土器

H－28号住



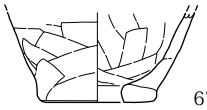
675

16区２層№２



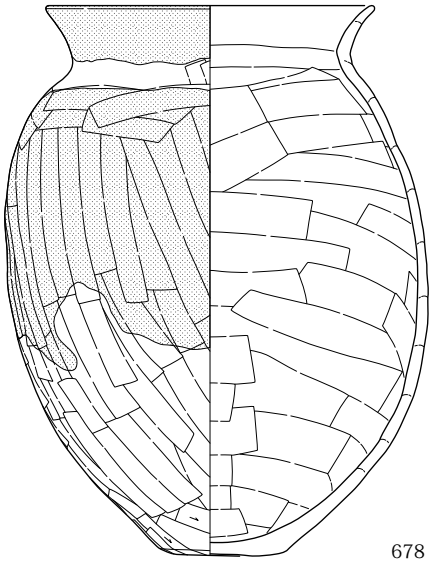
676

15区２層№４



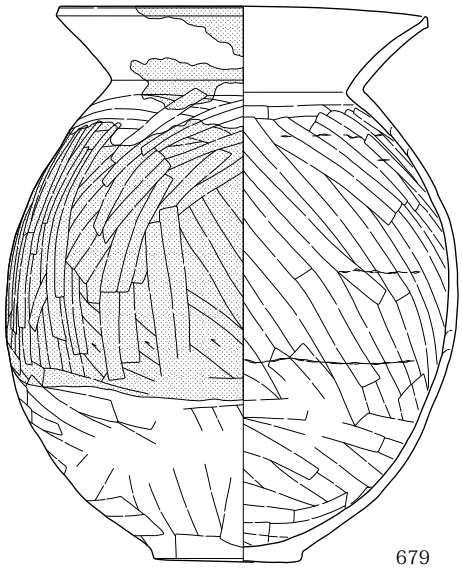
677

16区２層



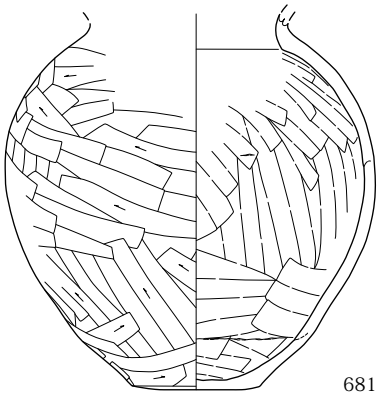
678

16区２層№１



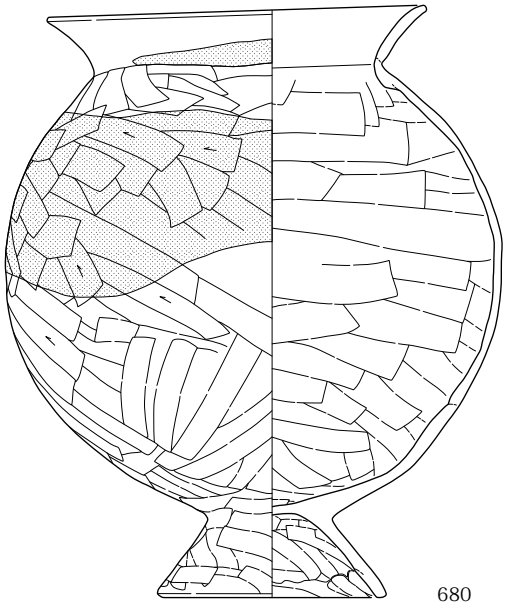
679

16区２層№３



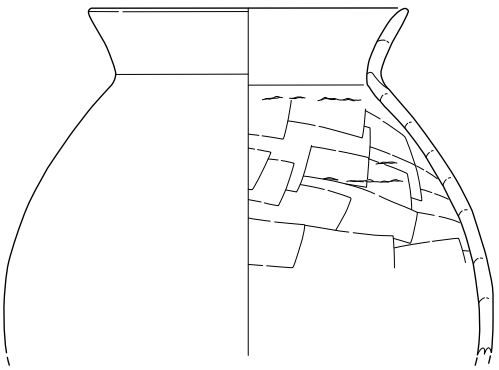
681

10区２層＋10区ﾍﾞﾙﾄ２層



680

２区２層№２



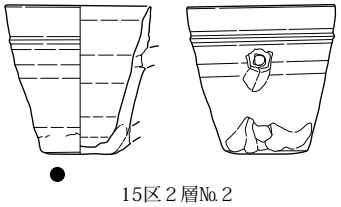
682

12区２層№１

0　1:4　10cm

第 611 図　人見向原遺跡（古墳）H－ 28 号住居址出土土器

H－28号住



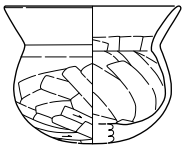
683

15区２層№２

684

15区２層

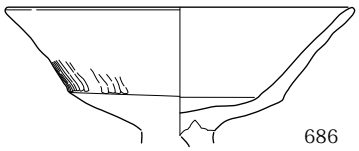
H－31号住



685

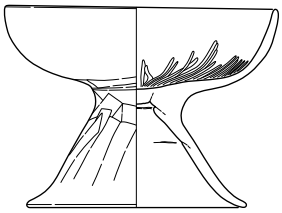
７区１層

H－33号住



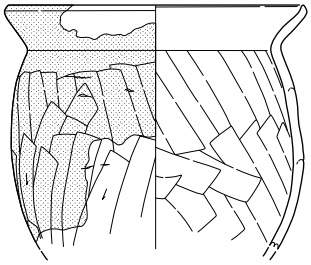
686

７区３層



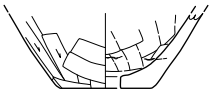
687

８区３層№２



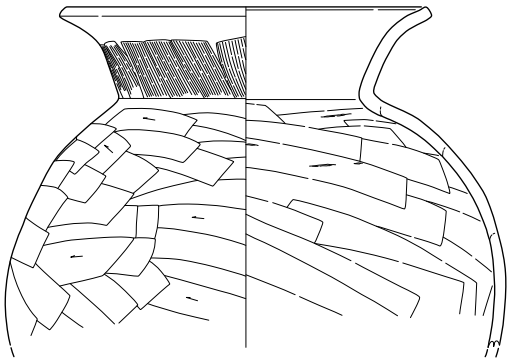
688

８区３層№１



689

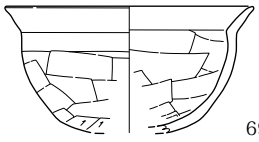
８区１層



690

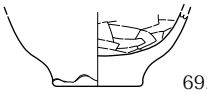
16区３層№１

H－35号住(人見西向原C区)



691

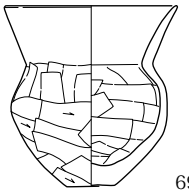
２区１層



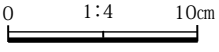
692

６区１層

D－３

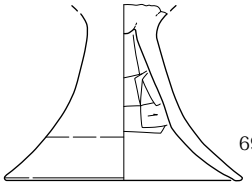


693



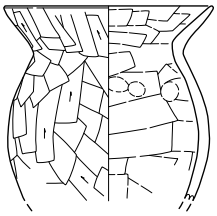
第612図　人見向原（人見西向原）遺跡（古墳）H－28・31・33・35号住居址・土坑出土土器

H－1号住



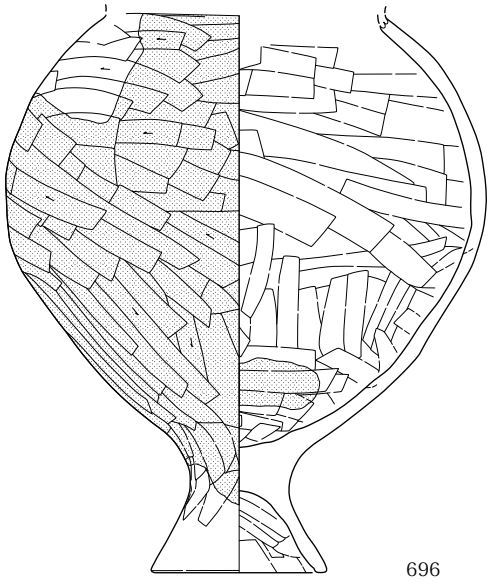
694

12区2層



695

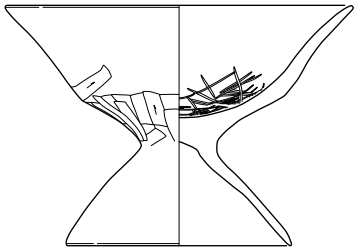
15区2層

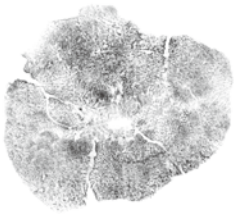


696

16区2層

H－3号住

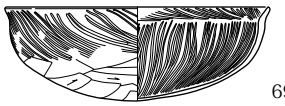




697

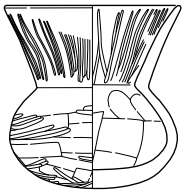
11区1層

H－5号住



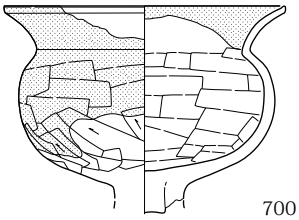
698

D－1№1



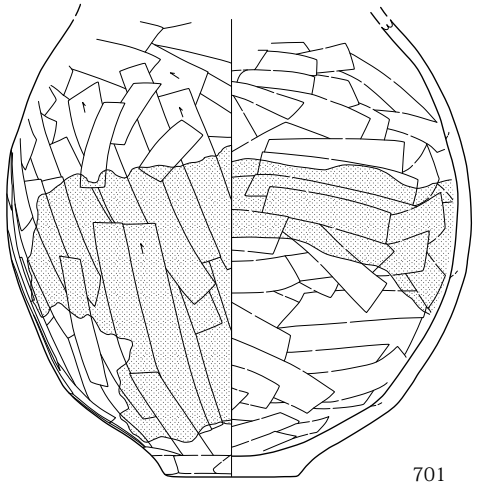
699

3区2層№1



700

D－1№2



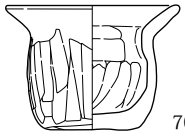
701

D－1№3

0　1:4　10cm

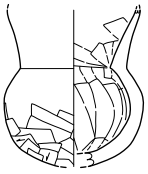
第613図　人見西向原遺跡（古墳）H－1・3・5号住居址出土土器

H－6号住



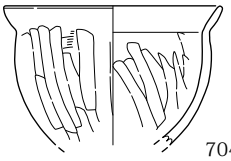
702

7区1層№1



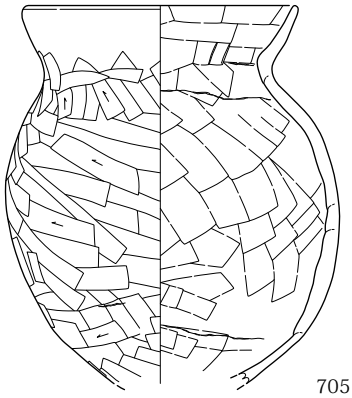
703

3区1層



704

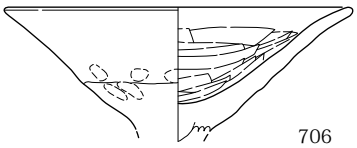
11区1層



705

D－1

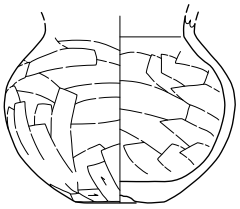
土抗



706

D－1

遺構外



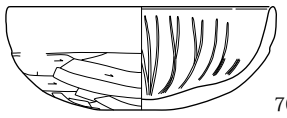
707

4A－484

0　1:4　10cm

第614図　人見西向原遺跡（古墳）H－6号住居址・土抗・遺構外出土土器

H－１号住(N７)



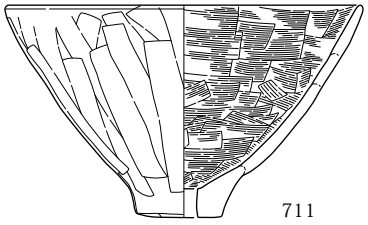
708

７区１層＋10区１層＋14区１層

H－２号住(N７)

709

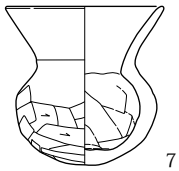
４区１層№.１



711

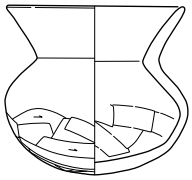
２区１層№.１

H－４号住



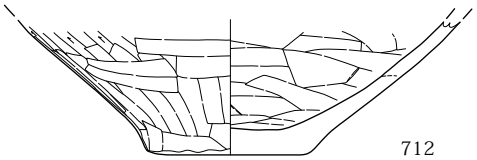
713

１区１層



710

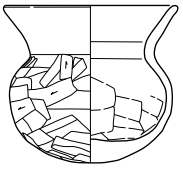
４区１層№.２



712

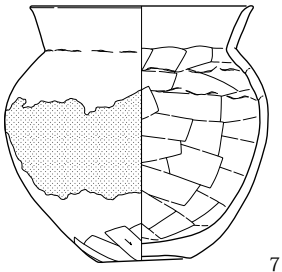
３区１層№.１

H－６号住



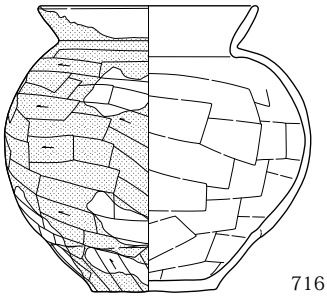
714

11区２層



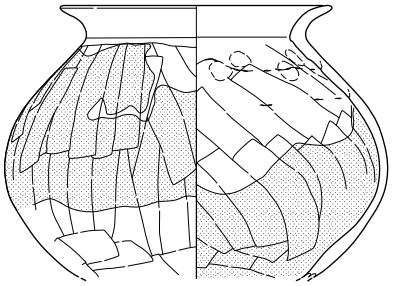
715

４区２層№.１



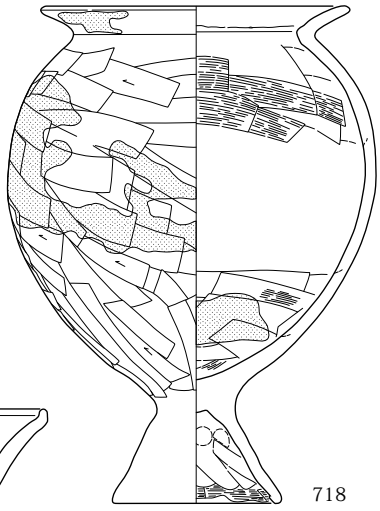
716

８区２層№.２



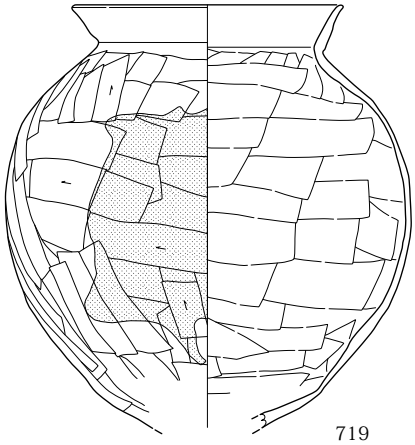
717

７区２層



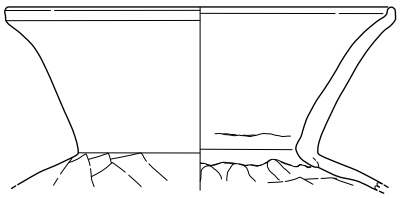
718

７区２層№.１



719

８区２層№.１



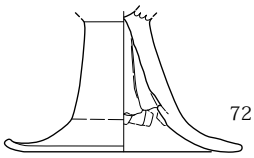
720

D－１

0　1:4　10cm

第615図　人見西中原（東中原）遺跡（古墳）H－１・２・４・６号住居址出土土器

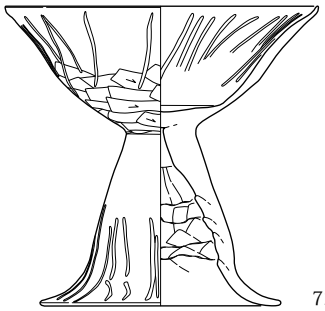
H－７号住



721

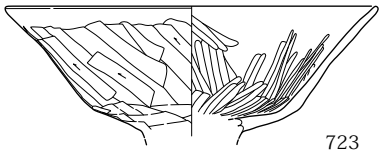
２区１層

H－８号住



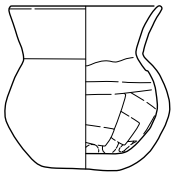
722

D－１№.１



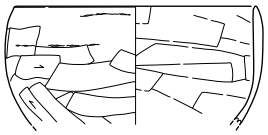
723

２区２層№.２



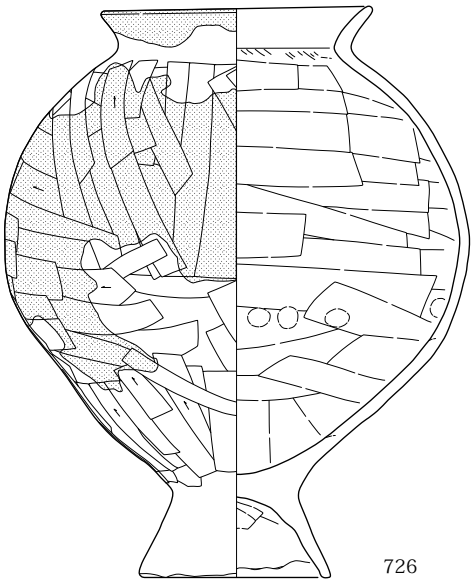
724

D－２№.１



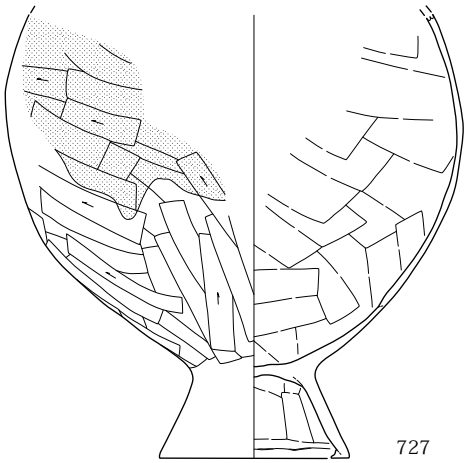
725

15区２層



726

２区２層№.１

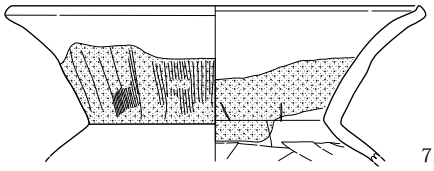


727

D－１№.２

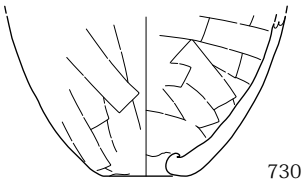
728

D－３



729

13区２層№.２



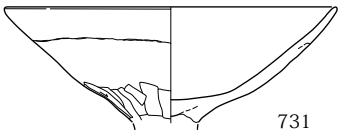
730

15区２層

0　1:4　10cm

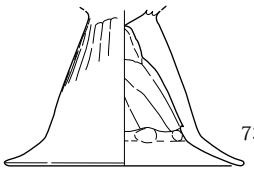
第 616 図　人見西中原（東中原）遺跡（古墳）H－７・８号住居址出土土器

H－12号住



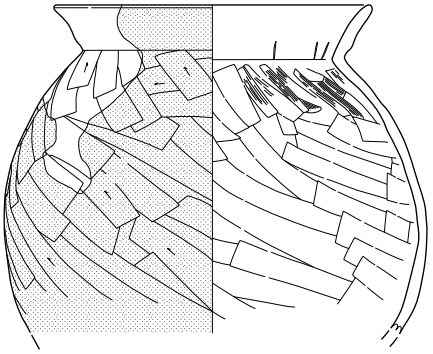
731

16区１層№１



732

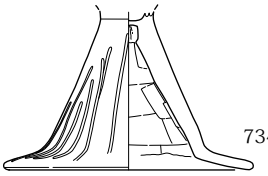
７区１層



10区１層

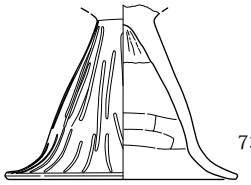
733

H－13号住



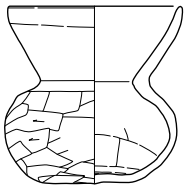
734

７区１層



735

６区１層№２

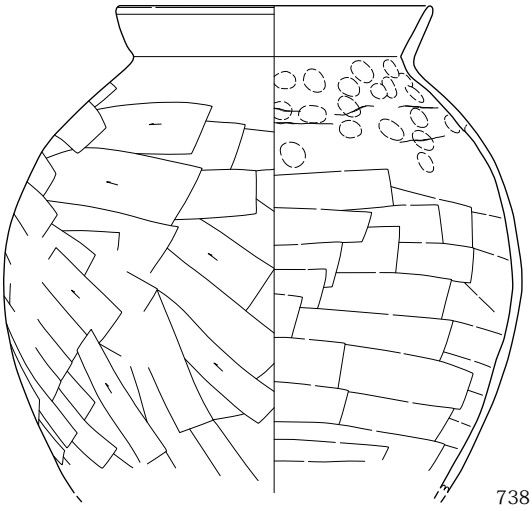


736

６区１層№１

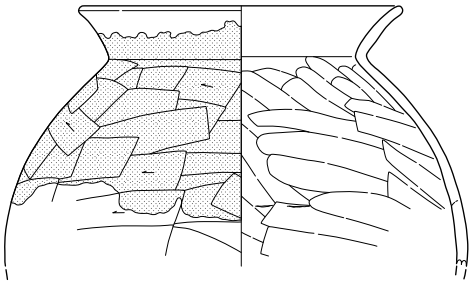
737

３区１層



738

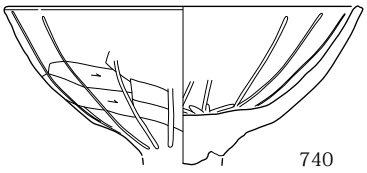
D－２



739

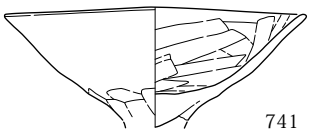
５区１層№１

土抗



740

D－41№１



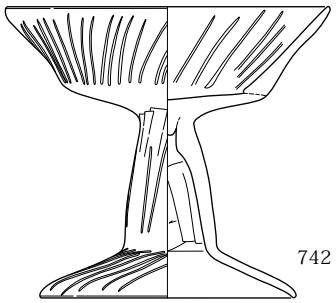
741

D－41№２

0　1:4　10cm

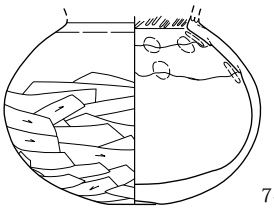
第617図　人見西中原（東中原）遺跡（古墳）H－12・13号住居址・土坑出土土器

H－１号住



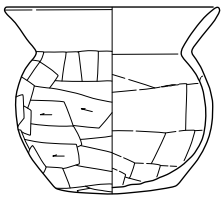
742

2区１層



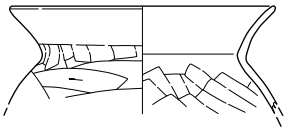
743

2区１層

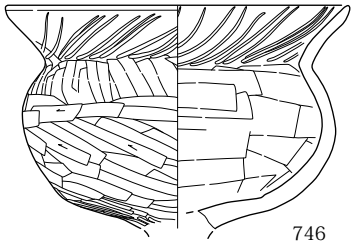


744

6区１層№１

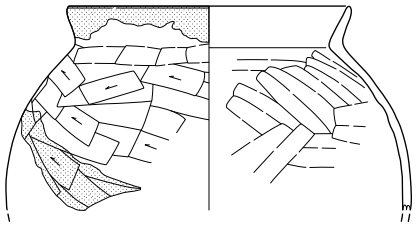


6区２層　745

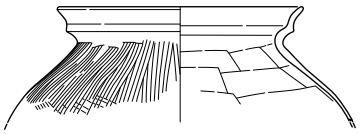


746

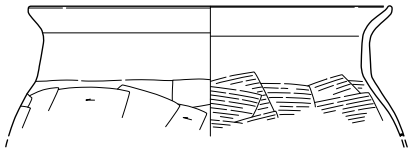
3区１層



6区２層　747

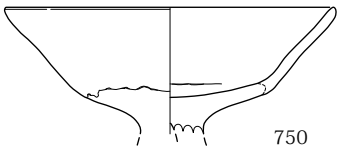


10区３層　748



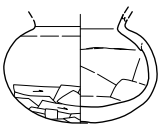
1区１層　749

H－２号住



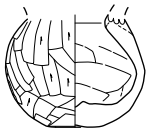
750

12区２層№５



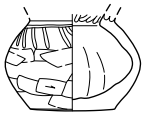
752

3区２層



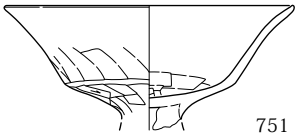
753

D－１№１



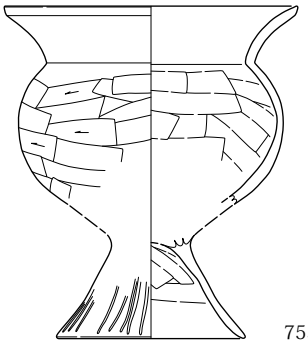
754

D－１№２



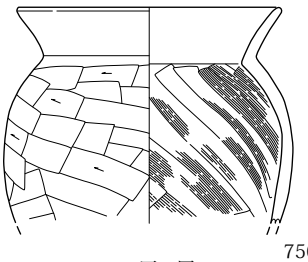
751

3区２層



755

4区１層



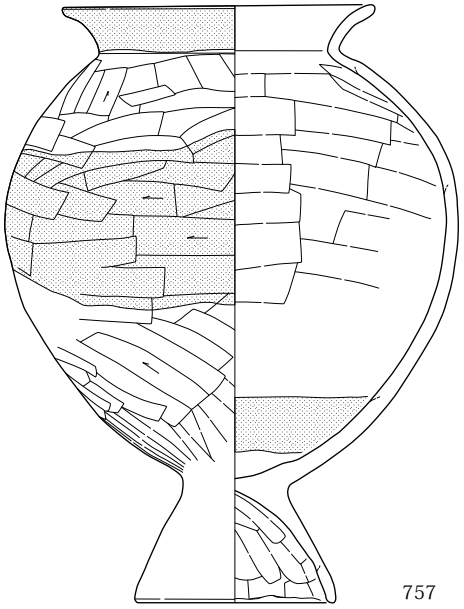
756

2区２層

0　1:4　10cm

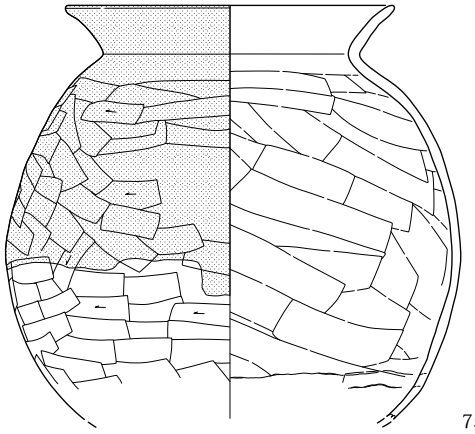
第618図　人見本村遺跡（古墳）H－１・２号住居址出土土器

H－２号住(N15)



757

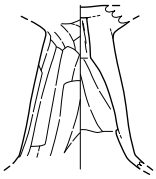
2区２層№２



758

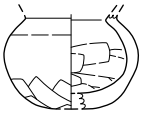
15区２層＋12区２層№３

H－４号住(N15)



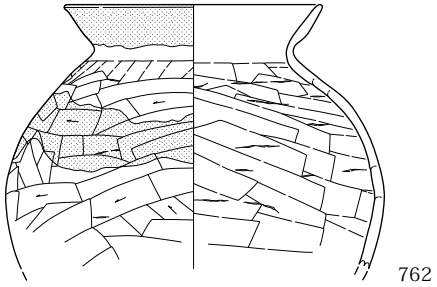
759

3区２層



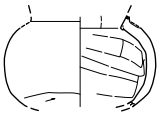
761

6区３層



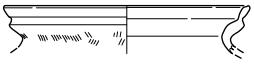
762

14区２層№１



760

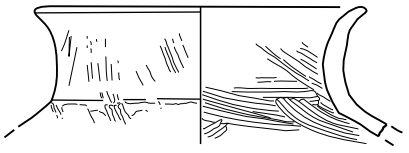
6区３層



763

5区１層

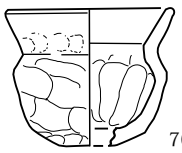
H－１号住(N１１)



764

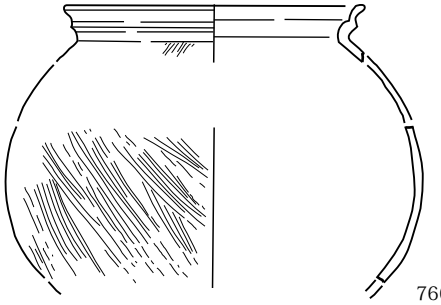
11区１層+3区１層

土抗(N１１)



765

D-115

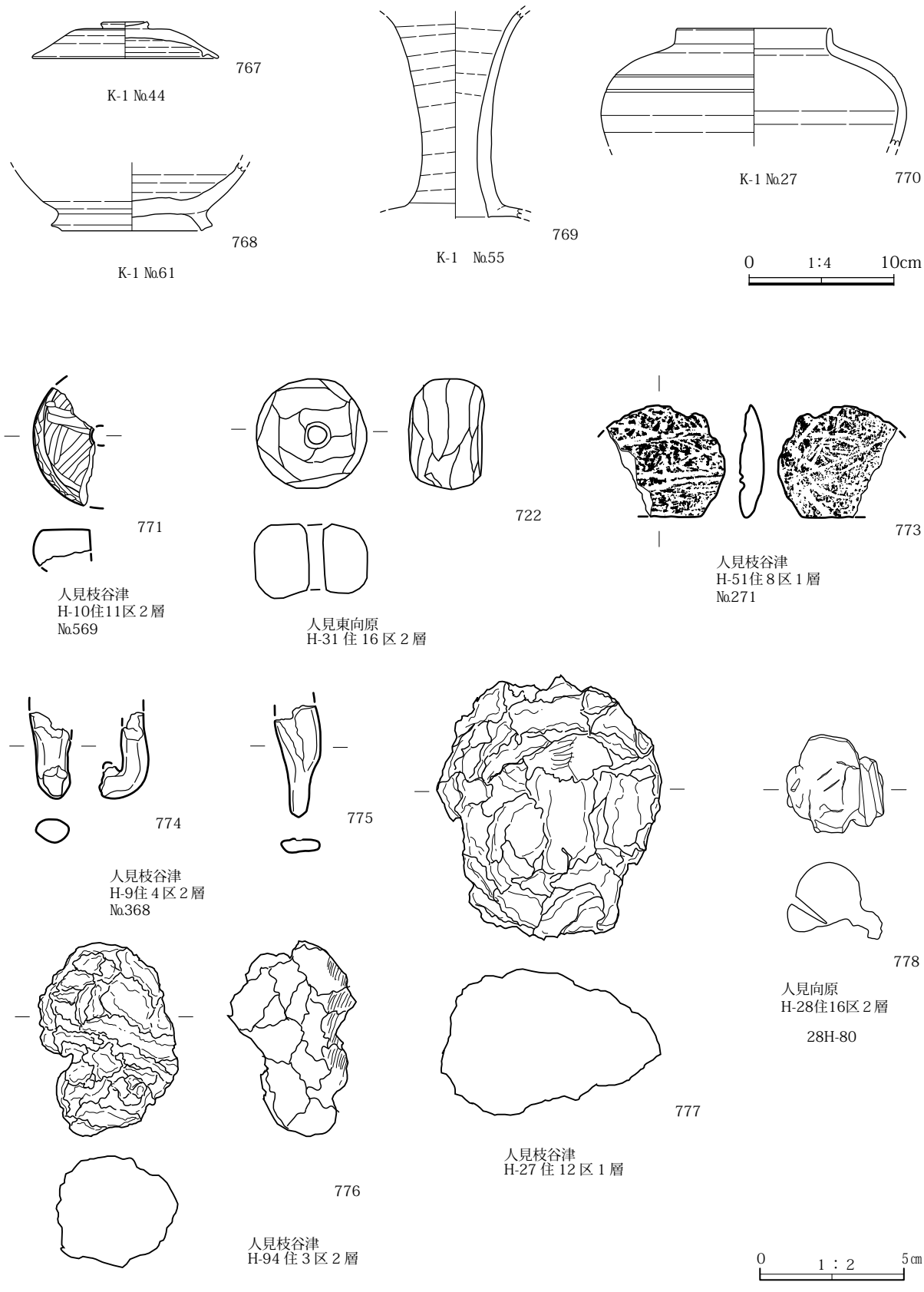


766

D-111

0　1:4　10cm

第619図　人見本村遺跡（古墳）H－２・４号住居址、上人見遺跡（古墳）H－１号住居址・土坑出土土器



第 620 図　人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡・人見向原遺跡　古墳時代の土製品実測図

（3）石製品・石製模造品・石器類（第621～650図）

本遺跡群では、中期前半（Ⅱ・Ⅲ期）の蛇紋岩を石材とした石製品及び石製模造品とそれらの製作関連遺物が出土した。石製品は、勾玉、管玉が主体で、石製模造品は、剣形を主体とし、刀子形、有孔円板等、製作遺物が剣形と臼玉にほぼ限定されている特徴がある。石器類は、住居址から、編物石以外に砥石、台石類等が多数出土した。

人見枝谷津遺跡出土の石製品・石製模造品・石器類（第623～650図、観察表はデータ）

石製模造品を主体として53軒で出土した（1～206）。3点以下が43軒で80％を占める。臼玉製作遺物が74点出土したH－113号住居址を除き、4～10点以下は7軒、10点以上は2軒である。住居址以外では、2基の土坑、1基の竪穴状遺構、湧水から出土した。遺構外からの出土も少数が認められた。ほぼ単独に近い出土状況が多いことから、遺構内へ廃棄したもの以外に、意図的に投げ込まれた可能性が考えられる。石器は住居址を中心に出土した（207～278）。

人見東向原遺跡出土の石製品・石製模造品・石器類（第637～643図、観察表はデータ）

石製品・石製模造品（279～508）、石器（509～517）である。剣形、臼玉を製作遺物が供伴する。

集落遺跡では出土例が少ない刀子形が出土した。H－28号では、臼玉が集中して出土した。

人見向原遺跡出土の石製品・石製模造品・石器類（第644・645図、観察表はデータ）

石製品・石製模造品（518～543）、石英原石（544～546）、石器（547～558）である。剣形を主体とし、素材（未成品）、製作遺物が少数搬入されている。

人見西向原遺跡出土の石製品・石製模造品・石器類（第646～649図、観察表はデータ）

石製品・石製模造品（559～739）、石器（740）である。勾玉、剣形及び未成品は、搬入品である。臼玉製作関連遺物（577～739）が主体で、素材、未成品、完成品の各製作工程がみとめられた。

人見東中原・西中原遺跡出土の石製品・石製模造品・石器類（第650図、観察表はデータ）

石製模造品（741～747）、石器（748、749）である。原石、素材が少数搬入されている。

＜器種組成＞

石製品は、勾玉、管玉の玉類である。石製模造品は、剣形を主体とし、有孔円板、刀子形等が少数組成する。臼玉は多数まとまるが、臼玉と器種の多様性はみられない。特に剣形の組成が主体的で、製作資料も剣形製作に対応した組成である（第57～61表）。

＜石材組成＞

各遺跡とも石材は、ほぼ緑色の蛇紋岩で占められる。中期後半では白色の滑石が利用される傾向があり、石材選択に時期差が認められた。蛇紋岩は滑石の産出地である藤岡・甘楽地域に広がる「三波川帯」に分布する石材である。本遺跡群の石材は肉眼観察により、同地域で産出する石材が利用された可能性がある。石製模造品及び石製品ともに蛇紋岩を選択しており、器種による石材の差は認められない（第62～66表）。

＜石器各説＞

A類（石製品）

勾玉　勾玉は断面形態（楕円形、扁平）と仕上げ状態（研磨の程度）によって、玉類と模造品に分類した。人見枝谷津遺跡では、玉類９点（１～９）、穿孔のない未成品（10）１点が出土した。人見東向原遺跡では玉類３点、石製模造品１点が出土した。人見向原遺跡では、石製模造品１点（518）が出土した。人見西向原遺跡では、玉類２点が出土した。

管玉　人見枝谷津遺跡では、穿孔のあるものが３点出土した。人見向原遺跡では、未成品（穿孔無し）１点が出土した。13は太形である。

B類（石製模造品）

刀子形　人見東向原遺跡のみで２点出土した。集落から出土することは少ない器種である（古墳出土が多い）。縦長素材を研磨によって仕上げている。穿孔のあるもの、基部が欠損するものに分けられる。293は、半月状で基部に刻みがある。

剣形　平面形態でⅠ形態（背面にＹ字状及び平行する稜をもつ）とⅡ形態（両面が平坦）に分類した。穿孔の有無、仕上げ（研磨の度合い）といった製作技術の違いで完成・未完成を区別することが可能だが、模造品であるため完成に至る前に使用される場合が考えられる。剣形以外の模造品についても同様である。43は剥離調整段階の剣形未成品である。44は滑石系（黒色）で、断面がレンズ状の形態で搬入品である。人見枝谷津遺跡Ｂ区の排土置き場で採集。

有孔円板　主体的な組成ではない。６点出土した。扁平で周辺研磨により丸く仕上げる。単孔、２孔である。大形の２点のうち、１点には、４か所の試しの穿孔がある。298は断面レンズ状で孔が大きく、紡錘車の模造品の可能性がある。

不明石製品　42は無加工の円盤状の扁平礫である。

原石　45と545はメノウ製、546は石英製である。無加工の自然礫である。

石製模造品の製作

本遺跡群では、器種分類と剥片類の観察により、石製模造品の製作は、弥生時代以降の「玉作」と共通し、「１原石採取－２荒割－３形割－４微調整（側面打裂）－５研磨－６穿孔－７仕上げ（修正）－８完成」（寺村2004）といった基本工程をもとに各器種が製作される。本遺跡群では、概ねこの工程に沿って剣形と臼玉のそれぞれの製作を目的とした製作工程が認められた。２つの製作過程で作出された素材で別の器種も製作される。

石製模造品・石製品製作は、器種間で共通性が認められる。原石を分割あるいは剥片を剥離して素材を作出する。その素材に対して剥離調整・敲打によって整形し、その後仕上げに至るまでの研磨が施される。また、薄い素材に対しては、両面、側面を直接研磨を施すもの、研磨と剥離調整を繰り返して成型に至るものが認められる。素材は最も完成品に適した形状を優先するが、整形途中で作出された不定形な剥片でも、剣形あるいは他の器種の素材として選択され、石材が無駄なく効率よく消費されている。原石・石核から必要な素材を作出する技術と徹底した研磨による整形技術の進歩が、製作時における調整剥片類（敲くことによる整形）が少ない理由の一つと考えられる。

臼玉の製作は、板状・矩形の素材を多数作出して、研磨と敲打の併用によって厚み形状を整形していく。研磨工程後に穿孔されるが、その後も研磨が施され、徐々に臼玉の形状に近づける。人見西向原遺跡Ｈ－１号住居址では、臼玉未成品が大量に製作されている。計測グラフから、完成品より一回り以上

第 57 表　人見枝谷津遺跡　石製品・石器組成表

遺構名	勾玉	勾玉未成品	管玉	剣形	有孔円板・方板	臼玉	原石	石核	未成品	剥片	剥片素材	紡錘車	紡錘車未成品	点数	編物石	台石	砥石	敲石	磨石	点数
H－1											2	1		3	1					1
H－3				1										1						0
H－4								1						1	5	1				6
H－5										1	6	2		9	5		1			6
H－6														0	3	2			1	6
H－7														0	1	1	1			3
H－8														0	2					2
H－9	1											1		2	1	2				3
H－10										5			1	6	1					1
H－11														0	1	1				2
H－12											1			1		3				3
H－13														0	2	1	1			4
H－14											3			3	1	2			1	4
H－16										8	1			9			3			3
H－17								1						1	3					3
H－19														0	28	1				29
H－20	1			1			1	1						4	6					6
H－21										3	1			4	2	1	1	1		5
H－22														0	2					2
H－23														0					1	1
H－24														0	9		1			10
H－25														0	23		1			25
H－26														0	10		2			12
H－27									1	1	1			3	1					1
H－28														0		1				1
H－31														0	1	2	2			5
H－35											2			2						0
H－36											2			2	1					1
H－37										2				2	1					1
H－39														0		1	1			2
H－40														0	10					10
H－41														0		2				2
H－42										1	2			3	1	2				3
H－43				1										1	1	1				2
H－44											1			1	11					11
H－45														0	1					1
H－46										1	2			3						0
H－48														0		1				1
H－49														0	1				1	2
H－50														0	1					1
H－51														0	2					2
H－52														0	1		1			2
H－53											1			1	1					1
H－54			1								1			2	9					9
H－55														0	10					10
H－56											1			1			1			1
H－57											1			1						0
H－58						1		1			1			3		1				1
H－59														0	1					1

遺構名	勾玉	勾玉未成品	管玉	剣形	有孔円板・方板	臼玉	原石	石核	未成品	剥片	剥片素材	紡錘車	紡錘車未成品	点数	編物石	台石	砥石	敲石	磨石	点数
H－61														0	2					2
H－62					3				2			6		11	2	1				3
H－63									1					1						0
H－64	1								1			3	1	6		1				1
H－65									1					1						0
H－68	2													2	1					1
H－69														0	4					4
H－70											1			1		1				1
H－72												3		3	14		1			15
H－75												2		2	22	2				24
H－76												1		1	2					2
H－77					3									3	3	1	1		1	6
H－78												1		1						0
H－81					2	1								3	1	1				2
H－85														0	1		1			2
H－86														0	1					1
H－89														0	2					2
H－90					2									2						0
H－94				1	1									2	4		1			5
H－95														0	1					1
H－96									1					1	1					1
H－97														0			1			1
H－98											1			1	3					3
H－99														0	1					1
H－100									1			14		15	2	1				3
H－101										1		1		2	3	2	2			7
H－102									6	1		2		9		1			1	2
H－103												1		1	1	1				2
H－104		1												1						0
H－105											2	1		3						0
H－106					1									1						0
H－108											1	1		2						0
H－110									1		1	1		3	2		1			3
H－111														0	4	1			1	6
H－113	2					69			2			1		74						0
H－115												1		1						0
H－117												2		2						0
小計	7	1	2	15	1	70	1	17	6	28	70	5	1	224	237	39	24	1	7	309
T－1														0	1					1
D－37	1													1						0
D－61									1					1						0
M－1					1									1						0
M－4					1									1						0
US－1											1	3		4						0
グリット	1			1	4						2	1		9						0
一括					1						2	1		4			2			2
小計	2	0	1	7	0	0	0	1	0	5	5	0	0	21	1	0	2	0	0	3
合計	9	1	3	22	1	70	1	18	6	33	75	5	1	245	238	39	26	1	7	312

第 58 表　人見東向原遺跡　石製品・石器組成表

表	勾玉	剣形	剣形未成品	刀子形	円板	有孔円板・方板	有孔石製品	臼玉	石核	剥片	剥片素材	紡錘車	点数	編み物石	台石	砥石	磨石	点数
H－1													0	1				1
H－2		1		1							2		4	13		1		14
H－3													0	2				2
H－5											1	1	2	5				5
H－6		3									1		4	3	1			4
H－9											1		1					0
H－11													0	1				1
H－12										1	1		2					0
H－13											1		1	8		1		9
H－14										1	2		3	12				12
H－16													0	8				8
H－17		1									5		6	1				1
H－18		1											1					0
H－20											1		1					0

表	勾玉	剣形	剣形未成品	刀子形	円板	有孔円板・方板	有孔石製品	臼玉	石核	剥片	剥片素材	紡錘車	点数	編み物石	台石	砥石	磨石	点数
H－21	2				1								3	1				1
H－22										1	2	1	4	3		1		4
H－23												5	5	16	1		1	18
H－24									1				1	7				7
H－25	2			1		1							4					0
H－26									1		2		3	1				1
H－27											2		2					0
H－28			1					173			1		175					0
H－29		1									2		3	3				3
H－31											1		1	1				1
H－32										2	4		6	3	1			4
H－33						1							1	1				1
グリット		1				2							3		1			1
合計	4	8	1	2	1	3	1	173	3	6	33	1	236	90	4	3	1	98

第 59 表　人見向原遺跡　石製品・石器組成表

遺構名	勾玉	管玉未成品	剣形	剣形未成品	臼玉	素材	原石	剥片	剥片素材	紡錘車	紡錘車未成品	点数	編み物石	台石	砥石	敲石	搬入礫	点数
H－1												0	1					1
H－2				7		2	1	6	1			17	1	2				3
H－3												0					1	1
H－5												0	1					1
H－6												0	5					5
H－11												0	1	1				2
H－12					1							1			1			1
H－13			1								1	2	3				1	4
H－14									1			1					1	1
H－15			2							1		3	33		4	2	2	41
H－16							1					1	5		1			6
H－19			1									1	2		1			3
H－20				1								1	2					2
H－21												0	2					2
H－22												0	1	1				2
H－23		1										1	8		1		1	10
H－24												0	1	2				3
H－27							1					1	1					1
H－28			1				3					4	8		1	1	2	12
H－31												0	1					1
H－33								1				1		1				1
M－2	1											1						0
合計	1	1	5	8	1	7	2	7	2	1	0	35	76	7	9	3	8	103

第 60 表　人見東中原・西中原遺跡　石製品・石器組成表

遺構名	素材	石核	剥片	点数	編物石	台石	点数
H－2		1		1			0
H－4			1	1			0
H－6		1		1	1		1
H－7				0	1		1
H－8	1			1		1	1
H－12	2			2	8		8
H－13			1	1			0
合計	3	2	2	7	10	1	11

第 61 表　人見西向原遺跡　石製品・石器組成表

遺構名	勾玉	剣形未成品	臼玉	臼玉未成品	臼玉素材	未成品	剥片	剥片素材	点数	編物石	台石	砥石	敲石	磨石	搬入礫	点数
H－1	2	2	66	38	59	2	428	9	606	3						3
H－5								2	2							0
H－6		1							1	1	1					2
合計	2	3	66	38	59	2	428	11	609	4	1	0	0	0	0	5

ある10㎜程度の未成品を製作し、穿孔後に再研磨し仕上げていく過程が読み取れる。穿孔過程で多数の欠損品が生じている。人見枝谷津遺跡では、径４～5.5㎜、人見東向原遺跡では径3.5～5㎜にそれぞれ分布集中があり、大きさに違いが存在する。本遺跡では、剣形と臼玉の両器種の製作を集中的に行っている。

素材・剥片類と比べ、原石・石核が多い傾向がある。少ない石材を効率よく消費し、石製模造品を製作する技術が認められる。Ｈ－103号住居址では、床面に同一母岩である大形素材の集中（キャッシュ）が認められた。また、原石のみを出土した住居址もある。

Ｃ類（石器）

紡錘車　人見枝谷津遺跡で４点、未成品欠損１点（40）、人見向原遺跡で１点である。形状は平面円形、断面やや扁平気味の台形である。中期後半とは厚みが異なる。削りによる整形、全面研磨による仕上げが施される。38は遺構内接合である。本遺跡群では紡錘車の製作は認められなかった。

Ｄ類（石器）

砥石　研ぎ面が滑らかな流紋岩製の仕上砥、自然面がざらついた安山岩製の中砥に分類される。研磨の対象は、鉄製品の刃部あるいは石製模造品・石製品が考えられるが、使用痕のみでは両者の区別はできない。ただし、流紋岩製で研ぎ面に細い線条痕あるいは研ぎ面が湾曲するものは、鉄製品用の可能性がある。形態は、扁平板状、平面・断面ともに四角形、棒状の形態で、両面あるいは全面に研ぎ面をもつ携帯可能な中小形と台石のように大形礫で研ぎ面が一面となる据え置き型に分けられる。前者は流紋岩製、後者は安山岩製となる傾向がある。

磨石　礫面に磨面が観察されるものとした。編物石にも同様の使用痕が観察されるものがある。239は両端に磨滅痕がある。台石との組み合わせが推定できる。安山岩の楕円礫が多い。

第 62 表　人見枝谷津遺跡　石材組成表

遺構名	蛇紋岩		その他		他石材
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	
H－1	3	40.10			
H－3	1	10.80			
H－4	1	125.50			
H－5	9	75.70			
H－9	2	31.60			
H－10	6	30.50			
H－12	1	6.90			
H－14	3	9.60			
H－16	9	13.90			
H－17	1	633.80			
H－20	3	324.10	1	34.50	メノウ
H－21	4	3.20			
H－27	3	43.70			
H－33	1	3.00			
H－35	2	40.30			
H－36	2	80.10			
H－37	2	3.00			
H－42	3	5.20			
H－43	1	1.50			
H－44	1	6.50			
H－46	3	16.90			
H－53	1	4.30			
H－54	2	14.90			
H－56	1	9.60			
H－57	1	1.20			
H－58	3	488.10			
H－62	11	95.40			
H－63	1	219.00			
H－64	6	84.60			
H－65	1	74.90			
H－68	2	19.80			
H－70	1	0.40			
H－72	3	40.00			
H－75	2	10.00			
H－76	1	13.60			
H－77	3	20.20			
H－78	1	4.80			
H－81	3	18.90			
H－90	2	17.90			
H－94	2	3.70			
H－96	1	43.80			
H－98？	1	3.40			
H－100	15	875.80			
H－101	2	30.90			
H－102	9	698.80			
H－103	1	3.60			
H－104	1	3.20			
H－105	3	6.30			
H－106	1	7.70			
H－108	2	4.80			
H－110	3	207.00			
H－113	74	12.75			
H－115	1	35.40			
H－117	2	16.10			
小計	91	2518.10	1	34.50	
D－37	1	0.40			
D－61	1	152.50			
M－1	1	2.10			
M－4	1	3.70			
US－1	4	97.30			
グリット	9	17.20			
一括	4	47.20			
小計	21	320.40	0	0.00	
合計	112	2838.50	1	34.50	

第 63 表　人見東向原遺跡　石材組成表

遺構名	蛇紋岩		その他		他石材
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	
H－1					
H－2	4	27.70			
H－3					
H－5	2	38.10			
H－6	4	17.30			
H－9	1	54.40			
H－10					
H－11					
H－12	2	5.80			
H－13	1	34.80			
H－14	3	48.30			
H－16					
H－17	6	68.40			
H－18	1	4.60			
H－20	1	10.80			
H－21	3	41.10			
H－22	4	100.03			
H－23	5	70.60			
H－24	1	168.20			
H－25	4	23.10			
H－26	3	88.30			
H－27	2	21.20			
H－28	175	19.85			
H－29	3	41.70			
H－31	1	2.40			
H－32	6	42.60			
H－33	1	6.70			
小計	233	935.98	0	0.00	
ｸﾞﾘｯﾄ	3	13.90			
小計	3	13.90	0	0.00	
合計	236	949.88	0	0.00	

第 64 表　人見向原遺跡　石材組成表

遺構名	蛇紋岩		その他		他石材
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	
H－1					
H－2	16	76.10	1	3.70	石英
H－3					
H－5					
H－6					
H－11					
H－12	1	0.20			
H－13	2	47.20			
H－14	1	1.00			
H－15	3	8.80	1	112.30	石英
H－16	1	136.30			
H－19	1	2.60			
H－20	1	11.20			
H－21					
H－22					
H－23	1	1.90			
H－24					
H－27	1	8.80			
H－28	4	106.70			
H－31					
H－33			1	4.80	めのう
小計	32	400.80	3	120.80	
M－2	1	7.60			
小計	1	7.60	0	0.00	
合計	33	408.40	3	120.80	

第 65 表　人見東中原・人見西中原遺跡　石材組表

遺構名	蛇紋岩		その他		他石材
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	
H－2	1	183.70			
H－4	1	1.70			
H－6	1	215.40			
H－7					
H－8	1	37.10			
H－12	2	21.30			
H－13	1	4.00			
合計	7	463.20	0	0.00	

第 66 表　人見西向原遺跡　石材組成表

遺構名	蛇紋岩		その他		他石材
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	
H－1	606	309.90			
H－5	2	10.20			
H－6	1	8.10			
合計	609	328.20	0	0.00	

台石　住居址の床面あるいは覆土中で多数の礫が出土したが、それらの中で礫面に使用痕が観察される石器が認められた。これらの石器は、台石として認識し、古墳時代に普遍的に存在していたものと考えられる。形状は、楕円形と棒状が主体で、断面が四角形で扁平となるものが多い。大形の据え置き型（20cm以上）と小形（20cm以下）のものが存在する。作業面が平滑になるものと、敲打による凹み、剥離痕で凸凹となるものが認められた。石材は安山岩製が多い。

人見枝谷津遺跡（240～278）

E類

編物石　住居址の床面から出土した。第622図は、各遺跡で10点以上の編物石が出土した住居について大きさを集計したものである。編物石は、主に「錘」としての用途を見た場合、大きさ、形状に規格性がある石器で、長幅２：１となる棒状自然礫が多用される。長幅グラフからは、長さ12cmを境として長さ８cm以上から12cm未満と長さ12cm以上から18cm未満の大小２つの分布集中が認められた。18cmを超える大きさも認められる。編物石に大小の規格があることは、加賀塚遺跡の報告で指摘している。大小の編物石が認められるのは、人見枝谷津遺跡である。大形の編物石は人見東向原遺跡と人見向原遺跡である。大小規格が混在する場合は、700～800ｇの重量が最も多く、200～300ｇ、500～700ｇにもピークが認められる。一方大形のみの場合は、400～900ｇまでと２倍以上の差がある礫の使用が認められる。同一遺構の出土でも、大きさが均一ではない。

編物石の組成は、点数による差が大きく５点以下と10点以上に大別できる。また、多数を組成するものは、大きさに２つのグループが存在する。

＜石製品・石製模造品の製作特徴について＞

本遺跡群では、中期前半の石製模造品とその製作関連遺物が多数出土した。中野谷地区に所在する加賀塚遺跡では、中期後半を主体としていることから、中期における石製品・石製模造品の型式と製作技術の比較検討が可能となった。横野台地における石製品・石製模造品の特徴と変遷をまとめたい。

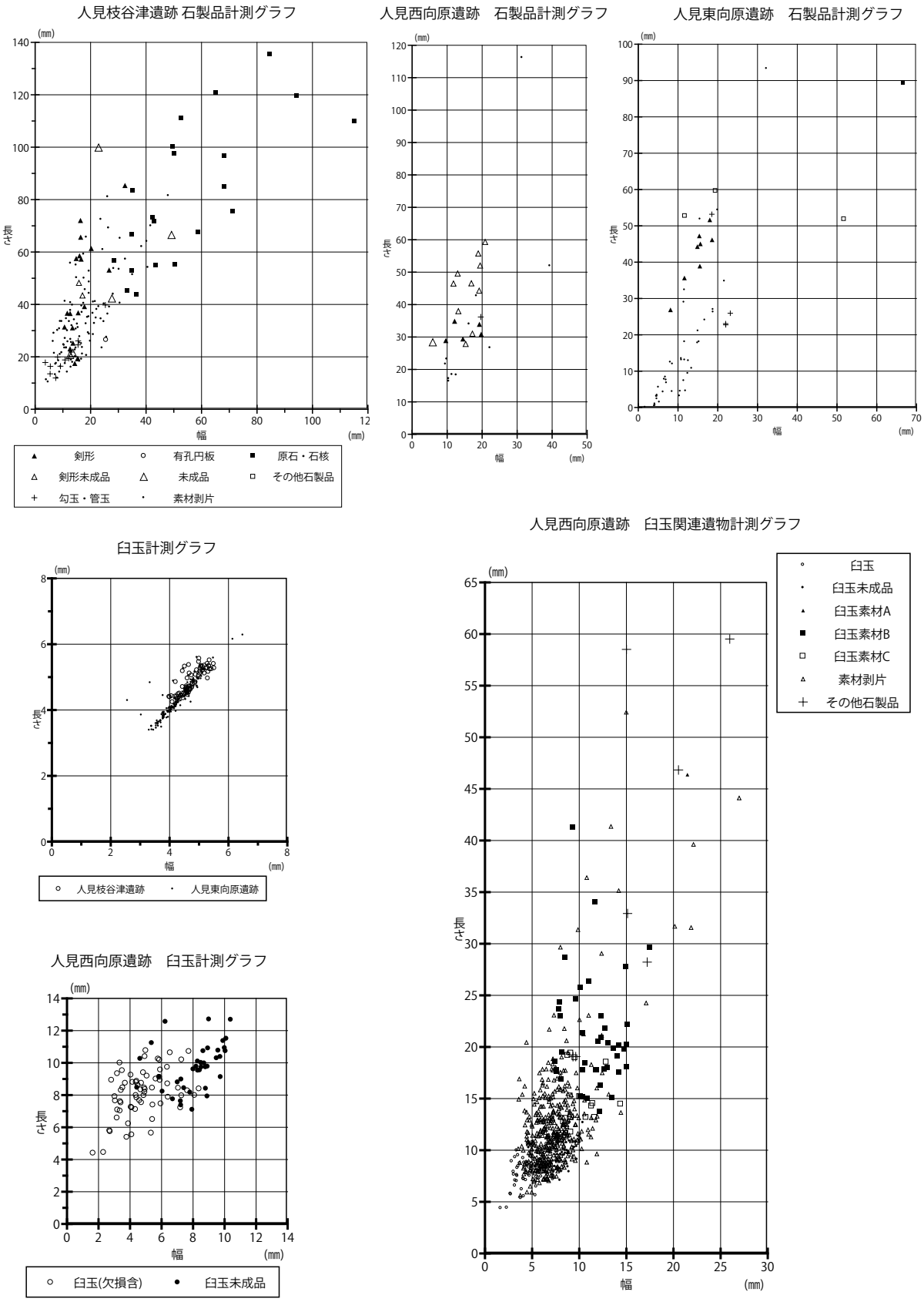
前期：石製品・石製模造品の組成が少ない時期である。蔵畑遺跡で大形剣形が出土している。加賀塚遺跡では、伝世した「琴柱形」が１点出土している。

中期前半（Ⅱ・Ⅲ期）：勾玉、管玉等の玉類が、搬入される。石製模造品は、剣形（鎬、稜をもつ）、臼玉の組成とその製作を主体とするが、刀子形、円板等の他器種は例外的である。剣形は鎬をもつもので、丁寧に仕上げられている。石材は、緑青色の蛇紋岩である。本遺跡群の主体的時期。

中期後半（Ⅳ・Ⅴ期）：臼玉、剣形（扁平）、有孔円板・方板とその製作を主体とする。剣形は扁平で形骸化する。石材は灰白色の滑石である。加賀塚遺跡の主体的時期。

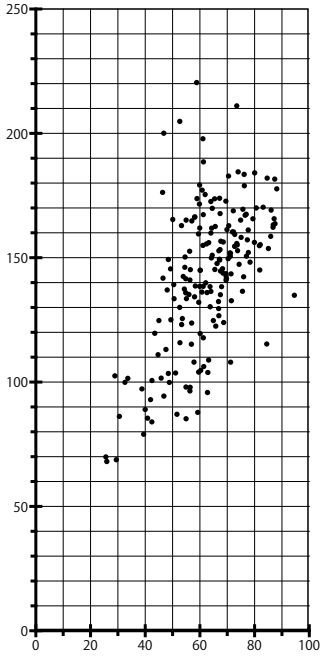
後期以降：中期後半の様相を継承するが、前半から衰退する。臼玉、剣形（扁平）が主体となる。

中期での画期は、前半と後半で選択される石材が異なるのが最大の特徴である。また、石製模造品の器種組成に時期差が生じるとともに、製作される器種においても形態差、技術差が存在する。石材は、蛇紋岩から滑石へ、器種は忠実な模造が崩れ、大量生産を意識して、製作技術が簡略化した「模造」品となる。



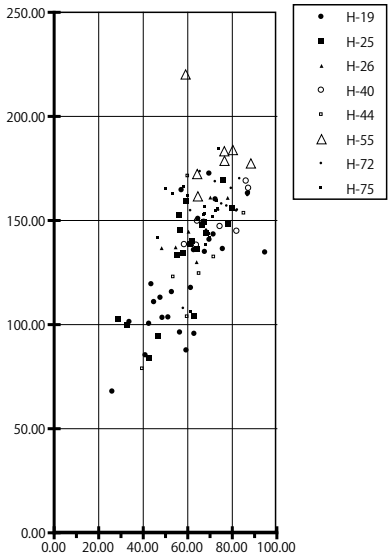
第 621 図　古墳時代の滑石製石製模造品の計測グラフ（器種別）

人見枝谷津遺跡　編物石計測グラフ（全点）



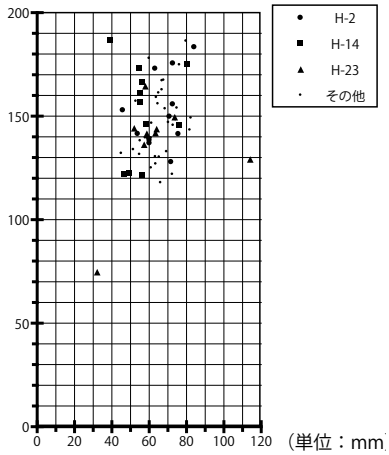
（単位：mm）

人見枝谷津遺跡　編物石計測グラフ（一部）



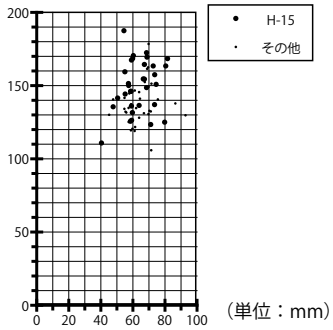
（単位：mm）

人見東向原遺跡　編物石計測グラフ



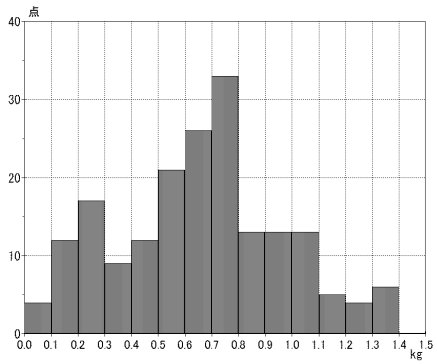
（単位：mm）

人見向原遺跡　編物石計測グラフ

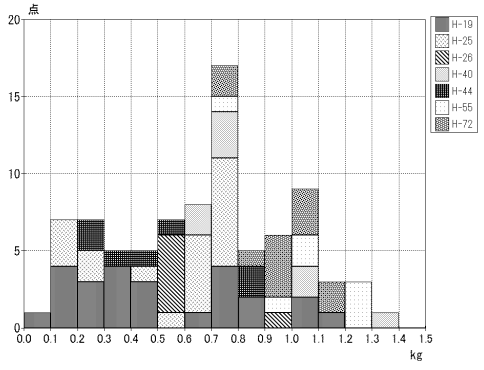


（単位：mm）

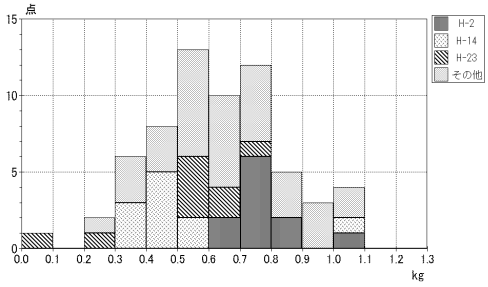
人見枝谷津遺跡　編物石重量度数分布（全点）



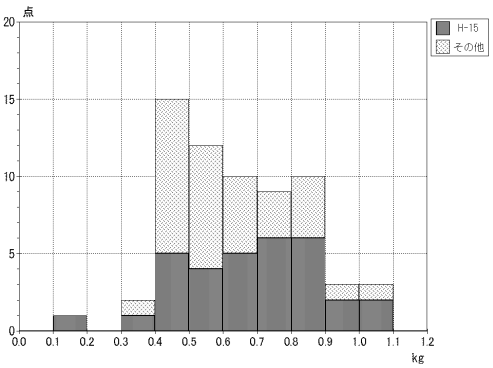
人見枝谷津遺跡　編物石重量度数分布（一部）



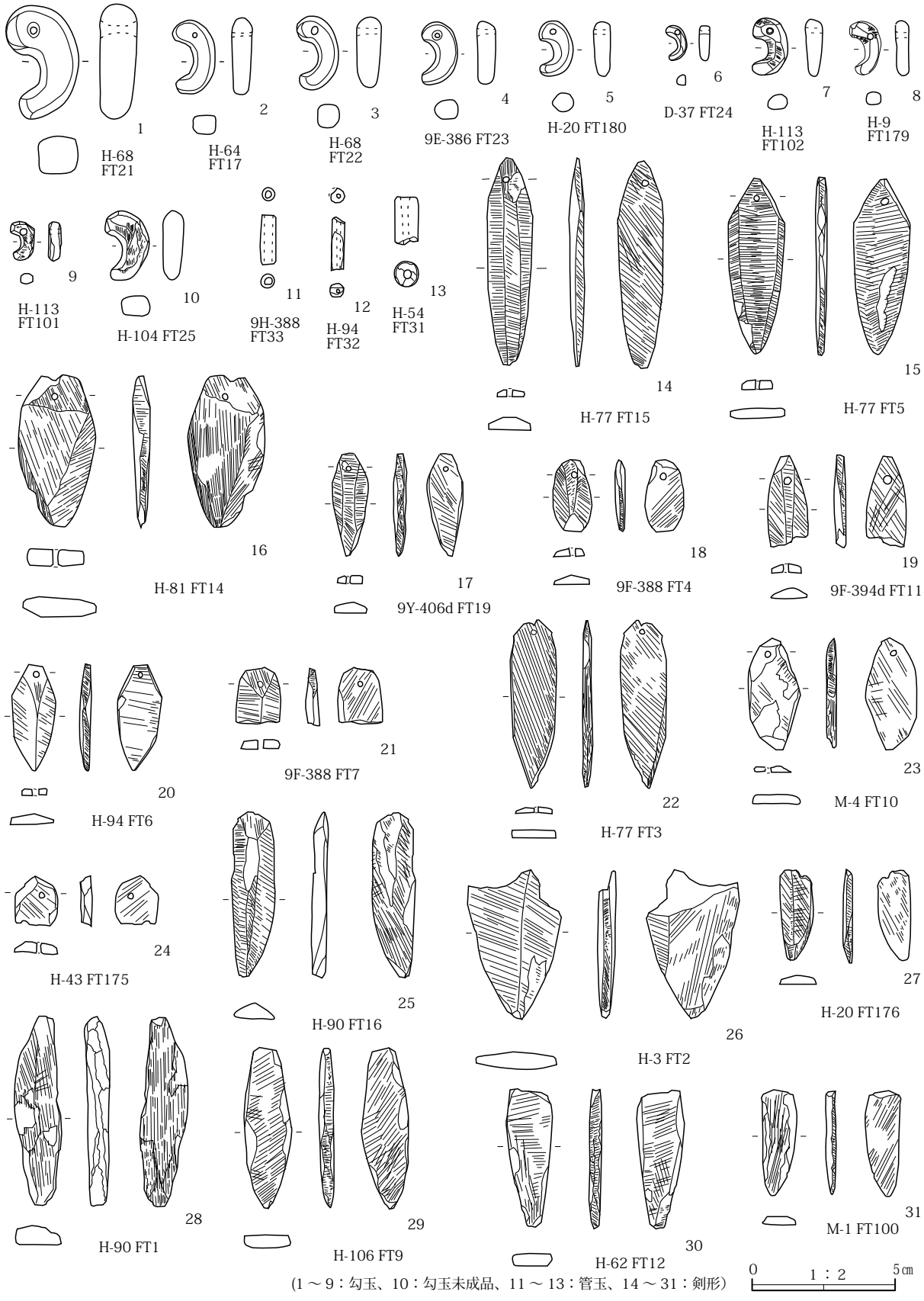
人見東向原遺跡　編物石重量度数分布



人見向原遺跡　編物石重量度数分布

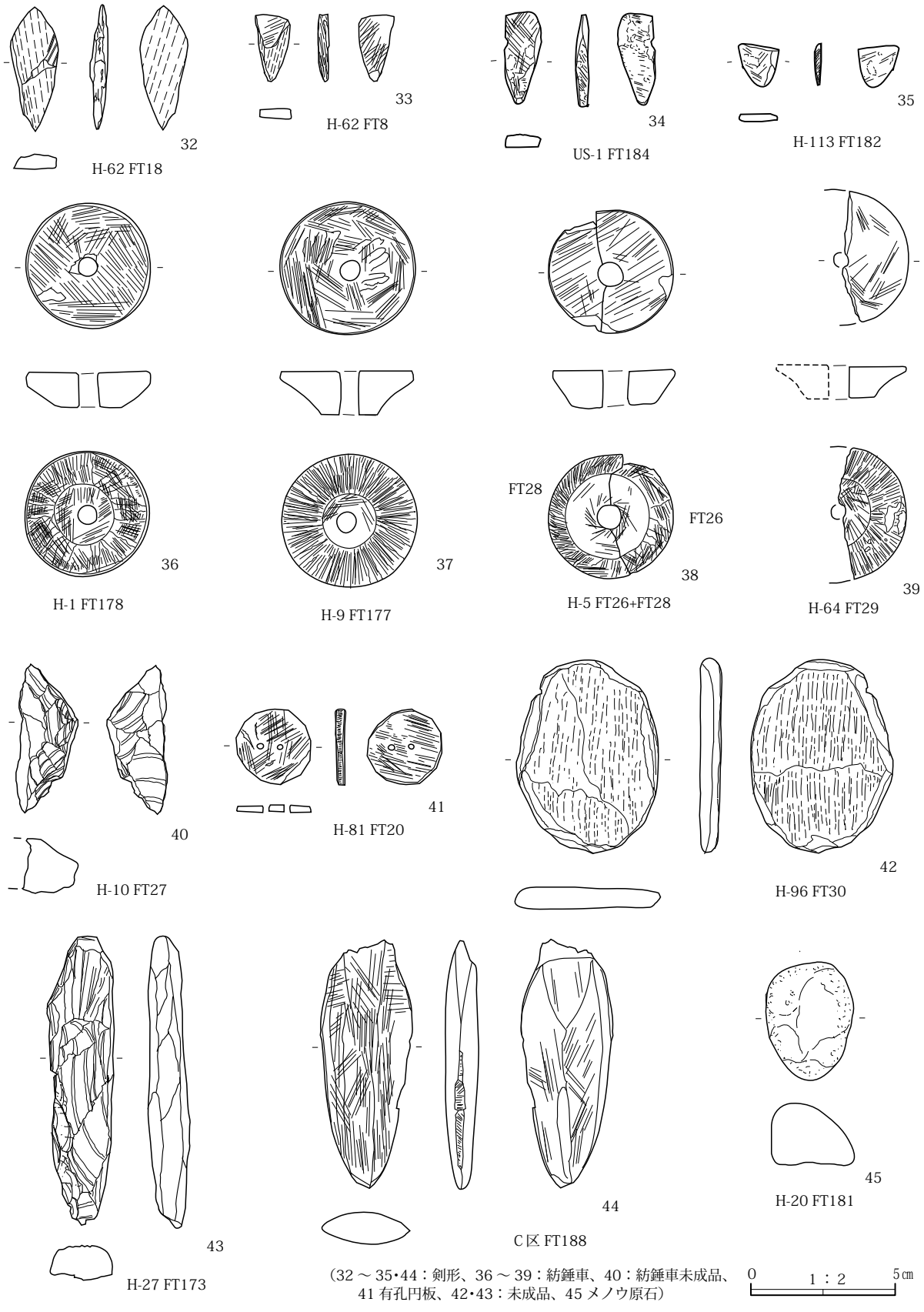


第 622 図　古墳時代の編物石計測グラフ（長幅・重量）



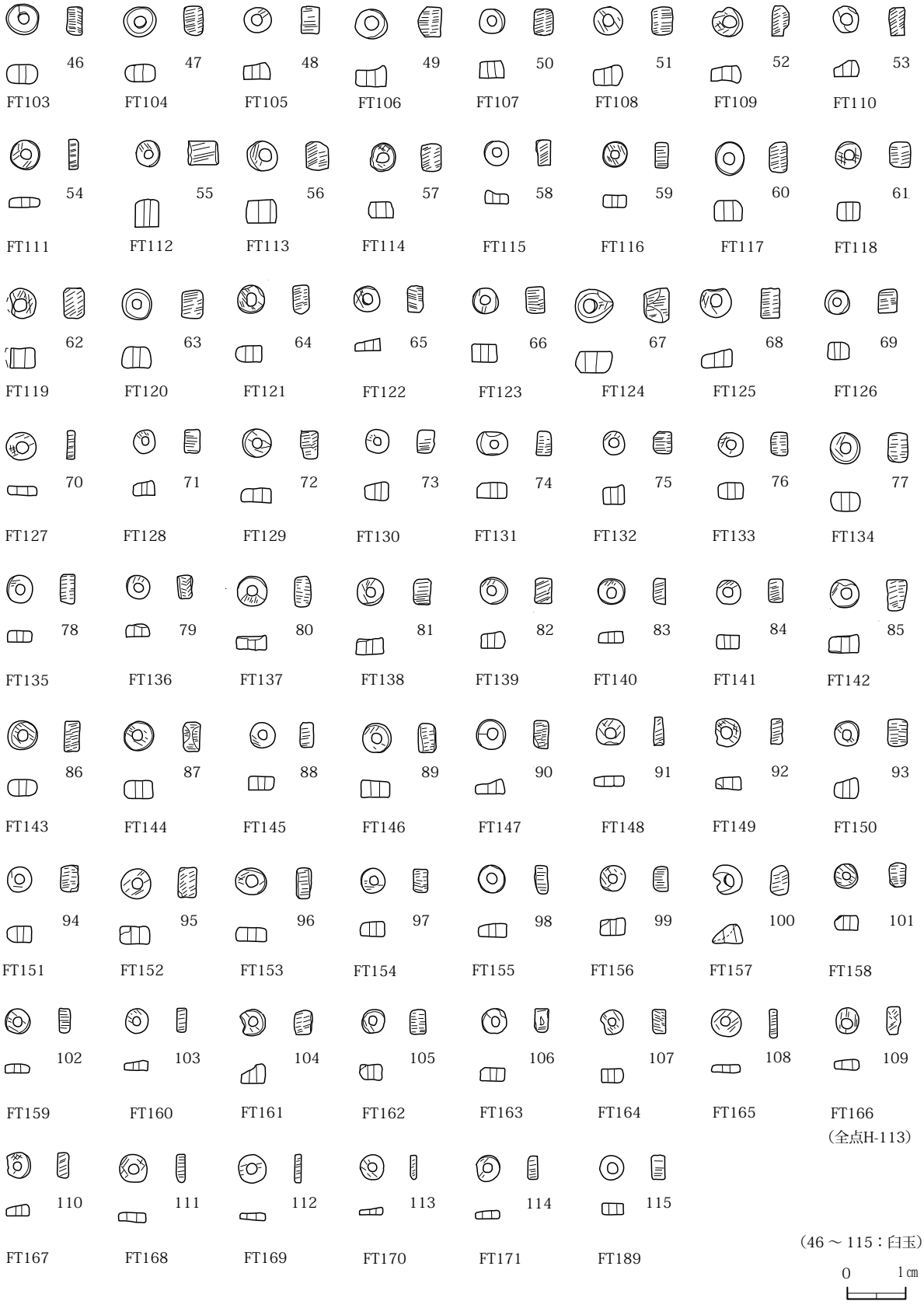
(1 ～ 9：勾玉、10：勾玉未成品、11 ～ 13：管玉、14 ～ 31：剣形)

第 623 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石製模造品（1）

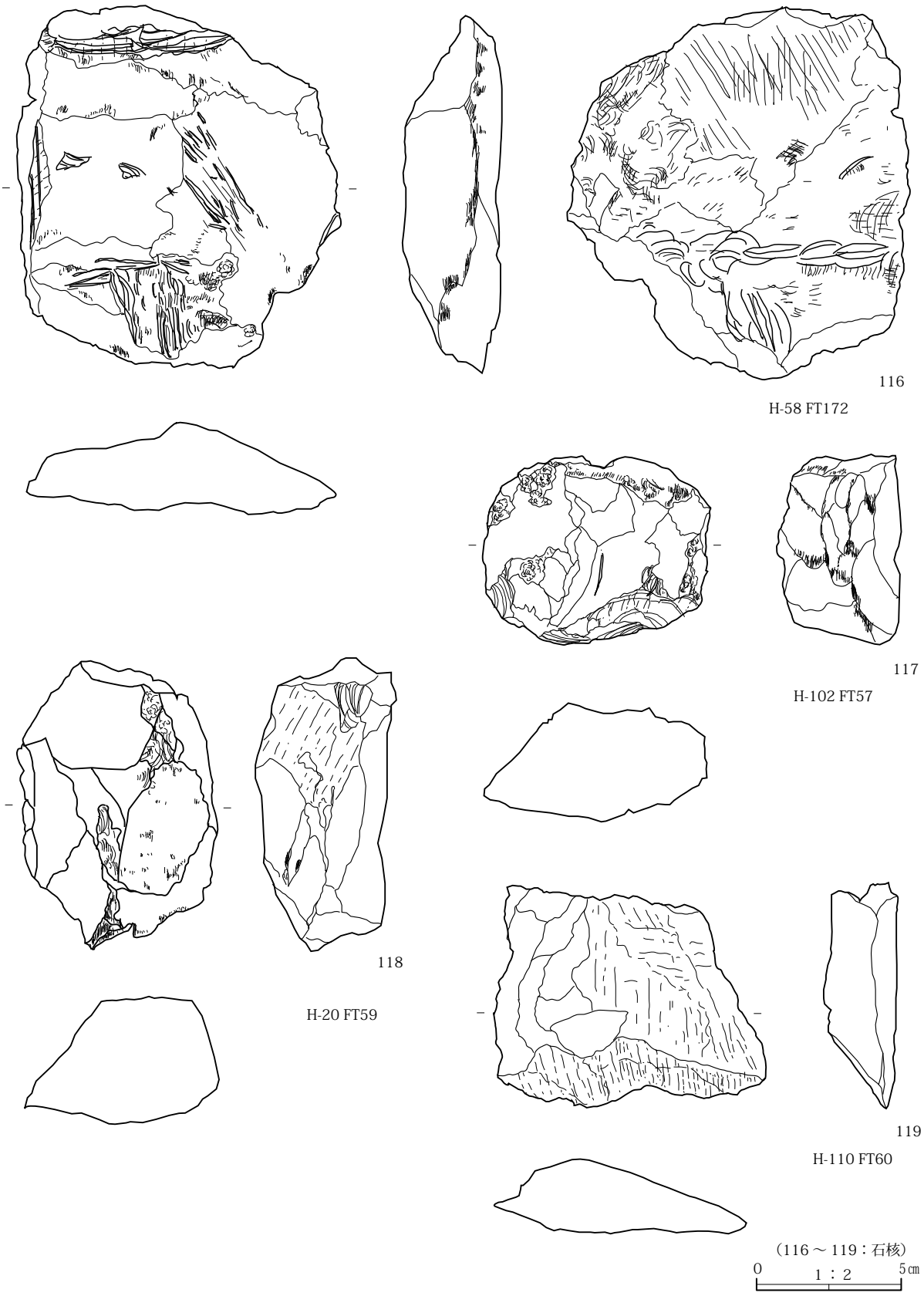


（32 ～ 35・44：剣形、36 ～ 39：紡錘車、40：紡錘車未成品、41 有孔円板、42・43：未成品、45 メノウ原石）

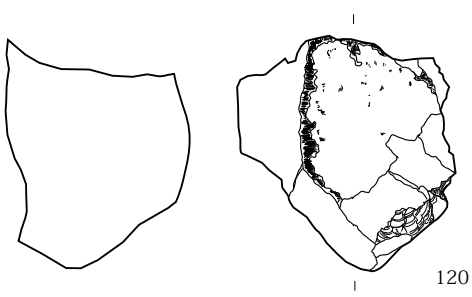
第 624 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石製模造品（２）



第625図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石製模造品（3）

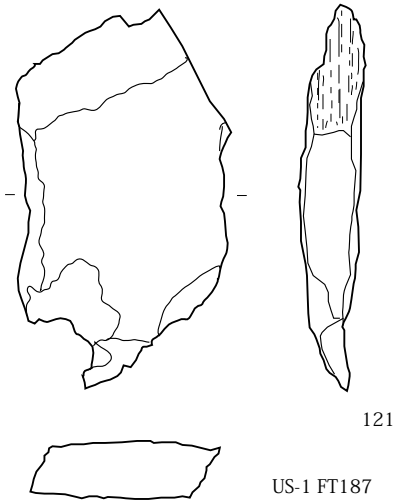


第 626 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石製模造品（４）



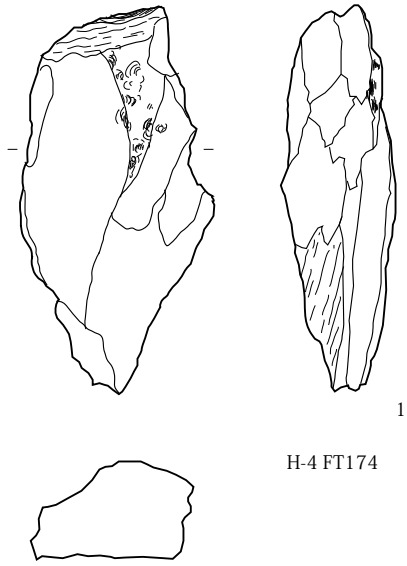
120

H-63 FT87



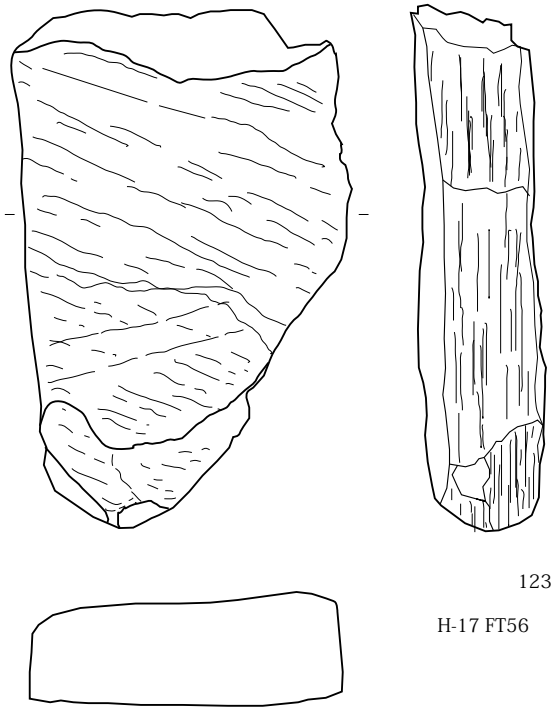
121

US-1 FT187



122

H-4 FT174



123

H-17 FT56

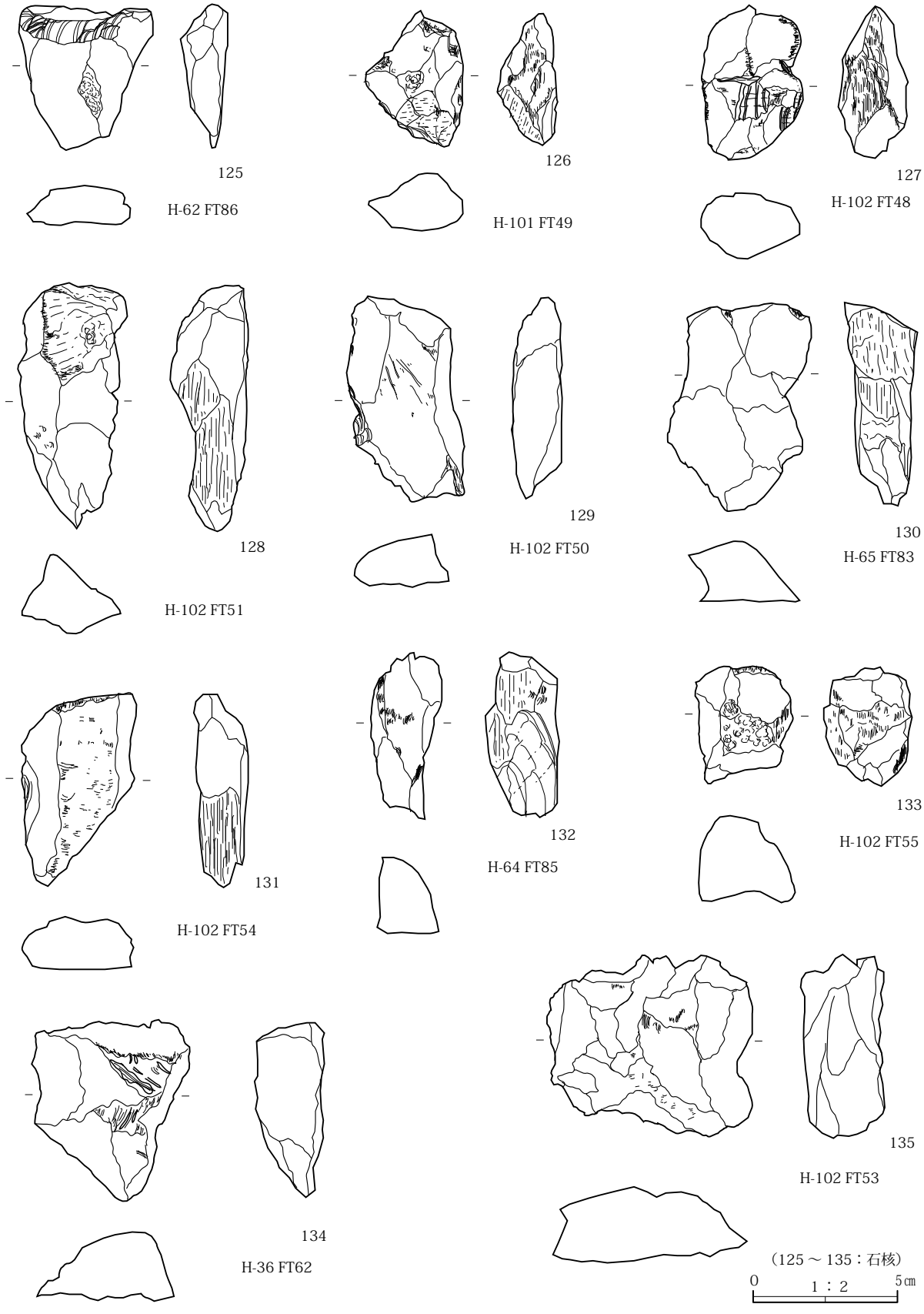
124

D-61 FT52

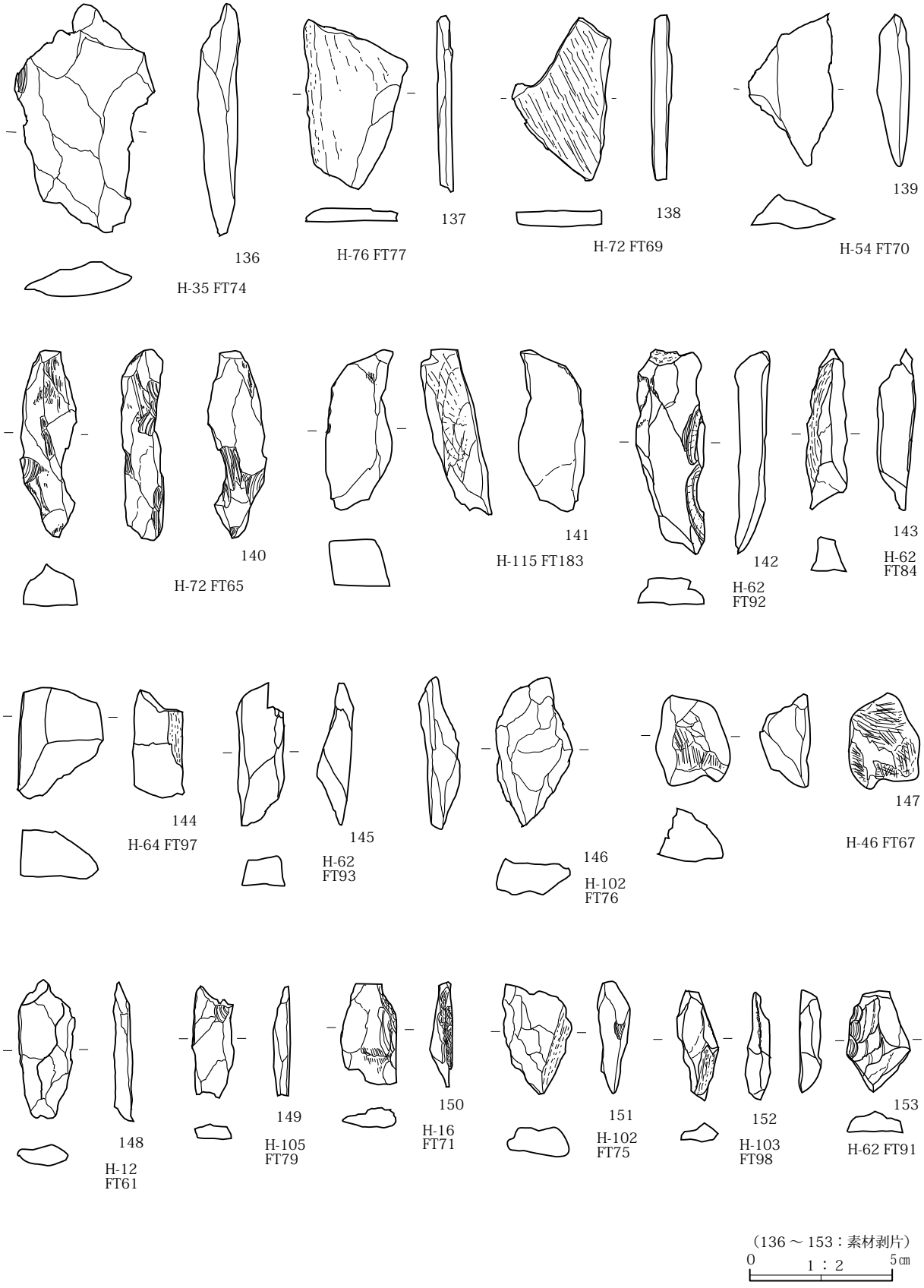
（120 ～ 124：石核）

0　1：2　5㎝

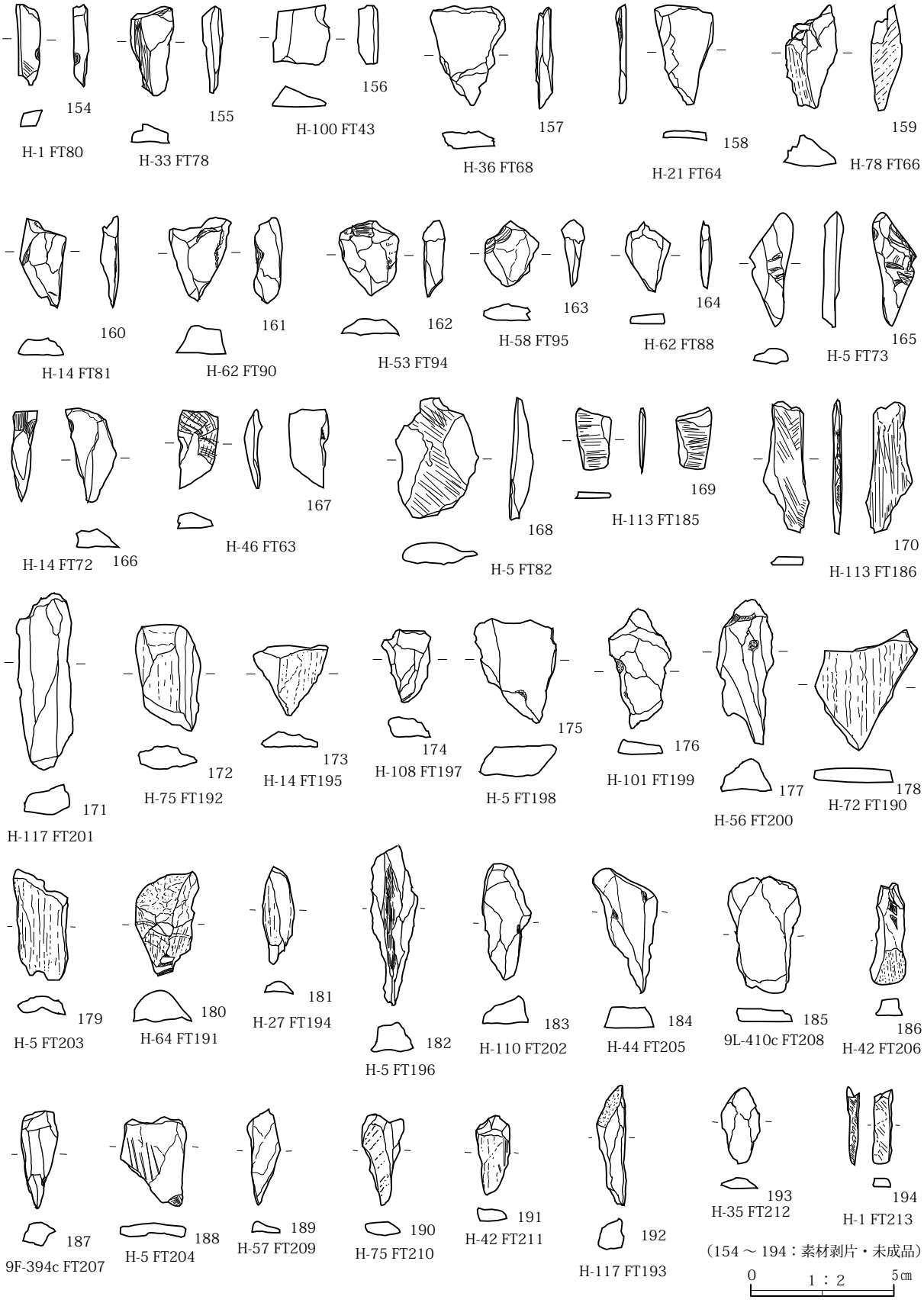
第 627 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石製模造品（5）



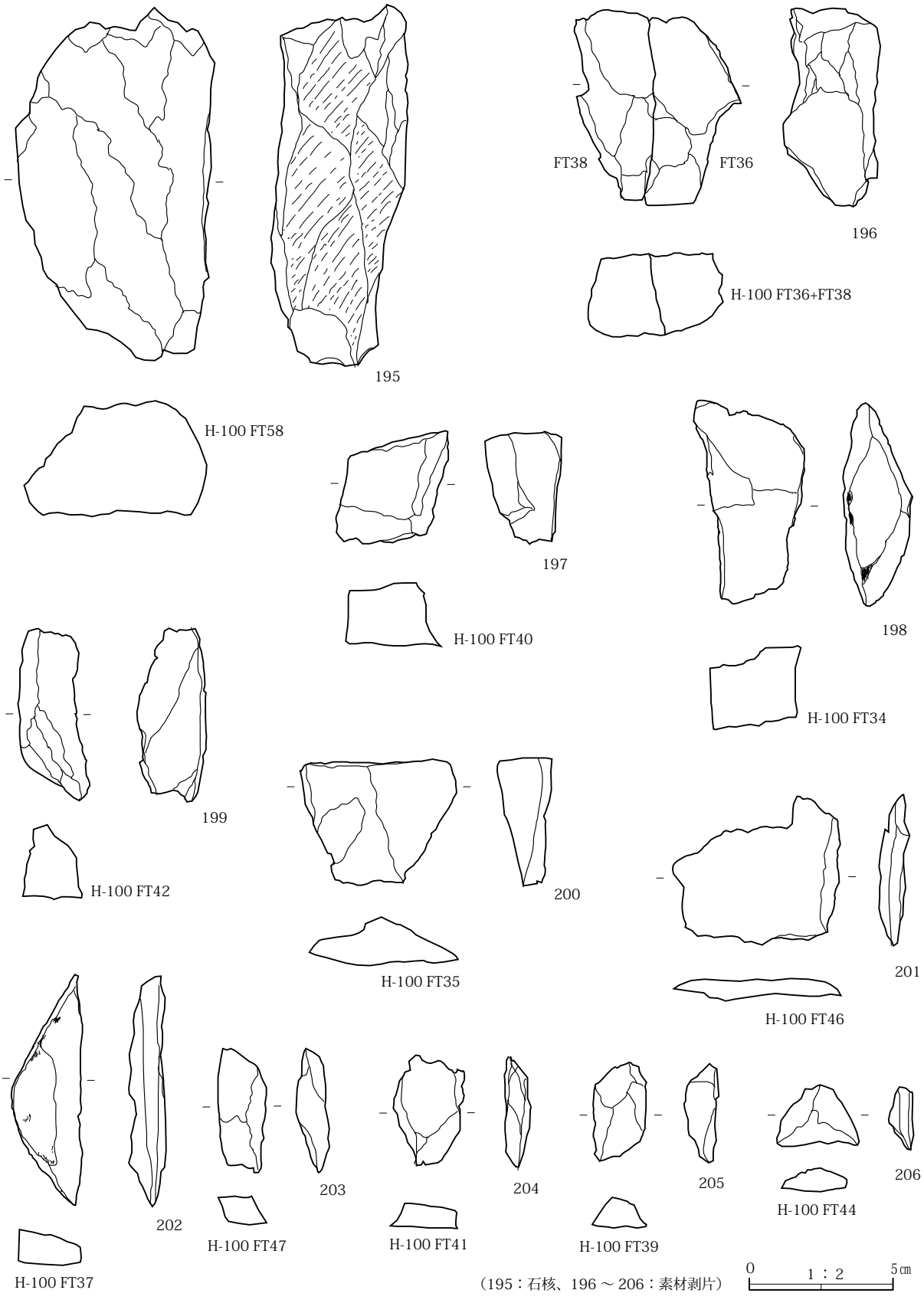
第 628 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石製模造品（６）



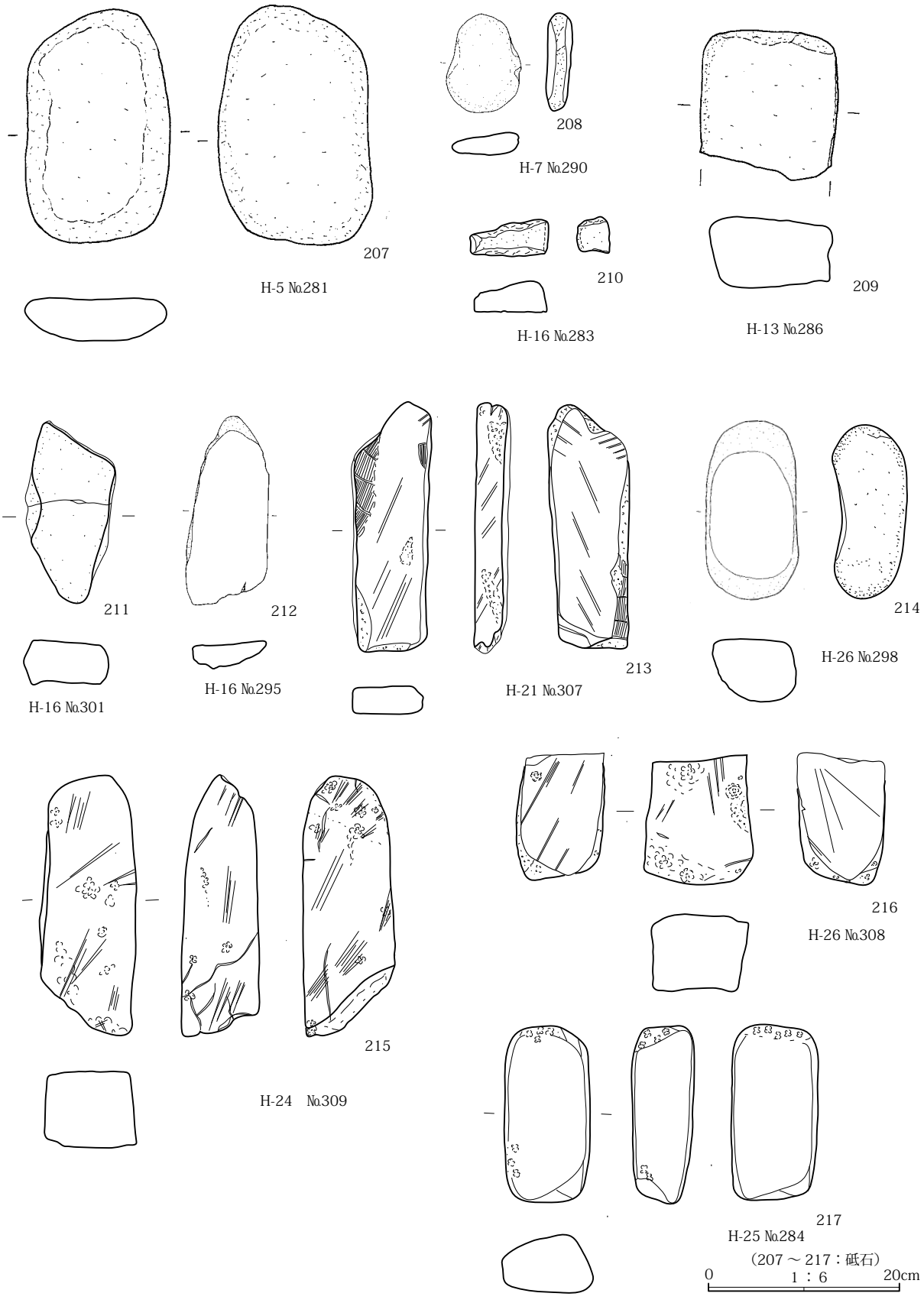
第 629 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石製模造品（７）



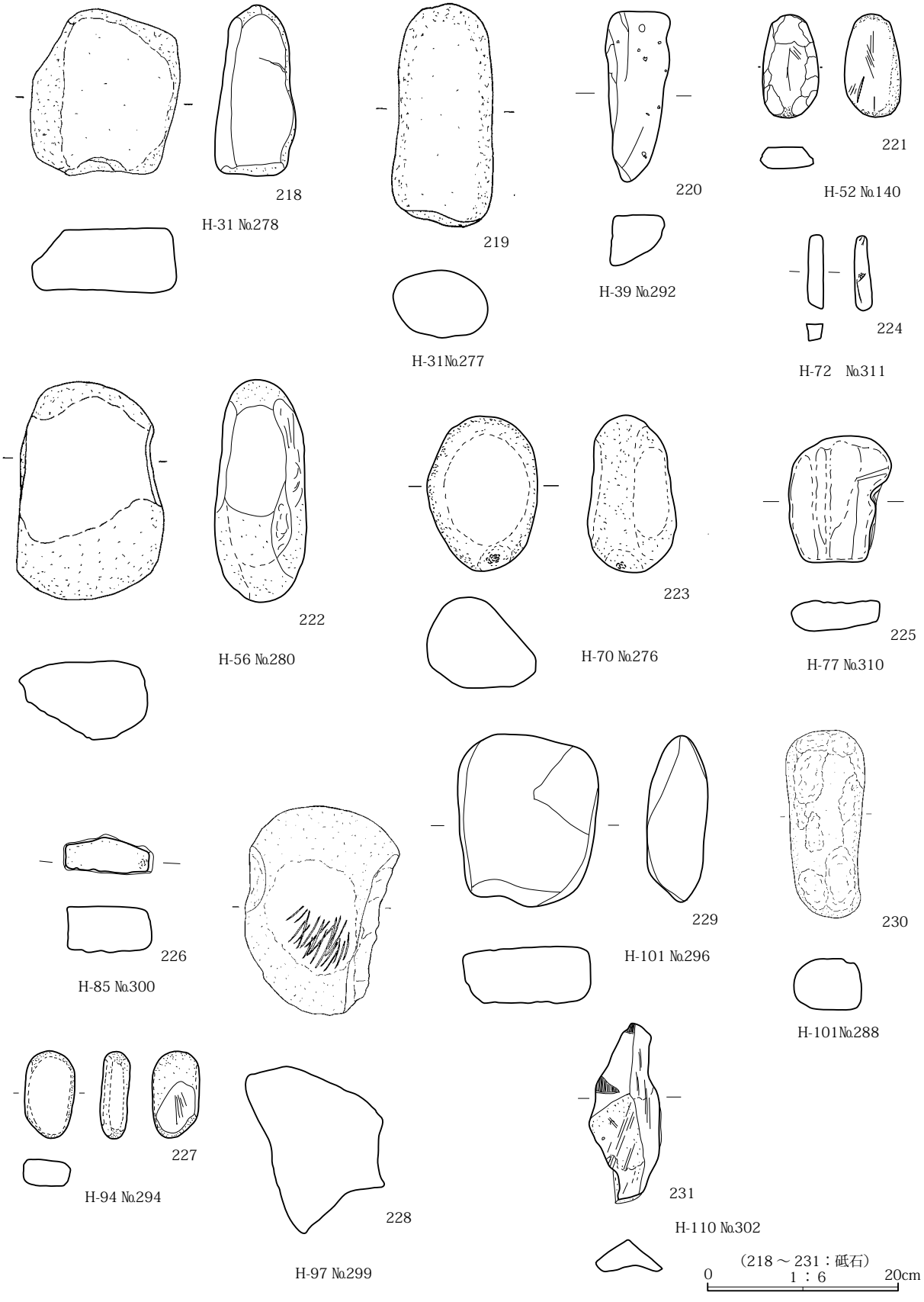
第 630 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石製模造品（８）



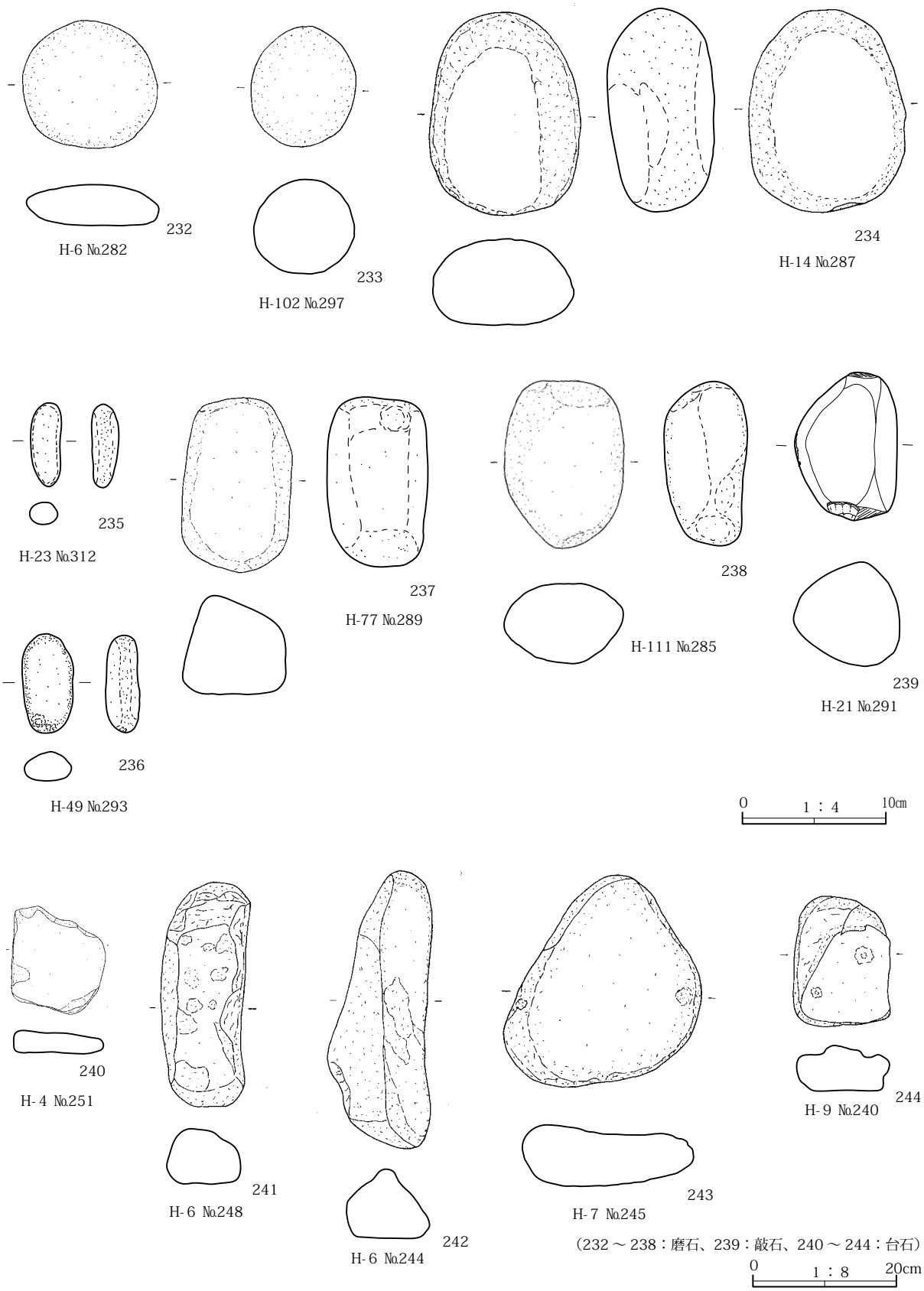
第 631 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石製模造品（９）



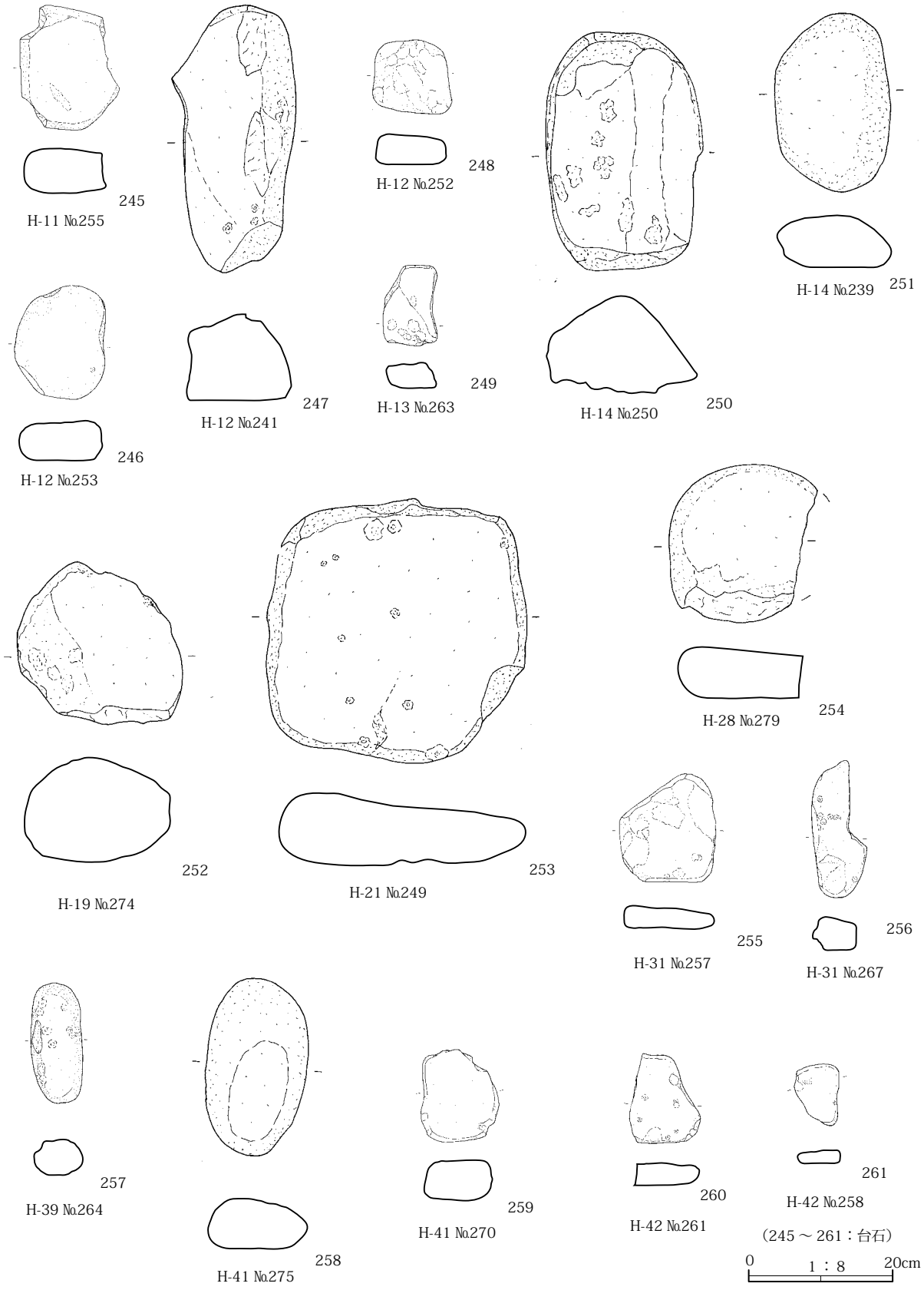
第 632 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石器（1）



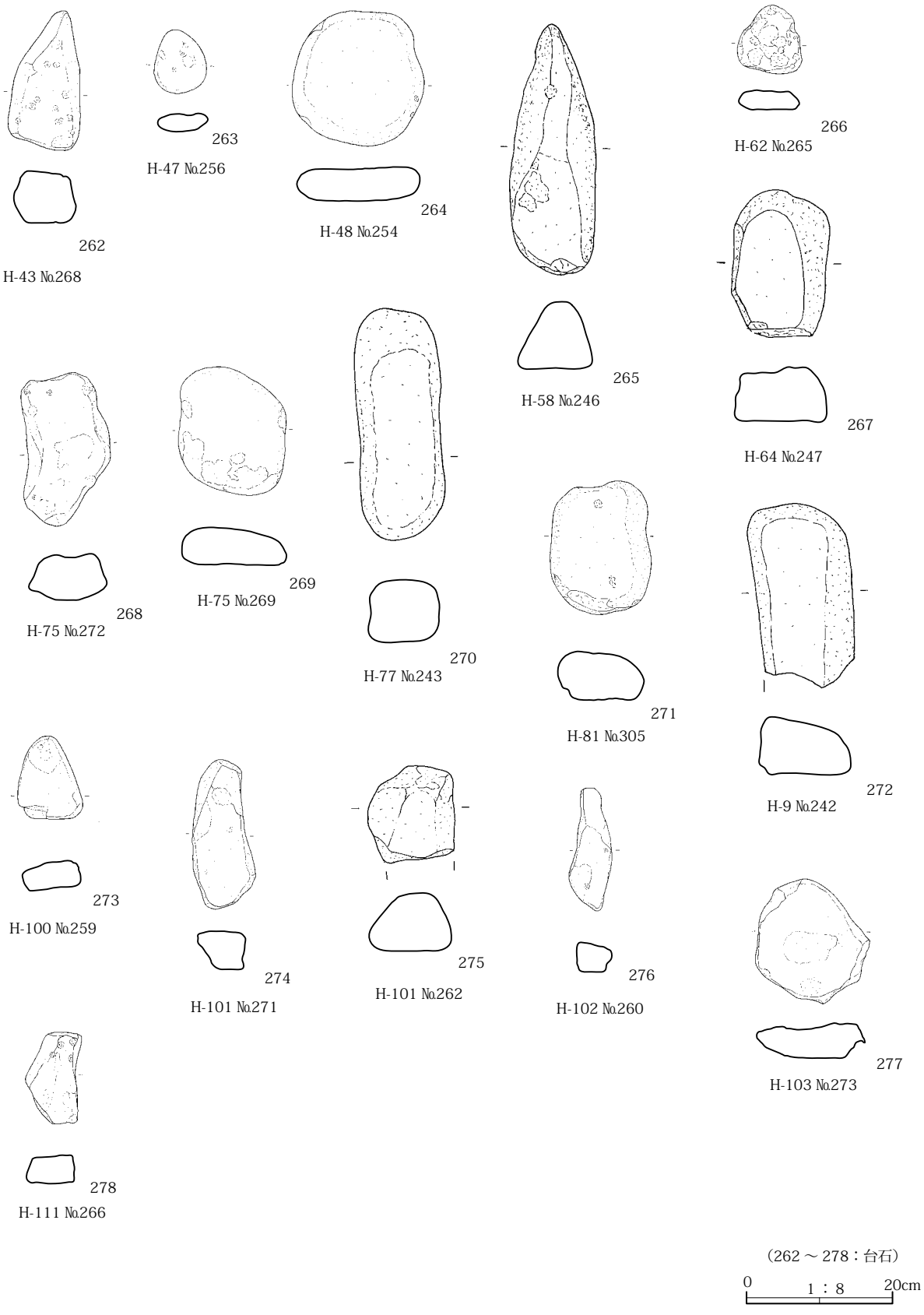
第 633 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石器（２）



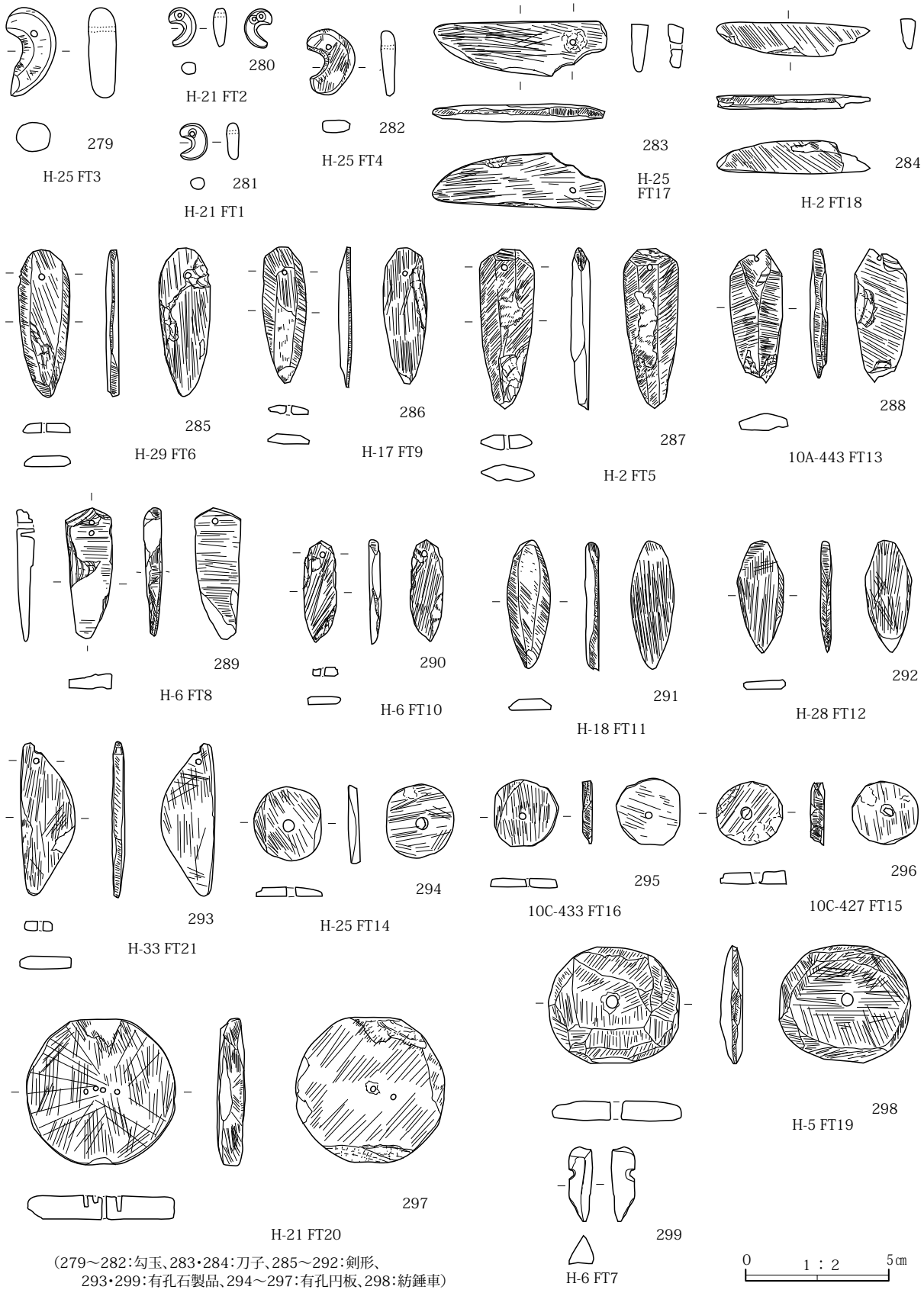
第 634 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石器（3）



第 635 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石器（４）

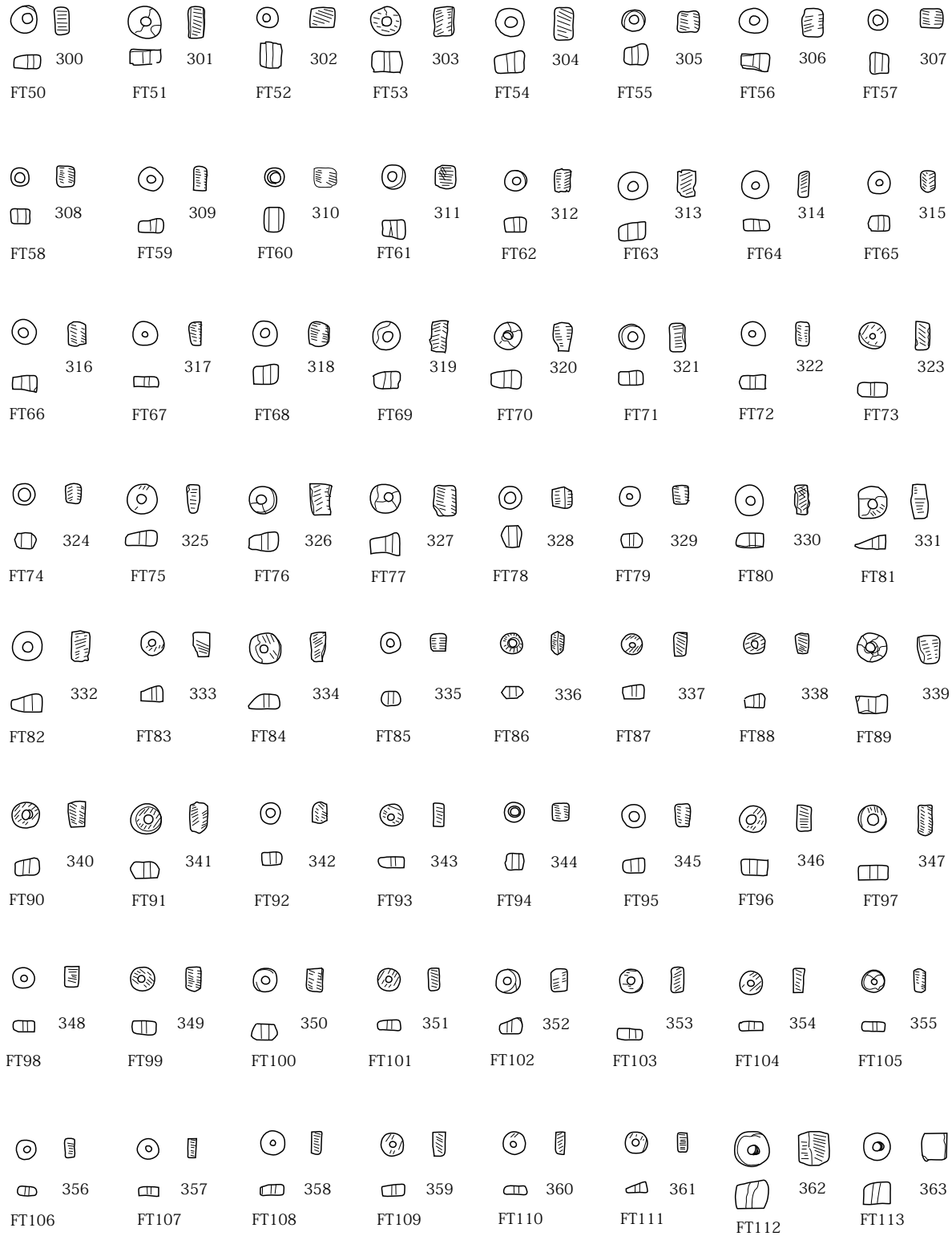


第 636 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土石器（5）

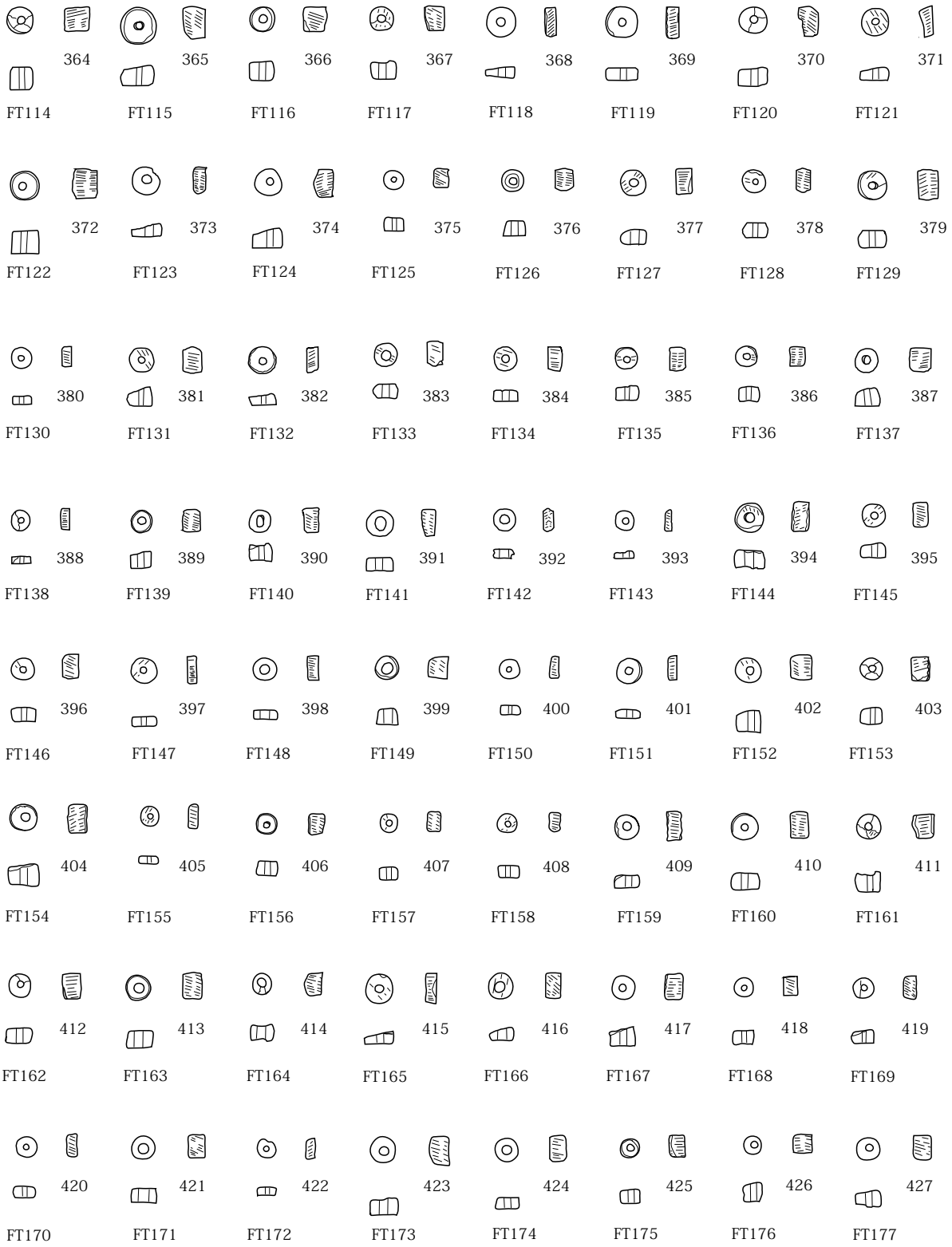


（279～282：勾玉、283・284：刀子、285～292：剣形、
293・299：有孔石製品、294～297：有孔円板、298：紡錘車）

第 637 図　人見東向原遺跡（古墳）出土石製模造品（１）



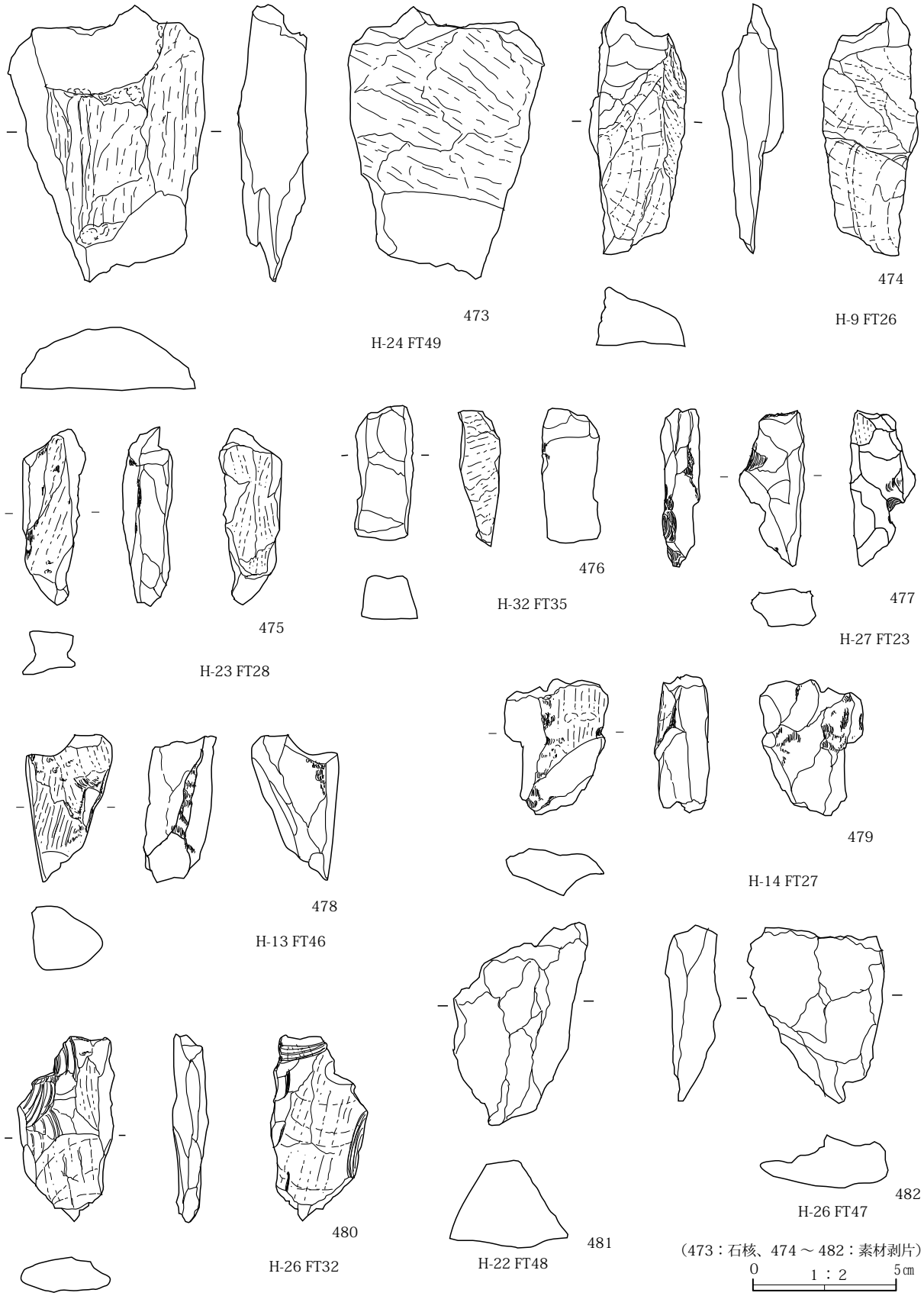
第 638 図　人見東向原遺跡（古墳）出土石製模造品（２）



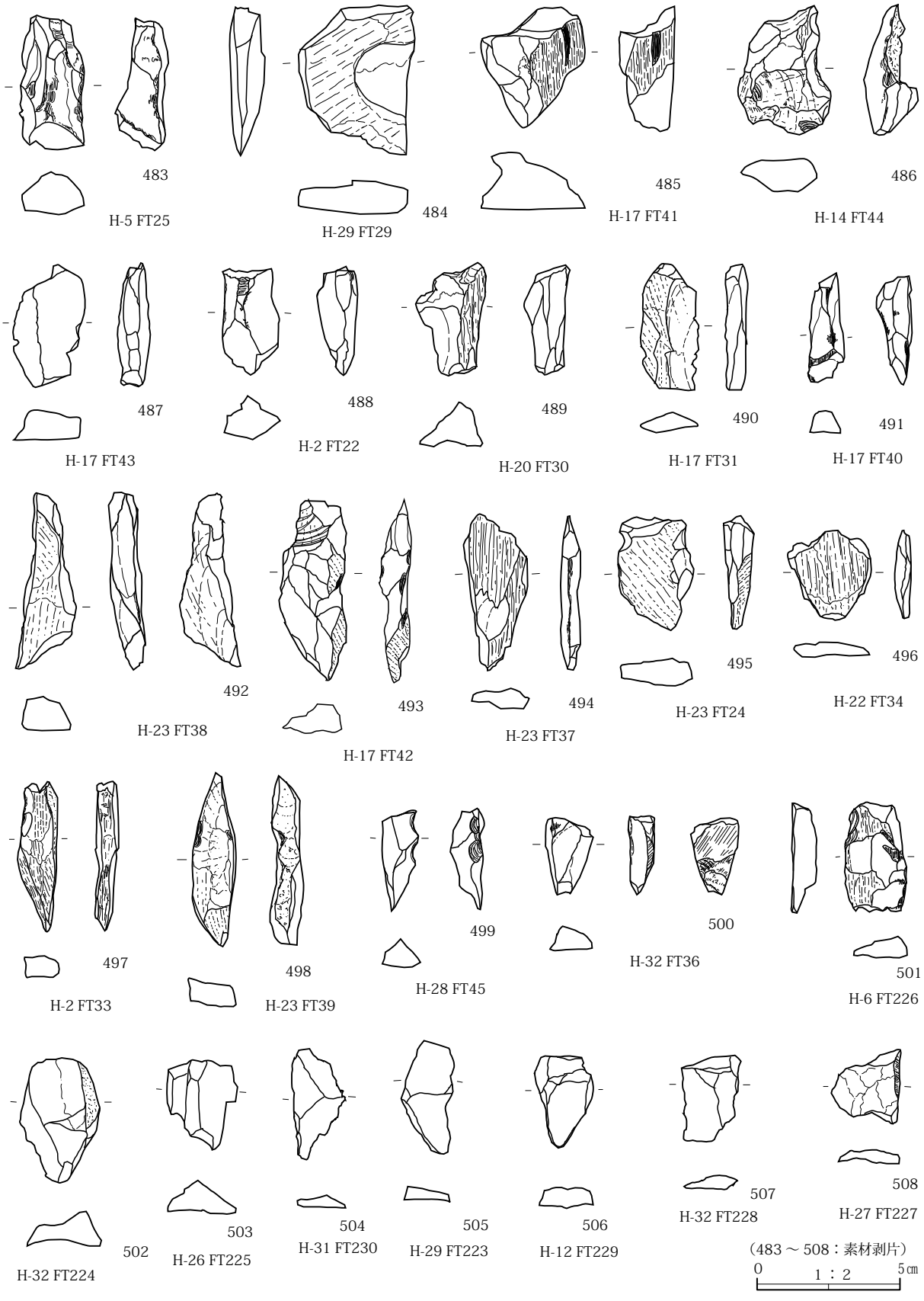
（全点 H-28 住）　（364 ～ 427：白玉）

第 639 図　人見東向原遺跡（古墳）出土石製模造品（３）

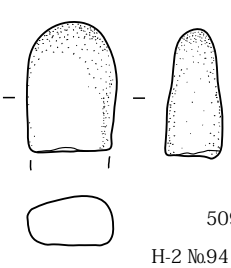
第 640 図　人見東向原遺跡（古墳）出土石製模造品（４）



第 641 図　人見東向原遺跡（古墳）出土石製模造品（５）

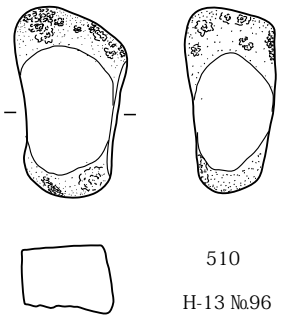


第 642 図　人見東向原遺跡（古墳）出土石製模造品（6）



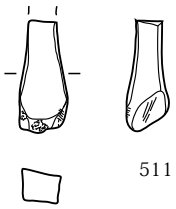
509

H-2 №94



510

H-13 №96

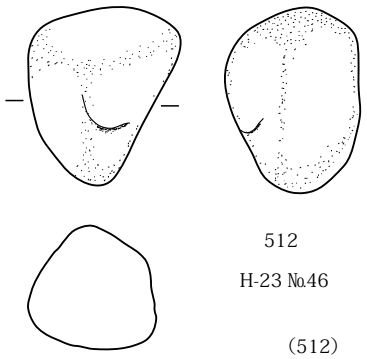


511

H-22 №97

（509 ～ 511）

0　1：6　10cm

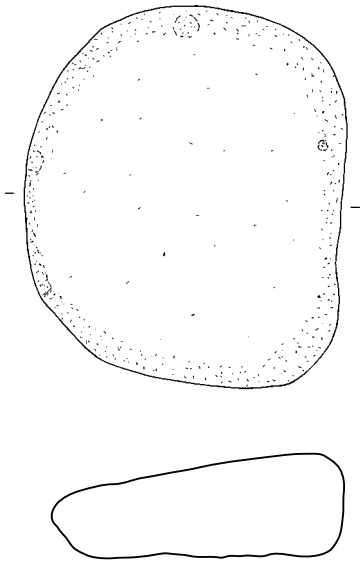


512

H-23 №46

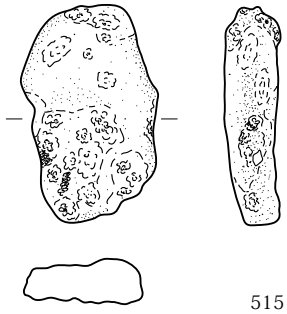
（512）

0　1：4　10cm



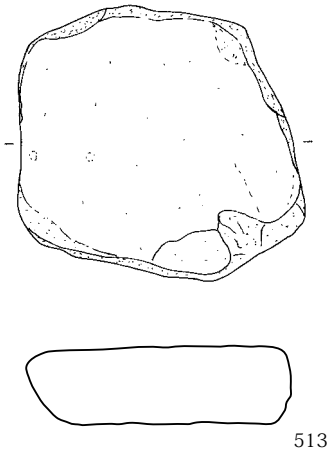
H-10 №98

514



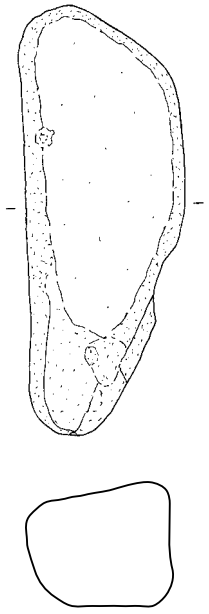
515

H-18 №44



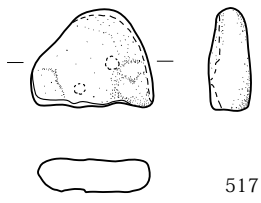
513

H-6 №47



516

H-23 №99



517

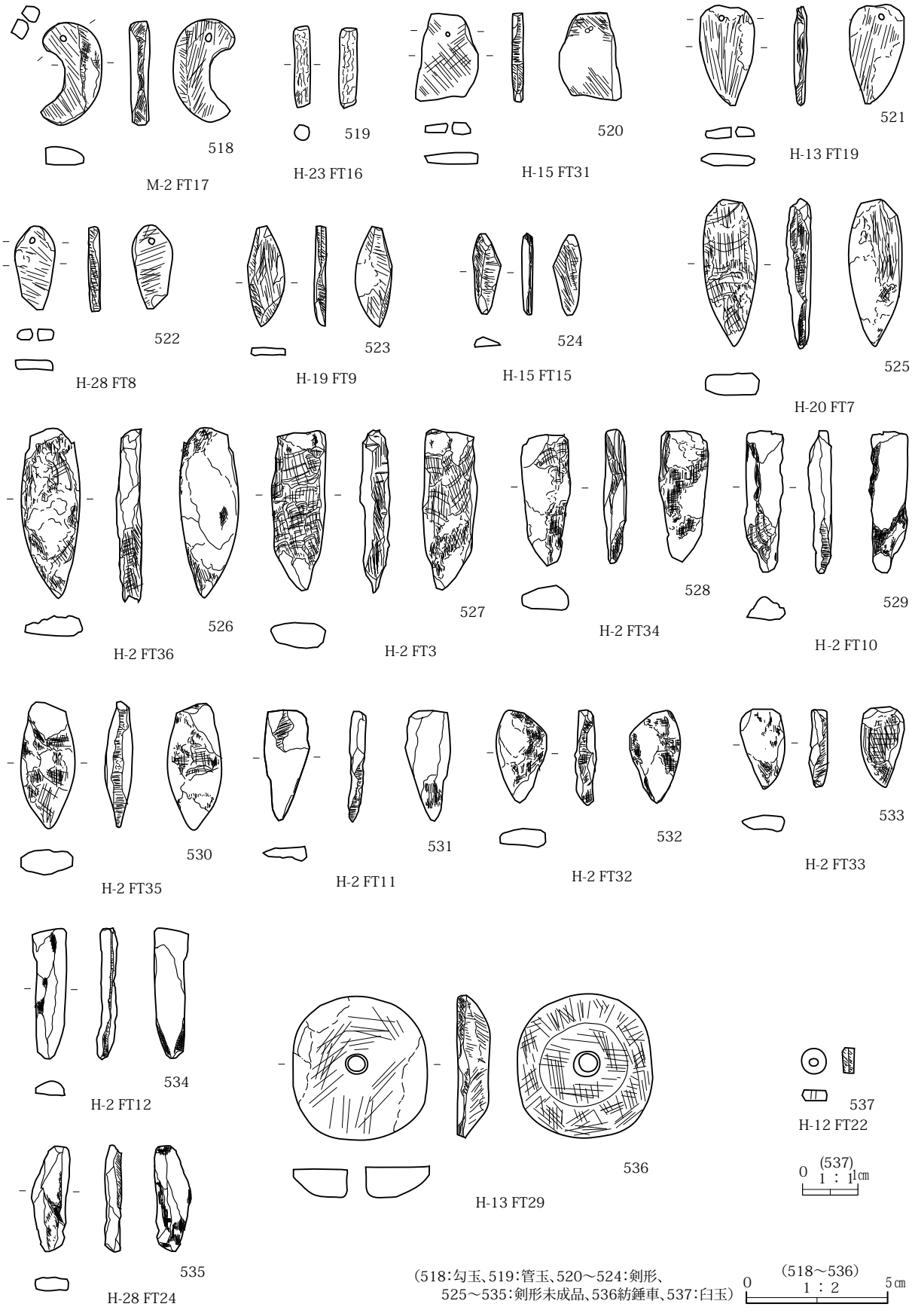
H-32 №45

（509 ～ 511：砥石、512：磨石、
513 ～ 517：台石）

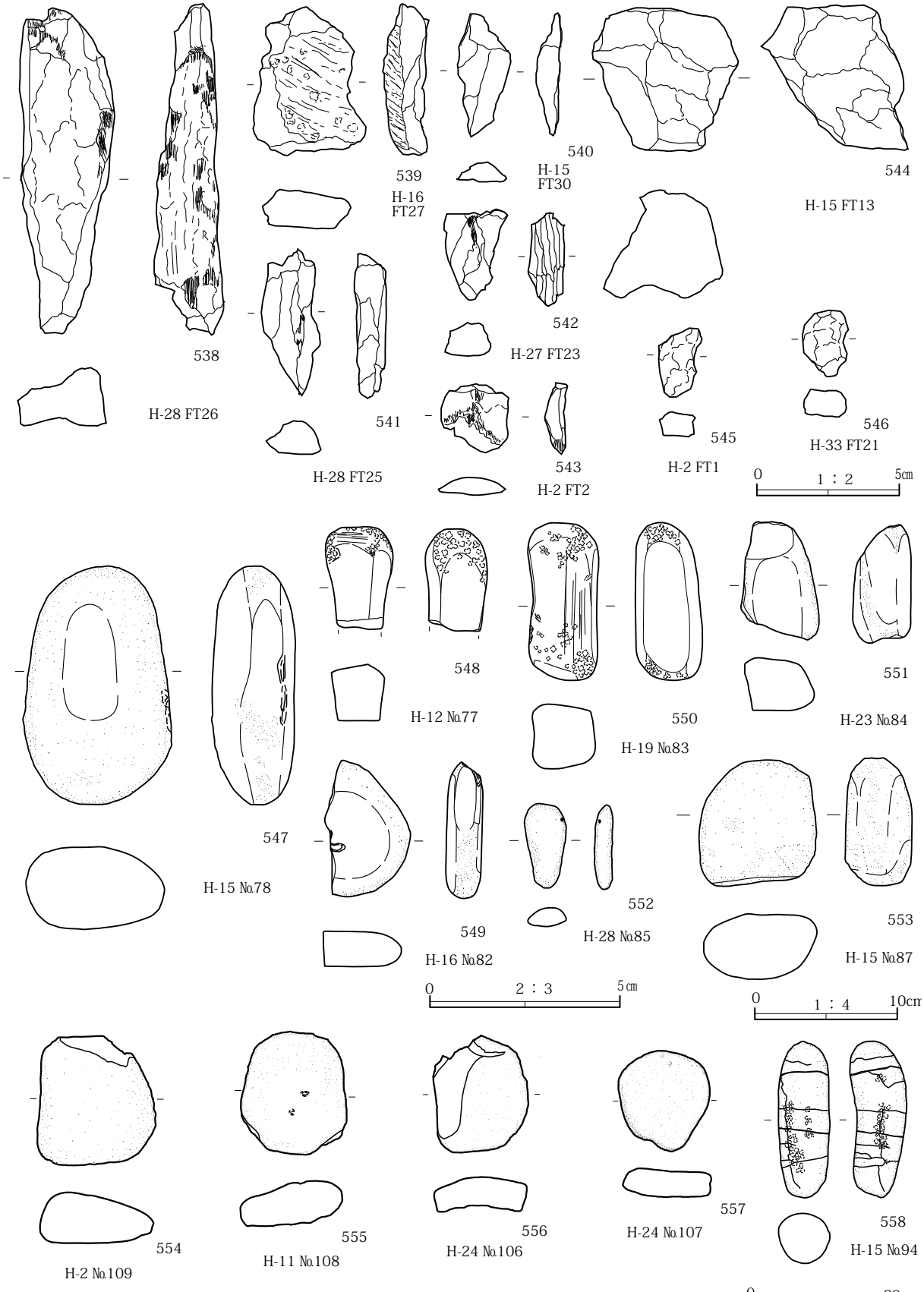
（513 ～ 517）

0　1：8　20cm

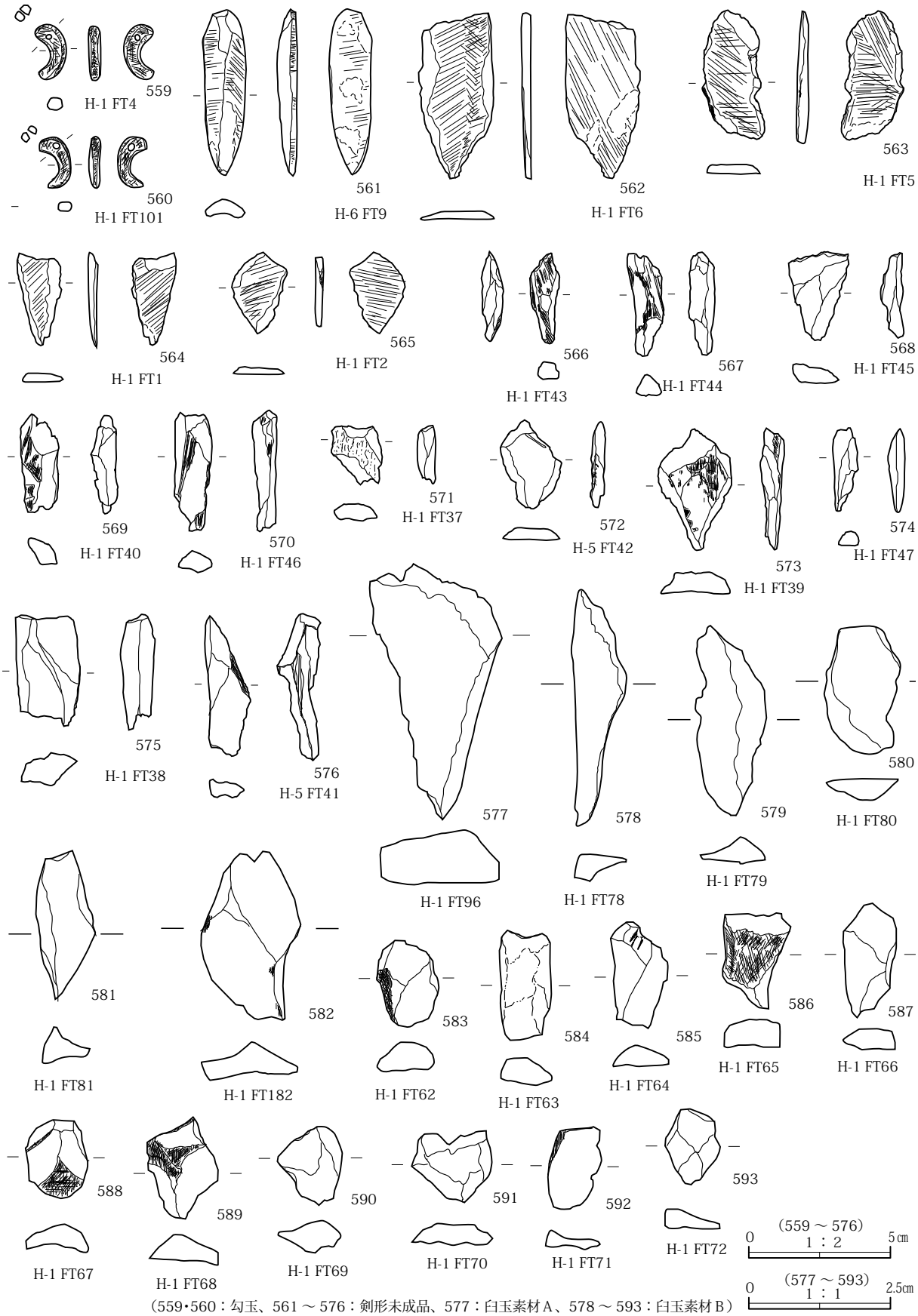
第 643 図　人見東向原遺跡（古墳）出土石器



第 644 図　人見向原遺跡（古墳）出土石製模造品（1）

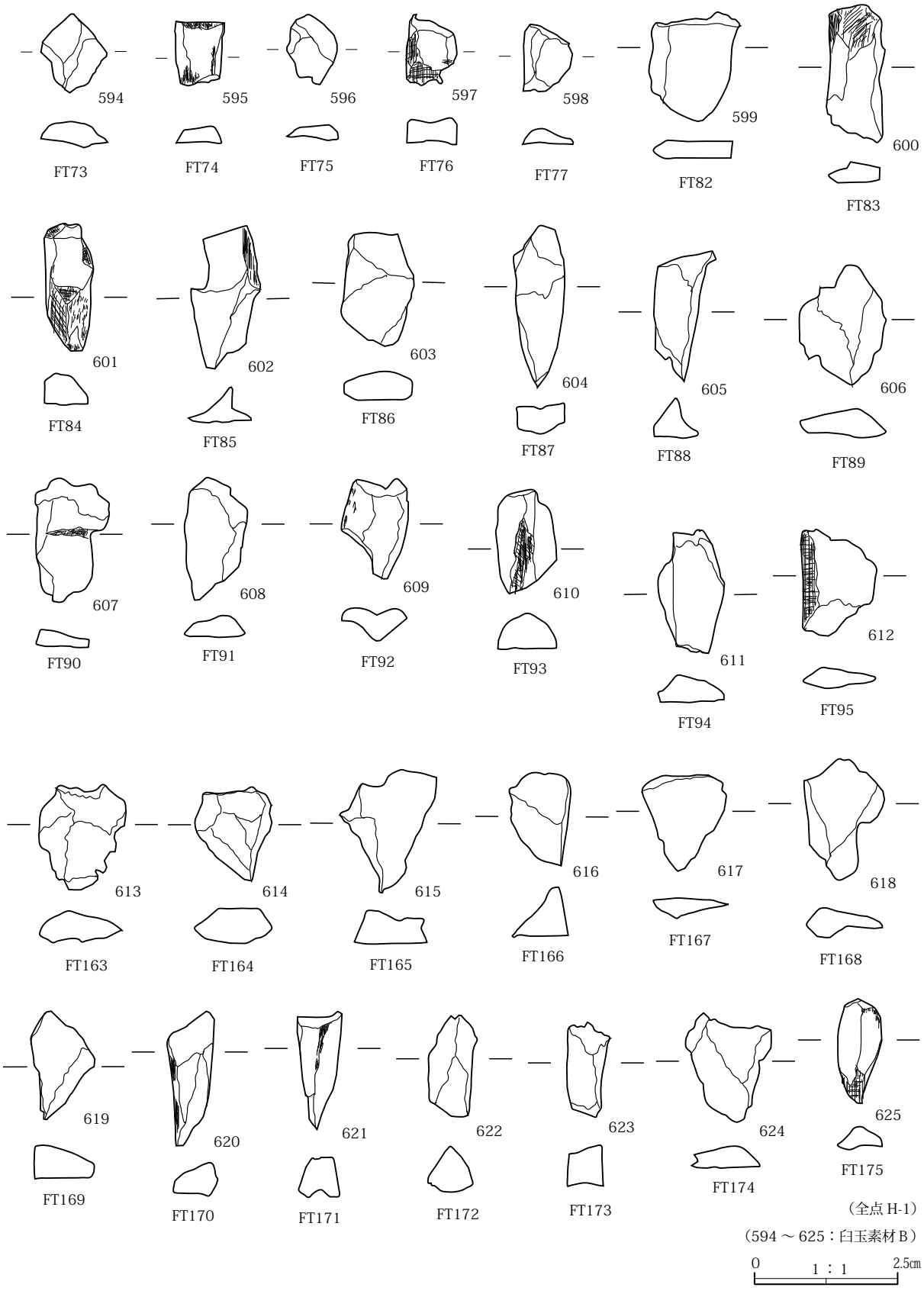


第 645 図　人見向原遺跡（古墳）出土石製模造品（２）



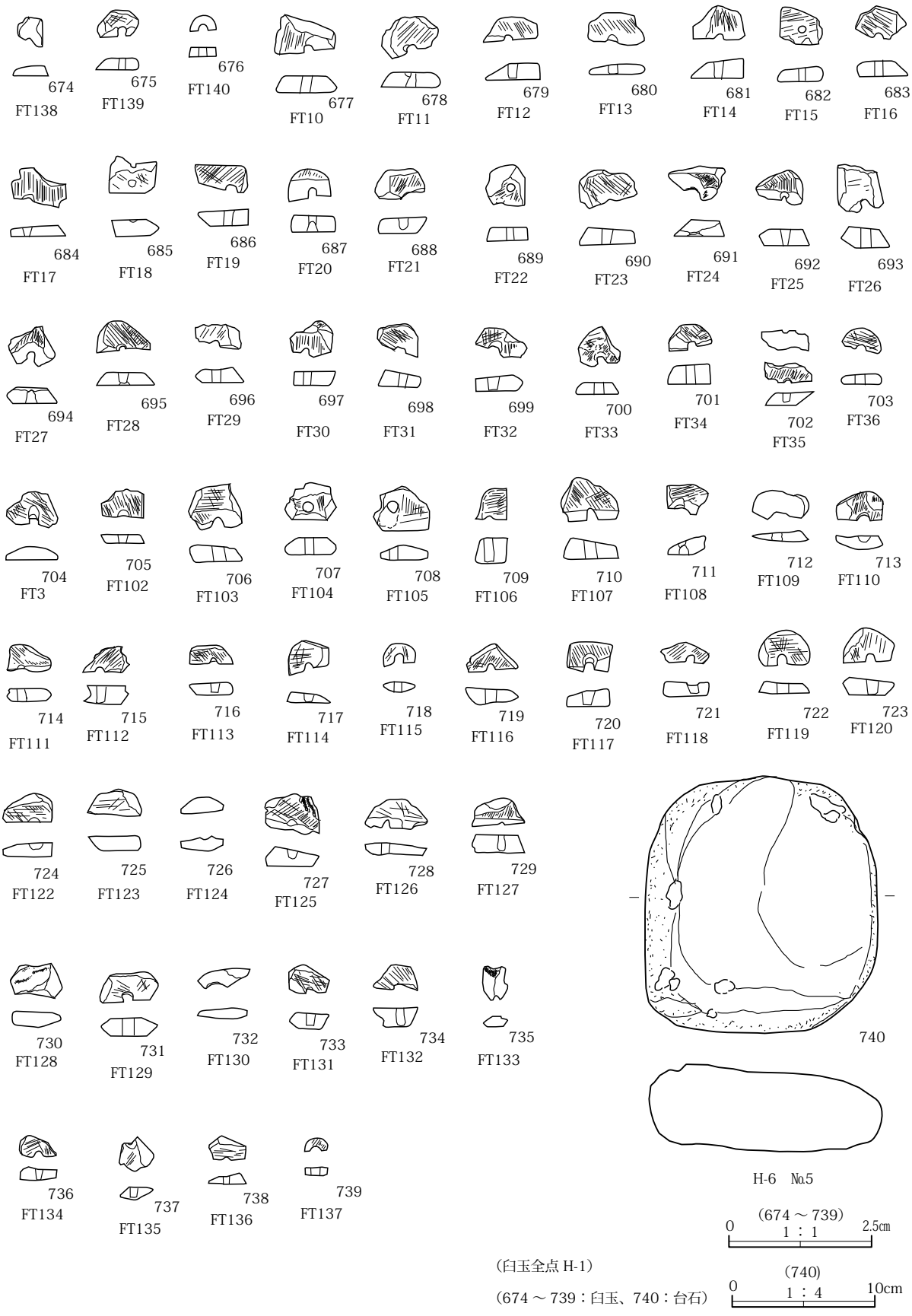
（559･560：勾玉、561 ～ 576：剣形未成品、577：臼玉素材Ａ、578 ～ 593：臼玉素材Ｂ）

第 646 図　人見西向原遺跡（古墳）出土石製模造品（１）

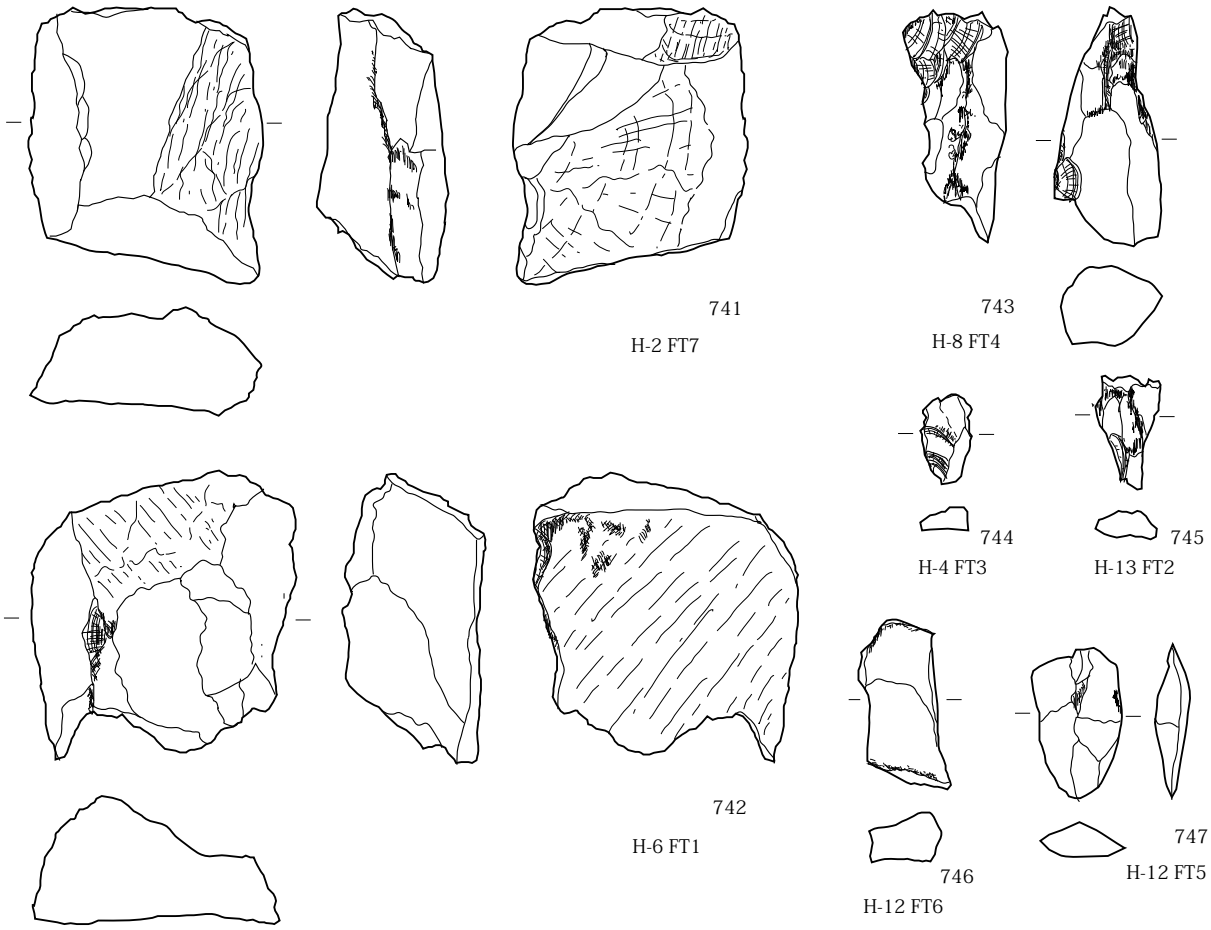


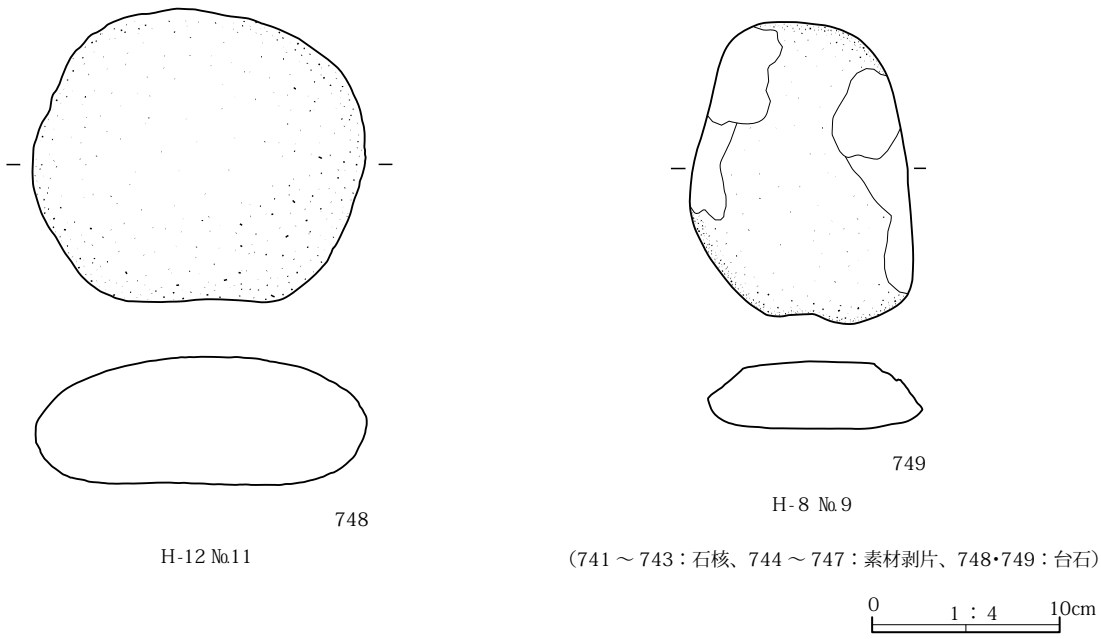
第 647 図　人見西向原遺跡（古墳）出土石製模造品（２）

第 648 図　人見西向原遺跡（古墳）出土石製模造品（３）



第 649 図　人見西向原遺跡（古墳）出土石製模造品（４）・石器





（741 ～ 743：石核、744 ～ 747：素材剥片、748･749：台石）

第 650 図　人見東中原遺跡・人見西中原遺跡（古墳）出土石製模造品・石器

（４）鉄製品　（第651～653図、観察表はデータ）

人見枝谷津遺跡（１～15、35）、人見東向原遺跡（16～25）、人見向原遺跡（26～27、34）では、中期前半（Ⅲ期）の方形鍬・鋤先（１、16）、Ｕ字形鍬・鋤先（17、18）、鉄斧（２）、鉄鏃（３、４、26）、鉄鎌（５、19～21）、刀子（６～８、22、23、27）、鉄鑿（28）、不明器種（９～13、24、25）、鉄滓（14）、土製羽口破片（15）がⅢ期の住居址から出土した。一部、Ⅰ期あるいはⅡ期の住居址覆土からの出土（１、７、10）が認められた。鉄製品の出土状態では、欠損品を主体とした住居内への廃棄である。

人見向原遺跡Ｋ－１号（終末期）では、鉄刀（29）が１点出土した。金銅製留め金が２か所が残存し、木が付着することから、鞘に収められた状態であったと推定される。人見枝谷津遺跡Ｍ－２号では、３分割された鉄刀の一部（30）が出土した。単独出土のため帰属時期は不明である（中期ではない）。

中期前半の鍬・鋤先（農具）については、古墳の副葬品が中心で住居からの出土例は少ない。県内では、４遺跡７点が確認されている（小島敦子2003『荒砥宮田遺跡Ⅰ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団）。鉄製鍬・鋤先は、中期以降に方形からＵ字形へ転換するとされる（小島2003）が、人見東向原遺跡Ｈ－32号では、農具を主体として鉄鎌３点、不明器種の他、３層（床直）から、方形とＵ字形の共伴関係が認められた。なお、加賀塚遺跡では、中期後半の方形鍬・鋤先が３点、国衙下辻遺跡では、中期前半のＵ字形鍬・鋤先が１点出土している。

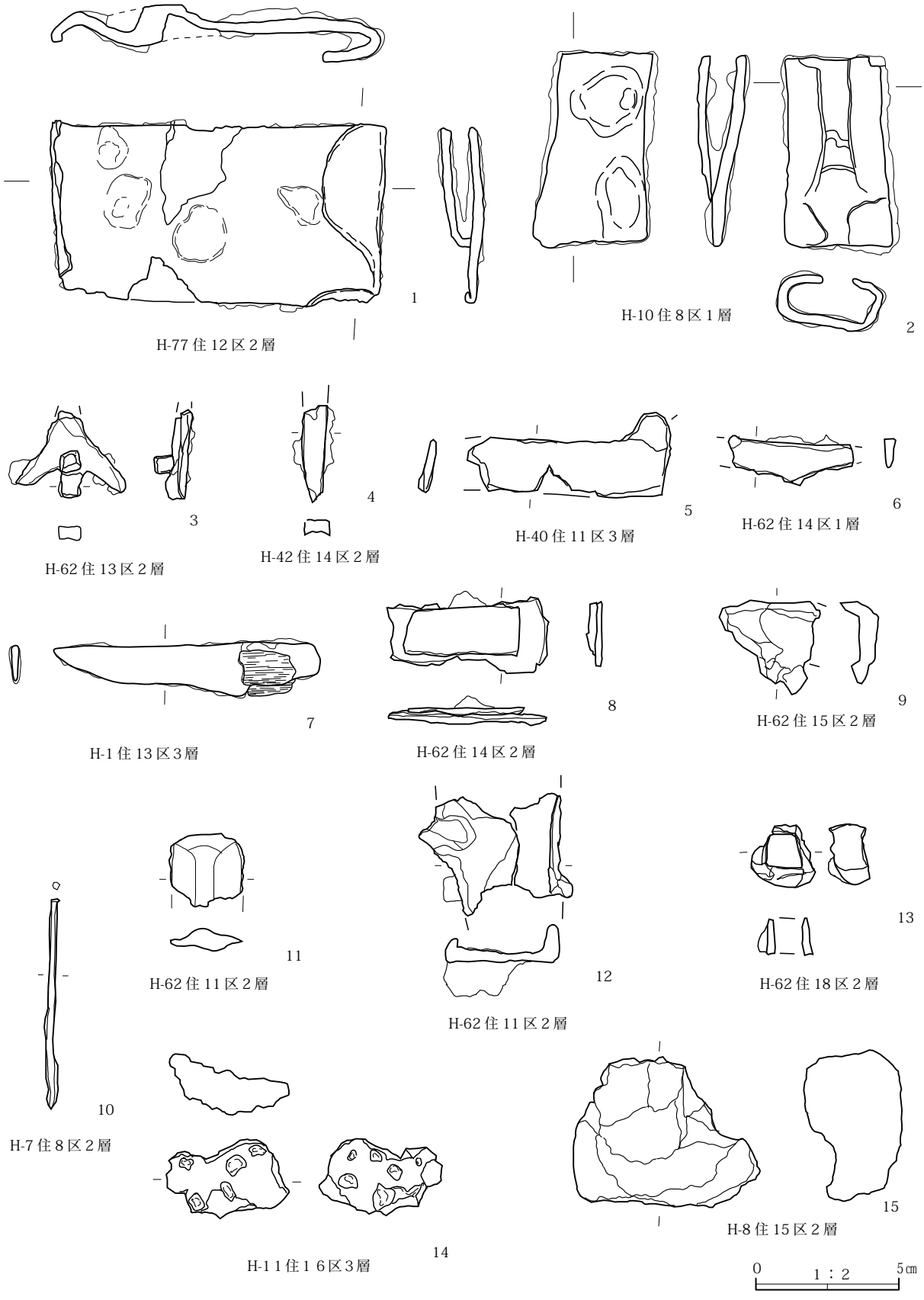
人見枝谷津遺跡Ｈ－62号では、鉄鏃、刀子、不明器種が集中して出土した。同遺跡Ｈ－11号から、鉄滓（14）１点が出土しているのみで、積極的な鍛冶活動は遺物（高坏転用羽口、多数の鉄滓）、遺構（炉跡）からは認められななかった。人見向原遺跡では、鉄製品は少ないが鑿状の工具が出土した。

同時期（Ⅲ期）の鉄製品及び鍛冶関連遺構は、上丹生屋敷山遺跡（富岡市）、加賀塚遺跡の集落で確認されており、本格的な鉄生産の開始がうかがえられる。上丹生屋敷山遺跡では、全国的にも少ない短冊状の鉄鋌が出土し、この地域における鉄の搬入と目的を象徴している。

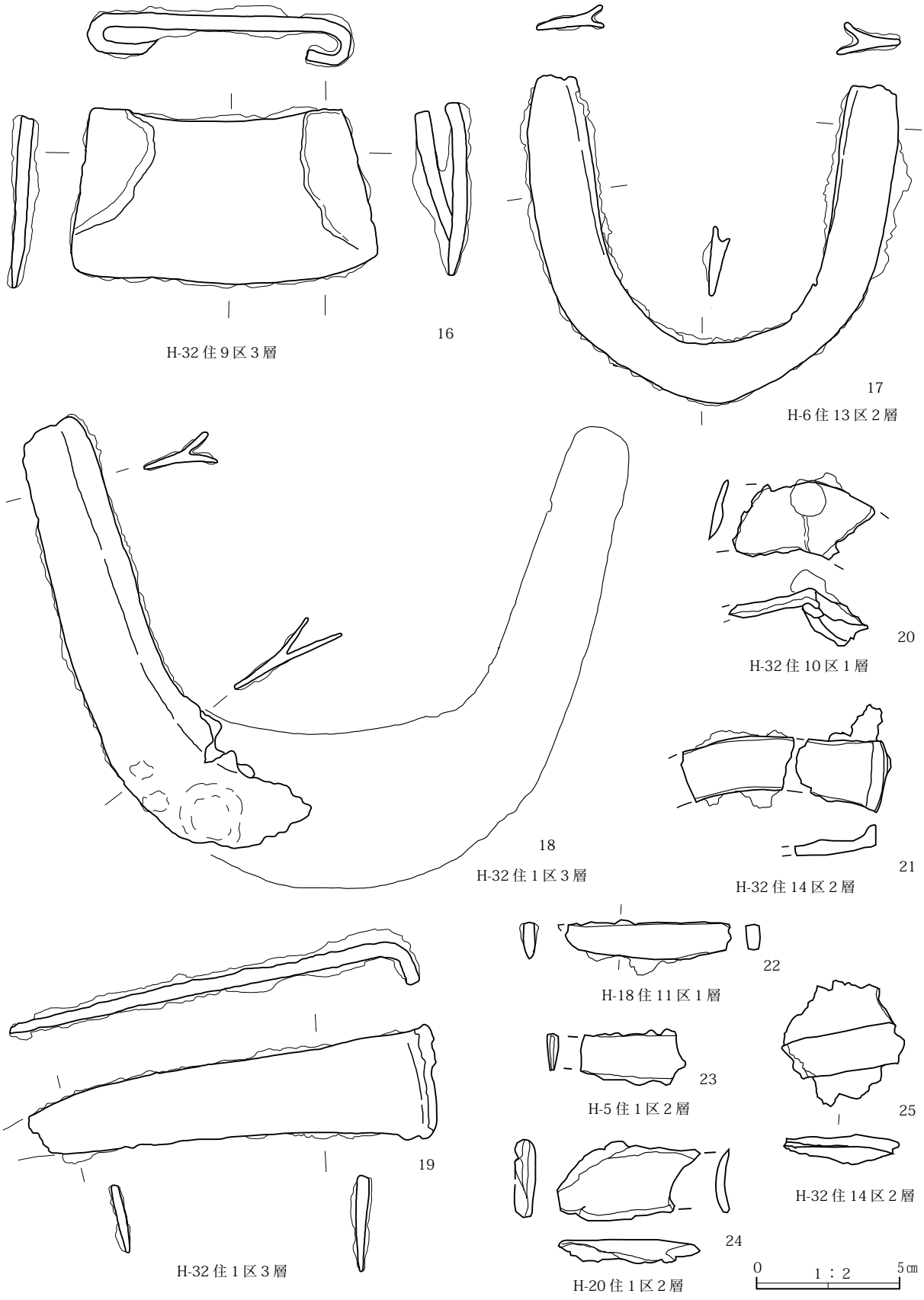
（５）玉類（第653図、観察表はデータ）

人見枝谷津遺跡では、中期前半の住居址覆土からガラス製小玉が４点出土した。大きさは直径３～５㎜、厚さ２～４㎜である。石製の臼玉と形態が類似する。全て透明度が高く、色調で青紫色（31）、群青色（32）、水色（33、34）に分類される。

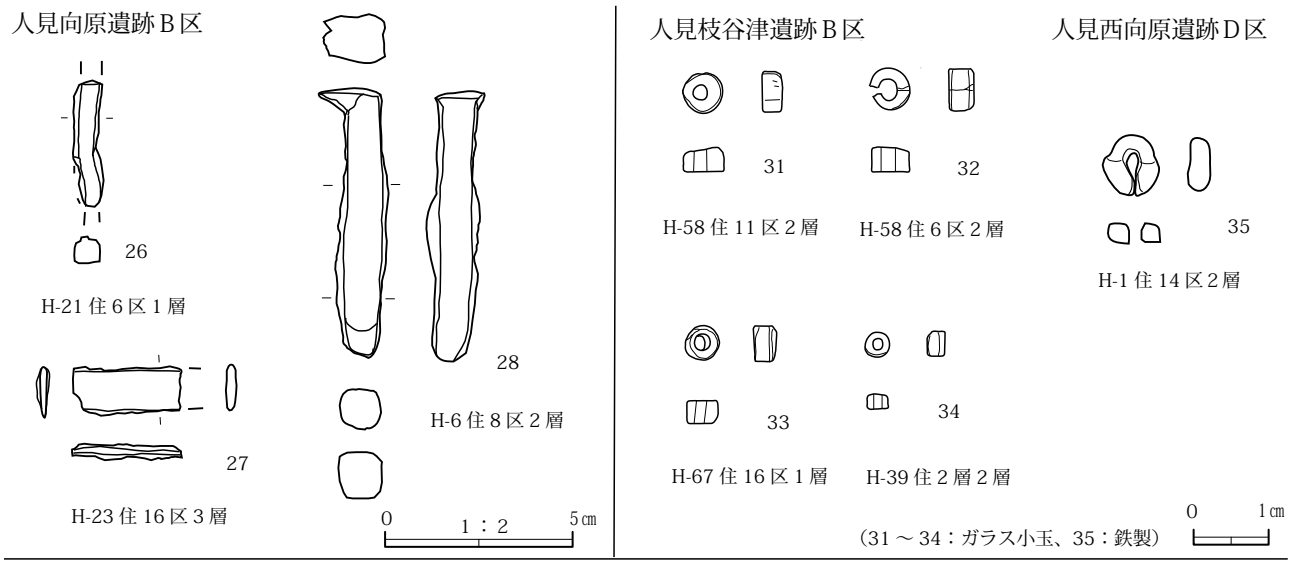
人見西向原遺跡では、中期前半のＨ－１号から鉄製の玉（35）が出土した。色調は銀色である。中央から折り曲げて環状としている。

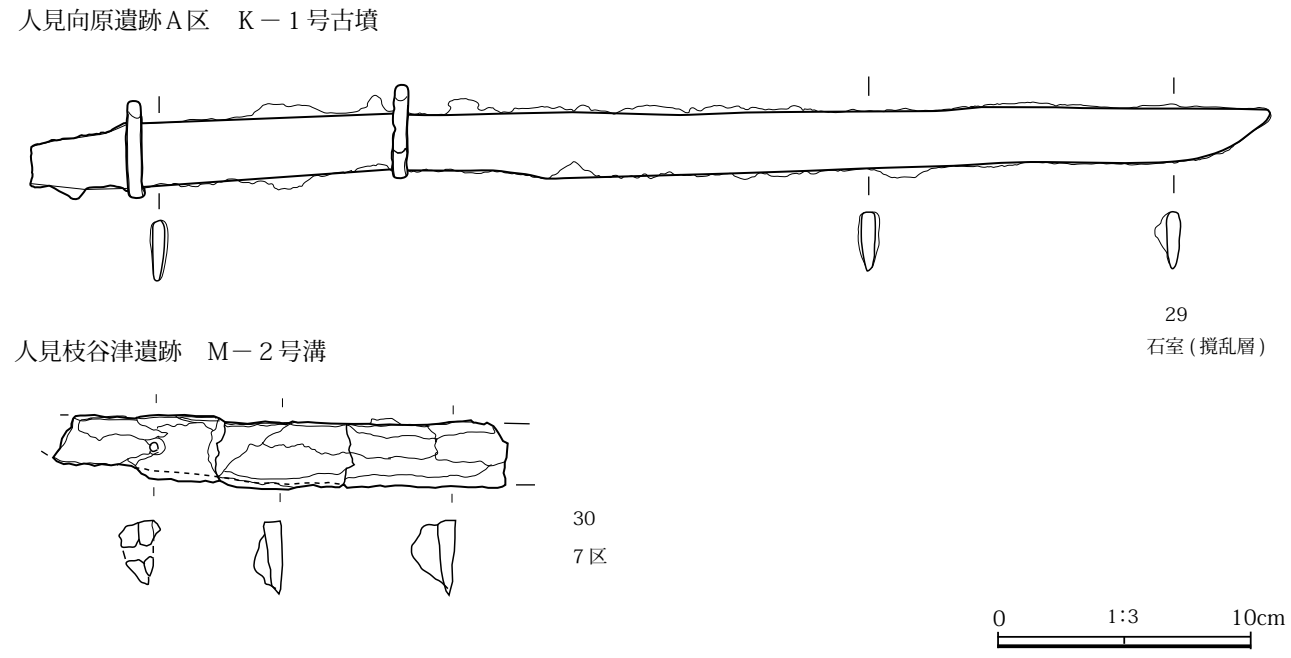


第 651 図　人見枝谷津遺跡（古墳）出土鉄製品



第 652 図　人見東向原遺跡（古墳）出土鉄製品





第 653 図　人見向原遺跡・人見枝谷津遺跡・人見西向原遺跡（古墳）出土鉄製品・玉類

5　古代の遺物（第654～664図）

（1）土師器・須恵器（第654～662図、第89～93表）

本遺跡群では、3時期（8世紀前半、9世紀前半、10世紀後半）の土器群が出土した（1～111）。特に10世紀後半の土器群は、質量とも充実している。富岡市調査区でも同時期の土器群が出土した。

8世紀前半の土器は、人見本村遺跡でⅠ期の一括資料が出土した。土師器坏2点では、内面から漆状付着物を検出した。須恵器では、「かえり」の付く蓋が出土した。人見枝谷津遺跡では、Ⅱ期の蓋、坏等が出土した。「十」の線刻をもつ土師器坏が出土した。

9世紀前半の土器は住居址と、溝覆土で少数出土した。土器は、平底の坏、「コ」の字口縁の甕である。甕の器幅は薄い。

10世紀後半～11世紀前の土器は、住居址で出土した。酸化焔焼成須恵器を主体とする土器群である。土師質土器は、内面にタール状の黒色付着物があり灯明皿の可能性がある。また、灰釉陶器皿は上半部に釉が施される。羽釜は、縦に篦削り整形を施す「月夜野型」、轆轤整形後に胴下半を篦削りする「吉井型」の共伴が認められた。

M－1号（大溝）では、覆土内から8世紀前半、9世紀後半、10世紀後半～11世紀初頭の土器が少数出土した。遺物の出土層位が、浅間B軽石層の下部であることから、遺構との年代の矛盾はない。土器は須恵器坏の完形品が単独で出土し、人見西向原遺跡のM－1号44・45区では、10世紀後半～11世紀初頭の土器（坏、甕、羽釜等の破片）がまとまって出土した。

M－16号出土の9世紀後半の須恵器高台付椀が出土した。M－6号では、8世紀前半の内面篦磨きの特徴をもつ浅い土師器坏が出土した。M－4号の覆土上部から8世紀前半の土師器甕片が出土した。

道路状遺構の側溝（M－2号）の覆土上部からは、8世紀前半の口唇部がやや直立する土師器甕が出土した。道路面では、9世紀以降の須恵器高台付椀の破片が出土した。

土坑出土の111は、土器の厚みが薄い8世紀前半の土師器甕、110は9世紀以降の須恵器甕である。

（2）その他の遺物（第663・664図、観察表はデータ）

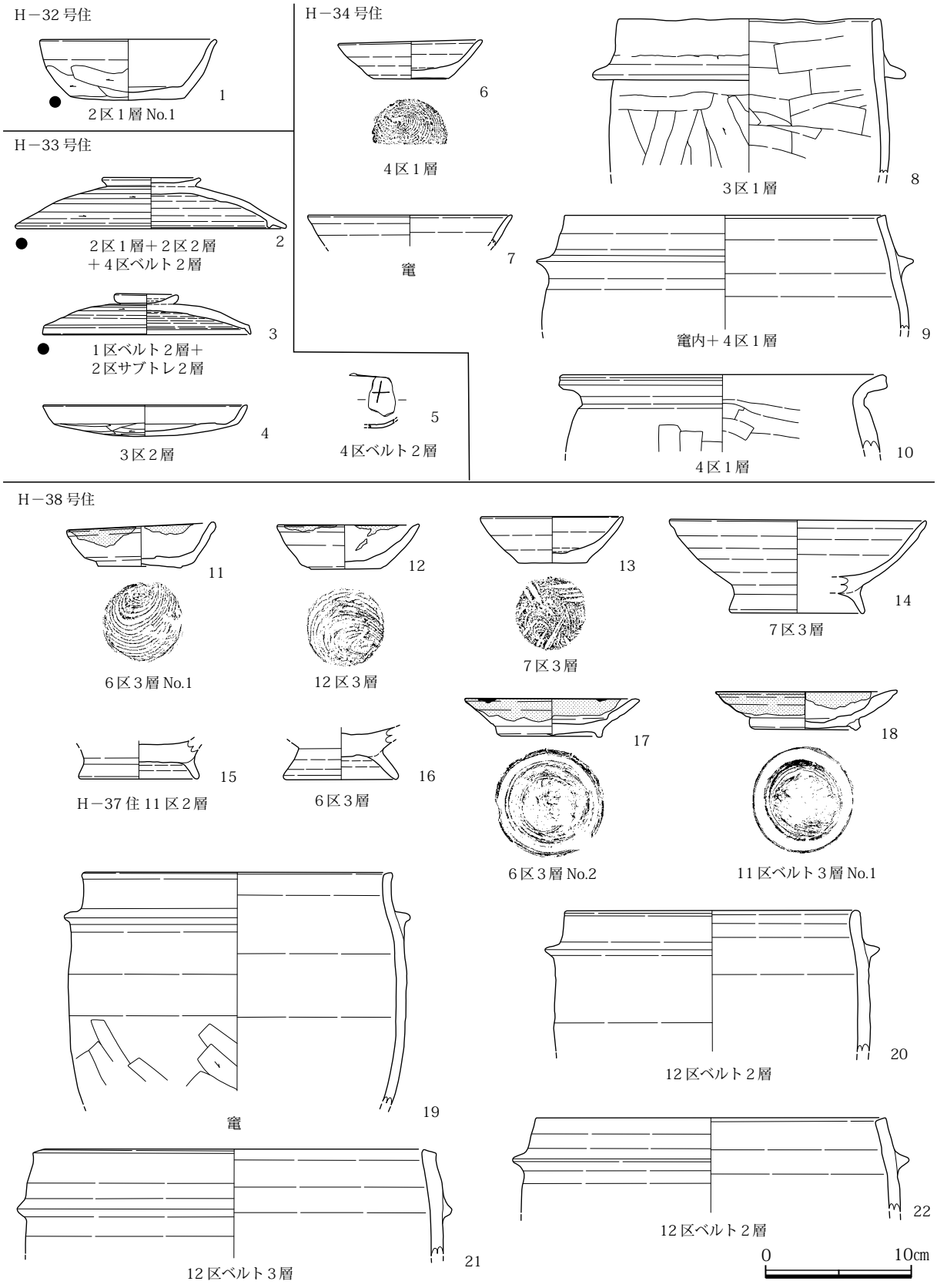
鉄製品　鉄鏃（1～4）、器種不明（5）、鉄斧（6）、鉄滓（7～9）が出土した。鉄鏃形式は、柳葉式（1）、雁又式（2、3）、長三角形式（4）に分類できる（津野仁 1990「古代・中世の鉄鏃」『物質文化』54 ）。4は鏃身の中心に茎部が接合する。津野氏の編年では、1～3は9世紀後半～11世紀前半、4は8世紀～9世紀前半であり、出土遺構の時期と概ね一致する。5は、軸部と推定されるが、突起が付く。6は、袋状鉄斧である。人見西向原遺跡の2点（4・6）以外は、人見枝谷津遺跡出土。

羽口　人見枝谷津遺跡で2点（10・11）、人見東向原遺跡で2点（12・13）出土した。

石器　14はメノウの原石、15は軽石、16・17は流紋岩製（砥沢石）砥石、5～7は安山岩製砥石、8～12は台石である。人見本村遺跡の2点（11・12）以外は、人見枝谷津遺跡出土。

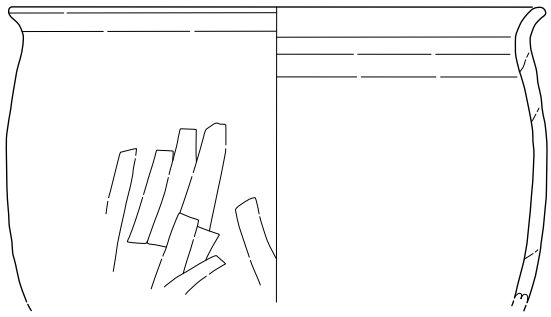
6　中世の遺物（第662図、第93表）

人見西向原遺跡M－7号から、内耳部分が欠落した土鍋の破片が出土した（112）。頸部から口縁部が外側に屈曲するもので、深めのタイプである。16世紀前半の所産である。



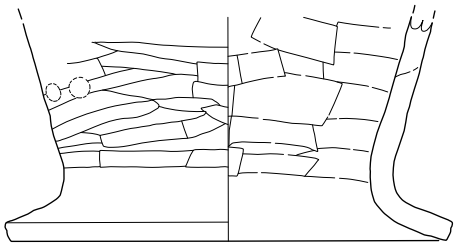
第 654 図　人見枝谷津遺跡（古代）H－ 32 ～ 34・38 号住居址出土土器

H－38 号住



23

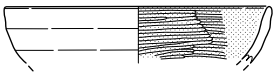
竈周辺



24

H－37 住 12 区 3 層

H－47 号住



25

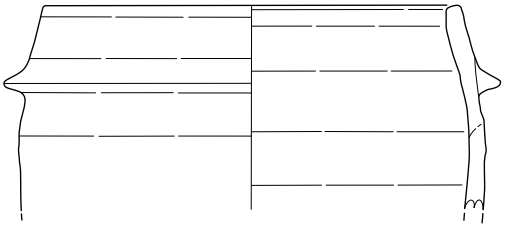
一括

26

一括

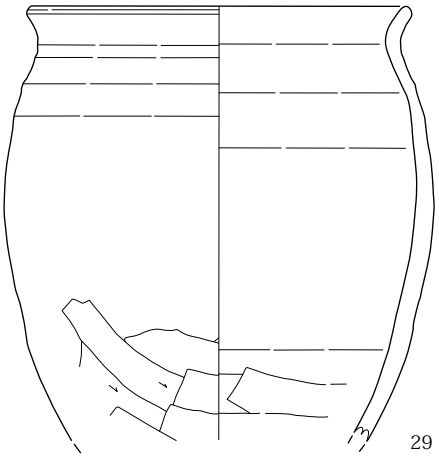
27

4 区 1 層 No.1



28

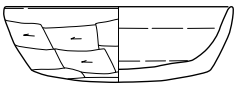
竈内



29

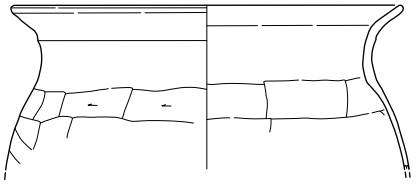
竈内

H－71 号住



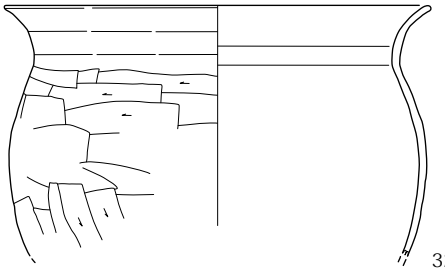
30

1 区 1 層＋竈内



31

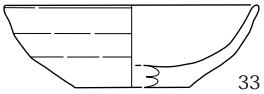
竈 No.2＋竈 No.3



32

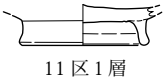
竈 NO.1＋竈 No.2

H－73 号住



33

15 区 2 層＋
15 区サブトレ 1 層



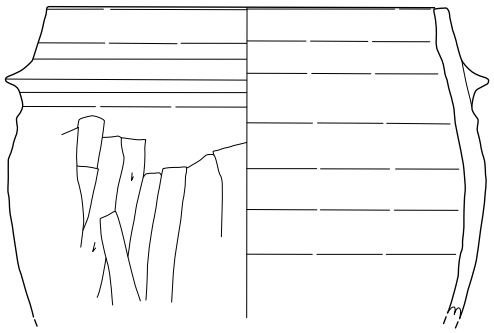
34

11 区 1 層

0　10cm

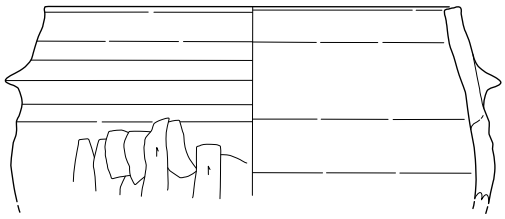
第 655 図　人見枝谷津遺跡（古代）H－ 38・47・71・73 号住居址出土土器

H－73 号住



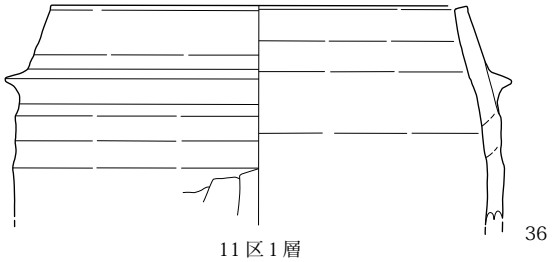
35

竈



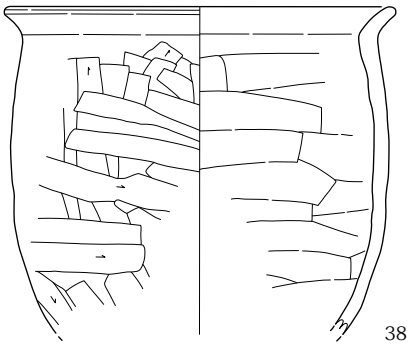
37

3区サブトレ1層



36

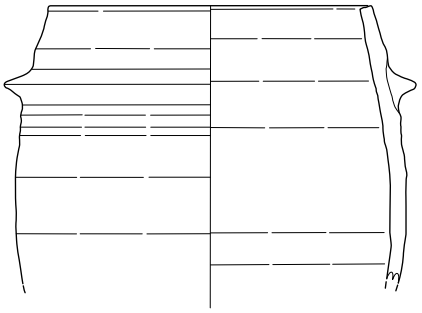
11区1層



38

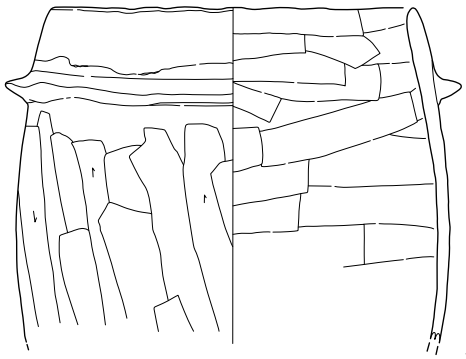
竈

H－81 号住



39

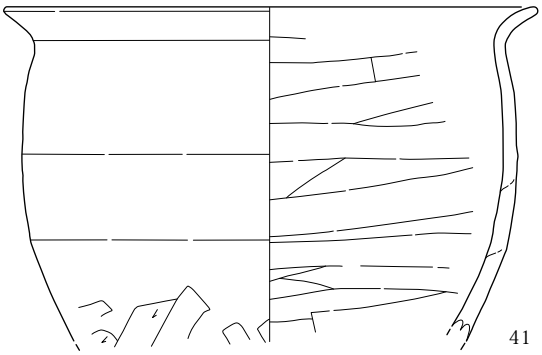
竈



40

竈

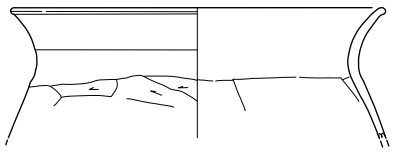
H－82 号住



41

14区ベルト1層

H－107 号住



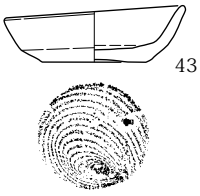
42

8区2層

0　10cm

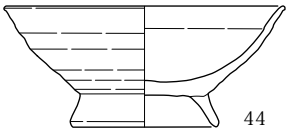
第 656 図　人見枝谷津遺跡（古代）H－ 73・81・82・107 号住居址出土土器

H－118号住



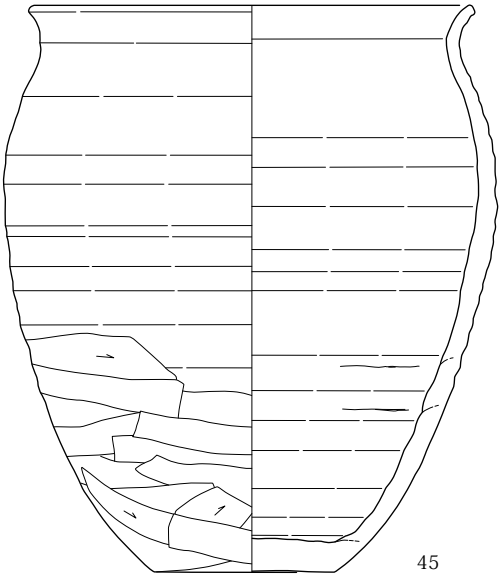
43

14区２層No.１＋14区ベルト



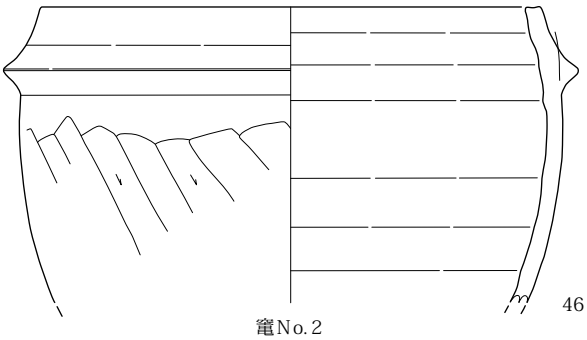
44

竈No.２＋竈内＋８区竈周



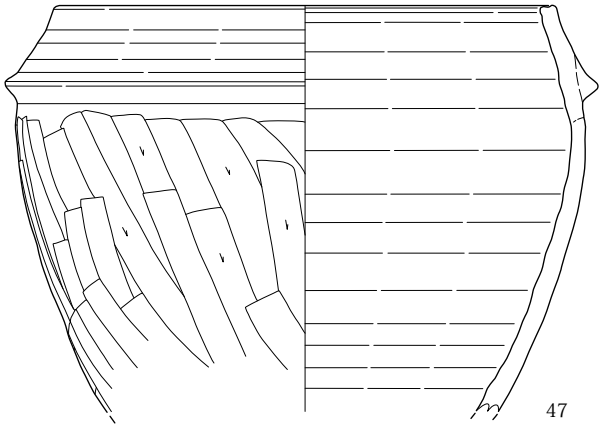
45

竈No.３＋竈No.４＋竈内



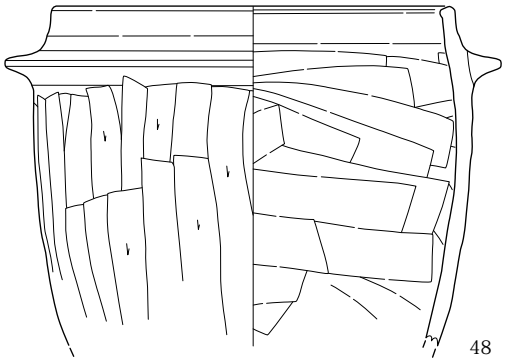
46

竈No.２



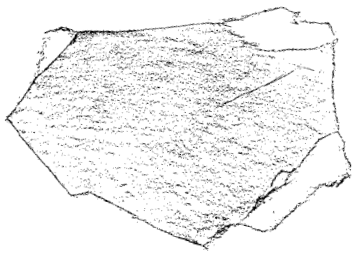
47

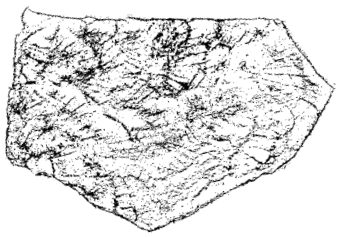
竈No.４＋竈No.５＋竈内



48

竈No.１＋竈内



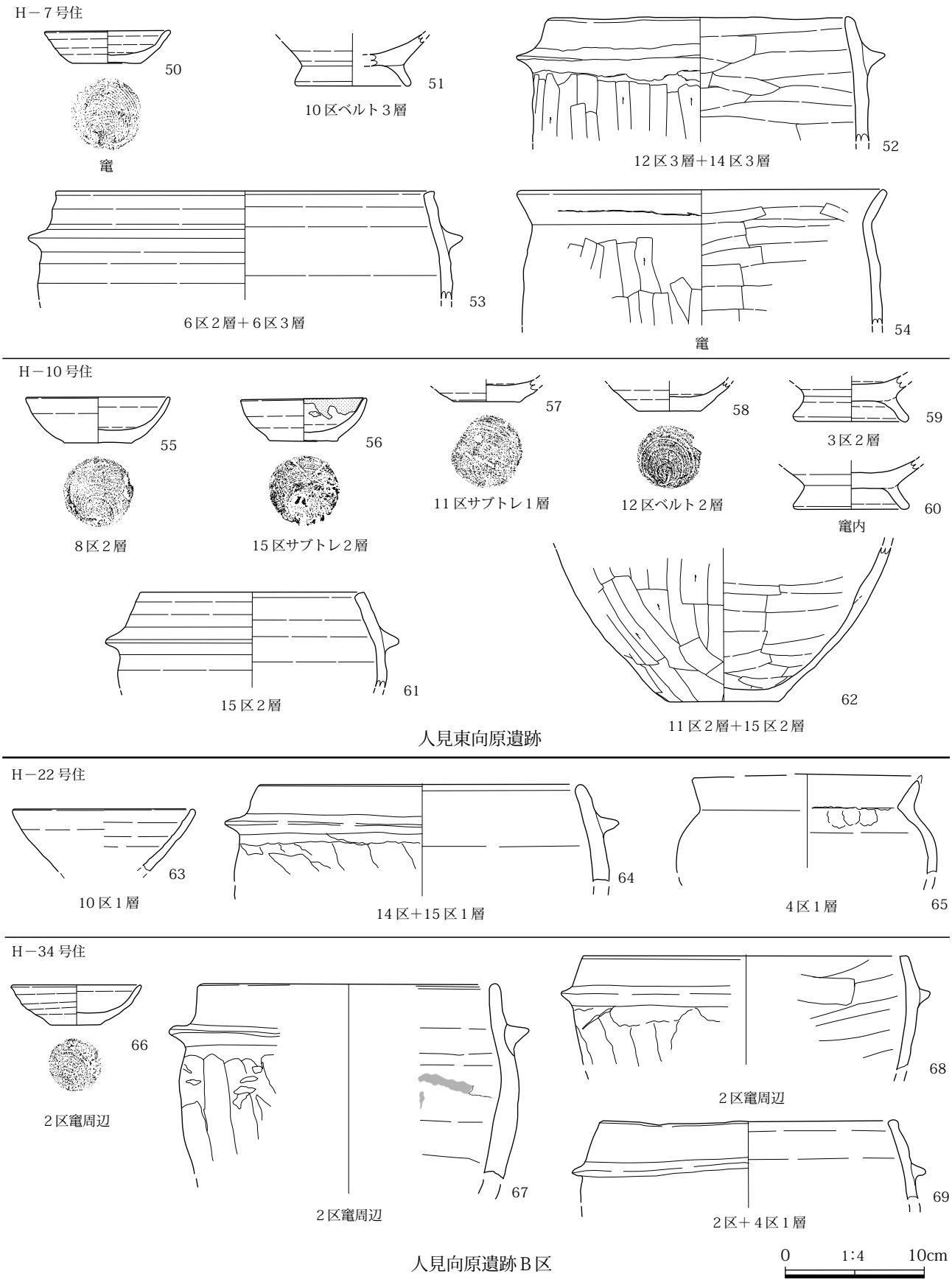


49

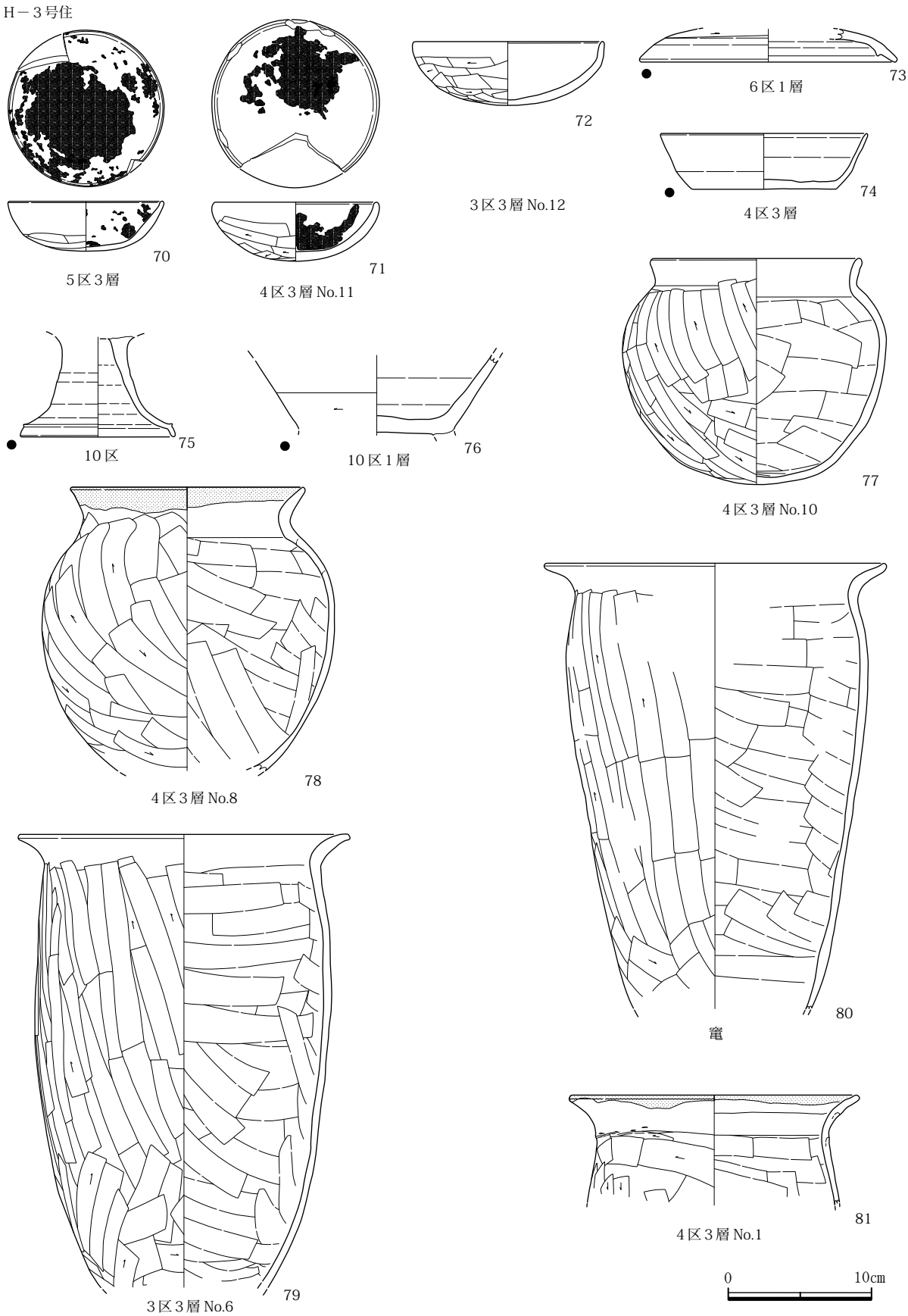
8区２層

0　10cm

第 657 図　人見枝谷津遺跡（古代）H－ 118 号住居址出土土器

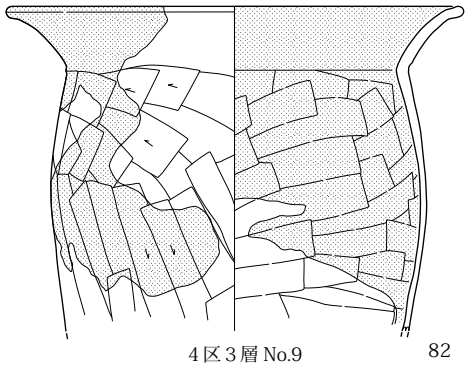


第658図　人見東向原遺跡（古代）H－7・10号住居址、人見向原遺跡（古代）H－22・34号住居址出土土器



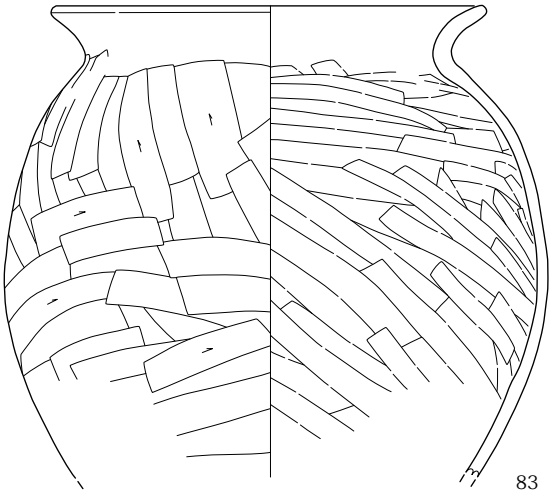
第 659 図　人見本村遺跡（古代）H－３号住居址出土土器（１）

H－３号住



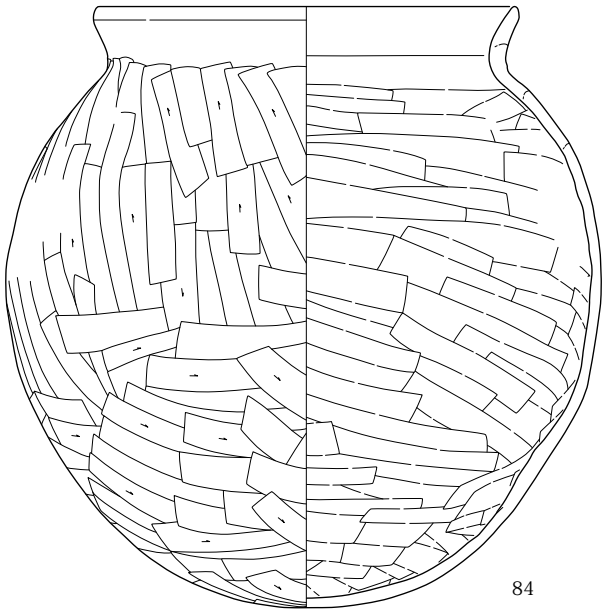
82

4区３層 No.9



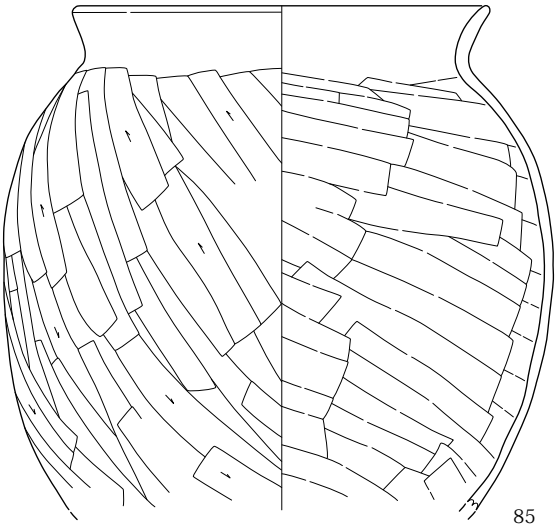
83

3区３層 No.5



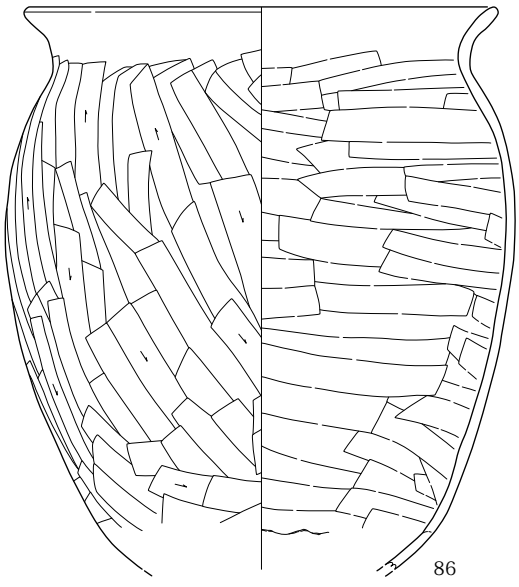
84

3区３層 No.3



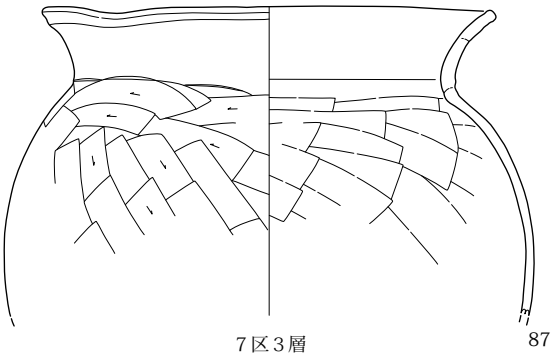
85

7区３層 No.4＋４区３層 No.2



86

6区３層 No.7＋７区３層 No.13

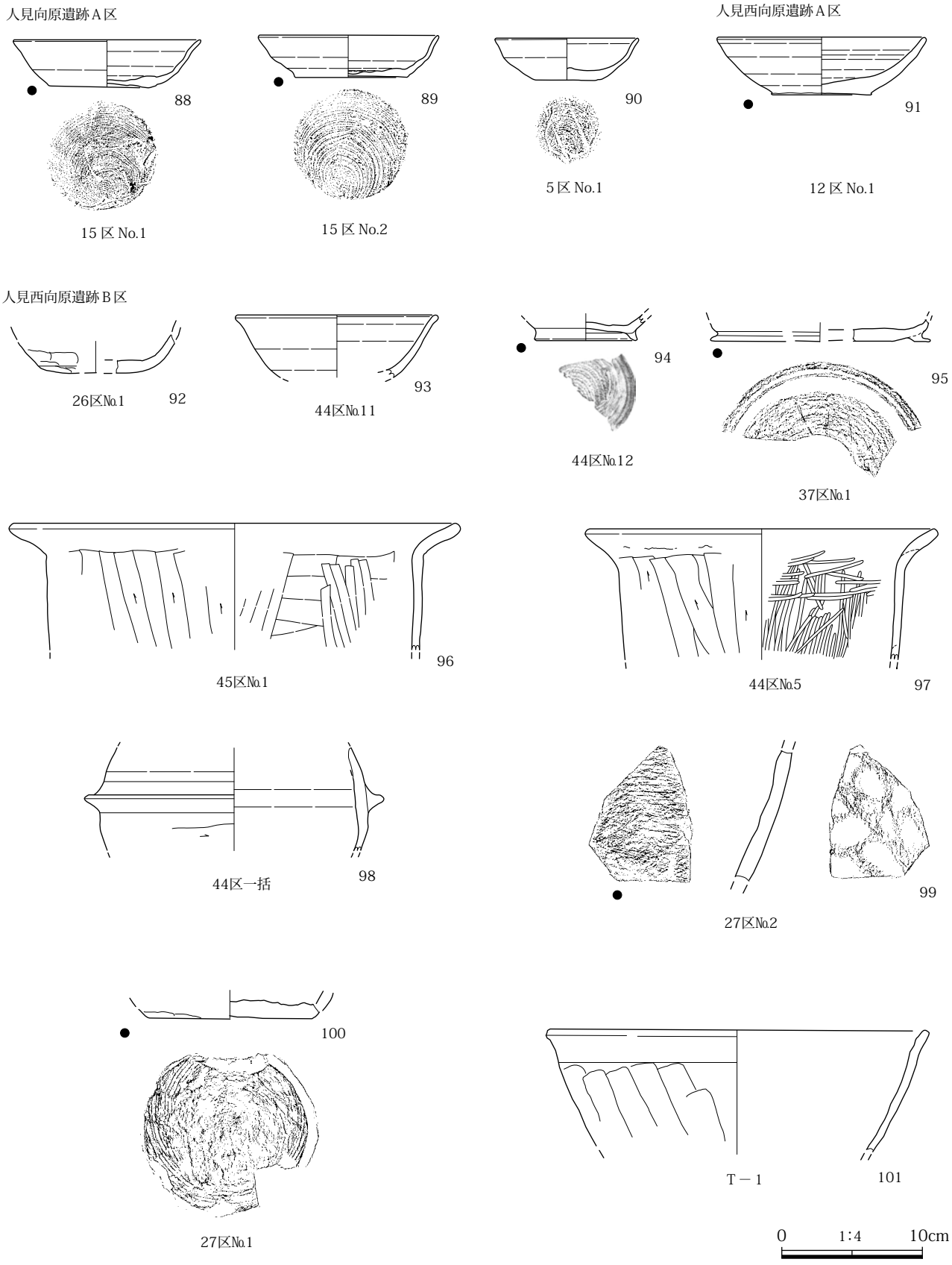


87

7区３層

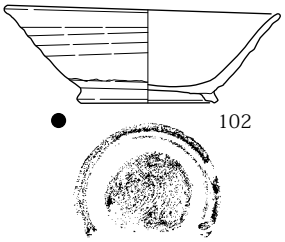
0　10cm

第 660 図　人見本村遺跡（古代）H－３号住居址出土土器（２）



第661図　M－1号溝・T－1号竪穴状遺構（古代）出土土器

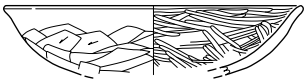
人見枝谷津遺跡Ｃ区



102

M-16　9区№1

人見西向原Ｅ区



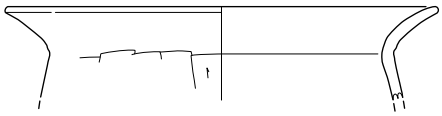
103

M-6　5区№1

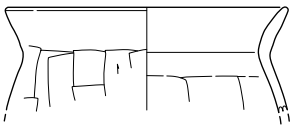
人見西中原遺跡

104

M-4(3C杭)



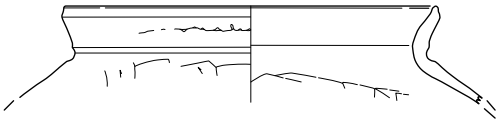
M-4　5区№2　105



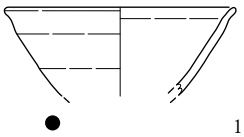
M-4(5区)　106

小区画溝

人見西中原遺跡

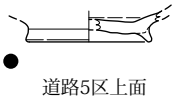


M-2　3区№1　107



108

M-2(5区上面)



道路5区上面　109

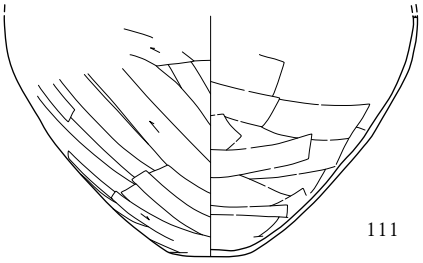
道路状遺構

人見枝谷津遺跡

110

D-34

人見東中原遺跡

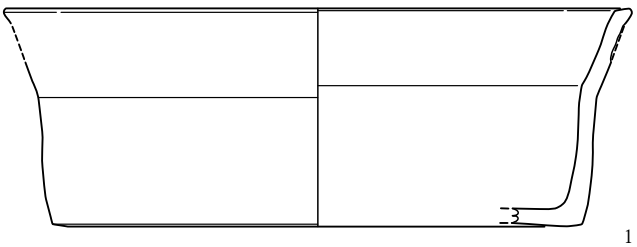


111

D-16

土坑

人見西向原遺跡Ｂ区

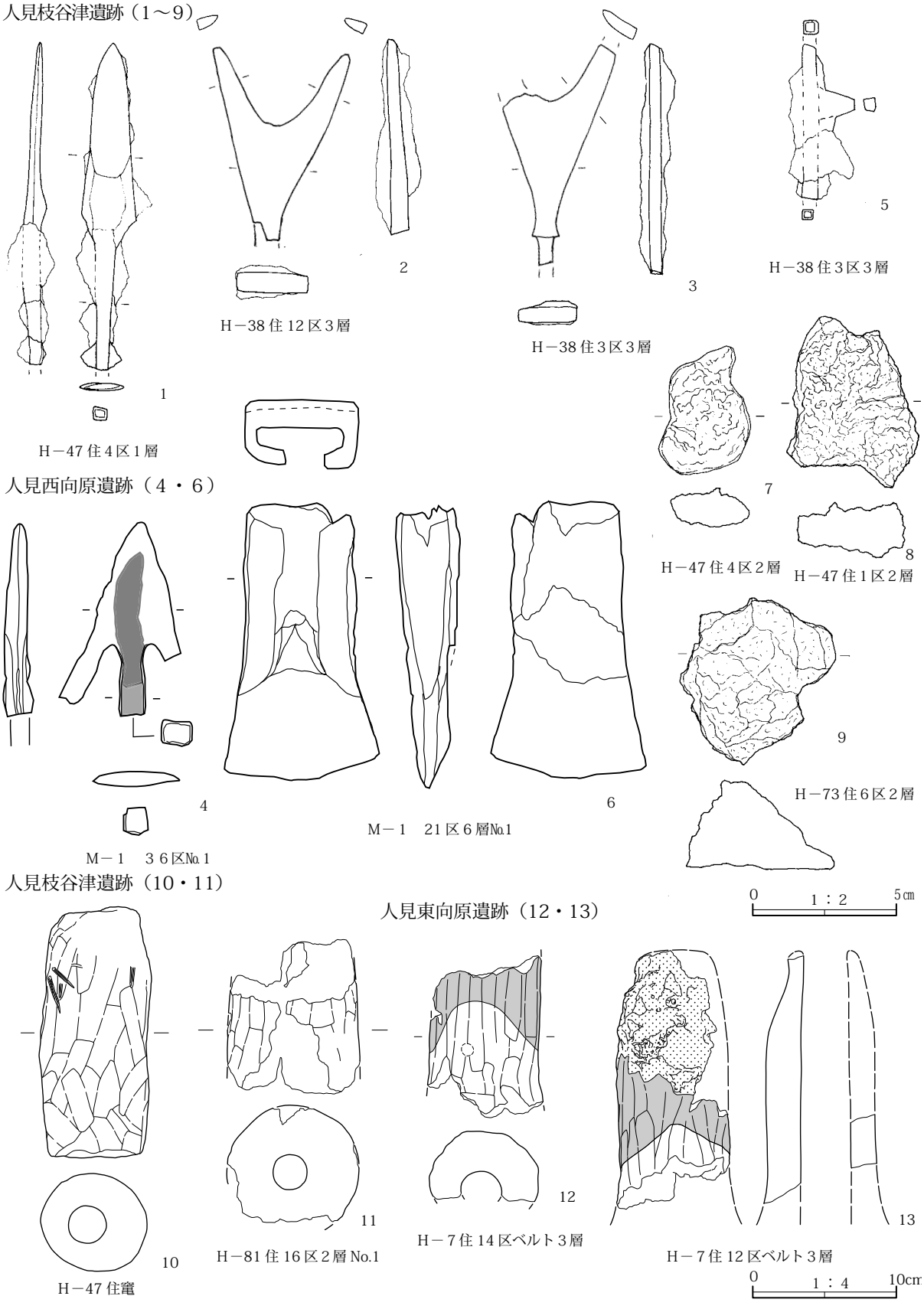


112

M-7

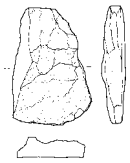
0　1:4　10cm

第 662 図　古代の道路状遺構・溝・土坑出土土器



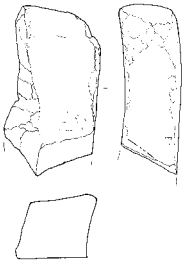
第 663 図　人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡（古代）出土鉄製品・羽口

人見枝谷津遺跡



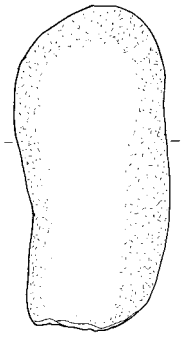
1

H－32 住2区1層



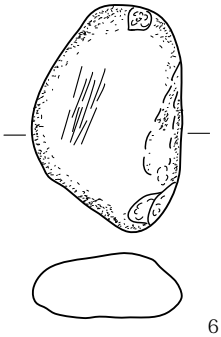
3

H－47 住1区2層



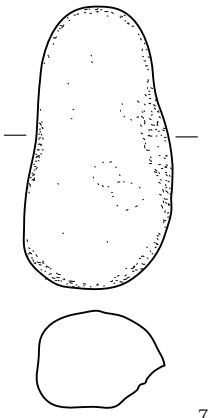
5

H－81 住 14 区2層



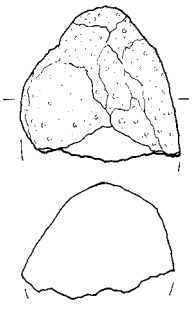
6

H－114 住2区1層



7

H－1 18 住竈内

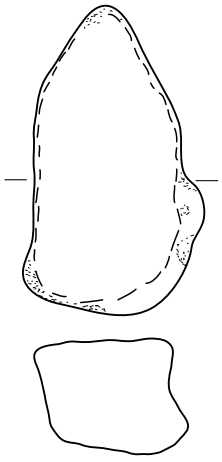


2

H－81 住6区2層

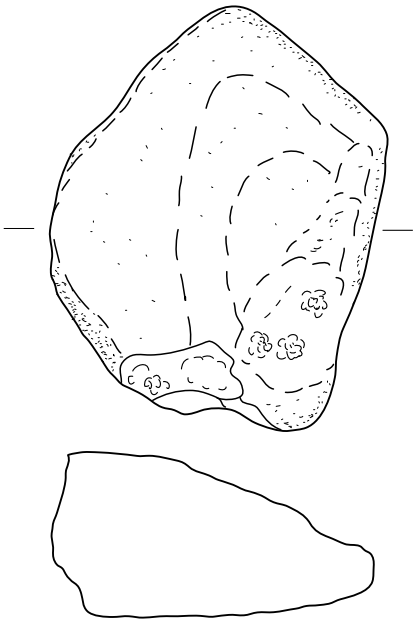
4

H－47 住4区2層



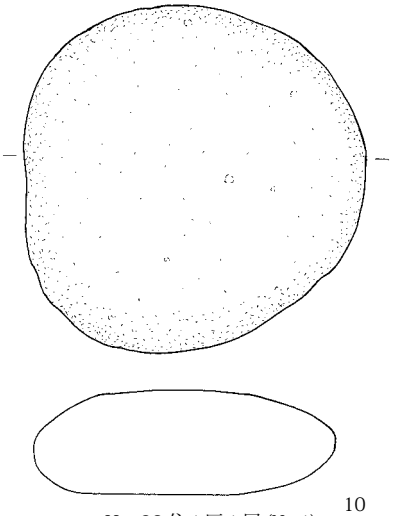
8

H－118 住3区2層



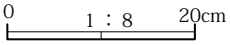
9

H－114 住5区1層



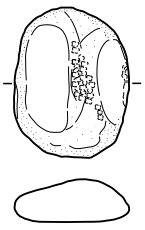
10

H－32 住1区1層 (No.1)



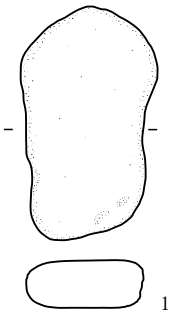
0　1：8　20cm

人見本村遺跡



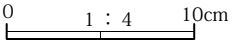
11

H-3住10区3層№3



12

H-3住8区3層№1



0　1：4　10cm

第 664 図　人見枝谷津遺跡・人見本村遺跡（古代）出土石器

第67表　人見東原Ⅱ遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-1住炉№1	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部 口縁部4/5欠	平縁口縁。口縁部文様帯は隆帯により楕円・渦巻状に区画され、区画内に単節ＲＬ縄文施文後隆帯に沿った幅広沈線を施す。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後縦位の幅広沈線が施され、沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
2	J-1住1区1層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端1/4	平縁口縁。口縁部文様帯は隆帯により大小の楕円状に区画され、区画内に単節ＬＲ縄文施文後隆帯に沿った幅広沈線が施される。胴部文様帯は単節ＬＲ縄文施文後逆「Ｕ」字状の幅広沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
3	J-1住2区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部1/4 胴部下半欠	平縁口縁。口縁部文様帯は隆帯により楕円・渦巻状に区画され、区画内に単節ＲＬ縄文施文後隆帯に沿った幅広沈線が施される。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後縦位の幅広沈線が施され、沈線間には上端蕨手状の幅広沈線・縄文の磨消が施される。	加曽利ＥⅢ
4	J-1住15区+5区+10区+4区他	深鉢	良好	砂粒・チャート・黒色鉱物含	胴部3/4	単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による縦位・「Ｕ」字状・上端蕨手状の幅広沈線が施される。沈線間は磨消縄文。上端蕨手状の幅広沈線は磨消縄文内の区画に施される。	加曽利ＥⅢ
5	J-1住2区2層	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	底部	単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による沈線が施される。沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
6	J-1住2区+9区1層	鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部1/5 口縁部一部残存	口縁部は残存部に限り無文。胴部文様帯には対角線状に配されると想定される横位の橋状把手・橋状把手より垂下する微隆起線・渦巻状から「Ｙ」字状に垂下する微隆起線が施される。内・外面とも丁寧な磨き。	加曽利ＥⅣ
7	J-1住5区+9区2層他	器台	良好	砂粒・黒色鉱物含	脚部1/3	無文。脚部は無文で楕円形状の孔が数箇所に穿たれる。上端には赤彩が施されたものと想定される痕跡が見られる。	中期後半
8	J-2住U-1	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	ほぼ完形 口縁部一部欠	４単位の小波状口縁。口縁部文様帯は隆帯により楕円・渦巻状に区画され、区画内に櫛歯状工具による条線施文後隆帯に沿った幅広沈線が施される。胴部文様帯は櫛歯状工具による条線施文後丸棒状工具による縦位・上端蕨手状の波状沈線が施される。縦位沈線間は条線磨消。	加曽利ＥⅢ
9	J-2住U-2	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～底部 口縁～胴部上半1/3欠	平縁口縁と想定される。口縁～底部には一連の文様が施される。単節ＬＲ縄文施文後丸棒状工具による逆「Ｕ」字状の幅広沈線で区画し、区画間に対向する「Ｕ」字状の幅広沈線が施される。	加曽利ＥⅣ
10	J-4住U-2	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上半	平縁口縁。口縁部文様帯は高い隆帯により渦巻・楕円形状に区画され、区画内に単節ＲＬ縄文施文後隆帯に沿った幅広沈線が施される。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による幅広沈線が施される。沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
11	J-4住U-4	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁～胴部上半 口縁部1/5残存	４単位の波状口縁と想定される。口縁部と胴部は横位隆帯により隔され、口縁部文様帯は渦巻状の隆帯により区画され、区画内に単節ＬＲ縄文が施文後隆帯に沿った幅広沈線が施される。胴部文様帯は単節ＬＲ縄文施文後沈線が施される。沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
12	J-4住U-3	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴部下半～底部	単節ＲＬ縄文施文（施文中解けている）後丸棒状工具による沈線が施される。沈線間は磨消縄文。内面煤付着。	加曽利ＥⅢ
13	J-4住3区1層	小型鉢？	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	胴部下半～底部片	附加条縄文（第三種：無節Ｒの軸縄にｒの撚紐）施文後丸棒状工具による縦位沈線を施す。	中期後半
14	J-4住U-1	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴部下半～底部	単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による幅広沈線が施される。沈線間は磨消縄文。外面一部煤付着。	加曽利ＥⅢ
15	J-5住U-1	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁～胴部上半1/3	平縁口縁。口縁部と胴部の間には明確な区画が見られない。口縁下には丸棒状工具による「Ｕ」字状の沈線が４単位施され、胴部には反転するような逆「Ｕ」字状の沈線が施される。「Ｕ」字状の区画内には丸棒状工具による両端蕨手状の弧状沈線、逆「Ｕ」字状の区画内には上端蕨手状の波状沈線が施される。「Ｕ」字・逆「Ｕ」字状の区画間は丸棒状工具による上端蕨手状の波状沈線が施される。	中期後半
16	J-5住U-2	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上半	４単位の波状口縁。口縁部文様帯は隆帯により波頂部下に円形・楕円形に区画される。円形の区画は波頂部下に配され、区画内には櫛歯状工具による条線を渦巻状に施す。楕円形区画には櫛歯状工具による縦位条線が施される。円形・楕円形区画内とも条線施文後隆帯に沿った丸棒状工具による幅広沈線が施される。胴部文様帯は櫛歯状工具による条線施文後丸棒状工具による縦位・上端蕨手状の波状沈線が幅広に施される。	加曽利ＥⅢ
17	J-6住U-1	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁～胴部上半 口縁部2/3欠	平縁口縁。口縁部文様帯は深い沈線により渦巻・楕円形状に区画され、区画内に単節ＬＲ縄文が施される。胴部文様帯は単節ＬＲ縄文施文後丸棒状工具による沈線が施される。沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
18	J-6住U-2	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	ほぼ完形 底面欠	４単位の波状口縁。口縁部文様帯は隆帯により渦巻・楕円形状に区画され、区画内にＬＲ縄文施文後隆帯に沿った丸棒状工具による幅広沈線が施される。胴部文様帯は単節ＬＲ縄文施文後丸棒状工具による縦位・上端蕨手状の波状沈線が施される。縦位沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
19	J-6住11区1層	鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部1/3 口唇部欠	残存部位に限り口縁部無文。口縁部と胴部は横位隆帯で隔され、横位隆帯より派生する橋状把手が対角線上に配されるものと想定される。橋状把手頂部には逆「Ｓ」字状の幅広沈線が施される。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による逆「Ｕ」字状の沈線が施され、沈線間には上端蕨手状の幅広沈線・縄文の磨消が施される。	加曽利ＥⅣ
20	J-7住U-1	深鉢	良好	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁～胴部上半 口唇部欠	口縁下に横位の幅広沈線が施され、以下に蕨手状の幅広沈線等施文後胴部下半に櫛歯状工具による渦巻き状の沈線が施される。内・外面とも口縁部に煤付着。	中期後半
21	J-7住炉下+P-1	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～底部1/3 口唇部・底面欠	口縁部文様帯は弧状の隆帯により区画され、区画内に単節ＲＬ縄文施文後隆帯に沿った丸棒状工具による沈線を施す。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文を施文後丸棒状工具による逆「Ｕ」字状の沈線が施され、沈線間には上端蕨手状の沈線・縄文雄磨消が施される。	加曽利ＥⅢ
22	J-7住6区1層	小型鉢	良好	砂粒・石英・黒色鉱物含	ほぼ完形	平縁口縁。無文。底部丸底。	中期後半
23	J-7住2区1層	小型鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	ほぼ完形 底部一部欠	平縁口縁。無文。口縁から１単位の橋状把手が付される。底部上底。	中期後半

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
24	J-8住2区3層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	ほぼ完形	平縁口縁。頸部と胴部を丸棒状工具による横位沈線・刺突列で隔す。口縁部～頸部文様帯には単節ＬＲ縄文施文後口縁下に丸棒状工具による刺突列、頸部に丸棒状工具による沈線で２条の連弧文が施され、沈線間は磨消縄文。連弧文下方～胴部との境までの区画も磨消縄文が施される。胴部文様帯は単節ＬＲ縄文施文後丸棒状工具による逆「Ｕ」字状の沈線が施される。沈線間は磨消縄文。逆「Ｕ」字状の区画内には１単位飛ばしで上端蕨手状の沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
25	J-8住13区1層+2層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	平縁口縁。口縁部と胴部は丸棒状工具による横位の幅広沈線で隔される。口縁部無文。胴部文様帯は０段多条縄文（ＲＬ）を施文する。	加曽利ＥⅣ
26	J-8住5区3層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	平縁口縁。口縁部と胴部は丸棒状工具による横位の幅広沈線で隔される。口縁部無文。胴部は櫛歯状工具による条線施文。	加曽利ＥⅢ
27	J-8住13区2層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上半片	４単位の小波状口縁を呈するものと想定される。口縁部文様帯は連結する弧状の隆帯により区画され、区画内に単節ＬＲ縄文施文後隆帯に沿った幅広沈線が施される。隆帯間にできた隙間には渦巻状の沈線を深く描き円形状のモティーフを作り出す。胴部文様帯は単節ＬＲ縄文施文後縦位・波状沈線を施し、縦位沈線間の縄文を磨り消す。	加曽利ＥⅢ
28	J-8住5区2層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	４単位の波状口縁を呈するものと想定される。口縁部文様帯は隆帯により渦巻状・楕円形状に区画され、楕円形の区画内に単節ＲＬ縄文施文後隆帯に沿った幅広沈線が施される。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による縦位沈線が施され、沈線間には上端蕨手状の幅広沈線・縄文の磨消が施される。外面に多量の煤付着。	加曽利ＥⅢ
29	J-8住10区3層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	４単位の波状口縁を呈するものと想定される。口縁部文様帯は隆帯により渦巻状・楕円形状に区画され、区画内に単節ＲＬ縄文施文後隆帯に沿った幅広沈線が施される。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による縦位･波状沈線を施す。縦位沈線間には上端蕨手状の沈線･縄文の磨消が施される。	加曽利ＥⅢ
30	J-8住U-1	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	波状の条線施文後丸棒状工具による縦位・波状の沈線を施す。二次焼成を被る。	加曽利ＥⅢ
31	J-8住6区+7区+9区+13区2層	器台	良好	砂粒・黒色鉱物含	脚部1/3	残存部位に限り無文。脚部は楕円形状の孔が５穴穿たれる。	中期後半
32	J-9住9区2層+P-5	小型鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部下半1/3	片口土器。平縁口縁。口縁部と胴部の間には明確な区画が見られない。口縁～胴部には丸棒状工具による逆「Ｕ」字状の沈線が浅く施される。	中期後半
33	J-9住9区3層	深鉢	普通	砂粒・雲母・黒色鉱物	口縁～胴部上半片	平縁口縁。口縁部と胴部は丸棒状工具による横位の幅広沈線で隔される。口縁部文様帯は口縁下の隆帯により長楕円に区画され、区画内に単節ＲＬ縄文施文後隆帯に沿った丸棒状工具による幅広沈線が施される。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による縦位沈線を施す。沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
34	J-9住3区1層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	平縁口縁。口縁部文様帯は高い隆帯により円形・隅丸方形状に区画され、区画内に無節Ｌ縄文施文後隆帯に沿った丸棒状工具による幅広沈線が施される。胴部文様帯は無節Ｌ縄文施文後丸棒状工具による縦位沈線を施す。沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
35	J-9住1区2層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部下半～底部底面欠	並走する縦位隆帯・単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による波状沈線・並走する縦位沈線・隆帯に沿った沈線を施す。隆帯間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
36	D-14	深鉢	普通	砂粒・チャート・片岩・黒色鉱物含	口縁～胴部3/5 口縁部上半欠	口縁部文様帯は隆帯により楕円・渦巻状に区画され、区画内に単節ＲＬ縄文施文後隆帯に沿った丸棒状工具による幅広沈線が施される。隆帯には丸棒状工具による刺突が施される。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による縦位・波状沈線が施される。縦位沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
37	D-30	鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～底部1/4 口唇部欠	口縁部無文。胴部文様帯は棒状工具による押圧が施された逆「Ｕ」字状の隆帯で区画され、区画内をさらに逆「Ｕ」字状の隆帯で細分する。区画内には隆帯に沿った幅広沈線を施文後櫛歯状工具による沈線をコンパス文状に垂下させる。	加曽利ＥⅢ
38	D-34	深鉢	良好	砂粒・石英・黒色鉱物含	胴部片	指頭押圧が施される縦位隆帯貼付後斜位の条線を施す。	加曽利ＥⅢ
39	D-34№1	深鉢	良好	砂粒・チャート黒色鉱物含	口縁～胴部上半 口唇部欠	口縁部は残存部に限り無文。口縁部と胴部は丸棒状工具による刺突列により隔され､胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による波状･逆「Ｕ」字状・上端蕨手状の幅広沈線が施される。内面煤付着。	加曽利ＥⅣ
40	D-35№1	鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁部片・ 胴部下半～底部	平縁口縁。口縁部無文。胴部上端には対角線上に配置される橋状把手が付されるものと想定され､垂下する上端蕨手状の幅広沈線も施される。	加曽利ＥⅣ

第68表　人見西下原遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
41	5P-454b№1	鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部1/4 口縁部一部残存	平縁口縁。口縁部無文。口縁部と胴部は横位隆帯で隔され、横位隆帯より派生する橋状把手が対角線上に配されるものと想定される。橋状把手頂部には上端蕨手状の深い抉りが施される。胴部文様帯は櫛歯状工具による条線施文後逆「Ｕ」の字状の幅広沈線が施され、沈線間には上端蕨手状の幅広沈線・条線の磨消が施される。	加曽利ＥⅣ
42	5S-454c	小型鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～底部1/4 口唇部・底面欠	手捏土器。角棒状の工具による沈線が施される。	中期後半

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
43	5X-456c	深鉢	やや風化	砂粒・角閃石・黒色鉱物含	口縁～胴部1/5	小波状口縁と想定される。口縁部無文。口縁部と胴部は丸棒状工具による横位沈線で隔し、胴部文様帯は縄文施文後丸棒状工具による「U」の字状の沈線が施される。沈線間は磨消縄文。	中期後葉
44	6K-432a	深鉢	風化顕著	砂粒・黒色鉱物含	胴～底部 胴部上半欠	胴部文様帯は丸棒状工具による矢羽状の沈線が施される。底面はやや丸底を呈し、丁寧な磨きが施される。内面煤付着。	加曽利ＥⅢ
45	T-1№2	鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～底部1/2	平縁口縁。口縁部は無文で丁寧な磨き。一部赤彩が残る。口縁部と胴部は孔が穿たれた横位隆帯で隔される。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による沈線で渦巻状のモティーフが描かれる。沈線間は磨消縄文後の赤彩が一部残る。内面赤彩が一部残る。	加曽利ＥⅣ

第69表　人見枝谷津遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
46	J-1住2区1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部中位片	単節RL縄文施文後、丸棒状工具によるU字状・逆U字状・蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
47	J-1住一括	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	内反する平縁口縁と想定される。外面摩滅が著しい。口縁部、縄文（不明瞭、単節LR?）施文後、丸棒状工具による横位沈線が施される。胴部、同工具による弧状（残存部においては弧状だが、逆U字状の可能性あり）が施される。	加曽利ＥⅢ
48	J-1住一括	深鉢	良好	砂粒含	胴部上位片	口縁部文様帯下半～胴部上位が残存していると想定される。横位･斜位隆帯により口縁部文様帯が区画される。区画内、縦位条線が施される。胴部、丸棒状工具による縦位沈線で区画される。一部の区画内に縦位条線施文。さらに、条線施文後、丸棒状工具による横位弧状沈線（残存部では横位弧状だが、垂下する蛇行沈線と考えられる）が施される。	加曽利ＥⅢ
49	J-2住U-1	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁～胴部	４単位波状口縁。波頂部の形状は対角線上が同一となるものと推測され、頂部に渦巻状のモチーフが付されるものと、付されないものが存在する。口縁部文様帯は隆帯・幅広沈線により渦巻状・楕円形状・円形状に区画され、区画内に複節ＲＬＲ縄文が施される。円形状の区画及び渦巻状の区画の一部には縄文は施されない。胴部文様帯は隆帯・幅広沈線により逆「U」字状に区画され、区画内に複節ＲＬＲ縄文が施される。逆「U」字状の区画間には上端蕨手状の縦位幅広沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
50	J-2住6区1層	鉢又は壺	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上位片	胴部上位が大きく内反し、口縁部が直立する壺形器形と想定される。胴部上位は隆帯により区画され、一部には橋状把手が施される。隆帯下位に、丸棒状工具による弧状沈線が施される。内外面の一部に赤色塗彩が認められる。全体的に丁寧な作りであり、精製の感が強い。	加曽利ＥⅢ
51	J-3住7区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	やや内反する口縁。口縁部、隆帯により区画され、一部の区画内に縦位条線が施される。胴部、縦位条線施文後、丸棒状工具による沈線（垂下する蛇行沈線か）が施される。	加曽利ＥⅢ
52	J-3住13区1層	鉢	良好	砂粒含	口縁～体部下位1/5	体部上位から口縁部にかけて内反する鉢。口縁部に幅の狭い無文帯を有する。無文帯下位に丸棒状工具による横位沈線が施される。体部、櫛歯状工具による縦位条線が施される。体部下位は、磨き又は撫でにより条線が磨り消されている。	加曽利ＥⅢ
53	J-3住炉	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部中位1/10	口縁部、隆帯により区画される。区画内単節RL縄文施文。胴部、単節RL縄文施文後、丸棒状工具による逆U字状沈線で区画。一部の区画内磨り消し。さらに、逆U字状沈線区画内に蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
54	J-3住10区1層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部1/4	口縁部文様帯は隆帯・丸棒状工具による沈線により弧状に区画され、区画内に単節ＲＬ縄文が施される。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による２本１組の縦位沈線、上端蕨手状の蛇行沈線が施される。２本１組の沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
55	J-3住7区1層	深鉢	普通	砂粒・灰色礫含	胴部片	口縁部と胴部の間の器形変換点付近が残存していると想定される。器形変換点に棒状工具による刺突を伴う横位隆帯が施される。胴部には半截竹管状工具による縦位平行沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
56	J-3住8区1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部下位～底部片	胴部、丸棒状工具による縦位沈線で区画される。残存部においては縄文・条線等は認められない。底部、やや上げ底状を呈する。	加曽利ＥⅢ
57	J-4住2区№1	深鉢	良好	砂粒・チャート・黒色鉱物	胴部下半～底部	０段多状（ＲＬ）縄文施文後丸棒状工具による２本１組の縦位沈線が施される。沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
58	J-4住1区1層№2	深鉢	普通	砂粒含	胴部下半～底部	胴部文様帯は単節ＬＲ縄文施文後丸棒状工具による２本１組の縦位沈線が施される。沈線間磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
59	J-4住1区1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部中位片	単節RL縄文施文後、丸棒状工具による2条1組の縦位沈線で区画される。沈線間磨り消し。	加曽利ＥⅢ
60	J-4住3区№1	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部下位～底部片	単節RL縄文施文後、丸棒状工具による沈線（垂下する蛇行沈線か）が施される。	加曽利ＥⅢ
61	J-4住3区1層№3	深鉢	普通	砂粒含	胴部下半～底部	単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による３本１組の縦位沈線・縦位蛇行単沈線が施される。３本１組の沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
62	J-4住3区1層	深鉢（ミニチュアか）	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部下位～底部1/8	丸棒状工具による縦位沈線（2条1組か）により、6単位（?）に区画される。	加曽利ＥⅢ
63	J-4住3区1層№2	鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部1/4	口縁部は無文と想定される。胴部文様帯上半は隆帯・幅広沈線により蕨手状・弧状に区画され、区画内にＬＲ縄文が施される。胴部下半には条線が施される。	加曽利ＥⅢ
64	J-5住8区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁部片	隆帯により区画される。区画内に渦巻き状条線が施される。	加曽利ＥⅢ
65	J-5住P-3	深鉢	やや不良	砂粒含	口縁部片	隆帯により区画される。区画内に単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
66	J-6住11区2層	深鉢	やや不良	砂粒・白色鉱物・礫含	口縁～胴部上端片	隆帯により区画される。胴部、摩滅著しく不明瞭であるが、縄文（単節LRか）が施される。	加曽利ＥⅢ

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
67	J-6住2区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上位片	やや内反する口縁。丸棒状工具による横位沈線で口縁部文様帯を区画し、区画内に縦位に長い連続刺突が施される。胴部、単節LR縄文施文後、同工具による沈線（蕨手状又は逆U字状か）が施される。	加曽利ＥⅢ
68	J-6住4区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁部片	4単位波状口縁と想定され、波頂部付近が依存する。単節RL縄文施文後、丸棒状工具により蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
69	J-6住3区2層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部片	縦位蛇行条線が施される。	加曽利ＥⅢ
70	J-6住12区2層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部下位～底部片	丸棒状工具による縦位沈線が施される。不明瞭であるが、残存部上端部に縄文が施されている。	加曽利ＥⅢ
71	J-7住 U-1	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部下半～底部	胴部文様帯には単節ＲＬ縄文施文後２本１組の幅広沈線が逆「U」字状に施される。逆「U」字の区画間には上端蕨手状の幅広沈線が縦位に施される。胴部上半には２本１組の幅広沈線が「U」字状に施されるものと想定される。	加曽利ＥⅢ
72	J-7住9区1層+10区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁部片	隆帯により区画される。一部の区画内に単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
73	J-8住3区2層№1	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部1/2	平縁口縁。口縁文様帯は隆帯により弧状・蕨手状に区画され、区画内に条線が施される。胴部文様帯は縦位条線施文後丸棒状工具による縦位沈線・蛇行沈線が施される。縦位沈線の上端は部分的に蕨手状となる。縦位沈線間の条線は部分的に磨消。	加曽利ＥⅢ
74	J-8住炉内№1	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上半1/4	４単位波状口縁。口縁部文様態は隆帯・幅広沈線により渦巻状・弧状に区画され、区画内に単節ＲＬ縄文が施される。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による逆「U」字状・蛇行・縦位沈線が施される。逆「U」字状沈線内には丸棒状工具による縦位沈線が施される。２本１組の縦位沈線間・逆「U」字状沈線内の縄文は磨り消される。	加曽利ＥⅢ
75	J-8住11区2層	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物	ほぼ完形	平縁口縁。口縁部と胴部は丸棒状工具による横位波状沈線により隔される。口縁部無文。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による逆「U」字状の沈線が口縁・胴部間の沈線形状に合わせて施される。逆「U」字状沈線間の縄文は磨り消され、丸棒状工具による円形状の沈線が施される。逆「U」字の区画内には丸棒状工具による上端蕨手状の蛇行沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
76	J-8住U-2	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部中位	４単位波状口縁。口縁部文様帯は隆帯・幅広沈線により渦巻状・楕円形状に区画され、楕円形状区画内に丸棒状工具による横位矢羽状沈線が施される。空白部には部分的に円形の刺突文が施される。胴部文様帯は丸棒状工具による縦位矢羽状沈線施文後丸棒状工具による２本１組の縦位沈線が施される。２本１組の縦位沈線の間隔は幅広・幅狭と交互に施され、幅広の沈線区画内には丸棒状工具による対向する「U」字状沈線が施される。幅狭の沈線区画内は無文。	加曽利ＥⅢ
77	J-8住7区2層№1	深鉢	普通	砂粒・片岩・黒色鉱物	口縁～胴部下半1/4	平縁口縁。口縁部文様帯は隆帯・幅広沈線により蕨手状・弧状に区画され、弧状の区画内には単節ＬＲ縄文が施される。胴部文様帯は単節ＬＲ縄文施文後丸棒状工具による２本１組の縦位沈線・上端蕨手状の蛇行沈線が施される。２本１組の沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
78	J-8住10区2層	鉢又は壺	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部上位片	胴部最上位から口縁への器形屈曲点付近と想定される。幅広の橋状把手が貼付される。把手左右両面には丸棒状工具による渦巻き状沈線が施される。橋状把手下位にも、弧状又は渦巻き状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
79	J-8住7区2層	鉢又は壺	普通	砂粒含	胴部上位片	胴部最上位の器形屈曲点付近と想定される。幅広の橋状把手が貼付される。	加曽利ＥⅢ
80	J-8住11区ﾍﾞﾙﾄ1層	深鉢又は鉢	普通	砂粒含	胴部上位片	胴部最上位から口縁への器形屈曲点付近と想定される。幅広の橋状把手が貼付される。把手左右は、丸棒状工具による弧状・蕨手状沈線により区画され、一部の区画内には縦位条線が施される。把手上面には孔が、把手下位には渦巻き状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
81	J-8住U-1	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上半	平縁口縁。口縁部文様帯は幅広沈線・隆帯により蕨手状・弧状に区画され、区画内に単節ＲＬ縄文が施される。なお、蕨手状区画の１単位のみ条線が施される。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による２本１組の縦位沈線が施される。沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
82	J-8住7区2層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部1/2	平縁口縁。無節Ｌ施文後口縁部と胴部を丸棒状工具による２本１組の横位沈線（沈線間に連続刺突文）により隔す。口縁部文様帯・胴部文様帯ともに丸棒状工具による２本１組の横位波状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
83	J-8住7区2層	浅鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	ほぼ完形 波頂部欠	２単位の波状口縁で、波頂部に把手が付されるものと想定される。口縁部と胴部は口縁形状に沿った幅広沈線により隔される。	加曽利ＥⅢ
84	J-8住10区2層+14区2層	鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	頸～底部1/3	頸部無文。胴部文様帯は丸棒状工具による沈線及び隆帯により上端渦巻状の縦位区画のモチーフで区画され、区画内に丸棒状工具による短沈線を充填させる。丸棒状工具による沈端部は一部蕨手状を呈する。	加曽利ＥⅢ
85	J-8住8区1層+8区2層	深鉢	普通	砂粒含	胴部下位～底部片	胴部最下端から底部に、半截竹管状工具又は棒状工具による、渦巻き状・弧状等の沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
86	J-8住2区2層	深鉢(器台)	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	底部	残存部位に限り無文。輪積み部分で欠損しており、欠損箇所には意図的な磨滅痕がみられる。	加曽利ＥⅢ
87	J-8住3区溝	鉢(ﾐﾆﾁｭｱ)	普通	砂粒含	口縁～底部1/2	鉢形土器ﾐﾆﾁｭｱ。不明瞭であるが縄文（単節LRか）が施されている。	加曽利ＥⅢ
88	J-8住12区2層	深鉢(ﾐﾆﾁｭｱか)	普通	砂粒含	胴部下位～底部片	残存部においては無文である。	加曽利ＥⅢ
89	J-8住3区2層№4	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上位片	口縁部、低い隆帯で楕円形に区画される。区画内には半截竹管状工具による縦位沈線が施される。胴部、楕円形区画中央部下位の縦位無文帯により区画される。無文帯間には縦位沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
90	J-8住10区ﾍﾞﾙﾄ2層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・灰色礫含	口縁～胴部中位片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部に丸棒状工具による横位沈線が施される。胴部には縦位沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
91	J-8住10区2層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部中位片	口縁部、隆帯で区画され、一部の区画内に縦位沈線が施される。胴部、丸棒状工具による逆Ｕ字状沈線で区画される。区画内には縦位条線が施される。さらに、端部蕨手状の蛇行沈線が垂下される。	加曽利ＥⅢ
92	J-8住3区2層№2	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部中位片	口縁部、隆帯で区画され、一部の区画内に縦位沈線が施される。胴部、丸棒状工具による逆Ｕ字状沈線で区画される。区画内には縦位条線が施される。さらに、蛇行沈線が垂下される。	加曽利ＥⅢ

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
93	J-8住7区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁部片	隆帯で区画され、一部の区画内にRL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
94	J-8住7区2層	深鉢	普通	砂粒・灰色礫含	口縁～胴部上端片	４単位波状口縁と想定される。口縁部､隆帯で区画され､一部の区画内にRL縄文が施される。波頂部下位には渦巻き状モチーフが認められる。胴部、丸棒状工具による弧状沈線の一部が残存する。一部の区画にはRL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
95	J-8住2区2層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上位片	口縁部やや内反する。低い隆帯で口縁部文様帯と胴部が区画される。口縁部、単節LR縄文施文後、丸棒状工具による浅い沈線で区画される。胴部、単節LR縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線で区画される。一部に同工具による蛇行沈線又は蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
96	J-8住6区2層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含	口縁～胴部上位片	口縁部、丸棒状工具による沈線で区画される。一部の区画内に単節LR縄文が施される。胴部、丸棒状工具による縦位沈線で区画され、一部に単節LR縄文が施される。さらに縄文施文後、蛇行沈線又は蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
97	J-8住8区1層	深鉢	普通	砂粒・角閃石含	口縁部片	４単位波状口縁と想定される。隆帯と沈線で区画され、一部の区画内に無節L縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
98	J-8住11区2層	深鉢又は鉢	普通	砂粒含	口縁部片	やや内反する口縁。縦位基調弧状条線が施される。残存部最下位に、丸棒状工具による沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
99	J-8住12区ﾍﾞﾙﾄ2層	深鉢	良好	砂粒・片岩含	口縁部片	単節LR縄文施文後、丸棒状工具による沈線で口縁部文様帯が区画される。さらに区画内の一部に縄文が充填される。	加曽利ＥⅢ
100	J-8住3区2層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・礫・黒色鉱物含	口縁部片	丸棒状工具により、口縁部に並行し横位沈線が施される。沈線内には、同工具による列点状刺突が伴う。残存部下位には、丸棒状工具による弧状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
101	J-8住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含	口縁部片	把手上面に浅い蕨手状沈線が施される。口縁部、隆帯・沈線により区画される。	加曽利ＥⅢ
102	J-8住6区2層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部上位片	丸棒状工具による列点状刺突を伴う横位隆帯が施される。隆帯下位には、縦位・斜位基調の条線が施される。	加曽利ＥⅢ
103	J-8住6区1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部中位片	丸棒状工具による2条1組の沈線で区画される。一部の区画に蛇行・弧状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
104	J-8住16区2層	深鉢	普通	砂粒含	胴部上位～中位片	残存部上半が口縁部文様帯と想定される。口縁部文様帯、単節LR縄文施文後、丸棒状工具による幅広の沈線により区画される。胴部、縦位蛇行条線施文後、丸棒状工具による縦位沈線により区画される。一部の区画内に同工具による蛇行沈線を垂下させる。	加曽利ＥⅢ
105	J-8住10区ﾍﾞﾙﾄ2層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・礫含	胴部片	丸棒状工具による縦位沈線で区画される。一部の区画内に縦位蛇行条線が施される。	加曽利ＥⅢ
106	J-8住U-2	深鉢	やや不良	砂粒・礫含	胴部下位～底部片	残存部上半に、丸棒状工具による縦位沈線（2条1組か）が施される。残存部下半は底部も含め無文である。	加曽利ＥⅢ
107	J-8住12区2層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物含	胴部下位～底部	単節RL縄文施文後、丸棒状工具による２条一組の縦位沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
108	J-8住14区2層	深鉢	普通	砂粒・石英・植物繊維含	胴部片	縄文（単節LRか）施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文が施される。	加曽利ＥⅢ
109	J-9住16区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	単節RL縄文施文後、丸棒状工具による逆U字状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
110	J-9住7区1層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物含	胴部片	丸棒状工具による、縦位の長めの刺突（刺突痕が楕円形になるような刺突）が施される。	加曽利ＥⅢ
111	J-10住11区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	口縁部、棒状工具による列点状刺突と丸棒状工具による横位沈線が施される。胴部、単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
112	J-10住15区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	口縁部、2条の横位並行沈線が施される。胴部、単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
113	J-10住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁部片	緩やかな4単位波状口縁と想定される。単節RL縄文施文後、丸棒状工具による沈線で区画される。	加曽利ＥⅢ
114	J-10住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部上位片	口縁部文様帯部分の破片と想定される。隆帯により区画され、区画内に縦位沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
115	J-10住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・白色鉱物含	胴部破片	棒状工具による刺突を伴う横位隆帯が施される。隆帯上位には弧状沈線が認められるが、モチーフは不明。	加曽利ＥⅢ
116	J-10住11区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含	胴部片	棒状工具による縦位鋸歯状沈線が並行して3条施される。中央の沈線は、方向転換点に刺突が施されている。	（高井東?）
117	J-10住7区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含	胴部上位～中位片	丸棒状工具による縦位沈線で区画される。一部の区画内に条線施文後、同工具による蛇行沈線を垂下させる。	加曽利ＥⅢ
118	J-10住7区1層	深鉢	良好	砂粒含	胴部上位片	口縁部、丸棒状工具による沈線で区画される。胴部、同工具による縦位沈線で区画される。一部の区画内に単節RL縄文施文後、丸棒状工具による蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
119	J-11住6区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上位片	口縁部内反する。口縁部下位に横位微隆帯を施す。微隆帯上位は幅の狭い無文帯。胴部､単節LR縄文を施す。さらに微隆帯により区画される。	加曽利ＥⅣ
120	J-11住9区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁部片	口縁部に丸棒状工具による横位沈線が施される。沈線下位には単節RL縄文が施文される。	加曽利ＥⅣ
121	J-11住14区1層	深鉢	良好	砂粒含	胴部片	縦位微隆帯により区画され、半截竹管状工具による斜位基調細沈線が施される。	中期後葉
122	J-12住6区1層No.1	深鉢	良好	砂粒・チャート・黒色鉱物含	胴～底部	胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後３本１組の縦位幅広沈線が施される。沈線間は磨消縄文。縄文施文の区画内には横位沈線が不規則に施される。	加曽利ＥⅢ
123	J-12住10区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁部片	丸棒状工具による逆U字状沈線により区画される。区画内単節LR縄文が充填される。さらに一部に同工具による蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
124	J-12住15区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁部片	緩やかな波状口縁か。丸棒状工具による斜位直線状・弧状沈線が施される。内面に1条の横位沈線が施されていると想定される。	（後期?）
125	J-12住11区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含	胴部片	丸棒状工具による横位沈線で区画される。区画内に同工具による縦位沈線が施される。	中期後葉

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
126	J-12住12区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	丸棒状工具による弧状・蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
127	J-12住6区ﾍﾞﾙﾄ1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含	胴部片	丸棒状工具による縦位沈線で区画される。一部の区画内に蛇行沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
128	J-12住10区ﾍﾞﾙﾄ1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	縦位沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
129	J-13住7区1層No.1	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁部～　胴部	平縁口縁と想定される。縦位の条線を施文後、口縁部文様帯を隆帯で楕円形状に区画し、縦位の条線を施文する。隆帯脇には幅広沈線を施す。胴部は条線施文後、２本１組の縦位沈線及び蛇行沈線が施文されていたと想定される。	加曽利ＥⅢ
130	J-13住7区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部	口縁部文様帯を楕円形状の隆帯で区画後、縦位の条線が施文される。隆帯脇には幅広沈線が施される。胴部は縦位の条線施文後、２本１組の並走する縦位沈線と蛇行沈線が施文される。２本１組の沈線間は磨り消し。	加曽利ＥⅢ
131	J-13住7区1層	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁部～　胴部	平縁口縁と想定される。口縁部文様帯は楕円形状の隆帯で区画し、縦位の条線を施文する。隆帯脇には幅広の沈線を施文する。胴部は縦位の条線施文後、逆U字状と想定される沈線が施文される。	加曽利ＥⅢ
132	J-13住7区1層No.2	深鉢	良好	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁部～　胴部	平縁口縁。口縁部は隆帯で弧状に区画される。区画内には縦位の条線が施される。胴部は縦位の条線を施文後、棒状工具による２本１組の縦位沈線と蛇行沈線が施される。２本１組の縦位沈線間は磨り消し。	加曽利ＥⅢ
133	J-13住7区1層No.4	鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁部～　胴部	平縁口縁と想定される。口縁部は無文。胴部に２つの橋状把手が付く。胴部上位に横位隆帯を添付し文様帯を区画する。胴部は無節L縄文を施文後、逆U字状及び上端部蕨手状の沈線が施文される。沈線間及び橋状把手下位は磨り消し。胴部下位～底部は無文。	加曽利ＥⅢ
134	J-13住14区1層U-1	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部～底部	縦位の条線を施文後、２本１組および蛇行する縦位の沈線を施す。２本１組の沈線間は磨り消し。	加曽利ＥⅢ
135	J-13住14区1層	鉢	良好	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁部～　胴部	平縁口縁。口縁部は無文。胴部上位は楕円形状の隆帯で区画後、0段多条RL縄文を施文する。隆帯脇及び縄文施文部分に幅広の沈線が施される。隆帯の連結部には爪文が施文される。胴部下位は縦位の条線。	加曽利ＥⅢ
136	J-14炉U-1	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	胴部	胴部上位には２本１組の渦巻き状の隆帯、下位には２本１組の逆U字状と想定される隆帯が施される。0段多条のRL縄文を施文後、隆替脇に幅広沈線を施す。	加曽利ＥⅢ
137	J-14住12区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上位片	やや内反する平口縁と想定される。単節RL縄文施文後、隆帯により区画される。	加曽利ＥⅢ
138	J-14住10区1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	丸棒状工具による縦位沈線で区画される。区画内に蛇行する並行細沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
139	J-14住7区1層	器台	普通	砂粒・白色鉱物含	脚部下位片	残存部においては無文。透状孔が施される。	加曽利ＥⅢ
140	J-14住14区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含	胴部下位～底部1/10	残存部最上位において、単節RL縄文と丸棒状工具による縦位沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
141	T-4　　1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部片	縦位沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
142	T-4　　3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含	胴部片	単節RL縄文施文後、丸棒状工具による逆U字状沈線で区画される。さらに一部に同工具による沈線（蕨手状か）が施される。	加曽利ＥⅢ
143	T-4　　3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部片	縄文（単節RLか）施文後、縦位直線状・蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
144	U-1	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上半4/5	平縁口縁。０段多状（ＲＬ縄文）縄文施文後口縁下に丸棒状工具による横位沈線、胴部上半に丸棒状工具による横位波状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
145	U-2No.3	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	胴部下半～底部	胴部文様帯には縦位条線が充填される。	加曽利ＥⅢ
146	U-2	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴～底部4/5	単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による２本１組の縦位沈線・蛇行する縦位単沈線が施される。縦位沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
147	U-2No.2	器台	良好	砂粒・チャート・黒色鉱物含	台～脚部1/3	弧状の条線施文後波状の横位幅広沈線が施される。幅広沈線間の条線は磨り消し。２個１組の円孔が４単位施されるものと想定される。	加曽利ＥⅢ
148	U-3	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁～胴部上半4/5	平縁口縁。口縁部文様帯は隆帯・幅広沈線により蕨手状・楕円形状に区画され、区画内に単節ＲＬ縄文が施される。区画外の空白部には爪文が施される。胴部文様帯は単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による２本１組の縦位沈線が施される。沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
149	U-4	深鉢	普通	砂粒・チャート含	口縁～胴部上半1/3	４単位波状口縁で、波頂部の１単位ないし２単位に把手が付されるものと想定される。口縁部と胴部は角棒状工具による口縁形状に沿った沈線により隔される。口縁部無文。胴部文様帯は単節ＬＲ縄文施文後角棒状工具による鋸歯状の沈線が施される。鋸歯状区画の山部分の縄文は磨り消される。	加曽利ＥⅢ
150	U-6（D-102）	深鉢	普通	砂粒・チャート含	口縁～胴部下半	平縁口縁。口縁部文様帯は隆帯・幅広沈線により蕨手状・楕円形状に区画され、区画内に縦位条線施文後角棒状工具による縦位沈線が施される。胴部文様帯は縦位条線施文後２本１組の縦位幅広沈線が施される。沈線間の条線は磨り消される。	加曽利ＥⅢ
151	U-7	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁部1/5	小波状口縁。口縁部文様帯は幅広沈線・隆帯により渦巻状・弧状に区画され、区画内に単節ＲＬ縄文が施される。胴部文様態には単節ＲＬ縄文施文後丸棒状工具による縦位沈線が施される。沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
152	U-8	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物	胴部下半～底部	胴部文様帯には丸棒状工具による２本１組の縦位沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
153	U-9	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁～胴部上半	口縁部と胴部を横位隆帯で隔す。残存部位に限り口縁部無文。胴部文様帯は２本１組の渦巻状・「Ｕ」字状の隆帯、１本の楕円形状・「Ｕ」字状・逆「Ｕ」字状・縦位隆帯で区画後区画内に単節ＲＬ縄文が施される。２本１組の隆帯間の縄文は磨り消される。隆帯脇には浅い幅広沈線が施される。	加曽利ＥⅣ

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
154	U-10	深鉢	普通	砂粒・黒色粒・石英・角閃石	胴部下半～底部	胴部に丸棒状工具による単沈線で懸垂文を施文。懸垂文内・間に単節RLの縄文を縦位充填。胴部下端に縦位のミガキ調整が露出。底面はナデ調整。内面は縦位のミガキ調整。	加曽利ＥⅢ
155	U-11	深鉢	普通	砂粒・黒色粒・石英・角閃石	胴部下半	胴部に凹線で懸垂文を施文。懸垂文間に単節RLの縄文を縦位充填。縄文上に同様の凹線を縦位波状に施文。内面は縦位のミガキ調整。	加曽利ＥⅢ
156	D-35	深鉢	良好	砂粒含	口縁部片	横位沈線と隆帯で区画される。残存部が少ないが、胴部には単節LR縄文が施されていると考えられる。	加曽利ＥⅢ
157	D-35	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	丸棒状工具による沈線で区画される。一部に円形刺突文が施される。	加曽利ＥⅢ
158	D-36	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	胴部、単節RL縄文が施される。口縁部に丸棒状工具による浅い横位沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
159	D-36	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁部片	単節ＲＬ縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
160	D-36	深鉢	良好	砂粒含	胴部片	単線RL縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線で区画される。一部の区画内に同工具による弧状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
161	D-37	深鉢	普通	砂粒含	胴部上端片	口縁部直下付近と想定される。隆帯で区画される。	加曽利ＥⅢ
162	D-37	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物含	胴部片	縦位基調条線が施される。	加曽利ＥⅢ
163	D-37	深鉢	普通	砂粒・白色礫含	胴部上位片	残存部最上位に丸棒状工具による横位沈線が施される。この沈線が口縁部文様帯と胴部文様帯の境界と想定される。胴部、単節RL縄文施文後、丸棒状工具による逆U字状・蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
164	D-52	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁部片	4単位小波状口縁と想定される。隆帯と隆帯に並行する沈線で楕円形に区画される。区画内に疎らな縦位沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
165	D-52	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上位片	外面やや摩滅している。口縁部、隆帯と隆帯に並行する丸棒状工具による沈線で区画される。区画内に縦位直線状・弧状平行沈線が施される。胴部、2条の並行する縦位沈線で区画される。区画内に斜位基調平行沈線が施される。	加曽利ＥⅡ～Ⅲ
166	D-52	深鉢	良好	砂粒含	口縁部片	隆帯と隆帯に並行する沈線で区画される。区画内に単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅡ～Ⅲ
167	D-52	深鉢	普通	砂粒含	口縁部片	4単位波状口縁波頂部か。隆帯と丸棒状工具による沈線で区画される。隆帯上に円形刺突文が施される。	加曽利ＥⅢ
168	D-52	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	縦位基調の蛇行する平行細沈線施文後、丸棒状工具による縦位沈線が2条並行して施される。	加曽利ＥⅢ
169	D-52	深鉢	普通	砂粒含	胴部上位片	隆帯と隆帯に並行する沈線で区画される。一部の区画内に縦位条線が施される。さらに隆帯上に円形刺突文が施される。	加曽利ＥⅢ
170	D-61	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上位片	低めの隆帯で区画される。一部の区画内に単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
171	D-61	深鉢	良好	砂粒含	胴部上端片	口縁部文様帯部分か。隆帯で区画し、縦位条線が施される。	加曽利ＥⅢ
172	D-78	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	単節RL縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線で区画される。	加曽利ＥⅢ
173	D-82	深鉢	良好	砂粒含	胴部片	単節LR縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線で区画される。一部区画内に同工具による蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
174	D-83	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部片	撚糸が施される。	加曽利ＥⅢ
175	D-84	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁～底部2/3	波頂部剥落。４単位波状口縁と想定される。口縁～胴部の文様は一連で、単節ＬＲ縄文施文後丸棒状工具による逆「Ｕ」字状の沈線が施される。逆「Ｕ」字状の沈線間は無文で、丸棒状工具による上端蕨手状の沈線が施される。口縁下には一部丸棒状工具による横位沈線が認められる。	加曽利ＥⅢ
176	D-84	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部上位片	胴部最上位か。一部に単節LR縄文施文後、丸棒状工具による弧状(又は逆U字状か)沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
177	D-84	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁部片	波状口縁の把手部。上面、幅の広い沈線が蕨手状(?) に施される。外面、丸棒状工具による沈線で区画され、区画内に単節LR縄文が施文される。さらに一部に円形刺突が施される。	加曽利ＥⅢ
178	D-84	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含	胴部片	隆帯（一部は2条が並行する）により区画する。区画内に単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
179	D-84	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部最下端～底部片	意図的な施文かどうか不明であるが、薄い篦状又は板状工具による刺突痕が認められる。それ以外残存部においては無文。	加曽利ＥⅢ
180	D-87	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁部片	波状口縁の把手部。上面、幅の広い沈線が蕨手状(?) に施される。外面、丸棒状工具による横位沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
181	D-87	深鉢	普通	砂粒含	胴部上位片	横位基調隆帯と、並行する沈線で区画される。	加曽利ＥⅢ
182	D-100	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	隆帯で区画され、一部の区画内には単節LR縄文が施される。また、一部の区画内には不明瞭ではあるが条線が施される。	加曽利ＥⅢ
183	D-110	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部～底部	単節RL縄文施文後、２本１組の沈線を縦位に施文する。沈線間は磨り消し。	加曽利ＥⅢ
184	D-114	鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部	橋状把手が付される。胴部は２本１組の弧状隆帯が施されていたと想定される。	加曽利ＥⅢ
185	M-4	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁部片	4単位波状口縁の深鉢と想定される。口縁部上面に鋸歯状貼付文が施される。口縁部最上位に、棒状工具による列点状刺突、その下位には半截竹管状工具による綾杉状沈線が施される。また、波頂部直下に大きめのボタン状貼付文、さらに2個1対の小さめのボタン状貼付文が施される。	諸磯c
186	H-99住2区ﾍﾞﾙﾄ2層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部片	半截竹管状工具による綾杉状沈線施文後、棒状貼付文が施される。	諸磯c
187	8U-388	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上端片	やや内反する口縁。口縁部、棒状工具による列点状刺突が2段施される。胴部、単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
188	M-3　壁面	深鉢	良好	砂粒・灰色礫含	口縁～胴部中位1/10	内反する４単位小波状口縁と想定される。縦位基調条線又は平行沈線が施される。蕨手状・逆Ｕ字状沈線で区画され、一部に蛇行沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
189	9D-404	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上位片	やや内反する口縁。口縁部、棒状工具による横位沈線が施される。胴部、同工具による弧状（又は逆U字状か）沈線で区画され、一部の区画内に縦位直線状、弧状・渦巻き状細沈線が施される。	加曽利ＥⅢ

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
190	8V-383	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上位片	口縁部、丸棒状工具による2条の横位沈線で区画される。沈線間に同工具による列点状刺突が施される。胴部、単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
191	M-3　壁面	壺又は鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部上位～中位片	胴部上位、器形変換点付近に橋状把手が施される。胴部中位、丸棒状工具による弧状・渦巻き状・蕨手状・円形沈線で区画され、一部の区画内に単節RL縄文が充填される。	加曽利ＥⅢ
192	H-1住15区3層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上位片	口縁部、隆帯により口縁部文様帯が半月状に区画される。区画内に単節RL縄文が充填される。胴部、丸棒状工具による縦位沈線で区画され、一部の区画内に単節RL縄文が充填される。	加曽利ＥⅢ

第 70 表　人見東向原遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
193	N4J-1U-1	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上半	６単位小波状口縁。口縁部文様帯は隆帯・幅広沈線により蕨手状・楕円形状・不整形に区画され、区画内に単節ＲＬ縄文が施される。胴部文様帯は２本１組を基本とした渦巻状・縦位隆帯貼付後単節ＲＬ縄文が施される。２本１組の隆帯からは渦巻状の隆帯が派生し、隆帯脇には幅広沈線が施される。２本１組の隆帯間の縄文は磨り消される。	加曽利ＥⅢ
194	N4J1U-2	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上半	平縁口縁。口縁部文様帯は隆帯・幅広沈線により渦巻状に区画され、区画内には単節ＲＬ縄文が施される。胴部文様態は２本１組の縦位・蕨手状隆帯・単節ＲＬ縄文施文後隆帯脇に幅広沈線が施される。蕨手状隆帯の一部は口縁部文様帯より派生する。	加曽利ＥⅢ
195	J-1住12区2層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部下位～底部片	丸棒状工具による２本１組の縦位沈線で区画される。	加曽利ＥⅢ
196	N4J-2U-1	深鉢	良好	砂粒・片岩・黒色鉱物	胴部下半～底部	胴部文様帯は２本１組の縦位隆帯・単節ＲＬ縄文施文後隆帯脇に幅広沈線が施される。縦位隆帯は胴部上半の円形状ないし渦巻状と推測される２本１組の隆帯から派生する。	加曽利ＥⅢ
197	N4J-2U-3	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物	口縁～胴部上半 口縁部ほぼ欠	波状口縁。口縁部は幅狭で無文。胴部文様帯は付加条第２種（単節ＲＬ縄文にｒの撚紐を付加）施文後丸棒状工具による逆「Ｕ」字状の沈線が施されるものと想定される。沈線間は一部磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
198	N4J-2U-2	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	口縁部～胴部上半1/5	４単位波状口縁と想定される。口縁部文様帯には口縁形状に沿った幅広沈線が施される。胴部文様帯は無節Ｌ施文後逆「Ｕ」字状の幅広沈線が施されるものと想定される。	加曽利ＥⅢ
199	N4J-2U-4	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上半 口縁部3/4欠	４単位波状口縁。口縁部文様帯は隆帯・幅広沈線により渦巻状・楕円形状に区画され、区画内に単節ＬＲ縄文が施される。胴部文様帯は単節ＬＲ縄文施文後丸棒状工具による２本ないし３本１組の縦位沈線が施される。沈線間は磨消縄文。	加曽利ＥⅢ
200	J-2住15区1層	深鉢	良好	砂粒含	胴部下位～底部片	胴部、残存部においては無文である。底部網代痕。	後期
201	J-2住8区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・石英含	胴部下端～底部片	胴部及び底部に単節LR縄文が施される。	後期?
202	J-2住上面	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物含	口縁部片	連続刺突が施された隆帯により、口縁部文様帯が区画される（長方形区画か）。区画内に浅い横位沈線が3条施される。	高井東
203	J-2住16区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部下位～底部片	胴部、残存部においては無文である。底部、網代痕。網代痕の後に、一部に粘土塊の貼付・棒状工具による撫でが施される。	後期
204	N4U-2	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	胴部中位	単節ＲＬ縄文施文後２本１組の縦位・「Ｕ」字・逆「Ｕ」字状幅広沈線が施される。「Ｕ」字・逆「Ｕ」字状の沈線は対向しており、縦位沈線間の縄文は磨り消される。輪積み部分で欠損しており、欠損箇所には意図的な磨滅痕がみられる。	加曽利ＥⅢ
205	D-8	深鉢	普通	砂粒・石英・片岩・チャート	口縁部	口縁部下端に舌状の突起。口縁部を凹線で横位・楕円状に区画。内面は横位ナデ。	加曽利ＥⅢ
206	10R-426	注口土器	普通	砂粒・チャート含	口縁部～胴部	４単位波状口縁と想定される。口縁部文様帯は２本の横位隆帯で区画され、隆帯脇には沈線が施される。区画内は無文。波頂部から注口部にかけて橋状把手が付されていたと想定され、波頂部には渦巻き状の沈線が施文される。側面は波頂部から垂下する逆U字状の隆替が施され、波頂部下には孔が穿たれている。口縁部と胴部を隔する横位隆帯との連結部には円形の隆帯が施される。胴部は縦位･斜位の沈線が施される。	後期前葉
207	10R-426	注口土器	良好	砂粒・チャート含	胴部	胴部中位に横位隆帯を施す。隆帯脇には沈線が施文される。胴部上位には縦位の隆帯、斜位沈線が施される。横位隆帯と縦位隆帯の連結部には突起が付されるものと想定される。胴部下位は無文。	後期前葉
208	土器集中-1	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上位片	胴部上位が開き、口縁部が直立する器形か。口縁直下に浅い横位沈線が施される。その下位には横位U字状沈線（残存部においてはU字状だが楕円形と考えられる）が施される。	後期後半
209	土器集中-1	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上位片	胴部上位が開き、口縁部が直立する器形か。口縁直下に丸棒状工具による浅い横位沈線が施される。その下位には横位U字状沈線（残存部においてはU字状だが楕円形と考えられる）が施される。U字状沈線間には、横長の貼付文が施文される。	後期後半
210	土器集中-2	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上端片	胴部上位が開き、口縁部が直立する器形か。浅い横位沈線が3条並行して施される。	後期後半
211	10J-451b	深鉢	普通	砂粒・石英	口縁部	口縁部を隆帯で区画。丸棒状工具による沈線で逆Ｕ字状懸垂文。区画内に同様の沈線による条線を充填。内面は粗い横位ナデ。	中期
212	12P-459	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上位片	口縁部下位に横位隆帯が施される。隆帯上位は無文である。胴部、単節LR縄文が施文される。	加曽利ＥⅣ
213	10L-451d	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物含	口縁部片	連続刺突が施された横位隆帯と、縦位隆帯により、口縁部文様帯が区画される（長方形区画か）。縦位隆帯の上位口縁部は、小突起状を呈している。口縁部文様帯区画内には浅い横位沈線が日の字状に施される。	高井東
214	12M-456	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上位片	口縁部下位に横位隆帯が施される。隆帯上位は無文である。胴部、単節LR縄文が施文される。	加曽利ＥⅣ
215	H31住15区1層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上位片	胴部上位が開き、口縁部が直立する器形か。浅い横位沈線が3条並行して施される。	後期後半

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
216	10K-450c	深鉢	普通	砂粒・片岩含	胴部下位～底部片	胴部、単節RL縄文施文。底部、一部に縄文押圧。	不明

第 71 表　人見向原遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
217	J-1住6区1層	深鉢	普通	砂粒・石英含	胴部片	残存部下半、単節RL縄文施文。上半、半截竹管状工具押し引きによる爪形文が横位・斜位・弧状に施される。	諸磯b
218	J-1住16区1層	深鉢	普通	砂粒・石英・金雲母含	口縁～胴部上位片	やや外反する平口縁と想定される。半截竹管状工具による横位平行沈線で区画される。区画内に同工具による菱形をモチーフとする平行沈線が施される。	諸磯b
219	J-1住14区2層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部片	4本1単位の櫛歯状工具による連続する平行弧状沈線が施される。弧状沈線連結部に、竹管状工具による円形刺突文が縦位に配置される。	諸磯a
220	J-1住16区1層	深鉢	良好	砂粒・片岩・金雲母含	胴部片	縄文（単節LRか）が施される。	諸磯b
221	J-1住4区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上位片	単節RL縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線が施される。さらに同工具による上下二段の鋸歯状平行沈線施文。	諸磯b
222	J-1住4区1層	深鉢	良好	砂粒・石英含	口縁～胴部上端片	やや外反する口縁。口縁部、半截竹管状工具押し引きによる爪形文が横位に2条施される。胴部、同工具による弧状爪形文が施される。	諸磯a ～ b
223	J-1住4区2層	深鉢	良好	砂粒含	胴部片	単節RL縄文が施される。	諸磯
224	J-1住4区2層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	やや外反する平縁口縁と想定される。半截竹管状工具による横位爪形文が、残存部において並行し4条施される。爪形文間には丸棒状工具による斜位短沈線が連続し施文される。	諸磯b
225	J-1住14区ﾍﾞﾙﾄ1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	半截竹管状工具による横位平行沈線が施された後、同工具による鋸歯状平行沈線施文。	諸磯b
226	J-1住10区ﾍﾞﾙﾄ2層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	残存部下半、単節LR縄文施文。上半、半截竹管状工具による平行沈線が横位・斜位・弧状に施される。	諸磯b
227	J-1住11区1層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物・片岩含	胴部下位片	胴部下位と想定される。単節RL縄文が施される。	諸磯
228	J-1住11区ｻﾌﾞﾄﾚ1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上端片	口縁部上面、小型の波状突起が連続させてほどこされる。口縁部、4本1単位の櫛歯状工具による押し引きによる平行沈線・刺突が施される。胴部、同工具による連続弧状沈線施文後、弧沈線連結部に竹管状工具による円形刺突文が縦位に配置される。	諸磯a
229	J-1住3区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	半截竹管状工具による横位平行沈線が施された後、同工具による上下二段の鋸歯状平行沈線施文。残存部最下位の横位沈線は、鋸歯状沈線施文後に施されている。	諸磯b
230	J-1住10区ﾍﾞﾙﾄ1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文が横位・縦位・斜位・弧状に施される。	諸磯b
231	J-1住11区2層	深鉢	普通	砂粒・黒色粒・石英・角閃石		胴部に単節RLの縄文を横位充填。底面はミガキ調整。内面は横位のナデ調整。	諸磯 b

第 72 表　人見東中原遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
232	J-1住3区1層№1	壺	良好	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・角閃石含	頸部～胴部	頸部は縦方向の磨き。頸部から胴部にかけて大型の把手1基と小型の橋状突起2基が配置される。胴部には楕円文、「C」字状文、逆「U」字状文を施文。文様区画内に単節RLの縄文を縦位充填施文。文様間は磨消。	加曽利ＥⅢ
233	J-1住3区1層№2	深鉢	普通	砂粒・黒色粒含	口縁部～底部	口唇部に小突起を配置するものと思われる。口縁部に1条の沈線が廻る。胴部に沈線による「U」字、逆「U」字状文を連続施文したのち単節LRの縄文を縦位充填施文。底面はナデ調整。	加曽利ＥⅢ
234	J-1住2区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	残存部においては無文である。	加曽利ＥⅢ
235	J-1住16区1層	深鉢	普通	砂粒・灰色礫含	口縁～胴部上端片	内反する4単位波状口縁と想定される。口縁部に幅の狭い無文帯を有し、下位に丸棒状工具による横位沈線が施される。胴部、区画内には棒状又は板状工具による列点状刺突が施文される。胴部、単節LR縄文が施文され、丸棒状工具による逆U字状沈線で区画される。	加曽利ＥⅢ
236	J-1住12区1層・16区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	縦位条線施文後、丸棒状工具による幅広で浅い蛇行沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
237	J-1住4区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部下端～底部片	残存部においては無文である。	加曽利ＥⅢ
238	J-2 U-1	深鉢	普通	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・石英・角閃石含	口縁部～胴部	口縁部に隆帯による楕円区画。下端を沈線で縁取る。区画内に単節RLの縄文を横位充填施文。胴部には2ないし3条1帯の懸垂文を施文。懸垂文間に単節RLの縄文を縦位充填施文。懸垂文内は磨消。	加曽利ＥⅢ
239	J-2 U-2	深鉢	良好	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・角閃石含	口縁部～胴部	口縁部に隆帯による楕円区画。区画内に単節RLの縄文を斜位充填施文。胴部に2条1帯の懸垂文を施文。懸垂文間に単節RLの縄文を斜位充填施文。懸垂文内は磨消。	加曽利ＥⅢ

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
240	J-2住10区1層	鉢?	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～体部上位片	やや内反する平縁口縁と想定される。無文。外面の調整がやや雑である。	加曽利ＥⅢ
241	J-2住13区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	4単位波状口縁と想定される。隆帯と丸棒状工具による沈線で区画される。一部の区画内に単節LR縄文が施文される。	加曽利ＥⅢ
242	J-2住15区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部片	縦位基調条線が施される。	加曽利ＥⅢ
243	J-2住炉内	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部下端片	単節LR縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線で区画される。	加曽利ＥⅢ
244	J-2炉№1	器台	普通	砂粒・角閃石・白色粒含	完形	外面及び天井部をナデ調整。側面に円孔７基。円孔脇に単節ＬＲの縄文を縦位施紋。円孔間に「C」字文、逆「C」字文、「O」字文を施文。内面は黒色処理され、良く研磨される。	加曽利ＥⅢ
245	J-3炉内U-1	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部上位～底部1/3	胴部中央付近において文様構成が変化する深鉢と想定される。上半部､残存部が少ないためモチーフの詳細は不明であるが､単節L縄文施文後、棒状工具による深めの沈線により区画される。一部の縄文磨り消し。下半部、単節L縄文施文後、同工具による沈線により波状に区画される。一部の縄文磨り消し。全体的に施文が雑である。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ
246	J-3炉内U-1	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石含	胴部中位～底部1/4	胴部中央部に括れを有し、文様帯の変換点となっている。上半部、無節L縄文施文後、棒状工具による深めの沈線により区画される。一部の縄文磨り消し。下半部、無節L縄文施文後、同工具による沈線により逆Ｕ字状に区画される。一部の縄文磨り消し。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ
247	J-3U-2	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～底部1/2	上半部が内反する４単位波状口縁。胴部中央部に顕著な括れを有し、文様帯の変換点となっている。上半部、単節RL縄文施文後、棒状工具による深めの沈線により蕨手状・変形三角形状に区画される。一部の縄文磨り消し。下半部、単節RL縄文施文後、同工具による沈線により逆Ｕ字状に区画される。一部の縄文磨り消し。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ
248	J-3住2区1層	ミニチュア	良好	砂粒・黄橙色粒・角閃石含	ほぼ完形	内外面及び底面ともよく磨かれる。口縁部付近に輪積み痕跡が残る。	中期後半
249	J-3住P-10	深鉢	普通	砂粒含	胴部中位片	胴部中位の器形変換点付近の破片と想定される。単節LR縄文施文後、丸棒状工具による沈線で区画される。一部の区画内は磨り消しが施される。	加曽利ＥⅣ
250	J-3住P-1	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	単節LR縄文が施される。並行する2条の縦位隆帯により区画される。隆帯間は無文である。	加曽利Ｅ
251	J-3住P-10	深鉢	普通	砂粒含	胴部中位～底部1/10	丸棒状工具による縦位沈線で区画される。一部の区画内に単節RL縄文が施される。沈線の施文技術・方法が稚拙な印象である。	加曽利ＥⅢ
252	J-4U-1	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部中位1/8	胴部中位の器形変換点より上位の破片。口縁部が内反する平口縁である。口縁部に丸棒状工具による幅広で浅い横位沈線が施される。胴部、単節LR縄文施文後、同工具による二重の逆Ｕ字状沈線で６単位に区画される。	加曽利ＥⅢ
253	J-4住P-5	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・赤褐色鉱物含	口縁～胴部上端片	4単位波状口縁と想定される。隆帯と丸棒状工具による沈線で区画される。一部の区画内に単節LR縄文が施文される。	加曽利ＥⅢ
254	J-4住P-2	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部中位片	胴部中央付近でＵ字状・逆Ｕ字状に区画される深鉢と想定される。単節RL縄文施文後、丸棒状工具による沈線で区画される。	加曽利ＥⅢ
255	J-5住12区1層№1	深鉢	普通	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・角閃石含	ほぼ完形	口縁部に隆帯による渦巻文区画。区画内に単節RLの縄文を横位充填施文。胴部に逆「U」字状文と2条1帯の懸垂文を施文。懸垂文間に単節RLの縄文を縦位充填施文。懸垂文内は磨消。底面はナデ調整。	加曽利ＥⅢ
256	J-5住6区1層№1	壺	良好	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・角閃石含	頸部～底部	3条1帯の懸垂文を施文。懸垂文間に単節RLの縄文を斜位充填施文。懸垂文内は磨消。胴部に橋状把手を1基取付。把手背面に逆「S」字状文。	加曽利ＥⅢ
257	J-5住4区1層№1	深鉢	普通	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・角閃石含	口縁部欠損するがほぼ完形	口唇部に1単位の小突起を配置する。胴部上半に「U」字及び逆「U」字状文を連続施文。胴部下半に逆「U」字状文を施文。胴部上半には単節RLの縄文と無節Lの縄文を斜位充填施文。文様内は磨消。胴部下半には文様区画内のみ単節RLの縄文を斜位充填施文。底面はナデ調整。	加曽利ＥⅢ
258	J-5住D-1№1	深鉢	良好	砂粒・黄橙色粒・白色粒・チャート含	ほぼ完形	胴部上半に1条の「U」字及び逆「U」字状文を連続施文。「U」字状文内にS字文、逆「U」字状文内に楕円文を施文。胴部下半には逆「U」字状文と蕨手文を交互施文。口唇部に単節RLの縄文を横位施文。胴部上半及び下半の文様区画内に単節RLの縄文を縦位充填施文する。各文様区画内は磨消。底面はナデ調整。	加曽利ＥⅢ
259	J-5住7区1層	深鉢	普通	砂粒・黄橙色粒・白色粒含	口縁部～胴部	口唇部に7単位の小突起を配置。口縁部に横位S字状隆帯区画。区画内に櫛歯状工具による渦巻文を施文。櫛歯7以上。胴部には同様の工具による同心円文を多段に施文したのち、棒状工具による懸垂文を施文。	加曽利ＥⅢ
260	J-5住3区1層№1	深鉢	普通	砂粒・石英・角閃石	口縁～胴部中位片	４単位小波状口縁。口縁部、隆帯により区画される。区画内LR縄文施文。波状口縁下位には渦巻き状隆帯が施される。胴部、丸棒状工具による２条一組の縦位沈線で区画される。沈線間磨り消し。区画内にはLR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
261	J-5住10区ﾍﾞﾙﾄ2層	不明	良好	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含	口縁部状～体部状下位片	ミニチュア鉢状の体部上位に把手状のものが施される。内面は横撫で。外面は磨き。	加曽利ＥⅢ
262	J-5住3区2層№2+7区1層+3区2層+3区1層	鉢	普通	砂粒・黄橙色粒・角閃石含	胴部～底部	胴部上半に2条1帯の「U」字及び逆「U」字状文を連続施文。「U」字状文上にS字文を施文。胴部下半には逆「U」字状文を施文。単節RLの縄文を縦位充填施文し、各文様区画内を磨消。底面はナデ調整。	加曽利ＥⅢ
263	J-5住2区1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	丸棒状工具による3本1単位の縦位沈線で区画される。区画内には単節RL縄文が施される。縄文施文後、一部に緩やかに蛇行する縦位沈線が施される（不明瞭である）。	加曽利ＥⅢ
264	J-5住7区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	隆帯により口縁部を連続する楕円形又は半月形に区画する。区画内、単節RL縄文施文後、丸棒状工具により隆帯内側に浅い沈線が施される。隆帯による区画連結部より、同工具による沈線(3条1単位か）を垂下させていると想定される。	加曽利ＥⅢ
265	J-5住10区ﾍﾞﾙﾄ1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	丸棒状工具による浅い沈線で、口縁部を連続する楕円形に区画する。区画内、単節LR縄文施文。楕円区画連結部より、沈線を垂下させていると想定される。	加曽利ＥⅢ
266	J-5住4区1層	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上端片	内反する口縁。口縁部、丸棒状工具による列点状刺突が施される。胴部、同工具による2本又は3本1単位の逆U字状沈線で区画される。区画後単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
267	J-5住6区2層	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上端片	内反する平縁口縁と想定される。口縁部、板状工具による縦位短沈線を連続して施す。胴部、RL縄文施文。丸棒状工具による逆U字状沈線により区画される。さらに、沈線の区画内に蕨手状と想定される沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
268	J-5住8区1層	鉢?	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	顕著に内反する平縁口縁と想定される。口縁部、丸棒状工具による横位沈線が施される。この沈線下位には、同工具による弧状沈線が連続して施され、沈線連結部には棒状工具による刺突が認められる。胴部、単節LR縄文が施文される。	加曽利ＥⅢ
269	J-5住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上端片	4単位小波状口縁と想定される。隆帯と隆帯に並行する沈線で区画される。隆帯上に大きめの円形刺突が施される。胴部、丸棒状工具による弧状（又は逆U字状）沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
270	J-5住2区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上位片	やや内反する口縁。丸棒状工具による縦位直線状・蕨手状沈線により区画される。一部の区画内、単節LR縄文施文。	加曽利ＥⅢ
271	J-5住6区2層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石含	口縁部片	内反する波状口縁の波頂部。波頂部側面には浅いＵ字状沈線が施される。口縁部文様帯を楕円形・円形に区画しRL縄文が施される。胴部にも同縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
272	J-5住2区1層	深鉢	普通	砂粒・角閃石含	口縁～胴部上位片	やや内反する4単位波状口縁と想定される。丸棒状工具による沈線で区画される。一部の区画内に単節LR縄文が施文される。不明瞭であるが、波頂部下位に幅の広い円形の沈線状窪みが認められる。	加曽利ＥⅢ
273	J-5住11区ﾍﾞﾙﾄ1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁部片	残存部においては無文である。	加曽利ＥⅢ
274	J-5住3区1層	深鉢	不良	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	やや内反する平縁口縁と想定される。不明瞭ではあるが、縦位条線が施される。	加曽利ＥⅢ
275	J-5住10区1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部上位片	丸棒状工具による沈線で逆U字状に区画される。区画内には単節RL縄文が施される。また、一部に蕨手状沈線が施文される。	加曽利ＥⅢ
276	J-5住5区2層	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	縦位条線施文後、丸棒状工具による幅広で浅い縦位沈線が施される。沈線間の条線は磨り消し。さらに、一部に丸棒状工具による縦位蛇行沈線が施される。全体的に雑な作りという印象である。	加曽利ＥⅢ
277	J-5住7区1層	鉢又は壺	良好	砂粒含	胴部上位片	幅広の橋状把手が貼付される。胴部には弧状条線が施される。条線施文後、丸棒状工具による浅い沈線が施されているが、残存部が少なく沈線のモチーフは不明である。	加曽利ＥⅢ
278	J-5住3区1層	ﾐﾆﾁｭｱ?	普通	砂粒含	胴部下位～底部片	残存部においては無文である。	加曽利ＥⅢ
279	J-5住9区ﾍﾞﾙﾄ2層	深鉢又は鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴部下位～底部片	底部端部に明確な稜がなく、丸味を持ち胴部へと立ち上がっていく。残存部においては無文である。	加曽利ＥⅢ
280	J-5住10区ﾍﾞﾙﾄ1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部下位～底部片	残存部においては無文である。	加曽利ＥⅢ
281	J-5住7区1層	土製品	良好	砂粒含	1/2（摘み欠損）	摘み部が欠損したスタンプ形土製品。渦巻き状沈線が施される。外周に沿い細めの棒状工具による刺突が施される。	加曽利ＥⅢ
282	J-6住7区3層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	やや内反する双頭波状口縁。波頂部より口縁に並行し丸棒状工具による沈線が施される。沈線と口縁間に、同工具による列点状刺突が施される。胴部、単節LR縄文施文後、丸棒状工具による3条1単位の縦位沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
283	J-6住10区1層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁部片	単節RL縄文施文後、丸棒状工具により楕円形に区画される。	加曽利ＥⅢ
284	J-6住5区1層	片口?	良好	砂粒含	口縁～胴部上端片	やや内反する口縁。残存部が少なく断定はできないが、口縁の一部が外側へ湾曲する片口土器と想定される。外面無文。意図的調整かどうか不明であるが、片口部内面に沈線状の調整痕が認められる。	加曽利ＥⅢ
285	J-6住1区1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部下位片	胴部下端付近と想定される。丸棒状工具による2条1単位の縦位沈線で区画される。残存部上位の一部に、不明瞭であるが縄文（単節LRか）が認められる。器面調整が雑である。	加曽利ＥⅢ
286	J-6住2区1層	深鉢	良好	砂粒含	胴部片	丸棒状工具による縦位沈線で区画される。一部の区画内に単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
287	J-7住7区1層	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上端片	内反する口縁。単節LR縄文施文後、縦位・横位の隆帯で区画される。隆帯に並行し、丸棒状工具による沈線が施される。口縁部には幅の狭い無文帯が認められる。	加曽利ＥⅣ
288	J-7住10区ﾍﾞﾙﾄ1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁部片	やや内反する口縁。単節LR縄文施文後、丸棒状工具による沈線で区画される。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ
289	J-7住6区1層	深鉢	良好	砂粒含	胴部片	丸棒状工具による縦位沈線（2条1単位か）で区画される。区画内、単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
290	J-7住7区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒含	胴部下位～底部破片	残存部においては無文である。	加曽利ＥⅢ
291	J-7住7区1層	深鉢	不良	砂粒・礫含	胴部下位～底部1/10	摩滅・剥離のため、調整不明瞭である。丸棒状工具による縦位沈線（3条1単位か）で区画される（8分割か）。一部の区画に単節LR縄文が施文される。	加曽利ＥⅢ
292	J-8住U-2№1	深鉢	良好	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・角閃石含	胴部～底部	胴部に2条1帯の懸垂文を施文。懸垂文間に単節RLの縄文を斜位充填施文。懸垂文内は磨消。底面はナデ調整。	加曽利ＥⅢ
293	J-8住U-1	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部に丸棒状工具による幅広で浅い横位沈線が施される。胴部、同工具による蕨手状・逆Ｕ字状・弧状等の沈線で区画される。一部に単節LR縄文が充填される。	加曽利ＥⅢ
294	J-8住12区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	内反する4単位波状口縁と想定される。波頂部より、丸棒状工具による沈線が口縁に並行するように施される。区画内には棒状又は板状工具による列点状刺突が施文される。胴部、単節RL縄文が施文され、丸棒状工具による2条1単位の逆U字状沈線で区画される。丁寧な作りで、精製の感が強い。	加曽利ＥⅢ
295	J-8住13区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	内反する口縁。口縁部、丸棒状工具による横位沈線が施され、沈線上位に列点状刺突が施文される。胴部、丸棒状工具による沈線で逆U字状に区画され、単節RL縄文が施文される。	加曽利ＥⅢ

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
296	J-8住U-2№2	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色礫含	胴部中位片	胴部中位の器形変換点付近の破片と想定される。丸棒状工具による沈線で、U字状又は逆U字状に区画される。一部の区画内に単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ
297	J-9住2区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上位片	棒状工具による沈線で横位直線状・剝先状・O字状等に区画される。一部の区画内に同工具による刺突が施される。	称名寺Ⅱ
298	J-9住2区1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	棒状工具による沈線で弧状・O字状等に区画される。一部の区画内に同工具による刺突が施される。	称名寺Ⅱ
299	J-9住2区1層	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	口縁部に横位隆帯が施される。隆帯上には棒状工具又は半截竹管状工具による連続刺突が施される。	後期前半
300	J-9住10区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	やや内反する平縁口縁と想定される。楕円形又は不整形な貼付文(?)が残存部において3個施されている。表面に剥離痕が認められるものもある。鎖状加飾隆帯の一部が剥離して欠損した可能性が考えられる。	称名寺Ⅱ
301	J-10住9区1層	鉢?	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	内反する平縁口縁と想定される。口縁部に丸棒状工具による横位沈線が施される。沈線より上位は無文。胴部、単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
302	J-10住13区1層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上端片	内反する平縁口縁と想定される。口縁部、丸棒状工具により楕円形に区画される。区画内外に無節L縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
303	J-10住14区1層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上端片	内反する平縁口縁と想定される。口縁部、丸棒状工具により楕円形（又は半月状）に区画される。区画内に無節L縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
304	J-11炉U-1	深鉢	普通	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・石英・角閃石含	口縁部～胴部	口唇部に2単位の小突起を配置するものと思われる。口縁部に小突起より延びる1条の沈線が廻る。胴部には逆「U」字状文を施文し、単節RLの縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ
305A	J-11住U-1	鉢	良好	砂粒・黄橙色粒・角閃石含	口縁部～胴部	口縁部から頸部にかけて横位磨き。頸部から胴部にかけて小突起と橋状把手が対角状に1対ずつ配置される。胴部上半に楕円区画文と三日月状区画文。その直下と両区画文間に懸垂文を施文。単節RLの縄文を区画文内は横位、胴部には縦位に施文したのち、懸垂文内を磨消。	加曽利ＥⅢ
305B	J-11住U-1	鉢底部	良好	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・角閃石含	底部3/4	外面及び底面をナデ調整。内面は黒色処理され、良く研磨される。	加曽利ＥⅢ
306	J-11住№1+2区2層+5区2層	鉢	良好	砂粒・白色鉱物・角閃石含	口縁～体部下位1/6	体部上位で内反し、口縁部はほぼ直立する。口縁部無文。体部、単節RL縄文施文後、丸棒状工具にによる３条一組の縦位沈線で区画される。沈線間は磨り消し。また一部は２条一組の蕨手状沈線で区画される。残存部右端に把手剥落の痕跡が認められる。体部上位に２個一対の橋状把手が貼付されていたと想定される。	加曽利ＥⅢ
307	J-11炉内U-1	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	やや内反する口縁。口縁部に幅広で浅い横位沈線が施される。胴部、丸棒状工具による逆U字状沈線で区画される。区画内外に単節RL縄文が施文される。	加曽利ＥⅢ
308	J-11住№2	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴部上位～中位片	残存部最上位、隆帯により区画される。胴部、丸棒状工具による2本1単位の縦位沈線で区画される。区画内、単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
309	J-11住12区ﾍﾞﾙﾄ2層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴部上位～中位片	残存部最上位、隆帯により楕円形又は半月形に区画される。胴部、丸棒状工具による2本1単位の縦位沈線で区画される。区画内、単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
310	J-11住8区2層・12区2層・12区ﾍﾞﾙﾄ2層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	丸棒状工具による2本1単位の縦位沈線で区画される。区画内、単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
311	J-11住4区2層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	丸棒状工具による2本1単位の縦位沈線で区画される。区画内、単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
312	J-11住№1	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	丸棒状工具による2本1単位の縦位沈線で区画される。区画内、単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
313	J-11住5区2層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	丸棒状工具による縦位沈線で区画される。一部の区画内に単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
314	D-3	鉢	良好	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・角閃石含	口縁部～底部	口縁部から頸部にかけて横位磨き。頸部に渦巻文を配する1条の隆帯区画。隆帯と連携するように頸部から胴部にかけて大型の橋状把手が1対配置される。胴部には2条1帯の懸垂文を施文。懸垂文間に単節LRの縄文を縦位施文。懸垂文内は磨消。	加曽利ＥⅢ
315	D-13	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上位片	口縁部下位に断面三角形の横位隆帯が施される。	後期前半
316	D-23	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	単節LR縄文を疎らに施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。沈線文間及びその上下に、同工具による刺突を矢羽根状に連続して施し、浮線文に近い文様形態を呈している。	諸磯b
317	D-29	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上端片	やや内反する口縁。口縁部最上位、口縁に並行し丸棒状工具による浅く幅広の沈線が施される。隆帯により区画（楕円形か）し、区画内に単節RL縄文が施文される。	加曽利ＥⅢ
318	D-33 U-1	深鉢	良好	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・角閃石含	胴部～底部	胴部に2条1帯の懸垂隆帯を施文。懸垂隆帯間に単節RLの縄文を斜位充填施文。懸垂隆体内は磨消。底面はナデ調整。	加曽利ＥⅢ
319	D-33 U-1	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上端片	やや内反する平縁口縁と想定される。口縁部に無文帯を有する。胴部、横位・縦位隆帯により区画される。一部の区画内に単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅣ
320	D-38	深鉢	普通	砂粒・灰色礫含	口縁～胴部中位片	口縁部、隆帯により楕円形・横位蕨手状に区画される。区画内、残存部においては無文。胴部、櫛歯状工具による縦位基調条線施文後、幅広で浅い蛇行沈線を垂下させる。	加曽利ＥⅢ
321	D-38	深鉢	普通	砂粒・灰色礫・角閃石含	口縁～胴部上位片	口縁部、隆帯により楕円形に区画される。区画内、残存部においては無文。胴部、櫛歯状工具による縦位基調条線施文後、幅広で浅い蛇行沈線を垂下させる。	加曽利ＥⅢ
322	D-32	深鉢	普通	砂粒・黒色粒・石英・角閃石	口縁部～胴部上半	密接する山形押型文を口唇下に横位、口縁部に斜位、胴部に横位施文。内面は横位の丁寧なナデ調整。	押型文（細久保式）
323	3P-594b	深鉢	普通	砂粒・雲母含	口縁～胴部上位片	やや外反する平口縁と想定される。上位より楕円形・山形押型文が交互に施される。	早期押型文
324	S-2	深鉢	普通	砂粒含	口縁部片	やや外反する平口縁と想定される。山形押型文が施される。焼成後に穿たれた孔を有する。補修孔か。	早期押型文

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
325	4B-598d	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁部片	山形押型文が施される。	早期押型文
326	M-7溝1区	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	外面摩滅している。山形押型文が施される。	早期押型文
327	4F-580d	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	外面摩滅している。山形押型文が施される。	早期押型文
328	3X-579b	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母含	胴部片	山形押型文・市松模様状押型文が施される。	早期押型文
329	M-9溝3区	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母含	口縁部	押型文系で格子目文が施される。	早期押型文
330	3V-594c	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	楕円形押型文が施される。部分的に押型文が不明瞭である（指頭圧痕か）。	早期押型文
331	4E-592c	深鉢	普通	砂粒・植物繊維含	胴部片	単節LR縄文が施文される。半截竹管状工具による連続刺突が横位に施される。	前期中葉
332	M-11溝2区	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上端片	単節RL縄文施文後、半截竹管状工具による縦位・斜位の平行沈線が施される。斜位平行沈線上に同工具による連続刺突が施される。	諸磯b
333	M-11溝2区	深鉢	普通	砂粒・片岩・金雲母含	口縁～胴部上端片	やや外反する平縁口縁と想定される。半截竹管状工具による横位平行沈線が施される。一部の沈線部分に同工具による連続刺突が施される。施文方法が雑であり、稚拙な印象が強い。	諸磯b
334	M-11溝3区	深鉢	良好	砂粒	口縁部	単節縄紋地紋（RL）。口縁部を細い半截竹管状工具による爪型紋で横位区画。区画内に同様の工具による平行沈線で肋骨文。口唇部にキザミ。内面は横位ミガキ。	諸磯b
335	M-11溝3区	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	やや外反する平縁口縁と想定される。単節LR縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線又は単沈線が施される。沈線部分に同工具による連続刺突が施される。	諸磯b
336	M-4溝4区	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	やや外反する4単位波状口縁と想定される。残存部波頂部は双頭状を呈している。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線が施される。一部に円形の孔（焼成後）を有する。補修孔であると考えられる。	諸磯b
337	M-11溝3区	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物含	胴部片	単節RL縄文施文後、3本1単位の櫛歯状工具による横位平行沈線・鋸歯状沈線が施される。	諸磯b
338	M-11溝2区	深鉢	やや不良	砂粒・石英・片岩・金雲母含	胴部片	外面摩滅している。半截竹管状工具による横位直線状・鋸歯状平行沈線が施される。	諸磯b
339	M-7溝4区	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	細い半截竹管状工具による横位・楕円爪形文が施される。	諸磯b
340	4F-593a	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	横位直線状浮線文が施される。	諸磯b
341	3Q-594b	深鉢	普通	砂粒含	胴部上位片	横位直線状浮線文（粘土紐貼付後、半截竹管状工具による連続刺突）が施される。	諸磯b
342	3P-594d	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	横位直線状・弧状浮線文が施される。	諸磯b
343	3X-588c	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	単節LR縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線が施される。	諸磯b
344	3X-588c	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	胴部中位の器形屈曲点付近の破片と想定される。単節RL縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線が施される。	諸磯b
345	3U-590a	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	単節RL縄文施文後、細めの半截竹管状工具による横位平行沈線が施される。	諸磯b
346	3X-588a	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	単節RL縄文施文後、細めの半截竹管状工具による横位平行沈線が施される。	諸磯b
347	M-7溝4区	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	単節RL縄文施文後、半截竹管状工具による横位直線状平行沈線・斜位平行沈線が施される。斜位平行沈線は矢羽根状を呈する。	諸磯b
348	3X-600b	深鉢	良好	砂粒含	胴部上位片	胴部上位において顕著に内反する4単位波状口縁で、胴部上位に当たる器形屈曲部下位が残存していると想定される。単節LR縄文施文後、半截竹管状工具による斜位平行沈線が施される。	諸磯b
349	3U-598a	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	単節RL縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線が施される。	諸磯b
350	3T-598c	深鉢	良好	砂粒・白色礫含	胴部片	単節RL縄文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位の平行沈線が施される。	諸磯b
351	3U-598a	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	単節LR縄文を疎らに施文後、細めの半截竹管状工具による横位直線状・弧状、斜位平行沈線が施される。	諸磯b
352	3U-598a	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部片	単節LR縄文を疎らに施文後、細めの半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線が施される。	諸磯b
353	3R-594a	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物含	胴部片	半截竹管状工具による横位・斜位・弧状の平行沈線が施される。	諸磯b
354	4B-598c	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	胴部上位において顕著に内反する4単位波状口縁と想定される。口縁部から器形屈曲部付近が残存している。細めの半截竹管状工具による平行沈線施文後、沈線部に細めの棒状工具による刺突が連続して施される。	諸磯b
355	3U-598a	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	縄文（不明瞭、単節LRか）施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線が施される。	諸磯b
356	3R-589a	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上位片	胴部上位において顕著に内反する4単位波状口縁と想定される。口縁部から器形屈曲部付近が残存している。残存部上位が波頂部になると考えられる。縄文（不明瞭、単節LRか）施文後、細めの半截竹管状工具による弧状・渦巻き状平行沈線が施される。	諸磯b
357	4C-590a	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	胴部上位片	胴部上位において顕著に内反する4単位波状口縁と想定される。口縁部下位から器形屈曲部付近が残存している。残存部上位が波頂部になると考えられる。単節RL縄文施文後、細めの半截竹管状工具による弧状・渦巻き状平行沈線が施される。	諸磯b
358	4F-592b	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	胴部上位において顕著に内反する4単位波状口縁と想定される。口縁部から器形屈曲部付近が残存している。残存部上位が波底部になると考えられる。縄文（不明瞭、単節LRか）施文後、細めの半截竹管状工具による横位直線状・弧状平行沈線が施される。	諸磯b
359	4F-590c	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	胴部上位において顕著に内反する4単位波状口縁と想定される。口縁部から器形屈曲部下位付近までが残存している。半截竹管状工具端部による2個1対の刺突が、連続して横位直線状に施される。屈曲部下位は強めの刺突が施され、一部爪形文に近い文様形態を呈している。	諸磯b

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
360	4C-598d	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	胴部上位において顕著に内反する4単位波状口縁と想定される。口縁部から器形屈曲部下位付近までが残存しており、残存部上位が波底部になると考えられる。屈曲部上位、半截竹管状工具による平行沈線施文後、同工具による連続刺突が沈線上とその両側に矢羽根状に施される。屈曲部下位、LR縄文施文後、屈曲部上位と同様の文様が施される。	諸磯b
361	3Y-550	深鉢(ミニチュア)	良好	砂粒含	口縁～胴部下位	やや内反する口縁。半截竹管状工具による横位平行沈線により、数段の文様帯に区画される。第１文様帯、同工具による弧状・渦巻き状沈線が施される。第２文様帯以下には矢羽根状沈線が施される。	諸磯b
362	3X-589c	深鉢	普通	砂粒・角閃石含	口縁～胴部上端片	胴部上位において顕著に内反する4単位波状口縁と想定される。口縁部から器形屈曲部下位付近までが残存しており、残存部上端中央が波頂部である。半截竹管状工具端部による2個1対の刺突を連続させ、横位直線状・楕円形状に区画される。屈曲部下位は強めの刺突が施され、一部爪形文に近い文様形態を呈している。	諸磯b
363	4B-599d	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	胴部上位において顕著に内反する4単位波状口縁と想定される。口縁部から器形屈曲部下位付近までが残存している。残存部上位が波底部になると考えられる。縄文（不明瞭、単節RLか）施文後、細めの半截竹管状工具による横位直線状平行沈線が施される。屈曲部上位の沈線には、沈線上に同工具による連続刺突が施される。	諸磯b
364	4B-597c	深鉢	良好	砂粒・石英・片岩含	口縁～胴部上端片	胴部上位において顕著に内反する4単位波状口縁と想定される。口縁から器形屈曲部が残存している。半截竹管状工具による平行沈線が横位・斜位・縦位に施される。	諸磯b
365	3I-590a	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・角閃石含	口縁～胴部上位片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部、隆帯により不整形に区画される。区画内にRL縄文が施される。胴部、丸棒状工具による３条一組の縦位沈線で区画される。区画内にRL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
366	3I-590a	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部中位片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部､隆帯により楕円形に区画される。隆帯の一部は剥落している。区画内にはRL縄文が施される。胴部､丸棒状工具による縦位沈線で区画される。一部の沈線の上端は蕨手状を呈する。また、区画内にはRL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
367	3G-587b№1	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部中位片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部、隆帯と隆帯に並行する沈線により楕円形又は半月形に区画される。一部の区画内にはRL縄文が施される。胴部、２条一組の弧状隆帯が施される。また、一部にRL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
368	3J-595d	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上位片	やや内反する口縁。口縁部、隆帯により区画し、区画内に単節LR縄文が施される。胴部、丸棒状工具による浅い縦位沈線で区画し、区画内に単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
369	3U-584b	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上位片	やや内反する口縁。隆帯により区画し、一部の区画内に単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
370	3I-590a	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上位片	内反する平縁口縁と想定される。丸棒状工具による2条の並行する逆U字状沈線で区画される。区画内外を単節RLで充填されている。	加曽利ＥⅢ
371	3G-588a	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上位片	やや内反する4単位波状口縁と想定され、波頂部付近が残存している。波頂部の一部に厚みを持たせ、中央を窪ませている。丸棒状工具による浅い沈線で楕円形に区画される。区画内外に単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
372	3I-590b	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色礫含	胴部最上位片	残存部最上部に、口縁部無文帯の一部と想定される部分が認められる。このため、残存部は胴部最上位と考えられる。櫛歯状工具による縦位条線が施される。	加曽利ＥⅢ
373	3H-591c	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色鉱物含	口縁～胴部上位片	内反する口縁。隆帯により区画（楕円形か）される。区画内と胴部に単節LR縄文が施文される。丸棒状工具による縦位直線状・蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
374	3U-585c	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	内反する口縁。隆帯により区画（楕円形か）される。区画内と胴部に単節LR縄文が施文される。不明瞭ではあるが、残存部左下位に丸棒状工具による縦位直線状沈線が施されている。	加曽利ＥⅢ
375	3F-587a	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	内反する口縁。丸棒状工具による幅広で浅い沈線で区画（楕円形か）される。区画内にLR縄文が施文される。	加曽利ＥⅢ
376	3K-595c	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上位片	やや内反する口縁。隆帯により横位・縦位・斜位に区画される。隆帯の両側に丸棒状工具による撫でが施され、一部は沈線状を呈する。また、一部の隆帯は中央に同工具による沈線が施され、断面はM字状を呈する。胴部には単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
377	3I-590a	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	やや内反する口縁。口縁部に横位微隆帯状を呈する区画を有する。微隆帯上は丸棒状工具又は篦状工具による撫でが施される。胴部、単節RL縄文が施文される。	加曽利ＥⅢ
378	3H-589b	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上端片	内反する平縁口縁と想定される。丸棒状工具による沈線で区画される。一部の区画内に、単節LR縄文が施文される。口縁部に棒状工具による列点状刺突が2段施される。	加曽利ＥⅢ
379	3M-588a	深鉢又は鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	内反する波状口縁と想定される。口縁に並行し、丸棒状工具による列点状刺突が2段施される。刺突文下位で内側に大きく屈曲する。屈曲点の外面は、顕著な稜をなしている。	加曽利ＥⅢ
380	3L-588c	深鉢又は鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	内反する波状口縁と想定される。口縁に並行し、丸棒状工具による列点状刺突が2段施される。刺突文下位で内側に大きく屈曲する。屈曲点の外面は、顕著な稜をなしている。	加曽利ＥⅢ
381	3K-580c	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物・片岩含	口縁～胴部上端片	口縁部内反し、内面最上位に断面三角形の稜を有する。丸棒状工具による横位沈線により、口縁部文様帯が区画される。口縁部文様帯内、棒状工具による列点状刺突が施される。胴部、単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
382	3S-591a	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	口縁部下位に、円形貼付文が横位に連続して施される。	(後期前半?)
383	3K-588b	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上端片	隆帯により口縁部文様帯が区画される。口縁部文様帯内、棒状工具による列点状刺突が2段施される。欠損して残存しないが、一部に橋状把手が施されていたと想定される。胴部、棒状工具による縦位弧状沈線を組み合わせて区画し、一部の区画内に単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
384	3Y-599c	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	やや内反する口縁。口縁部、丸棒状工具による横位沈線が施される。胴部、同工具による逆U字状沈線で区画され、一部の区画内に単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ
385	3L-588a	深鉢	良好	砂粒・片岩・ﾁｬｰﾄ含	口縁部片	波状口縁と想定される。口縁部、棒状工具による列点状刺突、横位沈線が施される。胴部にはRL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
386	3F-587d	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上位片	やや内反する平縁口縁と想定される。口縁部、丸棒状工具による横位沈線が施される。胴部、丸棒状工具による逆U字状沈線で区画される。区画内、単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ
387	3L-591d	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	やや内反する口縁。櫛歯状工具による弧状（又は渦巻き状）条線が施される。	加曽利ＥⅢ
388	3G-587b	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	やや内反する平縁口縁と想定される。口縁部、丸棒状工具による沈線で区画（半月状か）される。胴部、同工具による縦位直線状・蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
389	4B-582c	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上端片	口縁部、丸棒状工具による浅い横位沈線が施される。胴部、丸棒状工具による逆U字状沈線で区画される。一部の区画に縦位条線が施される。	加曽利ＥⅢ
390	3N-585d	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上位片	やや外反する口縁。残存部においては無文である。補修痕と想定される焼成後の孔を有する。内面、丁寧な横位磨き。	加曽利ＥⅢ
391	3F-588c	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	単節LR縄文施文後、丸棒状工具による2条1単位の縦位平行沈線で区画される。一部は、沈線施文後に単節LR縄文が充填されている。	加曽利ＥⅢ
392	3I-591c	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	2条1単位の丸棒状工具による浅い縦位沈線で区画される。区画内に単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
393	3H-589d	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	隆帯により不整形に区画される。隆帯中央は、丸棒状工具による撫でにより窪んでおり、平行する2条の隆帯という形状を呈している。区画内に単節RL縄文が充填される。	加曽利ＥⅢ
394	3U-584a	器台	普通	砂粒含	脚部片	脚部中位に径1.5cm程の孔が穿たれる。外面、残存部においては無文である。	加曽利ＥⅢ
395	3G-588d	深鉢	普通	砂粒含	胴部下位～底部	小型の深鉢。丸棒状工具による浅い沈線で縦位に区画される。沈線は２条一組で４単位に区画か。	加曽利ＥⅢ
396	J-12住10区1層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁部片	やや外反する平縁口縁と想定される。単節RL縄文が施される。	諸磯
397	J-12住14区2層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維含	胴部片	単節RL縄文施文後、半截竹管状工具によるコンパス文が施される。	前期前葉～中葉
398	J-12住6区2層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維含	胴部片	付加条縄文が施される。	前期前葉～中葉
399	J-12住16区2層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維含	胴部片	異条斜縄文（正反の合）が施される。	前期前葉～中葉
400	J-12住P-1	深鉢	不良	砂粒・黒色鉱物・植物繊維含	胴部片	胴部上位の器形屈曲部付近と想定される。単節RL縄文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文が施される。	前期前葉～中葉
401	J-12住5区1層	深鉢	普通	砂粒含・植物繊維含	胴部片	楕円形文が施される。	早期押型文
402	J-13住6区2層	深鉢	良好	砂粒含	胴部片	単節RL縄文が施される。	諸磯c
403	J-13住5区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上端片	上半部が２段にわたり内反する器形と想定される。口縁部には橋状把手が施される。横位に区画された文様帯が上位より３段残存する。第１文様帯、半截竹管状工具による結節浮線状文が波状に施される。波状上下の三角形部分には印刻が施される。第２文様帯も基本的には同様であるが、押し引きが弱いため、結節浮線状ではなく平行する列点状を呈する。第１文様帯と第２文様帯の境界には、横位結節浮線文が施される。第３文様帯、半截竹管状工具による刺突が施される。	十三菩提
404	J-13住13区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含	胴部片	半截竹管状工具により、縦位・斜位平行沈線が施された後、同工具による刺突を伴う円形貼付文、楕円形貼付文が施文される。	諸磯c
405	J-13住15区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	半截竹管状工具により、横位綾杉状沈線施文後、細めの粘土紐により波状貼付文が施される。	諸磯c併行
406	J-13住12区ﾍﾞﾙﾄ2層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上端片	半截竹管状工具により、横位・縦位・斜位平行沈線が施される。	諸磯c
407	J-13住12区ﾍﾞﾙﾄ1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	半截竹管状工具により、横位綾杉状沈線が施される。	諸磯c
408	J-13住6区2層	深鉢	不良	砂粒含	胴部中位～下位片	半截竹管状工具により、横位綾杉状沈線が施される。残存部下半は無文。全体的に摩滅している。	諸磯c
409	J-13住11区1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	半截竹管状工具により斜位平行沈線が施される。一部の区画のモチーフは菱形状を呈している。	諸磯c
410	J-13住9区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	半截竹管状工具により、縦位・斜位平行沈線が施される。円形貼付文が施文され、一部の貼付文には刺突が認められる。	諸磯c
411	J-13住9区1層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	半截竹管状工具により、縦位平行沈線が施される。円形・楕円形貼付文が施文され、円形貼付文には同工具による刺突が認められる。	諸磯c
412	J-13住15区2層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維含	口縁～胴部上端片	緩やかな4単位波状口縁と想定される。単節LR縄文施文後、半截竹管状工具押し引きによる間隔の広い爪形文が、口縁部に並行し2条施される。	前期前葉～中葉
413	D-39	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上端片	内反する口縁。半截竹管状工具による並行沈線が横位綾杉状に施される。刺突を伴う円形貼付文施文。剥離痕より楕円形貼付文も施されていたと想定される。口縁部に刻み状連続刺突が施される。	諸磯c
414	D-42	深鉢	普通	砂粒・植物繊維含	胴部片	単節RL縄文が施される。	前期中葉

第73表　人見西中原遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
415	J-1No.1	鉢	普通	砂粒・黒色粒・石英・角閃石	口縁部～底部	丸棒状工具による単沈線で横位区画。胴部に4条1の櫛歯状工具による条線を縦位充填。底面はナデ調整。内面は縦位のミガキ調整。	加曽利ＥⅢ
416	J-3 2S-519 4区 No.1+2R-520 1区	深鉢	普通	砂粒・黒色粒・石英	胴部下半	丸棒状工具による単沈線で懸垂文を施文。懸垂文内・間に5条１対の櫛歯状工具による条線を弧状充填。また、懸垂文内の一部に同様の条線を縦位充填。内面は縦位のミガキ調整。	加曽利ＥⅢ
417	J-3炉U-1	深鉢	普通	砂粒・石英・角閃石	胴部中位～底部	櫛歯状工具による縦位平行条線施文後、丸棒状工具による縦位沈線をが施される。	加曽利ＥⅢ
418	J-3 2S-520 5区No.1	鉢	普通	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・石英・角閃石	胴部～底部	肩部を断面が台形状の隆帯で区画、渦巻文貼付。胴部に丸棒状工具による単沈線で「Π」字状の懸垂文を施文。懸垂文内に単節LRの縄文を縦位充填。底面は器面荒れが著しい。内面は縦位ミガキ調整。	加曽利ＥⅢ
419	J-3住2R-519 15区	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上位片	口縁部、隆帯により楕円形区画か。区画内単節LR縄文施文後、丸棒状工具による浅い沈線が隆帯内側に並行して施される。楕円形区画連結部に丸棒状工具による刺突。胴部、単節LR縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線により区画される。一部の区画内に同工具による蛇行沈線を垂下させる。	加曽利ＥⅢ
420	J-3住2S-519 4区	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	口縁直下に太めの横位沈線が施される。その下位は弧状沈線により区画される。沈線以外の部分には単節RL縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
421	J-3住2S-519 7区	深鉢	普通	砂粒・植物繊維含	口縁～胴部上端片	4単位波状口縁と想定される。口縁に並行し、半截竹管状工具押し引きによる爪形文が2条施される。胴部、単節LR縄文が施される。	前期前葉～中葉
422	J-3住2S-519 3区	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	胴部片	単節LR縄文施文後、丸棒状工具による縦位直線状沈線で区画される。一部の区画内の縄文磨り消し。さらに、一部の区画内に同工具による蛇行沈線を垂下させる。	加曽利ＥⅢ
423	J-3住2S-519 3区	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	丸棒状工具による縦位沈線で区画される。区画内、半截竹管状工具による斜位平行沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
424	J-4 U-1	深鉢	普通	砂粒・黒色粒・石英・角閃石	口縁部～胴部上半	口唇部に4単位の突起を配置するものと推測される。口縁部を凹線で円・楕円状に区画。胴部に同様の凹線で逆「U」字状の懸垂文を施文。単節RLの縄文を口縁部区画内に横位、懸垂文間に縦位充填。内面は口縁部に横位の、胴部に縦位のミガキ調整。	加曽利ＥⅢ
425	J-4住2R-518 11区	深鉢	普通	砂粒含	口縁～胴部上端片	単節LR縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線で区画される。一部の区画内に同工具による蕨手状沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
426	J-4住P-1	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上端片	やや外反する平縁口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文が横位に並行して施される。爪形文間に連続する斜位短沈線施文。	諸磯b
427	J-4住2R-518 15区	深鉢	良好	砂粒・褐色鉱物含	口縁～胴部上端片	隆帯と隆帯に並行する沈線で区画される。区画内単節LR縄文が施される。	加曽利ＥⅢ
428	J-6 U-1No.1+No.2	深鉢	普通	砂粒・黒色粒・石英・角閃石	口縁部～底部	口縁部を凹線で波状に区画。胴部に同様の凹線による逆「U」字状の懸垂文を施文。懸垂文間に凹線による蕨手文を配置。口縁部区画内・懸垂文内に単節LRの縄文を縦位施文。底面はナデ調整。内面は口縁部に横位の、胴部に縦位のミガキ調整。	加曽利ＥⅢ
429	J-6 U-1No.2	鉢	普通	砂粒・黒色粒・石英・角閃石	胴部下半～底部	丸棒状工具による単沈線で掠れた懸垂文を施文。懸垂文間の一部に無節Lの縄文を縦位充填。胴部下端に縦・横位のミガキ調整が露出。底面はミガキ調整。内面は縦位のミガキ調整だが、器面荒れが著しい。	加曽利ＥⅢ
430	J-7 U-2	深鉢	普通	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・石英・角閃石・角閃石安山岩粒	口縁部～胴部	口縁部を凹線で楕円状に区画。区画間に渦巻文を配置。胴部に同様の凹線で蕨手文・「Π」字状の懸垂文を施文。口縁部区画内、懸垂文内・間に単節LRの縄文を縦位充填。内面は口縁部に横位の、胴部に縦位のミガキ調整。	加曽利ＥⅢ
431	J-7住U-1 No.5(D-9)	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	口縁部無文。胴部上位、剥離し残存していないが横位隆帯が施されていたと想定される。隆帯下位に丸棒状工具による浅い横位沈線が並行して施される。	加曽利ＥⅢ
432	J-7住3区1層	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	胴部上位の破片と想定される。丸棒状工具による縦位基調沈線で区画される。区画内、同工具による楕円形・二重楕円形・二重円形の沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
433	J-7 U-1	深鉢	普通	砂粒・黒色粒・石英・角閃石・角閃石安山岩粒	胴部下半	単節LRの縄文を縦位施文。胴部に凹線で懸垂文を施文。懸垂文内の縄文を磨消。内面は縦位のミガキ調整。	加曽利ＥⅢ
434	J-7 U-3	深鉢	普通	砂粒・黄橙色粒・黒色粒・石英・角閃石	口縁部～胴部上半	肩部に4単位の橋状把手を配置するものと推測される。また、部分的に小突起を配置。断面が台形状の隆帯・凹線で肩部を楕円状・渦巻状に区画。区画内に単節RLの縄文を縦位充填。胴部に2条1対の尖頭状工具による条線を縦位充填。内面は口縁部に横位ミガキ調整、胴部に横位ナデ調整。	加曽利ＥⅢ
435	3区D-5	深鉢	普通	砂粒・白色礫含	胴部上位～中位片	丸棒状工具による浅い沈線が綾杉状に施され、同工具による縦位沈線で区画される。残存部上端に横位区画が認められる。横位区画より上位が口縁部文様帯と想定される	加曽利ＥⅢ
436	3区D-8	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	蛇行する縦位平行細沈線が施される。	加曽利ＥⅢ
437	2H-508a	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部中位片	口縁部に丸棒状工具による横位沈線文が施される。この沈線文の上位にも、細い横位基調沈線が認められるが、不規則で不明瞭であり、意図的施文かどうか疑問が残る。胴部、丸棒状工具による3条の縦位沈線で区画。区画内、同工具による弧状・不整形な円形（一部蕨手状の可能性あり）沈線文が施される。	加曽利ＥⅢ

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
438	2E-508 9区・11区・13区	深鉢	普通	砂粒・角閃石含	口縁～胴部中位1/10	2条の隆帯を弧状に連続させ、口縁部文様帯が区画されている。口縁部文様帯内、丸棒状工具による沈線及び刺突文が施される。胴部、丸棒状工具による2条の縦位沈線で区画される。区画内、同工具による蛇行・斜位・弧状沈線が施される。全体的に施文が雑であり、稚拙な印象が強い。	加曽利ＥⅢ
439	2L-527周辺 NO1+2K-524 周辺	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物含	口縁～胴部上位1/10	内反する平縁口縁と想定される。口縁部屈曲部に丸棒状工具による横位沈線文が施される。沈線より上位は無文。胴部、縦位に条線が施される。	加曽利ＥⅢ
440	2H-507 1区	深鉢	良好	砂粒含	口縁～胴部上位片	やや内反する口縁。胴部に単節RL縄文施文後、口縁部に丸棒状工具による横位沈線文が施される。沈線文上位に同工具による刺突文が施文される。胴部、丸棒状工具による蛇行沈線を垂下させる。	加曽利ＥⅢ
441	2J-507b	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上位片	内反する平口縁と想定される。残存部においては無文。	中期後葉
442	2E-508 5区	深鉢	普通	砂粒含	口縁部片	外面撚糸か。上面と外面の境界に連続刺突（又は押圧）が施される。	加曽利ＥⅢ
443	2C-528周辺	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	口縁～胴部上端片	内反する平縁口縁と想定される。口縁部上位に丸棒状工具による細めの横位沈線文が施される。沈線直下には同工具による列点状刺突文が施文される。口縁上面に、刻み状連続刺突が施される。	加曽利ＥⅢ
444	2S-518b	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	胴部片	丸棒状工具による浅い沈線が縦位に施された後、半截竹管状工具による並行沈線が綾杉状に施文される。施文が全体的に稚拙な印象である。	加曽利ＥⅢ
445	2C-510c	深鉢	普通	砂粒含	胴部片	丸棒状工具による弧状沈線で区画される。弧状沈線内側には縄文（単節LRか）が施文される。外側には丸棒状工具による刺突が施される。	加曽利ＥⅢ
446	2R-518 12区	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物含黒色鉱物・灰色礫含	胴部片	横位・斜位の浮線文が施される。	諸磯b
447	2H-508c	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・灰色礫・角閃石含	胴部中位～底部	丸棒状工具による縦位・斜位沈線が施される。施文が乱雑であり稚拙の感が強い。	加曽利ＥⅢ
448	2H-508a	ミニチュア土器	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石含	胴部下位～底部	残存部においては無文である。	加曽利ＥⅢ

第74表　人見西向原遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
449	D-1№1	深鉢	やや不良	砂粒・石英・角閃石	口縁部～胴部上端	口縁部を隆帯・凹線で渦巻状・楕円状に区画。胴部に沈線による懸垂文。口縁部楕円状区画内・胴部懸垂文間に矢羽状沈線紋を充填。内面は口縁部に横位、胴部に縦位ナデ。	加曽利ＥⅢ
450	D-1№2	深鉢	普通	砂粒・石英・角閃石	口縁部～胴部上半	口縁部を隆帯・凹線で渦巻状・楕円状に区画。胴部に沈線による懸垂文。口縁部楕円状区画内・胴部懸垂文間に単節縄紋（RL）を充填。内面は口縁部に横位、胴部に縦位ナデ。	加曽利ＥⅢ
451	D-3	深鉢	普通	砂粒・石英・片岩	口縁部～底部	隆帯・沈線で口縁部を渦巻状・楕円状に区画、胴部に懸垂文。口縁部楕円状区画内・胴部懸垂文間に単節縄紋（LR）を充填。内面は口縁部・胴部上半に横位、胴部下半に縦位ナデ。	加曽利ＥⅢ

第75表　縄文時代土製品観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
452	J-9住3区3層+ J-8住10区2層	土製品	良好	砂粒・黒色鉱物含	縦に分割。一部欠	円柱状の粘土に円盤状の粘土を傘状に付す。傘状の部分には刺突文が充填される。住居間接合。	人見東原Ⅱ遺跡 中期後半
453	8W-383	土製品	良好	砂粒・黒色鉱物含	一部欠	円柱状の粘土に円盤状の粘土を傘状に付す。傘状の部分には刺突文が充填される。	人見枝谷津遺跡 中期後半
454	J-6住9区2層	土製品	良好	砂粒・白色鉱物含	一部欠	骨製品に類似する。穿孔あり。外面は削りによる調整。	人見枝谷津遺跡 中期後半
455	J-2住8区1層	土偶	良好	砂粒・白色鉱物含	胴部	線刻による渦巻き、直線の組み合わせ。	人見枝谷津遺跡 中期後半
456	3H-590b	三角壜形	普通	砂粒・白色鉱物・小礫含	中央部のみ	沈線による文様。中心に孔が開くもので、下端は剝離、上端は欠損し、摩滅する。	人見東中原遺跡 中期後半

第 76 表　人見西中原遺跡　弥生土器観察表

挿図番号	個体番号	器種	①胎土 ②色調　③残存	特　　徴	地　文	備　考	出土位置
1	46	壺	①石英 ②7.5ＹＲ4/6赤褐色 ③頸部片	頸部棒状工具を束ねた原体による横位条痕→縦位羽状条痕。内面は縦位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	8区 1Q-487a
2	59	壺	①石英、チャート ②7ＹＲ4/6褐色 ③頸部片	頸部横位の条痕。内面は斜位のナデ。	条痕Ｂ（細い収束工具）	前期末～中期初頭	8区 1Q-486b
3	44	壺	①石英、チャート ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③頸部片	頸部中細の収束工具による斜位条痕。内面は斜位のケズリ。	条痕Ｂ	前期末～中期初頭	8区 1O-484d
4	15	壺	①石英 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③頸部片	頸部細い収束工具による横・斜位条痕(密度薄い)。内面は横位のミガキ。	条痕Ｂ	前期末～中期初頭	8区 1P-487d
5	23	壺	①多量の石英・長石、チャート ②10ＹＲ6/3にぶい黄橙色 ③頸部片	頸部斜位のナデ。内面は横・斜位のケズリ。	無文	前期末～中期初頭	8区 1O-487c
6	67	壺	①石英・多量の白色粒 ②10ＹＲ3/3暗褐色 ③肩部片	肩部縄文を縦位施文→丸棒状工具による横位の沈線を施文。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 外面に濃いスス付着	8区 1L-487a
7	27	甕	①石英、片岩、多量の礫 ②7.5ＹＲ6/6橙色 ③頸部片	頸部ハケメ様の横位条痕→丸棒状工具による横位の沈線を施文。内面は斜位のナデ。	条痕Ｂ	前期末 沖式	8区 1P-488c
8	48	甕	①石英、チャート、褐色粒 ②10ＹＲ7/3にぶい黄橙色 ③頸部片	頸部ハケメ様の斜位条痕→丸棒状工具による横位の沈線を施文。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末　沖式 外面にスス付着	8区 1Q-487a
9	14＋6	甕	①石英、片岩、多量の礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部ハケメ様の斜位条痕→丸棒状工具による横位の沈線を施文。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末　沖式 内面にコゲ付着	8区 1P-487d＋M-1 8区
10	5	甕	①石英、チャート、片岩 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部ハケメ様の斜位条痕。内面は横位のヘラナデ。	条痕Ｂ	前期末	M-1 8区
11	13	甕	①石英 ②10ＹＲ3/2黒褐色 ③頸～胴部片	胴部ハケメ様の斜位条痕。内面は横位のヘラナデ。	条痕Ｂ	前期末	8区 1P-487d
12	8	甕	①多量の石英・礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③胴部片	胴部貝殻風の斜位条痕。内面は斜位のナデ。	条痕Ｄ	前期末	道路7区北
13	41	甕	①多量の石英・礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③胴部片	胴部貝殻風の斜位条痕。内面は斜位のナデ。	条痕Ｄ	前期末	8区 1O-486b
14	53	甕	①石英、角閃石、多量の礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③胴部片	胴部細い収束工具による横位。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末	8区 1M-485d
15	22	甕	①石英、多量の礫 ②10ＹＲ3/1黒褐色 ③胴部片	胴部貝殻風の横位条痕。内面は斜位のナデ。	条痕Ｄ	前期末	8区 1O-488c
16	45	甕・深鉢	①多量の石英・礫 ②7.5ＹＲ6/6橙色 ③胴部片	胴部ハケメ様の縦位条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末	8区 1N-489a
17	28	甕・深鉢	①石英、チャート ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③胴部片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末	8区 1P-488c
18	31	甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②7.5ＹＲ6/6橙色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は斜位のナデ、剥落。	条痕Ｅ	前期末～中期前葉	8区 1O-488b
19	33	甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②5ＹＲ5/6明赤褐色 ③胴部片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ。	丸棒状工具を束ねた原体	前期末～中期前葉	8区 1O-490d
20	26	甕・深鉢	①多量の石英 ②7.5ＹＲ6/6橙色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のケズリ。	条痕Ｅ	前期末～中期前葉	8区1P-488c
21	24	甕	①石英 ②10ＹＲ6/4にぶい黄褐色 ③口縁部	平口縁。口縁部横位条痕。内面は横位のミガキ。	条痕Ｂ	中期中葉	8区一括
22	11	甕	①石英、角閃石、褐色礫 ②10ＹＲ7/4にぶい黄橙色 ③口縁部	平口縁。口縁部横位条痕文→横位波状文の順に施文。内面は横位のミガキ。	条痕Ｄ	中期中葉	3区 J-3住＋6区 2S-519
23	12	甕	①石英、片岩 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	平口縁。口縁部横位条痕文→横位波状文の順に施文。内面は横位のミガキ。	条痕Ｂ	中期中葉	3区 J-5住2区1層
24	18	甕か	①石英、チャート ②5ＹＲ5/6明赤褐色 ③胴部片	胴部横位条痕・波状文ないし縦位羽状文を施文。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉～中葉	8区 1Q-487c
25	47	甕	①石英、チャート、片岩 ②5ＹＲ5/4にぶい赤褐色 ③口縁部片	平口縁で口唇部は角頭状をなす。口縁部縄文を横位施文。口縁部直下に丸棒状工具による横位沈線を施文。頸部は無文で丁寧な横位のナデ。内面は丁寧な横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉岩櫃山式	8区 1Q-487a

挿図番号	個体番号	器種	①胎土 ②色調　③残存	特　　徴	地　文	備　考	出土位置
26	68	甕	①石英、角閃石 ②5ＹＲ4/3にぶい赤褐色 ③口縁部片	平口縁。口縁部縄文を横位施文。口縁部直下に丸棒状工具による横位沈線を施文。頸部は無文で雑な横位のミガキ。内面横位のケズリ・ナデ。	単節Ｌ Ｒ縄文	中期前葉　岩櫃山式 外面にスス付着	M-5
27	57	甕	①石英、片岩 ②7.5ＹＲ3/1黒褐色 ③口縁部片	平口縁で口唇部は角頭状をなす。口縁部縄文を横位施文。口縁部直下に丸棒状工具による横位沈線を施文。頸部は無文で横位のナデ。内面は横位のナデ。	単節Ｌ Ｒ縄文	中期前葉 岩櫃山式	8区 1P-487c
28	56	甕	①石英、角閃石、褐色粒 ②7.5ＹＲ6/4にぶい橙色 ③胴部片	胴部縄文を横位施文→丸棒上工具による横位沈線を施文。内面は横位のナデ・ケズリ。	無節Ｌ縄文か	中期前葉 岩櫃山式	8区 1O-489c
29	58	甕	①石英、片岩 ②10ＹＲ6/3にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部縄文を縦・斜位施文→丸棒状工具による沈線で波状文を施文。内面は横位のミガキ。	単節Ｌ Ｒ縄文	中期前葉 岩櫃山式	8区 1M-484d
30	7	壺・甕	①石英 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③底部片	胴部斜位の条痕、胴部下端は弱い押捺により調整。底部２本超え２本潜り１本送りの網代痕。内面は横・斜位のナデ。底径：(8.6cm)。	条痕Ｃ	前期末～中期前葉	道路7区 道路北
31	9	壺・甕	①石英、礫 ②7.5ＹＲ6/6橙色 ③胴部下位～底部1/3	胴部撚糸文を縦・斜位施文。底部新旧２枚の木葉痕。内面は斜位のミガキ。底径：7.2cm。	撚糸文Ｌ(絡条体)	前期末～中期前葉 内外面剥落	道路8区北
32	65	壺・甕	①石英、片岩、多量の礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③底部片	胴部下端横位のナデ。底部２本超え２本潜り１本送りの網代痕。内面は斜位のナデ。底径：(8.8cm)。	無文か	前期末～中期前葉	8区 1L-486d
33	69	壺・甕	①石英、礫 ②7.5ＹＲ4/2灰褐色 ③底部片	胴部横位のナデ。底部３本超え３本潜り１本送りの網代痕。内面は横・斜位のナデ。底径：(9.8cm)。	無文か	前期末～中期前葉	M-1 8区
34	10	壺・甕	①石英、角閃石、多量の白色粒 ②7.5ＹＲ6/3にぶい褐色 ③底部片	胴部斜位のナデ、底部は木葉痕か→ナデ。内面は横位のナデ。底径：(10.4cm)。	無文	前期末～中期前葉	D-1
35	3	浅鉢	①石英、角閃石 ②7.5ＹＲ6/4にぶい橙色 ③口縁部	口縁部縄文を横位施文→丸棒状工具による横位沈線を施文。内面は横位のナデ。	単節Ｌ Ｒ縄文	中期前葉	M-1 8区
36	29	浅鉢	①石英、片岩、多量の礫 ②10ＹＲ5/2灰黄褐色 ③胴部下位～底部1/4	口縁部縄文を横・斜位施文。内面は横位のナデ→縦・斜位のミガキ。	単節Ｌ Ｒ縄文	中期前葉	8区 1P-488c

第77表　上人見遺跡　弥生土器観察表

挿図番号	個体番号	器種	①胎土 ②色調　③残存	特　　徴	地　文	備　考	出土位置
37	2	壺	①多量の石英、黒色礫 ②5ＹＲ5/4にぶい赤褐色 ③口縁部1/3残存	口唇部指頭押捺・竹管状工具によるキザミ。口縁部推定６本歯の棒収束工具による横位条痕（反時計回り）。内面は横・斜位のナデ。口径:(11.8cm) 。	条痕Ｃ	前期末～中期初頭	2H-459.7･11･12区
38	3	壺	①石英、角閃石 ②10ＹＲ6/3にぶい黄橙色 ③口縁部1/3残存	口唇部棒状工具による押捺。口縁部６本歯の櫛歯状工具による横位条痕→渦巻状・弧状の文様を施文。内面は縦位・斜位のナデ。口径:(8.5cm)。	条痕Ｂ	前期末～中期初頭	D-63 №6＋D-79 №9＋2P-457.4区
39	8	壺	①石英、角閃石、多量の礫 ②10ＹＲ6/3にぶい黄橙色 ③口縁部1/2	全面に横位の条痕調整。内面は横位のナデ。口径: 7.9cm 。	条痕Ｅ	中期前葉	D-62 №11＋D-62＋2P-459 №140と同一個体
40	9	壺	①石英、角閃石、多量の礫 ②10ＹＲ5/2灰黄褐色 ③胴部下位～底部残存	全面に横位の条痕調整。内面は横位のナデ。底径: 3.9cm。	条痕Ｅ	前期末～中期初頭 3と同一個体か	D-54 №15＋D-62 №139と同一個体
41	39	壺	①石英、礫 ②5ＹＲ5/6明赤褐色 ③胴部下位～底部1/4	全面に横位の条痕調整。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期初頭	D-38･39･40 №6
42	44	壺	①石英 ②10ＹＲ5/2にぶい赤褐色 ③胴部下位～底部1/4	全面に横位の条痕調整。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期初頭	D-79 №3
43	13	壺	①石英、褐色粒 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③口縁部1/4	全面に横位の条痕調整。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末	D-63 №11＋D-64 №10
44	11	壺	①石英、角閃石 ②7.5ＹＲ5/3にぶい褐色 ③口縁部片	全面に横位の条痕調整。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末	2H-458.6区
45	110	壺	①多量の石英、礫 ②2.5ＹＲ4/4にぶい赤褐色 ③胴部片	全面に横位の条痕調整。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期初頭	D-9№6･7＋2I-459.4区
46	5	壺	①石英、角閃石、片岩、チャート ②10Ｙ6/3にぶい黄橙色 ③口縁～底部1/3残存	胴部斜位の条痕調整(概ね下→上、反時計回り)。胴部下端横位のナデ。底部４本超え４本潜り２本送りの網代痕。内面は胴部下半斜位のナデ→胴部上半横位のナデ。底径:(9.6cm)。	条痕Ｂ	前期末	D-44 №5＋D-47 №2＋D-52 №1＋D-63 №7＋D-64 №11＋D-74 №3＋D-153 №12･15･17･18＋M-2№1＋2O-457.10区 ＋2P-458.5･10区＋調査区一括

挿図番号	個体番号	器種	①胎土 ②色調　③残存	特　　徴	地　文	備　考	出土位置
47	85	甕	①石英 ②10ＹＲ5/3にぶい黄褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕調整(概ね下→上、反時計回り)。胴部下端横位のナデ。底部４本超え４本潜り２本送りの網代痕。内面は胴部下半斜位のナデ→胴部上半横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	D-72 No.1
48	109	壺	①多量の石英、礫 ②2.5ＹＲ4/4にぶい赤褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕調整(概ね下→上、反時計回り)。胴部下端横位のナデ。底部４本超え４本潜り２本送りの網代痕。内面は胴部下半斜位のナデ→胴部上半横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	D-120 No.4
49	10	壺	①多量の石英 ②7.5ＹＲ4/3褐色 ③胴部上位2/3	胴部斜位の条痕調整(概ね下→上、反時計回り)。胴部下端横位のナデ。底部４本超え４本潜り２本送りの網代痕。内面は胴部下半斜位のナデ→胴部上半横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	D-2No.2・4・5・6
50	24	壺	①石英、礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部下位～底部1/4	胴部斜位の条痕調整(概ね下→上、反時計回り)。胴部下端横位のナデ。底部４本超え４本潜り２本送りの網代痕。内面は胴部下半斜位のナデ→胴部上半横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	調査区一括
51	48	壺	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/3にぶい褐色 ③口縁部下位片	胴部斜位の条痕調整(概ね下→上、反時計回り)。胴部下端横位のナデ。底部４本超え４本潜り２本送りの網代痕。内面は胴部下半斜位のナデ→胴部上半横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	2K-457.2区
52	25	壺	①石英、角閃石、礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部斜位の条痕調整(概ね下→上、反時計回り)。胴部下端横位のナデ。底部４本超え４本潜り２本送りの網代痕。内面は胴部下半斜位のナデ→胴部上半横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	D-55 No.11＋D-86 No.11
53	28	壺	①石英、角閃石、礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部斜位の条痕調整(概ね下→上、反時計回り)。胴部下端横位のナデ。底部４本超え４本潜り２本送りの網代痕。内面は胴部下半斜位のナデ→胴部上半横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	D-89 No.1
54	29	壺	①石英、角閃石、礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部斜位の条痕調整(概ね下→上、反時計回り)。胴部下端横位のナデ。底部４本超え４本潜り２本送りの網代痕。内面は胴部下半斜位のナデ→胴部上半横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	D-7No.25
55	30	壺	①石英、角閃石、礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部斜位の条痕調整(概ね下→上、反時計回り)。胴部下端横位のナデ。底部４本超え４本潜り２本送りの網代痕。内面は胴部下半斜位のナデ→胴部上半横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	2I-460.1区
56	26	壺	①石英、角閃石、礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部斜位の条痕調整(概ね下→上、反時計回り)。胴部下端横位のナデ。底部４本超え４本潜り２本送りの網代痕。内面は胴部下半斜位のナデ→胴部上半横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	D-89 No.2
57	32	壺	①石英、角閃石、礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部横位の羽状条痕調整（下→上)。内面は横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	2H-460.1区
58	31	壺	①石英、角閃石、礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部横位の羽状条痕調整（下→上)。内面条痕→横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	D-142 No.1
59	58	壺	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③胴部片	胴部ナデ→丸棒状工具による斜位の沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	D-6No.3・5
60	57	壺	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③胴部片	胴部縄文横位施文→丸棒状工具による横位の沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ＋単節ＬＲ縄文	中期前葉	2I-458.2区
61	50	壺	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③胴部片	縄文横位施文→収束工具ないし櫛歯状工具による横位・縦位直線文。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ＋単節ＬＲ縄文	中期前葉	2J-458.3区
62	84	壺	①多量の石英、礫 ②10ＹＲ5/3にぶい黄褐色 ③胴部片	胴部縄文横位施文→丸棒状工具による沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ｅ＋単節ＬＲ縄文	中期中葉	D-44 No.2
63	63	甕	①石英、角閃石 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③口縁部片	口縁部横位ナデ→丸棒状工具による横位の沈線。内面は横位のナデ。	無文か	前期末 沖式	D-55 No.15
64	52	甕	①多量の石英、角閃石 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③口縁部片	口縁部ナデ→丸棒状工具による弧状の沈線。内面は横位のナデ。	無文か	中期中葉か	D-153 No.18
65	54	甕	①石英、角閃石、礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部斜位の条痕→丸棒状工具による変形工字文。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末 沖式	D-17 No.1
66	35	甕	①石英、礫、褐色粒 ②5ＹＲ5/6明赤褐色 ③胴部片	丸棒状工具による横位の沈線。内面は横位のナデ。		前期末 沖式	2N-456 No.5
67	51	甕	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③胴部片	丸棒状工具による変形工字文。内面は横位のナデ。		前期末 沖式	D-5No.4
68	34	甕	①石英、礫、褐色粒 ②10ＹＲ7/2にぶい黄橙色 ③胴部片	横位の条痕→丸棒状工具による横位の沈線区画→区画内に三角連繋文。内面は横位のナデ。		前期末 沖式	2N-450 a
69	37	甕	①石英、礫、角閃石 ②7.5Ｙ Ｒ6/4にぶい橙色 ③胴部片	横位の条痕調整→丸棒状工具による沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末 沖式	D-55 No.2＋D-65 No.9
70	49	甕	①石英、角閃石、礫 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕調整→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末 沖式	D-84 No.1・10
71	36	甕	①石英、礫、褐色粒 ②7.5ＹＲ5/3にぶい褐色 ③胴部片	丸棒状工具による横位の沈線。内面は横位のナデ。		前期末 沖式	D-65 No.2

挿図番号	個体番号	器種	①胎土 ②色調　③残存	特　　徴	地　文	備　考	出土位置
72	56	甕	①石英、礫 ②5Ｙ R5/4にぶい赤褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕→丸棒状工具による横位の沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前 期末　沖式41と同一個体か	D-76 №6
73	80	甕	①石英、角閃石、礫 ②7.5Ｙ R4/2灰褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕→丸棒状工具による横位の沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末　沖式	D-153 №9＋2P-456.4区
74	96	甕	①石英、角閃石、礫 ②7.5Ｙ R5/3にぶい褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末 沖式	D-107 №1・2＋2J-458.3区
75	60	甕	①石英、礫 ②7.5Ｙ R4/1褐灰色 ③胴部片	胴部斜位のナデ→丸棒状工具による横位の沈線。内面は横位のナデ。		前期末 沖式	調査区一括
76	94	甕	①石英、角閃石、礫 ②10Ｙ R4/2灰黄褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末 沖式	2P-458.5区
77	61	甕	①石英、礫 ②7.5Ｙ R5/6明褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕→丸棒状工具による横位の沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末　沖式 36と同一個体か	2O-454 a
78	95	甕	①石英、角閃石、礫 ②7.5Ｙ R5/3にぶい褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末 沖式	調査区一括
79	76	甕	①多量の石英、角閃石 ②7.5Ｙ R6/6橙色 ③胴部片	胴部ナデ→丸棒状工具による沈線、三角連繋文か。内面は横位のナデ。		前期末 沖式 44と同一個体か	D-65 №1
80	75	甕	①多量の石英、角閃石 ②10Ｙ R6/6明黄褐色 ③胴部片	胴部ナデ→丸棒状工具による沈線。内面は横位のナデ。		前期末沖式 43と同一個体か	D-62 №3
81	78	甕	①石英、礫 ②5Ｙ5/4にぶい赤褐色 ③頸部片	頸部ナデ→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。		前期末 沖式	D-63 №24＋D-132 №13
82	59	甕	①石英、礫 ②7.5Ｙ R4/1褐灰色 ③胴部片	胴部斜位のナデ→丸棒状工具による横位の沈線。内面は横位のナデ。		前期末 沖式	2O-459.10区
83	81	甕	①多量の石英、角閃石 ②10Ｙ R6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部ナデ→丸棒状工具による沈線。内面は横位のナデ。		前期末 沖式	D-55 №12
84	83	甕	①石英、礫 ②7.5Ｙ R6/4にぶい橙色 ③胴部片	胴部ナデ→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。		前期末 沖式	D-92 №14
85	77	甕	①石英、角閃石 ②2.5Ｙ5/2明灰黄色 ③頸部片	頸部ナデ→縄文横位施文→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文か	前期末 沖式	2P-457.4区
86	4	甕	①石英、多量の角閃石 ②2.5Ｙ6/3にぶい黄色 ③口縁～胴部1/3残存	口縁部横位のミガキ、丸棒状工具による横位沈線。肩～胴部縄文を縦位施文。肩部に上記工具による沈線で４単位の変形工字文を施文→会合部を抉り、両脇に粘土粒を貼付。内面は横位のナデ・ミガキ。口径:(11.2cm)。	単節ＬＲ縄文	前期末	D-61 №22＋D-63 №10・12・15＋D-153 №8・10・20＋D-84 №3＋2O-457.10・12・14・15・16区＋2P-457.3・4・10区
87	6	甕	①石英　②7.5YR5/3にぶい褐色　③口縁部～胴部上位1/4	口縁部斜位の条痕調整→口唇部2条の隆線→縄文を横位施文→隆線間を丸棒状工具による沈線→胴部単節ＬＲ縄文を斜位施文。内面は横位のナデ。口径:20.8cm。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式 赤彩か	D-5№6・7＋D-6№2・4・6＋D-7№9・28＋2H-460.5区＋2N-460.13区 2H-460.5区＋2N-460.13区
88	68	甕	①石英、角閃石 ②10Ｙ R5/3にぶい黄褐色 ③口縁部片	口縁部ナデ→丸棒状工具による横位沈線区画→区画内に縄文横位施文。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	D-142 №3
89	72	甕	①石英、角閃石 ②7.5Ｙ R5/4にぶい褐色 ③口縁部片	口縁部ナデ→丸棒状工具による横位沈線区画→区画内に縄文横位施文。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	D-81 №2
90	65	甕	①石英、角閃石 ②10Ｙ R5/3にぶい黄褐色 ③口縁部片	口縁部ナデ→丸棒状工具による横位沈線区画→区画内に縄文横位施文。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	2G-459.13区
91	64	甕	①石英、角閃石 ②10Ｙ R5/2灰黄褐色 ③口縁部片	口縁部ナデ→丸棒状工具による横位沈線区画→区画内に縄文横位施文。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	D-76 №1＋D-125 №3
92	71	甕	①石英、角閃石 ②7.5Ｙ R5/4にぶい褐色 ③口縁部片	口縁部ナデ→丸棒状工具による横位沈線区画→区画内に縄文横位施文。内面は横位のナデ。	無節Ｌ縄文	中期前葉 岩櫃山式	D-81 №1
93	67	甕	①石英、角閃石 ②7.5Ｙ R5/6明褐色 ③口縁部片	口縁部ナデ→丸棒状工具による横位沈線区画→区画内に縄文横位施文。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	2P-457.4区

挿図番号	個体番号	器種	①胎土 ②色調　③残存	特　　徴	地　文	備　考	出土位置
94	69	甕	①石英、角閃石 ②7.5ＹＲ4/3褐色 ③口縁部片	口縁部ナデ→丸棒状工具による横位沈線区画→区画内に縄文横位施文。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	D-28
95	33	甕	①石英、雲母、礫 ②7.5ＹＲ6/4にぶい橙色 ③口縁部片	口縁部丸棒状工具による横位沈線区画→区画内に縄文横位施文。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	D-55 №5
96	66	甕	①石英、角閃石 ②7.5ＹＲ5/8明褐色 ③口縁部片	口唇部小波状→口縁部ナデ→丸棒状工具による横位沈線区画→区画内に縄文横位施文。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	2L-456 .11区
97	73	甕	①石英、角閃石 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③胴部片	胴部縄文横位施文→丸棒状工具による工字文。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	D-5№10
98	82	甕	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③胴部片	胴部縄文横位施文→丸棒状工具による工字文。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	D-7№21
99	70	甕	①石英、角閃石 ②7.5ＹＲ5./6明褐色 ③胴部片	胴部縄文横位施文→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。	無節Ｌ縄文か	中期前葉 岩櫃山式	D-18 №3
100	87	甕	①石英、礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部縄文横位施文→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	D-5№1＋2H-460.9区＋2H-460.11区
101	74	甕	①石英、角閃石 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③胴部片	胴部縄文横位施文→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	D-5№5
102	79	甕	①石英、角閃石 ②7.5ＹＲ6/4にぶい橙色 ③胴部片	胴部単節ＬＲ縄文→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。		中期前葉 岩櫃山式	D-7№15
103	86	甕	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③胴部片	胴部縄文横位施文→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文	中期前葉 岩櫃山式	D-7№6
104	55	甕	①石英、礫 ②10ＹＲ5/4にぶい黄褐色 ③胴部片	胴部ｊ縄文縦位施文→丸棒状工具による弧状の沈線。内面は横位のナデ。	単節ＲＬ縄文	中期前葉 岩櫃山式	D-84 №2
105	117	甕	①多量の石英、多量の礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③口縁部～胴部上位1/5	口縁部ナデ、胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末	D-49　№1・2・4・5＋D-54　№12＋D-56　№7＋D-61　№2・13＋2O-459.9区
106	114	甕	①多量の石英、礫 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③口縁部～胴部上位1/5	口縁部ナデ、胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｅ	前期末～中期前葉	D-63　№19・22＋2O-457.12区＋2P-457.4区＋2P-458.1区
107	130	甕	①石英、礫 ②7.5ＹＲ6/4にぶい橙色 ③口縁部～胴部上位片	口縁部ナデ→胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉 72と同一個体か	D-54№2＋D-55№25＋D-62№4＋D-65№17＋D-142№8＋2O-459.10・13区＋調査区一括
108	131	甕	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/3にぶい褐色 ③口縁部～胴部上位片	口縁部ナデ→胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉 71と同一個体か	D-59　№1＋2H-459.11区　＋2K-460.9区＋2L-458.16区＋2O-457.16区＋2P-458.4区
109	18	甕	①石英、角閃石、礫 ②10ＹＲ5/3にぶい黄褐色 ③口縁部片	口縁部斜位の条痕→口唇部押捺。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	2M-460.9区
110	17	甕	①石英、礫 ②10Ｙ Ｒ6/3にぶい黄橙色 ③口縁部片	口縁部横位ナデ。内面は横位のナデ。		前期末～中期前葉	D-86 №3
111	105	甕	①石英、多量の礫 ②10ＹＲ5/1褐灰色 ③口縁部片	口縁部ナデ。内面は横位のナデ。		前期末～中期前葉	2I-458.9区
112	113	甕	①多量の石英、礫 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③口縁部片	口縁部ナデ。内面は横位のナデ。		前期末～中期前葉	D-62 №5・6＋2O-459.13区
113	16	甕	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③口縁部片	口縁部ナデ→胴部横位の条痕調整。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-98 №1
114	100	甕	①石英、片岩 ②7.5ＹＲ4/2灰褐色 ③口縁部片	口縁部ナデ。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-31 №1
115	20	甕	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③口縁部片	口縁部横位ナデ。内面は横位のナデ。		前期末～中期前葉	D-130 №14

挿図番号	個体番号	器種	①胎土 ②色調　③残存	特　　徴	地　文	備　考	出土位置
116	111	甕	①多量の石英、礫 ②2.5Ｙ Ｒ4/6赤褐色 ③胴部片	口縁部斜位の条痕→ナデ。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	2N-460.2区
117	19	甕	①石英、礫 ②7.5Ｙ Ｒ5/4にぶい褐色 ③口縁部片	口縁部横位のナデ、波状口縁。内外面ミガキ。		前期末～中期前葉	D-153 №16＋2O-457.16区
118	155	甕	①石英、角閃石、礫 ②10Ｙ Ｒ7/6明黄褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	D-85 №4
119	136	甕・深鉢	①石英、礫 ②7.5Ｙ Ｒ5/6明褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	D-84 №13
120	156	甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②10Ｙ Ｒ7/6明黄褐色 ③胴部片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	D-17 №3
121	153	甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②10Ｙ Ｒ7/6明黄褐色 ③胴部片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	D-64 №6＋D-153 №3
122	119	甕・深鉢	①石英、礫 ②7.5Ｙ Ｒ5/4にぶい褐色 ③頸部～胴部上位片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ(細)	前期末～中期前葉 141と同一個体か	県博調査区Ⅰ区耕作溝
123	138	甕・深鉢	①石英、礫 ②5Ｙ Ｒ4/6赤褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	D-79 №6
124	143	甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②10Ｙ Ｒ5/3にぶい黄褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	D-84 №12
125	137	甕・深鉢	①石英、礫 ②7.5Ｙ Ｒ5/6明褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	D-6№1
126	139	甕・深鉢	①石英、礫 ②10Ｙ Ｒ5/4にぶい黄褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	D-69 №2
127	140	甕・深鉢	①多量の石英、礫 ②10Ｙ Ｒ5/3にぶい黄褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	2O-458.2区
128	154	甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②10Ｙ Ｒ7/6明黄褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	D-153 №5
129	157	甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②10Ｙ Ｒ6/6明黄褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	D-57 №1
130	150	甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②7.5Ｙ Ｒ5/3にぶい褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-56＋D-61 №4
131	158	甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②10Ｙ Ｒ6/6明黄褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-62 №8
132	133	甕	①石英、礫 ②7.5Ｙ Ｒ5/3にぶい褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-113 №2＋2M-460.12区
133	122	甕	①石英、礫 ②5Ｙ Ｒ4/8赤褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-65 №3＋D-139 №3
134	132	甕	①石英、礫 ②7.5Ｙ Ｒ5/3にぶい褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-136 №1＋P-2
135	126	甕	①石英、礫 ②5Ｙ Ｒ5/8明赤褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-55
136	118	甕	①多量の石英、多量の礫 ②7.5Ｙ Ｒ6/6橙色 ③頸部～胴部上位片	頸部ナデ、胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-92 №2
137	108	壺・甕	①多量の石英、礫 ②2.5Ｙ Ｒ4/4にぶい赤褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	2H-458.2区
138	141	壺・甕	①多量の石英、礫 ②10Ｙ Ｒ5/3にぶい黄褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	2N-457.2区
139	124	壺・甕	①石英、礫 ②7.5Ｙ Ｒ5/4にぶい褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-92 №10
140	120	壺・甕	①石英、角閃石 ②5Ｙ Ｒ5/6明赤褐色 ③胴部片	胴部ナデ→丸棒状工具による沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-108 №1
141	151	壺・甕	①石英、角閃石、礫 ②10Ｙ Ｒ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-55 №14・23

挿図番号	個体番号	器種	①胎土 ②色調　③残存	特　　徴	地　文	備　考	出土位置
142	149	甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②7.5ＹＲ5/3にぶい褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-63 №20＋D-86 №4＋2N-458.16区
143	107	壺・甕	①多量の石英、礫 ②2.5ＹＲ4/4にぶい赤褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	2H-460.2区
144	104	壺・甕・深鉢	①石英、多量の礫 ②10ＹＲ4/1褐灰色 ③胴部片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	4M-454.9区
145	159	壺・甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②10ＹＲ6/6明黄褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-121 №3
146	91	壺・甕・深鉢	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕→丸棒状工具による横位沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-79 №1
147	152	壺・甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②10ＹＲ7/6明黄褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-55 №17・20＋D-119 №3＋2P-459.1区
148	144	壺・甕・深鉢	①石英、多量の礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-87 №1・2
149	103	壺・甕・深鉢	①石英、多量の礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	2K-461.4区
150	106	壺・甕・深鉢	①石英、多量の礫 ②10ＹＲ5/3にぶい黄褐色 ③胴部片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ→斜位の条痕。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-153 №19
151	115	壺・甕・深鉢	①多量の石英、礫 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-152
152	121	壺・甕・深鉢	①石英、礫 ②7.5ＹＲ6/6明褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-54 №18＋D-132 №12＋D-150 №1＋2M-458.9区
153	135	壺・甕・深鉢	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-153 №4＋2O-457.16区
154	134	壺・甕・深鉢	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-65 №4＋D-86 №9
155	123	壺・甕・深鉢	①石英、礫 ②5ＹＲ5/6明赤褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-55 №16
156	125	壺・甕・深鉢	①石英、礫 ②5ＹＲ4/6赤褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	D-55 №26
157	146	壺・甕・深鉢	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/8明褐色 ③胴部片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	D-132 №5
158	102	壺・甕・深鉢	①石英、多量の礫 ②10ＹＲ5/2灰黄褐色 ③胴部片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	D-37 №1＋D-83 №2＋D-127 №2
159	101	壺・甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②7.5ＹＲ4/2灰褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	2P-457.4区
160	148	壺・甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	2M-457.16区
161	129	壺・甕・深鉢	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/8明褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	D-54 №7
162	145	壺・甕	①多量の石英、礫 ②7.5ＹＲ4/4褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	D-36 №2＋2P-457.4区
163	147	壺・甕・深鉢	①石英、礫 ②7.5ＹＲ5/8明褐色 ③胴部片	胴部縦位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	D-122 №2
164	116	壺・甕・深鉢	①多量の石英、礫 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	中期前葉	2J-461.16区
165	62	壺・甕・深鉢	①多量の石英、礫 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③胴部片	胴部ナデ→丸棒状工具による横位の沈線。内面は横位のナデ。	条痕Ｄ	中期前葉	2P-457.8区

挿図番号	個体番号	器種	①胎土 ②色調　③残存	特　　徴	地　文	備　考	出土位置
166	99	壺・甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②7.5ＹＲ4/2灰褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	D-61 №21
167	97	甕	①石英、角閃石、礫 ②7.5ＹＲ3/1黒褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ→斜位の条痕。	条痕Ｅ	中期前葉	D-61 №14
168	142	甕	①多量の石英、礫 ②7.5ＹＲ4/4褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	2J-461.13区＋2K-461.7区
169	127	壺・甕	①石英、礫 ②5ＹＲ4/6赤褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	D-18 №2＋2K-456.12区
170	128	壺・甕・深鉢	①石英、礫 ②5ＹＲ4/6赤褐色 ③胴部片	胴部横位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	調査区一括
171	98	壺・甕	①石英、角閃石、礫 ②7.5ＹＲ4/2灰褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｅ	中期前葉	D-153 №14
172	88	深鉢	①多量の石英、角閃石、礫 ②10ＹＲ4/3にぶい黄褐色 ③口縁部片	口縁部斜位の条痕→口唇部押捺。内面は横位のナデ。	条痕Ｅ	前期末～中期前葉	D-56　№６＋D-61　№11＋2P-458.10区
173	89	深鉢	①多量の石英、角閃石、雲母 ②10ＹＲ4/3にぶい黄褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｅ	前期末～中期前葉	D-61 №7＋D-61＋D-83 №1＋D-84 №11＋D-153 №11＋2O-458.1･7区＋2P-457.5区
174	22	深鉢	①石英、多量の礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部縄文横・斜位施文。内面は横位のナデ。	無節Ｌ縄文	前期末～中期前葉	2H-460.9･10地区
175	23	深鉢	①石英、多量の礫 ②7.5ＹＲ6/8橙色 ③胴部片	胴部縄文斜位施文。内面は横位のナデ。	単節ＬＲ縄文か	前期末～中期前葉	3区拡張
176	42	壺・甕・深鉢	①石英、礫 ②10ＹＲ7/4にぶい黄橙色 ③胴部下位～底部1/3	胴部縦位の条痕調整ナデ→底部網代痕。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末～中期前葉	D-63 №4＋2N-455
177	43	壺・甕・深鉢	①石英、多量の礫 ②5ＹＲ5/4にぶい赤褐色 ③胴部下位1/3	胴部縦位の条痕調整。内面は斜位のナデ。	条痕Ａ(細)	前期末～中期前葉 86と同一固体か	県持調査区Ⅰ区イモ穴
178	40	壺・甕・深鉢	①多量の角閃石 ②10ＹＲ3/1黒褐色 ③胴部下位～底部1/2	胴部斜位の条痕調整、底部ナデ、籾圧痕。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-62 №14＋D-82 №5
179	46	壺・甕・深鉢	①石英、角閃石、礫 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③胴部下位～底部1/3	胴部斜位の条痕調整。内面は横位のナデ。	条痕Ｂ	前期末～中期前葉	D-79 №11･13＋D-79＋2O-456
180	45	壺・甕・深鉢	①角閃石、礫 ②10ＹＲ5/3にぶい黄褐色 ③胴部下位1/4	胴部縄文縦位施文。内面は横位のナデ。	単節ＲＬ縄文	前期末～中期前葉	2P-457.2･3区
181	41	壺・甕・深鉢	①多量の角閃石 ②10ＹＲ7/4にぶい黄橙色 ③胴部下位～底部1/5	胴部縦位のナデ→底部木葉痕。内面は横位のナデ。		前期末～中期前葉	2Q-464
182	47	壺・甕・深鉢	①角閃石、礫 ②10ＹＲ5/2灰黄褐色 ③胴部下位～底部片	胴部ナデ、底部網代痕。内面は横位のナデ。		前期末～中期前葉	D-153 №6
183	38	壺・甕・深鉢	①石英、角閃石 ②7.5ＹＲ5/6明褐色 ③胴部下位～底部1/3	胴部縦位のナデ、底部網代痕。内面は斜位の条痕調整。		前期末～中期前葉	2M-46.2区
184	92	浅鉢	①石英、礫 ②10ＹＲ5/3にぶい黄褐色 ③胴部片	胴部斜位の条痕→丸棒状工具による変形工字文。内面は横位のナデ。	条痕Ａ	前期末	D-92 №5･7･11
185	12	浅鉢	①石英、角閃石 ②7.5ＹＲ5/4にぶい褐色 ③口縁部1/4	口縁部～体部横位ナデ。内面は横位のナデ。		前期末	D-56 №3＋D-60 №1＋2O-457.16区＋調査区一括
186	15	浅鉢	①石英、褐色粒 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③口縁部片	口縁部～体部横位ナデ。内面は横位のナデ。		前期末	D-86 №10＋D-87 №3
187	93	浅鉢	①少量の石英、礫 ②10ＹＲ6/4にぶい黄橙色 ③胴部片	胴部ナデ。内面は横位のナデ。		前期末	D-123 №1＋D-130 №2･12
188	1	特殊土器	①多量の石英、角閃石、片岩、黒色鉱物 ②10ＹＲ5/4にぶい黄褐色 ③口縁部残存	口縁部縄文を横位施文→丸棒状工具による２本一組の山形文を施文（反時計回り）→山形文頂部から縦位の短沈線を施文→三角形部の一部・沈線間の地文を磨り消し。頸部は縦位のミガキ。内面は４単位の工字文を施文→工字文中心部に短沈線、４か所の片側穿孔（上から）→ミガキ調整。頸部は横位のナデ。口径:13.9cm。	０段多条ＬＲ・単節ＬＲ縄文	中期前葉	D-2№2

挿図番号	個体番号	器種	①胎土 ②色調　③残存	特　　徴	地　文	備　考	出土位置
189	53	小型壺	①石英、角閃石 ②10ＹＲ5/3にぶい黄褐色 ③胴部片	胴部ナデ→丸棒状工具による弧状の沈線。内面は横位のナデ。		中期中葉	D-63 №16
190	7	鉢	①石英、角閃石、片岩、チャート、多量の礫 ②10ＹＲ6/3にぶい黄橙色 ③口縁～底部4/5	胴部縄文を横・斜位施文→口縁部～胴部ヘラミガキ→→底部ヘラミガキ。内面はヘラミガキ。口径:17.1 底径: 7.6cm 器高: 8.4cm。	単節ＬＲないし無節Ｒ縄文	中期前葉	D-2№1＋D-62 №7＋2N-459.5区

第 78 表　人見西中原遺跡・上人見遺跡　弥生時代遺物観察表

挿図番号	個体番号	器種	①胎土 ②色調　③残存	特　　徴	地　文	備　考	出土位置
191	30	壷	①角閃石・白色粒子・赤色粒子②5Ｙ Ｒ6/8 橙色③口縁部～頸部	口縁部はナデ調整。頸部を丸棒状工具による３条の単沈線で横位区画。区画内に単節LRの縄文を充填。内面はナデ調整か。内外面とも器面の摩耗が著しい。口径：(13.2cm)。器高：＜13.1cm＞。		中期後半　栗林Ⅱ式	人見西向原遺跡 M-2・3区
192	90	壷	①少量の石英、角閃石 ②7.5Ｙ Ｒ6/6橙色 ③胴部下位～底部	胴部ヘラミガキ、底部無調整。内面ヘラナデ。		後期後半　樽式	上人見遺跡 D-81 No.1
193	35	甕	①白色粒・褐色粒・雲母②鈍い橙色～鈍い褐色③頸部～胴部中位1/3	口縁部輪積痕、頸部簾状文、胴部上位波状文、中位ヘラミガキ。内面は頸部～胴部ヘラナデで後ヘラミガキ。		後期後半 樽式(吉ヶ谷系)	人見西中原遺跡 Y-1住7区2層№1
194	36	高坏	①白色粒・黒色粒②鈍い橙色～橙色③脚部1/3	外内面は脚部ヘラミガキ。底径：(13.4cm)。		後期後半　樽式	人見西中原遺跡 Y-1住7区2層№2
195	37	高坏	①白色粒・黒色粒・角閃石②赤褐色③坏底部～脚部下位4/5	外面は脚部ヘラミガキ、赤彩。内面は坏底部ヘラミガキ、赤彩、脚部ヘラナデで、一部に赤色付着。		後期後半　樽式	人見西中原遺跡 Y-1住1区2層№1
196		土製紡錘車	①白色粒・黒色粒・雲母②橙色③完形	外面はヘラ削り。断面台形状。		後期後半	人見西中原遺跡 Y-1住2区2層№1
197		土製紡錘車	①白色粒・黒色粒・雲母②橙色③1/2	外面はヘラ削り。断面扁平状。		後期後半	人見西中原遺跡 Y-1住11区2層

第 79 表　人見枝谷津遺跡　古墳時代土器観察表

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
1	48	H-1	D-1			土師器	高坏	20.0	—	—	普通	橙色～明赤褐色	白色粒・礫・角閃石	口縁部～体部7/8	口縁部横撫で後放射状篦磨き、体部篦撫で後放射状篦磨き。	口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き。	
2	39	H-1	12	3		土師器	高坏	17.8	—	—	普通	鈍い褐色	白色粒	口縁部～体部3/4	口縁部～体部放射状篦磨き。	口縁部～体部放射状篦磨き。	
3	40	H-1	11	3	1	土師器	高坏	—	12.3	—	普通	橙色	礫・雲母	底部～脚部3/4	体部篦削り、脚部篦撫で、裾端部横撫で。	底部撫で、脚部しぼり目、篦削り、裾部篦撫で。	
4	37	H-1	11	3	2	土師器	高坏	—	11.7	—	普通	橙色～明褐色	雲母	脚部7/8	脚部篦撫で、裾部横撫で。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
5	38	H-1	12	3		土師器	高坏	—	—	—	普通	鈍い橙色～鈍い褐色	白色粒	脚部残存	脚部単位不明瞭な篦撫で、裾部横撫で。	脚部しぼり目、篦撫で、裾部横撫で。	
6	316	H-1	14	3		土師器	高坏	—	10.9	—	普通	橙色～鈍い褐色	白色粒・礫	脚部4/5	脚部篦磨き、裾部横撫で後篦磨き。	脚部上位しぼり目、篦削り、裾部横撫で。	
7	315	H-1	15	3		土師器	高坏	—	11.6	—	普通	橙色	褐色粒・雲母	脚部2/3	脚部篦撫で、裾部横撫で。	脚部上位しぼり目、篦撫で、裾部横撫で。	
8	41	H-1	12	3		土師器	坩	8.4	—	9.2	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫・雲母	7/8	口縁部横撫で、胴部撫で、指頭痕、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
9	314	H-1	5	3	2	土師器	坩	12.7	—	—	普通	鈍い黄橙色～明黄褐色	白色粒・礫	口縁部～胴部上位4/5	口縁端部横撫で、口縁部篦撫で後放射状篦磨き、胴部上位篦撫で後篦磨き。	口縁端部横撫で、口縁部篦撫で後放射状篦磨き、胴部篦撫で。	
10	42	H-1	12	3		土師器	小形甕	9.8	4.0	10.5	普通	鈍い黄橙色	白色粒・雲母	7/8	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
11	45	H-1	10	3		土師器	小形甕	(12.6)	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	口縁部～胴部下位2/3	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
12	44	H-1	16	3		土師器	甕	16.2	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	口縁部～胴部下位4/5	口縁部横撫で、胴部篦削り、口縁部煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
13	43	H-1	16	3	4	土師器	甕	15.3	6.8	24.6	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・礫	胴部一部欠損	口縁部横撫で、胴部篦削り、胴部下位撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
14	49	H-1	D-1			土師器	甕	(25.8)	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	口縁部～胴部下位2/3	口縁部横撫で、胴部篦削り後篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
15	51	H-1	1	3	1	土師器	甕	15.6	—	—	普通	橙色、鈍い黄橙色	白色粒・礫	口縁部～胴部下位7/8	口縁部横撫で、胴部篦削り後篦撫で。	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位篦削り、下位篦撫で。	
16	50	H-1	D-1			土師器	台付甕	(15.2)	—	—	普通	鈍い赤褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～底部1/4	口縁部横撫で、胴部篦削り、胴部中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
17	489	H-1	16	3	2	土師器	台付甕	(16.0)	—	—	普通	鈍い赤褐色～灰褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部下位2/3	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
18	52	H-1	16	3		土師器	台付甕	(16.0)	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	口縁部～底部4/5	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位篦削り、口縁部及び胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
19	46	H-1	10	3		土師器	台付甕	—	7.6	—	普通	鈍い黄橙色～鈍い黄褐色	白色粒・礫	胴部下位～台部3/5	胴部篦削り、台部篦撫で。	胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
20	47	H-1	D-1		1	土師器	台付甕	—	8.5	—	普通	鈍い黄橙色～鈍い黄褐色	白色粒・礫・角閃石	胴部下位～台部残存	胴部～台部篦撫で。	胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	内面焦げ付きの汚れあり。
21	55	H-2	15	2	1	土師器	坩	—	—	—	普通	鈍い黄橙色	褐色粒・角閃石	頸部～底部残存	胴部上位刷毛目後撫で、中位～底部刷毛目。	頸部刷毛目、胴部篦撫で。	
22	53	H-2	14	ﾍﾞﾙﾄ2	1	土師器	小形甕	12.3	5.8	10.9	普通	橙色～鈍い橙色	石英・礫	ほぼ完形	口縁部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
23	54	H-2	D-1			土師器	甕	(14.7)	5.4	18.7	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・礫	3/4	口縁部横撫で、胴部刷毛目、底部撫で。	口縁部刷毛目、胴部篦撫で、底部刷毛目。	
24	481	H-2	8	2		土師器	S字口縁台付甕	(14.8)	—	—	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部中位1/5	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	東海系

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
25	670	H-2	15	2		土師器	甕	(15.0)	—	—	普通	橙色～鈍い黄褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部上位1/5	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
26	696	H-2	7・6	ｻﾌﾞﾄﾚ2		土師器	甕	(15.7)	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	口縁部～胴部中位2/5	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	
27	694	H-2	10	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	壷	16.0	—	—	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	口縁部～胴部上位1/3	口縁端部横撫で、口縁部刷毛目後箆撫で、胴部箆撫で。	口縁端部横撫で、口縁部刷毛目、胴部箆撫で。	
28	56	H-3	2	2	2竈周辺	土師器	坏	13.1	—	4.9	普通	鈍い橙色～橙色	白色粒・褐色粒	3/4	口縁部横撫で、体部～底部箆削り。	口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
29	770	H-3	2	2	竈3	土師器	坏	14.1	—	4.4	普通	鈍い黄褐色	白色粒・角閃石・礫	1/2	口縁部横撫で、体部～底部箆削り。	口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
30	57	H-3	3	3	1	須恵器	蓋	13.6	—	3.6	還元	灰色	白色粒・黒色粒	7/8	轆轤整形、天井部手持ち箆削り。	轆轤整形。	
31	771	H-3	2	2	竈1	土師器	甕	(15.0)	—	—	普通	褐灰色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位1/3	口縁部横撫で、胴部箆削り。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
32	85	H-4	1	1	1	土師器	高坏	(15.0)	(11.6)	11.6	普通	橙色～鈍い黄橙色	角閃石・礫	1/2	口縁部横撫で、体部～脚部箆削り、裾部横撫で後箆撫で。	口縁部～底部箆撫で、脚部箆削り、裾部箆撫で後横撫で。	
33	530	H-4	16	2		土師器	高坏	16.6	12.1	13.3	普通	明赤褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、体部箆削り、脚部上位撫で、下位箆撫で、裾部横撫で。	口縁部横撫で、体部～底部箆撫で、脚部箆削り、裾部横撫で。	
34	531	H-4	15	2	2	土師器	高坏	16.1	13.2	12.9	普通	鈍い黄橙色～灰黄褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、体部箆削り、脚部上位撫で、下位～裾部箆撫で。	口縁部横撫で、体部～底部撫で、脚部箆撫で、裾部横撫で。	
35	84	H-4	1	2	2	土師器	高坏	—	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・雲母	底部～裾部上位3/4	体部下位箆削り、脚部箆撫で。	底部箆磨き、脚部上位しぼり目、箆撫で、裾部横撫で。	
36	535	H-4	3	2	2	土師器	小形甕	16.0	6.1	13.1	普通	鈍い赤褐色～灰黄褐色	白色粒・黒色粒	口縁部一部欠損	口縁部上位横撫で、下位～頸部箆撫で、胴部～底部箆削り、胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
37	536	H-4	4	2	2	土師器	小形甕	11.3	—	7.6	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部～底部箆削り。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
38	532	H-4	12	2	1	土師器	甕	14.4	5.5	24.4	普通	橙色～暗褐色	白色粒・黒色粒	9/10	口縁部横撫で、胴部～底部箆削り。	口縁部横撫で、胴部上位箆撫で、下位～底部箆撫で後箆磨き。	
39	86	H-4	7	2	1	土師器	甕	15.6	—	—	普通	鈍い褐色	褐色粒・雲母	口縁部～胴部中位4/5	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
40	533	H-4	4	2		土師器	甕	16.2	7.4	23.2	普通	鈍い黄橙色～黒褐色	白色粒・黒色粒	胴部下位一部欠損	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位箆撫で、中位～底部箆削り、胴部中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
41	59	H-4	4	2	3	土師器	甕	18.3	—	—	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位1/2	口縁部横撫で、頸部箆削り、胴部箆撫で。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
42	534	H-4	3	2	1	土師器	台付甕	17.1	10.0	27.2	普通	鈍い黄橙色～鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、煤付着、胴部箆削り、台部箆撫で、胴部中位～下位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で、胴部下位使用時のヨゴレ付着、台部箆撫で。	
43	278	H-4	15	2	1	土師器	台付甕	—	10.8	—	普通	鈍い黄橙色～鈍い黄褐色	白色粒・雲母・礫	胴部中位～台部2/3	胴部箆削り、台部撫で。	胴部～底部箆撫で、台部箆撫で。	
44	60	H-5	11	1		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	—	4.1	—	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒・雲母	口縁部欠損	体部箆撫で、指頭痕、底部撫で。	体部～底部箆撫で。	
45	61	H-5	8	2	1	土師器	甕	(14.5)	—	—	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒・雲母	口縁部～胴部中位1/3	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位箆削り。	口縁部横撫で、胴部箆撫で、上位に指頭痕。	
46	687	H-6	16	2		土師器	坏	(14.0)	—	—	普通	灰褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～体部下位1/5	口縁部横撫で、体部箆撫で。	口縁部横撫で、体部箆撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
47	58	H-7	4	3		土師器	S字口縁台付甕	10.7	—	—	普通	黄褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部中位残存	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	東海系
48	683	H-7	5	3		土師器	台付甕	—	(8.1)	—	普通	鈍い橙色～灰黄褐色	白色粒・礫	胴部下位～台部1/4	胴部下位刷毛目、台部刷毛目後撫で。	胴部下位～底部篦撫で、台部篦撫で。	東海系
49	62	H-8	12	ﾍﾞﾙﾄ1		土師器	坩	(10.4)	5.7	8.0	普通	鈍い黄褐色	白色粒・褐色粒	4/5	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部篦削り、底部中央撫で。	口縁部横撫で、胴部器面荒れ調整不明瞭。	
50	63	H-8	3	2		土師器	坩	—	4.5	—	普通	鈍い橙色～橙色	白色粒・褐色粒	口縁部上位～底部2/3	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
51	66	H-8	D-1		1	土師器	坩	9.2	—	8.8	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部篦削り、底部中央撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
52	112	H-8	14	1		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	—	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒・雲母	胴部一部残存	胴部撫で。	胴部篦撫で。	
53	69	H-9	12	2	5	土師器	高坏	18.1	12.6	14.3	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	9/10	口縁端部横撫で、上位撫で、下位～体部篦撫で後篦削り、脚部篦削り、裾部横撫で。	口縁端部横撫で、体部篦撫で、底部撫で、脚部篦削り、裾部篦撫で後横撫で。	
54	70	H-9	2	ﾍﾞﾙﾄ2	1	土師器	高坏	17.2	11.9	15.8	普通	鈍い黄褐色	白色粒・雲母	3/4	口縁部横撫で、体部篦削り、下位篦撫で、脚部撫で、裾部横撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で、脚部上位しぼり目、篦削り、裾部横撫で。	
55	64	H-9	2	ﾍﾞﾙﾄ2	4	土師器	高坏	(17.5)	12.0	15.1	普通	灰黄褐色	白色粒・褐色粒	7/8	口縁部横撫で、体部篦撫で、脚部撫で、裾部横撫で。	口縁部～底部篦撫で、脚部上位しぼり目、篦撫で、裾部横撫で。	
56	81+82	H-9	2	ﾍﾞﾙﾄ2	6	土師器	高坏	16.6	12.4	15.4	普通	灰黄褐色	白色粒・褐色粒・雲母	7/8	口縁部横撫で、体部篦削り、脚部撫で、下位篦撫で、裾部横撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で、脚部篦撫で、下位篦削り、裾部横撫で。	
57	283	H-9	D-1			土師器	高坏	19.9	(15.9)	19.3	普通	橙色～鈍い褐色	白色粒・角閃石・石英	2/3	口縁部横撫で後放射状篦磨き、体部篦削り、脚部撫で後篦磨き、裾部横撫で後放射状篦磨き。	口縁部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦撫で、裾部横撫で。	
58	75	H-9	2	ﾍﾞﾙﾄ2	5	土師器	高坏	17.8	—	—	普通	鈍い橙色	白色粒・角閃石・雲母	口縁部～脚部3/5	口縁部横撫で、体部篦削り、下位篦撫で、脚部撫で。	口縁部～体部撫で、底部撫で、脚部篦撫で。	
59	79	H-9	16	2	3	土師器	高坏	—	15.3	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒・角閃石・礫	体部下位～脚部3/4	体部篦撫で、脚部篦撫で、裾部横撫で。	底部撫で、脚部上位しぼり目、撫で、裾部横撫で。	
60	77	H-9	13	2	2	土師器	小形甕	10.3	—	8.7	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・雲母	ほぼ完形	口縁部～胴部上位横撫で、胴部中位撫で、指頭痕、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
61	282	H-9	D-1			土師器	坩	(13.1)	4.2	14.9	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・雲母・礫	3/5	口縁部横撫で、下位篦撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、下位篦撫で、胴部器面荒れ調整不明瞭。	
62	65	H-9	16	2	2	土師器	坩	(15.0)	—	16.1	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・礫	1/2	口縁部横撫で、口縁部中位～底部篦削り。	口縁部篦撫で胴部上位撫で、中位～底部篦撫で。	
63	80	H-9	2	ﾍﾞﾙﾄ2	3	土師器	坩	—	5.0	—	普通	暗灰黄色～黒褐色	白色粒・褐色粒	口縁部上位～底部7/9	口縁部下位篦撫で、胴部～底部篦撫で。	口縁部下位～底部篦撫で。	
64	71	H-9	16	2	1	土師器	脚付甕	—	(12.3)	—	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・雲母	口縁部下位～裾部3/5	口縁部横撫で、胴部篦削り、脚部撫で、裾部横撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、脚部篦削り、裾部横撫で。	
65	76	H-9	16	2	4	土師器	甑	16.4	4.3	12.3	普通	鈍い黄橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部篦撫で、指頭痕、底部撫で。	口縁部～底部篦撫で。	
66	67	H-9	9	2	1	土師器	台付甕	14.4	8.8	31.1	普通	明赤褐色～鈍い黄橙色	白色粒・礫	9/10	口縁部横撫で、頸部篦撫で、胴部上位撫で、胴部篦削り、指頭痕、台部撫で、指頭痕。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部上位撫で、下位篦撫で。	
67	73	H-9	16	2	6	土師器	甕	16.3	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	口縁部～胴部中位2/3	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
68	68	H-9	2	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	台付甕	—	10.3	—	普通	黄褐色～黄灰色	白色粒・礫	胴部中位～台部3/5	胴部篦削り、台部撫で。	胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
69	72	H-9	6	2	1	土師器	甕	(13.8)	—	—	普通	鈍い橙色～鈍い褐色	白色粒・雲母・礫	口縁部～胴部下位3/4	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
70	78	H-9	2	ﾍﾞﾙﾄ1	7	土師器	台付甕	—	10.5	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・雲母・礫	胴部下位～底部残存	胴部篦削り、台部撫で。	胴部下位～底部篦撫で、台部篦撫で。	
71	83	H-9	2	ﾍﾞﾙﾄ2	2	土師器	甕	—	—	—	普通	暗灰黄色	白色粒・褐色粒	口縁部下位～胴部中位残存	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
72	74	H-9	13	2	1	土師器	壺	—	—	—	普通	鈍い褐色	白色粒・褐色粒・雲母	口縁部上位～胴部中位1/4	口縁部横撫で、胴部篦撫で、指頭痕。	口縁部横撫で、胴部器面荒れ調整不明瞭。	
73	691	H-10	5	2		土師器	高坏	(19.6)	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・礫	口縁部～脚部上位2/5	口縁部上位横撫で、下位刷毛目、脚部篦撫で。	口縁部上位横撫で、下位～底部篦撫で、脚部撫で。	
74	684	H-10	5	2		土師器	坩	—	—	—	普通	暗灰黄色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部下位1/4	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
75	109	H-10	1	2		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	(4.1)	—	—	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位1/3	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部撫で。	
76	680	H-11	16	3		土師器	高坏	19.4	—	—	普通	鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～底部1/2	口縁部横撫で後放射状篦磨き、体部撫で後放射状篦磨き。	口縁部～底部横撫で後放射状篦磨き。	
77	88	H-11	15	3		土師器	小形甕	11.8	—	10.5	普通	鈍い黄褐色	白色粒・褐色粒・雲母	4/5	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
78	686	H-11	12	3		土師器	小形甕	(13.0)	—	—	普通	鈍い黄褐色～暗灰黄色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位1/3	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
79	87	H-12	4	3	1	土師器	小形甕	11.1	4.9	10.0	普通	明赤褐色	白色粒・褐色粒・雲母	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
80	708	H-12	3	3	1	土師器	坏	(11.6)	—	7.6	普通	灰褐色～鈍い褐色	白色粒・黒色粒	1/2	口縁部横撫で、体部上位撫で、中位～下位篦撫で、底部篦削り、中央部撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
81	93	H-13	D-2			土師器	高坏	20.1	—	—	普通	橙色～明赤褐色	白色粒・礫	坏部9/10	口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き。	口縁部～底部篦磨き。	
82	92	H-13	12	3	1	土師器	高坏	19.9	—	—	普通	橙色	白色粒・礫	坏部残存	口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き。	口縁部～底部篦磨き。	
83	91	H-13	3	3	1	土師器	高坏	17.2	—	—	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	坏部残存	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部横撫で、体部器面荒れ調整不明瞭。	
84	90	H-13	16	3	1	土師器	高坏	—	15.0	—	普通	橙色	白色粒・角閃石	脚部9/10	脚部篦撫で、裾部横撫で。	脚部上位撫で、下位篦撫で、裾部横撫で。	
85	89	H-13	3	3	1	土師器	甕	16.7	—	—	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・雲母・礫	口縁部～胴部中位9/10	口縁部横撫で、胴部篦削り、口縁部中位～胴部上位及び胴部中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦削り、指頭痕。	
86	96	H-14	16	3	2	土師器	坩	8.9	2.6	6.9	普通	灰黄褐色	白色粒・褐色粒	4/5	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
87	94	H-14	P-1			土師器	坩	—	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	口縁部下位～底部残存	口縁部下位篦削り、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
88	95	H-14	16	3	2	土師器	小形甕	10.6	—	9.3	普通	橙色	白色粒・褐色粒・雲母	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
89	638	H-14	13	3	3	土師器	甕	(16.0)	—	—	普通	鈍い黄褐色～鈍い褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位2/3	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
90	98	H-16	6	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	高坏	—	16.8	—	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	体部下位～脚部7/8	体部撫で、脚部篦磨き。	底部撫で、脚部篦撫で、裾部横撫で。	
91	97	H-16	D-1			土師器	甑	16.4	6.9	8.8	普通	橙色	白色粒・角閃石	3/4	口縁部～胴部篦撫で、底部篦削り、孔径1.4cm。	口縁部～底部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
92	447	H-16	12	2	1	土師器	台付甕	(17.3)	(10.6)	34.8	普通	鈍い黄橙色～鈍い褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒・礫	2/5	口縁部横撫で、胴部篦削り、台部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
93	345	H-17	12	ﾍﾞﾙﾄ1		土師器	坩	－	－	－	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒・雲母	口縁部下位～底部7/8	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部篦撫で、頸部撫で、胴部～底部篦撫で。	
94	763	H-18	6	1		土師器	甕	－	5.6	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	胴部上位～底部2/5	胴部篦撫で、底部撫で。	胴部～底部篦撫で。	
95	100	H-20	8	3		土師器	高坏	18.1	14.0	13.8	普通	鈍い黄橙色～鈍い橙色	褐色粒・雲母	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部篦削り、脚部丁寧な撫で、下位篦撫で、裾部横撫で。	口縁部～底部横撫で、脚部上位しぼり目、下位篦撫で。	
96	288	H-20	5	3		土師器	高坏	(20.0)	－	－	普通	鈍い黄褐色	雲母	口縁部～体部1/3	口縁部～体部横撫で後篦磨き、口縁部有段、円孔4箇所。	口縁部～体部横撫で後篦磨き。	
97	99	H-20	9	ﾍﾞﾙﾄ3		土師器	高坏	19.0	－	－	普通	明赤褐色	黒色粒・角閃石	坏部残存	口縁部横撫で、体部撫で、下位篦撫で。	器面荒れ調整不明瞭。	
98	669	H-20	3	3		土師器	高坏	－	15.6	－	普通	外-橙色～鈍い黄褐色内-橙色～黒色	白色粒・黒色粒・雲母	脚部4/5	脚部撫で、裾部篦撫で。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
99	102	H-20	13	3		土師器	坩	(9.8)	2.7	9.6	普通	鈍い黄橙色	白色粒	4/5	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位篦削り、底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
100	662	H-20	5	3		土師器	坩	－	4.0	－	普通	鈍い褐色～鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒	頸部～底部3/4	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位篦削り、底部篦撫で、中央部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
101	101	H-20	2	2	1	土師器	台付甕	11.6	7.5	13.5	普通	鈍い橙色～鈍い黄褐色	角閃石・礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～台部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部上位しぼり目、篦撫で。	
102	103	H-21	16	3	1	土師器	高坏	(18.6)	－	－	普通	橙色	角閃石・雲母・礫	坏部3/4	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
103	104	H-21	16	3	2	土師器	高坏	17.8	－	－	普通	橙色～明赤褐色	褐色粒・雲母	坏部2/3	口縁部～体部篦磨き。	口縁部～体部篦磨き。	
104	105	H-21	16	3	1	土師器	高坏	17.7	－	－	普通	明褐色	白色粒・雲母	坏部残存	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部～体部篦撫で。	
105	111	H-21	12	3		土師器	坩	－	－	－	普通	黄灰色	白色粒・角閃石	胴部破片	胴部篦撫で。	胴部篦撫で。	
106	660	H-21	15	3		土師器	小形甕	12.5	－	－	普通	鈍い黄褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部下位7/8	口縁部横撫で、胴部上位刷毛目、下位篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
107	106	H-21	16	3	3	土師器	甕	15.8	－	－	普通	鈍い黄橙色～鈍い黄褐色	礫	口縁部～胴部下位残存	口縁部横撫で、胴部篦削り、口縁部及び、胴部上位に煤付着。	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～下位篦削り。	
108	107	H-21	3	3	1	土師器	台付甕	15.8	－	－	普通	鈍い黄橙色	礫多量	口縁部～台部上位3/4	口縁部横撫で、胴部篦削り後篦撫で、台部撫で、口縁部及び胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部上位しぼり目、篦撫で。	内面焦げ付きの汚れあり。
109	523	H-21	7区1層＋8区1層＋10区2層＋11区1層＋12区1層＋14区1層＋H-24 12区1層			須恵器	甕	(17.0)	－	－	還元	灰黄色	白色粒・礫	口縁部～胴部上位1/4	轆轤整形、口縁部波状文、胴部平行叩き。	轆轤整形、胴部青海波文。	
110	108	H-21	12	3		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	－	3.9	－	普通	明褐色	黒色粒・雲母	胴部下位～底部残存	胴部下位～底部篦撫で。	胴部下位～底部篦撫で。	
111	672	H-24	9	2		土師器	高坏	－	9.8	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	脚部残存	脚部刷毛目、裾部横撫で。	脚部上位しぼり目、下位刷毛目。	
112	113	H-24	2	1		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	－	－	－	普通	鈍い黄褐色	白色粒・角閃石	頸部～胴部中位1/4	胴部撫で。	胴部撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
113	353	H-24	12	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	坩	—	—	—	普通	灰黄褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒	頸部～底部2/3	頸部横撫で、胴部～底部篦削り。	頸部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
114	114	H-24	3	ｻﾌﾞﾄﾚ2		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	—	—	—	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・角閃石	頸部～胴部下位1/2	胴部撫で、指頭痕。	頸部横撫で、胴部撫で。	
115	115	H-24	15	1	1	土師器	小形甕	—	4.2	—	普通	明赤褐色	白色粒・礫	口縁部下位～底部7/8	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
116	281	H-25	12	2		土師器	高坏	—	—	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒・角閃石	体部～裾部上位残存	体部篦撫で後篦磨き、脚部上位篦撫で、下位撫で、指頭痕、裾部横撫で。	底部撫で、脚部上位しぼり目、篦削り、裾部横撫で。	
117	302	H-25	1	2		土師器	高坏	—	12.4	—	普通	鈍い黄橙色	黒色粒・褐色粒・雲母	体部下位～脚部7/8	体部撫で、脚部～裾部撫で後放射状篦磨き。	底部篦撫で、脚部上位しぼり目、篦撫で、裾部横撫で。	
118	303	H-25	1	2		土師器	高坏	—	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	体部下位～裾部下位4/5	体部撫で、脚部篦撫で、指頭痕。	底部篦撫で、脚部篦削り、裾部横撫で。	
119	117	H-25	1	2	1	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	(5.7)	3.9	6.3	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	7/8	口縁部横撫で、胴部～底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部撫で。	
120	119	H-25	16	2	1	土師器	坩	10.3	—	9.2	普通	鈍い黄橙色	白色粒・雲母・礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
121	736	H-25	13	1		土師器	小形甕	(10.2)	4.2	8.3	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	3/5	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
122	110	H-25	8	1		土師器	ﾐﾆﾁｭｱS字甕	(5.8)	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	口縁部～胴部上位1/5	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	口縁部横撫で、胴部撫で。	
123	116	H-25	13	2		土師器	甕	17.4	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	口縁部～胴部中位残存	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～下位篦削り。	
124	118	H-25	13	2	4	土師器	甕	14.9	—	—	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・雲母・礫	口縁部～胴部下位9/10	口縁部横撫で、胴部篦削り、口縁部及び、胴部上位に煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
125	120	H-25	13	2	3	土師器	甕	15.5	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	口縁部～胴部中位1/2	口縁部横撫で、胴部篦削り、口縁部及び、胴部上位に煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で後篦削り。	
126	280	H-25	12	2		土師器	甕	16.4	—	—	普通	明赤褐色～鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	口縁部～胴部中位3/5	口縁部横撫で、胴部篦削り、頸部～胴部上位に煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
127	121	H-26	1	1		土師器	高坏	19.7	13.6	15.7	普通	橙色	黒色粒・褐色粒・雲母	4/5	口縁部篦削り後放射状篦磨き、体部篦撫で、脚部撫で、裾部横撫で。	口縁部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦削り、裾部横撫で。	
128	663	H-26	9	1		土師器	甕	(14.6)	—	—	普通	鈍い橙色	白色粒・角閃石・雲母	口縁部～胴部中位1/5	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位撫で、中位篦削り、煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
129	664	H-26	5	1		土師器	甕	(16.0)	—	—	普通	灰黄褐色～鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒・石英	口縁部～胴部中位1/4	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位撫で、中位篦削り、煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
130	677	H-27	1	1	1	土師器	壷	(17.3)	—	—	普通	鈍い橙色～鈍い褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位1/4	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～下位篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で、上位指頭痕。	
131	123	H-28	3	1		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	—	2.0	—	普通	赤褐色	角閃石・礫	頸部～底部1/3	頸部～胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	頸部～胴部上位篦撫で、下位～底部撫で。	
132	122	H-28	7	1	1	土師器	甕	13.5	—	—	普通	鈍い黄橙色～鈍い黄褐色	黒色粒・褐色粒	口縁部～胴部中位残存	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
133	377	H-28	5	1		土師器	甕	(16.0)	(6.0)	24.2	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	4/5	口縁部刷毛目後横撫で、胴部刷毛目後篦撫で、底部篦削り。	口縁部篦撫で、胴部上位刷毛目、中位篦撫で、下位刷毛目、底部撫で。	
134	492	H-28	10	ﾍﾞﾙﾄ1		土師器	甕	24.8	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部中位3/4	口縁部刷毛目後篦撫で、胴部刷毛目。	口縁部刷毛目、頸部篦撫で、胴部刷毛目。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
135	376･378	H-28	9･10	1		土師器	甕	15.0	6.6	30.5	普通	鈍い橙色	黒色粒	3/4	口縁部横撫で、胴部刷毛目、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部刷毛目、底部撫で。	
136	124	H-29	4	1	1	土師器	坏	10.2	3.3	3.9	普通	浅黄橙色～鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	5/6	口縁部横撫で、体部篦撫で、底部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
137	497	H-29	4	1	2	土師器	甕	(18.0)	(8.0)	26.6	普通	橙色～鈍い褐色	白色粒・黒色粒	1/2	口縁部刷毛目、頸部篦撫で、胴部刷毛目、底部篦削り。	口縁部～底部刷毛目。	
138	139	H-30	15	1		土師器	甕	19.6	－	－	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・礫	口縁部～胴部中位9/10	口縁部上位横撫で、下位刷毛目、胴部刷毛目後篦撫で。	口縁部～胴部刷毛目後篦撫で。	
139	295	H-31	12	2		土師器	高坏	17.1	－	－	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・角閃石・雲母	口縁部～脚部9/10	口縁部横撫で、体部篦撫で、脚部撫で。	口縁部横撫で後放射状篦磨き、脚部上位しぼり目、指撫で。	
140	289	H-31	12	ﾍﾞﾙﾄ2	4	土師器	高坏	19.8	12.3	15.8	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	3/5	口縁部横撫で、体部撫で、脚部撫で、裾部篦撫で後篦磨き。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で、器面荒れ単位不明瞭、脚部上位篦削り、下位撫で、裾部横撫で。	
141	299	H-31	16	2		土師器	高坏	－	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	体部下位～裾部上位4/5	体部下位篦撫で、脚部撫で、下位篦削り、裾部横撫で。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
142	140	H-31	13	2		土師器	坩	－	5.0	－	普通	橙色	白色粒・礫	口縁部下位～底部3/4	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
143	141	H-31	12	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	坩	12.2	－	11.5	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・雲母	4/5	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～底部篦削り、口縁部及び胴部下位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
144	130	H-31	12	2	2	土師器	壺	19.9	7.8	40.4	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒・礫	4/5	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
145	125	H-35	12	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	坏	13.3	－	5.5	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き。	
146	126	H-35	2	1	1	土師器	小形甕	8.4	4.7	7.3	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部刷毛目後篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
147	145	H-37	12	3		土師器	高坏	20.1	－	－	普通	橙色	雲母	坏部残存	口縁部横撫で、体部篦削り。	口縁部横撫で、体部器面荒れ調整不明瞭。	
148	275	H-37	14	3		土師器	高坏	－	11.0	－	普通	橙色	白色粒	体部下位～脚部3/4	体部篦撫で、脚部撫で、裾部横撫で。	底部器面荒れ調整不明瞭、脚部しぼり目、撫で、裾部横撫で。	
149	274	H-37	14	3		土師器	高坏	－	－	－	普通	鈍い橙色	雲母	体部下位～裾部上位3/4	体部篦削り、脚部～裾部撫で後放射状篦磨き。	底部篦磨き、脚部上位しぼり目、撫で、裾部横撫で。	
150	143	H-37	14	3		土師器	坩	7.3	4.0	7.7	普通	橙色	白色粒・雲母	5/6	口縁部～胴部上位横撫で、中位～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
151	128	H-37	2	3	1	土師器	小形甕	9.7	－	8.9	普通	灰黄褐色	礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
152	127	H-37	15	3		土師器	鉢	12.3	6.2	7.0	普通	鈍い橙色～橙色	白色粒・角閃石	4/5	口縁部～体部上位撫で、下位～底部篦撫で。	口縁部～底部篦撫で。	
153	131	H-37	13	3	1	土師器	甕	20.1	－	－	普通	鈍い黄褐色	白色粒・礫	口縁部～胴部下位4/5	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
154	144	H-37	16	3	1	土師器	甕	15.2	－	－	普通	鈍い橙色～鈍い褐色	黒色粒・礫	口縁部～胴部下位3/4	口縁部横撫で、胴部篦削り、口縁部及び、胴部上位に煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
155	142	H-37	5	3		土師器	壺	17.9	－	－	普通	明黄褐色～鈍い黄褐色	黒色粒・褐色粒・礫	口縁部～胴部中位1/3	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
156	129	H-39	16	2		土師器	高坏	15.3	－	－	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・雲母・礫	坏部7/8	口縁部横撫で、体部上位撫で、下位篦削り。	口縁部～体部横撫で、底部撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
157	301	H-40	14	3		土師器	高坏	17.3	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	口縁部～裾部下位2/3	口縁部横撫で、体部～脚部上位篦削り、下位～裾部篦磨き。	口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き、脚部撫で、裾部横撫で。	
158	505	H-40	12	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	高坏	—	10.6	—	普通	明黄褐色	白色粒・黒色粒	脚部7/8	脚部撫で後放射状篦磨き。	底部篦撫で、脚部しぼり目、撫で、裾部横撫で。	
159	667	H-40	14	2		土師器	坩	(8.0)	(3.0)	9.0	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	1/2	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
160	132	H-40	15	2		土師器	坩	9.4	—	8.3	普通	鈍い黄褐色	白色粒・褐色粒・角閃石	口縁部3/4欠損	口縁部～胴部上位横撫で、胴部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
161	285	H-40	11	3		土師器	坩	—	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	口縁部下位～底部1/3	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部撫で。	
162	133	H-40	11	3		土師器	坩	—	3.5	—	普通	明赤褐色、鈍い黄橙色	白色粒・雲母・礫	頸部～底部7/8	胴部～底部篦削り。	胴部～底部撫で。	
163	504	H-40	11	3		土師器	高坏	—	(8.0)	—	普通	鈍い褐色～暗褐色	白色粒・黒色粒	体部下位～脚部2/3	体部篦磨き、脚部篦撫で。	体部～底部篦磨き、脚部撫で。	
164	647	H-40	16	1		土師器	甕	(16.8)	—	—	普通	鈍い橙色	白色粒・角閃石・礫	口縁部～胴部上位2/5	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、上位指頭痕、胴部篦撫で。	
165	671	H-40	14	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	甕	(14.8)	—	—	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・角閃石・雲母	口縁部～胴部中位2/5	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位撫で、中位篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
166	679	H-41	D-1			土師器	高坏	13.8	10.0	11.2	普通	明褐色～鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、体部上位撫で、下位～脚部篦削り後篦磨き。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で、脚部刷毛目、裾部横撫で。	
167	632	H-42	7	2		土師器	高坏	—	11.0	—	普通	橙色	白色粒・角閃石	坏底部～脚部9/10	脚部撫で、裾部篦磨き。	底部篦撫で、脚部篦撫で、裾部横撫で。	
168	636	H-42	11	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	甕	(15.0)	—	—	普通	外-鈍い黄橙色～黒褐色内-鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位1/3	口縁部横撫で、胴部篦削り、口縁部～胴部中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
169	134	H-43	8	3		土師器	坏	9.0	—	5.6	普通	橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部～底部篦磨き。	
170	298	H-43	7	3		土師器	高坏	—	—	—	普通	明赤褐色～鈍い褐色	白色粒・礫	口縁部下位～裾部上位3/4	口縁部横撫で、体部撫で、脚部篦撫で下位撫で。	口縁部～体部横撫で、底部器面荒れ調整不明瞭、脚部篦削り、裾部上位撫で。	
171	135	H-43	4	2		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	4.5	3.6	3.1	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	ほぼ完形	口縁部～底部撫で。	口縁部～底部撫で。	
172	136	H-44	8	2		土師器	坏	13.4	6.7	7.6	普通	鈍い褐色～黒色	白色粒・黒色粒・礫	3/4	口縁部横撫で、体部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
173	306	H-44	4	2		土師器	甕	17.0	—	—	普通	鈍い橙色～褐灰色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部下位9/10	口縁部横撫で、頸部篦撫で、胴部篦削り、口縁部及び胴部上位煤付着。	口縁部～胴部篦撫で、口縁部上位煤付着。	
174	707	H-45	4	2		土師器	S字口縁台付甕	(13.8)	—	—	普通	鈍い橙色～黒褐色	白色粒	口縁部～胴部上位1/3	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	口縁部横撫で、胴部篦撫で、指頭痕。	
175	749	H-46	15	2		土師器	器台	(12.2)	—	—	普通	橙色	白色粒・角閃石	受部3/5	口縁部横撫で、体部刷毛目、下位篦撫で。	口縁部横撫で、底部撫で。	
176	748	H-46	15	2		土師器	高坏	—	—	—	普通	橙色	白色粒・角閃石	脚部3/4	脚部撫で、裾部横撫で。	脚部篦削り、裾部横撫で。	
177	769	H-46	12	2	1	土師器	甕	(15.6)	—	—	普通	鈍い黄橙色～黒色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位1/3	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦撫で、胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
178	712	H-46	16	2	1	土師器	甕	(15.6)	—	—	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位1/3	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦撫で、煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	137と同一個体か。
179	137	H-46	15	2	1	土師器	台付甕	—	10.2	—	普通	外-鈍い黄橙色内-黒褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	胴部下位～台部残存	胴部篦削り、台部撫で。	胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	712と同一個体か。

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
180	372	H-46	11	2	1	土師器	甕	(32.6) (27.4)	19.2 10.6	22.4	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	4/5	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部篦撫で、高台部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	長方形の高台が付き、胴部～口縁部は楕円形となる。
181	412	H-47	D-1			土師器	小形甕	10.7	—	10.1	普通	鈍い黄橙色～黒色	白色粒・黒色粒	4/5	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
182	146	H-50	3	2	4	土師器	台付甕	15.6	12.3	16.5	普通	明赤褐色	白色粒・角閃石	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～台部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、脚部篦撫で。	
183	147	H-50	3	2	3	土師器	台付甕	14.4	8.0	17.2	普通	鈍い褐色～鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒・礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部篦撫で、台部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
184	703	H-50	2	2		土師器	高坏	17.6	—	—	普通	鈍い橙色	白色粒・角閃石・礫	坏部残存	口縁部刷毛目後横撫で、体部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
185	704	H-50	3	2	2	土師器	坏	11.0	—	—	普通	灰黄褐色～鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒・礫	3/4	口縁部横撫で、体部篦削り、底部篦撫で。	口縁部～底部篦撫で。	
186	719	H-50	8	2		土師器	小形甕	11.5	3.7	8.6	普通	橙色～鈍い赤褐色	白色粒・角閃石・礫	4/5	口縁部刷毛目後横撫で、胴部撫で、篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
187	304	H-50	D-1		1	土師器	甕	14.8	5.9	24.1	普通	鈍い黄褐色～灰黄褐色	雲母・礫	3/4	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部撫で、頸部～胴部中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
188	148	H-50	3	2	5	土師器	台付甕	17.1	9.2	28.2	普通	鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒・礫	9/10	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位篦撫で、下位篦削り、中位に煤付着、台部撫で。	口縁部～胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り、台部篦撫で。	
189	716	H-51	7	1		土師器	高坏	—	11.4	—	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	脚部4/5	脚部篦磨き。	脚部撫で、裾部篦撫で。	
190	163	H-51	3	1	1	土師器	小形甕	(12.6)	—	14.8	普通	鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒・石英	7/8	口縁部横撫で、胴部上位篦削り後一部篦磨き、下位篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
191	276	H-51	8	1		土師器	ミニチュア	—	2.6	—	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・黒色粒	体部下位～底部残存	体部～底部撫で。	体部～底部篦撫で。	
192	520	H-52	14	2		土師器	高坏	—	9.4	—	普通	浅黄色～明赤褐色	白色粒・黒色粒	脚部7/8	脚部篦磨き。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
193	521	H-52	14	2		土師器	高坏	—	9.2	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	脚部残存	脚部刷毛目後篦磨き。	脚部刷毛目。	
194	371	H-52	10	2		土師器	坩	10.3	—	6.0	普通	橙色～鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部～底部篦磨き。	口縁部～底部篦磨き。	
195	149	H-52	11	2	1	土師器	小形甕	8.2	2.8	8.9	普通	鈍い黄橙色～灰黄褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部～底部篦磨き。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
196	343-2	H-52	7	2	1	土師器	甕	15.2	6.1	21.0	普通	鈍い黄橙色～褐灰色	白色粒・黒色粒	4/5	口縁部横撫で、胴部上位刷毛目、下位篦撫で、底部刷毛目。	胴部～底部刷毛目。	
197	343-1	H-52	7	2	2	土師器	甕	—	7.0	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	胴部上位～底部4/5	胴部刷毛目、底部篦撫で。	胴部篦撫で、下位～底部刷毛目。	
198	356	H-53	16	1		土師器	ミニチュア	6.8	2.6	3.0	普通	鈍い黄橙色	白色粒・雲母	口縁部5/6欠損	口縁部～体部撫で、指頭痕、底部篦撫で。	体部～底部篦撫で。	
199	701	H-53	10	1		土師器	小形甕	—	4.4	—	普通	鈍い黄褐色～黒色	白色粒・黒色粒	胴部中位～底部残存	胴部～底部篦撫で。	胴部～底部篦撫で。	
200	728	H-53	4	1		土師器	壷	(15.6)	—	—	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部上位1/3	口縁部刷毛目後横撫で、胴部刷毛目。	口縁部刷毛目後横撫で、胴部篦撫で。	
201	700	H-53	1	1		土師器	台付甕	—	9.6	—	普通	鈍い褐色～灰褐色	白色粒・黒色粒	底部～台部残存	台部刷毛目後撫で。	底部篦撫で、台部篦撫で。	
202	150	H-54	9	3		土師器	高坏	18.0	(14.0)	16.4	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒	4/5	口縁部横撫で後放射状篦磨き、体部篦削り後放射状篦磨き、脚部篦撫で後放射状篦磨き。	口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き、脚部しぼり目、裾部横撫で。	
203	151	H-54	9	3		土師器	高坏	17.7	(13.8)	15.1	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で後放射状篦磨き、体部篦撫で後放射状篦磨き、脚部篦撫で後放射状篦磨き。	口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦削り、裾部横撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
204	162	H-54	5	3		土師器	高坏	18.2	—	—	普通	鈍い褐色～黒色	白色粒・黒色粒	坏部3/4	口縁部横撫で後放射状篦磨き、体部篦削り後放射状篦磨き。	口縁部～体部篦撫で後放射状篦磨き。	
205	277	H-54	6	3		土師器	高坏	—	13.2	—	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	坏底部～脚部3/4	体部撫で、脚部撫で後篦磨き。	底部篦磨き、脚部篦削り、裾部横撫で。	
206	291	H-54	10	ﾍﾞﾙﾄ3		土師器	高坏	—	12.9	—	普通	橙色	白色粒	脚部6/7	脚部篦撫で、裾部横撫で。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
207	297	H-54	5	3		土師器	高坏	—	14.3	—	普通	鈍い橙色～灰褐色	白色粒・褐色粒・雲母	脚部3/4	脚部篦撫で、裾部横撫で。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
208	296	H-54	5	3		土師器	高坏	—	—	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒・雲母	脚部残存	脚部撫で、裾部横撫で。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
209	279	H-54	1	3		土師器	高坏	—	—	—	普通	橙色	白色粒・雲母	脚部4/5	脚部篦磨き、裾部横撫で。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
210	161	H-54	4	3		土師器	坩	10.0	2.8	9.4	普通	鈍い黄橙色～灰白色	白色粒・褐色粒・雲母	口縁部一部欠損	口縁部中位に凸帯が巡る。口縁部横撫で、下位篦削り、胴部上位撫で、中位～下位篦磨き、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
211	153	H-54	6	3		土師器	坩	9.3	4.0	10.3	普通	灰褐色～橙色	褐色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
212	154	H-54	6	3	2	土師器	坩	9.1	—	8.0	普通	鈍い褐色	白色粒・褐色粒・雲母	完形	口縁部～頸部横撫で、胴部中位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
213	300	H-54	8	2		土師器	小形甕	—	2.4	—	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒・雲母	口縁部下位～底部2/5	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
214	160	H-54	6	3		土師器	小形甕	8.5	2.2	6.5	普通	灰褐色～鈍い赤褐色	白色粒・褐色粒・雲母	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
215	159	H-54	5	3		土師器	小形甕	9.9	1.4	7.6	普通	浅黄橙色	白色粒・褐色粒・雲母	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
216	158	H-54	5	3		土師器	小形甕	12.2	2.7	7.2	普通	灰褐色	白色粒・褐色粒・雲母	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
217	156	H-54	5	3		土師器	小形甕	9.7	2.3	8.6	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒・雲母	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
218	157	H-54	5	3		土師器	小形甕	9.8	—	8.9	普通	鈍い黄褐色	白色粒・褐色粒・雲母	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
219	287	H-54	5	3		土師器	小形甕	12.7	3.4	10.3	普通	鈍い黄褐色～橙色	白色粒・褐色粒・雲母	1/2	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
220	152	H-54	10	ﾍﾞﾙﾄ3		土師器	甕	(14.2)	—	—	普通	鈍い黄褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位3/4	口縁部横撫で、胴部篦削り、頸部～胴部中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
221	155	H-54	5	3		土師器	甕	(14.0)	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位7/8	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
222	496	H-54	1	1	1	土師器	壷	—	7.5	—	普通	灰褐色～鈍い黄褐色	白色粒・褐色粒	頸部～底部1/3	胴部上位篦削り、中位～下位篦撫で、底部撫で。	胴部～底部篦撫で。	
223	697	H-55	D-1			土師器	高坏	17.9	—	—	普通	橙色	白色粒・雲母	口縁部～脚部上位9/10	口縁部横撫で後篦磨き、体部～脚部篦削り後篦磨き。	口縁部～底部横撫で後篦磨き、脚部上位篦削り、中位撫で。	
224	165	H-55	16	3		土師器	器台	7.3	11.0	8.5	普通	橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦磨き。	口縁部横撫で後放射状篦磨き、脚部上位篦削り、下位篦撫で。	
225	164	H-55	16	3		土師器	坩	15.1	2.5	7.4	普通	明赤褐色～黒色	白色粒・褐色粒	7/8	口縁部～底部篦磨き。	口縁部～底部篦磨き。	
226	360	H-55	11	ｻﾌﾞﾄﾚ2		土師器	小形甕	—	(2.2)	—	普通	鈍い黄褐色～暗褐色	白色粒・黒色粒	頸部～底部1/4	頸部横撫で、胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	頸部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
227	168	H-56	11	ｻﾌﾞﾄﾚ2		土師器	坏	12.6	3.7	5.3	普通	明赤褐色～鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部刷毛目、体部篦削り、底部篦撫で、口縁部煤付着。	口縁部刷毛目、体部～底部篦撫で。	
228	166	H-56	16	3		土師器	小形甕	11.8	—	8.3	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
229	764	H-56	D-1		1	土師器	小形甕	11.4	4.0	7.6	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	7/8	口縁部横撫で、胴部上位刷毛目後撫で、下位～底部箆削り。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
230	167	H-56	16	3		土師器	小形甕	15.2	－	9.1	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部箆削り、口縁部～胴部下位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
231	714	H-56	3	2		土師器	台付甕	13.9	－	－	普通	橙色～灰褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～底部7/8	口縁部横撫で、胴部上位箆撫で、下位箆削り後箆撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
232	170	H-56	D-1		3	土師器	甕	16.1	－	－	普通	鈍い褐色～褐灰色	白色粒・黒色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位7/8	口縁部刷毛目後横撫で、煤付着、胴部箆撫で、胴部中位～下位煤付着。	口縁部刷毛目後横撫で、胴部上位～中位刷毛目、下位箆撫で。	
233	169	H-56	9	2	1	土師器	台付甕	16.2	11.2	29.4	普通	赤褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部箆削り、台部箆撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で、台部箆撫で。	
234	658	H-56	6	1		土師器	甕	(14.5)	－	－	普通	橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～脚部下位3/5	口縁部横撫で、煤付着、頸部撫で、胴部箆削り、胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
235	292	H-57	4	1		土師器	高坏	－	12.8	－	普通	橙色	白色粒・褐色粒・雲母	脚部残存	脚部撫で、裾部横撫で。	脚部箆削り、裾部横撫で。	
236	294	H-57	4	1		土師器	高坏	－	－	－	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒	坏底部～脚部4/5	体部箆削り、脚部箆撫で。	底部箆撫で、脚部上位箆撫で、下位しぼり目、撫で。	
237	293	H-57	4	1		土師器	高坏	－	－	－	普通	灰褐色～明赤褐色	白色粒・褐色粒・礫	脚部5/6	脚裾部に稜を持つ。脚部丁寧な撫で、裾部横撫で。	脚部箆削り、裾部横撫で。	
238	501	H-57	4	1	5	土師器	甕	(18.2)	－	－	普通	鈍い黄橙色～黒褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位5/6	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
239	171	H-57	4	1	1	土師器	甕	15.2	－	－	普通	鈍い黄橙色～橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位2/3	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
240	273	H-58	14	2		土師器	高坏	(20.2)	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	坏部1/4	口縁部中位に稜を持つ。円孔1箇所のみ残存。口縁部横撫で、体部箆撫で。	口縁部～底部箆撫で。	
241	269	H-58	2	2		土師器	高坏	－	13.2	－	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	坏底部～脚部4/5	脚部箆撫で、裾部横撫で。	底部撫で、脚部箆撫で、裾部横撫で。	
242	290	H-58	16	2		土師器	小形甕	(12.1)	－	7.1	普通	鈍い赤褐色～黒褐色	白色粒・褐色粒	1/2	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部箆削り。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
243	309	H-58	D-1		3	土師器	甕	14.4	－	24.3	普通	鈍い黄橙色～褐色	白色粒・黒色粒	3/4	丸底。口縁部横撫で、煤付着、胴部～底部刷毛目、中位～底部煤付着。	口縁部刷毛目、胴部箆撫で、器面が荒れ単位不明瞭、下位に使用時のヨゴレ付着。	
244	310	H-58	D-1		1	土師器	甕	16.0	7.1	22.7	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	4/5	口縁部横撫で、煤付着、胴部～底部箆撫で、上位～中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
245	344	H-58	D-1		2	土師器	甕	19.3	(7.3)	21.6	普通	鈍い褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部～胴部刷毛目、下位刷毛目後粗い箆磨き、底部箆撫で、口縁部胴部～中位煤付着。	口縁部～胴部中位刷毛目、下位～底部箆撫で。	
246	268	H-59	16	2		土師器	高坏	18.9	－	－	普通	橙色	白色粒・褐色粒・礫	坏部残存	口縁部横撫で、体部箆撫で。	口縁部横撫で、体部撫で。	
247	172	H-59	16	2		土師器	小形甕	10.5	3.8	7.3	普通	鈍い橙色～黒色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、指頭痕、胴部上位撫で、中位～下位箆削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
248	648	H-59	16	2		土師器	甕	15.0	－	－	普通	外-黒褐色内-灰褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位1/2	口縁部横撫で、胴部箆撫で、煤付着。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
249	649	H-59	16	2		土師器	甕	(16.0)	－	－	普通	外-橙色～暗褐色内-橙色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位1/3	口縁部横撫で、煤付着、胴部箆撫で、胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
250	675	H-60	13	1		土師器	甕	(15.0)	—	—	普通	褐色～灰褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位1/2	口縁部横撫で、胴部篦削り、煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
251	272	H-61	1	1		土師器	坩	—	3.0	—	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒	口縁部下位～底部1/3	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部篦削り。	口縁部刷毛目、胴部～底部篦撫で。	
252	359	H-61	4	1		土師器	坩	—	3.0	—	普通	明赤褐色	白色粒・黒色粒	胴上位～底部残存	胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	胴部～底部篦撫で。	
253	175	H-62	4	2		土師器	高坏	18.3	—	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒	坏部残存	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
254	180	H-62	16	2		土師器	坏	9.8	—	7.2	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒	完形	口縁部横撫で、体部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
255	177	H-62	13	2		土師器	坏	12.2	3.2	6.9	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、体部上位撫で、中位～下位篦撫で、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部器面が荒れ調整不明瞭。	
256	178	H-62	18	2		土師器	坏	12.1	4.6	6.4	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、体部上位撫で、中位～下位篦撫で、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
257	176	H-62	16	2		土師器	鉢	(12.2)	4.3	7.1	普通	橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
258	173	H-62	16	2	1	土師器	小形甕	10.2	4.5	7.8	普通	明赤褐色～鈍い赤褐色	白色粒・褐色粒・雲母	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部上位刷毛目後篦磨き、中位～下位篦削り後篦磨き、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
259	174	H-62	20	2		土師器	小形甕	12.1	7.2	9.2	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～下位篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
260	181	H-62	20	2		土師器	小形甕	11.3	—	9.5	普通	鈍い褐色～黒褐色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
261	362	H-62	6	1		土師器	坩	—	—	—	普通	橙色	黒色粒・褐色粒	頸部～胴部下位1/4	頸部～胴部篦撫で。	頸部～胴部篦撫で。	
262	179	H-62	14	2		土師器	台付甕	12.3	11.0	17.2	普通	鈍い赤褐色	白色粒・褐色粒・礫	7/8	口縁部横撫で後篦磨き、胴部上位篦磨き、下位～台部篦撫で。	口縁部横撫で後篦磨き、胴部～底部篦撫で後篦磨き、台部篦削り、裾部篦撫で。	
263	519	H-62	11	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	甑	—	—	—	普通	鈍い橙色～鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	胴部下位～底部残存	胴部～底部篦撫で。	胴部～底部篦撫で。	底部径1.6㎝の円孔。
264	197	H-62	2	2	1	土師器	台付甕	17.5	11.1	33.0	普通	橙色～鈍い褐色	白色粒・黒色粒	頸部一部欠損	口縁部～台部篦撫で、口縁部及び胴部中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で、胴部下位～底部に使用時のヨゴレ付着。	
265	182	H-63	15	2		土師器	坏	11.3	—	5.0	普通	橙色～黒褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部器面荒れ調整不明瞭。	
266	651	H-63	16	2		土師器	坏	11.6	—	5.9	普通	橙色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で、体部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部撫で後篦磨き。	
267	685	H-63	15	ｻﾌﾞﾄﾚ1		土師器	坏	(12.2)	—	7.2	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	2/3	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	器面荒れ調整不明瞭。	
268	646	H-63	2	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	高坏	—	(12.6)	—	普通	明褐色～暗褐色	白色粒・黒色粒	体部～脚部1/2	体部篦撫で後篦磨き、脚部上位撫で、下位～裾部横撫で後放射状篦磨き。	体部～底部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦撫で、裾部横撫で。	
269	678	H-63	3	2		土師器	坏	(8.7)	—	5.8	普通	鈍い赤褐色	白色粒・褐色粒・礫	1/3	口縁部～体部篦撫で、底部篦削り。	口縁部篦削り、体部上位撫で、下位～底部篦撫で後篦磨き。	
270	358	H-63	13	2		土師器	坩	8.3	3.3	6.3	普通	鈍い黄橙色	黒色粒	2/3	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
271	650	H-63	16	2		土師器	小形甕	(11.3)	3.6	8.0	普通	橙色	白色粒・礫	3/4	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
272	692	H-64	D-1		1	土師器	高坏	(17.2)	14.4	14.7	普通	黄橙色～鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	1/2	口縁部横撫で、下位刷毛目後撫で、体部～脚部上位篦削り、下位刷毛目後撫で、裾部横撫で。	口縁部横撫で、底部刷毛目後撫で、脚部上位しぼり目、下位篦削り、裾部横撫で。	
273	654	H-64	D-1		2	土師器	坩	－	－	－	普通	橙色～灰褐色	白色粒・褐色粒	頸部～底部3/4	胴部上位撫で、下位～底部篦削り。	胴部～底部篦撫で、指頭痕。	
274	183	H-64	D-1		3	土師器	甕	16.0	7.1	28.9	普通	明黄褐色～鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り、頸部～胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
275	503・676	H-64	D-2			土師器	台付甕	(16.1)	10.4	34.8	普通	鈍い橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	2/5	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位篦撫で、下位篦削り、中位に煤付着、台部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
276	644	H-66	6	ﾍﾞﾙﾄ1		土師器	高坏	－	13.0	－	普通	橙色～灰褐色	白色粒・褐色粒	脚部1/2	脚部篦撫で、裾部横撫で。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
277	538	H-67	10	1		土師器	坩	9.0	－	7.6	普通	鈍い赤褐色～鈍い褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
278	681	H-67	16	1		土師器	坩	9.8	2.1	10.8	普通	鈍い褐色	白色粒・角閃石・礫	7/8	口縁部上位横撫で、下位篦撫で、胴部篦削り、底部撫で。	口縁部上位横撫で、下位篦撫で、胴部～底部篦撫で。	
279	659	H-67	6	1		土師器	甕	(15.7)	－	－	普通	浅黄橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部中位1/5	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦削り、煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
280	653	H-67	7	1		土師器	台付甕	－	8.2	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	胴部下位～台部残存	胴部下位～台部篦削り。	底部篦撫で、台部篦撫で。	
281	305	H-69	10	2		土師器	甕	13.8	6.9	23.2	普通	鈍い黄褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部器面荒れ調整不明瞭、胴部下位～底部篦撫で。	
282	375	H-69	15	2		土師器	台付甕	16.5	12.6	36.6	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	胴部一部欠損	口縁部横撫で、胴部上位～中位篦撫で、下位篦削り、台部撫で、胴部中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
283	373	H-72	12	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	高坏	－	15.5	－	普通	橙色～灰黄褐色	白色粒・褐色粒	脚部残存	裾部に段を持つ。脚部篦磨き、裾部横撫で。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
284	185	H-72	14	2		土師器	坩	9.0	－	9.9	普通	橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
285	566	H-72	15	2		土師器	坩	(8.6)	－	9.0	普通	橙色	白色粒・褐色粒	4/5	口縁部上位横撫で、下位～胴部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
286	184	H-72	D-1		1	土師器	坩	9.1	－	15.0	普通	鈍い黄橙色～鈍い赤褐色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
287	186	H-72	4	1	1	土師器	小形甕	－	6.2	－	普通	橙色～鈍い褐色	白色粒・褐色粒	口縁部下位～底部残存	口縁部下位撫で、胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部～底部篦撫で。	
288	494	H-72	13	2	1	土師器	台付甕	16.4	10.1	32.2	普通	橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒	2/3	口縁部横撫で、胴部篦削り、台部撫で。	口縁部横撫で、胴部上位篦磨き、下位～底部篦撫で、台部篦撫で。	
289	191	H-75	15	3		土師器	高坏	16.2	12.8	12.0	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	3/5	口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦磨き、脚部円孔1箇所。	口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦撫で、裾部横撫で。	
290	188	H-75	6	3		土師器	坩	－	3.0	－	普通	鈍い黄橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒	口縁部上位欠損	口縁部横撫で、胴部篦撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
291	190	H-75	16	3	1	土師器	坩	9.7	－	7.6	普通	鈍い橙色～鈍い褐色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
292	263	H-75	16	3	2	土師器	坩	11.9	－	14.8	普通	鈍い黄橙色～橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で後放射状篦磨き、胴部上位篦削り後放射状篦磨き、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で後放射状篦磨き、胴部～底部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
293	189	H-75	15	3	1	土師器	小形甕	10.3	2.3	9.0	普通	鈍い黄色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
294	284	H-75	2	3	1	土師器	小形甕	11.7	3.8	9.2	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
295	374	H-75	2	ﾍﾞﾙﾄ3		土師器	小形甕	12.9	3.9	9.5	普通	橙色～鈍い黄褐色	白色粒・褐色粒	4/5	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
296	446	H-75	12	3	1	土師器	壷	－	6.8	－	普通	鈍い黄褐色～灰黄褐色	白色粒・黒色粒	口縁部下位～底部2/3	口縁部横撫で、胴部上位～中位篦削り、下位～底部篦撫で。	口縁部篦撫で、胴部～底部篦撫で。	
297	187	H-75	2	3	2	土師器	甕	17.5	－	－	普通	浅黄橙色～橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部中位残存	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位篦撫で、中位～下位篦削り煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
298	627	H-77	4	1		土師器	坩	－	－	－	普通	褐灰色	白色粒・褐色粒	口縁部下位～底部2/5	口縁部横撫で、胴部撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	東海系
299	690	H-77	9	ﾍﾞﾙﾄ3		土師器	S字口縁台付甕	(12.0)	－	－	普通	灰褐色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位1/4	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
300	193	H-78	14	2		土師器	坏	11.5	－	5.6	普通	橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
301	286	H-78	15	2	1	土師器	高坏	－	12.9	－	普通	橙色～浅黄橙色	白色粒・褐色粒	脚部7/8	脚部器面荒れ調整不明瞭、裾部横撫で。	脚部篦削り、裾部横撫で。	
302	192	H-78	3	2		土師器	坩	13.8	－	15.4	普通	灰黄褐色～橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で後放射状篦磨き、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
303	490	H-78	3	2	1	土師器	甕	14.3	5.9	17.7	普通	鈍い褐色～灰黄褐色	白色粒・褐色粒・礫	5/6	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り、頸部～胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
304	491	H-78	15	2	2	土師器	甕	13.2	5.9	21.4	普通	鈍い褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、頸部撫で、胴部篦削り、下位篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
305	270	H-83	6	1		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ土器	－	4.0	－	普通	灰黄褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	胴部上位～底部1/2	胴部撫で、底部篦撫で。	胴部～底部篦撫で。	
306	740	H-83	1	ｻﾌﾞﾄﾚ1		土師器	坩	(10.0)	－	9.4	普通	鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒	2/3	口縁部横撫で、胴部上位撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、下位篦削り、胴部～底部篦撫で。	
307	194	H-83	2	2		土師器	小形甕	9.8	3.7	10.6	普通	灰黄褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、頸部～胴部上位刷毛目、下位～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
308	744	H-83	8	2		土師器	甕	(13.9)	5.7	19.4	普通	浅黄橙色～鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	1/2	口縁部横撫で、胴部篦撫で後刷毛目、底部篦撫で。	口縁部篦撫で、胴部～底部篦撫で後刷毛目。	
309	361	H-84	3	1		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ土器	4.1	4.0	2.9	普通	褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部～底部撫で。	口縁部～底部撫で。	
310	773	H-89	11	1		土師器	S字口縁台付甕	(15.0)	－	－	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	口縁部～胴部上位1/8	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	東海系
311	711	H-89	11	1		土師器	S字口縁台付甕	11.9	－	－	普通	鈍い黄橙色～灰褐色	白色粒・褐色粒・雲母	口縁部～胴部上位1/5	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦撫で。	東海系
312	705	H-89	11	1	1	土師器	甕	13.8	－	－	普通	鈍い褐色～黒色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部下位5/6	口縁部～胴部篦磨き。	口縁部～胴部篦磨き。	
313	195	H-91	1	2		土師器	坏	9.4	－	－	普通	橙色～黒色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦磨き、煤付着。	口縁部～底部篦磨き。	
314	717	H-91	3	2		土師器	S字口縁台付甕	－	－	－	普通	鈍い褐色	白色粒・雲母	底部～台部上位3/4	胴部刷毛目、台部刷毛目後撫で。	底部篦撫で、台部撫で。	
315	743	H-92	3	1		土師器	S字口縁台付甕	14.9	－	－	普通	鈍い黄橙色～灰黄褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位2/5	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	東海系
316	196	H-93	3	2		土師器	坩	11.9	2.9	6.9	普通	橙色	白色粒・褐色粒	胴部一部欠損	口縁部横撫で、胴部撫で、底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
317	390	H-93	4	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	甑	―	4.0	―	普通	灰黄褐色～鈍い黄褐色	白色粒・褐色粒	胴部下位～底部残存	胴部篦削り、底部篦撫で。	胴部～底部篦撫で。	
318	440	H-94	7	2	1	土師器	坏	(11.2)	3.0	6.1	普通	鈍い黄橙色～黒色	白色粒・黒色粒	1/3	口縁部横撫で、体部上位篦撫で、下位篦削り、底部小さい上げ底、撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
319	441	H-94	16	2		土師器	高坏	(16.0)	11.7	15.0	普通	橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	4/5	口縁部横撫で、体部刷毛目後篦撫で、放射状篦磨き、底部～脚部篦撫で、裾部篦磨き、端部横撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で後放射状篦磨き、脚部上位しぼり目、下位篦撫で、裾部横撫で。	
320	766	H-94	4	1		土師器	高坏	(18.8)	―	―	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	坏部3/5	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
321	312	H-94	4	2	1	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	4.0	3.0	6.2	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	完形	口縁部横撫で、胴部～底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
322	311	H-94	8	2	1	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	4.9	4.1	4.6	普通	鈍い橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部～体部撫で、底部篦撫で。	口縁部～底部撫で。	
323	313	H-94	9	2		土師器	坏	9.4	―	6.8	普通	橙色～黒色	白色粒・褐色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
324	443	H-94	3	2	1	土師器	甕	15.4	―	―	普通	灰黄褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位4/5	口縁部横撫で、胴部篦削り、頸部～胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
325	767	H-94	9･5	ﾍﾞﾙﾄ2･1		土師器	甕	(15.6)	―	―	普通	橙色～鈍い赤褐色	白色粒・礫	口縁部～胴部中位1/3	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
326	629	H-94	4	1		土師器	甕	(28.0)	―	―	普通	鈍い黄橙色～灰黄褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部上位1/4	口縁部横撫で、胴部刷毛目後篦撫で。	口縁部刷毛目後横撫で、胴部刷毛目。	
327	756	H-95	4	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	高坏	19.7	―	―	普通	橙色～明赤褐色	白色粒・黒色粒・礫	坏部残存	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
328	342	H-95	1	2	1	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	7.2	3.4	7.2	普通	橙色～黒色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
329	346	H-95	4	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	小形甕	11.2	5.6	10.8	普通	橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	3/4	口縁部横撫で、胴部篦削り、底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
330	444	H-95	1	2	2	土師器	台付甕	13.8	9.6	16.5	普通	鈍い黄橙色～黒褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部～台部篦撫で、口縁部～胴部下位煤付着。	口縁部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
331	460	H-96	周辺			土師器	高坏	17.4	―	―	普通	明褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒	坏部7/8	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
332	754･760	H-96	12	1		土師器	高坏	―	16.1	―	普通	鈍い黄褐色～暗褐色	白色粒・黒色粒	脚部7/8	脚部篦撫で後篦磨き、裾部横撫で。	脚部上位しぼり目、下位撫で、裾部横撫で。	
333	721	H-96	16	1		土師器	小形壷	―	4.1	―	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	胴部上位～底部3/4	胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	胴部～底部篦撫で。	
334	382	H-97	10	2	1	土師器	高坏	16.2	11.6	15.0	普通	鈍い黄橙色～灰黄褐色	白色粒・黒色粒	裾部一部欠損	口縁部横撫で、体部篦削り、脚部篦撫で、裾部横撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で、脚部篦撫で、裾部横撫で。	
335	518	H-97	2	2		土師器	高坏	―	―	―	普通	鈍い褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	坏底部～脚部上位4/5	底部～脚部篦撫で。	底部篦撫で、脚部しぼり目。	
336	439	H-97	6	2	1	土師器	坩	(7.6)	―	7.7	普通	赤褐色～暗褐色	白色粒・黒色粒	5/6	口縁部横撫で、胴部篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部撫で。	
337	463	H-97	6	2	2	土師器	坩	8.0	―	9.0	普通	鈍い黄橙色～黒褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
338	381	H-97	16	2	3	土師器	坩	7.8	4.0	7.7	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
339	379	H-97	16	2	4	土師器	小形甕	―	―	4.0	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒	口縁部上位欠損	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部篦削り。	口縁部下位～底部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
340	380	H-97	2	2	1	土師器	甕	16.4	—	—	普通	鈍い黄色～黒褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部上位残存	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
341	445	H-97	16	2	1	土師器	甕	14.2	—	25.0	普通	鈍い黄褐色～黒色	白色粒・黒色粒	1/2	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦撫で、中位に煤付着、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
342	522	H-97	13	2		土師器	鍋	(38.0)	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位1/3	口縁部刷毛目後横撫で、頸部刷毛目、胴部篦撫で。	口縁部横撫で後撫で、胴部篦撫で。	
343	524	H-98	2	1		須恵器	甕	(31.1)	—	—	還元	灰色	白色粒・礫	口縁部破片	轆轤整形。	轆轤整形。	
344	715	H-100	15	3		土師器	高坏	(18.8)	—	—	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	口縁部～裾部上位1/2	口縁部横撫で、体部篦削り、脚部撫で裾部横撫で。	口縁部横撫で、体部～底部調整不明瞭、脚部篦削り、裾部横撫で。	
345	482	H-100	9	3	1	土師器	小形甕	—	6.1	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒	胴部中位～底部残存	胴部中位～底部篦削り。	胴部中位～底部篦撫で。	
346	352	H-100	2	ﾍﾞﾙﾄ3	1	土師器	甕	17.8	—	—	普通	明褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位2/3	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位篦撫で、煤付着、下位篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
347	464	H-101	2	1		土師器	坏	14.8	6.1	6.4	普通	褐色～黒褐色	白色粒・褐色粒・雲母	3/4	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
348	465	H-101	12	2		土師器	坏	(15.0)	3.8	5.5	普通	鈍い橙色～灰褐色	白色粒・褐色粒	1/4	口縁部横撫で、体部上位篦撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
349	529	H-101	9	2		土師器	坏	11.8	3.5	5.5	普通	橙色～灰黄褐色	白色粒・褐色粒	2/3	口縁部横撫で、体部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部調整不明瞭。	
350	528	H-101	9	2		土師器	高坏	(19.0)	—	—	普通	橙色～鈍い黄褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～脚部1/2	口縁部横撫で後放射状篦磨き、体部篦削り後放射状篦磨き、脚部篦撫で、下位放射状篦磨き。	口縁部～底部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦撫で。	
351	350	H-101	14	2	2	土師器	器台	—	—	—	普通	黄橙色	白色粒・褐色粒	3/4	口縁部中位に段を持つ、坏部円孔4箇所。口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き、脚部撫で。	口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き、脚部上位篦削り、下位篦撫で。	
352	466	H-101	16	2		土師器	高坏	—	11.8	—	普通	橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	脚部残存	脚部撫で、裾部横撫で後放射状篦磨き。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
353	351	H-101	14	2	1	土師器	坩	—	4.6	—	普通	橙色～鈍い褐色	白色粒・褐色粒	胴部下位～底部4/5	胴部下位～底部篦削り。	胴部下位～底部撫で。	
354	348	H-101	6	2	2	土師器	坩	—	—	—	普通	鈍い黄橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	口縁部下位～底部残存	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
355	485	H-101	10	2	1	土師器	坩	13.8	7.1	14.6	普通	橙色～明赤褐色	白色粒・褐色粒	7/8	口縁端部横撫で、口縁部篦磨き、頸部撫で、胴部篦磨き、底部撫で。	口縁部～底部篦撫で。	
356	527	H-101	9	1・2	1	土師器	甕	15.1	5.8	17.1	普通	橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
357	526	H-101	9	1・2	2	土師器	甕	(14.2)	6.1	22.4	普通	鈍い褐色～黒色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
358	462	H-101	14	2	1	土師器	甕	(16.7)	—	—	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位2/3	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
359	461	H-101	14	2	2	土師器	甕	15.9	—	—	普通	鈍い橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位3/4	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位篦撫で、煤付着、下位篦削り。	口縁部横撫で、頸部撫で、胴部篦撫で。	
360	452	H-101	4	2		土師器	壷	18.4	—	—	普通	橙色～鈍い赤褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部上位7/8	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部～胴部篦撫で。	
361	349	H-102	3	2	1	土師器	坩	(9.2)	—	8.8	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒	4/5	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
362	742	H-102	3	2		土師器	台付甕	—	10.6	—	普通	橙色	白色粒・雲母・礫	胴部下位～台部残存	胴部下位箆削り、台部箆撫で。	底部箆撫で、台部上位撫で、下位箆撫で。	
363	473	H-103	10	2		土師器	高坏	—	13.2	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒	脚部残存	脚部器面荒れ調整不明瞭、裾部横撫で。	脚部しぼり目、撫で、裾部横撫で。	
364	469	H-103	16	2		土師器	高坏	—	—	—	普通	鈍い褐色～褐灰色	白色粒・褐色粒	口縁部下位～脚部上位残存	口縁部下位横撫で、体部箆削り、脚部撫で。	体部～底部箆撫で、脚部箆撫で。	
365	448	H-103	13	2	4	土師器	坩	(8.8)	4.1	9.2	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒・雲母	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部～底部箆削り。	口縁部～底部箆撫で。	
366	467	H-103	15	2		土師器	坩	—	3.4	—	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒	頸部～底部残存	胴部箆削り、底部撫で。	頸部～底部箆撫で。	
367	468	H-103	16	2		土師器	坩	—	—	—	普通	橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒	頸部～底部1/3	胴部～底部箆削り。	頸部～底部箆撫で。	
368	474	H-103	10	ﾍﾞﾙﾄ2	1	土師器	坩	—	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	胴部～底部残存	胴部上位箆撫で、下位～底部箆削り。	胴部～底部箆撫で。	
369	470	H-103	9	ﾍﾞﾙﾄ2	1	土師器	坩	12.0	—	—	普通	褐灰色～橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位1/3	口縁部横撫で、胴部箆削り。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
370	383	H-103	10	2	1	土師器	坩	13.7	—	16.8	普通	橙色	白色粒・褐色粒	胴部一部欠損	口縁部横撫で後放射状箆磨き、胴部上位撫で、下位～底部箆削り。	口縁部横撫で後放射状箆磨き、胴部～底部箆撫で。	
371	737	H-103	6	2		土師器	鉢	15.0	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	口縁部～体部下位1/2	口縁部横撫で後放射状箆磨き、体部箆撫で。	口縁部横撫で、体部箆撫で。	台部が付くか。
372	472	H-103	14	2		土師器	小形甕	13.2	—	—	普通	橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位1/2	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～下位箆削り。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
373	384	H-103	13	2	1	土師器	甕	15.4	6.6	19.8	普通	鈍い橙色～黒色	白色粒・褐色粒	2/3	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位箆撫で、中位煤付着、下位箆削り、底部箆削り。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
374	386	H-103	14	2	1	土師器	甕	(15.5)	—	—	普通	黄橙色～鈍い黄褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部中位3/4	口縁部横撫で、胴部上位箆撫で、中位箆削り、口縁部～胴部煤付着。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
375	471	H-103	14	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	壷	—	6.0	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	胴部下位～底部1/3	胴部～底部箆削り。	胴部～底部箆撫で。	
376	387	H-103	16	2	1	土師器	甕	(14.5)	5.6	26.7	普通	鈍い黄橙色～褐灰色	白色粒・礫	3/4	口縁部横撫で、胴部箆削り、底部箆撫で。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
377	385	H-103	15	2	1	土師器	台付甕	17.4	—	—	普通	鈍い黄橙色～鈍い褐色	白色粒・褐色粒・礫・石英	口縁部～台部上位2/3	口縁部横撫で、下位煤付着、胴部箆削り、台部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で、台部箆撫で。	
378	480	H-104	16	2	1	土師器	高坏	18.1	—	—	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒	坏部7/8	口縁部～体部横撫で後放射状箆磨き。	口縁部～底部横撫で後放射状箆磨き。	
379	478	H-104	11	2		土師器	坩	(8.0)	—	8.4	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	口縁部4/5欠損	口縁部上位横撫で、下位～胴部上位箆撫で、胴部下位～底部箆削り。	口縁部上位横撫で、下位～底部箆撫で。	
380	479	H-104	D-1			土師器	坩	—	—	—	普通	橙色～鈍い赤褐色	白色粒・褐色粒・雲母	胴部～底部残存	胴部箆撫で、底部箆削り。	胴部～底部箆撫で。	
381	722	H-104	13	2		土師器	台付甕	—	10.3	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	胴部下位～台部残存	胴部箆削り、台部撫で、台端部箆削り。	胴部下位箆撫で、胴部下位に使用によるヨコレあり、底部器面荒れ調整不明瞭、台部撫で。	
382	423	H-104	13	2	3	土師器	甕	15.2	—	—	普通	鈍い黄橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部中位1/5	口縁部横撫で、胴部上位箆撫で、中位箆削り。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
383	413	H-107	10	2		土師器	高坏	—	11.7	—	普通	浅黄橙色～橙色	白色粒・褐色粒	脚部残存	脚部箆撫で、裾部横撫で。	脚部箆撫で、裾部横撫で。	
384	731	H-108	6	2		土師器	高坏	18.6	—	—	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	坏部3/4	口縁部横撫で、体部箆撫で。	口縁部横撫で、体部～底部器面荒れ調整不明瞭。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
385	449	H-108	5	2		土師器	小形甕	(9.1)	—	6.6	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	口縁部3/4欠損	口縁部横撫で、胴部上位～中位箆撫で、下位～底部箆削り。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
386	450	H-108	D-1			土師器	小形甕	11.9	—	7.7	普通	鈍い橙色～灰褐色	白色粒・褐色粒・礫	6/7	口縁部横撫で、胴部箆撫で、底部箆削り。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
387	426	H-108	8	2	1	土師器	甕	14.2	4.4	23.4	普通	鈍い橙色～黒褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部箆撫で、下位～底部箆削り下位～底部箆削り、口縁部～胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
388	№なし	H-108	一括			土師器	甕	15.0	—	—	普通	鈍い黄褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位7/8	口縁部横撫で、煤付着、胴部箆撫で、上位～中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
389	425	H-108	8	2	1	土師器	甕	14.4	—	—	普通	鈍い橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位4/5	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	口縁部横撫で、胴部箆撫で。	
390	483	H-110	4	2		土師器	坏	(11.2)	—	7.3	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒	3/4	口縁部横撫で、胴部上位～中位箆撫で、下位～底部箆削り。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
391	525	H-110	16	2		土師器	坏	11.6	5.6	4.9	普通	橙色	白色粒・褐色粒	3/5	口縁部横撫で、体部～底部箆撫で。	口縁部横撫で、体部～底部箆撫で。	
392	451	H-110	15	2		土師器	坩	(6.9)	3.6	7.0	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒	口縁部1/3欠損	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	口縁部～底部箆撫で。	
393	484	H-110	4	2		土師器	甕	13.5	5.7	17.6	普通	橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	2/3	口縁部横撫で、頸部箆撫で、胴部～底部箆削り。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
394	475	H-111	D-1			土師器	高坏	—	11.8	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	脚部残存	脚部撫で、裾部横撫で。	脚部箆削り、裾部横撫で。	
395	476	H-111	7	2		土師器	高坏	—	12.8	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒	底部～脚部7/8	体部箆撫で、脚部撫で、裾部横撫で。	底部箆撫で、脚部箆削り、裾部横撫で。	
396	477	H-111	12	2		土師器	高坏	—	13.1	—	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒	底部～脚部残存	体部箆撫で、脚部撫で後放射状箆磨き、裾部横撫で。	底部箆磨き、脚部しぼり目、撫で、裾部横撫で。	
397	486	H-111	D-1			土師器	坩	—	—	—	普通	橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒	胴部～底部残存	胴部箆撫で、底部箆削り。	胴部～底部箆撫で。	
398	733	H-111	8	2		土師器	台付甕	—	10.0	—	普通	橙色	白色粒・黒色粒	胴部下位～台部3/4	胴部～台部箆撫で。	胴部～底部箆撫で、台部刷毛目。	
399	561	H-112	3	1		土師器	坩	10.1	1.3	5.8	普通	灰黄褐色	白色粒・黒色粒	胴部2/5欠損	口唇部横撫で、口縁部箆撫で、胴部上位撫で、下位～底部箆削り。	口縁部～底部箆撫で。	
400	560	H-112	3	1	1	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	7.4	3.3	3.9	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	完形	口縁部～体部撫で、底部箆撫で。	口縁部～底部箆撫で。	
401	562	H-112 H-113	4 2	1 2		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	8.3	3.4	3.9	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部～台部撫で。	口縁部～底部箆撫で、台部箆撫で。	
402	565	H-112	8･4	1		土師器	甕	17.1	—	—	普通	鈍い褐色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部～胴部下位1/2	口縁部上位横撫で、下位～胴部下位刷毛目。	口縁部刷毛目、胴部上位箆撫で、下位箆磨き。	
403	540	H-113	2	2		土師器	高坏	—	13.0	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	脚部1/2	脚部撫で後箆磨き、裾部横撫で後箆磨き、脚部1箇所に円孔。	脚部箆撫で、裾部横撫で。	
404	539	H-113	5	1		土師器	器台	—	—	—	普通	橙色	白色粒・黒色粒・雲母	体部～脚部下位残存	体部横撫で後箆磨き、脚部撫で後箆磨き、体部3箇所に円孔。	体部～底部箆磨き、脚部上位しぼり目、下位箆撫で。	
405	557	H-113	5	2	5	土師器	高坏	—	12.4	—	普通	橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒・雲母・礫	体部～脚部残存	体部箆削り、脚部撫で、裾部横撫で後箆磨き。	底部箆磨き、脚部上位撫で、下位箆削り、裾部横撫で。	
406	547	H-113	6	3		土師器	坩	6.6	2.5	7.2	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、頸部箆撫で、胴部箆削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
407	543	H-113	6	3		土師器	坩	—	3.4	—	普通	鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒	口唇部欠損	口縁部横撫で、胴部箆撫で、底部箆削り。	口縁部横撫で、胴部～底部箆撫で。	
408	545	H-113	5	3		土師器	坩	—	4.0	—	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	口縁部上位欠損	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～下位箆撫で、底部撫で。	口縁部～底部箆撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
409	548	H-113	13	2		土師器	坩	8.8	2.7	9.4	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
410	550	H-113	16	3		土師器	坩	9.9	3.9	10.7	普通	橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部上位篦削り、中位～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
411	546	H-113	6	3		土師器	坏	10.5	5.1	7.2	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	完形	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	口縁部篦撫で後横撫で、体部～底部篦撫で。	
412	552	H-113	5	2	2	土師器	坩	9.2	4.5	6.8	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒・礫	完形	口縁部横撫で、頸部指頭痕あり、胴部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
413	553	H-113	5	2	3	土師器	坩	11.0	1.6	8.0	普通	鈍い黄橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部一部欠損	口縁部～胴部上位横撫で、中位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
414	544	H-113	5	3		土師器	手捏土器	7.1	5.1	7.3	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部1/4欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	口縁部～底部篦撫で。	
415	554	H-113	5	2	1	土師器	小形甕	10.5	－	－	普通	鈍い黄橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部中位残存	口縁部横撫で、頸部撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
416	555	H-113	5	2	7	土師器	甕	(15.0)	8.0	19.0	普通	灰褐色～鈍い褐色	白色粒・褐色粒・雲母・礫	4/5	口縁部横撫で、頸部撫で、胴部篦削り、下端部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
417	556	H-113	5	2	4	土師器	甕	13.5	－	－	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部～胴部中位5/6	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
418	558	H-113	5	2	6	土師器	甕	15.0	－	－	普通	鈍い赤褐色～褐灰色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位残存	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
419	559	H-113	D-1			土師器	台付甕	－	9.0	－	普通	灰褐色～鈍い黄色	白色粒・褐色粒・礫	胴部中位～台部残存	胴部篦削り、台部篦撫で。	胴部～底部篦撫で、胴部中位篦削り、台部撫で。	
420	517	出土地不明				土師器	S字口縁台付甕	12.2	8.4	24.0	普通	橙色～黄灰色	白色粒・雲母・礫	胴部一部欠損	口縁部横撫で、胴部篦削り後刷毛目、台部刷毛目後撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で、台部篦撫で、端部撫で。	東海系
421	514	T-02	2	1	1	土師器	小形甕	11.0	－	－	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位7/8	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～下位篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
422	668	T-02	4	1		土師器	甕	(12.6)	5.6	21.0	普通	浅黄橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒	1/5	口縁部横撫で、胴部篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部～底部篦撫で。	
423	768	T-03	4	1		土師器	甑	(10.1)	5.4	8.5	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	2/5	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部撫で、底部径1cmの円孔。	口縁部～底部篦撫で。	
424	370	T-04	一括			土師器	ﾐﾆﾁｭｱ土器	4.3	4.0	4.7	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部～体部篦撫で、底部篦削り。	口縁部～底部篦撫で。	
425	508	D-73				土師器	甕	14.9	5.8	25.3	普通	浅黄橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	1/4	口縁部上位横撫で、下位～胴部篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
426	512	D-73				土師器	台付甕	(15.2)	－	－	普通	橙色～灰黄褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～底部1/3、台部欠損	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～下位篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
427	511	D-73				土師器	甕	(16.0)	－	－	普通	黄橙色～灰黄褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部中位1/4	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
428	133	D-104				土師器	甕	－	6.6	－	普通	橙色～黒褐色	白色粒・黒色粒	胴部下位～底部1/3	胴部～底部篦撫で、胴部中位煤付着。	胴部～底部篦撫で。	
429	513	M-04	4			土師器	小形甕	(9.6)	3.5	9.5	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	2/3	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	

第 80 表　人見東向原遺跡　古墳時代土器観察表

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
430	391	H-1	5	1	1	土師器	坩	(8.2)	5.2	8.0	普通	灰黄褐色～暗褐色	白色粒・黒色粒	1/2	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位篦撫で、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
431	604	H-1	14	1	1	土師器	甕	15.0	－	－	普通	灰黄褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位 1/2	口縁部上位横撫で、下位篦撫で後横撫で、胴部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
432	585	H-2	7	3		土師器	高坏	19.5	(13.6)	15.1	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	3/5	口縁部上位横撫で、下位篦撫で、体部篦削り、脚部器面荒れ調整不明瞭。	口縁部上位横撫で、下位篦撫で、体部～底部器面荒れ調整不明瞭、脚部上位篦削り、下位撫で、裾部横撫で。	
433	230	H-2	2	ﾍﾞﾙﾄ3		土師器	高坏	18.6	－	－	普通	鈍い黄橙色～暗褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	坏部残存	口縁部横撫で、体部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
434	594	H-2	8	3		土師器	高坏	(20.7)	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	口縁部～脚部上位 3/5	口縁部横撫で、体部篦撫で、脚部篦撫で後篦磨き。	口縁部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦撫で。	
435	228	H-2	13	3		土師器	高坏	－	12.8	－	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒	脚部残存	脚部撫で後篦磨き、裾部横撫で後篦磨き。	脚部上位篦削り、下位篦撫で、裾部横撫で。	
436	219	H-2	P-1			土師器	手捏土器	6.7	5.9	6.2	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
437	224	H-2	7	3		土師器	坩	(8.0)	－	8.7	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	4/5	口縁部～胴部上位横撫で、中位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
438	220	H-2	14	3		土師器	坩	7.5	－	8.2	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、頸部～胴部篦撫で底部篦削り、中央部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
439	222	H-2	8	3		土師器	坩	(8.0)	－	8.4	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、頸部～胴部篦撫で底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
440	217	H-2	8	3		土師器	坩	9.1	－	9.7	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	9/10	口縁部上位横撫で、下位撫で、頸部～胴武篦撫で、底部篦削り。	口縁部篦撫で後横撫で、胴部～底部篦削り。	
441	223	H-2	1	3		土師器	坩	11.6	－	9.6	普通	鈍い黄橙色～灰黄褐色	白色粒・黒色粒	完形	口縁部横撫で、頸部～胴部篦撫で底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
442	215	H-2	14	3		土師器	坩	9.5	3.5	9.8	普通	鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒・雲母	ほぼ完形	口縁部横撫で後篦磨き、胴部篦削り後篦磨き、底部篦撫で。	口縁部横撫で後篦磨き、胴部～底部篦撫で。	
443	216	H-2	2	3		土師器	小形台付甕	11.3	7.2	12.7	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	完形	口縁部～胴部上位横撫で、中位～下位篦撫で、台部横撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
444	214	H-2	3	3	1	土師器	甕	20.2	5.7	18.4	普通	暗褐色	白色粒・黒色粒	胴部一部欠損	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～下位篦削り、下端部～底部周辺篦撫で、中央部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
445	225	H-2	15	3		土師器	有孔鉢	18.3	3.9	9.1	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	完形	口縁部～体部篦撫で、底部篦削り、孔径1.5㎝。	口縁部～底部篦撫で。	
446	232	H-3	4	1		土師器	坏	11.0	－	4.5	普通	赤褐色	白色粒・褐色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
447	392	H-3	3	1		土師器	坏	(11.6)	2.0	4.9	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	1/2	口縁部横撫で、体部上位撫で、中位～下位篦削り、底部撫で。	口縁部～底部篦撫で。	
448	233	H-3	16	1	4	土師器	高坏	18.0	－	－	普通	鈍い橙色～橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒	坏部残存	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
449	234	H-3	8	1		土師器	小形甕	10.8	5.3	10.4	普通	暗褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、頸部篦撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
450	589	H-3	5	1		土師器	甕	16.7	6.6	19.8	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、指頭痕あり、胴部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
451	265	H-3	16	1	5	土師器	甕	15.4	－	－	普通	暗褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部下位 4/5	口縁部横撫で、胴部篦撫で、口縁部～胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
452	307	H-3	15	1		土師器	甕	(16.6)	5.5	31.0	普通	明赤褐色～橙色	白色粒・礫	7/8	口縁部横撫で、頸部篦撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
453	308	H-3	16	1	1	土師器	台付甕	16.6	9.7	334	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位篦撫で、中位～下位篦削り、中位煤付着、台部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、胴部下位使用時のヨゴレ付着、台部篦撫で。	
454	237	H-5	15	3		土師器	高坏	17.2	－	－	普通	明赤褐色	白色粒・礫	坏部3/4	口縁部上位横撫で後、下位撫で後篦磨き、体部篦磨き。	口縁部～体部横撫で後篦磨き、底部篦磨き。	
455	235	H-5	2	ﾍﾞﾙﾄ3		土師器	高坏	－	(11.8)	－	普通	橙色～鈍い黄橙色	角閃石・礫	体部～脚部3/5	体部～脚部篦撫で、裾部横撫で。	底部篦撫で、脚部篦削り、裾部横撫で。	
456	393	H-5	4	3		土師器	坏	13.0	5.0	7.2	普通	鈍い黄橙色～黄灰色	白色粒・黒色粒・石英	3/4	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
457	568	H-5	5	3		土師器	手捏土器	(8.4)	5.2	6.4	普通	橙色	礫	1/2	口縁部～体部篦撫で、指頭痕あり、底部撫で。	口縁部～底部篦撫で。	
458	236	H-5	5	3		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	5.9	－	5.4	普通	鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒	口縁部一部欠損	口縁部～体部上位横撫で、中位～底部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
459	238	H-6	16・7	2		土師器	高坏	17.2	13.6	14.6	普通	褐色～赤褐色	白色粒・礫	4/5	口縁部横撫で後放射状篦磨き、体部篦削り後篦磨き、脚部撫で後篦磨き、裾部横撫で後篦磨き。	口縁部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦削り、裾部篦撫で後横撫で。	
460	264	H-6	14	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	高坏	16.8	11.9	13.4	普通	明赤褐色	白色粒・礫	7/8	口縁部横撫で、体部篦削り、脚部篦磨き、裾部横撫で後篦磨き。	口縁部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦削り、裾部横撫で。	
461	240	H-6	16	2	1	土師器	甕	15.3	4.5	20.1	普通	鈍い橙色	白色粒・礫	口縁部1/3欠損	口縁部横撫で、胴部篦削り、孔径4.3cm。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
462	406	H-6	8	2	1	土師器	甑	17.8	6.8	19.8	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	3/4	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、孔径3.0cm。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
463	590	H-7	8	2	1	土師器	台付甕	14.9	9.0	27.9	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	1/2	口縁部横撫で、胴部～台部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
464	239	H-8	D-1			土師器	台付甕	14.9	－	－	普通	鈍い橙色	雲母・礫	口縁部一部、台部欠損	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
465	241	H-9	9	2		土師器	坏	10.0	5.7	6.0	普通	鈍い橙色～灰褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	完形	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	口縁部～底部篦撫で。	
466	593	H-9	6	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	甕	(17.0)	－	－	普通	褐灰色～灰褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒・礫	口縁部～胴部中位1/4	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
467	598	H-11	6	2		土師器	高坏	－	14.6	－	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒	脚部5/6	脚部～裾部丁寧な篦磨き。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
468	243	H-11	14	2		土師器	坏	10.2	－	7.0	普通	橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、体部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
469	244	H-11	D-1			土師器	坏	11.4	－	7.3	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒	完形	口縁部～頸部篦撫で後横撫で、体部篦撫で、底部篦削り後篦磨き。	口縁部横撫で、頸部～底部篦撫で。	
470	407	H-11	5	2		土師器	坏	8.9	4.8	5.9	普通	鈍い黄橙色～橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、体部上位撫で、中位～底部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
471	602	H-11	2	2		土師器	坩	9.0	2.8	7.1	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒	2/5	口縁部上位横撫で、下位撫で、胴部上位篦撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
472	266	H-11	12	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	坏	11.0	－	7.2	普通	鈍い黄橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒・雲母	4/5	口縁部横撫で、体部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
473	242	H-11	15	1		土師器	手捏土器	3.9	3.6	3.5	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	ほぼ完形	口縁部～体部撫で、底部篦撫で。	口縁部～底部撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
474	597	H-13	16	2		土師器	高坏	(17.0)	—	—	普通	灰黄褐色～橙色	白色粒・黒色粒・角閃石・石英	坏部1/2	口縁部横撫で後篦磨き、体部篦削り。	口縁部～体部横撫で後篦撫で、底部篦撫で。	
475	246	H-13	2	2		土師器	坩	8.1	3.6	8.5	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
476	579	H-14	14	3		土師器	坏	13.4	—	4.8	普通	赤褐色	白色粒・黒色粒	1/2	口縁部横撫で後篦磨き、体部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横方向篦磨き、体部～底部放射状篦磨き。	
477	247	H-14	5	3	1	土師器	坩	8.5	4.8	7.1	普通	橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒・石英	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位篦撫で、下位篦削り、底部周辺部篦撫で、中央部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
478	248	H-14	16	3		土師器	甕	—	—	—	普通	明赤褐色～橙色	白色粒・黒色粒・礫	頸部～底部残存	胴部上位撫で、下位～底部篦撫で。	頸部横撫で、胴部～底部撫で。	
479	459	H-14	16	3		土師器	直口壺	9.9	—	14.8	普通	灰黄褐色～鈍い橙色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で後篦磨き、胴部篦撫で後篦磨き、底部篦撫で後疎らな篦磨き。	口縁部横撫で、胴部～底部撫で。	
480	581	H-14	1	3		土師器	甕	(12.6)	5.5	11.6	普通	鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒・礫	1/2	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～・底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
481	249	H-15	1	1		土師器	坏	11.6	—	4.8	普通	明赤褐色～明褐色	白色粒・黒色粒・角閃石・石英	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部～体部横撫で、底部撫で。	
482	408	H-16	D-1			土師器	坏	11.0	—	4.3	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
483	587	H-16	16	1		土師器	坏	11.0	5.1	5.9	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	3/4	口縁部横撫で、体部上位撫で、下位篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
484	250	H-17	1拡張		1	土師器	坩	7.3	—	6.7	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒・礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
485	251	H-17	16	2	1	土師器	小形甕	12.2	—	10.5	普通	橙色	白色粒・礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、頸部刷毛目後横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
486	453	H-17	16	2	2	土師器	甕	15.8	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	口縁部～胴部中位4/5	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位篦削り。	
487	252	H-18	D-1			土師器	高坏	16.7	12.8	13.1	普通	鈍い褐色	白色粒・礫	7/8	口縁部上位横撫で、下位～体部篦削り、脚部篦撫で、裾部横撫で。	口縁部横撫で後放射状篦磨き、底部篦撫で、脚部篦削り、裾部横撫で。	
488	253	H-19	9	1		土師器	坩	7.2	—	7.0	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	9/10	口縁部上位横撫で、下位撫で、胴部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
489	570	H-19	14	1		土師器	高坏	—	11.4	—	普通	橙色	白色粒・角閃石	脚部3/4	脚部撫で、裾部横撫で、裾部一箇所に円孔。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
490	260	H-20	1拡張		2	土師器	坩	7.5	—	8.5	普通	橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒	口縁部1/5欠損	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
491	610	H-20	15	2		土師器	坩	10.1	—	8.5	普通	橙色	白色粒・角閃石	4/5	口縁部～頸部横撫で、胴部上位篦撫で、中位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
492	411	H-20	15	2	1	土師器	小形甕	16.7	3.8	8.8	普通	鈍い橙色	白色粒・角閃石・礫	7/8	口縁部～胴部上位横撫で、中位撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
493	254	H-20	13	2		土師器	台付甕	16.0	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・礫	台部欠損	口縁部～頸部横撫で、胴部上位篦磨き、口縁部～胴部上位煤付着、下位篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
494	333	H-20	16	2		土師器	台付甕	14.5	10.9	32.1	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	口縁部1/3欠損	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～下位篦削り、中位煤付着、台部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、胴部下位使用時のヨゴレ付着、台部篦撫で。	
495	261	H-21	7	3		土師器	坩	(8.4)	—	8.5	普通	鈍い黄橙色～褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	3/4	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
496	336	H-21	3	3	1	土師器	台付甕	13.3	8.9	26.4	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、口縁部～胴部上位煤付着、中位～下位篦削り、中位煤付着、台部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
497	338	H-21	2	3	3	土師器	台付甕	15.2	9.9	30.3	普通	鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒・礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、口縁部～胴部上位煤付着、中位～下位篦削り、中位煤付着、台部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
498	339	H-21	2	3	1・2	土師器	台付甕	18.3	11.2	35.5	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部篦削り、台部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
499	256	H-22	15	3	1	土師器	高坏	20.6	—	—	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	坏部残存	口縁部横撫で、体部篦撫で、体部4箇所に円孔。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
500	255	H-22	3	3		土師器	坩	8.4	3.5	7.7	普通	灰黄褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
501	259	H-22	D-1			土師器	坩	7.4	2.0	7.0	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部上位横撫で、下位～胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
502	457	H-22	3	3		土師器	小形甕	9.8	—	—	普通	鈍い橙色～灰褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位2/3	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
503	626	H-22	2	ﾍﾞﾙﾄ3		土師器	甕	14.2	—	—	普通	灰黄褐色～褐灰色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位1/5	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
504	456	H-22	14		1	土師器	甕	(14.0)	5.4	25.9	普通	灰褐色～鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部上位～中位篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
505	458	H-22	11	3		土師器	甕	16.7	—	—	普通	鈍い黄橙色～灰褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位2/3	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦削り、上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
506	258	H-23	16	3	1	土師器	高坏	—	13.1	—	普通	明赤褐色	褐色粒・雲母	脚部残存	脚部撫で、裾部横撫で。	脚部篦削り、裾部横撫で。	
507	617	H-23	5	3		土師器	高坏	—	15.9	—	普通	橙色	白色粒・雲母	底部～脚部残存	脚部篦撫で、端部横撫で。	底部篦撫で、脚部上位篦撫で、下位横撫で。	
508	614	H-23	D-1			土師器	器台	—	—	—	普通	橙色	白色粒・雲母	体部～脚部下位残存	体部篦削り、屈曲部撫で、脚部篦撫で。	底部篦撫で、脚部篦削り、脚部上位しぼり目、下位篦撫で。	
509	414	H-23	D-1			土師器	坩	8.2	—	8.6	普通	鈍い橙色～灰黄褐色	白色粒・褐色粒・雲母・礫	口縁部1/4欠損	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
510	616	H-23	13	1		土師器	坩	9.6	—	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部中位1/2	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位篦削り。	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位篦撫で。	
511	613	H-23	8	3		土師器	鉢	11.0	5.7	8.0	普通	鈍い黄褐色	白色粒・礫	1/2	口縁部横撫で、頸部～体部上位篦削り、下位篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部器面荒れ調整不明瞭。	
512	363	H-23	4	2		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	—	2.6	—	普通	鈍い黄褐色	白色粒	体部～底部1/3	体部～底部篦撫で。	体部～底部篦撫で。	
513	623	H-23	16	3		土師器	甕	14.6	—	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部～胴部上位4/5	口縁部横撫で、胴部篦撫で、口縁部～胴部煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
514	515	H-23	12	3	1	土師器	甕	16.3	7.1	24.7	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・礫	胴部下位～底部1/2欠損	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦削り、下端部撫で、胴部煤付着、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、胴部下位使用時のヨゴレ付着。	
515	537	H-24	D-1			土師器	坩	8.7	—	9.6	普通	鈍い黄橙色～黄灰色	白色粒・礫	3/5	口縁部～胴部上位横撫で、中位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部篦撫で後横撫で、胴部～底部篦撫で。	
516	620	H-24	11	2		土師器	甕	14.7	—	—	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部～胴部上位1/2	口縁部横撫で、胴部篦撫で、口縁部～胴部部分的に煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
517	262	H-25	12	1		土師器	坏	12.3	—	5.5	普通	鈍い黄橙色～黒褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
518	257	H-25	9	2		土師器	坩	8.4	3.3	5.9	普通	鈍い褐色～橙色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口唇部横撫で、口縁部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
519	364	H-25	2	1		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	(3.8)	2.9	3.3	普通	明褐色	白色粒・黒色粒	1/2	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	口縁部～底部篦撫で。	
520	337	H-25	12･8	2	1	土師器	台付甕	(19.0)	－	－	普通	明赤褐色～鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒・礫	口縁部～台部上位7/8	口縁部横撫で、胴部篦削り、胴部中位煤付着、台部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
521	615	H-26	13	1		土師器	坏	(12.5)	5.0	5.3	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒	2/3	口縁部～底部篦撫で。	口縁部～底部篦撫で。	
522	624	H-26	2	2		土師器	台付甕	13.4	－	－	普通	鈍い褐色～鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒・礫	口縁部～胴部下位1/3	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、胴部篦削り。	
523	388	H-27	D-1		2	土師器	高坏	22.0	－	－	普通	橙色	白色粒・角閃石	坏部残存	口縁部～体部篦磨き。	口縁部～底部篦磨き。	
524	347	H-27	4	2	2	土師器	鉢	11.0	2.7	6.5	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	9/10	口唇部横撫で、口縁部撫で、体部篦削り。	口縁部～底部篦撫で。	
525	516	H-27	6	2		土師器	坩	12.1	－	9.3	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	3/4	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	内部に赤色顔料混入（分析）。
526	389	H-27	D-1		1	土師器	甕	13.3	4.5	16.1	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、頸部撫で、胴部上位篦磨き、中位～下位篦削り、底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
527	326	H-27	3	2	1	土師器	甕	13.0	6.2	15.9	普通	鈍い橙色	白色粒・礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
528	341	H-27	11	2		土師器	甕	18.1	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	口縁部～胴部中位9/10	口縁部横撫で、頸部篦撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
529	331	H-27	4	2	1	土師器	甕	16.4	6.7	21.7	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
530	335	H-27	12	2	1	土師器	台付甕	－	11.3	－	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	胴部下位～台部残存	胴部下位篦削り、一部篦撫で、台部撫で、下位篦撫で。	胴部下位～底部篦撫で、台部篦撫で。	
531	417	H-29	15	2	3	土師器	高坏	18.0	－	－	普通	橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	坏部7/8	口縁部横撫で後放射状篦磨き、体部篦撫で。	口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き。	
532	324	H-29	D-1		3	土師器	高坏	15.6	－	－	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	坏部残存	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
533	416	H-29	3	2	1	土師器	高坏	－	14.0	－	普通	鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	体部～脚部残存	体部篦撫で、脚部撫で、裾部横撫で。	底部器面荒れ調整不明瞭、脚部しぼり目、撫で、裾部篦撫で後横撫で。	
534	415	H-29	3	2	2	土師器	坏	11.4	3.5	5.6	普通	鈍い橙色～鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部篦削り、底部篦撫で。	口縁部～底部粗い篦磨き。	
535	329	H-29	15	2	2	土師器	坏	11.0	－	6.4	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
536	323	H-29	13	2	1	土師器	坏	11.8	－	7.8	普通	灰黄褐色～鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部上位篦撫で、中位～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
537	420	H-29	14	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	坏	12.4	－	7.5	普通	灰黄褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、指頭痕あり、体部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
538	318	H-29	15	2	1	土師器	坩	9.0	－	7.8	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
539	320	H-29	D-1		4	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	－	3.5	－	普通	褐灰色	白色粒・角閃石	口唇部欠損	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
540	330	H-29	D-1		1	土師器	直口壺	10.0	6.1	13.1	普通	橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位篦削り、下位篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で後篦磨き、胴部～底部撫で。	
541	340	H-29	D-1		2	土師器	台付甕	(20.5)	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位2/3	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
542	591	H-30	16	1		土師器	高坏	16.3	－	－	普通	橙色	白色粒・黒色粒	坏部3/4	口縁部横撫で後放射状篦磨き、体部篦磨き。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
543	567	H-30	16	1		土師器	高坏	－	－	－	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	脚部残存	脚部篦磨き、一箇所に円孔。	脚部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
544	321	H-30	D-1			土師器	小形甕	9.0	2.9	9.7	普通	明赤褐色～鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部上位篦削り、下位篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
545	599	H-30	13	1		土師器	甕	(15.6)	－	－	普通	赤褐色～灰褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位1/3	口縁部横撫で、煤付着、頸部撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
546	327	H-32	2	3	1	土師器	高坏	16.2	10.2	10.9	普通	明赤褐色～鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、口縁部下位～脚部篦撫で、裾部横撫で。	口縁部～底部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦削り、裾部横撫で。	
547	429	H-32	8	3		土師器	高坏	(19.8)	－	－	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒・角閃石	口縁部～脚部上位1/2	口縁部横撫で後放射状篦磨き、体部篦削り、脚部篦磨き。	口縁部横撫で後放射鏡篦磨き、底部篦磨き、脚部篦削り。	
548	322	H-32	2	3	2	土師器	坏	12.9	－	7.0	普通	褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
549	328	H-32	4	3		土師器	坏	11.6	－	5.9	普通	明黄褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒	3/4	口縁部横撫で、体部撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
550	431	H-32	6	ﾍﾞﾙﾄ3		土師器	坏	(11.2)	－	6.6	普通	褐色	白色粒・黒色粒	1/3	口縁部横撫で、体部撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
551	319	H-32	8	3	1	土師器	坩	8.2	6.0	7.4	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
552	428	H-32	2	3		土師器	坩	8.8	－	6.9	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	1/2	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
553	430	H-32	2	3		土師器	小形甕	－	5.4	－	普通	鈍い黄色	白色粒・黒色粒	胴部上位～底部2/3	胴部上位撫で、下位～底部篦削り。	胴部～底部篦撫で。	
554	317	H-32	12	3	1	土師器	甕	15.4	5.5	19.6	普通	明褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、一部篦削り、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
555	438	H-33	1	2	1	土師器	坩	8.8	5.1	7.3	普通	鈍い橙色	白色粒・角閃石	完形	口縁部篦撫で後横撫で、胴部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
556	334	H-34	D-1			土師器	甕	17.7	－	－	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・雲母・礫	口縁部～胴部上位残存	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	口唇部横撫で、口縁部篦撫で、頸部指頭痕あり、胴部篦撫で。	
557	442	H-35	1	1	1	土師器	高坏	11.2	6.0	7.2	普通	橙色	白色粒・褐色粒	口縁部1/2欠損	口縁部横撫で、体部篦削り、脚部篦撫で。	口縁部～底部篦撫で、脚部篦撫で。	

第 81 表　人見向原遺跡　古墳時代土器観察表

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
558	118	H-2	16	2		土師器	坏	12.0	—	5.5	普通	橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒	2/3	口縁部横撫で、体部篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部器面荒れ調整不明瞭、底部篦撫で。	
559	125	H-2	15	2	2	土師器	坏	11.2	—	9.0	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
560	119	H-2	16	2		土師器	高坏	—	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・黒色粒	坏底部～裾部上位残存	体部篦磨き、脚部篦撫で、裾部篦磨き。	体部～底部篦磨き、脚部篦削り、裾部横撫で。	
561	126	H-2	2	2		土師器	坩	—	—	—	普通	鈍い褐色～褐色	白色粒・黒色粒	口唇部欠損、口縁部～胴部下位	口縁部篦磨き、胴部上位撫で、胴部下位～篦削り。	口縁部篦磨き、胴部篦撫で。	
562	130	H-2	10・11・14・15	2		土師器	鉢	16.8	—	9.0	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で、体部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
563	6	H-2	15	2	3	土師器	小形甕	13.6	5.4	11.3	普通	外-明赤褐色内-灰黄褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、胴部下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
564	61	H-2	15	2	1	土師器	甕	15.7	—	—	普通	明赤褐色～鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位 2/3	口縁部横撫で、頸部篦撫で、胴部篦削り、胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
565	15	H-2	3	2	1	土師器	甑	17.7	6.3	21.5	普通	橙色～灰黄褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部上位篦削り、下位篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で、下端部篦削り。	
566	12	H-2	2	2		土師器	甕	16.2	—	—	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	口縁部～胴部下位 2/3	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位篦撫で、煤付着、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
567	129	H-3	15	3		土師器	高坏	15.2	—	—	普通	橙色～黒色	白色粒・褐色粒	口縁部～脚部上位 7/8	口縁部横撫で、体部上位撫で、下位～脚部篦削り。	口縁部～底部篦撫で、脚部撫で、内面煤付着。	
568	128	H-3	15	3		土師器	高坏	17.8	—	—	普通	鈍い橙色～灰褐色	白色粒・褐色粒	坏部7/8	口縁部横撫で、体部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
569	156	H-3	P-1			土師器	高坏	19.5	—	—	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒	坏部7/8	口縁部横撫で後篦磨き、体部撫で後篦磨き。	口縁部～底部横撫で後篦磨き。	
570	14	H-3	D-1			土師器	高坏	—	14.7	—	普通	橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒・雲母	脚部残存	脚部篦磨き、裾部横撫で後篦磨き。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
571	122	H-3	4	3		土師器	高坏	—	—	—	普通	鈍い黄橙色～褐灰色	白色粒・褐色粒	脚部～裾部上位 1/3	脚部篦撫で、裾部篦撫で後篦磨き。	脚部上位しぼり目、下位篦撫で、裾部横撫で。	
572	117	H-3	16	3		土師器	高坏	—	—	—	普通	褐灰色～鈍い黄褐色	白色粒・褐色粒	脚部残存、裾部欠損	脚部上位撫で、下位篦撫で。	脚部篦撫で。	
573	38	H-3	16	3	2	土師器	坏	12.4	5.2	7.3	普通	外-鈍い黄橙色内-黒色	白色粒・黒色粒・角閃石	完形	口縁部横撫で、体部撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
574	123	H-3	16	3	1	土師器	鉢	11.2	4.8	7.2	普通	鈍い橙色～黄灰色	白色粒・褐色粒	1/2	口縁部横撫で、体部篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
575	124	H-3	15	1		土師器	坩	—	3.9	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒	口縁部中位～底部 7/8	口縁部篦磨き、胴部上位撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部篦磨き、胴部～底部篦撫で。	
576	25	H-5	4	1	2	土師器	高坏	(16.0)	—	—	普通	橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	口縁部～裾部上位 1/2	口縁部横撫で、体部篦撫で、脚部撫で、裾部横撫で。	口縁部横撫で、底部撫で、脚部篦削り、裾部横撫で。	
577	16	H-5	4	1	1	土師器	坩	11.4	—	14.6	普通	橙色～鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	1/2	口縁部横撫で後篦磨き、胴部上位篦撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で後篦磨き、胴部～底部篦撫で。	
578	37	H-6	15	2	1	土師器	坏	12.0	5.4	5.4	普通	鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	9/10	口縁部横撫で、体部篦撫で、底部撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦磨き。	
579	140	H-6	12	2		土師器	坏	(12.0)	—	5.0	普通	鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒	1/3	口縁部横撫で、体部篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦磨き。	
580	24	H-7	13	2	1	土師器	甕	—	—	—	普通	灰黄褐色	白色粒・黒色粒	頸部～胴部中位 4/5	頸部横撫で、胴部篦撫で後篦削り。	胴部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
581	131	H-8	2	1		土師器	高坏	—	9.8	—	普通	橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒	脚部3/4	脚部撫で後篦磨き、裾部横撫で後篦磨き。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
582	116	H-8	3	1		土師器	坩	7.0	(3.8)	6.7	普通	灰黄褐色	白色粒・黒色粒	1/3	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
583	127	H-9	3	1		土師器	高坏	(22.0)	—	—	普通	褐色～鈍い褐色	白色粒・黒色粒	坏部1/3	口縁部上位横撫で、下位篦撫で、体部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
584	112	H-11	5	1		土師器	坏	10.0	5.9	6.6	普通	明赤褐色～黒褐色	白色粒・黒色粒・石英	1/3	口縁部横撫で、体部撫で、底部周辺部篦削り、中央部撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
585	113	H-11	7	1		土師器	坏	(12.1)	—	5.9	普通	明赤褐色	白色粒・黒色粒・石英	1/3	口縁部横撫で、体部～底部篦磨き。	口縁部横方向篦磨き、体部～底部放射状篦磨き。	
586	114	H-11	6	1	1	土師器	壷	—	—	—	普通	赤褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	頸部～底部残存	頸部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部篦削り。	頸部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
587	5	H-11	14	1		土師器	小形甕	12.9	5.8	12.6	普通	鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で、頸部篦撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
588	32	H-11	7	1		土師器	小形甕	(13.8)	6.0	11.3	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	2/3	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
589	115	H-11	6・10	1	2	土師器	甕	15.2	6.0	23.5	普通	赤褐色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
590	13	H-12	16	2	1	土師器	高坏	16.5	—	—	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	坏部7/8	口縁部横撫で後篦磨き、体部撫で後篦磨き。	口縁部～体部横撫で後篦磨き。	
591	105	H-12	15	2		土師器	高坏	17.6	—	—	普通	褐色	白色粒・黒色粒	坏部7/8	口縁部横撫で後篦磨き、体部撫で後篦磨き。	口縁部～底部横撫で後篦磨き。	
592	106	H-12	15	2		土師器	高坏	—	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・黒色粒	坏底部～脚部下位残存	体部篦削り、脚部撫で。	底部器面荒れ調整不明瞭、脚部篦削り。	
593	103	H-12	6	1		土師器	小形甕	10.5	—	8.4	普通	鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、中位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
594	35	H-12	10	2	1	土師器	壷	12.4	—	12.7	普通	暗赤褐色	白色粒・黒色粒	9/10	口縁部横撫で後篦撫で、煤付着、胴部～底部篦削り、胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、煤付着、胴部～底部篦撫で。	
595	104	H-12	10・11	2・ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	甕	17.0	—	—	普通	明褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部下位4/5	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
596	111	H-12	11	2		土師器	甕	18.6	7.4	33.6	普通	鈍い黄橙色～黒褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
597	107	H-13	4	2		土師器	坏	10.0	4.4	4.8	普通	明赤褐色	白色粒・礫	4/5	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
598	108	H-13	4	2		土師器	坏	12.8	4.6	5.5	普通	橙色	白色粒・礫	4/5	口縁部横撫で、体部上位撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部～底部篦撫で。	
599	109	H-13	2	2		土師器	坏	12.2	—	7.3	普通	赤褐色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で後粗い篦磨き。	
600	110	H-13	2	2		土師器	甕	—	6.2	—	普通	明赤褐色	白色粒・礫	胴部下位～底部4/5	胴部篦削り、底部篦撫で。	胴部～底部篦撫で。	
601	59	H-13	D-1			土師器	甕	—	6.2	—	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒・礫・石英	頸部～底部4/5	頸部～底部篦撫で。	頸部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
602	141	H-14	10	3		土師器	高坏	—	10.2	—	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒	脚部残存	脚部篦撫で、端部横撫で。	脚部上位刷毛目後篦撫で、端部横撫で。	
603	101	H-15	13	3		土師器	坏	11.4	3.8	3.7	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	7/8	口縁部～底部篦撫で。	口縁部～底部篦撫で。	
604	102	H-15	11	ﾍﾞﾙﾄ3		土師器	高坏	—	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	体部下位～脚部下位3/5	体部篦削り、脚部撫で、下位撫で後粗い篦磨き。	底部篦撫で後篦磨き、脚部篦削り、裾部撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
605	97	H-15	14	3		土師器	高坏	－	－	－	普通	鈍い黄橙色	黒色粒・褐色粒・雲母	坏底部～脚部下位残存	坏体部篦削り、脚部篦撫で、裾部上位横撫で。	底部篦磨き、脚部上位しぼり目、下位撫で。	
606	98	H-15	D-1			土師器	高坏	－	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	坏底部～裾部上位残存	脚部撫で後粗い篦磨き、下位～裾部上位横撫で。	底部篦撫で、脚部撫で、裾部上位横撫で。	
607	31	H-15	16	3	1	土師器	坩	－	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・礫	3/5	口縁部横撫で、胴部上位篦削り、下位篦撫で、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
608	99	H-15	7	3		土師器	坩	－	－	－	普通	鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒	頸部～底部3/4	頸部篦撫で、胴部～底部篦削り。	頸部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
609	100	H-15	18	1		土師器	小形甕	－	4.0	－	普通	鈍い黄褐色	白色粒・黒色粒	頸部～底部3/4	頸部～胴部篦撫で、底部篦削り。	頸部～底部篦撫で。	
610	36	H-15	11	ｻﾌﾞﾄﾚ3	1	土師器	坩	9.7	2.4	7.8	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、胴部下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
611	95	H-15	3	3	1	土師器	小形甕	－	－	－	普通	明赤褐色	白色粒・礫	3/5	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
612	96	H-15	18	3	4	土師器	坏	13.7	4.1	7.5	普通	鈍い橙色～鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒・角閃石	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部上位篦撫で、胴部下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
613	139	H-15	10･17･18	ﾍﾞﾙﾄ3・3		土師器	小形甕	13.2	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石・雲母・礫	口縁部～胴部下位2/3	口縁部横撫で、胴部篦撫で、頸部～胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
614	9	H-15	D-1		1	土師器	甕	17.0	6.2	26.2	普通	鈍い黄橙色～灰黄褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、頸部篦撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
615	1	H-15	18	3	2	土師器	台付甕	(15.7)	－	－	普通	鈍い褐色～橙色	白色粒・礫	口縁部～胴部中位1/3及び台部欠損	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦削り、胴部中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
616	23	H-15	1･18	2･3		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ土器	－	3.5	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒	体部～底部3/5	体部～底部撫で。	体部～底部撫で。	
617	21	H-15	14	3		土製品	匙	残存長8.45	幅2.85		普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	4/5	撫で。	撫で。	
618	2	H-15	18	3	1	土師器	甕	18.2	7.8	27.2	普通	明赤褐色～鈍い赤褐色	白色粒・礫	2/3	口縁部篦撫で後横撫で、煤付着、胴部～中位篦撫で、胴部中位煤付着、下位篦削り、下端部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
619	58	H-15	18	3	3	土師器	甕	－	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	口縁部～胴部下位9/10	口縁部横撫で、胴部篦削り、頸部～胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
620	26	H-16	3	2		土師器	高坏	18.7	－	－	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒	坏部9/10	口縁部～体部横撫で、口縁部煤付着。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
621	94	H-16	13	2		土師器	高坏	－	－	－	普通	橙色	白色粒・褐色粒・雲母	脚部上位～裾部上位残存	脚部上位篦撫で、下位撫で、裾部横撫で後篦磨き。	脚部上位しぼり目、下位篦削り、裾部横撫で。	
622	34	H-19	4	3	1	土師器	高坏	－	－	－	普通	橙色～鈍い褐色	白色粒・褐色粒・雲母・礫	坏部9/10	口縁部横撫で後篦磨き、体部篦削り。	口縁部横撫で、口縁部～底部篦磨き。	
623	90	H-19	12	2		土師器	高坏	－	－	－	普通	明赤褐色～鈍い赤褐色	白色粒・褐色粒	体部～裾部上位2/3	体部篦磨き、体部～脚部の屈曲部刷毛目後篦撫で、脚部篦磨き。	底部篦磨き、脚部上位篦削り、下位篦撫で、裾部横撫で。	
624	91	H-19	15	3	床下	土師器	高坏	－	－	－	普通	褐色	白色粒・角閃石	体部～裾部上位3/4	体部篦削り、脚部撫で、下位撫で後粗い篦磨き、裾部横撫で。	底部篦撫で、脚部上位しぼり目、篦削り。	
625	92	H-19	9	ﾍﾞﾙﾄ1		土師器	高坏	－	－	－	普通	鈍い橙色	白色粒・角閃石	脚部上位～脚部下位3/5	脚部撫で後粗い篦磨き、裾部上位横撫で後粗い篦磨き。	脚部上位しぼり目、下位撫で、裾部横撫で。	
626	93	H-19	16	2		土師器	坏	－	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	口縁部～体部1/10	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部横撫で、体部指頭痕、篦撫で。	
627	19	H-19	2	3		土師器	小形甕	12.2	5.8	8.6	普通	褐色	白色粒・黒色粒・角閃石・礫	4/5	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
628	10	H-19	D-2			土師器	甕	16.6	8.1	28.0	普通	褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部篦削り、下端部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
629	3	H-19	D-1			土師器	甕	14.7	(7.3)	23.6	普通	鈍い黄橙色～黒褐色	白色粒・黒色粒	2/3	口縁部横撫で、煤付着、胴部～底部篦削り、胴部中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
630	85	H-20	1	2		土師器	高坏	17.0	－	－	普通	赤褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	坏部7/8	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部横撫で後篦磨き、底部篦撫で。	
631	143	H-20	1・5	2		土師器	高坏	18.1	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	坏部3/4	口縁部横撫で後篦磨き。	口縁部横撫で後篦磨き、底部篦撫で。	
632	86	H-20	5	2		土師器	高坏	－	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	坏体部～裾部上位2/3	体部篦磨き、脚部撫で、下位篦磨き。	体部篦磨き、底部篦撫で、脚部撫で、裾部横撫で。	
633	89	H-20	2	2		土師器	甑	－	－	－	普通	褐色	白色粒・黒色粒	破片	篦撫で。	篦撫で。	
634	157	H-21	6	1		土師器	高坏	－	14.4	－	普通	明褐色	白色粒・黒色粒	坏底部～脚部3/4	脚部上位撫で、下位篦撫で下位～裾部横撫で後篦撫で。	底部撫で、脚部篦削り、裾部横撫で。	
635	30	H-21	14	1		土師器	坩	8.3	5.0	8.2	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・小礫多量	4/5	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
636	88	H-21	7	1		土師器	坩	(9.2)	2.8	6.5	普通	橙色	白色粒・黒色粒	1/3	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
637	41	H-23	5	3		土師器	坏	13.7	4.0	7.1	普通	黒褐色～灰黄褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部上位撫で、下位～底部篦削り、底部中央やや上げ底で篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
638	39	H-23	8	3		土師器	坏	13.8	－	8.2	普通	灰褐色～鈍い褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～頸部3/5欠損	口縁部横撫で、体部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
639	42	H-23	16	3	2	土師器	高坏	18.7	－	－	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・角閃石	坏部残存	口縁部横撫で、体部篦削り。	口縁部横撫で後篦磨き、底部撫で。	
640	84	H-23	D-2			土師器	高坏	19.0	－	－	普通	鈍い橙色	白色粒・角閃石	坏部3/4	口縁部横撫で後篦磨き、体部篦撫で。	口縁部横撫で後篦磨き、底部篦撫で。	
641	44	H-23	11	3		土師器	高坏	－	－	－	普通	明赤褐色～鈍い橙色	白色粒・角閃石	体部～裾部上位4/5	体部篦撫で、脚部撫で後篦撫で、裾部横撫で。	底部篦撫で、脚部篦削り、裾部横撫で。	
642	43	H-23	11	3		土師器	高坏	－	－	－	普通	鈍い褐色	白色粒・角閃石・礫	坏底部～裾部上位4/5	脚部上位篦撫で、中位撫で、下位篦撫で、裾部横撫で。	底部篦撫で、脚部篦削り、裾部横撫で。	
643	40	H-23	3	1		土師器	高坏	－	11.8	－	普通	明赤褐色～鈍い褐色	白色粒・角閃石・礫	脚部4/5	脚部上位篦磨き、下位撫で、裾部横撫で。	脚部篦削り、裾部横撫で。	
644	87	H-23	16	3		土師器	坩	13.1	－	－	普通	明赤褐色	白色粒・角閃石・礫	口縁部～胴部下位4/5	口縁部上位横撫で、下位篦撫で、頸部横撫で、胴部篦撫で後部分的に篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
645	45	H-23	16	3		土師器	甑	(13.8)	5.8	13.3	普通	明褐色	白色粒・黒色粒	1/3	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、孔径1.8cm。	口縁部～底部刷毛目。	
646	11	H-23	D-1		1	土師器	甕	16.6	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位残存	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦削り、胴部中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
647	4	H-23	16	3	1	土師器	甕	16.9	－	24.9	普通	橙色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部1/5欠損	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、口縁部～胴部中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
648	78	H-24	5・9	2・ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	坏	11.8	－	5.6	普通	赤褐色	白色粒・黒色粒	2/3	口縁部横撫で、体部上位篦撫で、下位撫で、底部篦削り。	口縁部～底部篦撫で。	
649	28	H-24	11	2		土師器	坏	5.3	－	5.5	普通	鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒	完形	口縁部～底部篦削り、体部下位に焼成後の穿孔。	口縁部篦削り、体部～底部篦撫で。	
650	66	H-24	11	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	高坏	－	－	－	普通	明褐色	白色粒・黒色粒	脚部上位～裾部下位2/3	脚部上位篦磨き、下位～裾部撫で。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
651	73	H-24	13	1		土師器	高坏	—	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	坏体部～裾部上位2/3	体部～脚部篦削り、裾部横撫で。	底部篦撫で、脚部篦削り、裾部横撫で。	
652	74	H-24	13	1		土師器	高坏	—	—	—	普通	明褐色	白色粒・黒色粒・角閃石	坏底部～裾部上位2/3	体部篦撫で、脚部撫で、裾部上位篦撫で。	底部篦撫で、脚部篦削り、裾部横撫で。	
653	29	H-24	11	2		土師器	高坏	—	10.8	—	普通	明褐色	白色粒・黒色粒・角閃石・礫	脚部7/8	脚部篦撫で。	脚部篦撫で、裾部横撫で。	
654	79	H-24	13	1		土師器	坩	—	6.2	—	普通	赤褐色	白色粒・黒色粒	口縁部下位～底部2/3	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
655	65	H-25	4	1		土師器	高坏	—	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	坏底部～裾部上位残存	脚部上位撫で、下位篦撫で、裾部上位篦撫で。	底部撫で、脚部篦撫で、裾部横撫で。	
656	68	H-25	3	2		土師器	高坏	—	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	脚部上位～裾部上位3/4	脚部上位篦磨き、下位撫で、裾部上位横撫で。	脚部上位撫で、下位篦削り、裾部横撫で。	
657	67	H-27	4	1		土師器	高坏	—	(13.0)	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	脚部2/3	脚部篦撫で、裾部横撫で。	脚部撫で、裾部横撫で	
658	33	H-27	8	1		土師器	坏	(10.5)	4.9	7.9	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒・角閃石	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
659	142	H-27	8	1		土師器	甕	—	5.6	—	普通	橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	胴部下位～底部4/5	胴部～底部篦撫で。	胴部～底部篦撫で。	
660	46	H-28	16	2	4	土師器	坏	11.3	—	4.4	普通	鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒・雲母	完形	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	
661	77	H-28	12	2	2	土師器	坏	(9.4)	—	6.3	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒	4/5	口縁部横撫で、体部上位篦撫で、中位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部～体部上位横撫で、下位～底部篦撫で。	
662	18	H-28	15	2	1	土師器	高坏	17.4	(12.1)	14.3	普通	橙色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部・裾部の一部欠損	口縁部横撫で、体部篦撫で、脚部撫で、裾部横撫で。	口縁部横撫で、底部篦撫で、脚部上位撫で、下位篦削り、裾部横撫で。	
663	70	H-28	16	2		土師器	高坏	(20.2)	—	—	普通	鈍い橙色	白色粒・角閃石	坏部1/2	口縁部横撫で後篦磨き、体部横撫で。	口縁部横撫で後篦磨き。	
664	51	H-28	16	2	5	土師器	高坏	18.0	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒・角閃石	坏部～脚部上位3/4	口縁部横撫で、体部篦撫で、脚部撫で。	口縁部横撫で、底部篦撫で。	
665	49	H-28	15	2	7	土師器	高坏	(17.8)	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・礫	坏部9/10	口縁部横撫で、体部篦削り。	口縁部上位横撫で、体部篦撫で、底部器面剥離。	
666	47	H-28	15	2	6	土師器	高坏	19.4	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・礫	坏部4/5	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部横撫で後篦磨き、底部器面荒れ調整不明瞭。	
667	50	H-28	15	2	5	土師器	高坏	16.1	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・褐色粒・礫	坏部9/10	口縁部上位横撫で、下位篦撫で、体部篦削り。	口縁部～底部篦撫で。	
668	48	H-28	2	2	3	土師器	高坏	(16.2)	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・角閃石・礫	坏部3/5	口縁部横撫で、下位篦撫で、体部撫で、指頭痕。	口縁部横撫で後篦撫で、底部篦撫で。	
669	76	H-28	P-1			土師器	高坏	—	(13.0)	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒	脚部1/2	脚部～裾部上位撫で、裾部横撫で。	脚部上位しぼり目、下位～裾部上位篦撫で、裾部横撫で。	
670	71	H-28	11	2		土師器	高坏	—	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・角閃石	坏底部～裾部上位残存	脚部篦撫で後篦磨き、裾部横撫で。	底部篦磨き、脚部篦削り、裾部横撫で。	
671	72	H-28	14	ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	高坏	—	—	—	普通	明赤褐色	褐色粒・角閃石	坏底部～裾部上位4/5	体部篦撫で、脚部撫で、裾部横撫で。	脚部上位篦削り、下位撫で、裾部横撫で。	
672	75	H-28	10	2		土師器	高坏	—	—	—	普通	明赤褐色	白色粒・角閃石	脚部～裾部上位4/5	脚部～裾部撫で。	脚部篦削り、裾部横撫で。	
673	54	H-28	2	2	1	土師器	鉢	16.0	—	9.9	普通	鈍い赤褐色～明赤褐色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で、体部上位篦撫で、指頭痕、下位篦削り、底部篦撫で。	口縁部～体部上位横撫で、下位～底部篦撫で。	
674	53	H-28	15	2	3	土師器	鉢	12.0	—	8.8	普通	鈍い黄橙色～黒褐色	白色粒・黒色粒・褐色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
675	8	H-28	16	2	2	土師器	坩	13.1	—	15.8	普通	鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、胴部下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
676	52	H-28	15	2	4	土師器	坩	—	—	—	普通	橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒	頸部～底部残存	頸部撫で、胴部上位篦磨き、下位～底部篦削り。	頸部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
677	82	H-28	16	2		土師器	甑	—	6.0	—	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	胴部下位～底部3/5	胴部～底部篦撫で、底部に径1.8cmの円孔。	胴部～底部篦撫で。	
678	7	H-28	16	2	1	土師器	甕	17.1	6.8	29.1	普通	鈍い橙色～鈍い褐色	白色粒・褐色粒・礫	7/8	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦撫で、上位～中位煤付着、下端部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
679	56	H-28	16	2	3	土師器	甕	19.4	7.7	29.4	普通	明黄褐色	白色粒・黒色粒	7/8	口縁部横撫で、煤付着、胴部～底部篦撫で、上位～中位煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
680	55	H-28	2	2	2	土師器	台付甕	19.9	11.6	31.3	普通	鈍い黄橙色	白色粒・礫	3/5	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦削り、上位煤付着、下端部～台部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	内面焦げ付きの汚れあり。
681	83	H-28	10	2・ﾍﾞﾙﾄ2		土師器	甕	—	6.8	—	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	頸部～底部3/4	頸部横撫で、胴部～底部篦削り。	頸部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
682	27	H-28	12	2	1	土師器	甕	(16.6)	—	—	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部～胴部中位4/5	口縁部横撫で、胴部篦削り、器面荒れ単位不明瞭。	口縁部器面荒れ調整不明瞭、胴部篦撫で。	
683	20	H-28	15	2	2	須恵器	把手付椀	7.6	4.1	7.9	還元焔	灰色	白色粒・黒色粒	把手欠損	轆轤整形、底部撫で。	轆轤整形。	畿内産（TK73～216相当）
684	81	H-28	15	2		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ土器	(4.0)	—	—	普通	鈍い赤褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部上位	口縁部横撫で、胴部撫で。	口縁部～胴部撫で。	
685	69	H-31	7	1		土師器	坩	(9.2)	—	7.3	普通	黄褐色	白色粒・黒色粒	1/3	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
686	60	H-33	7	3		土師器	高坏	18.2	—	—	普通	橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒	口縁部～底部残存	口縁部上位横撫で、下位～底部篦撫で。	口縁部上位横撫で、下位～体部篦撫で。	
687	63	H-33	8	3	2	土師器	高坏	(14.2)	11.4	10.7	普通	明褐色	白色粒・黒色粒	2/3	口縁部横撫で、体部～脚部篦撫で、裾部横撫で。	口縁部横撫で、体部撫で、底部篦磨き、脚部横撫で。	
688	64	H-33	8	3	1	土師器	甕	15.6	—	—	普通	鈍い褐色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部下位3/4	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位篦削り、口縁部～胴部煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
689	62	H-33	8	1		土師器	高坏	—	(4.8)	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	胴部下位～底部1/3	胴部篦削り、底部撫で、径1.2cmの円孔。	胴部～底部篦撫で。	
690	17	H-33	16	3	1	土師器	高坏	19.0	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位7/8	口縁部上位横撫で、下位篦撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
691	2	H-35	2	1		土師器	坏	(13.0)	—	—	普通	鈍い橙色～鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	1/4	口縁部横撫で、体部篦撫で、底部篦削り。	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で。	N８C
692	1	H-35	6	1		土師器	小形甕	—	(4.6)	—	普通	灰黄褐色	白色粒・角閃石	胴部下位～底部1/3	胴部～底部撫で。	胴部～底部篦撫で。	N８C
693	144	D-3				土師器	坩	9.0	2.5	9.6	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、胴部下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	N５A

第 82 表　人見西向原遺跡　古墳時代土器観察表

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
694	6	H-1	12	2		土師器	高坏	－	12.4	－	普通	橙色	白色粒・褐色粒・礫	脚部残存	脚部撫で、裾部横撫で。	脚部篦削り、裾部横撫で。	
695	8	H-1	15	2		土師器	小形甕	10.9	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部下位2/3	口縁部～胴部篦削り。	口縁部～胴部篦撫で、指頭痕。	
696	5	H-1	16	2		土師器	台付甕	－	9.0	－	普通	鈍い褐色	白色粒・雲母・細礫	胴部上位～台部1/2	胴部篦削り、胴部下位～台部上位篦撫で、煤付着、台部下位撫で。	胴部～底部篦撫で、底部ヨゴレ付着、台部篦撫で。	
697	10	H-3	11	1		土師器	高坏	(17.5)	11.8	12.7	普通	明赤褐色	白色粒・角閃石・礫	1/2	口縁部横撫で、体部篦削り、脚部撫で。	口縁部横撫で、体部～底部篦磨き、脚部撫で、一部に布目痕あり。	
698	4	H-5	D-1		1	土師器	坏	13.9	－	5.0	普通	明赤褐色	白色粒・角閃石	3/4	口縁部横撫で後篦磨き、体部～底部篦削り。	口縁部～体部横撫で後篦磨き。	
699	2	H-5	3	2	1	土師器	坩	9.2	－	9.7	普通	灰黄褐色	白色粒・黒色粒	3/4	口縁部横撫で後篦磨き、胴部上位撫で、下位篦撫で後篦磨き。	口縁部横撫で後篦磨き、胴部～底部篦撫で。	
700	1	H-5	D-1		2	土師器	脚付甕	14.8	－	－	普通	褐色	白色粒・褐色粒・角閃石	口縁部～底部7/8、脚部欠損	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位篦削り、脚部との境撫で、口縁部～胴部煤付着。	口縁部横撫で、煤付着、胴部～底部篦撫で。	
701	3	H-5	D-1		3	土師器	甕	－	7.0	－	普通	鈍い橙色～橙色	雲母・細礫	胴部上位～底部3/4	胴部篦削り、下端部篦撫で、煤付着。	胴部～底部篦撫で、胴部中位にヨゴレ付着。	
702	15	H-6	7	1	1	土師器	坩	9.0	5.0	6.6	普通	橙色	白色粒・礫・角閃石	完形	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位～底部撫で。	
703	18	H-6	3	1		土師器	坩	－	－	－	普通	明黄褐色	白色粒・黒色粒	頸部～胴部下位1/4	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位篦削り。	口縁部～胴部篦撫で。	
704	19	H-6	11	1		土師器	小形甕	(11.4)	－	－	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	頸部～胴部下位1/6	口縁部横撫で、胴部刷毛目後、篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
705	22	H-6	D-1			土師器	甕	14.1	－	－	普通	鈍い橙色	白色粒・角閃石・礫	口縁部～胴部下位4/5	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部～胴部篦撫で。	
706	23	D-1				土師器	高坏	18.0	－	－	普通	鈍い橙色	白色粒・褐色粒・角閃石・礫	坏部3/4	口縁部横撫で、体部篦撫で、指頭痕。	口縁部横撫で、体部撫で。	
707	9	4A-484				土師器	壷	－	4.7	－	普通	鈍い赤褐色	白色粒・褐色粒・礫	頸部～底部3/4	口縁部横撫で、胴部上位～中位篦撫で、下位篦削り、底部撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	

第 83 表　人見西中原・東中原遺跡　古墳時代土器観察表

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
708	1	H-1	7･10･14	1		土師器	坏	(14.0)	－	4.5	普通	鈍い赤褐色	黒色粒・角閃石	2/3	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部～体部横撫で後放射状篦磨き。	
709	11	H-2	4	1	1	土師器	高坏	17.6	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	坏部残存	口縁部横撫で、体部篦削り後粗い放射状篦磨き。	横撫で後、口縁部～底部篦磨き。	
710	3	H-2	4	1	2	土師器	坩	9.2	－	9.0	普通	橙色～黄橙色	褐色粒・黒色粒	完形	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部上位撫で、下位～底部篦撫で。	
711	2	H-2	2	1	1	土師器	甑	(18.6)	4.5	11.3	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・礫	4/5	口縁部～胴部篦削り後篦撫で、底部篦削り。	口縁部～胴部篦撫で。	
712	4	H-2	3	1	1	土師器	壷	－	7.6	－	普通	鈍い黄橙色	黒色粒・雲母・細礫	胴部下位～底部3/4	胴部篦削り後篦撫で、底部篦削り。	胴部～底部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
713	15	H-4	1	1		土師器	坩	(8.2)	—	8.4	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	口縁部3/4欠損	口縁部横撫で、胴部上位撫で、中位～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
714	6	H-6	11	2		土師器	坩	9.0	—	8.4	普通	鈍い赤褐色	白色粒	2/3	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
715	4	H-6	4	2	1	土師器	小形甕	11.6	4.9	13.6	普通	橙色～鈍い赤褐色	白色粒・雲母・礫	口縁部一部欠損	口縁端部横撫で、胴部撫で、下位～底部篦削り、胴部煤付着。	口縁端部横撫で、胴部上位撫で後篦撫で、中位～底部篦撫で。	
716	3	H-6	8	2	2	土師器	甕	11.4	6.6	15.2	普通	明赤褐色	白色粒	口縁部・胴部下位一部欠損	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り、口縁部～胴部煤付着。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
717	25	H-6	7	2		土師器	甕	(14.0)	—	—	普通	橙色～黒褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位1/2	口縁部横撫で、胴部篦撫で、胴部上位煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で、胴部下位ヨゴレ付着。	
718	1	H-6	7	2	1	土師器	台付甕	16.0	8.8	26.3	普通	橙色～黄橙色	白色粒・雲母・礫	完形	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦削り、胴部中位煤付着、台部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、胴部下位ヨゴレ付着、台部篦撫で。	
719	2	H-6	8	2	1	土師器	甕	14.0	—	—	普通	鈍い黄橙色～黄橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位残存	口縁部横撫で、胴部篦削り、胴部煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
720	5	H-6	D-1			土師器	壷	20.3	—	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部上位残存	口縁部横撫で、胴部篦削り後篦撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
721	26	H-7	2	1		土師器	高坏	—	12.5	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	脚部残存、裾部1/2欠損	脚部撫で、裾部横撫で。	脚部上位しぼり目、下位撫で、裾部上位篦の圧痕、横撫で。	
722	13	H-8	D-1		1	土師器	高坏	16.4	12.0	15.9	普通	橙色～鈍い褐色	白色粒・褐色粒	7/8	口縁部横撫で後粗い放射状篦磨き、体部篦削り、脚部上位撫で、下位～裾部横撫で後粗い放射状篦磨き。	口縁部横撫で、口縁部～体部粗い放射状篦磨き、脚部上位撫で、下位篦撫で、裾部横撫で。	
723	9	H-8	2	2	2	土師器	高坏	19.4	—	—	普通	橙色	白色粒・褐色粒	坏部一部欠損	口縁部上位横撫で、下位篦削り、体部篦撫で。	口縁部横撫で、口縁部～底部篦磨き。	
724	8	H-8	D-2		1	土師器	坩	7.9	3.9	8.7	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、胴部～底部撫で。	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部撫で、指頭痕。	
725	20	H-8	15	2		土師器	坏	12.6	—	—	普通	灰黄褐色～橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～体部下位5/8	口縁部横撫で、体部篦削り。	口縁部～体部篦撫で。	
726	7	H-8	2	2	2	土師器	台付甕	14.0	10.0	30.3	普通	橙色～黄橙色	白色粒・礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦削り、煤付着、台部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
727	14	H-8	D-1		2	土師器	台付甕	—	10.0	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	胴部上位～台部2/3	胴部篦削り、上位煤付着、台部撫で。	胴部～底部篦撫で、台部篦撫で。	
728	10	H-8	D-3			土師器	台付甕	—	—	—	普通	暗褐色	白色粒・褐色粒	台部2/3	台部篦撫で。	台部篦撫で。	
729	12	H-8	13	2	2	土師器	壷	(21.5)	—	—	普通	鈍い赤褐色～鈍い橙色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部上位2/3	口縁部上位横撫で、下位篦撫で後横撫で、煤付着、胴部篦撫で。	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、頸部煤付着。	
730	19	H-8	15	2		土師器	甑	—	(4.2)	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒	胴部中位～底部1/3	胴部篦撫で、底部に径2cmの円孔。	胴部篦撫で。	
731	16	H-12	16	1	1	土師器	高坏	17.3	—	—	普通	浅黄橙色～鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒	坏部7/8	口縁部上位横撫で、下位撫で、体部篦削り。	器面が荒れ調整不明瞭。	
732	27	H-12	7	1		土師器	高坏	—	(12.4)	—	普通	浅黄橙色	白色粒	脚部2/3	脚部篦撫で、裾部横撫で。	脚部上位しぼり目、下位篦撫で、裾部横撫で。	
733	17	H-12	10	1		土師器	甕	16.5	—	—	普通	鈍い黄橙色～鈍い黄褐色	白色粒・雲母・礫	口縁部～胴部中位7/8	口縁部横撫で、胴部篦削り、口縁部～胴部煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
734	28	H-13	7	1		土師器	高坏	—	(12.8)	—	普通	浅黄橙色	白色粒・黒色粒	脚部残存、裾部2/3欠損	脚部撫で後粗い放射状篦磨き、裾部横撫で。	脚部上位しぼり目、下位篦撫で、裾部横撫で。	
735	30	H-13	6	1	2	土師器	高坏	—	12.1	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒	脚部残存、裾部1/2欠損	脚部撫で後粗い放射状篦磨き、裾部横撫で。	脚部上位しぼり目、下位篦撫で、裾部横撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
736	31	H-13	6	1	1	土師器	坩	9.1	—	9.4	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	4/5	口縁部上位横撫で、下位撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
737	29	H-13	3	1		土師器	鉢	—	4.5	—	普通	灰黄褐色	白色粒・褐色粒	口縁部欠損	体部～底部篦撫で。	体部～底部篦撫で。	
738	41	H-13	D-2			土師器	甕	16.4	—	—	普通	明黄褐色	白色粒・礫	口縁部～胴部下位3/4	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部上位指頭痕、中位～下位篦撫で。	
739	18	H-13	5	1	1	土師器	甕	16.8	—	—	普通	鈍い黄褐色	白色粒	口縁部～胴部中位残存	口縁部横撫で、胴部篦削り、口縁部～胴部煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
740	21	D-41			1	土師器	高坏	18.5	—	—	普通	黒褐色	白色粒・褐色粒	坏部1/2	口縁部横撫で、体部篦削り後粗い放射状篦磨き。	口縁部～体部横撫で後粗い放射状篦磨き。	
741	22	D-41			2	土師器	高坏	(15.8)	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒	坏部1/2	口縁部横撫で、体部篦撫で。	口縁部～底部篦撫で。	

第 84 表　人見本村遺跡　古墳時代土器観察表

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
742	26	H-1	2	1		土師器	高坏	17.0	13.4	15.4	普通	橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	口縁部一部欠損	口縁部横撫で後放射状篦磨き、体部篦撫で、脚部篦撫で後粗い篦磨き、裾部横撫で後放射状篦磨き。	口縁部横撫で後放射状篦磨き、脚部篦削り、裾部横撫で。	
743	38	H-1	2	1		土師器	坩	—	2.7	—	普通	明赤褐色	白色粒・褐色粒・角閃石・礫	頸部～底部3/4	頸部横撫で、胴部上位撫で、中位～下位篦削り、底部撫で。	口縁部篦磨き、胴部撫で。	
744	19	H-1	6	1	1	土師器	小形甕	11.2	6.4	9.9	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・角閃石	完形	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	
745	53	H-1	6	2		土師器	甕	13.8	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・礫	口縁部～胴部上位2/3	口縁部横撫で、頸部篦撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
746	29	H-1	3	1		土師器	脚付甕	18.0	—	—	普通	明赤褐色	角閃石・礫	口縁部～胴部下位1/4	口縁部横撫で後篦磨き、胴部上位篦撫で、中位～下位篦削り。	口縁部横撫で後篦磨き、胴部～底部篦撫で。	
747	27	H-1	6	2		土師器	甕	(14.8)	—	—	普通	褐色	白色粒・黒色粒・礫	口縁部～胴部中位1/4	口縁部横撫で、胴部篦削り、頸部～胴部煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
748	28	H-1	10	3		土師器	S字口縁台付甕	(12.8)	—	—	普通	黒褐色	白色粒	口縁部～胴部上位1/4	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	口縁部横撫で胴部篦撫で。	東海系
749	52	H-1	1	1		土師器	甕	19.0	—	—	普通	橙色	白色粒・雲母	口縁部～胴部上位1/2	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	9 世紀（覆土混入土器）
750	42	H-2	12	2	5	土師器	高坏	17.3	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	坏部残存、口縁部一部欠損	口縁部横撫で、体部撫で。	口縁部横撫で、底部撫で。	
751	41	H-2	3	2		土師器	高坏	15.1	—	—	普通	鈍い褐色	白色粒・礫	坏部2/3	口縁部上位篦撫で後横撫で、下位篦撫で、体部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で底部篦撫で。	
752	40	H-2	3	2		土師器	坩	—	—	—	普通	黄褐色	白色粒・角閃石	頸部～底部残存	頸部横撫で、胴部上位撫で、胴部下位～底部篦削り。	頸部横撫で、胴部篦撫で。	
753	39	H-2	D-1		1	土師器	坩	—	2.9	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	頸部～底部残存	胴部～底部篦削り。	胴部～底部篦撫で。	
754	45	H-2	D-1		2	土師器	坩	—	4.5	—	普通	明赤褐色	白色粒・褐色粒	頸部～底部残存	胴部上位撫で後部分的に篦磨き、中位篦撫で、下位～底部篦削り。	頸部篦磨き、胴部指撫で。	
755	44	H-2	4	1		土師器	台付甕	(15.4)	(9.8)	(17.6)	普通	明赤褐色	白色粒・黒色粒・角閃石・礫	口縁部～胴部下位1/4、台部1/2	口縁部横撫で、胴部篦削り、台部横撫で後篦磨き。	口縁部横撫で、胴部篦撫で、台部上位篦撫で、下位横撫で。	
756	21	H-2	2	2		土師器	小形甕	13.8	—	—	普通	橙色	白色粒・角閃石・礫	口縁部～胴部中位3/4	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
757	22・23	H-2	2	2	2	土師器	台付甕	16.4	10.4	31.7	普通	橙色	黒色粒・雲母・礫	5/6	口縁部横撫で、煤付着、胴部篦削り、中位に煤付着、下位篦撫で、台部撫で。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、下位にヨコレ付着、台部篦撫で。	2個体接合
758	46	H-2	15・12	2	3	土師器	甕	17.2	—	—	普通	鈍い黄橙色	角閃石・礫	口縁部～胴部下位2/3	口縁部横撫で、胴部上位撫で、胴部篦削り、口縁部～胴部煤付着。	口縁部横撫で、頸部撫で、胴部篦撫で。	
759	37	H-4	3	2		土師器	高坏	—	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	坏底部～脚部下位残存	脚部篦撫で。	脚部上位しぼり目、中位指撫で、下位横撫で。	
760	33	H-4	6	3		土師器	坩	—	—	—	普通	褐灰色	白色粒・礫	頸部～胴部下位1/4	胴部撫で、下位篦削り。	胴部篦撫で。	
761	32	H-4	6	3		土師器	坩	—	—	—	普通	鈍い黄褐色	白色粒・雲母	頸部～胴部1/3	胴部上位横撫で、中位撫で、下位～底部篦削り。	胴部上位撫で、中位～底部篦撫で。	
762	20	H-4	14	2	1	土師器	甕	13.4	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・角閃石	口縁部～胴部中位4/5	口縁部横撫で、煤付着、胴部上位篦撫で、中位篦削り、煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	
763	34	H-4	5	1		土師器	S字口縁台付甕	(12.9)	—	—	普通	橙色	白色粒・黒色粒	口縁部～頸部1/4	口縁部横撫で、頸部刷毛目。	口縁部横撫で。	東海系

第 85 表　上人見遺跡　古墳時代土器観察表

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
764		H-1	3・1	1		土師器	甕	16.2	—	—	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・歴	口縁部1/2	口縁部縦篦撫で後、横撫で。	口縁部～胴部篦撫で。	
765		D-115				土師器	坩	9.1	—	7.3	普通	鈍い黄橙色	白色粒・小礫	3/4	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	底部穿孔
766		D-111				土師器	S字口縁台付甕	(16.0)	—	—	普通	橙色	白色粒・雲母・小礫	口縁部～胴部1/4	口縁部横撫で、胴部刷毛目。	胴部篦撫で。	東海系

第 86 表　人見向原遺跡Ｋ－１号古墳　土器観察表

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
767	44	K-1			44	須恵器	蓋	(12.6)	3.0	2.5	還元	灰黄色	黒色粒	1/2	轆轤整形、天井部回転篦削り。	轆轤整形。	8 世紀前半
768	61	K-1			61	須恵器	長頸壷	—	9.6	—	還元	褐灰色	白色粒・黒色粒・礫	胴部下位～高台部3/4	轆轤整形、撫で。	轆轤整形。	8 世紀前半 35と同一個体か。
769	35	K-1			55	須恵器	長頸壷	—	—	—	還元	灰色	白色粒	頸部3/4	轆轤整形、自然釉付着。	轆轤整形。	8 世紀前半 61と同一個体か。
770	27	K-1			27	須恵器	短頸壷	(10.5)	—	—	還元	黄灰色	白色粒・黒色粒	口縁部～胴部中位1/8	轆轤整形。	轆轤整形。	8 世紀前半

第 87 表　古墳時代　土製紡錘車観察表

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
771	569	H-10	11	2		土製品	紡錘車	直径(5.0)	－	－	普通	鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒	1/4	篦磨き。	－	人見枝谷津遺跡 扁平形
772	－	H-31	16	2		土製品	紡錘車	直径3.5	－	－	普通	鈍い赤褐色	白色粒・黒色粒雲母	完形	篦削り。	芯に巻き付けて整形。	人見東向原遺跡 球状

第 88 表　古墳時代　土製品観察表

挿図番号	個体番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						備考
								長さ	幅	厚さ	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
773	271	H-51	8	1		粘土塊	不明	3.9	4.0	0.8	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	－	－	－	人見枝谷津遺跡 製品ではないと思われる。全面に植物などの筋状の圧痕が見られる。
774	368	H-9	4	2		粘土塊	不明	3.0	1.2	0.8	普通	鈍い褐色～灰褐色	白色粒・黒色粒	－	撫で。	－	人見枝谷津遺跡 製品か不明、粘土を手づくねした状態、紐状。
775	368	H-9	4	2		粘土塊	不明	3.8	1.4	0.5	普通	鈍い褐色～灰褐色	白色粒・黒色粒	－	撫で。	－	
776	－	H-94	3	2		粘土塊	不明	6.3	4.4	4.5	普通	鈍い橙色	白色粒	－	被熱により変色。	－	人見枝谷津遺跡
777	－	H-27	12	1		粘土塊	不明	8.8	7.8	4.7	普通	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒・雲母	－	被熱により変色、円形工具の刺突痕あり。	－	人見枝谷津遺跡
778	80	H-28	16	2		粘土塊	不明	3.4	3.35	2.65	普通	明赤褐色	白色粒・黒色粒	－	一箇所、刀子状のもので突き刺したような孔あり。	－	人見向原遺跡

第 89 表　人見枝谷津遺跡　古代土器観察表

挿図番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						時期
							口径	底径/摘み	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
1	H-32	2	1	1	土師器	坏	11.9	7.9	4.2	普通	鈍い褐色	角閃石・礫	完形	口縁部横撫で、体部上位撫で、下位～底部篦削り。	口縁部～体部横撫で、底部撫で。	Ⅲ期
2	H-33	2・4	1・2		須恵器	蓋	18.4	(6.6)	3.5	還元	灰白～褐灰色	黒色粒・礫	2/5	轆轤整形、天井部右回転篦削り。	轆轤整形。	Ⅱ期
3	H-33	1・2	2		須恵器	蓋	14.1	4.2	2.8	還元	灰白～褐灰色	白色粒・黒色粒	完形	轆轤整形、天井部右回転篦削り。	轆轤整形。	Ⅱ期
4	H-33	3	2		土師器	坏	14.0	—	2.1	普通	鈍い橙～赤褐色	褐色粒	4/5	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部～体部横撫で、底部撫で。	Ⅱ期
5	H-33	4	2		土師器	坏	—	—	—	普通	橙色	白色粒	底部破片	器面荒れ調整不明瞭。	横撫で、焼成後線刻「十」。	Ⅱ期
6	H-34	4	1		須恵器	坏	(9.8)	5.1	2.6	酸化	橙～褐色	白色粒・褐色粒	1/2	轆轤整形、右回転糸切り。	轆轤整形。	Ⅴ期
7	H-34	竈			灰釉陶器	椀	(14.0)	—	—	還元	灰白～灰黄色	白色粒	口縁部破片	轆轤整形。	轆轤整形。	Ⅴ期
8	H-34	3	1		須恵器	羽釜	(18.0)	—	—	酸化	鈍い黄橙色	礫	口縁部～胴部上位 1/4	轆轤整形、胴部篦削り。	口縁部～胴部篦撫で。	Ⅴ期
9	H-34	4	1		須恵器	羽釜	(22.0)	—	—	酸化	鈍い橙～鈍い褐色	褐色粒	口縁部～胴部上位 1/3	轆轤整形。	轆轤整形。	Ⅴ期
10	H-34	4	1		須恵器	甕	(22.0)	—	—	酸化	鈍い橙～鈍い褐色	褐色粒	口縁部～胴部上位 1/8	轆轤整形、胴部上位撫で、篦削り。	轆轤整形、胴部篦撫で。	Ⅴ期
11	H-38	6	3	1	須恵器	杯	—	—	—	酸化	鈍い橙色	黒色粒	完形	轆轤整形、右回転糸切り。	撫で。内外面にタール付着。	Ⅴ期
12	H-38	12	3		須恵器	杯	—	—	—	酸化	橙色・小礫	黒色粒・赤色粒	完形	轆轤整形、右回転糸切り。	撫で。内外面にタール付着。	Ⅴ期
13	H-38	7	3		須恵器	杯	(9.8)	4.8	3.2	酸化	鈍い黄橙～鈍い黄褐色	白色粒	3/4	轆轤整形、右回転糸切り、篦の当たり痕。	轆轤整形。	Ⅴ期
14	H-38	7	3		須恵器	椀	(17.6)	(9.2)	6.4	酸化	鈍い褐色	角閃石・礫	1/2	轆轤整形。	轆轤整形。	Ⅴ期
15	H-37	11	2		須恵器	椀	—	8.0	—	酸化	鈍い褐～橙色	白色粒・褐色粒	底部～高台部1/2	轆轤整形、回転糸切り。	轆轤整形。	Ⅴ期
16	H-38	6	3		須恵器	椀	—	(7.4)	—	酸化	鈍い黄褐～鈍い黄橙色	褐色粒	底部～高台部5/6	轆轤整形、底部回転撫で。	轆轤整形。	Ⅴ期
17	H-38	6	3	2	灰釉陶器	段皿	—	—	—	還元	灰白色	白色粒	完形	轆轤整形、底部回転撫で。	轆轤整形。釉は漬掛け（白色）。高台は削り出しか。口縁部にタール付着。	Ⅴ期
18	H-38	11	3	1	灰釉陶器	段皿	—	—	—	還元	灰白色	白色粒	完形	轆轤整形、底部回転篦削り。	轆轤整形。釉は漬掛け（白色）。	Ⅴ期
19	H-38	竈			須恵器	羽釜	(21.0)	—	—	酸化	鈍い黄橙～鈍い黄褐色	黒色粒	口縁部～胴部中位 1/3	轆轤整形、胴部中位篦削り。	轆轤整形。	Ⅴ期
20	H-38	12	2		須恵器	羽釜	(20.0)	—	—	還元	灰色	礫	口縁部～胴部中位 1/5	轆轤整形。	轆轤整形。	Ⅴ期
21	H-38	12	3		須恵器	羽釜	(26.0)	—	—	酸化	鈍い褐色	褐色粒・礫	口縁部～胴部上位 1/6	轆轤整形。	轆轤整形。	Ⅴ期
22	H-38	12	2		須恵器	羽釜	(24.0)	—	—	酸化	橙～明褐色	礫・石英	口縁部～胴部上位 1/8	轆轤整形。	轆轤整形。	Ⅴ期
23	H-38	竈周辺			須恵器	土釜	(28.0)	—	—	酸化	橙～黄褐色	褐色粒	口縁部～胴部中位 1/4	轆轤整形、胴部篦撫で。	轆轤整形、胴部篦撫で。	Ⅴ期
24	H-37	12	3		須恵器	甑	—	(23.0)	—	酸化	鈍い褐～橙色	礫・石英	胴部下位～底部 1/4	轆轤整形、胴部篦削り。	轆轤整形、胴部篦撫で。	Ⅴ期
25	H-47	一括			黒色土器	椀	(14.0)	—	—	酸化	橙色、黒色	礫	口縁部～体部1/8	轆轤整形。	口縁部～体部篦磨き、黒色処理。	Ⅴ期
26	H-47	一括			須恵器	椀	—	—	—	酸化	暗褐色	白色粒	口縁部破片	轆轤整形。	轆轤整形、漆様のもの付着。	Ⅴ期
27	H-47	4	1	1	灰釉陶器	段皿	11.0	6.0	2.4	還元	灰白～灰黄色	白色粒	完形	轆轤整形、底部回転撫で。	轆轤整形。釉は漬掛け。	Ⅴ期
28	H-47	竈内			須恵器	羽釜	(22.0)	—	—	酸化	橙～鈍い褐色	褐色粒・礫・石英	口縁部～胴部中位 1/3	轆轤整形。	轆轤整形。	Ⅴ期
29	H-47	竈内			須恵器	土釜	(20.0)	—	—	酸化	黄灰～暗灰黄色	礫・石英	口縁部～胴部下位 1/3	轆轤整形、胴部下位篦削り。	轆轤整形、胴部下位篦撫で。	Ⅴ期
30	H-71	竈内・1	1		土師器	杯	12.0	9.5	4.0	普通	明黄褐色	褐色粒・礫	4/5	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部～体部横撫で、底部撫で。	Ⅳ期

挿図番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						時期
							口径	底径/摘み	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
31	H-71	竈		2・3	土師器	甕	20.4	—	—	普通	鈍い褐色	白色粒・褐色粒・石英	口縁部～胴部上位 1/2	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	Ⅳ期
32	H-71	竈		1・2	土師器	甕	(22.4)	—	—	普通	鈍い褐色	褐色粒・礫	口縁部～胴部中位 1/5	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	Ⅴ期
33	H-73	15	1・2		須恵器	坏	(13.5)	(6.0)	4.3	酸化	鈍い黄橙色	褐色粒・石英	1/5	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。	Ⅴ期
34	H-73	11	1		灰釉陶器	椀	—	(6.4)	—	還元	灰白色	白色粒	体部下位～高台部 4/5	轆轤整形、底部回転撫で。	轆轤整形、底部施釉。	Ⅴ期
35	H-73	竈			須恵器	羽釜	(21.0)	—	—	酸化	鈍い黄橙～明黄褐色	褐色粒・石英	口縁部～胴部中位 1/4	轆轤整形、胴部篦削り。	轆轤整形。	Ⅴ期
36	H-73	11	1		須恵器	羽釜	(22.0)	—	—	酸化	鈍い黄橙～明黄橙色	褐色粒・石英	口縁部～胴部上位 1/6	轆轤整形、胴部上位篦削り。	轆轤整形。	Ⅴ期
37	H-73	3	1		須恵器	羽釜	(22.0)	—	—	酸化	鈍い黄橙～鈍い黄褐色	黒色粒・褐色粒	口縁部～胴部上位 1/3	轆轤整形、胴部上位篦削り。	轆轤整形。	Ⅴ期
38	H-73	竈			須恵器	土釜	(20.0)	—	—	酸化	橙～明褐色	石英	口縁部～胴部下位 1/5	轆轤整形、胴部篦削り。	轆轤整形、胴部篦撫で。	Ⅴ期
39	H-81	竈			須恵器	羽釜	(17.0)	—	—	酸化	鈍い褐色	褐色粒・石英	口縁部～胴部中位 1/5	轆轤整形。	轆轤整形。	Ⅴ期
40	H-81	竈			須恵器	羽釜	(19.0)	—	—	酸化	鈍い褐～橙色	石英・礫	口縁部～胴部中位 1/4	轆轤整形、胴部篦削り。	口縁部～胴部篦撫で。	Ⅴ期
41	H-82	14	1		須恵器	土釜	(28.0)	—	—	酸化	鈍い黄褐～黒褐色	褐色粒・石英	口縁部～胴部下位 1/4	轆轤整形、胴部下位篦削り。	轆轤整形、胴部篦撫で。	Ⅴ期
42	H-107	8	2		土師器	甕	(19.4)	—	—	普通	鈍い褐色	褐色粒・石英	口縁部～胴部上位 1/4	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	Ⅲ期
43	H-118	14	2	1	須恵器(土師質)	杯	9.3	5.5	3.0	還元	鈍い黄橙色～黒褐色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。	Ⅴ期
44	H-118	竈内		2	須恵器	高台付椀	(14.7)	(7.6)	6.4	酸化気味	鈍い黄橙色	白色粒・黒色粒	1/3	轆轤整形、底部回転撫で。	轆轤整形。	Ⅴ期
45	H-118	竈		3・4	須恵器	土釜	23.0	9.5	30.0	酸化	橙色～鈍い褐色	白色粒・黒色粒	2/3	轆轤整形、胴部下位篦削り、底部篦撫で。	轆轤整形。	Ⅴ期
46	H-118	竈		2	須恵器	羽釜(月夜野型)	(26.4)	—	—	酸化	明褐色	白色粒・黒色粒・礫	口縁部～胴部中位 1/4	轆轤整形、胴部篦削り。	轆轤整形。	Ⅴ期
47	H-118	竈		4・5	須恵器	羽釜(月夜野型)	26.0	—	—	酸化	橙色～鈍い褐赤色	白色粒・褐色粒・角閃石・礫	口縁部～胴部中位 3/5	轆轤整形、胴部篦削り。	轆轤整形。	Ⅴ期
48	H-118	竈		1	須恵器	羽釜(月夜野型)	(20.8)	—	—	酸化	鈍い橙色	白色粒・黒色粒・礫	口縁部～胴部中位 4/5	轆轤整形、胴部篦削り。	轆轤整形、胴部篦撫で。	Ⅴ期
49	H-118	8	2		須恵器	甕	—	—	—	酸化	灰色	白色粒	頸部～胴部上部破片	轆轤整形。	轆轤整形。	Ⅴ期

第 90 表　人見東向原遺跡　古代土器観察表

挿図番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						時期
							口径	底径/摘み	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
50	H-7	竈			須恵器	杯	8.8	5.0	2.3	酸化	鈍い黄橙色	褐色粒	完形	轆轤整形、右回転糸切り。	轆轤整形。	Ⅴ期
51	H-7	10	3		須恵器	椀	－	(8.0)	－	酸化	橙～明褐色	褐色粒・細砂粒	体部下位～高台部1/3	轆轤整形、底部回転撫で。	轆轤整形。	Ⅴ期
52	H-7	12・14	3		須恵器	羽釜	(21.0)	－	－	酸化	鈍い黄橙～鈍い黄褐色	白色粒・礫・石英	口縁部～胴部上位1/3	轆轤整形、胴部篦削り。	口縁部～胴部篦撫で。	Ⅴ期
53	H-7	6	2・3		須恵器	羽釜	(27.0)	－	－	酸化	鈍い褐～明褐色	褐色粒・礫	口縁部～胴部上位1/3	轆轤整形。	轆轤整形。	Ⅴ期
54	H-7	竈			須恵器	土釜	(26.0)	－	－	酸化	鈍い褐色	石英	口縁部～胴部上位1/4	轆轤整形、胴部篦削り。	轆轤整形、胴部篦撫で。	Ⅴ期
55	H-10	8	2		須恵器	杯	(10.2)	4.9	3.3	酸化	橙色	褐色粒・石英	2/3	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。	Ⅴ期
56	H-10	15	2		須恵器	杯	8.9	4.8	3.0	酸化	鈍い橙色	褐色粒・石英	完形	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。口縁部に煤付着。	Ⅴ期
57	H-10	11	1		須恵器	杯	－	(4.8)	－	酸化	鈍い黄橙～灰黄褐色	礫	体部下位～底部1/4	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。	Ⅴ期
58	H-10	12	2		須恵器	杯	－	4.5	－	酸化	橙色	石英	体部下位～底部4/5	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。	Ⅴ期
59	H-10	3	2		須恵器	椀	－	(7.7)	－	酸化	鈍い橙～橙色	褐色粒・細砂粒	体部下位～高台部1/3	轆轤整形、底部切り離し不明瞭。	轆轤整形。	Ⅴ期
60	H-10	竈			須恵器	椀	－	(7.6)	－	酸化	鈍い黄褐～黄褐色	褐色粒・細砂粒	体部下位～高台部1/2	轆轤整形、底部切り離し不明瞭。	轆轤整形。	Ⅴ期
61	H-10	15	2		須恵器	羽釜	(16.0)	－	－	酸化	鈍い黄褐色	褐色粒・礫	口縁部～胴部上位1/4	轆轤整形。	轆轤整形。	Ⅴ期
62	H-10	11・15	2		須恵器	土釜	－	7.8	－	酸化	褐灰～鈍い黄褐色	白色粒・礫	胴部下位～底部1/3	胴部篦削り、底部撫で。	胴部～底部篦撫で。	Ⅴ期

第 91 表　人見向原遺跡　古代土器観察表

挿図番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						時期
							口径	底径/摘み	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
63	H-22	10	1		須恵器	高台付椀	－	－	－	酸化	鈍い橙色	黒色粒・小礫	破片	轆轤整形。	轆轤整形。	Ⅴ期
64	H-22	14・15	1		須恵器	羽釜(月夜野型)	23.3	－	－	酸化	鈍い褐色	黒色粒・白色粒・小礫	口縁部破片	轆轤整形、胴部篦削り（斜め）。	轆轤整形（篦撫で）。	Ⅴ期
65	H-22	4	1		須恵器	甕（土釜）	16.7	－	－	酸化	赤褐色	黒色粒・白色粒・小礫多	口縁部破片	轆轤整形。	轆轤整形（篦撫で）。	Ⅴ期
66	H-34	2	竈周辺		須恵器	杯	9.1	3.5	2.9	酸化	橙色	黒色粒・白色粒	ほぼ完形	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。	Ⅴ期
67	H-34	2	竈周辺		須恵器	羽釜(月夜野型)	21.8	－	－	酸化	褐色	白色粒・小礫	口縁部破片	轆轤整形、胴部篦削り（斜め）。	轆轤整形（篦撫で）。	Ⅴ期
68	H-34	2	竈周辺		須恵器	羽釜(月夜野型)	23.2	－	－	酸化	鈍い赤褐色	黒色粒・白色粒・小礫	口縁部破片	轆轤整形、胴部篦削り（斜め）。	轆轤整形（篦撫で）。	Ⅴ期
69	H-34	2・4	1		須恵器	羽釜	21.3	－	－	酸化	灰褐色	黒色粒・白色粒・小礫	口縁部破片	轆轤整形。	轆轤整形（篦撫で）。	Ⅴ期

第 92 表　人見本村遺跡　古代土器観察表

挿図番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						時期
							口径	底径/摘み	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
70	H-3	5	3		土師器	杯	10.7	－	3.5	普通	橙色	白色粒	9/10	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。漆様の付着物。	Ⅰ期
71	H-3	4	3	11	土師器	杯	11.3	－	4.1	普通	橙色	白色粒・褐色粒・雲母	4/5	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。漆様の付着物。	Ⅰ期
72	H-3	3	3	12	土師器	杯	13.2	－	4.5	普通	鈍い黄褐～黄褐色	黒色粒・褐色粒	4/5	口縁部横撫で、体部～底部篦削り。	口縁部～体部横撫で、底部撫で。	Ⅰ期
73	H-3	6	1		須恵器	蓋	(17.8)	－	－	還元	黄灰色	白色粒	口縁部～天井部1/6	轆轤整形、天井部右回転篦削り。	轆轤整形。	Ⅰ期
74	H-3	4	3		須恵器	杯	(14.3)	10.0	3.9	還元	灰白～鈍い橙色	白色粒・黒色粒	1/2	轆轤整形、底部右回転篦削り。自然釉付着。	轆轤整形。	Ⅰ期
75	H-3	10			須恵器	高杯	－	10.7	－	還元	灰色	白色粒・黒色粒	脚部5/6	轆轤整形。自然釉付着。	轆轤整形。	Ⅰ期
76	H-3	10	1		須恵器	瓶類	－	－	－	還元	赤灰色	白色粒	胴部下位～底部1/4	轆轤整形、胴部下位右回転篦削り、底部回転撫で。	轆轤整形。	Ⅰ期
77	H-3	4	3	10	土師器	甕	14.4	－	15.8	普通	明赤褐色	白色粒・礫	7/8	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	Ⅰ期
78	H-3	4	3	8	土師器	甕	16.2	－	－	普通	明赤褐色	白色粒・礫	口縁部～胴部下位残存	口縁部横撫で、胴部篦削り。口縁部煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。口縁部煤付着。	Ⅰ期
79	H-3	3	3	6	土師器	甕	23.0	－	－	普通	明赤褐色	礫・雲母	口縁部～胴部下位1/2	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	Ⅰ期
80	H-3	竈			土師器	甕	23.6	－	－	普通	明赤褐色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部下位2/3	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	Ⅰ期
81	H-3	4	3	1	土師器	甑	19.8	－	－	普通	橙色	白色粒・褐色粒・雲母	口縁部～胴部上位残存	口縁部横撫で、胴部篦削り。口縁部煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。口縁部煤付着。口縁部内面に擦れた痕跡が巡る。置き台に転用か。	Ⅰ期
82	H-3	4	3	9	土師器	甑	23.5	－	－	普通	鈍い褐～褐灰色	白色粒・褐色粒	口縁部～胴部中位残存	口縁部横撫で、胴部篦削り。口縁部～胴部煤付着。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。口縁部～胴部ヨゴレ付着。	Ⅰ期
83	H-3	3	3	5	土師器	甑	22.6	－	－	普通	明赤褐色	白色粒・褐色粒・礫	口縁部～胴部下位3/4	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	Ⅰ期
84	H-3	3	3	3	土師器	甑	22.0	－	31.8	普通	橙～鈍い橙色	白色粒・褐色粒・雲母・礫	9/10	口縁部横撫で、胴部～底部篦削り。	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で。	Ⅰ期
85	H-3	4・7	3	2・4	土師器	甑	21.6	－	－	普通	橙色	白色粒・礫	口縁部～胴部下位7/8	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	Ⅰ期
86	H-3	6・7	3	7・13	土師器	甕	24.6	－	－	普通	明赤褐色	白色粒・雲母	口縁部～胴部下位3/4	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	Ⅰ期
87	H-3	7	3		土師器	甕	23.4	－	－	普通	橙色	白色粒・褐色粒・角閃石	口縁部～胴部上位2/3	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	Ⅰ期

第 93 表　大溝（M－1）・溝、道路状遺構他　古代土器観察表

挿図番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						時期
							口径	底径/摘み	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
88	N5A M-1	15		1	須恵器	杯	13.2	7.5	3.4	還元	灰色	白色粒・黒色粒	9/10	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。	9世紀後半
89	N5A M-1	15		2	須恵器	杯	12.6	7.9	3.0	還元	灰色	白色粒・黒色粒	ほぼ完形	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。	9世紀後半
90	N5A M-1	5		1	須恵器	杯	10.0	4.7	3.0	酸化	鈍い黄褐色	黒色粒・角閃石	1/2	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。体部と底部の一部に煤付着。	10世紀後半
91	N8A M-1	12		1	須恵器	杯	(14.6)	7.0	4.1	酸化	鈍い褐色	白色粒・雲母	2/5	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。	9世紀終末～10世紀初頭
92	N8B M-1	26		1	土師器	坏	－	－	(2.3)	良好	鈍い橙色	黒色粒・小礫	底部破片	体部・底部篦削り。	横撫で。	8世紀
93	N8B M-1	44		11	須恵器	杯	(14.0)	－	－	酸化	浅黄色	白色粒・礫	口縁部～体部下位1/10	轆轤整形。	轆轤整形。	10世紀後半
94	N8B M-1	44		12	須恵器	椀	－	(7.0)	－	還元	浅黄色	白色粒・礫	体部下位～高台部1/2	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。	8世紀
95	N8B M-1	37		1	須恵器	壺	－	(15.8)	ー	還元	灰白色	白色粒・黒色粒・小礫	底部破片	轆轤成形、高台部貼付。	轆轤成形。	8世紀
96	N8B M-1	45		1	土師器	甕	(31.3)	－	－	普通	鈍い橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒・礫	口縁部～胴部上位1/10	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	8世紀
97	N8B M-1	44		5	土師器	甑	(24.4)	－	－	普通	橙色	白色粒・黒色粒・石英・礫	口縁部～胴部上位1/3	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で後篦磨き。	8世紀
98	N8B M-1	44			須恵器	羽釜	－	－	－	酸化	鈍い橙色	白色粒・黒色粒・石英・礫	口縁部～胴部上位1/5	轆轤整形、胴部篦削り。	轆轤整形。	10世紀後半
99	N8B M-1	27		2	須恵器	甕	－	－	－	還元	灰色	白色粒・小礫	胴部破片	轆轤整形、叩き目痕あり。	轆轤整形、撫で調整。	8世紀
100	N8B M-1	27		1	須恵器	不明	－	11.5	－	還元	灰白色	黒色粒・小礫	底部破片	轆轤成形、底部篦削り。	轆轤成形、剝離。	8世紀
101	N8B T-1				土師器	鉢	-22.3	ー	ー	普通	褐灰色～鈍い橙色	白色粒・小礫	口縁部～胴部1/4	口縁部横撫で、胴部篦削り。	横撫で。	8世紀
102	N3C M-16	9		1	須恵器	高台付椀	14.3	7.0	5.2	還元	鈍い黄橙色～灰黄色	白色粒・褐色粒	2/3	轆轤整形、底部右回転糸切り。	轆轤整形。	9世紀後半
103	N8E M-6	5		1	土師器	杯	(14.3)	－	－	普通	鈍い黄橙色	白色粒・褐色粒・角閃石	口縁部～体部1/4	口縁部横撫で、体部篦削り。	口縁部～体部篦磨き。	8世紀前半
104	N9 M-4	3C杭			須恵器	杯	(13.0)	(8.2)	3.6	還元	暗灰黄色	黒色粒・礫	1/4	轆轤整形、底部篦撫で。	轆轤整形。	8世紀前半
105	N9 M-4	5		2	土師器	甕	(22.6)	－	－	普通	鈍い赤褐色	白色粒・角閃石・雲母	口縁部～胴部上位1/5	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	8世紀前半
106	N9 M-4	5			土師器	甕	(14.7)	－	－	普通	鈍い褐色	白色粒・角閃石・雲母	口縁部～胴部上位1/4	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	8世紀前半
107	N9 M-2（道路側溝）	3		1	土師器	甕	(19.6)	－	－	酸化	鈍い橙色	白色粒・黒色粒・褐色粒・雲母・礫	口縁部～胴部上位1/3	口縁部横撫で、胴部篦削り。	口縁部横撫で、胴部篦撫で。	8世紀初頭。破砕して溝覆土上位に廃棄。
108	N9 M-2（道路側溝）	5			須恵器	杯	(12.0)	－	－	還元	灰色	白色粒・礫	口縁部～体部下位1/8	轆轤整形。	轆轤整形。	8世紀
109	N9 道路面	5			須恵器	椀	－	(6.3)	－	普通	灰色	白色粒・角閃石・礫	体部下位～高台部1/4	轆轤整形、底部篦撫で、底部回転糸切り。	轆轤整形。	8世紀
110	N3 D-34				須恵器	甕	－	11.3	－	酸化気味	暗灰黄色	黒色粒・雲母・細礫	胴部下位～底部残存	轆轤整形、底部右回転糸切り、周辺部撫で。	轆轤整形。	時期不明

挿図番号	遺構名	区	層	番号	種類	器種	法量(cm)			成・整形技法の特徴						時期
							口径	底径/摘み	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外面	内面	
111	N7 D-16				土師器	甕	—	(4.4)	—	普通	鈍い褐色	黒色粒・角閃石	胴部中位～底部 4/5	胴部～底部篦削り。	胴部～底部篦撫で。	8世紀
112	N8B M-7				軟質陶器	内耳盤形	(33.0)	(28.0)	11.5	普通	褐灰色	白色粒・黒色粒・褐色粒	2/5	轆轤整形、底部無調整。	轆轤整形。内耳部分は不明。	15世紀

Ⅶ　自然科学分析

1　分析の概要

自然科学分析については、土層及びテフラ区分・同定、植生・花粉による環境復元、水田稲作（プラントオパール）の可能性、土層による遺構時期の判定、木材の樹種同定、赤色顔料の同定、黒曜石の産地同定等を目的に委託して行った。

分析結果については、紙面の都合、ＰＤＦデータにしたが、人見東向原遺跡及び人見西向原遺跡におけるローム層分析、縄文時代中期の黒曜石産地分析については、各遺跡の遺構・遺物との関連性から本文に掲載した（◎印）。なお、各分析内容は、以下のとおりである。

人見枝谷津遺跡の自然科学分析（平成20・21年度）

道路側溝の土層・テフラ分析（遺構時期の判断のため）、低地及び水場部分のテフラ・プラントオパール・花粉分析（環境復元のため）、古墳時代住居址検出の炭化材樹種同定

人見東向原遺跡の自然科学分析（平成21・23年度）

古墳時代住居址検出の炭化材分析（住居使用の木材を知るため）

古墳時代住居址出土土器内で検出した赤色顔料分析

人見向原遺跡の自然科学分析（平成21年度）

◎ローム層の分析（旧石器時代の環境復元）

人見東中原遺跡の自然科学分析（平成22年度）

低地部分のテフラ・プラントオパール分析（低地の環境、道路遺構の時期判断のため）

人見東向原遺跡（上人見遺跡）の自然科学分析（平成22年度）

低地部分のテフラ・プラントオパール分析（弥生時代の環境復元のため）

人見西向原遺跡の自然科学分析（平成23・24年度）

Ｍ－１号溝（大溝）の土層分析（遺構年代と環境）

◎ローム層の分析（旧石器時代の遺物帰属時期の推定、テフラ同定、環境の復元）

人見西中原遺跡の自然科学分析（平成23年度）

道路側溝の土層分析（遺構年代と環境）

縄文時代の黒曜石産地分析（平成25年度）

◎非破壊による蛍光Ｘ線による産地同定

①低地部分の環境について

枝谷津地区、東中原地区、西中原地区の低地部では、現在の水田耕作土下から、浅間Ａ軽石・Ｂ軽石・Ｃ軽石が検出された。また、Ｂ軽石直下層、下層（Ｃ軽石混入土）、では、水田稲作が行われた可能性が認められた。なお、枝谷津地区のＡ軽石混入土内では、稲作の可能性の他に、周辺でムギ類の栽培が行われていた可能性が指摘された。土層の年代の結果から、古墳時代前期以降に低地部で水田稲作が行われていた可能性が考えられ、集落の時期と矛盾していないことが明らかとなった。しかし、西中原地区と枝谷津地区では、上人見遺跡での弥生時代における稲作の可能性を分析した結果、Ｃ軽石より下位の土層からはイネは検出されなかった。

遺跡群が立地する植生環境は、これまでのプラントオパール及び花粉分析により、低地部ではヨシ属、ススキ属、タケ亜科等のイネ科、カヤツリグサ科が生育する湿地的な環境で、台地部の乾燥したところでは、竹笹類のススキ属等が生育、コナラやクヌギ等の広葉樹や針葉樹が分布した環境であった可能性が推定された。ナラ類については、二次林の可能性が想定された。

②炭化材樹種同定

古墳時代中期前半の住居址の木材は、コナラ属が主体で、クヌギが最も多く、コナラが補完的であることが判明した。この結果は、この地域の花粉分析により、ナラ類が多く分布した可能性と樹木が一致する。住居木材の伐採、調達が集落周辺部で行われていた可能性が考えられる。

③赤色顔料

人見東向原遺跡Ｈ－27号で出土した小形甕内の赤色顔料を分析した結果、赤鉄鉱の「ベンガラ」であることが判明した。

④道路側溝・大溝の土壌分析

人見西中原遺跡の道路側溝覆土及び人見を分析した結果、遺構が浅間Ｂ軽石に覆われていたことを再確認し、遺構廃絶後に形成された覆土内には、開けて乾いた場所に生育するネザサ節を含むタケ亜科が多く、湿潤な場所を好むヨシ属やススキ属等、裸地であった可能性を示すシバ属が検出され、裸地から草地へ植生が遷移した可能性が指摘された。この結果は、低地部分での植生環境を反映した堆積であることと一致する。しかし、イネ科の栽培種は検出されず、両遺構周辺でのイネ科栽培は低い結果となった。また、覆土内で樹木花粉がほとんど検出されていない結果から、遺構場所が開けていた可能性が考えられる。

⑤人見枝谷津遺跡の水場の土壌分析

Ｂ軽石下位層では、イネは検出されなかった。ヨシ属等が生育する湿潤的な環境と推定された。

⑥ローム層の分析（本文参照）

向原地区と西向原地区では、約５ｍの深さでローム層分析を行った。向原地区のテフラ分析では、As-BPグループの３区分と遺跡でのテフラ層（AT、As-Okグループ、As-YP）との対応を検討した。西向原地区では、石器群の層位がAs-OkグループのAs-Ok1より上位で、As-YPより下位であることが推定された。また、植物珪酸体分析によって、当時の環境が、ササ属（ミヤコザサ節や）等の笹類が繁茂するような状況で、当時は寒冷で積雪の少ない比較的乾燥した地域であったと推定された。

⑦黒曜石の産地分析

本遺跡群では、縄文時代中期後葉の加曽利ＥⅢ式期を主体とする集落が分布することから、当該期の黒曜石の流通、交易等を把握するため、理化学的手法を用いた産地分析を行った。対象遺跡は、人見東原Ⅱ遺跡、人見東中原遺跡、西中原遺跡の３遺跡である。このうち人見東原Ⅱ遺跡では、黒曜石を石材とした石鏃製作関連資料が認めらた。なお、人見枝谷津遺跡の黒曜石は、機会を改めて、今後の分析とした。産地名については、挿図及び石器観察表に記載した。分析結果の一覧表は、紙面の都合、ＰＤＦとし、データ編に収録した。

分析の結果、本遺跡群における黒曜石の産地は、長野県星ヶ塔産（諏訪産）が主体で、同県小深沢産（和田峠産）が含まれる傾向が認められた。特筆すべき点では、人見東原Ⅱ遺跡において神奈川県神津島産が１点（石鏃）確認された。

2　人見向原遺跡のローム層分析

1．はじめに

関東地方北西部に位置する安中市とその周辺には、浅間火山や八ヶ岳火山列など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログなどに収録されており、遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

人見向原遺跡深掘トレンチ（第３・４工区境）でも、層位や年代が不明なテフラや土層が認められたことから、地質調査を実施して土層やテフラの記載を行った。

2．土層の層序

人見向原遺跡深掘トレンチでは、下位より、わずかに色調が暗い褐色土（層厚10cm以上）、黄白色ガラス質細粒火山灰層（層厚３cm）、わずかに色調が暗い褐色土（層厚４cm）、成層したテフラ層（層厚114cm）、褐色土（層厚７cm）、わずかに色調が暗い褐色土（層厚６cm）、成層したテフラ層（層厚30.3cm）、褐色土（層厚３cm）、橙色細粒軽石層（層厚８cm，軽石の最大径７mm，石質岩片の最大径２mm）、褐色砂質土（層厚２cm）、正の級化構造をもつ橙色軽石層（層厚18cm，軽石の最大径18mm，石質岩片の最大径３mm）、橙色軽石混じり褐色土（層厚３cm，軽石の最大径４mm）、成層したテフラ層（層厚31cm）、黄色砂質土（層厚13cm）、褐色土（層厚14cm）、黄白色軽石混じり褐色土（層厚18cm，軽石の最大径９mm）、褐色土（層厚16cm）、わずかに色調が暗い褐色土（層厚12cm）、成層したテフラ層（層厚41cm）、黄色軽石混じり灰褐色土（層厚29cm，軽石の最大径29mm）、黒褐色土（層厚42cm）、黒色土（層厚26cm）が認められる。

４層の成層したテフラ層のうち、最下位のものは、下位より風化した黄白色軽石層（層厚11cm）、風化した褐色細粒火山灰層（層厚１cm）、風化した白色軽石層（層厚12cm）、粗粒の橙色軽石層（層厚54cm，軽石の最大径27mm，石質岩片の最大径11mm）、灰色岩片を多く含む黄色や橙色の軽石層（層厚25cm，軽石の最大径18mm，石質岩片の最大径10mm）、灰色粗粒火山灰混じりの細粒の黄白色軽石層（層厚４cm，軽石の最大径４mm，石質岩片の最大径２mm）、灰色粗粒火山灰層（層厚７cm）から構成される。このテフラ層は、層相から約1.9～2.4万年前[*1]に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group，新井，1962，町田・新井，1992，2003，早田，1995，1996など）のうちの最下位の室田軽石（森山，1971，早田，2000）に同定される。なお、MPのうち最下位とそのすぐ上位のフォールユニットの間の風化した褐色細粒火山灰層は、時間間隙を示す堆積物の可能性もある。

なお、MPの下位の黄白色ガラス質細粒火山灰層は、層位や層相から約2.4～2.5万年前[*1]に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰(AT，町田・新井，1976，2003，松本ほか，1986，村山ほか，1991，池田ほか，1995）に同定される。

下位より２層目の成層したテフラ層は、下位より黄色細粒軽石混じり灰色粗粒火山灰層（層厚６cm，軽石の最大径２mm）、橙色軽石混じり褐色細粒火山灰層（層厚0.3cm，軽石の最大径６mm）、わずか

に褐色がかった灰色粗粒火山灰層（層厚４cm）、橙色軽石層（層厚５cm，軽石の最大径12mm，石質岩片の最大径２mm）、橙色軽石混じり暗灰色粗粒火山灰層（層厚11cm，軽石の最大径10mm，石質岩片の最大径２mm）、黄橙色軽石層（層厚４cm，軽石の最大径10mm，石質岩片の最大径２mm）からなる。

また、下位より３層目の成層したテフラ層は、下位より橙色軽石層（層厚５cm，軽石の最大径11mm，石質岩片の最大径２mm）、若干黄色がかった灰色粗粒火山灰層（層厚２cm）、細粒の橙色軽石層（層厚３cm，軽石の最大径６mm，石質岩片の最大径２mm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚１cm）、逆級化構造をもつ粗粒の橙色軽石層（層厚16cm，軽石の最大径34mm，石質岩片の最大径９mm）、橙色粗粒火山灰層（層厚４cm）からなる。

これらMPとその上位にある少なくとも５層に区分されるテフラ層は、層相からAs-BP Groupの構成層と考えられる。

その上位の褐色土中に濃集する黄白色の軽石は、層位や岩相から、約1.7万年前[*1]と約1.6万年前[*1]に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第１軽石（As-Ok1，中沢ほか，1984，早田，1996 ）と浅間大窪沢第２軽石（As-Ok2，中沢ほか，1984，早田，1996，As-Ok1と合わせて仮に浅間大窪沢テフラ群：As-Ok Groupとする）に由来する可能性が高い。

その上位の成層したテフラ層は、下位より黄色粗粒軽石層（層厚19cm，軽石の最大径67mm，石質岩片の最大径27mm）と、粗粒の黄色軽石を含む成層した細粒黄色軽石層（層厚25cm，軽石の最大径29mm，石質岩片の最大径９mm）からなる。このテフラ層は、層相から約1.3～1.4万年前[*1]に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP，新井，1962，町田・新井，1992，2003）に同定される。

３．テフラ検出分析

（１）分析試料と分析方法

従来、As-BP Groupに関しては、日本列島とその周辺における火山灰編年学の基準とされている火山灰テフラ・カタログ（町田・新井，1992，2003）で、おもに岩石記載的特徴から、下部、中部、上部に３区分されている。しかしながら、詳細なテフラ層序との関係については明確にされていない。As-BP Groupのうち、MPは特徴的でしかも大規模噴火による降下テフラ層で、安中市域のみならず、南関東地方でも重要な指標となる可能性が高い。そこで、MPのおもな構成ユニット４層から採取された４試料（試料６、試料５、試料４、試料３）について、テフラ検出分析、重鉱物組成分析、そして火山ガラスと鉱物の屈折率測定を実施して、テフラ・カタログと構成ユニット間の対応関係を調べることになった。

テフラ検出分析の方法は次の通りである。

１）風化が進み軽石の選別が不可能であった試料６および試料５については試料全体から10g、また軽石の選別が容易であった試料４および試料３についてはそれぞれ軽石10gを秤量。

２）軽石について乳鉢で粉砕。

３）超音波洗浄装置により泥分を除去。

４）恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。

５）実体顕微鏡下で観察。

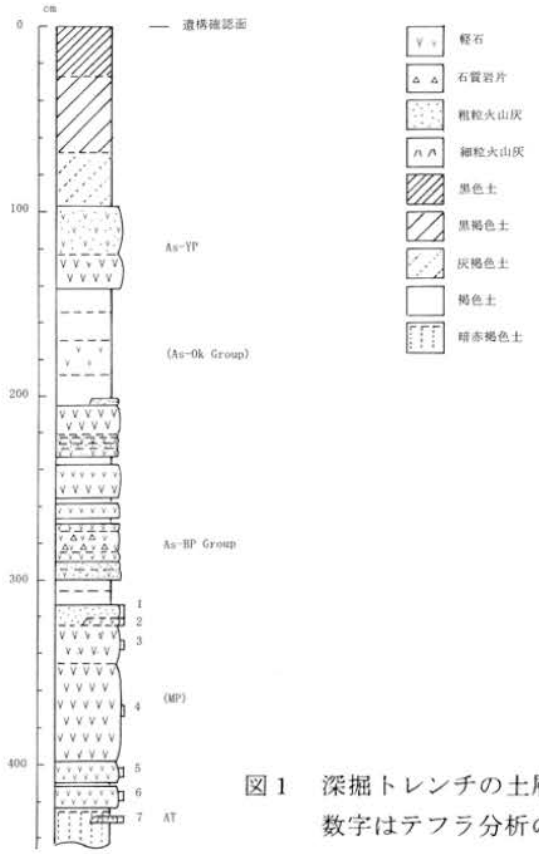


図1　深掘トレンチの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号.

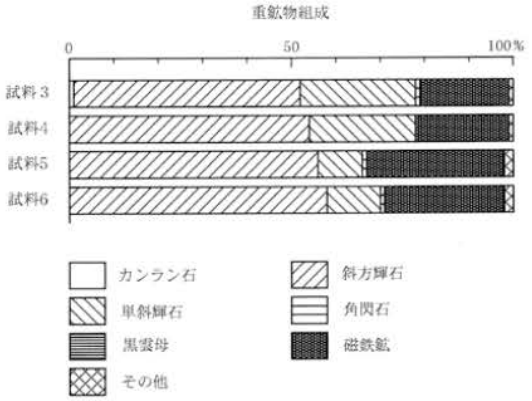


図2　深掘トレンチの重鉱物組成ダイヤグラム

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石		火山ガラス		β石英
		色調(処理前)	色調(処理後)	色調	発泡形態	
深掘トレンチ	3	黄色	白色	白色, 透明	sp	
	4	橙色	白色	白色, 透明	sp	
	5	(白色に風化)		白色, 透明	sp, fb	○
	6	(白色に風化)*		白色, 透明	sp, fb	○

最大径の単位:mm. sp:スポンジ状, fb:繊維束状. ○:含まれていることを示す.

表2 重鉱物組成分析結果

地点	試料	ol	opx	cpx	am	bi	mt	その他	合計
深掘トレンチ	3	1	130	63	2	0	52	2	250
	4	0	135	61	0	0	53	1	250
	5	0	141	25	1	0	78	5	250
	6	0	145	31	1	0	69	4	250

数字は粒子数. Ol:カンラン石, opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石, am:角閃石, bi:黒雲母, mt:磁鉄鉱.

表3 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス		斜方輝石	
		屈折率(n)	測定粒子数	屈折率(γ)	測定粒子数
深掘トレンチ	3	1.500-1.503	37	1.700-1.724(1.700-1.710, 1.717-1.724)	30(26, 4)
	4	1.500-1.504	11	1.700-1.723	31
	5	1.502-1.503	31	1.709-1.723	32
	6	1.501-1.503	38	1.707-1.724	30

屈折率の測定は, 温度変化型屈折率測定装置(RIMS2000)による.

（2）分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。試料6には、スポンジ状や繊維束状の白色や無色透明の軽石型ガラスが含まれている。ほかにβ石英も認められる。試料5にも、スポンジ状や繊維束状の白色や無色透明の軽石型ガラスが含まれており、ほかにβ石英も認められる。これら2試料が採取されたユニットには、フェルシックな鉱物が多く含まれる特徴がある。

試料4および試料3に含まれる橙色軽石や黄色軽石は、軽く粉砕しながら洗浄し風化部を除去すると、スポンジ状に発泡した白色や無色透明の火山ガラスと鉱物が残った。

4．重鉱物組成分析

（1）分析方法

分析対象の4試料に含まれる重鉱物組成を明らかにするために、下記の手順で重鉱物組成分析を行った。

1）テフラ検出分析済みの試料について、分析篩を用いて1/4-1/8mmおよび1/8-1/16mmの粒子を篩別。

2）偏光顕微鏡下で1/4-1/8mmの重鉱物250粒子の組成を求める。

（2）分析結果

重鉱物組成分析の結果を、ダイヤグラムにして図2に、その内訳を表2に示す。いずれの試料でも、斜方輝石や単斜輝石が多く含まれる両輝石型の組成が認められる。その中では、試料6と試料5で両輝石の比率がやや低く、両輝石の中では斜方輝石の比率が高い傾向が把握できた。これらの試料には、角閃石もわずかながら認められる。一方、上方の試料4および試料3では、両輝石の比率が高い傾向にある。そのうち、試料3には、ごくわずかながらカンラン石や角閃石も含まれている。

5．屈折率測定（火山ガラス・鉱物）

（1）測定方法

4試料に含まれる火山ガラスおよび斜方輝石の屈折率特性を把握することにより、テフラの同定精度の向上を図ることになった。測定は、1/8-1/16mmの火山ガラスと、2mmより粗粒の斜方輝石を実体顕微鏡下で手選した後に軽く粉砕して実施した。測定に使用した機器は、温度変化型屈折率測定装置（京都フィッション・トラック社製RIMS2000）である。

（2）測定結果

屈折率測定の結果を表3に示す。試料6に含まれる火山ガラス（n）と斜方輝石（γ）の屈折率は、1.501-1.503（38粒子）と1.707-1.724（30粒子）である。試料に含まれる火山ガラス（n）と斜方輝石（γ）の屈折率は試料6のそれらと似ており、それぞれ、1.502-1.503（31粒子）と、1.709-1.723（32粒子）である。

試料4に含まれる火山ガラス（n）と斜方輝石（γ）の屈折率は、1.500-1.504（11粒子）と1.700-1.723（31粒子）である。後者の屈折率のrangeが下位のものよりやや広い。試料に含まれる火山ガラス（n）と斜方輝石（γ）の屈折率は、1.500-1.503（37粒子）と1.700-1.724（30粒子）である。後者については、試料4のそれと同じくややrangeが広いが、詳細にみるとbi-modalな組成をしており、1.700-1.710と1.717-1.724に分かれる。

6．考察

テフラ・カタログにおけるAs-BP Goupの３区分と、MPとの層位関係については、テフラ・カタログ編集の際に、分析測定を担当した故新井房夫群馬大学名誉教授の詳細な野外での記録とそれに基づく記載が残されていないことから現在まで不明な点が多く、今後詳細な旧石器編年を行う際にも大きな障壁となる可能性もある。

今回の分析で明らかになった構成ユニットの特徴のうち、試料６と試料５の斜方輝石の屈折率はAs-BP Groupの下部（γ：1.710-1.725）のそれとよく似ている。また、試料４と試料３から得られた斜方輝石の屈折率のrangeは、As-BP Groupの中部の値（γ：1.700-1.709）を含み、とくに試料３では、そのrangeの比率が高いように見える。層相と、As-BP Groupの下部（β石英や角閃石をわずかに含む）と中部の境界はMP中にあるという故新井房夫群馬大学名誉教授の生前の談話を考慮すると、試料５と試料４がそれぞれ採取されたユニット間に境界のある可能性が高い。

ただし、今回の分析測定では、風化が進み耐風化性が高い火山ガラスが残存していたためか、従来の報告より火山ガラスの屈折率が低い。また、層相や岩石記載的特徴が似ている試料６と試料５が採取されたユニット間に時間間隙がある可能性もあり、植物珪酸体分析など他の方法による詳細な検討も必要である。引き続き、詳細な調査分析を要している。

7．まとめ

人見向原遺跡の深掘トレンチにおいて、地質調査を行いテフラを含む土層層序の記載を実施した。その結果、下位より姶良Tn火山灰（AT，約2.4～2.5万年前*1）、５層の浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group，約1.9～2.4万年前*1）、浅間大窪沢テフラ群（As-Ok Group，約1.6～1.7万年前*1）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP，約1.3～1.4万年前*1）を認めることができた。さらに、テフラ検出分析、重鉱物組成分析、火山ガラスと斜方輝石の屈折率測定を実施して、従来報告されているAs-BP Groupの３区分と、遺跡でのテフラ層との対応関係を検討した。

*1　放射性炭素（^{14}C）年代．ATとAs-YPの較正年代については，約2.8～3.0万年前と約1.5～1.65万年前と考えられている（町田・新井，2003，町田　洋私信）．

文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.

池田晃子・奥野　充・中村俊夫・小林哲夫（1995）南九州，姶良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器^{14}C年代．第四紀研究，34，p.377-379.

町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義－．科学，46，p.339-347.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．東京大学出版会，336p.

松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗（1987）姶良Tn火山灰（AT）の^{14}C年代．第四紀研究，26，p.79-83.

森山昭雄（1972）榛名火山東・南山麓の地形－とくに軽石流の地形について．地理学報告，no.36・37，p.107-116.

村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村　真・安田尚登・平　朝彦（1993）四国沖ピストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討－タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の^{14}C年代．地質雑，99，p.787-798.

中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦（1984）浅間火山，黒班～前掛期のテフラ層序．日本第四紀学会講演要旨集，no.14，p.69-70.

早田　勉（1995）テフラからさぐる浅間山の活動史．御代田町誌編纂委員会編「御代田町誌自然編」，p.22-43.

早田　勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第１テフラより上位のテフラについて－．名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，７，p.256-267.

３　人見西向原遺跡のローム層分析

１．はじめに

関東地方北西部に位置する安中市とその周辺には、浅間火山や八ヶ岳火山列など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログなどに収録されており、遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

人見西向原遺跡Ｂ-Ｉ区の発掘調査でも、層位や年代が不明な旧石器時代の遺構や遺物が検出されたことから、地質調査とテフラ分析を実施して、遺構や遺物包含層の層位や年代に関する資料を得ることになった。調査分析の対象は、Ｂ-Ｉ区西壁深掘トレンチとＢ-Ｉ区西壁24C杭（M-1号溝23区）北１ｍ地点の２地点である。

２．土層の層序

（１）Ｂ-Ｉ区西壁深掘トレンチ

人見西向原遺跡のローム層の基本土層断面が作成されたＢ-Ｉ区西壁深掘トレンチでは、下位より鉄分を多く含みわずかに色調が暗い褐色土（層厚２cm以上）、白色ガラス質細粒火山灰層（レンズ状，最大層厚１cm）、褐色粘質土（層厚４cm）、成層したテフラ層（層厚123cm）、褐色土（層厚16cm）、褐色土（層厚16cm）、成層したテフラ層（層厚13.4cm）、褐色砂質土（層厚0.5cm）、成層したテフラ層（層厚20cm）、橙色軽石混じり褐色土（層厚２cm，軽石の最大径４mm）、正の級化構造をもつ橙色軽石層（層厚６cm，軽石の最大径７mm，石質岩片の最大径２mm）、橙色軽石混じり褐色土（層厚４cm，軽石の最大径13mm）、正の級化構造をもちとくに橙色軽石に富む橙色軽石層（層厚17cm，軽石の最大径15mm，石質岩片の最大径４mm）、褐色砂質土（層厚２cm）、成層したテフラ層（層厚９cm）、成層したテフラ層（層厚11cm）、橙色軽石混じり黄褐色土（層厚18cm，軽石の最大径９mm）が認められる（図１）。

これらのうち、最下部付近の成層したテフラ層のうち、最下位の白色ガラス質細粒火山灰層（層厚１cmテフラ層は、層相から層相から約2.4～2.5万年前*1に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰(AT，町田・新井，1976，2003，松本ほか，1986，村山ほか，1991，池田ほか，1995）に同定される。その上位の成層したテフラ層は、下位より風化した白色軽石層（層厚12cm）、褐色風化火山灰層（層厚2cm）、白色風化軽石層（層厚13cm）、とくに粗粒の橙色軽石層（層厚57cm，軽石の最大径3

8mm，石質岩片の最大径19mm)、黄褐色軽石層（層厚19cm，軽石の最大径21mm，石質岩片の最大径６mm)、そして褐灰色軽石層（層厚20cm，軽石の最大径14mm，石質岩片の最大径４mm）から構成される。このテフラ層は、層位や層相から、層相から約1.9～2.4万年前[*1]に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group，新井，1962，町田・新井，1992，2003，早田，1995，1996など）のうちの最下位の室田軽石（森山，1971，早田，2000）に同定される。なお、MPのうち最下位とそのすぐ上位のフォール・ユニットの間の風化した褐色風化火山灰層は、時間間隙を示す堆積物の可能性もある。

MPのすぐ上位の成層したテフラ層は、下位より灰色粗粒火山灰層（層厚７cm)、橙色軽石層（層厚0.4cm，軽石の最大径５mm)、とくに淘汰の良い灰色粗粒火山灰層（層厚６cm）からなる。その上位のテフラ層は、下部の橙色軽石層（層厚７cm，軽石の最大径16mm，石質岩片の最大径６mm）と、上部の灰色石質岩片を多く含む橙色軽石層（層厚13cm，軽石の最大径11mm，石質岩片の最大径４mm）からなる。テフラを２層挟んでその上位の成層したテフラ層は、下部の橙色細粒軽石層（層厚４cm，軽石の最大径６mm，石質岩片の最大径２mm）と、上部の橙色細粒軽石（最大径２mm）混じりで若干黄色がかった灰色粗粒火山灰層（層厚５cm）からなる。さらに上位の成層したテフラ層は、橙色軽石層（層厚４cm，軽石の最大径12mm，石質岩片の最大径２mm）と、とくに軽石に富む橙色粗粒軽石層（層厚７cm，軽石の最大径22mm，石質岩片の最大径11mm）からなる。MPを最下部とする、これら７層のテフラは、層相からAs-BP Groupに同定される。

As-BP Groupの上位には、下位より橙色軽石混じり黄褐色土（層厚18cm，軽石の最大径９mm)、白色や黄白色の軽石混じり黄褐色土（層厚16cm，軽石の最大径14mm)、白色や黄白色の細粒軽石が濃集した黄褐色土（層厚２cm，軽石の最大径４mm)、白色や黄白色の軽石混じり黄褐色土（層厚14cm，軽石の最大径14mm)、褐色土（層厚13cm)、成層したテフラ層（層厚42.6cm)、黄褐色細粒火山灰層ブロック混じりで黄色細粒軽石を含む褐色土（層厚28cm，軽石の最大径３mm)、黒褐色土（層厚18cm）が認められる。これらのうち、成層したテフラ層は、下位より粗粒の黄色軽石層（層厚16cm，軽石の最大径51mm，石質岩片の最大径28mm)、成層した細粒の黄色軽石層（層厚26cm，軽石の最大径24mm，石質岩片の最大径９mm)、桃褐色粗粒火山灰層（層厚0.6cm）からなる。このテフラ層は、層相から約1.3～1.4万年前[*1]に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP，新井，1962，町田・新井，1992，2003）に同定される。また、その下位の土層中に濃集する白色軽石については、層位や岩相などから、約1.7万年前[*1]と約1.6万年前[*1]に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第１軽石（As-Ok1，中沢ほか，1984，早田，1996 ）と浅間大窪沢第２軽石（As-Ok2，中沢ほか，1984，早田，1996，As-Ok1と合わせて仮に浅間大窪沢テフラ群：As-Ok Groupとする）に由来する可能性が高い。

（２）B-Ⅰ区西壁24C杭北１m地点

１号礫群の脇に位置するB-Ⅰ区西壁24-C杭北１m地点では、下位より橙色軽石に富む黄褐色土（層厚８cm以上，軽石の最大径18mm)、橙色軽石混じり黄褐色土（層厚21cm，軽石の最大径23mm，Ⅶc層)、白色や黄白色の軽石を含む黄褐色土（層厚19cm，軽石の最大径９mm)、白色や黄白色の軽石に富む黄褐色土（層厚18cm，軽石の最大径18mm，以上Ⅶb層)、わずかに黄色がかった褐色土（層厚７cm)、褐色土（層厚13cm，以上Ⅶa層)、成層したテフラ層（層厚28cm)、黒褐色土（層厚10cm以上）が認められる（図２)。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位の粗粒の黄色軽石層（層厚14cm，軽石の最大径59mm，

石質岩片の最大径24mm）と、上位の成層した細粒の黄色軽石層（層厚14cm，軽石の最大径29mm，石質岩片の最大径８cm）からなる。このテフラ層は、層位や層相からAs-YPに同定される。

これらの土層のうち、発掘調査では、Ⅶb層を構成する２層のうち、上位の土層（Ⅶb層上部）の基底から１号礫群が検出されている。

３．テフラ組成分析

（１）分析試料と分析方法

１号礫群の層位や年代に関する資料を得るために、B-Ⅰ区西壁24C杭北１m地点において、基本的に土層の層界にかからないように、基本的に厚さ５cmごとに設定採取された土壌試料のうち、９試料を対象に火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を実施して、指標テフラの降灰層準を求めた。

分析の手順は次のとおりである。

１）試料10gを秤量。

２）超音波洗浄装置により泥分を除去。

３）恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。

４）実体顕微鏡下で観察。

５）分析篩を用いて1/4-1/8mmおよび1/8-1/16mmの粒子を篩別。

６）偏光顕微鏡下で1/4-1/8mmの250粒子を検鏡し、火山ガラスの形態色調別含有率を求める（火山ガラス比分析）。

７）偏光顕微鏡下で1/4-1/8mmの重鉱物250粒子を検鏡し、重鉱物組成を求める（重鉱物組成分析）。

（２）分析結果

テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして図３に、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果を表１と表２に示す。火山ガラス比分析の結果、Ⅶb層上部基底部の試料８に火山ガラスの出現ピークのあることが明らかになった。この試料に含まれる火山ガラスは、含有率が高い順にスポンジ状に発泡した軽石型（7.2%）、繊維束状に発泡した軽石型（6.0%）、分厚い中間型（4.8%）である。

一方、重鉱物としては、全体として下位より上位にかけて、斜方輝石と単斜輝石を合わせたいわゆる両輝石の含有率が減少する傾向にある。火山ガラスの出現ピークが検出されたⅦb層上部基底部の試料８に含まれる重鉱物は、含有率が高い順に斜方輝石（53.2%）、不透明鉱物（おもに磁鉄鉱，26.0%）、単斜輝石（19.2%）で、両輝石型の組成をもつ。

４．屈折率測定（火山ガラス・鉱物）

（１）測定方法

B-Ⅰ区西壁24C杭北１m地点でのテフラ組成分析で、火山ガラスの出現ピークが認められた試料８、またⅦb層上部から採取された軽石粒子の火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性を把握して、テフラ・カタログ（町田・新井，2003）に記載された指標テフラとの同定を実施した。測定は、1/8-1/16mmの火山ガラスと、２mmより粗粒の斜方輝石を実体顕微鏡下で手選した後に軽く粉砕して実施した。後者については、洗浄・乾燥（80℃）後に軽く粉砕し、篩別して得られた試料を対象に測定を行った。測定に使用した機器は、温度変化型屈折率測定装置（京都フィッション・トラック社製RIMS2000）である。

（2）測定結果

屈折率測定の結果を表3に示す。B-I区西壁24C杭北1m地点の試料8に含まれる火山ガラス（n）と斜方輝石（γ）の屈折率は、1.501-1.503（31粒子）と1.703-1.716（30粒子）である。一方、Ⅶb層上部から採取された軽石粒子に含まれる火山ガラス（n）と斜方輝石（γ）の屈折率は、1.501-1.504（34粒子）と1.704-1.709（30粒子）である。

5．EPMA分析（火山ガラスの主成分化学組成分析）

（1）分析方法

テフラ・カタログにはさほど多くの資料が掲載されてはいないが、テフラの同定精度の向上を図る際には、テフラ粒子の屈折率特性のみならず、信頼度の高いエレクトロンプローブX線マイクロアナライザー（EPMAを用いて火山ガラスや強磁性鉱物の主成分化学組成を調べると良い。とくに、これまでの屈折率特性把握の段階では、As-BP GroupやAs-Ok Groupを構成する個々のテフラ層の識別ができていないことから（関口ほか，2011）、今後に期待できる。そこで、Ⅶb層上部から採取された軽石の火山ガラスについて、テフラ同定に実績のあるEPMAにより主成分化学組成分析を実施した。

分析に使用した機器は、日本電子社製のWDS型EPMA（JEOL JXA-8200）で、加速電圧15keV，電子ビーム径10μm，泥流値1×10^{-8}Aの条件下で分析を行った。

（2）分析結果

火山ガラス19ポイントの主成分化学組成分析の結果を表4に、指標テフラとの比較を表5に示す。

6．考察ーテフラの起源と1号礫群の層位

火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性の把握および火山ガラスの主成分化学組成分析を実施したⅦb層上部に含まれるテフラは、層位、層相、さらに火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性の結果から、As-Ok Groupの一部と考えられる。さらに、火山ガラスの主成分化学組成結果は、そのうち下位のAs-Ok1に由来する可能性がより高いことを示している。このことから、Ⅶb層基底付近にAs-Ok1の降灰層準があると考えられる。したがって、旧石器時代の遺物包含層や1号礫群の層位は、As-Ok1より上位で、As-YPより下位にあると考えられる。

なお、B-I区西壁24C杭北1m地点の試料8に含まれる斜方輝石の屈折率のrangeは軽石のそれより幅広い傾向にあるが、それは試料8が土壌試料で純度が低いために、多起源のテフラ粒子が混在していることによると考えられる。

7．まとめ

人見西向原遺跡B-I区において、地質調査を行い、テフラを含む土層層序の記載を行うとともに、テフラ組成分析、火山ガラスと斜方輝石の屈折率測定、火山ガラスの主成分化学組成分析（EPMA分析）を実施した。その結果、下位より姶良Tn火山灰（AT，約2.4～2.5万年前*1）、7層の浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group，約1.9～2.4万年前*1）、浅間大窪沢テフラ群（As-Ok Group，約1.6～1.7万年前*1）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP，約1.3～1.4万年前*1）を認めることができた。発掘調査で検出された旧石器時代の遺物包含層や1号礫群の層位は、As-Ok Groupのうちの下位の浅間大窪沢第1軽石（As-Ok1，1.7万年前*1）より上位で、As-YPより下位にあると推定される。

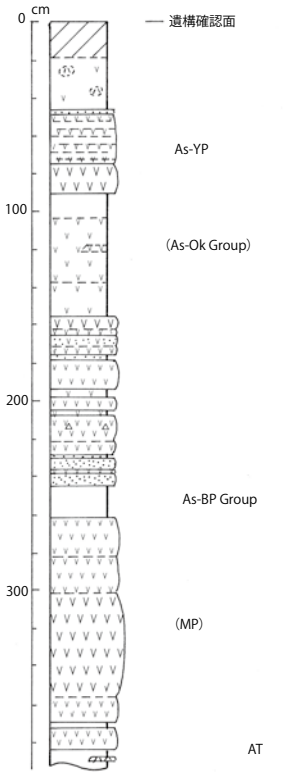


図１　人見西向原遺跡
B-Ⅰ区深掘地点の土層柱状図

表１　火山ガラス比分析結果

地　点	試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	その他	合　計
B-Ⅰ区西壁24-C杭北1m地点	2	0	0	0	11	6	5	228	250
	4	0	0	0	13	1	5	231	250
	6	0	0	0	14	3	9	224	250
	8	0	0	0	12	18	15	205	250
	10	0	0	0	7	3	6	234	250
	12	0	0	0	5	2	2	241	250
	14	1	0	0	1	2	1	245	250
	16	0	0	0	4	6	1	239	250
	18	0	0	0	0	4	0	246	250

bw：バブル型, pm：軽石型, md：中間型, pm：軽石型, cl：無色透明, pb：淡褐色, br：褐色, sp：スポンジ状, fb：繊維束状.
数字は粒子数.

表２　重鉱物組成分析結果

地　点	試料	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合　計
B-Ⅰ区西壁24-C杭北1m地点	2	1	137	19	3	0	86	4	250
	4	0	147	30	1	0	70	2	250
	6	0	141	47	0	0	58	4	250
	8	0	133	48	0	0	65	4	250
	10	0	143	48	0	0	54	5	250
	12	0	136	59	0	0	52	3	250
	14	0	144	55	1	0	46	4	250
	16	0	148	60	0	0	40	2	250
	18	0	148	57	0	0	42	3	250

ol：カンラン石, opx：斜方輝石, cpx：単斜輝石, am：角閃石, bi：黒雲母, opq：不透明鉱物（おもに磁鉄鉱）. 数字は粒子数.

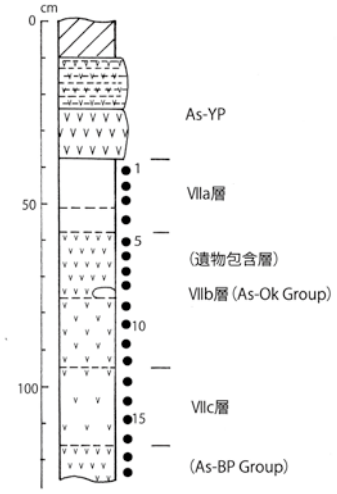


図２　B-Ⅰ区西壁・24-C杭地点の土層柱状図
●：テフラ分析資料の層位．数字：分析番号.

表３　屈折率測定結果

地点・試料・テフラ	火山ガラス		斜方輝石		文献
	屈折率(n)	測定点数	屈折率(γ)	測定点数	
B-Ⅰ区西壁24-C杭北1m地点・試料８	1.501-1.503	31	1.703-1.716	30	本報告
B-Ⅰ区西壁・軽石	1.501-1.504	34	1.704-1.709	30	本報告
<浅間火山起源の後期旧石器時代指標テフラ>					
浅間草津(As-K)	1.501-1.503		1.707-1.712		1)
浅間板鼻黄色(As-YP)	1.501-1.505		1.707-1.712		1)
浅間大窪沢２(As-Ok2)	1.502-1.504		1.704-1.709		1)
浅間大窪沢１(As-Ok1)	1.500-1.502		1.704-1.709		1)
浅間白糸(As-Sr)	1.506-1.510		1.702-1.708		1)
浅間萩生(As-Hg)	1.500-1.502		1.703-1.709		2)
浅間板鼻褐色(群)(As-BP Group)・上部	1.515-1.520		1.704-1.714		1)
中部	1.508-1.511		1.700-1.709		
下部	1.505-1.515		1.710-1.725		

本報告における測定は、温度変化型屈折率測定装置(RIMS2000)による.
1)：町田・新井(2003)，2)：早田(1996).
1)～2)の測定は，いずれも故新井房夫群馬大学名誉教授による(温度一定型屈折率測定法).

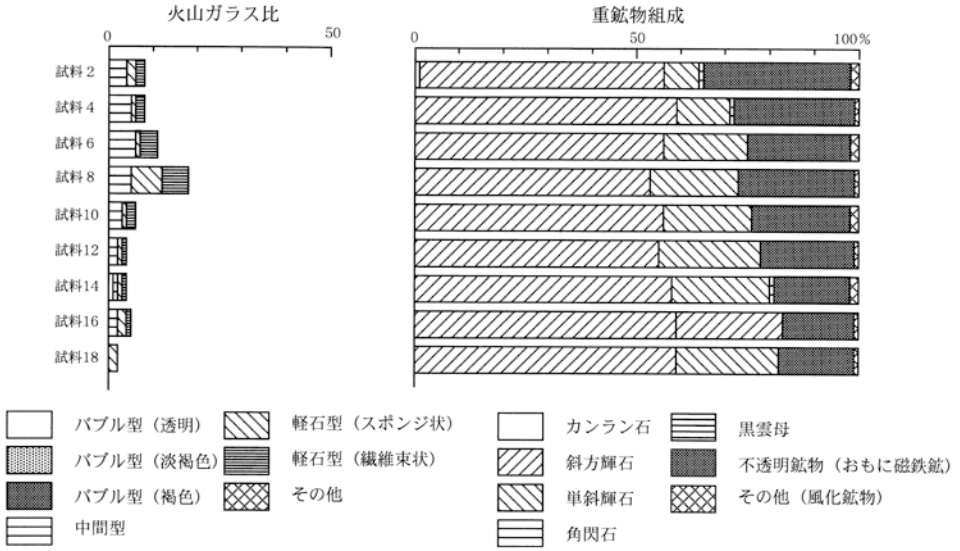


図３　Ｂ－Ｉ区西壁24-Ｃ杭地点のテフラ組成ダイヤグラム

表４　テフラ試料に含まれる火山ガラスの主成分化学組成

地点・試料	No.	SiO2	TiO2	Al2O3	FeO	MnO	CaO	MgO	Na2O	K2O	Total
B-Ⅰ区西壁・軽石	1	78.0	0.29	11.9	1.22	0.09	1.25	0.17	4.03	3.04	100
	2	77.9	0.28	11.9	1.26	0.05	1.21	0.23	3.96	3.14	100
	3	77.6	0.30	12.3	1.22	0.03	1.16	0.23	4.18	2.93	100
	4	78.0	0.24	12.0	1.36	0.04	1.18	0.16	3.94	3.02	100
	5	78.0	0.27	12.1	1.22	0.04	1.28	0.18	4.08	2.82	100
	6	77.7	0.28	12.0	1.42	0.08	1.29	0.22	4.12	2.93	100
	7	77.8	0.22	12.1	1.29	0.01	1.26	0.27	4.15	2.83	100
	8	77.9	0.21	12.1	1.26	0.03	1.28	0.23	4.12	2.95	100
	9	77.7	0.28	12.2	1.30	0.04	1.26	0.24	3.94	3.04	100
	10	78.1	0.27	11.9	1.26	0.11	1.22	0.22	4.04	2.85	100
	11	77.9	0.29	12.1	1.24	0.01	1.26	0.19	4.08	2.99	100
	12	77.2	0.28	12.0	1.62	0.06	1.58	0.54	3.89	2.76	100
	13	78.5	0.23	12.0	1.15	0.04	0.89	0.17	4.02	2.99	100
	14	77.7	0.27	12.1	1.27	0.07	1.35	0.25	4.07	2.93	100
	15	77.8	0.26	12.3	1.21	0.06	1.27	0.21	4.05	2.88	100
	16	77.6	0.34	12.2	1.39	0.03	1.24	0.24	4.16	2.89	100
	17	77.4	0.33	12.3	1.44	0.01	1.37	0.30	4.06	2.80	100
	18	78.5	0.26	11.9	1.10	0.04	1.16	0.18	3.97	2.85	100
	19	78.0	0.32	12.0	1.28	0.02	1.28	0.22	4.02	2.85	100
	Average	77.9	0.28	12.1	1.29	0.05	1.25	0.23	4.04	2.92	100.0
	SDV	0.3	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0

無水に換算.

表５　人見西向原遺跡のテフラと指標テフラに含まれる火山ガラスの主成分化学分析

地点・試料・テフラ	SiO2	TiO2	Al2O3	FeO	MnO	CaO	MgO	Na2O	K2O	P2O5	文献
人見西向原遺跡B-Ⅰ区西壁・軽石	77.90	0.28	12.10	1.29	0.05	1.25	0.23	4.04	2.92		1
浅間草津（As-K）	78.45	0.29	12.00	1.42	0.10	1.36	0.24	3.72	2.42	0.00	2
浅間板鼻黄色（As-YP）	76.28	0.35	13.12	1.56	0.13	1.76	0.36	4.06	2.34	0.04	2
浅間大窪沢２（As-Ok2）	77.34	0.31	12.61	1.37	0.07	1.48	0.27	3.61	2.90	0.04	3
浅間大窪沢１（As-Ok1）	77.67	0.25	12.29	1.30	0.04	1.32	0.24	3.91	2.95	0.03	3
浅間白糸（As-Sr）	76.02	0.32	13.13	1.59	0.05	1.74	0.35	3.88	2.89	0.03	3
浅間萩生（As-Hg）	77.74	0.24	12.49	0.92	0.05	0.99	0.16	3.62	3.75	0.04	3
	77.04	0.39	11.51	2.05	0.12	0.94	0.98	3.30	3.57	0.10	
	76.20	0.66	11.94	3.15	0.18	0.70	0.18	3.10	3.89	0.00	
	71.64	0.14	17.05	0.90	0.00	2.66	0.13	4.54	2.86	0.08	
	77.67	0.15	11.98	1.02	0.09	0.87	0.11	3.62	4.36	0.13	
	79.88	0.25	10.77	1.07	0.01	0.14	0.53	2.72	4.55	0.08	
浅間板鼻褐色（群）（As-BP Group）	76.95	0.30	12.66	1.54	0.12	1.87	0.33	3.70	2.48	0.05	2

無水に換算．１：本文献，２：奥村（1988），３：早田・八木・伴・加部（未公表資料）．

*1　いずれも放射性炭素（^{14}C）年代．ATおよびAs-YPの暦年較正年代は，約2.8～3.0年前と約1.5～1.65万年前と考えられている（町田・新井，2003）。本地域における後期旧石器時代の指標テフラの年代推定に関する諸問題については、関口ほか（2011）に詳しい。

文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.

池田晃子・奥野　充・中村俊夫・小林哲夫（1995）南九州，姶良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器^{14}年代．第四紀研究，34，p.377-379.

町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義－．科学，46，p.339-347.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．東京大学出版会，336p.

松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗（1987）姶良Tn火山灰（AT）の^{14}C年代．第四紀研究，26，p.79-83.

森山昭雄（1972）榛名火山東・南山麓の地形－とくに軽石流の地形について．地理学報告，no.36・37，p.107-116.

村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村　真・安田尚登・平　朝彦（1993）四国沖ピストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討－タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の^{14}C年代．地質雑，99，　p.787-798.

中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦（1984）浅間火山，黒班～前掛期のテフラ層序．日本第四紀学会講演要旨集，no.14，p.69-70.

関口博幸・早田　勉・下岡順直（2011）群馬の旧石器編年のための基礎的研究－関東地方北西部における石器群の出土層位、テフラ層序、数値年代の整理と検討－．群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要，29，p.1-20.

早田　勉（1995）テフラからさぐる浅間山の活動史．御代田町誌編纂委員会編「御代田町誌自然編」，p.22-43.

早田　勉(1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第１テフラより上位のテフラについて－．名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，７，p.256-267.

早田　勉（2010）更新世堆積物とテフラ.稲田孝司・佐藤宏之編「講座日本の考古学１　旧石器時代上」，青木書店，p.77-102.

町田　洋・新井房夫（2003）「新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺」，東京大学出版会，336p.

町田　洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫（2003）テフラと日本考古学－考古学研究に関係するテフラのカタログ－．古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」，p.865-928.

4　人見西向原遺跡の植物珪酸体分析

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO_2）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。

２．試料

分析試料は、人見西向原遺跡B-Ⅰ区西壁24C杭北１m地点から採取された計３点である。試料採取層

位を分析結果の柱状図に示す。

3．分析方法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて次の手順で行った。

1）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）。

2）試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（0.1mgの精度で秤量）。

3）電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理。

4）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散。

5）沈底法による20μm以下の微粒子除去。

6）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。

7）検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山，2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4．分析結果

（1）分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕　ウシクサ族A（チガヤ属など）

〔イネ科－タケ亜科〕　チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科－その他〕　表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕　その他

（2）植物珪酸体の検出状況

Ⅶb層（試料4および試料3）では、ミヤコザサ節型が多量に検出され、チマキザサ節型も比較的多く検出された。Ⅶa層（試料1）ではウシクサ族Aが出現し、チマキザサ節型は大幅に減少している。おもな分類群の推定生産量によると、各層準ともミヤコザサ節型が優勢であり、Ⅶb層ではチマキザサ節型も比較的多くなっている。

5．植物珪酸体分析から推定される植生と環境

Ⅶb層からⅦa層にかけては、ササ属（おもにミヤコザサ節）などの笹類が繁茂するような状況であったと考えられ、Ⅶb層の時期にはササ属のチマキザサ節も比較的多く見られたと推定される。

タケ亜科のうち、メダケ属は温暖、ササ属は寒冷の指標とされており、メダケ率（両者の推定生産量

の比率）の変遷は、地球規模の氷期－間氷期サイクルの変動と一致することが知られている（杉山・早田，1996，杉山，2001）。また、ササ属のうちチマキザサ節やチシマザサ節は日本海側の寒冷地などに広く分布しており、積雪に対する適応性が高いが、ミヤコザサ節は太平洋側の積雪の少ない比較的乾燥したところに分布している（室井，1960，鈴木，1978）。これらのことから、当時は寒冷で積雪（降水量）の少ない比較的乾燥した環境であったと推定されるが、Ⅶb層の時期はⅦa層よりも相対的に積雪量が多かった可能性が考えられる。

ササ属は常緑であることから、大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけてはシカなどの草食動物の重要な食物となっている（高槻，1992）。遺跡周辺にこれらの笹類が豊富に存在したことは、当時の動物相を考える上でも重要と考えられる。

文献

杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，p.70-83.

杉山真二・早田勉（1996）植物珪酸体分析による遺跡周辺の古環境推定（第３報）．－宮城県高森遺跡周辺における約50万年間の気候変動－．日本文化財科学会第13回大会研究発表要旨集，p.68-69.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.

杉山真二（2001）テフラと植物珪酸体分析．月刊地球，23：645-650.

鈴木貞雄（1996）タケ科植物の概説．日本タケ科植物図鑑．聚海書林．8-27.

高槻成紀（1992）北に生きるシカたち－シカ、ササそして雪をめぐる生態学－．どうぶつ社.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

室井　綽（1960）竹笹の生態を中心とした分布．富士竹類植物園報告，5，p.103-121.

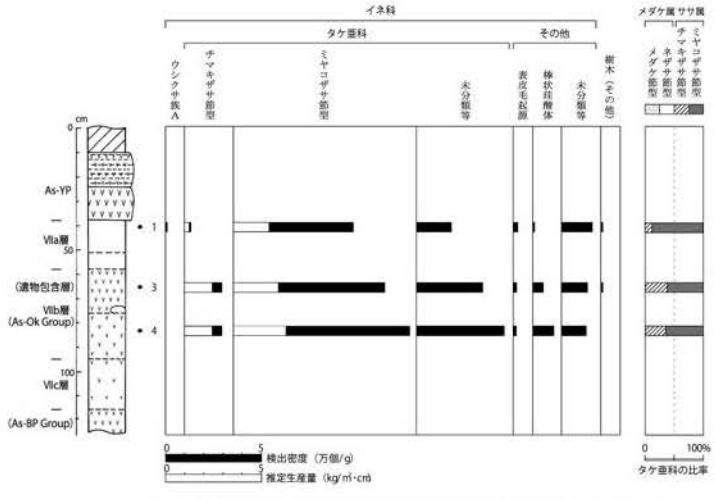


図１　人見西向原遺跡B-Ⅰ区西壁24-C杭地点の植物珪酸体分析結果

表１　植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

地点・試料		24-C杭北１m		
分類群	学名	1	3	4
イネ科	Gramineae			
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	7		
タケ亜科	Bambusoideae			
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	34	200	200
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	635	801	934
未分類等	Others	179	341	454
その他のイネ科	Others			
表皮毛起源	Husk hair origin	21	15	13
棒状珪酸体	Rodshaped	7	52	107
未分類等	Others	159	134	127
樹木起源	Arboreal			
その他	Others	7	7	
植物珪酸体総数	Total	1049	1550	1836

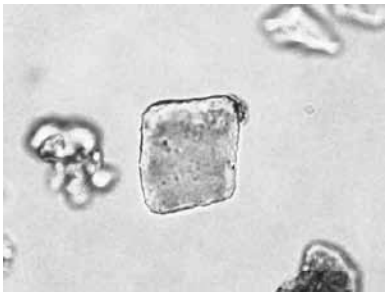
おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡･cm）：試料の仮比重を1.0と仮定

チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	0.26	1.50	1.50
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	1.90	2.40	2.80

タケ亜科の比率（%）

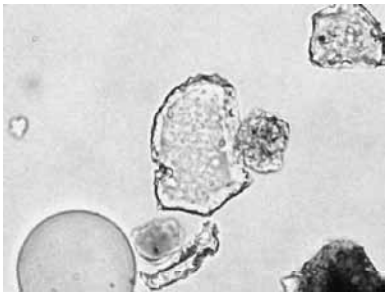
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	12	38	35
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	88	62	65
メダケ率	Medake ratio	0	0	0

植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

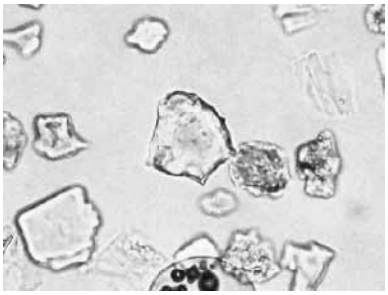


ウシクサ族Ａ

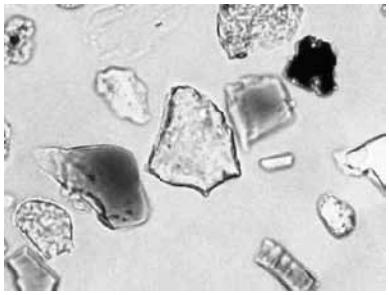
チマキザサ節型



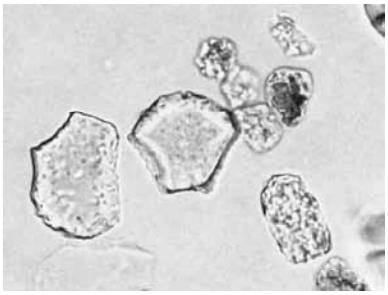
チマキザサ節型



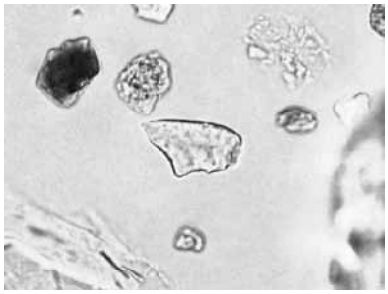
ミヤコザサ節型



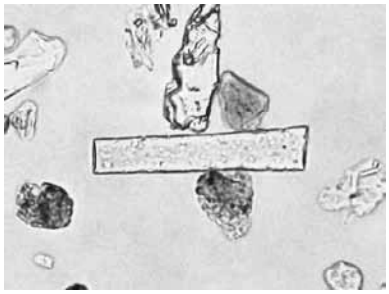
ミヤコザサ節型



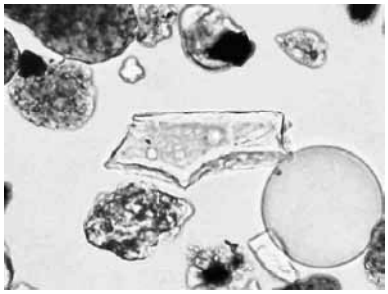
ミヤコザサ節型



表皮毛起源



棒状珪酸体



樹木（その他）

50μm

5　黒曜石産地分析

1．はじめに

安中市西横野東部地区遺跡群より出土した黒曜石資料の産地分析を実施したので、その方法と得られた結果について報告する。

2．黒曜石の産地分析

2－1．資料（試料）

産地分析に供した資料は、人見東原Ⅱ遺跡（N１）・人見東中原遺跡（N７）・人見西中原遺跡（N９）より出土・回収された黒曜石資料59点である。調査所見よりいずれの資料も縄文時代中期加曽利EⅢ式期に帰属するものと考えられる。

各資料の器種等を、第２表に示した。本資料に係る考古学的情報等については、安中市教育委員会井上慎也氏の全面的なご教示・ご協力を得た。

2－2．産地分析の方法

産地分析に用いる各元素の測定には、エネルギー分散型蛍光X線分析（非破壊法）を用いた。測定条件を以下に示す。

分析装置：セイコーインスツルメント製エネルギー分散型蛍光X線分析装置SEA-5120S、線源ターゲット：モリブデン（Mo）管球、電圧：45kV、X線照射径：φ1.8mm、測定雰囲気：大気、測定時間：100秒、定量分析の計算法：FP法、標準試料：なし

黒曜石の主成分元素であるケイ素（Si）、チタン（Ti）、アルミニウム（Al）、鉄（Fe）、マグネシウム（Mg）、カルシウム（Ca）、ナトリウム（Na）、カリウム（K）の8元素のうち、Fe、Ca、Kの3元素は、黒曜石の産地間の識別・分類に特に有効であり、産地分析の指標元素となる。筆者らはこれら3元素と、これらと挙動に相関性のある微量成分元素であるマンガン（Mn）、ストロンチウム（Sr）、ルビジウム（Rb）を加えた６元素による検討が東日本の黒曜石の産地分析に有効であることを示してきた。本研究においても、この6元素の測定をおこなった。

測定に際しては機器に備えられたCCDカメラの画像観察により、X線照射範囲（分析範囲）をなるべく平滑かつ（原礫面等でない）新鮮な面とすることを心がけた。

産地分析のための基準資料として、東日本の代表的な黒曜石産地に島根県隠岐を加え、北海道白滝・置戸・十勝三股・赤井川、青森県小泊・出来島・鶴ヶ坂・深浦、岩手県雫石・折居・花泉、秋田県金ヶ崎・脇本、宮城県湯の倉・色麻・秋保、山形県月山、新潟県板山・上石川・佐渡、栃木県高原山・日光、長野県小深沢・男女倉・星ヶ塔・麦草峠、神奈川県畑宿、静岡県上多賀・柏峠、東京都神津島（恩馳島）、島根県隠岐（久見）の各産地黒曜石を使用した。各産地黒曜石の分析値（代表値）を第１表に示した。

産地分析は、先の６元素の測定の結果をもとに、最遠距離法によるクラスター分析を実施し、分析資料（1点ずつ）と産地資料群の併合距離と、分析資料（遺跡ごとに分析に供した全点）と産地資料群の併合距離を検討し、産地資料と分析資料の類似性（非類似性）を検討した。クラスター分析には、IB

M社製SPSS Statistics 20を用いた。

２－３．産地分析の結果

第2表に6元素組成（岩石学の慣例に従い酸化物の形で表記、以下同様）を示した。また、個々の分析資料と産地資料群の分析値をクラスター分析した結果、最も類似性の高い（非類似性の低い）産地資料との併合距離（以下、産地資料との併合距離をいう）とその産地も第2表に示した。

本研究により得られた西横野東部地区遺跡群（Ｎ１・Ｎ７・Ｎ９）の黒曜石産地の構成は、星ヶ塔産49点、小深沢産7点、神津島産1点、不明1点と推定された。

謝辞

本分析を進めるにあたり多くのご教示・ご協力をいただいた安中市教育委員会井上慎也氏に御礼申し上げます。大工原豊氏にはいつもながら多くのご教示・ご協力をいただいております。御礼申し上げます。

黒曜石産地分析を実施するにあたり、東京学芸大学文化財科学研究室が所有する各産地黒曜石とともに、國學院大學博物館所有の「吉谷昭彦博士寄贈黒曜岩資料」（國學院大學研究開発推進機構考古学資料館編2008）のうち北海道・東北地域の産地黒曜石を基準資料として利用させていただきました。吉谷昭彦博士および、吉田恵二館長・内川隆志准教授をはじめとする國學院大學の皆様に厚く御礼申し上げます。

参考文献

國學院大學研究開発推進機構考古学資料館編　2008『國學院大學考古学資料館要覧2007　吉谷昭彦博士寄贈黒曜岩資料』國學院大學研究開発推進機構考古学資料館

第１表　東日本の主な産地黒曜石の６元素組成
（６元素の酸化物の総和を100としたときの百分率）

都道府県	産地	MnO	Fe2O3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O
北海道	白滝	1.5	38.9	0.2	11.8	1.0	46.7
	置戸	1.3	37.6	0.4	18.2	0.9	41.7
	十勝三股	1.6	36.1	0.3	16.6	1.0	44.4
	赤井川	1.5	36.2	0.3	18.0	0.8	43.1
青森	小泊	0.9	38.4	0.4	20.8	0.9	38.7
	出来島	4.9	32.7	0.7	19.6	0.6	41.4
	鶴ヶ坂	1.7	36.6	0.4	15.1	1.0	45.2
	深浦	1.4	55.9	0.0	4.1	0.6	37.9
岩手	雫石	2.0	44.9	0.6	23.1	0.5	28.8
	折居	2.0	45.7	0.6	20.6	0.6	30.5
	花泉	2.1	45.7	0.6	22.3	0.5	28.7
秋田	金ヶ崎	1.9	39.1	2.1	26.9	0.6	29.4
	脇本	5.4	24.1	0.5	22.3	1.1	46.6
宮城	湯の倉	1.9	56.0	1.0	27.3	0.2	13.6
	色麻	3.8	55.3	1.1	24.3	0.2	15.2
	秋保	2.3	58.4	0.9	29.0	0.2	9.3
山形	月山	4.3	30.0	0.6	17.4	0.8	46.8
新潟	板山	3.3	29.0	0.4	17.7	1.1	48.5
	上石川	1.7	34.5	0.6	19.9	0.9	42.4
	佐渡	0.9	36.7	0.3	14.7	1.1	46.3
栃木	高原山	1.4	48.5	0.6	20.7	0.6	28.2
	日光	1.7	62.1	0.8	27.5	0.1	7.8
長野	小深沢	3.7	28.2	0.1	14.7	1.8	51.5
	男女倉	2.5	32.0	0.4	16.1	1.0	48.0
	星ヶ塔	3.1	27.3	0.2	13.8	0.9	54.6
	麦草峠	1.6	33.8	0.7	17.2	0.6	46.0
神奈川	畑宿	2.4	61.4	1.0	23.9	0.1	11.3
静岡	上多賀	1.7	53.1	0.9	24.2	0.2	19.9
	柏峠	1.4	51.1	0.6	24.0	0.3	22.7
東京	神津島	3.2	33.8	0.5	19.1	0.6	42.8
島根	隠岐	1.6	45.1	0.0	10.2	1.1	42.1

第２表　西横野東部地区遺跡群出土黒曜石資料の産地分析結果
（６元素の酸化物の総和を100とした際の百分率）

人見東原Ⅱ遺跡（Ｎ１）

分析№	資料№	帰属時期	器種等	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb2O	K2O	産地	併合距離
1	AT4	加曽利ＥⅢ式期	石核A	2.9	25.2	0.3	15.5	1.0	55.2	星ヶ塔	0.005
2	AT12	加曽利ＥⅢ式期	石鏃Ⅰ	3.1	33.0	0.6	22.1	0.5	40.7	神津島	0.013
3	AT21	加曽利ＥⅢ式期	原石A	3.5	26.2	0.3	13.0	1.1	56.0	星ヶ塔	0.014
4	AT22	加曽利ＥⅢ式期	石鏃Ⅰ	3.4	25.4	0.2	15.7	1.1	54.2	星ヶ塔	0.014
5	AT23	加曽利ＥⅢ式期	石鏃Ⅰ	3.4	24.8	0.2	16.0	0.9	54.7	星ヶ塔	0.005
6	AT24	加曽利ＥⅢ式期	石鏃Ⅰ	2.9	25.4	0.3	16.0	0.9	54.5	星ヶ塔	0.005
7	AT38	加曽利ＥⅢ式期	ScA	3.1	26.0	0.3	13.5	1.1	56.0	星ヶ塔	0.009
8	AT39	加曽利ＥⅢ式期	楔	3.1	25.7	0.3	13.3	1.0	56.6	星ヶ塔	0.003
9	AT40	加曽利ＥⅢ式期	石鏃Ⅰ	3.1	24.1	0.3	15.1	1.0	56.5	星ヶ塔	0.005
10	AT41	加曽利ＥⅢ式期	石鏃Ⅰ	4.5	24.9	0.0	15.0	2.0	53.6	小深沢	0.052
11	AT42	加曽利ＥⅢ式期	楔	3.3	25.6	0.4	14.2	1.2	55.4	星ヶ塔	0.061
12	AT43	加曽利ＥⅢ式期	楔	3.6	24.7	0.3	15.8	1.0	54.6	星ヶ塔	0.014
13	AT44	加曽利ＥⅢ式期	楔	3.3	25.4	0.4	15.2	1.1	54.6	星ヶ塔	0.016
14	AT45	加曽利ＥⅢ式期	楔	1.9	16.6	0.2	11.5	0.7	69.2	不明	
15	AT46	加曽利ＥⅢ式期	ScA	3.2	26.0	0.3	13.4	1.0	56.3	星ヶ塔	0.003
16	AT47	加曽利ＥⅢ式期	楔	3.0	26.1	0.5	14.5	1.3	54.7	星ヶ塔	0.107
17	AT48	加曽利ＥⅢ式期	楔	3.7	24.3	0.4	15.6	1.0	55.1	星ヶ塔	0.044
18	AT49	加曽利ＥⅢ式期	石鏃	3.3	24.7	0.2	16.3	1.0	54.4	星ヶ塔	0.009
19	AT50	加曽利ＥⅢ式期	原石A	3.0	25.5	0.3	14.5	1.1	55.7	星ヶ塔	0.009
20	AT51	加曽利ＥⅢ式期	楔	3.5	26.0	0.3	13.5	0.9	55.8	星ヶ塔	0.004

人見東中原遺跡（Ｎ７）

分析№	資料№	帰属時期	器種等	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb2O	K2O	産地	併合距離
21	AT28	加曽利ＥⅢ式期	ScA	2.4	24.2	0.3	17.2	0.9	55.0	星ヶ塔	0.061
22	AT39	加曽利ＥⅢ式期	原石A	3.6	30.5	0.0	14.8	1.7	49.4	小深沢	0.004
23	AT41	加曽利ＥⅢ式期	原石A	3.0	27.1	0.3	16.2	1.0	52.3	星ヶ塔	0.009
24	AT45	加曽利ＥⅢ式期	石核A	3.6	28.1	0.0	13.0	1.7	53.6	小深沢	0.005
25	AT46	加曽利ＥⅢ式期	楔	2.8	25.6	0.3	14.6	1.0	55.8	星ヶ塔	0.005

人見西中原遺跡（Ｎ９）

分析№	資料№	帰属時期	器種等	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb2O	K2O	産地	併合距離
26	AT2	加曽利ＥⅢ式期	石核A	3.5	25.2	0.3	16.1	1.0	54.0	星ヶ塔	0.014
27	AT7	加曽利ＥⅢ式期	石鏃	4.0	26.0	0.0	14.6	2.1	53.3	小深沢	0.014
28	AT10	加曽利ＥⅢ式期	石鏃	3.1	25.7	0.3	15.4	1.1	54.4	星ヶ塔	0.013
29	AT19	加曽利ＥⅢ式期	石核A	4.3	25.9	0.0	13.6	2.1	54.1	小深沢	0.058
30	AT20	加曽利ＥⅢ式期	原石A	3.2	25.1	0.3	14.8	1.0	55.6	星ヶ塔	0.004
31	AT21	加曽利ＥⅢ式期	石核A	3.3	25.0	0.2	15.2	1.0	55.3	星ヶ塔	0.004
32	AT22	加曽利ＥⅢ式期	石核A	3.8	25.8	0.0	14.6	2.0	53.9	小深沢	0.008
33	AT23	加曽利ＥⅢ式期	石核A	3.3	26.1	0.3	13.4	0.9	56.0	星ヶ塔	0.001
34	AT24	加曽利ＥⅢ式期	石鏃Ⅰ	2.9	23.6	0.1	13.6	1.3	58.5	星ヶ塔	0.106

人見東原Ⅱ遺跡（未報告分）

分析№	資料№	帰属時期	器種等	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb2O	K2O	産地	併合距離
35		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.0	25.0	0.0	14.7	1.0	56.3	星ヶ塔	0.009
36		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.0	25.3	0.2	16.2	1.8	53.5	小深沢	0.016
37		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.2	24.8	0.2	16.6	1.0	54.2	星ヶ塔	0.009
38		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	2.4	19.9	0.1	13.0	1.4	63.2	不明	
39		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.1	24.9	0.3	14.9	1.0	55.7	星ヶ塔	0.005
40		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.5	24.5	0.4	16.1	1.1	54.5	星ヶ塔	0.014
41		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.5	24.0	0.2	14.5	1.0	56.8	星ヶ塔	0.008
42		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.4	25.5	0.2	13.7	0.9	56.3	星ヶ塔	0.001
43		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.5	25.8	0.3	15.5	1.2	53.8	星ヶ塔	0.015
44		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.0	25.9	0.2	14.4	0.9	55.6	星ヶ塔	0.000
45		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.2	25.8	0.2	15.7	1.0	54.1	星ヶ塔	0.004
46		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.1	26.2	0.2	14.5	1.0	55.1	星ヶ塔	0.001
47		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.3	25.8	0.0	16.6	0.9	53.4	星ヶ塔	0.014
48		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.1	24.9	0.0	18.2	1.0	52.8	星ヶ塔	0.089
49		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.3	24.9	0.3	15.5	1.0	55.0	星ヶ塔	0.005
50		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.2	25.3	0.3	13.2	1.0	57.1	星ヶ塔	0.004
51		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.5	24.4	0.3	16.4	0.9	54.6	星ヶ塔	0.014
52		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.2	24.7	0.3	15.9	0.9	55.1	星ヶ塔	0.005
53		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.3	25.5	0.3	13.8	0.9	56.3	星ヶ塔	0.001
54		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.1	26.2	0.3	13.4	0.9	56.2	星ヶ塔	0.001
55		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.4	25.6	0.3	13.5	1.0	56.2	星ヶ塔	0.005
56		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.1	25.5	0.2	14.9	1.0	55.2	星ヶ塔	0.001
57		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.3	25.4	0.3	14.7	1.0	55.2	星ヶ塔	0.005
58		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.2	24.4	0.2	15.3	0.9	56.1	星ヶ塔	0.002
59		加曽利ＥⅢ式期	剝片類	3.5	24.4	0.1	14.0	1.0	57.0	星ヶ塔	0.009

Ⅷ　成果と問題点

1　縄文時代の成果と問題点

（1）中期後葉の土器群について

西横野東部地区遺跡群では中期後葉の住居跡が多量に検出され、台地の南縁に位置する富岡市下高田原Ⅳ遺跡（永井 2011）において加曽利ＥⅠ・Ⅱ式期の住居跡が数軒調査されているものの、大多数は後半期の加曽利ＥⅢ・Ⅳ式期に帰属する。特に、人見枝谷津遺跡Ｊ－13 号住居跡、人見東向原遺跡Ｊ－３・５・８号住居跡、人見西中原遺跡Ｊ－７号住居跡などで良好な一括資料が検出されている。本章では主体的に出土した加曽利ＥⅢ式期の土器群を中心として検討していきたい。

１．本遺跡群における加曽利ＥⅢ式期の分類

第１～３図は西横野東部地区遺跡群において検出された加曽利ＥⅢ式（第１～３図１～59）･Ⅳ式（第３図 60 ～ 65）期の代表的な土器を集成したものである。以下では主要な加曽利ＥⅢ式の様相を把握するため、器種組成や深鉢においては文様構成を踏まえて分類する。

Ⅰ類：口縁部文様帯を有し、胴部に懸垂文を施す深鉢（１～ 11・17 ～ 23）。

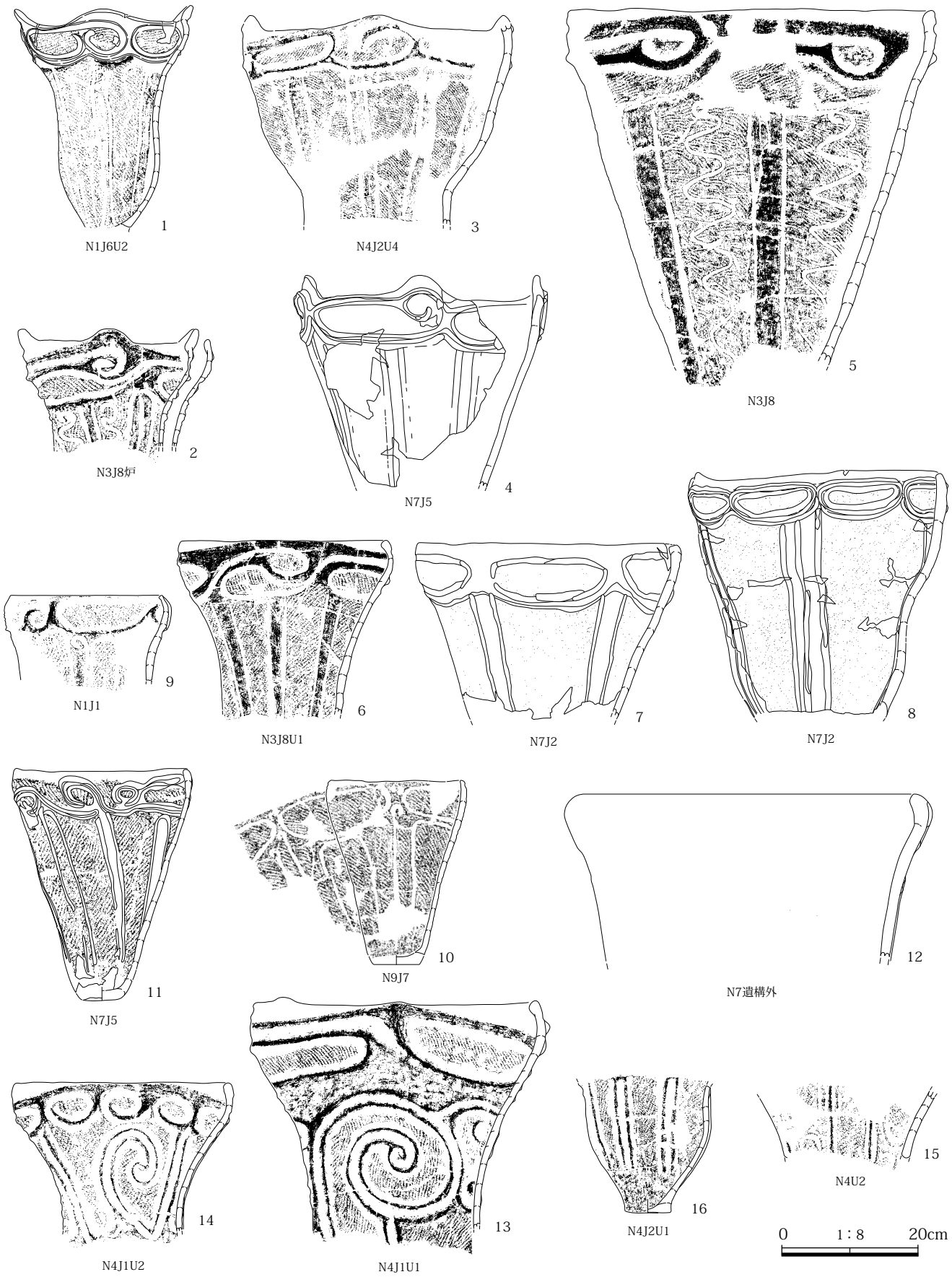
加曽利ＥⅢ式の典型的な類型で、本遺跡群の主体を構成するものである。口縁部を粗大な隆帯で渦巻状および楕円状に区画しており、中部地方の土器群のような口唇下の無文域を有さない。胴部には沈線による懸垂文を施して、磨消縄文帯を配する。多くの個体は口縁部と胴部の境が不明瞭になっており、渦巻文の区画文化と併せて新相を現わしている。懸垂文には２条１対ないし３条１対の沈線が直線的に垂下するもの（１～８・17 ～ 19・21）や逆Ｕ字状を呈するもの（９～ 11・20）が混在する。また、蕨手状ないし蛇行する垂下文を伴う事例が多い。振幅の大きい蛇行垂下文（２・５）は中部地方の影響が予想される。これらの土器には地文に縄文（１～ 11）や条線文（17 ～ 23）を使用するものがあり、後者は中部地方を主な分布圏とする土器群の慣行である。条線文には直線（17 ～ 20）、曲線（21･22）、ハ字状（23）を呈するものが見受けられ、直線的なものが多く、ハ字状沈線文は極めて少ない。

Ⅱ類：口縁部文様帯を有し、隆帯による渦巻文等を施す深鉢（12 ～ 16）。

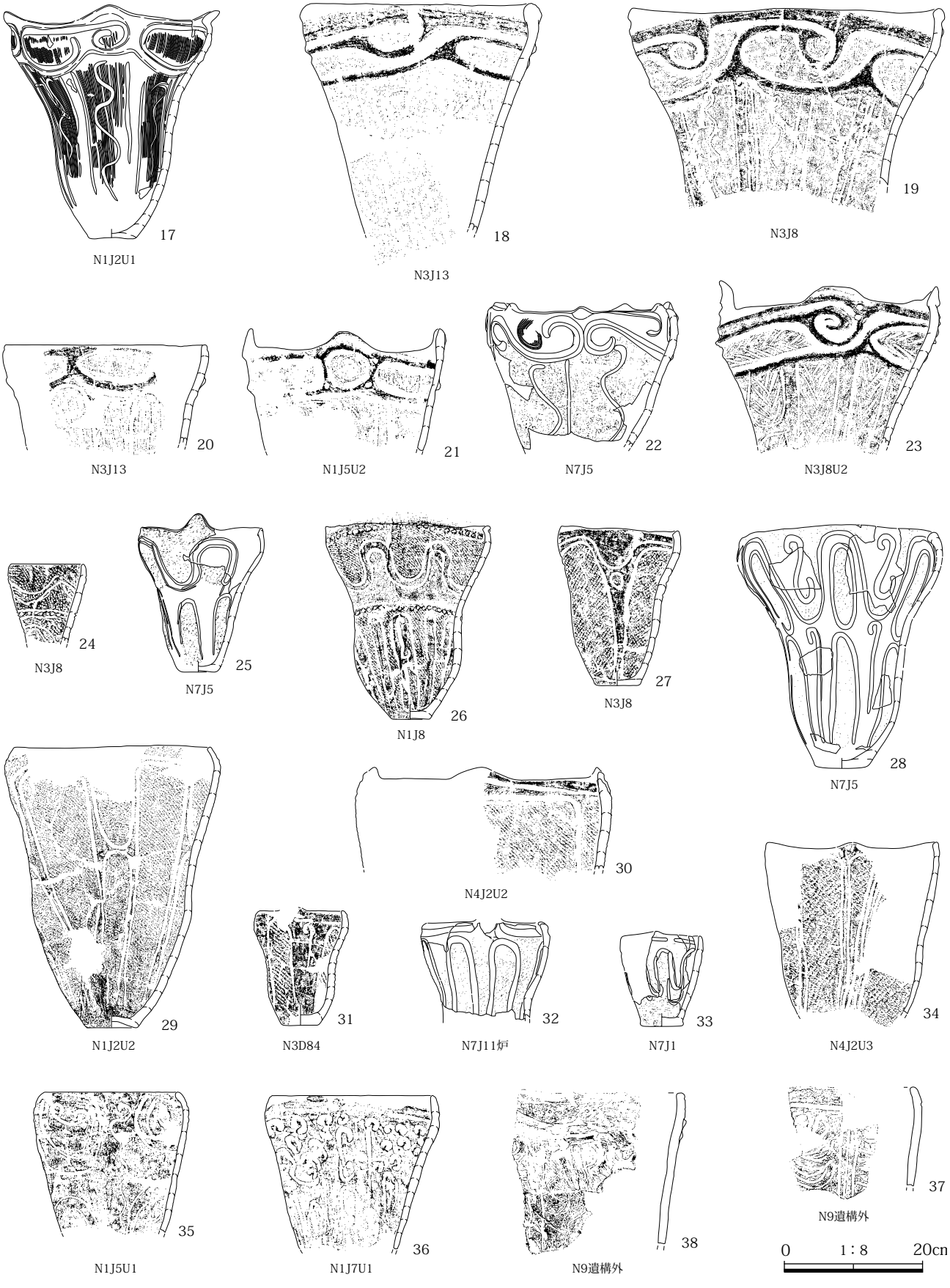
口縁部にはⅠ類と同様の文様を配し、胴部の文様を隆帯によって描出するもので、「梶山タイプ」（稲田 1990）や「胴部隆帯文系土器」（石坂ほか 1988）などと呼称されている。加曽利ＥⅡ式期に大木８ｂ式の影響を受けて成立したものとされ、大形の渦巻文を特徴とする。加えて、14 の口縁部には中部地方に分布する多連渦巻文が採用されていた。本遺跡群の事例は古相の小型渦巻文を伴わない。また、新相に至ると口縁部文様帯が消失する傾向にあるが、全容が分かる個体においてはいずれも口縁部文様帯を有している。Ⅰ類では頸部無文帯の消失したものが一般的であることに対して、Ⅱ類では残存するものがあり（12・13）古い慣行が残る傾向にある。また、地文も縄文に限られている。

Ⅲ類：連弧文系土器（24 ～ 26）

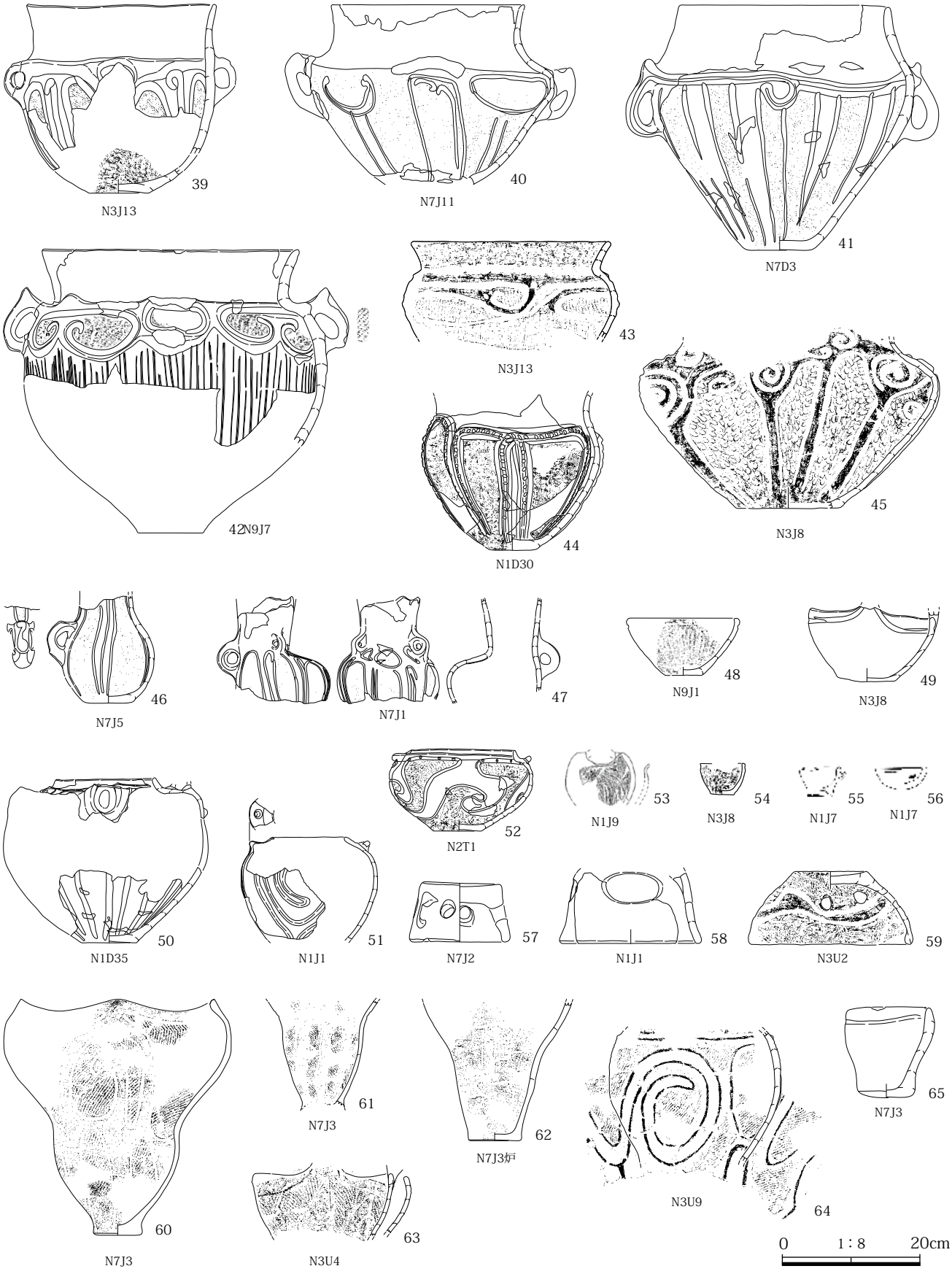
沈線による連続弧状文を特徴とする深鉢である。口唇下や胴部の屈曲部に横位区画や連続刺突文を施すことが多い。加曽利ＥⅡ式新段階から加曽利ＥⅢ式古段階に隆盛する。本地区における当該資料は非常に少ない（24 ～ 26）。また、形骸化が著しく、連続弧状文は波状文化しているものばかりである。Ⅰ類ないしⅣ類との折衷も頻繁で、胴部に逆Ｕ字状の区画を配するものが目立つ (25・26)。



第１図　西横野東部地区遺跡群における中期後葉の土器（１）



第２図　西横野東部地区遺跡群における中期後葉の土器（２）



第３図　西横野東部地区遺跡群における中期後葉の土器（３）

Ⅳ類：吉井城山類（27・28・29）

口縁部文様帯がなく、連続するU字文や逆U字文を組み合わせる深鉢で（谷井ほか 1996）、加曽利ＥⅢ式の後半に派生・普及する。本遺跡群における当該資料は少ない（27・28・29）。口縁部の消失は加曽利ＥⅣ式へと続く新相に位置づけられるが、人見東中原遺跡Ｊ－５号住居跡では典型的な加曽利ＥⅢ式であるＩ類と伴出している。

Ⅴ類：Ｔ字状文土器（30 ～ 34）

口縁部文様帯が全く見られないか、１～２条の沈線を口唇下に巡らせる深鉢である。口縁部の横位沈線文を特徴とする連弧文系土器から派生したものと指摘されているが (戸田 1998)、当の連弧文系土器より多く検出されている。また、その文様構成から曽利Ⅳ式との関係も示されているが、本遺跡群では希薄であり、北・中信地域の郷土式や唐草文系土器などとの関係を考慮する必要があろう。

Ⅵ類：簡素化された土器群（35 ～ 38）

沈線で不明確な文様が施されるものを一括した（35 ～ 38）。35 は２条１対の沈線を対弧状に施すものである。弧線を互い違いに配すⅣ類の吉井城山類とは異なるようである。判断は難しいものの、郷土式に見受けられる田字状文が崩れたものと予想されよう。36 は口唇下を沈線により横位区画し、胴部に多量の蕨手文や小型の勾玉文を充填するものである。文様構成はⅤ類に類似するが、その文様要素から中部地方の強い影響が予想される。胴部下半に曲線的な条線文が施されることから、鉢として製作された可能性も考慮する必要がある。37 も 36 と同様の口縁部区画を擁し、胴部の懸垂文間には曲線的な沈線が配されている。郷土式の形骸化したものである可能性が想起される。38 は隆帯で口縁部を区画し、区画内を縄文の替わりに刺突で満たす。胴部には懸垂文や蛇行垂下文および条線文が乱雑に施されており、条線地文を持つＩ類の崩れたものと推測される。

Ⅶ類：壺（39 ～ 47）

39 ～ 45 は両耳把手壺で、胴部上端に１対の把手を取り付けるものである。ただし、42 は４単位の把手を具え、43 は把手を持たない。一般に、胴部上端にはⅠ・Ⅱ類の深鉢口縁部に使用される楕円状・渦巻状の区画を、胴部下半にはＩ類の懸垂文等を配し、口縁部を無文帯とする。地文に縄文を使用することが多い。42・43 の胴部下半には条線文のみが用いられており、鉢との関係が窺われる。44 は胴部をキザミ付隆帯で逆U字状に区画し、曲線的な条線文を充填する珍しい例である。キザミ付隆帯は曽利Ⅲ式が東北地方南部および関東地方北東部に拡散・変容したとされる曽利東北型土器群（戸田 2006）に見られる一方で、北・中信地域の郷土式や圧痕隆帯文土器である「坪井類型」（綿田 1999）の影響を想定しておきたい。45 も他の両耳把手壺に比して異質であるが、渦巻文や列点状の充填文は中部地方からの影響が見込まれよう。

46 は関東西部から中部地方に分布するジョッキ形土器（綿田 1997）で、１単位の把手を持ち、体部に磨消縄文帯による懸垂文を施す。口縁部は欠けているが、両耳把手壺のように無文帯が占めているものと類推される。47 は靴形土器（綿田 1997）で、一方に孕む器形を擁し、３単位の把手を作出する非常に稀有な事例である。両耳把手壺と同様の文様構成を持つ。

Ⅷ類：鉢（48 ～ 56）

埦型鉢（48・49・53 ～ 56）や有孔鍔付土器（50 ～ 52）等が組成する。埦型鉢には、口唇下に狭い文様帯区画を擁するもの（48・49）、片口を有するもの（53）、小型のもの（54 ～ 56）が見受けられる。55 には高台や橋状の把手が付く。

有孔鍔付土器も多様である。50 の詳細は不明だが、体部に懸垂文を施す。51 は瓢型を呈するもので、加

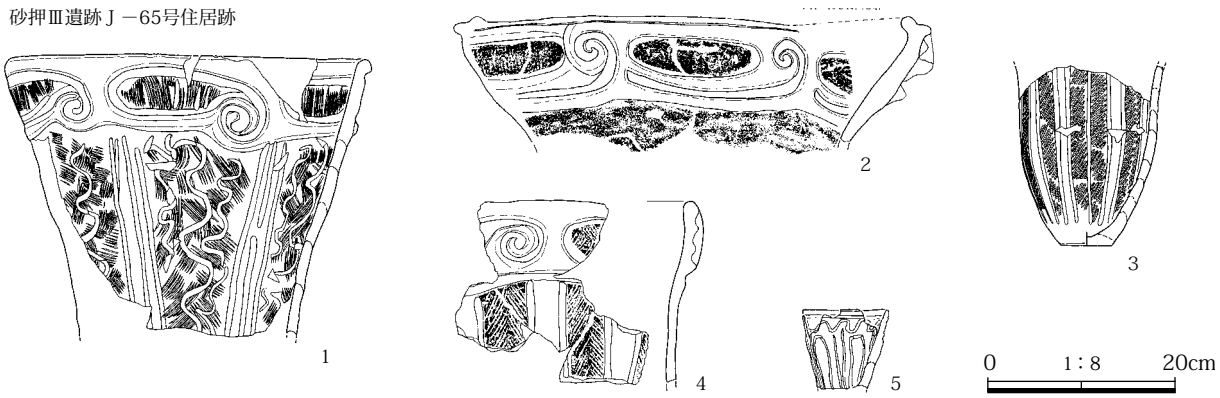
曽利ＥⅣ式から称名寺式期に盛行するものだが、人見東原Ⅱ遺跡Ｊ－１号住居跡の出土状況から当該期に比定される。52 は磨消縄文帯による渦巻文が配されるもので、当該期以降に帰属するものと推測される。

Ⅸ類：器台（57 ～ 59）

文様施文は少なく、器壁に小円状ないし楕円状の孔が穿たれる。59 は曲線的な条線文を地文とし、Ⅲ類の連弧文系土器に使用される波状文を採用するもので、特異な事例である。

２．本遺跡群における加曽利ＥⅢ式期の特徴

これらの分類を通して、本土器群は中部地方の多大な影響を受けつつも、関東地方に広がる加曽利ＥⅢ式を規範とし、収斂化してきていることが理解される。加曽利ＥⅢ式は一般的に２～３段階の時期細分が提示されており（細田 2003・2008）、その変化の方向性は、①口縁部文様帯区画の不明瞭化、②口縁部における渦巻文や楕円状区画の崩壊と渦巻文の区画文化、③口縁部文様帯の消失、④胴部懸垂文の単位文化などが指摘されている。この傾向を斟酌すると、いずれも本土器群は中～新段階の比較的短い期間に集約される。大多数を占めるⅠ類で中段階と新段階を区別することは難しいが、新段階に隆盛する口縁部文様帯が消失したⅡ類やⅣ類が少ない傾向は中段階を主体としていることを予想させる。ともあれ、同じ横野台地に立地する加曽利ＥⅢ式古段階の砂押遺跡Ｄ－ 58 号土坑（井上ほか 2004）・砂押Ⅲ遺跡Ｊ－ 65 号住居跡（井上ほか 2004）・西横野中部地区遺跡群（菅原ほか 2013）などにおいて認められる典型的な郷土式（第４図）が本遺跡群で検出されていないことは、加曽利ＥⅡ式から加曽利ＥⅢ式古段階に盛行するⅢ類が希薄であることと合わせてその傍証となる。隣接する西横野中部地区遺跡群では中期後葉を通した利用が概観されており、土器様相を含め本遺跡群と対比的に検討していくことが課題となろう。



第４図　松義台地における郷土式の様相

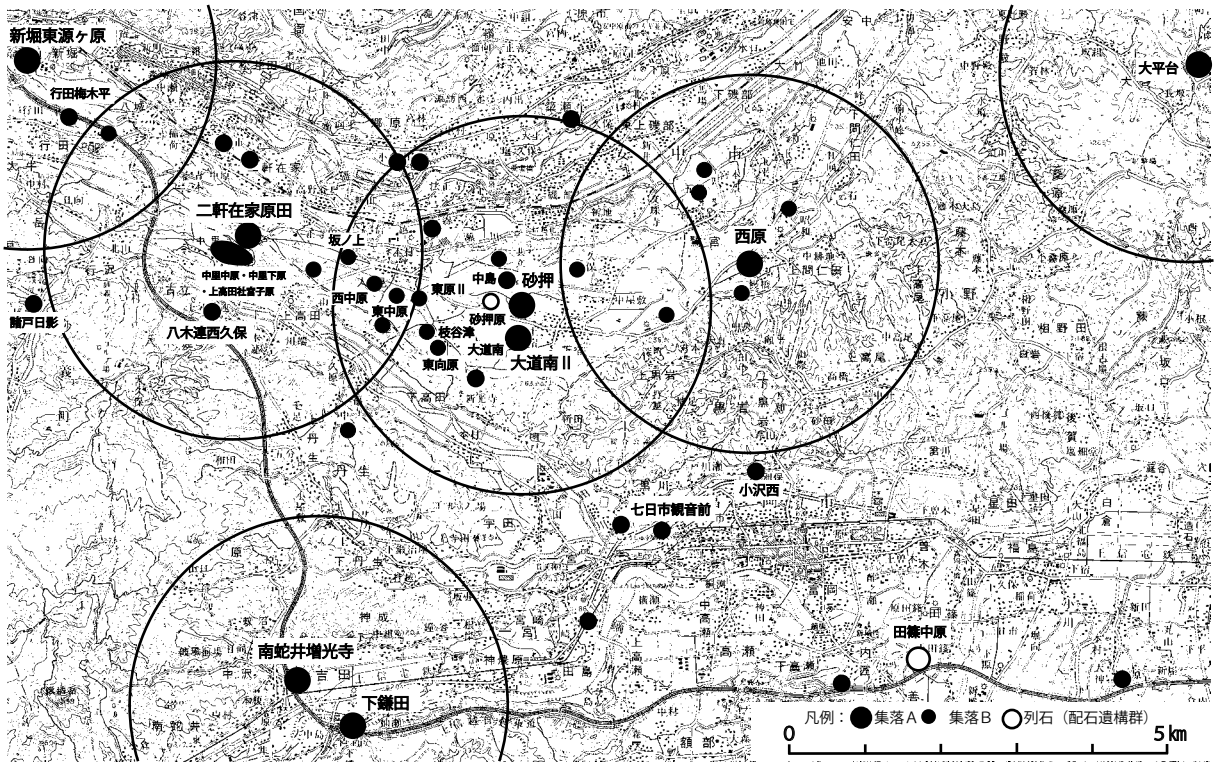
参考文献
石坂茂ほか 1988「加曽利Ｅ式土器に関する一考察 - いわゆる「胴部隆帯文土器」の系譜 -」『群馬の考古学』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
稲村晃嗣 1990「加曽利Ｅ系列の土器群」『調査研究集録』第７冊　横浜市埋蔵文化財センター
井上慎也ほか 2004『中野谷地区遺跡群２』安中市教育委員会
井上慎也ほか 2004『天神林遺跡・砂押Ⅲ遺跡・大道南遺跡・向原遺跡』安中市教育委員会
菅原龍彦ほか 2013『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報４』安中市教育委員会
谷井彪ほか 1996「関東の大木式・東北の加曽利Ｅ式」『日本考古学』２号
戸田哲也 1998「南西関東における加曽利Ｅ式末期の土器様相」『列島の考古学』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会
戸田哲也 2006「曽利Ⅲ式土器の伝播と変容」『ムラと地域の考古学』（株）同成社
永井尚寿 2011『下高田上原遺跡 下高田原Ⅳ遺跡（松木東部地区遺跡群Ⅰ）』富岡市教育委員会
細田勝 2003「南関東加曽利Ｅ式について」『中期後半の再検討』縄文セミナーの会
細田勝 2008「加曽利Ｅ式土器」『総覧縄文土器』（株）アム・プロダクション
綿田弘美 1997「長野県伊那市手良出土の靴形土器」『研究紀要』第３号　長野県立歴史館
綿田弘美 1999「千曲川水系における縄文中期末葉土器群」『縄文土器論集』縄文セミナーの会
綿田弘美 2008「郷土式・圧痕隆帯文・大木系土器」『総覧縄文土器』（株）アム・プロダクション

（２）中期後半の集落について（第５図）

本遺跡群で確認した加曽利ＥⅢ式期（中期後半）の集落の特徴と集落分布状況についてまとめたい。

中期後半の住居形態は、掘り込みが深いタイプと浅いタイプが共存する。土坑は、「貯蔵」あるいは「廃棄」目的が主体で住居の脇あるいは近接し、群集する土坑（土坑群）は認められない。墓と推定される土坑は少ないことから、居住域とは別の場所に墓域が形成されたと推定される。土坑内の出土遺物では、副葬的様相をもつ遺物、完形土器は皆無であることからも墓ではない根拠となる。集落内では、石鏃及び磨製石斧の製作が行われ、食物加工具であるＣ１類石器が多数を占めることから、狩猟採集活動が活発な居住を中心とした集落であったとものと思われる。人見東中原遺跡の集落では、居住域に隣接して、妙義山をランドマークとした弧状列石を確認した。なお、柄鏡形敷石住居址からは、器形が特徴的な壺形土器が出土していることからも、弧状列石周辺が、集団の精神活動の場であったと想定できる。

横野台地に分布する中期後半の集落は、数時期にわたって多数の住居、土坑等の遺構で構成する地域拠点的様相をもつＡ類（大規模集落）と住居等の遺構が少なく、時期が限定される小単位的様相をもつＢ類（小規模集落）に大別される。横野台地のＡ類集落は、西から新堀東源ヶ原遺跡、二軒在家原田遺跡、砂押遺跡、大道南Ⅱ遺跡、西原遺跡等で一定の領域をもつ４つの集落群が存在する。Ａ類集落は直径５㎞の領域を設定した場合、集落同士は重複しない位置関係にある。一方、Ｂ類集落は、Ａ類集落を中心として台地上の地形単位で短い間隔をもって点在し、集落数は多くなる。特に二軒在家原田遺跡と砂押遺跡の間には、Ｂ類集落が濃密に分布する。Ａ類集落は、「環状集落」として中期の特徴とされるが、Ａ類集落の中でも、Ｂ類集落と時期が重複する場合は、Ａ類集落もＢ類集落の分布の一部に含まれたものとして捉えられる。なお、Ｂ類集落は、集落間での土器型式差は少ないため、短期間に同一集団が活発に集落移動を行ったか、あるいは一定の領域内で同一集団が分散居住によって複数の集落が同時存在したかの２つの想定ができる。



第５図　横野台地周辺の縄文時代中期後半の遺跡分布

横野台地における中期集落は、前半期（勝坂・阿玉台式期）から本格的居住を開始し、後半期（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期）に至って集落が拡大し、環状集落の形成がピークを迎える。その後、加曽利ＥⅢ式期の後半を画期として、次第に環状集落は衰退し、継続性をもつ少数の集落（新堀東源ヶ原遺跡等）を除き、「集合から分散」への傾向が顕著となる。加曽利ＥⅢ式期後半の集落は、Ｂ類集落が主体となり、再び環状集落が形成されることはなくなる。後半の集落は、環状から地形に沿った弧状、列状となり、環状集落の「廃棄の場・居住域・墓域（土坑群）・広場」といった配置は崩れ始める。本遺跡群の加曽利ＥⅢ式期の集落は、人見枝谷津遺跡Ｃ区で確認した１～３軒が居住単位となって、集落を形成したものと考えられる。本遺跡群では中期後半以降、環状集落が崩壊し、小単位の集落が分散する過程を示すものとして注目される。

２　弥生時代の成果と問題点

（１）前期末～中期前半の土器群について（第１図、第１表）

出土土器の編年的位置と系統(第１図)

本調査で出土した土器の帰属時期は浮線文土器が１点も検出されていないことから、縄文時代晩期には遡らず、弥生時代前期末葉から中期中葉の範囲に絞られ、若狭編年ではⅠ－２期からⅢ－２期に相当する(若狭1996)。この中でも前期末葉の沖式(Ⅰ－２期)から中期前葉の岩櫃山式(Ⅱ期)が出土遺物の大半を占め、第１次調査で出土した再葬墓出土土器の帰属時期とも概ね合致する。中期中葉(Ⅲ期)の土器はごく少数である。平沢式期（Ⅲ－１期）の土器は明瞭でないが、28が該当しようか。また、人見西中原遺跡で地文を欠く波状文甕(30・31)が出土しており、Ⅲ－２期の「神保富士塚式」（石川2003）に相当すると考えられる。

前期末葉～中期中葉における土器群の系統は条痕文系、縄文系、条痕+縄文系に大別され、これらが当該期の土器組成を構成している。これを系統ごとに壺・甕を中心として以下に詳述する。

条痕文系の壺の中で比較的小型で胴部が球状を呈し、底部付近から膨らむ一群(5･8など)は東海系条痕文土器のつくりに比較的近い。対して中・大型の壺で長胴気味の一群は「在地型突帯文壺」ないし「中部高地型突帯文壺」と呼称される一群(設楽1985･1995)であり、底部付近がすぼまり、胴部上位に最大径を有する(3・4など)。在地型突帯文壺の口縁部には通常押捺を施した突帯がめぐるが、本調査では出土しておらず、単口縁や口唇部に指頭押捺・キザミを施すものが主体となるようである。また、この系統には丸棒状工具による沈線で羽状文を施文する一群(9・10・12)があり、縦位のものは東海地方の水神平式～岩滑式・丸子式、横位羽状条痕は大洞Ａ式以降の縄文晩期土器に系譜が辿れることが指摘されている(鈴木2003)。さらに縦位条線を充填する11は東海東部の丸子式土器の影響と考えられる。

条痕甕は沖式の変形工字文や三角連繋文が施文される有文甕が一部に見られるものの、肩部以下を全面条痕とする粗製の甕が主体である。有文甕は岩櫃山式期に器形・文様意匠が引き継がれ、胴部上半を縄文施文、下半を条痕施文とするものに変化する。粗製の甕は前期末葉のものが中心と考えられるが、形態変化は漸移的で明確に中期に下るものを示せない。また、これらの甕の中には肩部に段を有するもの(21)や口縁部に小突起を付加するもの(18)が含まれるなど浮線文系甕の要素が中期前葉まで残る。

縄文系の壺は確認できない。甕は文様構成が復元できる16をみると、変形工字文の三角形部底辺が連

結せずに独立しており、上人見遺跡１次調査出土の甕(36)と構図が類似する。一方で、沖Ⅱ遺跡（荒巻ほか1988）などで主体となる横位に連繋する変形工字文とは異なり、沈線会合部に粘土粒を持つことなど縄文晩期末葉大洞A'式～弥生前期砂沢式に近い手法がみられることから、本例は前期末葉に帰属すると判断した。岩櫃山式期では工字文以外の文様意匠が不明である。26の特殊土器の口縁部外面にみられる文様は三角連繋文からの系統が辿れ、摩消縄文手法を採用し、内面文様には工字文を施文することから、岩櫃山式期に位置づけられよう。

条痕+縄文系はきわめて少なく、小片のため型式を明確に特定できるものは確認できなかった。摩消縄文手法を採用する28は平沢式期と判断したが、条痕原体は中期前葉的であり、判然としない。小型の丸底壺29は厳密な時期は絞れないが、中野谷原遺跡(井上2004)などに類例がある。

条痕は氷Ⅰ式のように縦方向に施される細密な条痕(１など)が最も古く位置づけられ、東海系条痕文土器の影響を受け、次第に横・斜位方向の粗い条痕へと変化していく(設楽1985)。原体はハケメ状や条痕の断面がU字状になる櫛歯状工具が最も多く、中期前葉に特徴的にみられる半截竹管を使用するものは少ない。

以上の土器群は既存の土器型式の内容を大きく逸脱するものではないが、在地型の突帯文壺や有文甕が少ない点に本遺跡における土器群の特徴が表れている。

土器の器種組成

上人見遺跡で器種の判別できる97点の掲載土器の器種別内訳を第１表に示した(註1)。これを参照すると、土坑および再葬墓出土、遺物包含層出土ともに甕が約６割、壺が約３割を占め、甕が主体となる。一方、同時期の遺跡である藤岡市沖Ⅱ遺跡では、再葬墓出土の土器は壺が約５割、甕が約４割で壺が主体となるのに対し、遺物包含層では甕が約４割で主体となる。こうした組成の差異には墓地遺跡と生活性遺跡の違いが反映されていると考えられている(品川2004)。しかし、甕を主体とする上人見遺跡の器種組成は一般的な再葬墓よりも遺物包含層に近いあり方を示す一方で、沖Ⅱ遺跡の包含層で約25％を占める浅鉢が本遺跡では極端に少ないという差異も無視できない。こうした点から遺物包含層と同様に本遺跡の器種組成を解釈することは躊躇され、単純に「墓地遺跡」、「生活性遺跡」といった位置づけを与えることはできないように思われる。今後も同様な遺跡との継続的な比較検討が必要であろう。

註

(1)　遺物の個体数は沖Ⅱ遺跡の包含層出土遺物の集計方法に倣い、口縁部・頸部・文様施文部位など器形の判別できるものを対象に算出した。胴部片については壺・甕・深鉢の判別が不能なものが大半であるため、対象としていない。本調査では上記の部位がほぼ掲載遺物であり、実態に近いものと考えられる。

参考文献

荒巻実ほか 1988 『C11沖Ⅱ遺跡』 藤岡市教育委員会

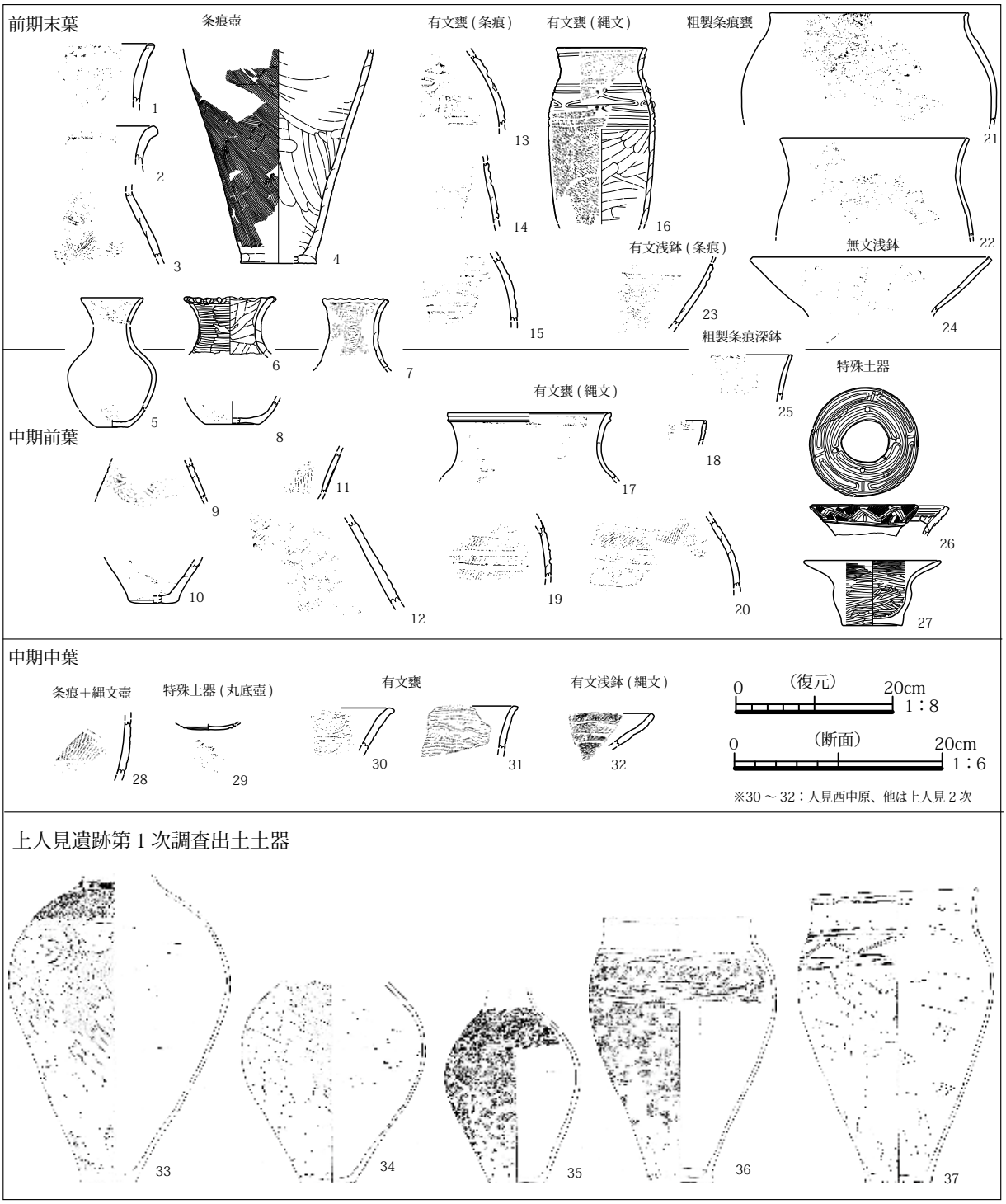
石川日出志 1985 「関東地方初期弥生式土器の一系譜」『論集日本原史』 吉川弘文館

石川日出志 2003 「神保富士塚式土器の提唱と弥生中期土器研究の意義」『土曜考古』 第27号 土曜考古学研究会

井上慎也 2004 『中野谷地区遺跡群２』 安中市教育委員会

設楽博己 1985 「関東地方の＜条痕文系＞土器－西部東海系条痕文土器を中心として－」『＜条痕文系土器＞文化をめぐる諸問題』資料編Ⅰ 愛知考古学談話会

設楽博己 1995 「東日本における弥生時代のはじまり」『展望考古学』 考古学研究会



第1図　上人見・人見西中原遺跡の弥生前・中期土器集成

第1表　上人見遺跡と沖Ⅱ遺跡における器種組成

	上人見遺跡1・2次						沖Ⅱ遺跡					
	壺	甕	深鉢	浅鉢	その他	合計	壺	甕	深鉢	浅鉢	その他	合計
土坑(再葬墓)出土点数	29	59	2	4	3	97	24	19	2	4		49
土坑(再葬墓)出土比率	30	60.8	2	4.1	3.1	100	49	39	4	8		100
包含層出土点数	12	25	3	1	1	42	57	121	22	74	15	289
包含層出土比率	28.6	59.5	7.1	2.3	2.3	99.8	20	43.6	6.9	25.5	4	100

品川欣也 2004 「弥生再葬墓と同時代遺物集中区」『考古学ジャーナル』№524 ニューサイエンス社

鈴木正博 2003 「「脱条痕文縁辺文化」研究序説-弥生式「zigzag文様帯系土器群」と「脱条痕文」に観る相互作用と「共同体の母体観」『婆良岐考古』 第25号 婆良岐考古同人

若狭 徹 1996 「群馬県地域」『YAYI』 弥生土器を語る会

（2）上人見遺跡の遺構について

今回の発掘調査では、前期末から中期初頭を中心とする土坑群を確認した。この土坑群は、１次調査で発見された２基の土器棺墓（壺棺再葬墓）を核として環状に分布する特徴をもち、再葬システムに関連した１次埋葬の場として「墓群」と位置づけた。

上人見遺跡は、昭和36年（1961）、耕作中に土器が発見され、昭和40年（1965）になって梅澤重昭氏（当時群馬県立博物館）と松澤亜生氏（当時東京大学文化人類学研究室）を担当者とした学術発掘調査が行われた（１次調査）。発掘調査では、２基の土器棺墓（壺棺再葬墓）の存在と遺物包含層を確認したが、新たな再葬墓は発見されなかった。1次調査で出土した再葬墓の土器５点は、前期末から中期初頭の土器群（「沖Ⅱ式」と「岩櫃山式」）として位置づけられている（外山他1978、梅澤1986、設楽1988、若狭1996他）。

なお、本遺跡の性格については、調査終了後、平成25年５月に日本考古学協会で遺構の報告を行い、再葬墓の在り方について課題を提示した（梅澤・井上2013）。本稿では、その後の遺構・遺物分析で明らかとなった点を踏まえ、上人見遺跡における墓群の特徴をまとめたい。

土坑の性格

再葬墓遺跡は、立地環境によって岩櫃山遺跡群の鷹の巣岩陰遺跡（吾妻町）のような山腹の岩陰に存在するもの、沖Ⅱ遺跡のような沖積地で平坦な場所に存在するもの、上人見遺跡のような台地上で解析された低地に面する斜面部、台地縁辺部等に存在するものに分類できる。

上人見遺跡では、２基の再葬墓を除き、100基以上の土坑を確認した。土坑の特徴は、平面が円形、楕円形、断面は浅い鍋底形が主体である。覆土は、全ての土坑が同じ堆積状況を示している点が特徴で、Ⅲ層の黒色土で混入物がなく、土層の乱れも少ない自然層の堆積であった。この状況から、「遺構」ではない可能性が考えられるが、確認面より下位で遺物が出土し、円形の集中がみられること、当時に近い地面を確認面としており、明らかな掘り込みが存在すること等から、意図して掘られた土坑であることは間違いない。次に土坑の性格について考えてみたい。確認した土坑では、「墓」の根拠とされる人骨の検出されなかった（註１）。しかし、土坑の性格を考える要素としては、一部の土坑で墓の可能性を示唆する出土状況（完形土器、副葬的遺物、土坑上面に大形礫の出土）がみられること、土坑の規格・状態（形状、覆土、遺物出土状況等）に差が少なく、均一であること、多くの土坑が２基の再葬墓を核として環状に分布することである。さらに、土坑の機能として「貯蔵穴」があるが、本遺跡の土坑は貯蔵用に多い、深く込まれたものや「袋状・フラスコ状」となるものは存在せず、また、廃棄土坑とされる多量の土器片等の出土、炭化物、焼土の検出は認められなかった。以上のことから、本遺跡の土坑は、「墓」とした「土坑墓」の可能性とした。土坑の特徴は、土坑内から土器小破片が多数出土するものが多い点である。土坑内から出土した土器片は、小さく砕かれたものが多く、土坑間で同一個体の共有関係が遠近距離で確認している。

土坑群と再葬墓との関係

上人見遺跡では、２基の再葬墓を核として多数の土坑が環状に分布し、土坑墓群を形成する墓域であることが確認された。これまでの調査では、土器を伴う再葬墓を主体とする遺跡が多数を占め、本遺跡のように再葬墓より土坑の数が圧倒的に多い遺跡は極端に少なく、土坑墓の実態についてはほとんど知られていないのが現状であった。本遺跡の墓域範囲は直径約50ｍの環状で、墓域外では遺構、遺物が全く確認されていない。土坑墓群は、９か所のブロックに分類でき、２基の再葬墓と土坑墓群との間には、遺構の空白地が存在する。２基の再葬墓はⅠ期の土器が埋設された遺構で、土坑墓群はⅠ期からⅡ期にかけてと土器型式における時間差が認められる。土坑群６では、Ⅲ期の遺物が出土していることから、墓域がⅢ期まで継続していた可能性が指摘できる。全ての土坑が一次埋葬の墓とした場合、再葬墓２基では受け入れきれない。土坑墓群に時期差が存在することは、集団の違いを反映しており、一次葬を目的とした共同墓地として埋葬された墓域と推定される。土坑墓は、浅く掘り込まれた窪地状となったところに遺体を埋葬し、土を盛ることでマウンド状にした構造であった可能性がある。同時に土器あるいは石器、礫が土坑内もしくは土坑上面に置かれる。その後、遺体を掘り返される毎に土器は砕けて小さくなり、新しく掘削される土坑へと混入していくことを繰り返すものと推定される。一方、接合によって土器片が移動する事実については、同一個体の土器片が、墓域内で接合復元が完結していないことから、「共有遺物」として意図的に土坑墓へ意図的に投げ込まれた可能性が考えられる。これは、集団間での同族意識を形にしたものと推測する。本遺跡での再葬墓は、本保域における集団を象徴するものとして中心に置かれたものであり、最終的に祖先が宿る本来の埋葬地点へ行き着くまでの仮の埋葬地であった可能性が考えられる。そして、再葬墓は、別の場所あるいは岩陰等で土器棺（壺棺）再葬墓として最終的に安置される。墓域の西側には、湧水のある谷地がある。この場所を洗骨のための水場とした場合、二次葬に至るまでの条件が整っている。しかし、墓域全体では、沖Ⅱ遺跡等にみられた焼土痕、集石等の人骨を焼いた場所、痕跡が確認されていないため、再葬システムにおける「火熱処理」の過程が抜けてしまっている。「火熱処理」がない場合、遺体をそのまま「処理」して土器へ埋納することになるが、この点が、本墓域での課題である。

本遺跡の西には、縄文時代から信仰の山として知られる妙義山が存在する。妙義山は、岩櫃山遺跡群（鷹の巣岩陰遺跡）が存在する岩櫃山（東吾妻町）との形状が類似しており、祖先の山として崇めるには相応しい場所である。妙義山では、岩陰遺跡は確認されていないが、山麓にあたる横野台地には、上人見遺跡の墓群を含め、注連引原遺跡群をはじめとして同時期の集落、再葬墓が多数分布する地域として他を抽んでている。しかし、上人見遺跡の墓群は、この地域で確認されている集落遺跡での集団数を遙かに超えており、さらに広域の集団を含めた墓群とであったと考えられる。この墓群を一次葬の拠点として広域に点在する再葬墓が形成されていったものと思われる。本遺跡では、再葬墓に至るまでの一次葬の在り方について、これまでの研究で判明できた点に加え、新たな再葬システムへの問題提起へとつながる発見となった。

註

（1）調査当初、土坑内の土壌分析を検討したが、遺構面までの表土が薄く、表土に飼料等が混入しているため、分析は断念した。したがって土坑の性格は状況証拠で判断しているため、遺構認定に対しての課題が残る。

参考文献

石川日出志 2004 「再葬墓研究の現在と今後の課題」『考古学ジャーナル』№524 ニューサイエンス社

井上慎也 2013 「上人見遺跡」『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報６』 安中市教育委員会

梅澤重昭 1986 「上人見遺跡」『群馬県史』(資料編２ 原始古代２ 弥生・土師) 群馬県

梅澤重昭・井上慎也 2013 「群馬県上人見遺跡における墓群の調査」『日本考古学協会第79回総会発表要旨』 一般社団法人日本考古学協会

設楽博己 2008 『弥生再葬墓と社会』 塙書房

外山和夫ほか 1978 『群馬県地域における弥生時代資料の集成Ⅰ』 群馬県立博物館

若狭 徹 1996 「群馬県地域」『YAY!』 弥生土器を語る会

（3）上人見遺跡について　　－再葬の思想を考える－

平成24年度に実施した上人見遺跡の調査において、同遺跡が東日本地域の弥生時代前期末～中期初の横野台地における一村落共同体の営んだ墓群であり、それは再葬墓と考えられる土器棺墓2基を中核的位置に置いて、その周囲に大小混在する土壙墓135基から成る墓群であることが明らかにされた。

上人見遺跡は猫沢川の源流域、台地を開析する谷地(湿潤な谷地)に面した　傾斜地を占めて約11,000㎡の範囲におよび、遺跡分布域から西方40ｍの地点には湧水地がある。本遺跡が墓としては完結しない態様の土壙群が主体的存在を示し、しかもその大部分が攪乱された覆土層すりかたちで残存し、墳墓の原形をとどめているものは13基に過ぎず、その土壙が核となってブロック群を形成している再葬墓（二次埋葬墓）の形成に連なる仮埋葬墓（一次埋葬墓）群であるということが推定された。

２基の土器棺墓は、再葬骨を収納した棺であることは、１基が口頸部欠損の胴部転用の壺棺墓で、他の１基が口縁部一部欠損の甕棺で、ともに壺棺は甕破片、甕棺は壺破片で被覆し、浅い土壙に埋設し、薄く覆土した形態のものであったことが推定された。両者の間隔は、1.5ｍで、何らかの有機的関係を保って配置されたものであることが注意された。しかもその出土位置は、多数の土壙墓の中核的位置を占めていて、土壙墓群を意識した存在であることも明らかである。

土壙群の構成は、東西50m、南北45mの範囲に135基におよぶ分布が認められ、おおむね、次のような特徴、傾向が認められた。

①土壙墓の形状は楕円形、遠景プランのものがあるが、大きさは大小多岐にわたっている。その土壙断面は、浅い船底型、あるいは鍋底型で、遺骸を本埋葬するには浅すぎる形態である。

②分布状態は、おおむね、大型の土壙を核としたブロック群を形成し、２基の土器棺墓を中核にして分布している（第356図参照)。

③依存状態は、ブロック群の核的存在を示すものに覆土上に置き石、土器類、打製石器、剥片が供献の態様を示し、残存していたが、大部分は攪乱された表土層に埋没した状態である。土壙群はある期間営まれた仮埋葬の墓壙であったことをうかがわせる。

①撹乱土層には土壙分布範囲内全域にわたって土器片（砕片）が散在した。その総数は、994片に及んでいるが、完形品に復元できるものは存在しない。砕片の内訳は、壺87点（内20点は口頸部片)、甕292点（内76点は口頸部片)、壺と甕が区別できない土器片192点（内10点は口頸部片)、壺あるいは甕の可能性のある土器片370点（内20点は口頸部片）で、壺、甕の可能性を含め全体の約

95％を占める。また、同一個体片が異なるブロック群の間に存在する事例が41例確認されている。このことは、土器を棺に転用する際の毀損行為が土壙墓群域で行われ、それが村落共同体の単位村落（血縁的家族）間において共同の作業として行われたことを示唆するものがある。

以上のことから推して土壙群は、再葬墓形成準備段階の遺骸仮埋葬の墓壙群と推定される一次埋葬墓群であろう。この土壙群を踏まえて、本埋葬墓としての二次埋葬墓としての再葬墓が継続的に形成されるのであり、そのためには、この仮埋葬墓としての土壙墓の機能を補完する遺骸処理（洗骨、選骨等）の遺構（水場）の存在が想定される。湧水地等の泉水である。土壙分布域西方40ｍの地に湧出する泉水であったと推定される。

一次埋葬地の仮埋葬墓から発掘された遺骨は、洗い清められた後に、葬送観念上意識された部位の遺骨を選骨し、土器棺に納め、残骨とともに、二次埋葬地に本埋葬されたと推定される。

上人見遺跡の２基の土器棺墓は、二次埋葬地に本埋葬された再葬墓として位置づけてよいものなのだろうか。２基の土器棺墓は、一次埋葬地の土壙墓群の中核的位置を占めて営まれている。その限りにおいて、２基の土器棺墓は一次埋葬地に営まれた二次埋葬墓ということで、再葬墓の態様を示していることには矛盾はない。しかしながら、そのほとんどが不完全な仮埋葬墓の態様を示す多数の土壙墓に対して、造営基数が２基という点はあまりにも少数基である。

２基の土器棺墓が一次埋葬（仮埋葬）墓地に再葬墓として造営された二次埋葬（本埋葬）墓であるならば、上人見遺跡の土壙群を形成した村落共同体においては、土器棺再葬墓の造営は、限られた階層、すなわち族長層、あるいは、祭祀権能を有する上位階層に限られ、共同体成員のほとんどを占める単位村落層には、制約された墓制であるか、再葬墓は別な形態、すなわち、土葬墓の形態をもって営まれていたとすべきであろう。だが、土器棺再葬墓周辺は、云うに及ばず土壙分布域内において、土器棺墓壙と形態を同じくする土壙墓の存在は認められない。多数の土壙の存在から推定される土器棺再葬墓を造営した二次埋葬（本埋葬）地は別の地に存在したとすることはできないだろうか。

２基の土器棺墓は、二次埋葬（本埋葬）地に搬出され、埋葬される前段階で、一次埋葬（仮埋葬）地で行われた葬送行為のため、一時的に安置された象徴的な再葬墓だったのではないだろうか。やがては、村落共同体成員の間で精神形成の礎となっていた地に存在する二次埋葬（本埋葬）地に再葬墓として営まれるべき土器棺だったのであろう。

遺跡地から西方約6.5㎞には、峨々たる山塊の妙義山が望める。上人見遺跡の土壙群と２基の土器棺墓は、妙義山を祖霊の山と崇め祀る山麓圏の一村落共同体が一次埋葬地に営んだ墓群とするのが相応しい。

（編者註：本文中の用語については、報告書の用語と一部異なる表記があるが、あえて統一はせず、原文をそのまま掲載した）

3　古墳時代の成果と問題点

（1）中期の土器について（第1～9図）

はじめに

西横野東部地区遺跡群では、全体で186軒の竪穴住居が確認された。確認された竪穴住居は、古墳時代前期も少ないが19軒を確認した。最盛期は5世紀前半にあり、竪穴住居110軒を確認している。しかし、遺物の出土していない約53軒の住居も、その形態・施設から見て多くはこの時期に属する可能性が高く、この時期としては県下でも稀に見る大規模な集落遺跡である。しかし、5世紀前半以降は激減して、5世紀後半以降に属するものは4軒に過ぎない。ここでは、古墳時代前期をⅠ期として土器の様相を概観した後、古墳時代中期の炉を持つ住居を中心にⅡ・Ⅲ期の二時期に分けて検討したい。本遺跡群において竈を有する遺構は、N3-H6住、N5B-H6住の2軒である。N5B-H6住はⅢ期に続く時期、N3-H6住は6世紀後半のものと考えられるが出土遺物は僅かなためここでは検討しない。

1　古墳時代前期の土器

古墳時代前期の住居は21軒確認しており、この段階をⅠ期と設定する。N3では、H2・7・18・24・28・29・30・41・45・51・52・53・55・77・83・84・89・91・92・93・112号住が該当する。器種としては、S字口縁台付甕、甕、壷、鉢、小形丸底坩、高坏、器台、小形甕、ミニチュア土器などが出土している。

Ⅰ期は細分できる可能性が考えられる。資料が少ないためここでは一括して扱うが、例えばS字甕なども二段階程度には細分が可能である。古様に考えられるのは、やや肩が張り球形に近い胴部などの形状からN3-H7住-683・H92住-743が挙げられる。しかし、共伴資料などがないため敢えて細分は行わない。

甕では、S字甕と平底甕の出土量が同じ位の割合である。また、1軒の中での出土量自体が少ないため傾向を示すとは言い難いが、S字甕と平底甕の共伴している住居はほとんどない。平底甕は二種類の胎土が見られ、淡黄褐色と赤褐色のものがある。調整は刷毛目及び箆撫でであり、刷毛目はS字甕と異なり粗く太目である。形状は平底で胴部中位にやや丸みを持ち、口縁部は外傾する。大きさは口径25㎝の大形の破片が1点見られる他は、器高25㎝前後と、器高20㎝前後のものとに分かれる。

ところで、これらとはやや異質な甕が1点出土している。N3-H2住-670の甕であるが、口縁部に条痕が巡りS字状口縁を意識したような痕跡が見られる。胴部の張りもS字甕に類似している。上半部のみの出土なので台部が付くのかは不明である。胎土や太目でざっくりした感じの刷毛目の様子は、平底甕と類似する。施し方はやや短い単位であるがS字甕に類似しており、これを模倣した可能性が考えられる甕である。

壷は平底で、胴部中位に最大幅があり、大きく丸みを持つ。頸部が締まり、口縁部は外反する。口縁部の長さは5㎝前後と8㎝程のものが見られる。調整は内外面とも刷毛目が主である。胎土は平底甕と良く似ており、同じように二種類の黄白色と赤褐色のものが確認できる。

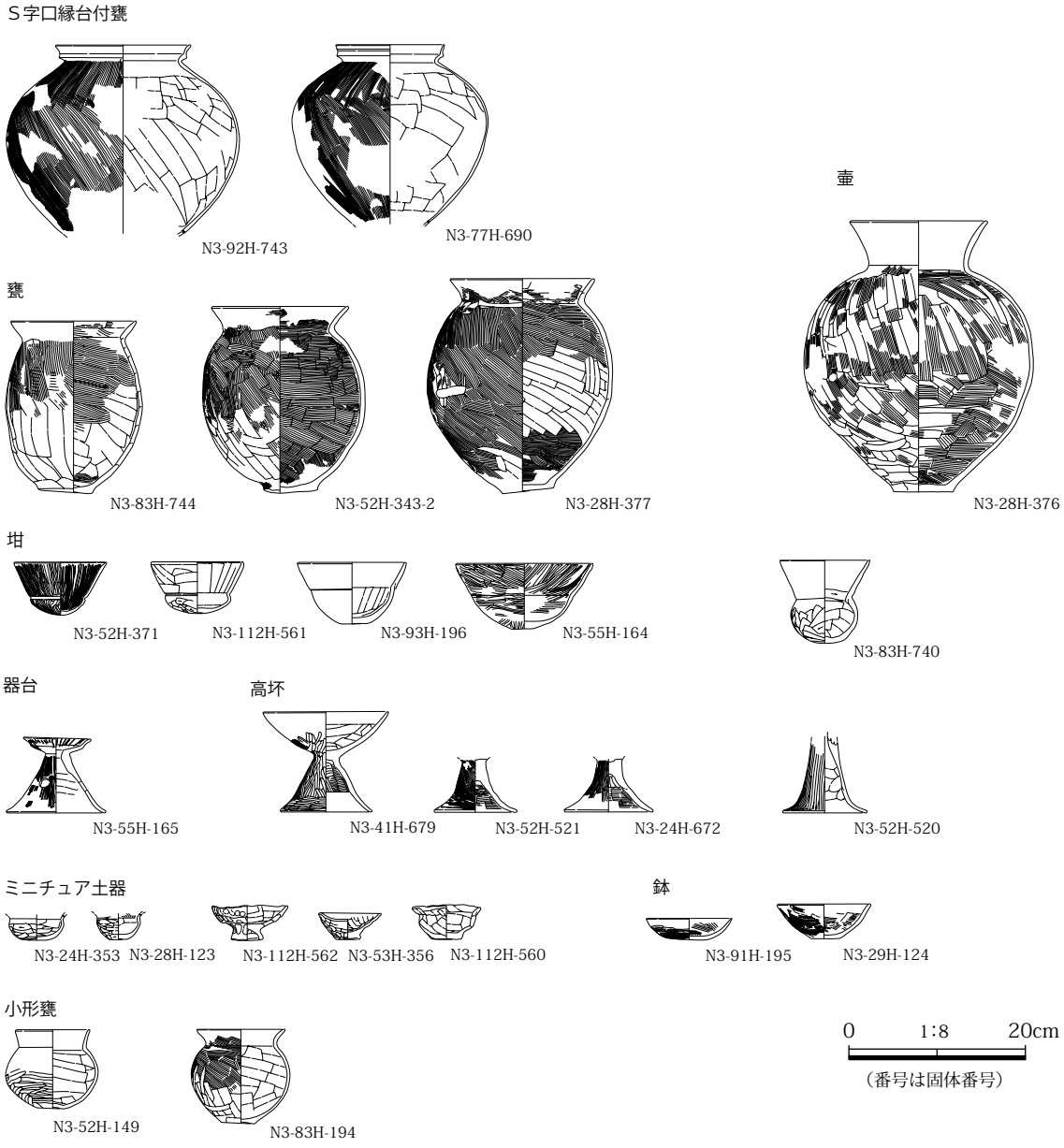
高坏は東海系高坏の系譜にあると思われる体部から口縁部が丸みを持って開き、脚部はハの字状に広がるものと、屈折脚高坏の脚部のみが出土している。

器台は 1 点のみの出土であり、器受部は小さく、体部は開いて口縁部が外反し、脚部は裾部まで大きく開く形である。

鉢はＡ類の丁寧な磨き調整される浅い皿状のものと、Ｂ類の刷毛目調整され体部にやや丸みを持って口縁部の開くものと二種類見られる。Ｂ類は黄白色の甕のものと胎土が類似している。

坩は 4 点出土している。それぞれ形態が異なり丸い体部から一旦内彎して口縁部は長く開くものであるが、胴部の深さと口縁部の長さの比率がそれぞれに異なる。その他、N3-H83 住 -740 の坩はⅡ期に続く坩の系譜にあるもので、球形の胴部から長く開く口縁部を持つ。

ミニチュア土器は精製と粗製とがある。高台の付いた鉢状のものや、平底で丸い体部から口縁部が外反するものなどがあるが､輪積痕が顕著で凸凹した形状のものである。胎土は黄褐色で夾雑物は少ない。体部が丸みを持ち口縁部が外反する坩のような形状の N3-H24 住 -353、H28 住 -123 は、褐色から赤褐色の胎土のもので夾雑物がやや多いが、撫で調整で比較的形は整っている。資料は少ないが精製と粗



第 1 図　古墳時代前期の土器群　Ⅰ期

製とで胎土の違う可能性もある。

2　古墳時代中期の土器

前述のように5世紀前半の資料が多量に得られたので、これを中心に分析したい。この段階を前後に分けⅡ・Ⅲ期とする。まず、本遺跡群では5世紀代になっても台付甕の出土が見られるという特徴が挙げられる。同じような様相を示す周辺の富岡市、甘楽町の資料も参考にこの台付甕の型式組列を提示する(第2図)。しかし、遺構の重複などの層位による検証方法を持たないため仮説となるが、これまで検証されて来ている[(1)]他器種の型式変化から見ても齟齬はないものと考える。

さらに、この型式組列を軸に共伴関係にある他の器種の形態の特徴を検討し、新旧の要素に分けられるものはその視点を示した。それぞれ、各器種とも規格性に乏しく形状が多様なため明確な分類は難しく、その器種にどのようなものが存在するのか参考となるよう目録的に資料を多く掲載することとした。出土した器種としては、台付甕、甕、甑、鍋、壷、小形甕、脚付甕、坩、直口壷、坏、鉢、椀、器台、高坏などである。

台付甕

台付甕は三種類に分類が可能である。A・B類が主であり、C類は出土量は少なくA類の変形かと思われるが特徴的な形態のため一応分類した(第3図)。

・台付甕A

胴部上位に最大幅があり大きく丸みを持ち、胴部下半は台部に向かって直線的にすぼまり、台部はハの字状に開く。頸部は締まり口縁部は外傾する。

・台付甕B

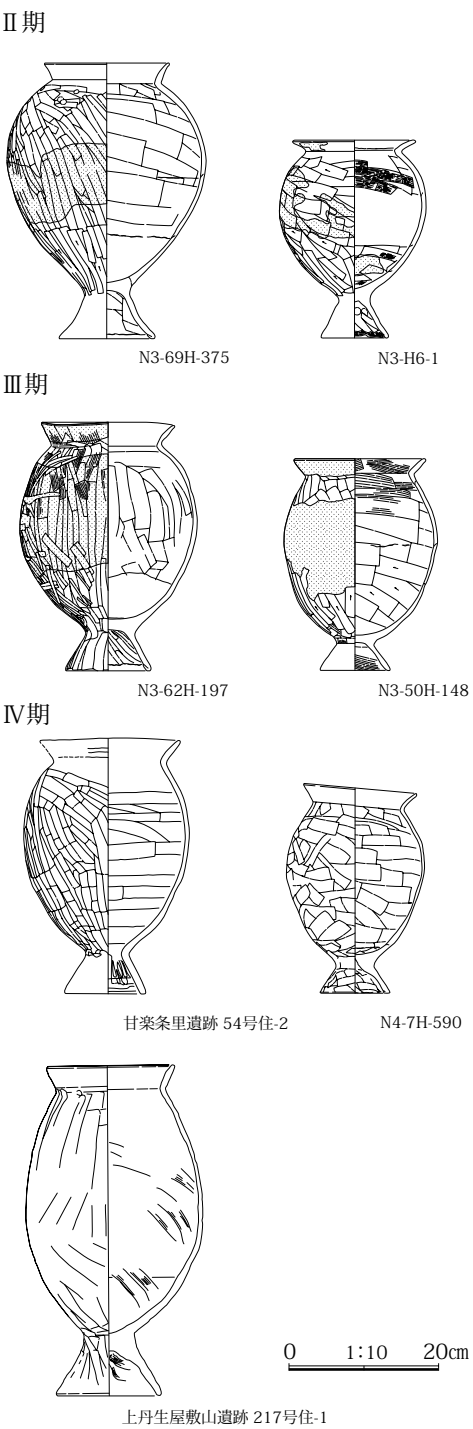
胴部中位に最大幅を持ち、下半部にも丸みがあり、全体的に球状を呈す。台部はハの字状に開く。頸部は締まり口縁部は外反ないし外傾する。

・台付甕C

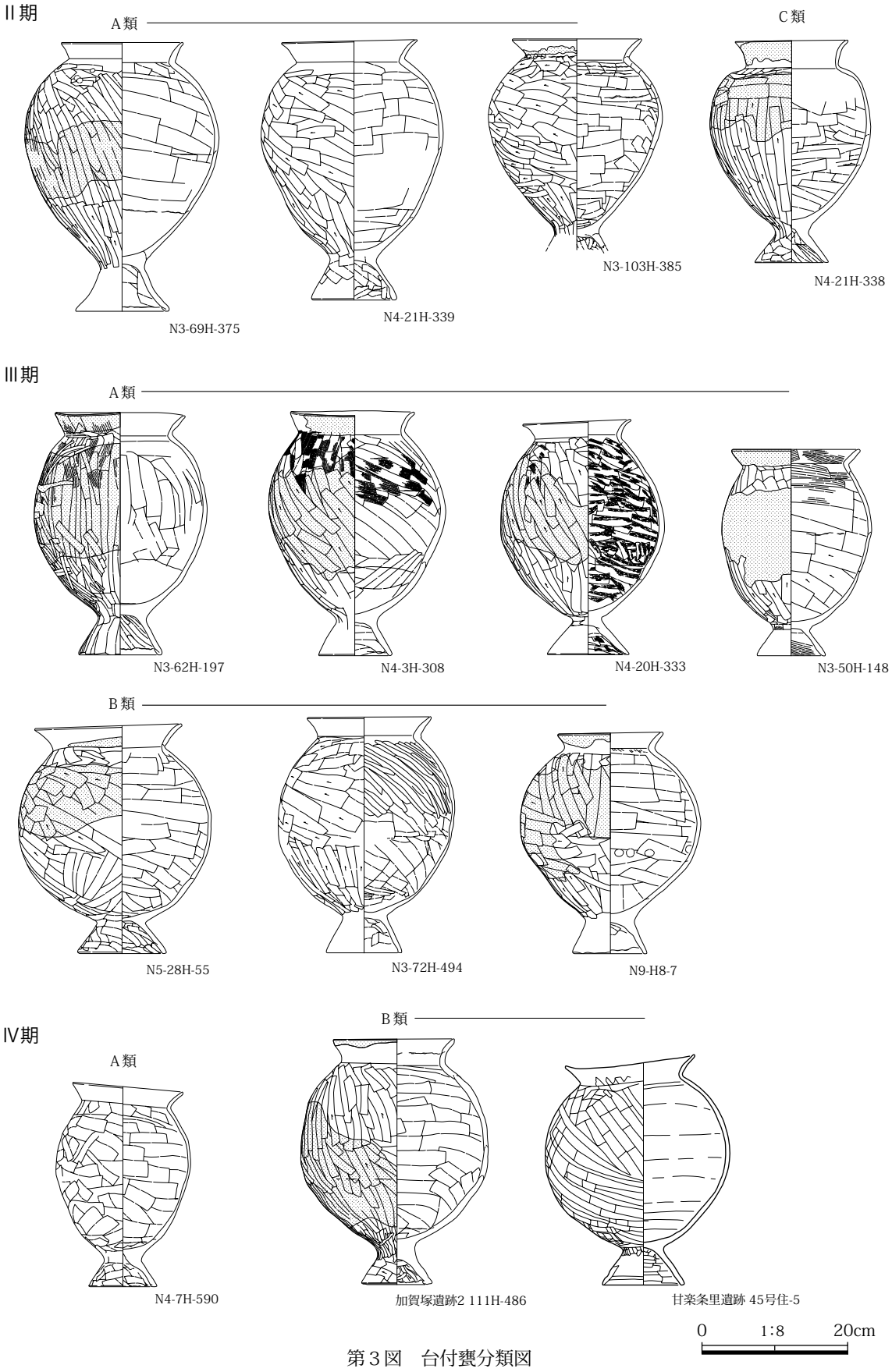
肩部が大きく張出し胴下半部は台部に向かってすぼまり、台部はハの字状に開く。頸部は締まり口縁部は外反する。N4-H2号住に大小の2個が出土している。出土例は少ないが、類似するものとしてN3-H4・108住に上半部のみであるが甕が出土、その他、蔵畑遺跡H-5住の甕上半部もこのタイプの可能性がある。

◎台付甕Aの型式組列

Ⅱ期の台付甕Aは、胴部上位に張りを持ち、下半部は台部に向かって直線的にすぼまる。頸部は締まり口縁部



第2図　台付甕Aの形式組列


II期
A類
C類
N3-69H-375
N4-21H-339
N3-103H-385
N4-21H-338
III期
A類
N3-62H-197
N4-3H-308
N4-20H-333
N3-50H-148
B類
N5-28H-55
N3-72H-494
N9-H8-7
IV期
B類
A類
N4-7H-590
加賀塚遺跡2 111H-486
甘楽条里遺跡 45号住-5
0 1:8 20cm

第３図　台付甕分類図

は鋭く「く」の字状に短く外傾する。全体的に正円に近く丁寧に整形され、また器表面の凹凸も少ない。調整は外面は箆削り、内面は箆撫でである。大きさは高さ 35㎝前後の大形のものと 26㎝前後の小形の二種類が見られ、これ以降の各期にも続いて両者が存在している。Ⅲ期になると胴部上位の張りはなくなり、中位に最大幅を持つようになる。頸部の括れは緩くなり、口縁部は外反する。調整に変化はないが、やや丁寧さが失われる。Ⅳ期では胴部がやや長胴化し、整形は丁寧さに欠け器面はやや凸凹した感じである。この期以降は当遺跡群での出土例はないが、さらに長胴化した台付甕が富岡市の上丹生屋敷山遺跡 217 号住に見られ、量は減少するものの 6 世紀頃まで作られていたことが確認できる。

さて、このＡ類であるが、胴部上位に膨らみを持ち下半が長くすぼまる形状は東海地方のＳ字甕編年[(2)]のＤ類に類似しており (赤塚 1986・1988)、台部の端部内側には大半のもので折り返しが確認できる。また、県下で一般的なＳ字甕の胎土ではなく、この台付甕Ａと同様の胎土でＳ字甕の口縁部の形状までも模倣した台付甕も人見西原遺跡で出土しており、この台付甕ＡはＳ字甕の模倣から派生した可能性が高い。この前段階のⅠ期でも、前述の N3-2H-670 のＳ字甕との関連が想定できる甕の存在もあることから、この地域で模索され新たに生み出されたものと考えられるのではないだろうか。

台付甕Ｂについては、本遺跡群でのⅡ期に相当するものは出土していないが、富岡市前畑遺跡の 1 号住ではⅡ期に属すると考えられる台付甕Ａ・Ｂが共に出土している。Ⅲ期に属する台付甕Ｂも 22 号住に見られる。また、加賀塚遺跡 1 の H-21 号住 -5 や加賀塚遺跡 2 の H111 住 -486、甘楽条里遺跡 45 号住 -5 などの例のように竈のある住居でも出土が確認できる。形状は胴部が球形であるという特徴が継続しており、形式的な変化があまり見られない。この台付甕Ｂは、前期の南関東系の単口縁台付甕の系譜を引く可能性が考えられる。

甕

Ａ：口縁部は「く」字状に外反ないし外傾する。胴部の最大幅が上位にあり、下位は台部に向かって直線的にすぼまり平底の底部となる。全体的に歪みが少なく整った形状である。調整は外面斜横位の箆削り、内面は横位ないし斜横位の箆撫でである。台付甕Ａ類と類似する形状である。

Ｂ：平底で、立ち上がりは僅かに丸みを持って開き、胴部中位に最大幅を持つ。口縁部は外反ないし外傾する。調整はＡ類に類似する。

Ｃ：やや平底気味で胴部は丸みを持って立ち上がり、全体に球状を呈し、口縁部が短く外傾する。器肉が薄く器面は丁寧に整えられている。器高は 23㎝前後の大形と、16㎝前後の小形品がある。調整は外面胴部が上半部横位の箆削り、下半部は斜横位の箆削り、内面は横位ないし斜縦位の箆撫でである。

Ｄ：胴部の張りが少なくなり、長胴化ではないが縦長なスタイルに見える。調整は外面胴部が上半部縦位ないし斜縦位の箆削り、下半部は斜縦位の箆削り、内面は横位、斜縦位の箆撫でである。

Ｅ：形状はＤ類と類似するものの、底部まで残っている資料がないため全体像は不明であるが、調整がＤ類と異なり胴部上半部が横位ないし斜横位の箆削りである。

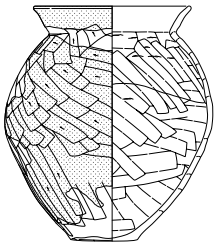
Ｆ：布留甕の影響も考えられる、丸底で胴部やや上位に最大幅を持つ卵型の甕である。調整は刷毛目であり箆削りが主流の他の甕類とは異質である。資料は少ないが、類似するものが加賀塚遺跡 2 の H146 号住 -757、上丹生屋敷山遺跡 385-2 号住などに見られる。

Ｇ：Ｆ類に似るが、小さい平底を持つ。調整は丁寧な箆撫でであり、これも資料は少ない。

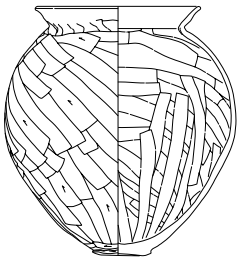
全体的に見ると、Ⅱ期の甕は器面が整い平滑な状態のものが多い。形状も胴部上位に張りのあるものや胴部が大きく丸みを持つものが多く、正円形に近く整った傾向を見せる。それに比してⅢ期の甕は胴

II期

A類

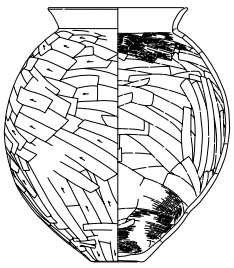


N4-23H-515

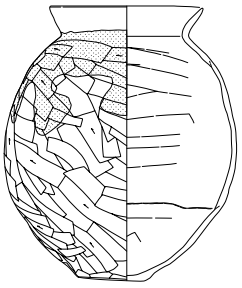


N5B-15H-9

B類

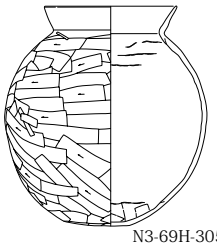


N3-103H-387

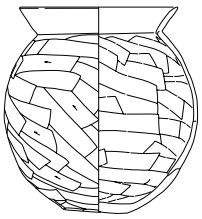


N3-64H-183

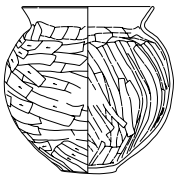
C類



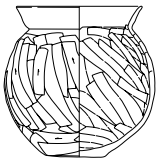
N3-69H-305



N4-27H-331



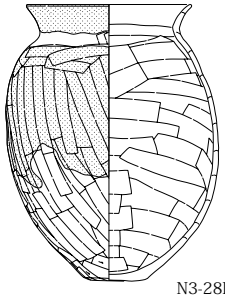
N3-110H-484



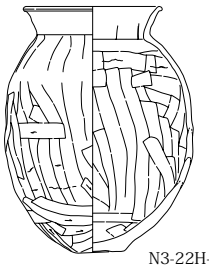
N4-27H-326

III期

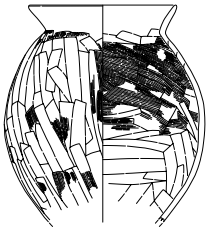
D類



N3-28H-7

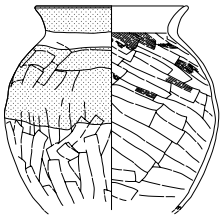


N3-22H-456

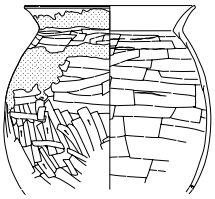


N3-3H-265

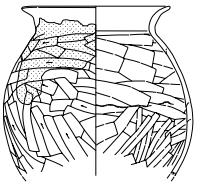
E類



N3-46H-769

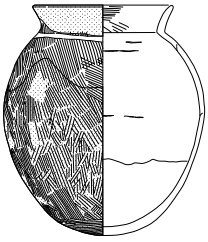


N3-100H-352



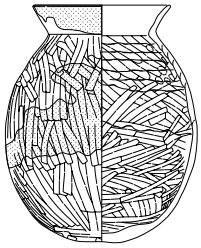
N3-94H-443

F類



N3-58H-309

G類



N3-97H-445

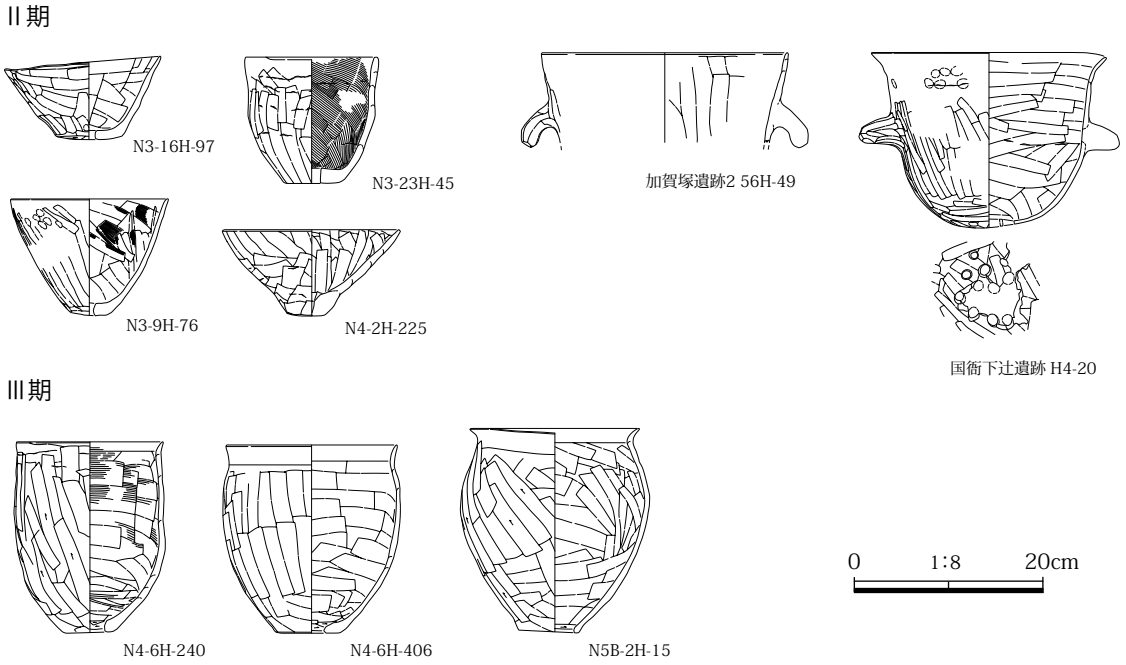
0 1:8 20cm

第4図　甕分類図

部の丸みが少なくなり、器面に凹凸が見られ、形もやや歪むものが多くなると言える。特に、D・E類の甕はB類の系譜上にある可能性が考えられる。甕の胎土はⅠ期とⅡ期では大きく変化することは確実で、調整も刷毛目はほとんど無くなり、削りか撫で調整へと変化する。

甑

前期から続く有孔鉢とも呼ばれる小形の甑と、新しく出現する大形の甑がみられる。全体的に甑の出土量は少なく、Ⅱ期に小形甑が4点、Ⅲ期に大形甑が3点出土したのみである。小形甑は基本的に胴部から口縁部が開く鉢形で、底部に円孔が穿たれる。底径が大きく逆台形状のものと、底径が小さく胴部にやや膨らみを持ち高さのあるものと、底径が小さく胴部下位は締まり、胴部上位から口縁部が大きく開くものが出土している。大形甑は3点見られるがすべて形状の異なるものである。底部に円孔を穿ち、胴部下半に丸みを持ち口縁部まで直線的に立ち上がり、口縁端部が僅かに外傾するもの。底部に円孔を穿ち、胴部中位に丸みを持ち、口縁部がやや外反するもの。底部は筒抜け状で、胴部上位に丸みを持ち、口縁部が外反するものである。器高は20㎝前後を測る。本遺跡では出土していないが、安中市域ではⅡ期に属すると思われる大形甑も出土している。国衙下辻遺跡H4住-21と加賀塚遺跡2のH56住-49であり、把手の付くものである。加賀塚遺跡Ⅱの甑は把手が下向きになっており逆に付け



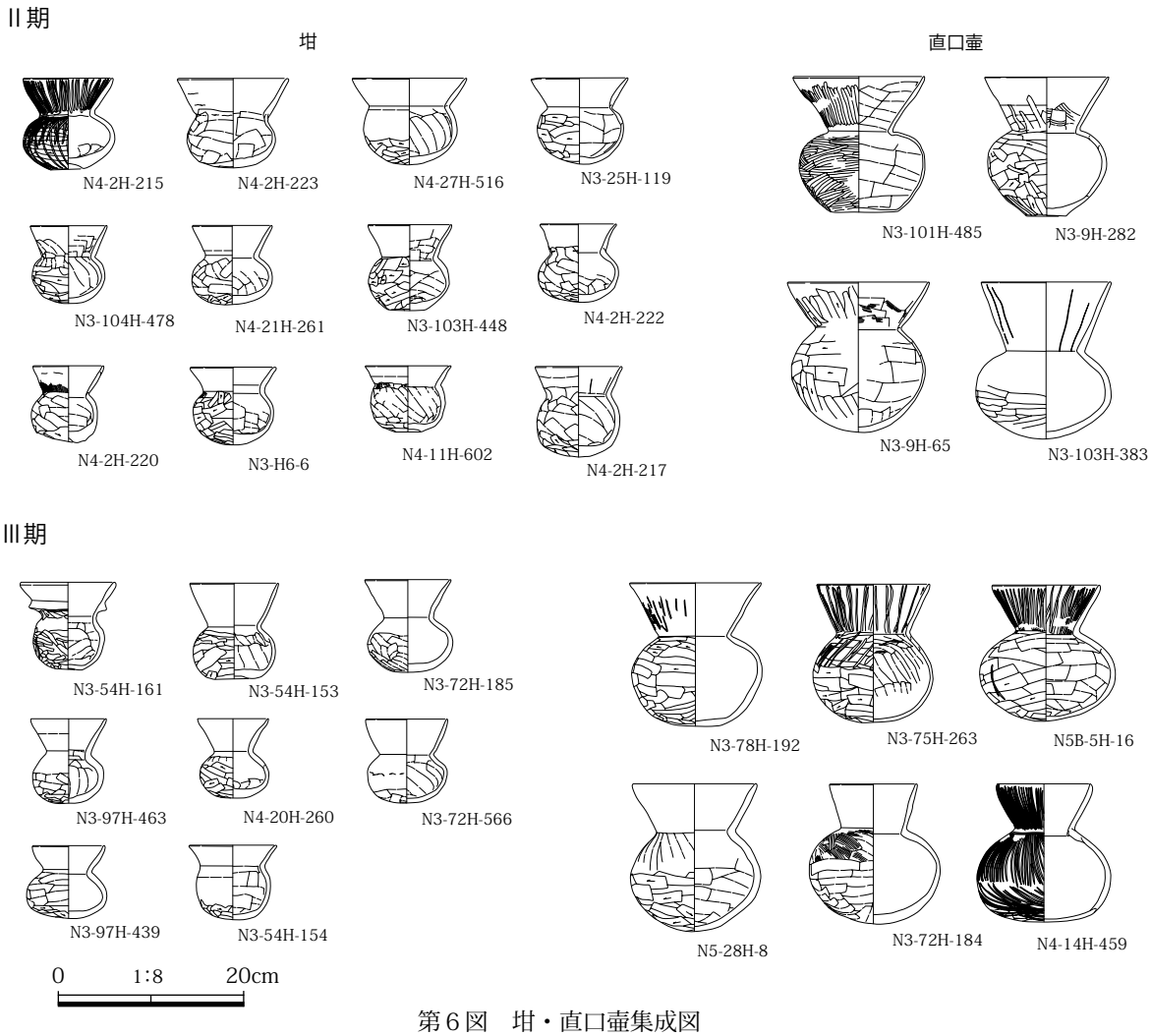
第5図　甑集成図

たような形である。共に台付甕Aと共伴している。

坩

器形は多様であり、個体差が大きいため分類は困難であるが、口縁部・胴部・底部の要素に分けて検討した。口縁部に関しては長さや傾きの程度での新旧関係は見いだせない。胴部の大きさ、縦横比の違いについても特に一定の傾向は認められない。底部は丸底のもの、中央が小さな上げ底で周辺が平底気味のもの、平底などが共存しており、これも時期差を示すことはないと思われる。

多少なりとも時期差を表すと思われるのは頸部の部分であり、N4-H27住-516のように広いもの

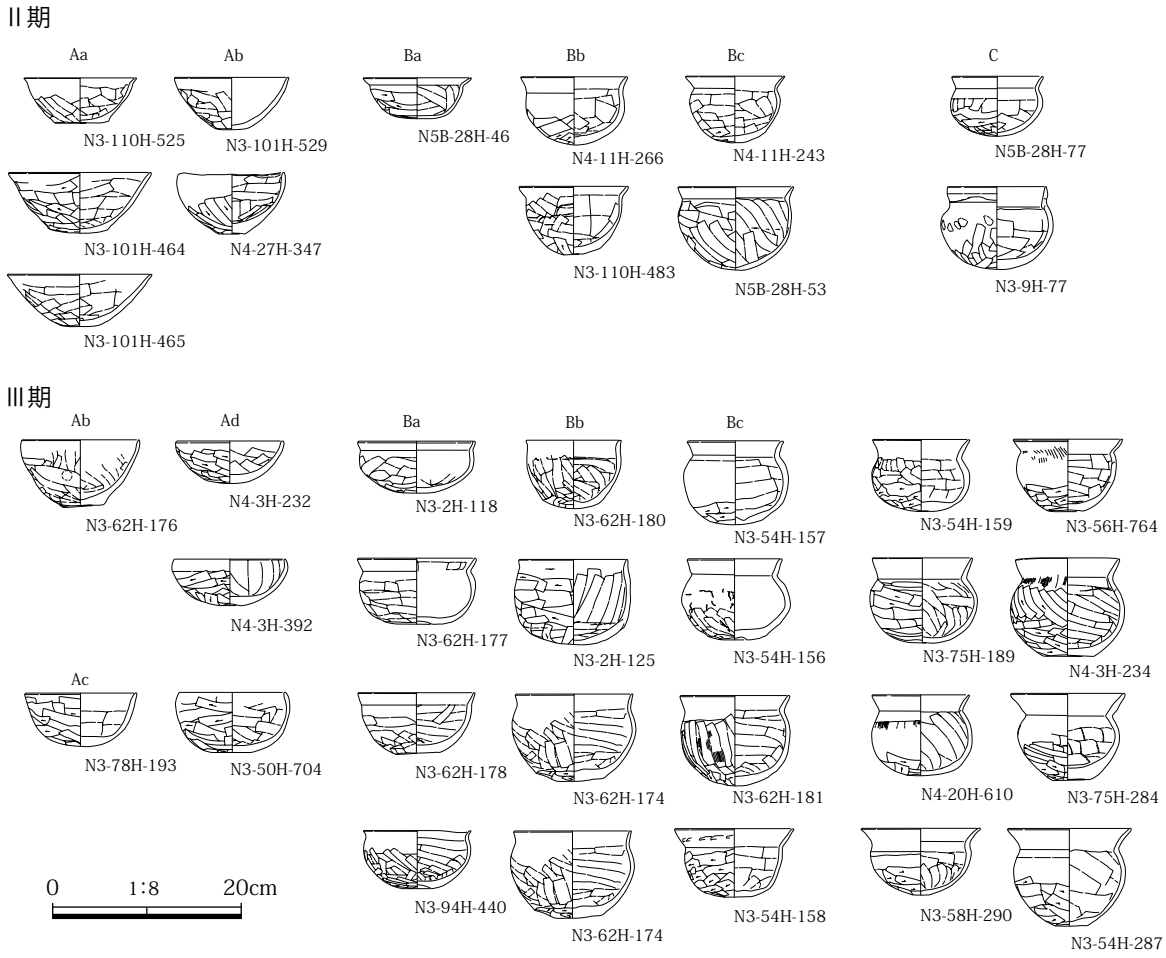


第6図　坩・直口壷集成図

は古く、N4-H20 住 -260 のように胴部径より頸部径が著しく小さいもの程新しい傾向にある。また、N4-H2 住 -223、H27 住 -516 のように頸部径が大きくさらに胴部径よりも口縁部径の方が大きいものがより古い要素と言えそうである。この N4-H2 住よりも口縁部が長く開く形状が、前期的でやや古いと思われる蔵畑遺跡 H-5 住の坩は削り調整の S 字甕と共伴している。

直口壷

前期の直口壷・長頸壷・内彎壷などの流れにあるものと考えられるが、それぞれに影響し合い融合しているものなのか系譜は捉え難い。口縁部の形状や長さ、傾きなど様々であり、胴部は大きく丸みを持ち、球形に近いものからやや扁平なものまで多様である。底部も丸底、平底のものとが見られる。本遺跡群の中では形態の変化は把握できないが、5 世紀後半以降に見られる直口壷は全体的には頸部が小さく締まり、口縁部が短くなる傾向にあるので、N3-H103 住 -383 よりも N3-H78 住 -192 や N3-H75-268 の方が新しく、さらに N3-H72-184 の方が新しい様相を示すと言えようか。また、N4-H14-459 のように若干口縁部が内彎し丁寧な箆磨きが施されるものもあり、内彎壷としての系譜が続いてきていると言うような可能性もあろうか。調整は箆削り後箆撫でであり、丁寧に撫でられるものもあり、口縁部や胴部上位に箆磨きが施されるものもある。胎土はやや軟質な橙色のものとやや硬質な黄褐色のものがあ



第７図　坏・椀類分類図

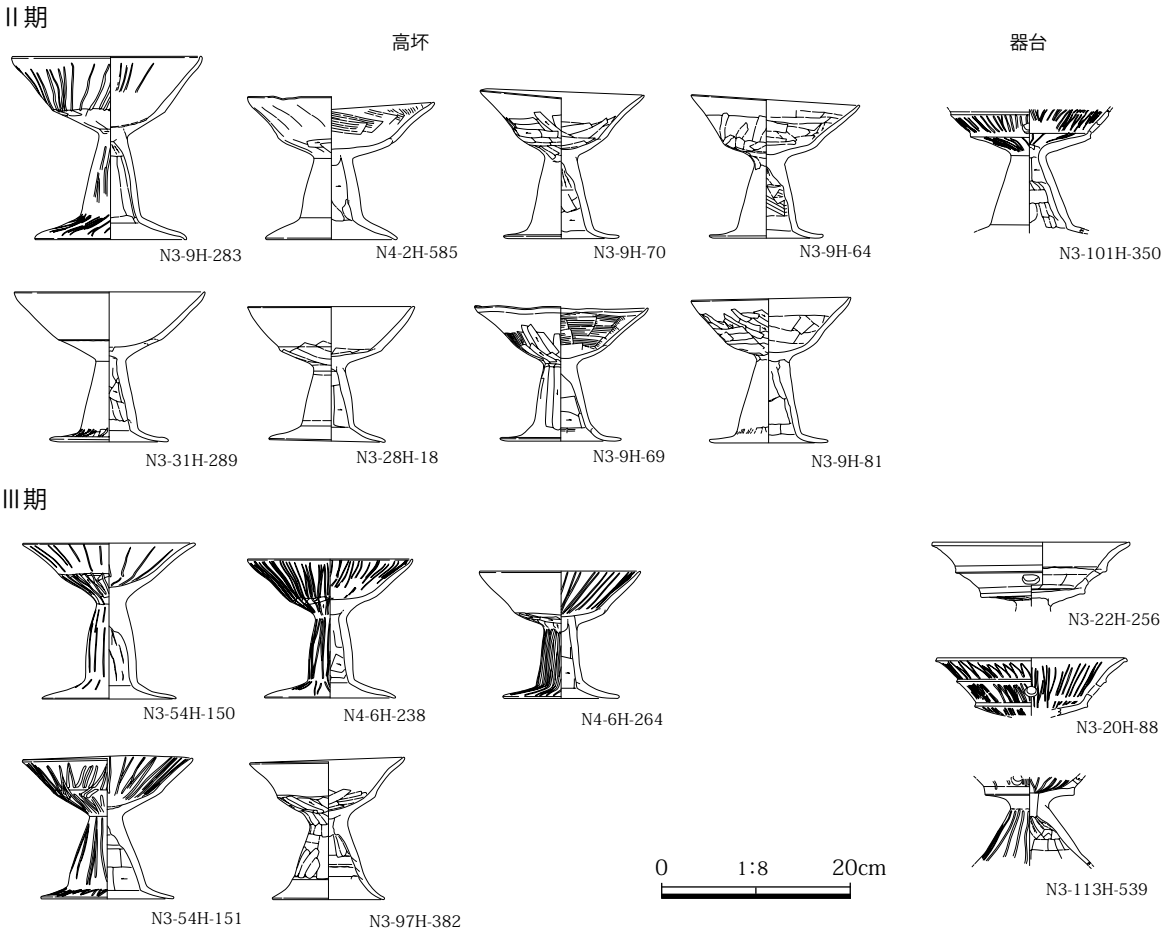
るが、器形との関係は特に認められない。

坏・椀類

体部から口縁部にかけて屈曲のないものをＡ、あるものをＢとした。Ａ類には、平底で体部から口縁部まで直線的に開くもの（Ａａ)、やや丸みを持って内彎気味になるもの（Ａｂ)、丸底で体部から口縁部は直線的なもの（Ａｃ)、丸底で口縁部が内彎するもの（Ａｄ) などがある。Ａａ類は、N3-H29 住 -124 の鉢のような前期から続いてくる器種の可能性もある。Ｂ類には、平底気味で体部は浅く口縁部が短く外傾するもの（Ｂａ)、体部の深いもの（Ｂｂ)、体部は深く口縁部が外反するものがある（Ｂｃ)。Ｂ類は調整が雑な感じで粘土接合の小さな隙間が見えるものも多く、形も器面に凹凸があり、やや歪みがあるものが多い。　Ｃ類は底部は丸底や平底のものもあり、体部は丸みを持ち口縁部が外反ないし外傾する。Ｂ類と類似する部分もあるが、基本的に調整は丁寧な撫でであり形は歪みが少なく整っている。

器台

前期の装飾器台の流れを汲むと思われる大形の器台がみられる。基本的に口縁部と裾部に段を持つ有段高坏と同様の形状で、口縁部に四ケ所と底部に円孔が穿たれている。脚部の形状には、N3-H113-539 のように大きく広がり裾部まで直線的に開くと思われるタイプがある。また、N4-H22 住 -256 や N5B-H16 住 -26 のように底部に孔の無いものもあるが、形状は同じである。その他、体部にのみ孔の開くものを見れば、口縁部に段を持たず体部との境に突出した稜を持つ上丹生屋敷山遺跡 280 住や一



第８図　高坏・器台集成図

ノ宮押出遺跡Ｏトレンチなどに出土例がある。

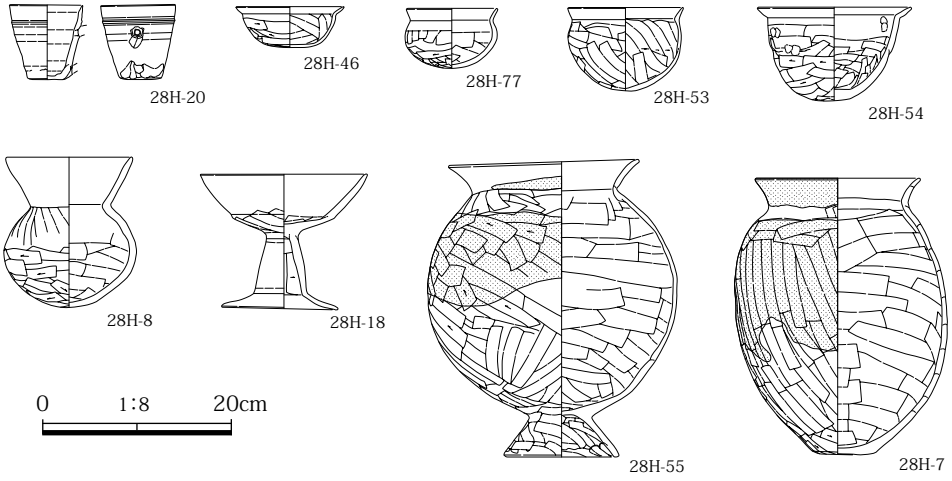
高坏

高坏の変化としては、全体的に大形で丁寧な磨きの施されるものは古く、新しいものほど小形化して行くという傾向は認められているが、遺構単位では混在しており明瞭に分類は難しい。前期の屈折脚高坏は、調整が横撫で後丁寧な放射状の篦磨きが密に施されるものであるが、この時期になると篦磨きの間隔が粗くなるものへと変化し、次第に省略されるようになってくる。脚部が細く裾部が水平に近く開くものと、脚部が裾に向かって開きさらに裾部が水平に近く開くタイプがみられ、Ⅲ期ではそれらの器高は低くなり、坏部は浅くなる傾向が見られる。

3　須恵器把手付椀について

N5B-H28 住から須恵器把手付椀が出土した。器形は平底、体部立ち上がりから口縁部まで直線的に開き、口唇部が薄く摘みあげられる。口縁部下に稜線が一条巡る。底部は撫で、体部は左回転の調整、把手の付ける部分が方形を呈し、付け根に粘土を回して補強しており、直線的な器形とともに初期須恵器に見られる特徴である。陶邑古窯跡群以外で焼成された初期須恵器の可能性が高いようである(3)。

この住居では他に土師器の器種が多く出土している。台付甕、甕、坏、椀、直口壷、高坏などである。台付甕は大きな球形の胴部を持つＢ類、甕はＤ類が出土している。直口壷は口縁部が大きく開く器形で



第９図　N5B H-28 号住居跡出土遺物図

あるが、口縁部は若干短くなっている傾向にある。高坏は、同じく須恵器把手付椀が出土した高林三入遺跡Ｃ区７号住居の高坏に器形・大きさとも良く類似しており、この住居は５世紀第２四半期が想定されている。本住居の土師器類もⅢ期に属するものが主であり、須恵器把手付椀は初期須恵器の TK73 ～ 216 に相当し、共伴する土師器の様相に齟齬はないものと考えられる。

4　実年代について

本遺跡のⅠ期は古墳時代前期に相当する。田口氏の分類[4]ではⅣ～Ⅴ期に相当するＳ字甕が見られることや屈折脚高坏の存在から４世紀後半を中心とした時期が想定される。これに続くⅡ・Ⅲ期は坂口編年[5]に準拠すれば、Ⅱ期が坂口編年のⅠ段階、Ⅲ期がⅡ段階に相当すると考えられる。実年代としては、それぞれ５世紀第１四半期、第２四半期に比定され、本遺跡群で唯一出土した初期須恵器の年代観とも合致すると言える。

5　まとめ

従来、資料が少なく不明瞭であった古墳時代中期前半であるが、本遺跡群の調査により豊富な資料が得られたことで、西毛地域での土器の様相が捉えられるようになった。中期前半の土器として特徴付けられているものとして、布留式系の高坏や小型の坩、大型の甑、平底甕、坏・椀類などが挙げられる。

今まで、この時期の甕類は平底甕が主であると思われていたが、前期の台付甕から派生したと考えられる台付甕が一定量存在することが確認できた。また、布留甕の影響も考えられる丸底の甕も僅かであるが存在している。坏・椀類はこの時期に新たに出現した器種であり、韓式軟質土器や陶質土器の影響を受け生み出されたものである。形態は各個体毎に異なるような状況が見られ、この時期のものは分類が難しい。これらは後半になって内斜口縁の坏や半球形状の内彎する坏へと定型化し、さらに須恵器模倣坏が加わって行く。安中市域では韓式系軟質土器は出土していないが、把手付の甑などにも充分その影響が窺える。

さて、本遺跡群の中心となる時期の４世紀末から５世紀始めにかけては、大陸では、東晋・前奏、高句麗・新羅・百済の国々の攻防が相次ぐ状態であり、戦禍を逃れるなど多くの人々が押し出されるように我が国へ渡来している。このような渡来人の移住により、灌漑技術、製鉄技術や鉄製の農工具、機織り技術、

須恵器生産などの技術の伝来、馬や馬具がもたらされるなど様々な分野で大きな変革が起きた時期である。また、竈の導入など生活文化にも影響を与え、土器様式にも大きな変化が起きている。

この遺跡において、前期の土器群とはその器種構成や形態・胎土にも明らかな変化が見られることや、突然この地域に大規模な集落が出現することは、大きな意味でこうした社会的な変動と期を一にしていると言えるのではないだろうか。

注
(1) 井上唯雄 1982「歌舞伎遺跡における土器の編年」『歌舞伎遺跡』(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
　橋本博文・加部二生 1984『古墳時代土器の研究』古墳時代土器研究会
　坂口　一 1987「群馬県における古墳時代中期の土器の編年」『研究紀要』4　(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
(2) 赤塚次郎 1986「「S字甕」覚書'85」『年俸昭和60年度』(財) 愛知県埋蔵文化財センター
　1988「最後の台付甕」『古代』第86号　早稲田大学考古学会
(3) 初期須恵器の形態の特徴や産地については田中清美氏、坂口一氏に御教示頂いた。
(4) 田口一郎 1981「S字状口縁台付甕の分類と編年」『元島名将軍塚古墳』高崎市教育委員会
(5) 坂口　一 1987「群馬県における古墳時代中期の土器の編年」『研究紀要』4　(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

参考文献
小安和順 1989 『甘楽条里遺跡』甘楽町教育委員会
松田政基 1992『前畑遺跡・内出Ⅰ遺跡・丹生城西遺跡・五分一遺跡・千足遺跡』富岡市教育委員会・群馬県教育委員会
井上慎也 2005『蔵畑遺跡』安中市埋蔵文化財発掘調査団
今井和久 2005『高林三入遺跡・八反田遺跡』(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
永井尚寿 2009「上丹生屋敷山遺跡」『丹生地区遺跡群』富岡市教育委員会
壁　伸明 2010『国衙下辻遺跡』安中市教育委員会
井上慎也・石丸敦史 2011『加賀塚遺跡2』安中市教育委員会

（2）中期集落の分布について（第10図）

Ⅰ期（4世紀代）の集落

Ⅰ期は、吉ヶ谷系・樽式系土器を組成する土器群をもつ弥生系の在地集団、S字状口縁台付甕を組成する土器群をもつ東海系の集団、さらに両土器群の折衷、畿内系の布留式甕を供伴する等の土器群をもつ集団が存在する。集落は、人見大谷津遺跡、人見東原Ⅱ遺跡、人見枝谷津遺跡、加賀塚遺跡等で認められた。住居址の基本構造は、弥生時代の系譜を引く竪穴式であり、長方形から正方形へと変化する。炉は、地床炉で枕石をもつ。また、住居址の中には、規格性のない小形で柱穴、炉をもたない不定形の形態が存在する。住居址の配置は、２～３軒が一単位となって広域に点在し、小規模の集落を形成するが、中期へと継続する集落は少ない傾向がある。人見枝谷津遺跡では、調査区中央で帯状に大小の住居址が間隔を持って帯状に分布するが、配置に規則性はみられない。住居址は、主軸が北あるいは北西の２方向が混在する。

Ⅱ期（5世紀第1四半期）の集落

集落は、前期と同様、小規模である。人見枝谷津遺跡では、Ⅲ期への継続性がみられる。加賀塚遺跡で数軒確認されているが、人見西向原遺跡、人見本村遺跡で1軒と少ない。住居址は、前期と同様、大形正方形が主体であり、大きさ・構造の規格が安定する。貯蔵穴は住居主軸に対して右後方に設置される。人見枝谷津・東向原遺跡では、調査区中央から東に分布の集中がみられ、Ⅰ期の居住域から移動している。住居址主軸は、前期に比べて北方向が多くなる。住居址の配置は、前期に比べて1軒1軒の間隔が広くなり、単独で列状、環状に分布している。

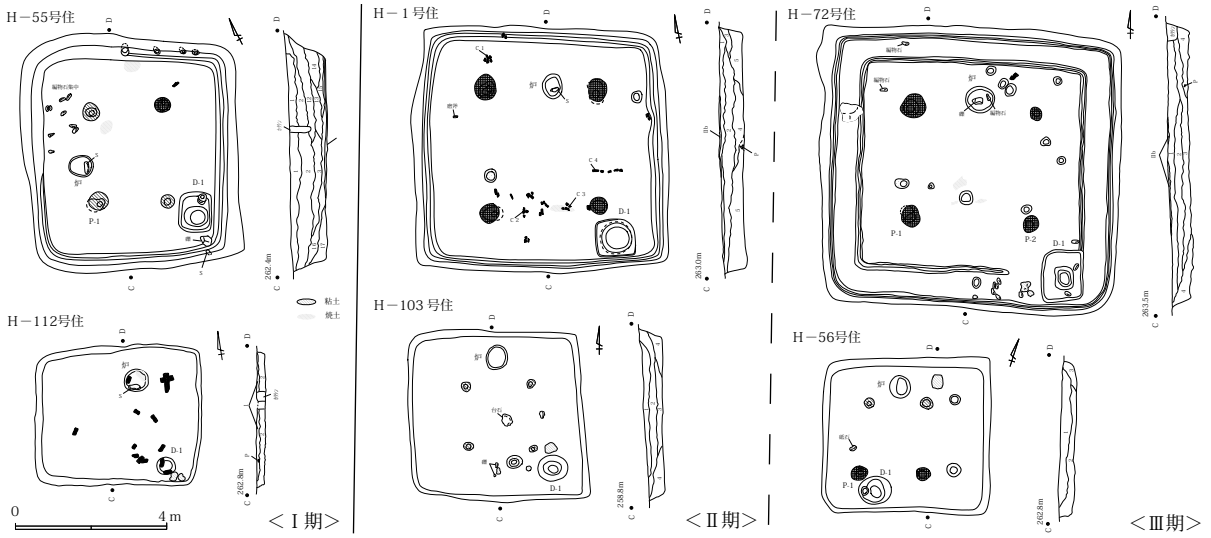
Ⅲ期（５世紀第２四半期）の集落

横野台地で最も集落が拡大する時期である。Ⅲ期に緑色系蛇紋岩を石材とした石製品・石製模造品の製作、使用が活発化する。また、鉄製品として方形・U字形鍬・鋤先、鎌、斧、刀子、鏃等の農具、工具が組成する。鉄製品の製作は、上丹生屋敷山遺跡、加賀塚遺跡の集落で認められる。住居址の形態は、Ⅱ期との差が少ない。小中形の正方形が主体となり、少数の大形住居が伴う。Ⅱ期から存在する大形住居は、一般的世帯の居住目的とした施設ではなく、ムラの有力者あるいは集会施設等の特別な住居の可能性がある。住居主軸は北方向となり、貯蔵穴は右後方となるが、一部で左後方にも存在する。住居址に配置は、人見枝谷津遺跡において、水場遺構を境として東西の２群に大別できる。西群は、Ｈ－72、75号の大形住居址を軸として南側で住居址が弧状に分布する。西側の住居址群東側には土坑群が分布する。水場に近接する東側の住居址群は、前期から後期まで居住域が継続している。東群は、住居址が環状に分布し、土坑群が伴う。東群は、Ⅱ期から継続する集落であるが、西群は前期の居住域に再び移動する。各集落群と水場との間には、遺構の空白地が存在している。人見東向原遺跡では、Ｍ－9号を境として、東西の２群に大別される。西群は、さらに２つの集落群（Ｈ－60号周辺とＨ－14号周辺）に細分できる。東群は、中央に遺構の空白地を挟んで弧状に住居址が分布する。人見向原遺跡では、等高線に沿って列状に住居址が分布する。Ｈ－20号周辺は、住居址分布が粗密となる範囲が認められ、集落を二分している。人見西向原遺跡Ａ区では、規模が共通する３軒の住居址と平地式遺構で構成された環状となる集落を確認した。また、人見西向原遺跡Ｃ区、人見本村遺跡では、住居址が傾斜に直交して縦に並ぶ集落を確認した。集落の特徴は、大形住居址を中心として中・小形住居址、平地式遺構、土坑等の組み合わせを基本単位として、大小の集落が形成されている。同様な集落は、加賀塚遺跡等がある。さらに、単独集落として同規模の住居址、平地式等が環状あるいは縦横方向に列状となる集落が存在する。Ⅲ期の集落は、人見枝谷津・東向原遺跡、人見向原遺跡、人見西原遺跡で拠点的集落が存在し、その周辺部に小規模集落が点在する特徴が認められる。

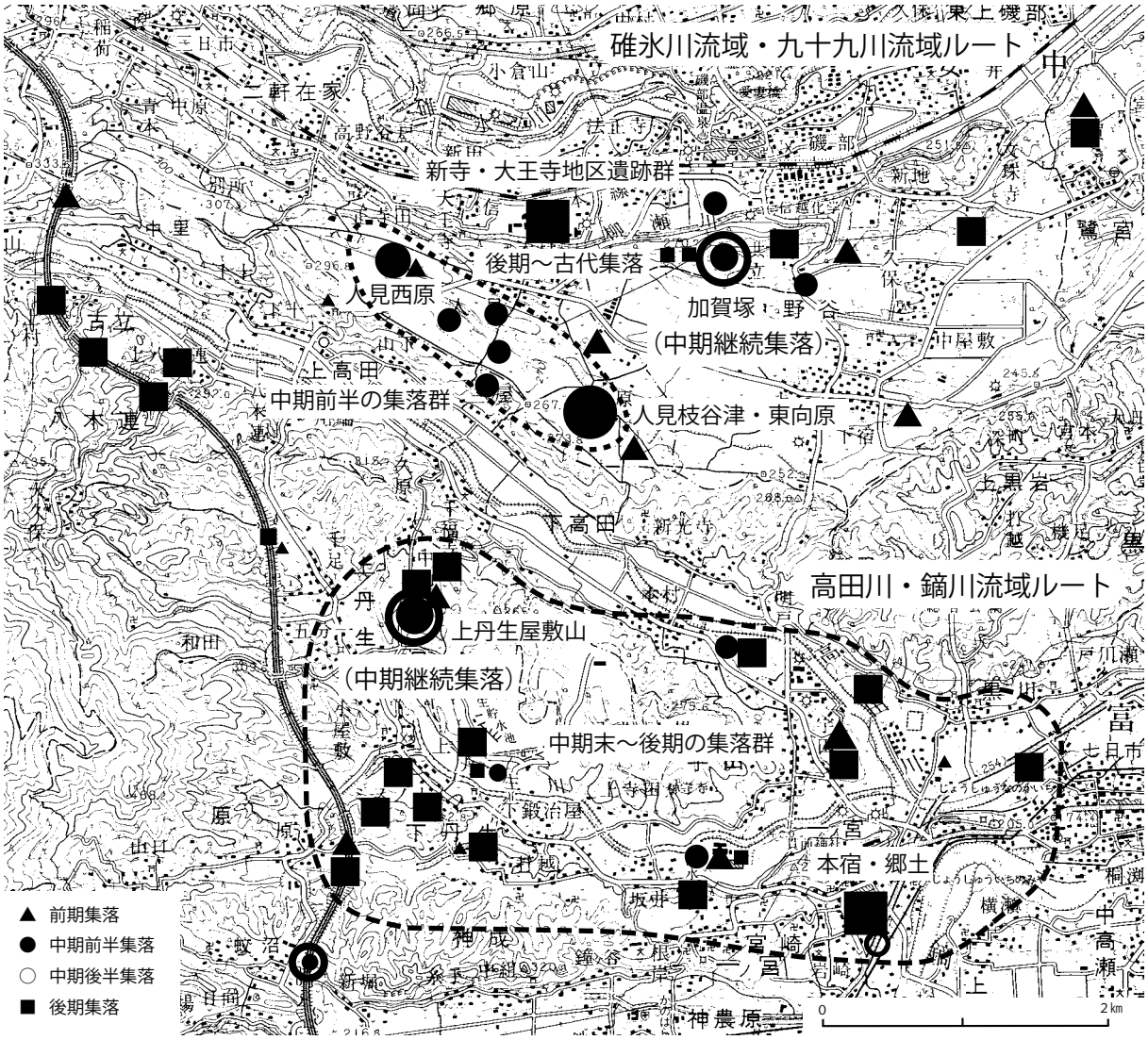
中期後半（５世紀後半）以降の集落

中期後半の集落は、人見枝谷津遺跡で２軒、人見向原遺跡で２軒確認されている。住居址の基本構造は、Ⅲ期との共通性が存在するが、炉から竈へと変化する時期である。貯蔵穴は、竈脇ではなく、Ⅲ期同様、右後方に存在する。土器では、台付甕が衰退し、内斜口縁坏、須恵器模倣坏が出現し、須恵器が組成し始める時期である。鉄製品は前半に製作が認められたが、後半は低調となる。石製品・石製模造品は、この時期を画期として白灰色の滑石に石材が転換し、簗瀬二子塚古墳、後閑３号墳等の古墳出土と同形態のものが製作、使用されている。本遺跡群は、中期前半に限定した集落であり、後半以降の集落の継続性は認められず、短期間で他地域への居住地の移動が推定される。これとは対照的に、上丹生屋敷山遺跡、加賀塚遺跡等の集落では、後半以降も集落の継続性が認められる。

中期末以降、横野台地の集落は、西横野地区から中野野地区以東、碓氷川右岸（中野谷原遺跡、長谷津遺跡、荒神平・吹上遺跡、新寺・大王寺地区遺跡群等）に移動し、碓氷川・九十九川流域を中心に集落が形成される。横野台地及びその周辺部において中期集落が、地域の拠点的様相をもつのにもかかわらず、集落が継続しないのは、この地域への定着を目的とせず、集団規模で他の地域へと移動するための一時的に形成した集落であったためと考えられる。これは、同時期の首長墓となる古墳の分布が横野台地周辺には少ないことも関係している（本遺跡群の東に単独で経塚古墳が分布）。その中で加賀塚遺跡の集落と同時期の磯部２・３号墳は、碓氷川流域における中期社会を考える上で重要である。



第 10 図　古墳時代前期～中期前半の住居址



第 11 図　横野台地における古墳時代の遺跡分布

4　古代の成果と問題点

（1）古代の土器について（第1・2図）

確認された古代の住居は20軒と非常に少なく、時期的には8世紀前半から11世紀前半までのものが見られる。資料は少ないが、土師器坏・甕を基準に分類しⅠ～Ⅴ期に分けて記述したい。

Ⅰ期（8世紀第1四半期）

N15A-H3住の1軒である。出土遺物は1軒の住居の中では比較的多く、土師器坏・小形甕・甕、須恵器蓋・坏・高坏・長頸壷などである。土師器坏は3点出土しており、No.2・3は、色調は橙色で触ると手に橙色の粉が付くような軟質の胎土であり、内面に漆様のものが付着している。No.48は、色調は鈍い橙色で、前者に比べれば硬質なものである。この土師器坏は底部調整は篦撫でであるが、中央部に弧状の糸きりのような痕跡が認められる。僅かな痕跡のため詳細は不明であるが注意しておきたい。須恵器蓋は内面に返りのある大形タイプである。坏は底径が大きく体部が直線的に開き、底部は回転篦削りである。土師器甕は、長胴タイプでは胴部上位にやや膨らみを持つタイプと直線的なものの二種類が出土している。一方、胴部が大きく張りを持つ甕は、球状に近いものとやや長めのものと見られる。小形甕も大形の胴張の甕の二種類と形状が良く類似するものが出土している。

Ⅱ期（8世紀第2四半期）

N3-H33住の1軒である。資料は少なく土師器坏､須恵器蓋のみである。土師器坏は浅い皿状であり、僅かに丸みのある底部から稜を持って立ち上がり体部から口縁部までは短く直線的である。須恵器蓋は内面に返りのある口径18㎝程度の大形のものと、端部が屈曲する口径14㎝程のものがある。

Ⅲ期（9世紀第3四半期）

N3-H32・107住の2軒である。資料は少なく、H32住に土師器坏が1点、H107住に土師器甕が1点出土したのみである。土師器坏は暗文は施されていないが、胎土・形状から見て暗文土器系統のものと考えられ、平底で箱型のものである。土師器甕は口縁部の形状が緩やかに屈曲する「く」の字状のものである。

Ⅳ期（9世紀第2四半期）

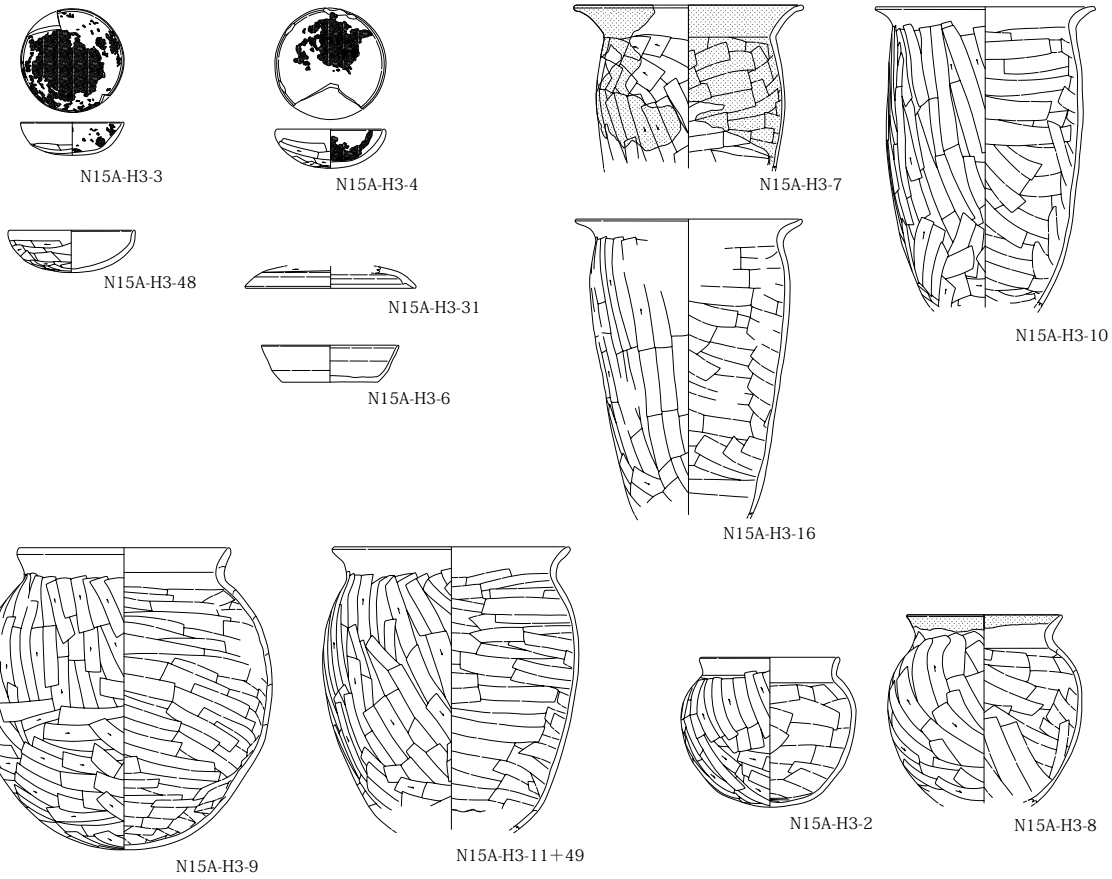
N3-H71住 の1軒である。これも資料は少なく土師器坏・甕のみである。土師器坏はⅢ期のものと同じ系統と思われる。土師器甕は口縁部の形状が「コ」の字状に近い上半部でやや屈曲するタイプである。

Ⅴ期

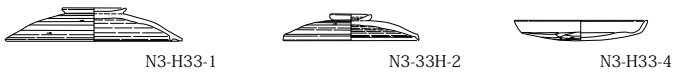
N3-H34・38・47・73・81・82、N3C-H118、N4-H7・10、N5B-H22・34住の11軒である。出土した器種は須恵器坏・椀・羽釜・土釜・甑、黒色土器椀、灰釉陶器段皿などである。

須恵器坏は浅い皿状になっているものが中心で、口径8.8～10.2㎝、高さ2.3～3.0㎝の範囲に収まる。器形はA - 体部から口縁部が直線的に開くもの、B - 体部から口縁部がやや丸みを持つもの、C -

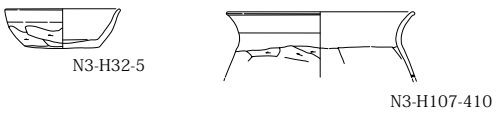
Ⅰ期



Ⅱ期



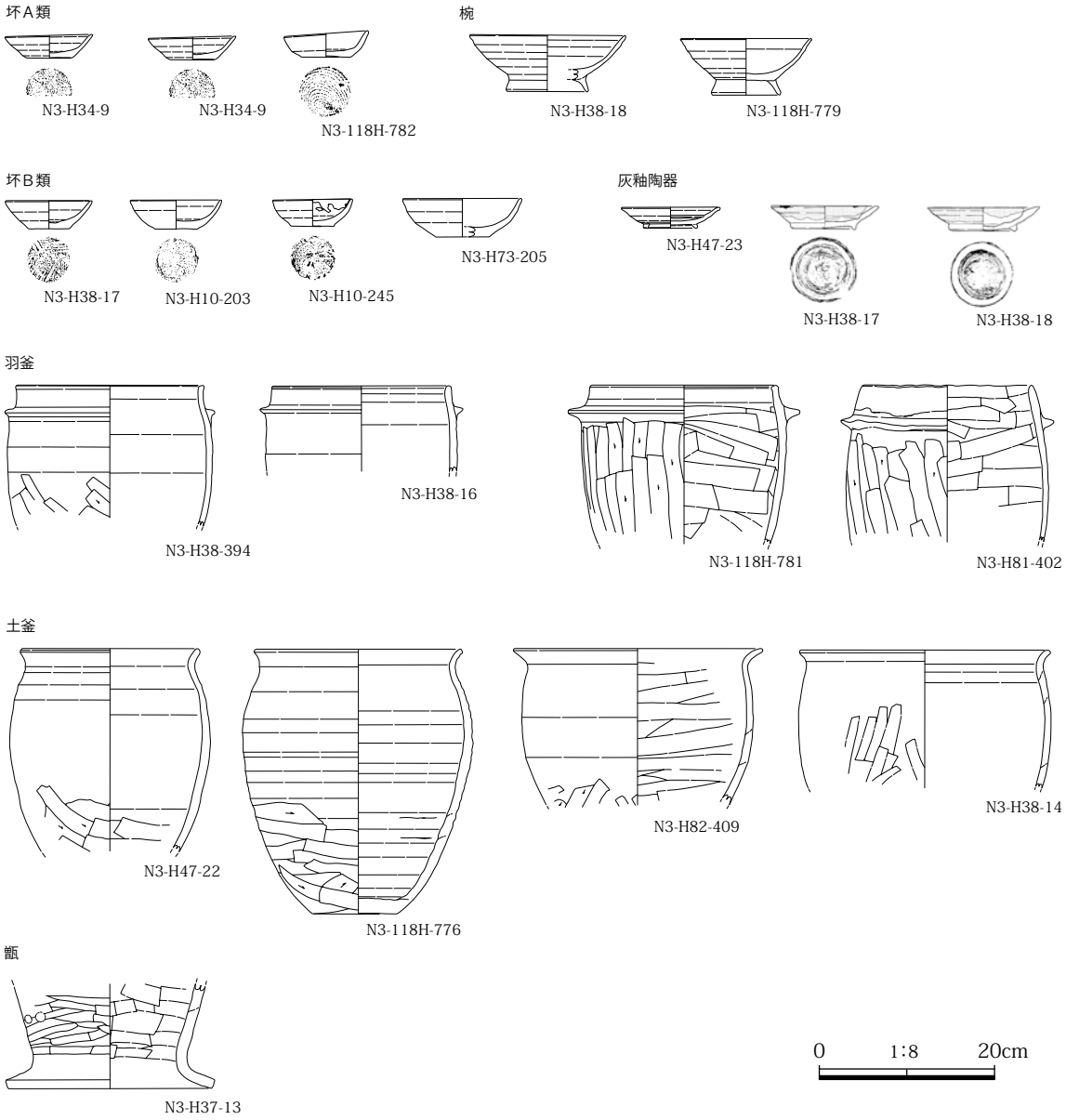
Ⅲ期



Ⅳ期

第 1 図　Ⅰ～Ⅳ期の土器群

Ⅴ期



第２図　Ⅴ期の土器群

体部下半が絞り込まれ、上半部はやや丸みを持つものに分類される。このＣ類と同じ器形で口径 13.0㎝の坏も 1 点出土しており法量分化が確認できる。椀はすべて酸化焔焼成で高台は細く高めで、丁寧に調整される新しいタイプであり、前代からの雑な作りの椀は出土していない。羽釜は轆轤整形の平野部で主に見られるタイプと月夜野型羽釜が見られる。轆轤整形の羽釜は口径 21㎝前後、26㎝前後の二通りに分けられる。器形は胴部が緩やかに口縁部に向かって内彎するもので、鍔の位置での器形の変換はほとんど見られない。その他、口径 16㎝の小型でおそらく器高も低いと思われるものも出土している。調整は轆轤整形であるが胴部を篦削りするものも見られる。月夜野型羽釜は基本的に胴部を下から鍔下まで篦削りするものである。器形は胴部から口縁部まで僅かに内彎気味になり、これも鍔の位置は器形の変換点にはならない。鍔は全体的に凹凸が顕著で歪みのあるものが多い。N3C-H118 住はその中でも比較的整った鍔の形状を持ち丁寧に整形されており、これらの羽釜の中では古手に属すると思われる。土釜は轆轤整形され、胴部下半部を篦削りするものと全体的に篦削りされるものと見られる。内面は轆轤整形か篦撫でである。轆轤整形で胴部下半部を篦削りする N3C-H118 住 -3 や N3-H47 住 -29 などが比較的古く、N3-H38 住 -23、H82 住 -41、N4-H7 住 -47 など口径が大きく、胴部を篦削りするものが新しいと考えられる。灰釉陶器は段皿が 3 点出土している。N3-H38 住の 2 点は口径 12㎝前後を測り、器肉は厚手で高台部は小さく丸みを持つ。N3-H47 住の段皿は、さらに小形で口径 11㎝、高台部は小さく丸みを持ち、釉は薄く透明になっている。前者は虎渓山 1 号窯式期、後者は丸石 2 号窯式期のものと思われる。この期の内容には、分類可能な器種もあるが共伴する資料も少なく、須恵器坏・椀類にほとんど差が見られないため同じ段階として扱った。

実年代について

安中市域の古代の土器様相は、土師器坏・甕においては基本的に平野部のものと大きく差はないため、実年代については、中尾遺跡の編年[(1)]が参考となる。当遺跡のⅠ・Ⅱ期が中尾Ⅲ・Ⅳ段階、Ⅲ・Ⅳ期がそれぞれ中尾Ⅶ・Ⅷ段階、Ⅴ期が中尾ⅩⅡ段階に相当する。Ⅰ・Ⅱ期は 8 世紀前半、Ⅲ・Ⅳ期は 9 世紀前半、Ⅴ期は 10 世紀後半から 11 世紀初め頃の年代観が与えられる。

注

(1) 坂口　一・三浦京子 1986「奈良・平安時代の土器の編年」『群馬県史研究』第 24 号　群馬県史編さん委員会

（２）道路・牧・集落について（第３・４図、付図12）

古代道路の性格

西横野地区で発見された長さ約2.5㎞の古代道路について、その特徴と性格について考えてみたい。

碓氷郡内には、信濃国から碓氷峠を越えて続く東山道駅路が通過し、坂本駅家と野後駅家が設置されている。東山道駅路のルートについては、現状では確実な遺構は確認されていないが、歴史地理学による地割り等から、旧中山道沿いが推定されている（坂爪2001）。発見された道路は、推定される東山道駅路から離れた位置で発見された。地図上で道路の延長先をみると、北西では、下位の河岸段丘面から横野台地へと急峻な崖を通過し、碓氷川を渡河して駅路に向かっていることがわかる。さらに、駅路の西側には、坂本駅家推定地が存在する。また、南東方向では、古代甘楽郡との境界付近で道路は途切れるものの、古代から鎮座する貫前（抜鉾）神社付近へと向かっている。以上の点から、この道路は、

駅路から分岐し、甘楽郡へ向かう郡と郡とを結ぶための「伝路（郡の道）」であった可能性がある。しかし、道路は、地形に関係なく直線を維持しているが、側溝のみを掘削し、道路面、低地等の整地は行われていないこと、道路側溝が８世紀初頭には埋没（人見西中原遺跡）し、同時期の住居址が側溝を壊し、存続が短期間であること（人見三本松遺跡）、甘楽郡との境界付近で道路が途切れること（人見大谷津遺跡）等の理由から、本来の「道路」として機能を果たしていたかに疑問が残り、「伝路」の性格自体が他の性格をもっていたことも考えられる。人見三本松遺跡では、道路の建設状況が認められた。当初、道路は、北西端から建設されたものが途中で屈曲し、そこから一直線となるが、この屈曲部の途中で造り替えによって、平行する新旧の道路が確認された（壁2011）。この道路の北西方向先は、台地の急斜面（崖状）となり、現在も切り通し状の道路が存在することから、この部分が古代道路の台地を降るルートであったと推定できる。道路の時期については、奈良時代（710年）の成立前後（８世紀前半）には、廃絶もしくは本来の機能を失なった可能性がある。これを根拠とすると道路の建設は、全国的な幹線道路による交通網の整備が進められた７世紀後半以降とほぼ同時期にあたり、上野国内で確認されている東山道駅路の時期と一致する。横野台地周辺での古代道路は、平成25年調査の三本木Ⅱ遺跡Ｇ区（鷺宮地区）で両側側溝をもつ幅10ｍの直線道路を約180ｍ発見した。この道路は、西横野地区の道路と同時期と推定されるが、道路主軸は一致しないため、新たな「伝路（郡の道）」の存在が明らかとなった（未報告）。この道路の先は、新寺・大王寺地区遺跡群へ向かっている。また、西横野地区の人見大王寺遺跡では、水田遺構において幅10ｍの道路と推定される地割りが確認されている（笠原2001）。

区画溝（牧関連遺構）の性格

西横野地区を対象とした発掘調査では、中野野地区で確認した「牧」の区画施設と推定される大溝が、横野台地西側一帯に存在することが明らかとなった。台地南側の縁辺部で確認した大溝は、富岡市との市境及び地割りに沿って延びており、これまでの調査分を合わせて東西約6.5㎞を確認した。また、台地北側縁辺部では、東西方向の大溝の一部、人見上西原遺跡では、南北方向の大溝を確認しており、大溝による区画は、妙義山麓（行田地区）まで広がっていた可能性が考えられ、その規模は420ha以上に及ぶものと推定される。この牧は、『延喜式』（927年編纂）の「左右馬寮御牧条」にある上野国に設置された9か所の御牧（官牧）には記載がないことから、『延喜式』編纂以前に存在した牧、あるいは御牧とは性格が異なる別の牧の可能性が指摘されている（高島2008）。なお、同規模の遺構は、「野馬除」として「望月牧」（信濃国）の推定地でみられる（福島2000）。御牧の成立は、御牧が９世紀初頭であることから、横野台地における牧の時期は、８世紀前半には掘削が開始し、９世紀代で経営が本格化し、10世紀には廃絶、もしくは本来の機能を失ったと推定される。

横野台地における古代道路と溝、集落の変遷

今回の発掘調査では、古代碓氷郡の「磯部郷」に伝路と推定される道路と牧の遺構が同一台地に共存し、その周辺に関連する集落が分布することが明らかとなった。特に新寺・大王寺地区遺跡群の集落は、この地域の拠点的様相をもつもので、横野台地における道路と牧に大きく関与していたものと考えられる。横野台地を中心とした古代遺構群は、６期に大別できる。

Ⅰ期（７世紀後半～８世紀初頭）：道路（伝路）が建設された時期

駅路から分岐した伝路は、甘楽郡との境界まで建設される。横野台地上では、道路周辺には集落が存在せず、単独居住で点在する。道路建設にかかわる拠点的集落は、横野台地北側下位段丘の新寺・大王

寺地区遺跡群、鷺宮地区遺跡群に存在する。

Ⅱ期（８世紀代）：道路が廃絶され、牧がつくられ始める時期

牧と同時期の集落は、区画施設の外側（特に台地南側）で大溝から離れて形成する。牧建設にかかわる初期集落と考えられ、集落内には、鍛冶工房址、長屋状竪穴遺構、調教施設（溝）の管理的施設が伴う。また、大王寺地区遺跡群では、公的施設の可能性がある掘立柱建物址群と大型住居等が確認され、同地域に管理施設（居住域）と牧が共存する。集落内道路集落からは、暗文土器、鉄製品（鎖、棒状）、漆紙文書等の特殊遺物が出土する。

Ⅲ期（９世紀代）：牧が本格的に機能する時期

横野台地上では、牧の施設のみとなる。大溝の維持管理が継続する。同時期の集落は、新寺・大王寺地区遺跡群等に移動し、集落が最も拡大する。集落内には、Ⅱ期に続き鍛冶工房址、掘立柱建物址等が伴う。牧と管理施設（居住域）は、Ⅱ期とは異なり、分かれて存在する。集落内からは円面硯、墨書土器、金銅製品（鞘吊金具）、朱塗りの須恵器等が出土する。

Ⅳ期（10世紀代）：牧が放置され、衰退する時期

大溝の維持管理が衰退し、自然埋没が進む。横野台地上には集落が存在せず、新寺・大王寺地区遺跡群周辺で小規模集落が点在する。

Ⅴ期（10世紀後半～11世紀初頭）：集落が再び形成される時期

横野台地では、牧跡地を含めて小規模集落が分散して分布する。大溝の埋没は進行し、深いところでは中位まで埋没するが、窪んだ状態が維持されている。なお、集落から離れた大溝内では、土器の廃棄が認められ、大溝が区画以外の施設として機能した可能性がある。

Ⅵ期（11世紀以降）：集落が衰退し、再び道路がつくられる時期

横野台地では、集落形成は低調となり、12世紀初頭（1108年浅間山噴火）以降、古代大溝跡の一部は道路として使用される。また、両側側溝をもつ道路、溝状の道路が建設され、近世の妙義道に至るまで横野台地を横切る交通路が存在する。

横野台地で建設された道路と牧の背景には、当時の土木水準の高さと、碓氷郡にその技術を駆使する能力をもった人々と大規模土木工事事業を実行できる力をもった有力者の存在が考えられる。

今後、両市における中部・西部地区の発掘調査及び資料整理によって、碓氷郡を中心とした横野台地で発見された遺構の性格と、古代国家による交通網の整備の様相が明らかになることであろう。

参考文献（主なものに限った）

大工原　豊 1994 『中野野地区遺跡群』 安中市教育委員会

福島邦男 2000 『望月牧野馬除跡大原地点』 長野県北御牧村教育委員会（現東御市）

笠原仁史ほか 2001 『人見中の條遺跡・人見中の條２遺跡・人見大王寺遺跡・人見正寺田遺跡』 松井田町教育委員会（現安中市）

坂爪久純 2001 「東山道駅路推定遺跡（上野尻遺跡）」『安中市史』 第４巻 原始古代中世資料編 安中市

高島英之 2008 「上野国の牧」『牧の考古学』 高志書院

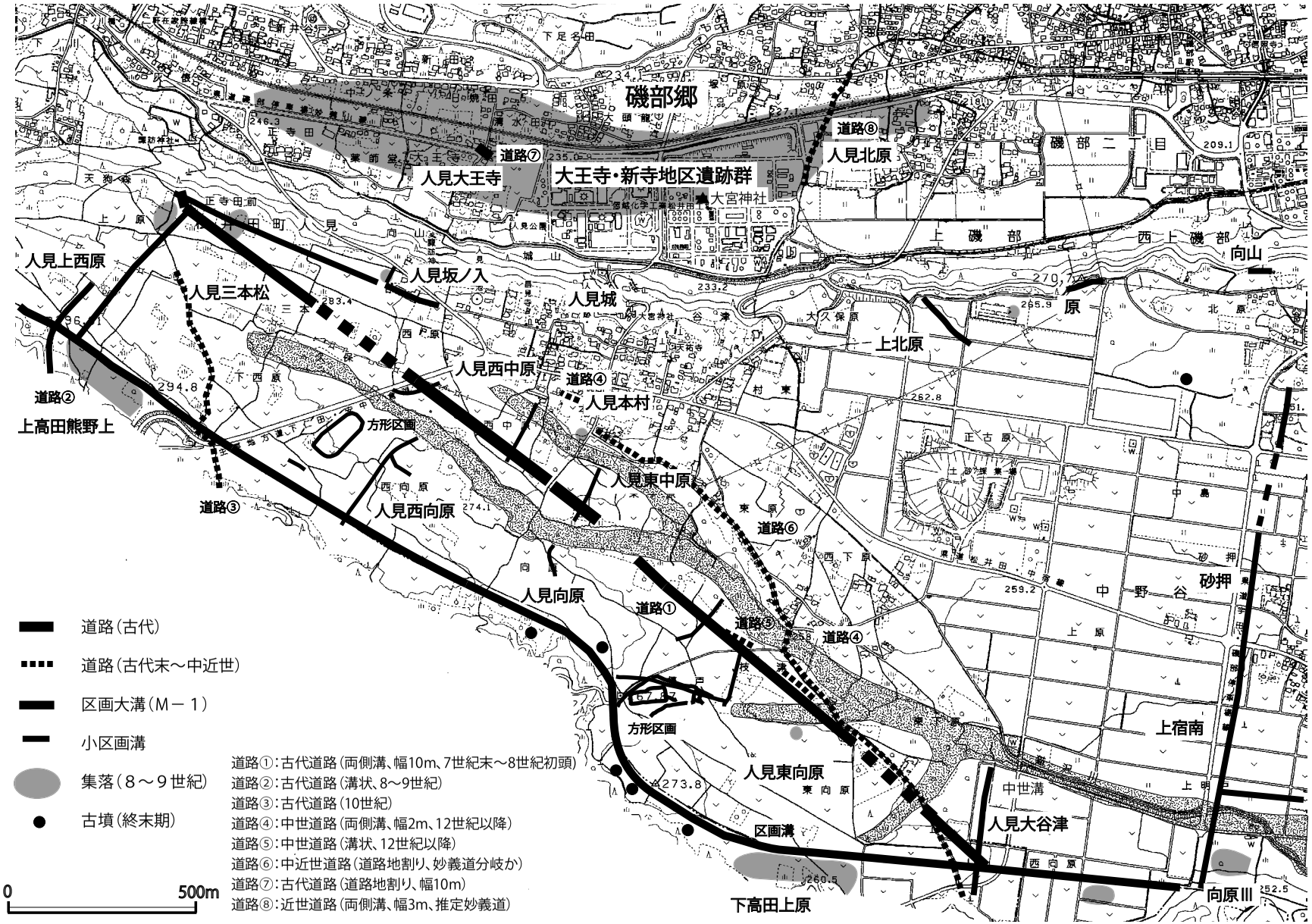
井上慎也 2011 「群馬県安中市西横野地区における古代道路の調査とその周辺」『古代交通史研究会第16回大会資料集 山国の古代交通』 古代交通研究会

壁　伸明 2011 『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報２（人見三本松遺跡）』 安中市教育委員会

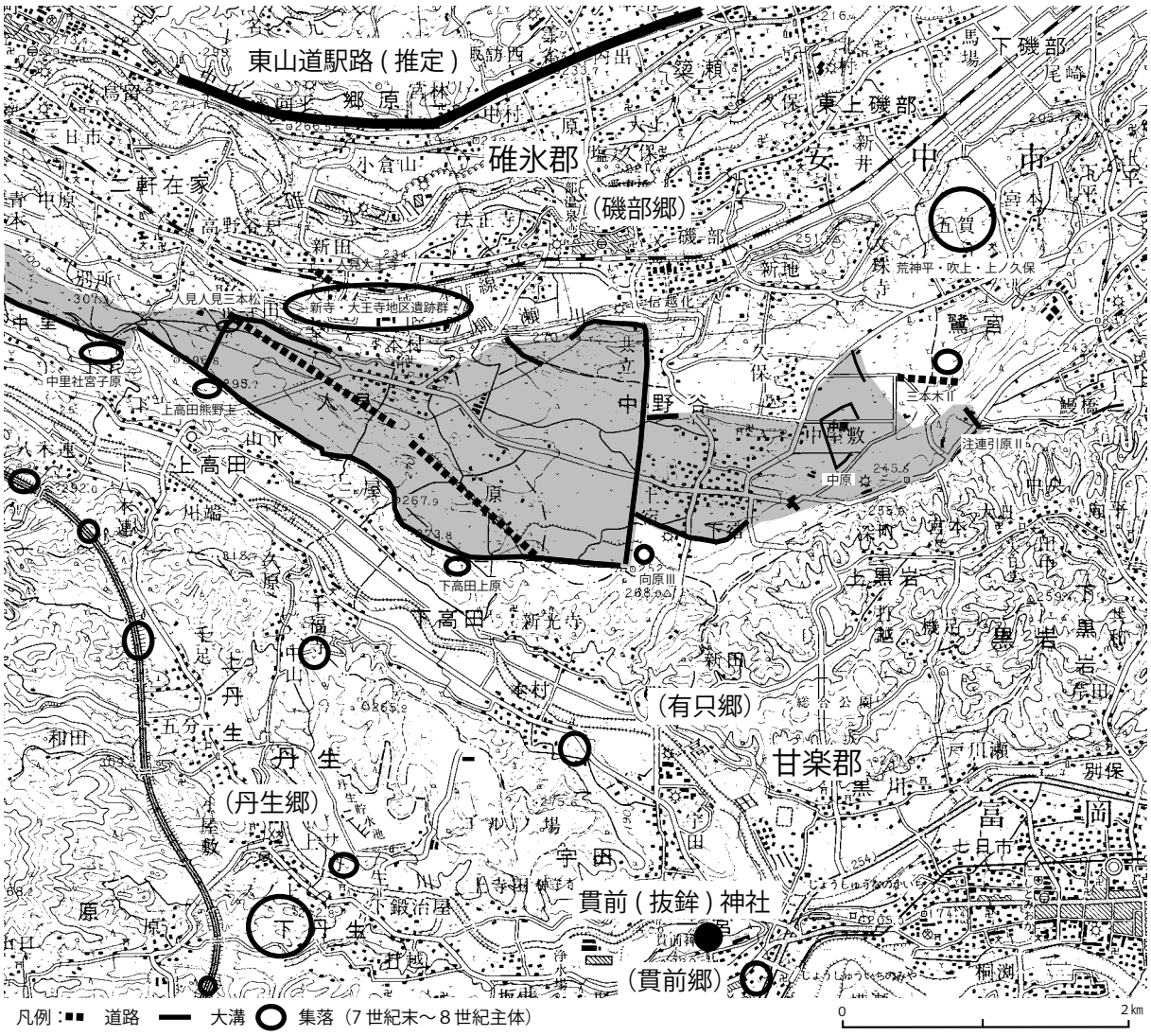
永井尚寿 2011 『下高田上原遺跡・下高田原Ⅳ遺跡（松義東部地区遺跡群Ⅰ）』 富岡市教育委員会

永井尚寿 2012 『下高田上原遺跡Ⅱ・上高田筑前上遺跡（松義東部地区遺跡群Ⅱ）』 富岡市教育委員会

永井尚寿 2012 『上高田熊野上遺跡（松義中部地区遺跡群Ⅰ）』 富岡市教育委員会



第３図　西横野地区における古代道路と牧関連遺跡群



第4図　横野台地周辺における古代遺跡分布

参考文献（本事業に伴う発掘調査関係）

井上慎也 2008『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報1（人見東原Ⅱ遺跡・人見西下原遺跡）』安中市教育委員会

井上慎也 2009『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報2（人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡）』安中市教育委員会

井上慎也 2010『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報3（人見枝谷津遺跡）』安中市教育委員会

井上慎也 2011『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報4（人見枝谷津遺跡・人見向原遺跡・人見東中原遺跡）』安中市教育委員会

井上慎也 2012『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報5（人見西向原遺跡・人見西中原遺跡・人見本村遺跡・上人見遺跡）』安中市教育委員会

井上慎也 2013『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報6（人見西向原遺跡・上人見遺跡）』安中市教育委員会

千田茂雄・石丸敦史『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報1（人見西原遺跡・人見坂ノ上遺跡）』安中市教育委員会

壁　伸明 2011『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報2（人見三本松遺跡）』安中市教育委員会

菅原龍彦・壁　伸明 2012『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報3（人見上ノ原遺跡・人見上西原遺跡・二軒在家原田遺跡）』安中市教育委員会

菅原龍彦・壁　伸明 2013『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報4（二軒在家原田Ⅱ遺跡）』安中市教育委員会

永井尚寿 2011『下高田上原遺跡・下高田原Ⅳ遺跡（松義東部地区遺跡群Ⅰ）』富岡市教育委員会

永井尚寿 2012『下高田上原遺跡Ⅱ・上高田筑前上遺跡（松義東部地区遺跡群Ⅱ）』富岡市教育委員会

永井尚寿 2012『上高田熊野上遺跡（松義中部地区遺跡群Ⅰ）』富岡市教育委員会

写　真　図　版

西横野地区とその周辺（東から）

人見東原Ⅱ遺跡　全景

人見東原Ⅱ遺跡　Ｊ－1 号住居址

人見東原Ⅱ遺跡　Ｊ－２号住居址炉址

人見東原Ⅱ遺跡　Ｊ－５号住居址埋設土器

人見東原Ⅱ遺跡　Ｊ－７号住居址埋設土器

図版 2

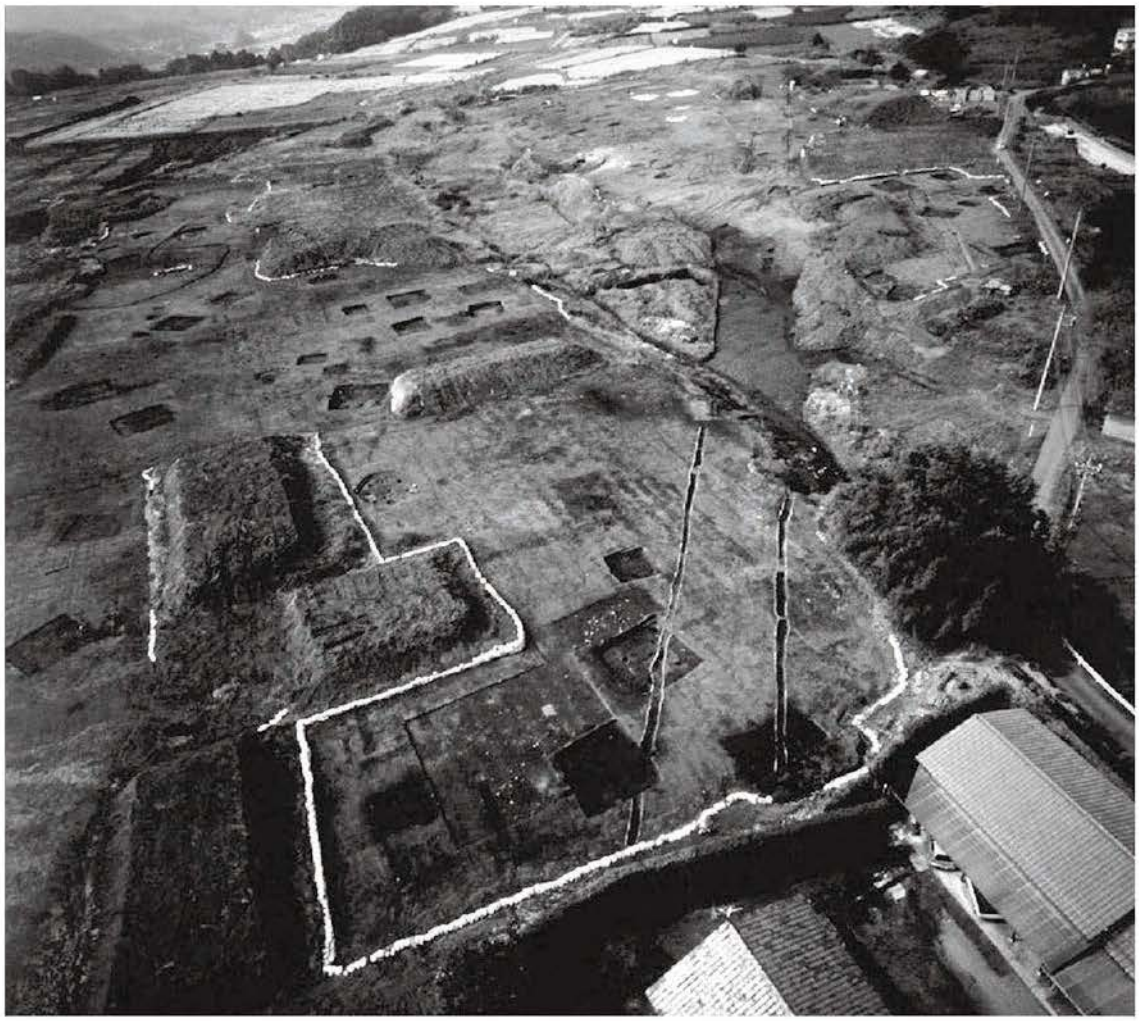
人見西下原遺跡　全景

人見枝谷津・東向原遺跡　古墳時代の集落（平成19年度調査）

人見枝谷津遺跡　古代道路状遺構

人見枝谷津遺跡Ａ区　道路状遺構（中世）と関連道路（左に現在の道路、右に古代道路）

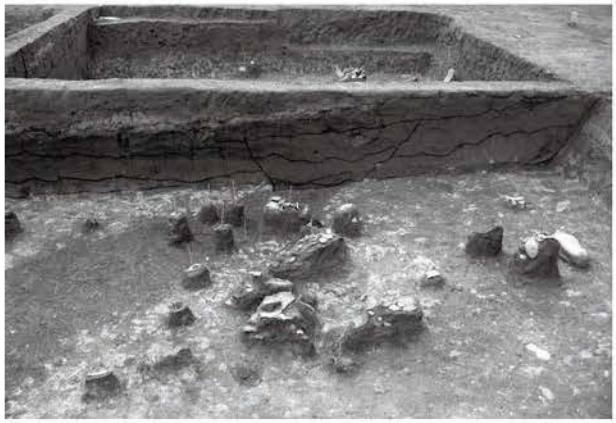
図版 4



人見東向原遺跡　古墳時代の集落と古代道路状遺構（谷を挟んで人見枝谷津遺跡）

人見枝谷津遺跡　低地部（水路と道路状遺構）

人見枝谷津遺跡　道路状遺構（斜面部）



人見東向原遺跡　古墳時代住居址と道路側溝（断面）

人見東向原遺跡　古墳時代住居址と道路側溝

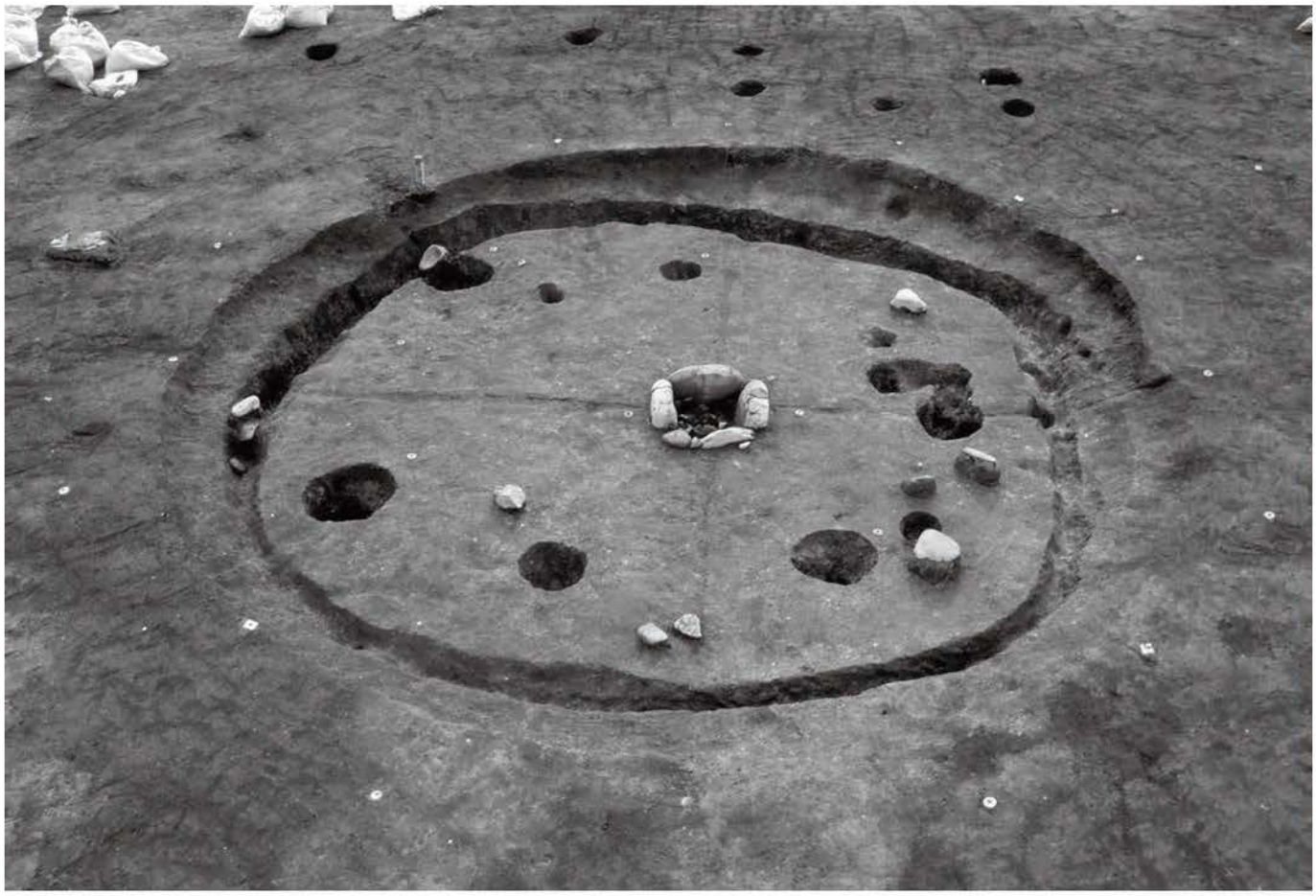
人見枝谷津遺跡Ｄ区　古代道路状遺構

人見枝谷津遺跡Ｄ区　古代道路状遺構と中世溝

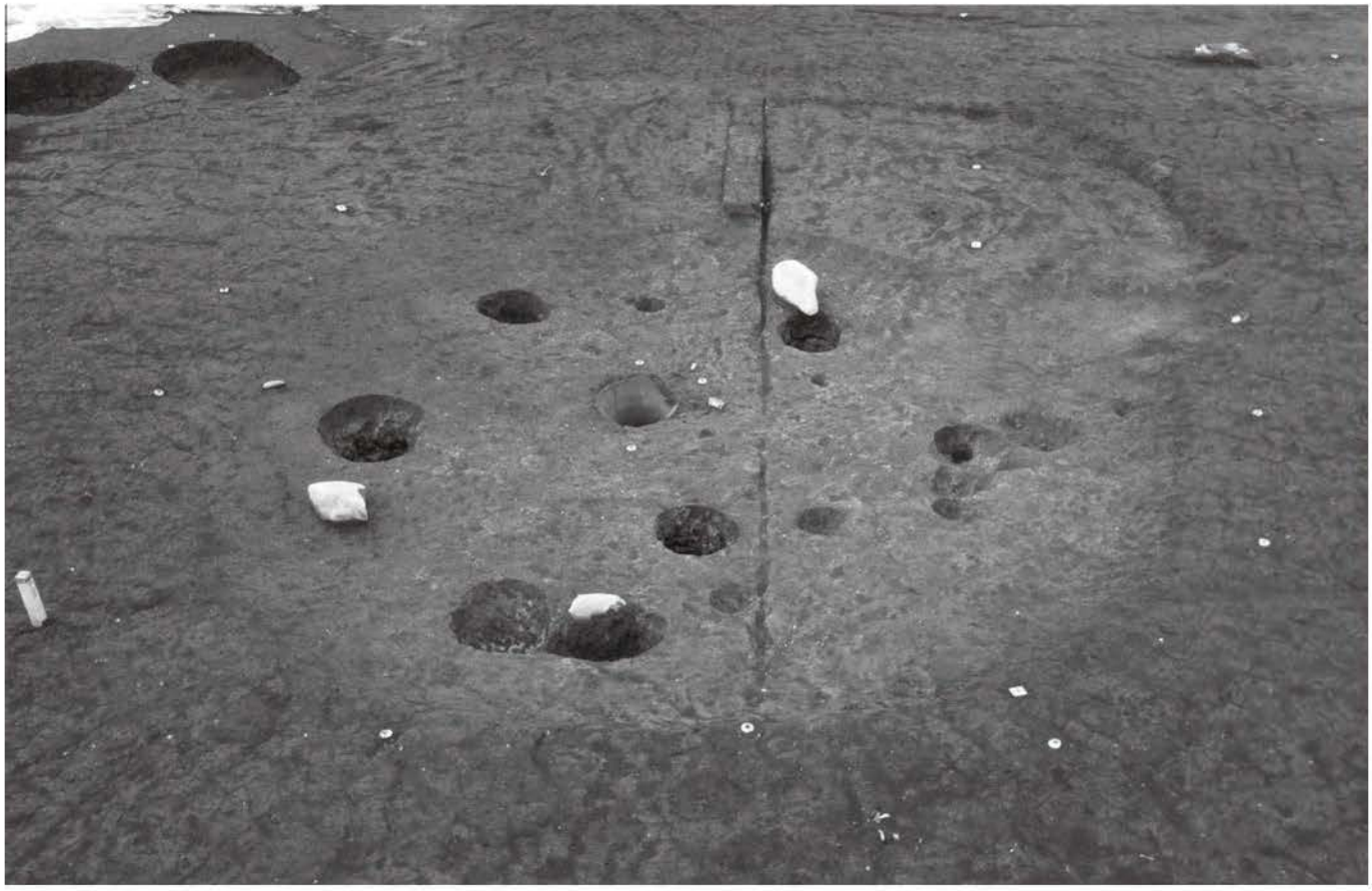
図版 6

人見枝谷津遺跡Ｃ区　低地部から延びる溝群と方形区画（古代）

人見枝谷津遺跡Ｃ区　Ｍ－16号溝（方形区画）と大溝周辺地形（崖線に沿って延びる）



人見枝谷津遺跡Ｃ区　Ｊ－13号住居址（縄文時代中期後半）



人見枝谷津遺跡Ｃ区　Ｊ－14号住居址（縄文時代中期後半）

図版 8

人見向原遺跡Ａ区　Ｍ－1号溝（大溝）　大溝を挟んだ南は下高田原Ⅳ遺跡（富岡市）、平行する道路状遺構（中世）

人見向原遺跡Ａ区　Ｍ－１号溝（富岡市との境界に沿って走る。幅約４ｍ）

人見向原遺跡Ａ区　Ｋ－１号古墳（終末期）とＭ－１号溝（古代大溝）

人見向原遺跡Ｂ区　古墳時代の集落

図版 10

人見東中原遺跡　調査区全景（合成）

人見東中原遺跡　古代道路状遺構

人見西中原遺跡　古代道路状遺構

人見西中原遺跡Ａ区　縄文・古墳時代の集落と古代道路状遺構のソイルマーク（平行する2本の筋）

図版 12

人見西向原遺跡Ａ区　Ｍ－１号溝（古代大溝）　画面下が上高田筑前上遺跡（富岡市）

人見西向原遺跡Ａ区　Ｍ－１号溝底面

人見西向原遺跡Ａ区　Ｍ－１号溝上橋状上層堆積

人見西向原遺跡Ａ区　Ｍ－１号溝

人見西向原遺跡Ａ区　Ｍ－１号溝上層堆積

人見西向原遺跡Ｂ区　Ｍ－１号溝（古代大溝）　富岡市との境界に沿って走る溝

人見西向原遺跡Ｅ区　古代溝群（Ｍ－２・６号溝他）

図版 14

人見西向原遺跡Ａ区　旧石器時代Ｂ－Ⅰ調査区全景（中央の溝はＭ－１号溝）

人見本村遺跡Ａ区　古墳時代・古代の集落（左奥がＢ区）

上人見遺跡　弥生時代遺構全景（中央付近が１次調査地点）

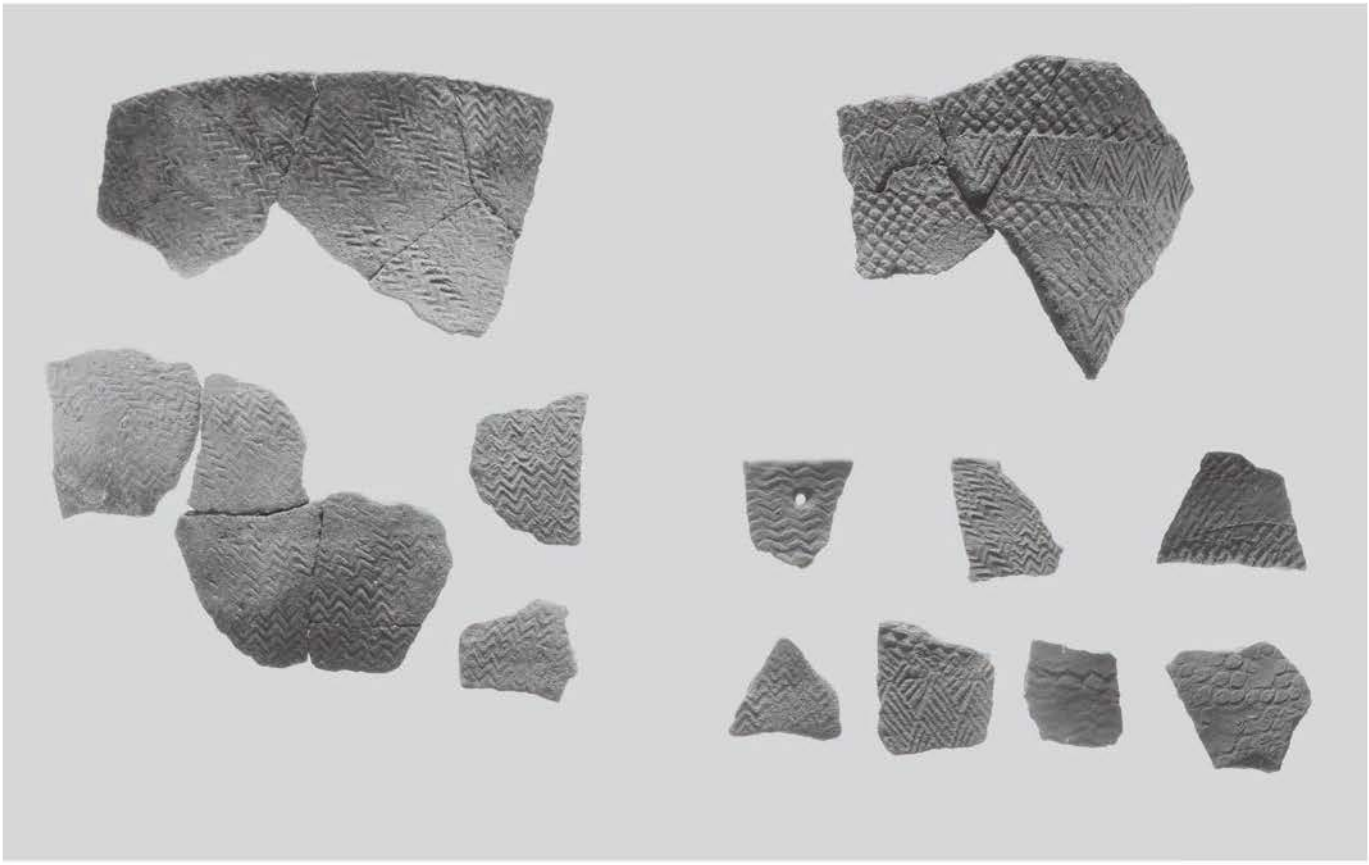
上人見遺跡　弥生時代遺物出土状況

上人見遺跡　弥生時代土坑群１

上人見遺跡　弥生時代土坑群２

上人見遺跡　１次調査区（昭和40年）

図版 16



人見東中原遺跡　縄文時代早期押型文系土器（左はD－32号土坑、右は遺構外）

人見東原Ⅱ遺跡　縄文時代中期後半の土器群（加曽利EⅢ式期）

人見枝谷津遺跡　縄文時代中期後半の土器群（加曽利ＥⅢ式期）

人見東中原遺跡　縄文時代中期後半の壺形土器

図版 18

人見東原Ⅱ遺跡（Ｊ－５・７）

人見東原Ⅱ遺跡（Ｊ－１）

人見東原Ⅱ遺跡（Ｊ－８）

人見東原Ⅱ遺跡（Ｊ－６）

人見東原Ⅱ遺跡（Ｊ－２）

人見東原Ⅱ遺跡（Ｊ－２）

人見西下原遺跡（Ｔ－１）

人見枝谷津遺跡（Ｊ－８）

人見枝谷津遺跡（Ｊ－８）

人見枝谷津遺跡（Ｕ－６）

人見枝谷津遺跡（Ｊ－８）

人見東向原遺跡（Ｕ－１）

人見東向原遺跡（グリッド）

人見枝谷津遺跡（Ｊ－８）

人見東中原遺跡（Ｊ－５）

人見東向原遺跡（Ｕ－２）

人見東中原遺跡（Ｊ－５）

人見東中原遺跡（Ｊ－３）

人見東中原遺跡（Ｊ－５）

人見西中原遺跡（Ｕ－３）

図版 20

人見東原Ⅱ遺跡　縄文時代の特殊遺物

人見枝谷津遺跡　上偶

人見東中原遺跡の三角壕形土製品

人見東中原遺跡　土製品

人見東中原遺跡

人見東原Ⅱ遺跡　磨石と石皿（Ｊ－１）、石棒（Ｊ－２）

人見東中原遺跡　磨石と石皿（Ｊ－３）

磨製石斧製作関連遺物（人見枝谷津・東向原・東中原遺跡）

人見枝谷津遺跡　古墳時代前期（Ⅰ期）の土器群

人見枝谷津遺跡　古墳時代中期前半（Ⅱ期）の土器群

人見枝谷津遺跡　古墳時代中期前半（Ⅲ期）の土器群

人見向原遺跡　古墳時代中期前半の土器群（H－28）

人見枝谷津・東向原遺跡　鉄製品（古墳時代中期）

図版 22

平安時代の土器、鉄鏃、羽口（人見枝谷津・東向原遺跡）

人見本村遺跡　古代漆付着土師器坏（H－３）

発掘調査報告書　抄録

ふりがな	にしよこのとうぶちくいせきぐん（ひとみひがしはらにいせき・ひとみにししもはらいせき、ひとみえだやついせき・ひとみひがしむかいはらいせき・ひとみむかいはらいせき・ひとみひがしなかはらいせき・ひとみにしなかはらいせき・ひとみにしむかいはらいせき、ひとみほんそんいせき、うわひとみいせき）
書　名	西横野東部地区遺跡群（人見東原Ⅱ遺跡・人見西下原遺跡・人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡・人見向原遺跡・人見東中原遺跡・人見西中原遺跡・人見西向原遺跡・人見本村遺跡・上人見遺跡）
副書名	県営農地整備事業松義東部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編著者名	井上慎也・高橋清文・淺間　陽・梅澤重昭・三浦京子・建石　徹・(株)火山灰考古学研究所・(株)パリノ・サーヴェイ
編集機関	安中市教育委員会
編集機関所在地	379-0292　群馬県安中市松井田町新堀245　　TEL　027-382-1111
発行年	西暦2014年（平成26年）３月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
ひとみひがしはらに 人見東原Ⅱ	あんなかしまついだまちひとみ 安中市松井田町人見字	102113	Ｎ－１	36° 17′ 07″	138° 50′ 18″	20061201～20070326 20070801～20071004	4,000㎡	県営農地整備事業松義東部地区事業
ひとみにししもはら 人見西下原	ひがしはら 東原地内 にしおろはら 字西下原　地内		Ｎ－２	36° 17′ 00″	138° 50′ 30″		4,300㎡	
ひとみえだやつ 人見枝谷津	えだやつ・ひがしむかいはら 字枝谷津・東向原地内		Ｎ－３	36° 17′ 00″	138° 50′ 14″	20071203～20080319 20080501～20081014	22,000㎡	
ひとみひがしむかいはら 人見東向原	ひがしむかいはら 字東向原地内		Ｎ－４	36° 16′ 56″	138° 50′ 17″		23,000㎡	
ひとみえだやつ 人見枝谷津	えだやつ　むかいはら 字枝谷津・向原地内		Ｎ－３	36° 17′ 00″	138° 50′ 14″	20081203～20090319 20090501～20090911 20100501～20100930	27,500㎡	
ひとみむかいはら 人見向原	むかいはら 字向原地内		Ｎ－５	36° 16′ 57″	138° 50′ 01″	20091201～20100319 20100501～20100930	18,600㎡	
ひとみひがしなかはら 人見東中原	ひがしなかはら 字東中原地内		Ｎ－７	36° 17′ 05″	138° 50′ 05″		18,000㎡	
ひとみにしむかいはら 人見西向原	にしむかいはら 字西向原地内		Ｎ－８	36° 17′ 10″	138° 49′ 37″	20101118～20110318 20110516～20110927	23,000㎡	
ひとみにしなかはら 人見西中原	にしなかはら 字西中原地内		Ｎ－９	36° 17′ 22″	138° 49′ 41″	20110516～20110927	24,000㎡	
ひとみほんそん 人見本村	ほんそん 字本村地内		Ｎ－15	36° 17′ 22″	138° 49′ 53″		1,600㎡	
うわひとみ 上人見	にしむかいはら 字西向原地内		Ｎ－11	36° 17′ 21′	138° 49′ 35′	20120424～20120914	11,000㎡	

所収遺跡名	種	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
人見東原Ⅱ	集落	縄文中期	縄文住居９・土坑101他	旧石器（槍先形尖頭器、石刃他）、 縄文土器（早期押型文、前期諸磯ｂ式、加曽利ＥⅢ式他）、石器 弥生土器（沖Ⅱ式・岩櫃山式、栗林Ⅱ式、樽式）・石器 古墳前中期土師器・須恵器（把手付椀）・鉄製品（方形鍬・鋤先他）・石製品・石製模造品・玉類（ガラス、鉄） 古代土師器・須恵器、鉄製品 中世土器	群馬Ⅳ期後半期の石器群浅間大窪沢軽石群を含むローム層中から出土。 縄文中期後半の集落群（柄鏡形敷石住居址他）。 壺形土器（２点）、石鏃・磨製石斧製作関連遺物出土。 上人見遺跡では昭和40年調査地点及びその周辺部の調査。弥生前中期の再葬墓を中心に土坑群が分布する。 古墳中期前半の集落群畿内産須恵器(把手付椀)、石製品・石製模造品とその製作遺物、鉄製方形鍬・鋤先出土。 東山道駅路から分岐する伝路と推定される古代道路、牧に関連する区画溝。
人見西下原	集落	縄文中期	縄文土坑他		
人見枝谷津	集落 道路	縄文中期 古墳前中期 奈良平安	縄文住居14・土坑20・埋設９他 古墳住居100・土坑59・水場他 奈良平安住居13・溝・道路他		
人見東向原	集落 道路	縄文中期 古墳中期 奈良平安	縄文住居２・土坑他 古墳住居33・土坑７他 奈良平安住居２・溝・道路他		
人見向原	集落	縄文前期 古墳中期 奈良平安	縄文住居１他 古墳住居28、古墳（終末期）他 奈良平安住居４・大溝（区画溝）		
人見東中原	集落 道路	縄文中期 古墳中期 奈良平安	縄文住居11・土坑35・列石・集石他 古墳住居３ 奈良平安溝９・道路他		
人見西向原	集落	旧石器 縄文中期 古墳中期 奈良平安	石器ブロック４・礫群３ 縄文土坑３他 古墳住居６他 奈良平安溝・大溝（区画溝）		
人見西中原	集落 道路	縄文中期 弥生前後期 古墳中期 奈良平安	縄文住居９・土坑８他 前期土坑１・包含層、弥生住居１他 古墳住居11・土坑 奈良平安溝他		
人見本村	集落	古墳中期 奈良中世	古墳住居４ 奈良住居１他、中世道路１		
上人見	墓	弥生前中期 古墳前中期	弥生土坑119他 古墳住居１・土坑７		

調査組織（平成18～25年度）

安中市教育委員会事務局

教育長　　中澤四郎

教育部長　佐藤伸太郎（平成18・19年度）・富沢春寿（平成20年度）・本多英夫（平成20～22年度）・佐俣信之（平成23～25年度）

学習の森所長　大野孝一（平成18年度）・小島成公（平成19～21年度）・神宮裕子（平成22年年度）・佐藤房之（平成23～25年度）

文化財係（平成18～24年度）　係長（主幹）　藤巻正勝（事務総括：平成18～24年度）

主査　蜂須賀まゆみ（経理担当：平成18～23年度）

主査　原　久子（経理担当：平成24年度、平成25年度兼任）

主査（文化財保護主事）壁　伸明（平成18～22年度）

主査（文化財保護主事）千田茂雄（平成18～21年度）

主査（文化財保護主事）深町　真（平成18～24年度）

発掘調査係（平成25年度）　係長（課長補佐）　千田茂雄（事務総括）

主査（文化財保護主事）井上慎也（平成18～25年度調査・整理担当）

主査　瀧川仲男（平成23年度調査担当）

主事（文化財保護主事）菅原龍彦（平成22年度調査担当）

行政事務嘱託　壁　伸明

調査参加者

石田榮廣　今井保美　入沢軍司　上原　上　遠藤基雄　大井淳子　大沢早知子　大月圭子　大手啓子　金井美由紀　久保田治夫

小林美絵　桜井福次郎、染谷綾子　染谷孔明　佐藤いし　佐藤　敦　佐藤なみ江　佐藤英夫　佐俣三代吉　猿谷サク子　沢田かずえ

塩谷一枝　塩谷とめ子　清水陽一　成願八千代　須賀　熙　須賀ユミ子　菅生陽子　須藤　豊　高澤はつ江　高橋文男　高林　詠

田川真知　竹井五郎　武田文吉　多胡茂子　多胡　静　田島せい子　田島幹子　田村信子　遠間宰吉　冨沢佐知江　中里富司

中島けさよ　根岸紀和代　野口義則　野積一美　萩原静夫　林　知曠　半田あい　広瀬洋子　広瀬良平　町田一男　町田千明　松田久男

丸岡民子　宮口知三　村井田加代子　村瀬希久雄　村椿　健　湯本久江　吉澤栄子　和田テル子

西横野東部地区遺跡群

（人見東原Ⅱ遺跡・人見西下原遺跡・人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡・人見向原遺跡・
人見西向原遺跡・人見東中原遺跡・人見西中原遺跡・人見本村遺跡・上人見遺跡）

－ 県営農地整備事業松義東部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 －

＜第２分冊＞

発　行　日　　平成 26 年 3 月 20 日

編集・発行　　安中市教育委員会
群馬県安中市松井田町新堀 245

印　　刷　　上毎印刷工業株式会社
群馬県前橋市天川大島町 305 － 1